市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第12集

上総国分寺台遺跡調査報告XXⅡ

市原市台（だい）遺跡　C地点

２０１０

市 原 市 教 育 委 員 会

序　文

市原市は千葉県の中央部に位置し、「王賜」銘鉄剣や上総国分僧寺・国分尼寺に代表される埋蔵文化財の宝庫として知られています。

現在「国分寺台」の名で親しまれる住宅地の一帯に、土地区画整理事業が計画されたのは昭和45年のことでした。事業地内には多数の埋蔵文化財が存在し、その記録保存のため、昭和47年から63年までの16年間にわたって、43遺跡の発掘調査が進められてきました。

今回報告する「台遺跡Ｃ地点」は、弥生時代中期から奈良時代初頭を中心とする集落跡の発掘調査成果をまとめたものであります。

本書が、学術的な資料としてはもとより、広く市民の皆様に活用していただけることを期待しています。

最後に、発掘調査から整理報告にいたるまで多大なご協力をいただきました旧市原市国分寺台土地区画整理組合の方々、旧国分寺台遺跡調査団の方々をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成22年２月10日

市原市教育委員会

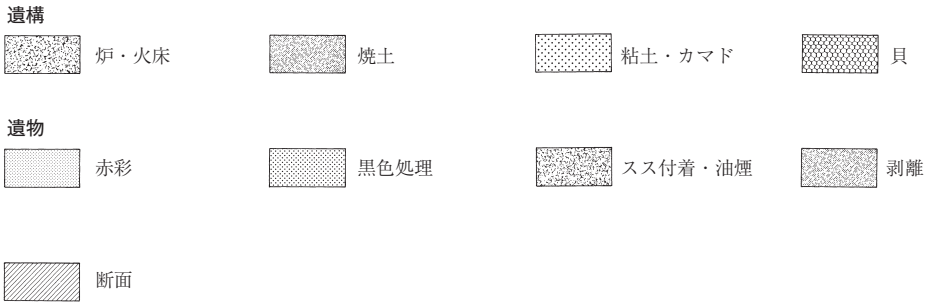
教育長　山崎正夫

例　言

1．本書は、市原市国分寺台土地区画整理事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2．本書に所収したのは以下の遺跡である。
台遺跡Ｃ地点　市原市根田１丁目地先　市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号724－⑨
3．発掘調査は、市原市教育委員会の委託を受け、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもと、昭和53年度末葉から54年度前半にかけて上総国分寺台遺跡調査団の平野考古学研究所が主体となって行なった。調査面積は12,000㎡であり、担当者は以下のとおりである。
平野元三郎　谷島一馬　對馬郁夫　浅利幸一
4．整理・報告事業は平成20年４月１日～平成22年３月まで、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターでおこなった。担当は木對和紀である。
5．本書の原稿執筆は第Ⅲ章以外を木對和紀が行った。また第Ⅲ章については、15号遺構（終末期古墳）主体部出土人骨･歯牙分析結果を聖マリアンナ医科大学　星野敬吾･平田和明両氏が執筆した。
6．出土人骨の鑑定･歯牙分析については聖マリアンナ医科大学に、石質肉眼同定についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に、石鏃実測については創和システム株式会社に委託した。
7．土層断面図の説明文は、複数の調査員が行っており統一性がなかった。色調と成分は調査担当者の原文そのままとし、他は文書表現を統一した。
8．遺構番号はそれぞれ割り振られていたが、数基の遺構に対しては一部重複した遺構番号が付されていたため、新規に振りなおした。その対照については、新旧番号一覧表に示している。
9．遺構図版については、紙面の都合上、可能な限り遺構を取りこむ方法で遺構図版を作成した。重複が激しい個所では、スクリントーンなどによる表現方法を用いた。
10．平面図と土層断面図の「Ｋ」は撹乱を表している。
11．委託以外のガラス玉類の微量な重量測定には、島津理化器械株式会社製電子分析てんびんＡＥＬ－200を使用した。

凡　例

1．本書で示す北は座標北である。また、水準は海抜からの高さを示す。
2．本書で使用した国土地理院発行の地図は、1:50,000千葉・姉崎である。
3．本書掲載の遺構縮尺は、大型方形周溝墓1:200・1:100、古墳・方形周溝墓・住居跡・土壙墓等1:80を原則とした。ただし遺物出土状況等、更に詳細図が必要と判断された遺構については、適時縮尺を変え掲載した。遺物は、土器・支脚1:4、土器断面・瓦・土玉・管状土錘・石器1:3、鉄器1:2、石鏃、旧石器、古銭、玉類、有孔円盤、紡錘車1:1とした。拓影図は原則1:3としたが、土師器・弥生土器の底部木葉痕など、一部実測図との整合関係で1:4対処としている。
4．土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖　2001年度版』日本色研事業株式会社発行による。
5．挿図におけるスクリントーンの用例については下記によるか、または図中に示した。



本 文 目 次

序文
例言
Ⅰ　調査経緯と遺跡の概要
　1．調査に至る経緯と経過 …… 1
　2．遺跡の位置と概要 …… 1
　3．調査・整理の方法 …… 4
　（1）グリッド …… 4
　（2）遺物 …… 4
　（3）遺物番号について …… 4
Ⅱ　遺構と遺物
　1．方形周溝墓 …… 34
　2．方墳・地下式横穴墓 …… 57
　3．方形区画改葬墓 …… 57
　4．竪穴・土坑・溝など …… 65
Ⅲ　千葉県市原市台遺跡Ｃ地点出土人骨について
　1．個体ａ（No.11およびNo.10）熟年期男性　（写真１～６） …… 229
　2．個体ｂ（No.24およびNo.22）壮年期女性　（写真７～10） …… 229
　3．個体ｃ（No.40およびNo.39）熟年期女性　（写真11～13） …… 230
　4．個体ｄ（No.20）成人女性　（写真14～16） …… 230
Ⅳ　台跡遺における「律令制墳墓」の形態
　1．はじめに …… 243
　2．房総における終末期方墳と律令制墳墓 …… 243
　3．台遺跡Ｃ地点周辺の終末期方墳 …… 251
　4．台遺跡Ｃ地点周辺の改葬系区画墓 …… 256
　5．台遺跡Ｃ地点における律令制墳墓の形態 …… 257
　6．おわりに …… 259
報告書抄録

表 目 次

第１表　台遺跡Ｃ地点遺構別遺物集計表 …… 5
第２表　台遺跡Ｃ地点新旧番号一覧表 …… 13
第３表　台跡遺Ｃ地点出土土器観察表 …… 263
第４表　台遺跡Ｃ地点出土土製品観察表 …… 328
第５表　台遺跡Ｃ地点出土金属器等観察表 …… 329
第６表　台遺跡Ｃ地点出土玉類観察表 …… 330
第７表　台遺跡Ｃ地点出土石器等観察表 …… 331

挿 図 目 次

第１図　国分寺台地区の旧地形と調査遺跡（1/12,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２図　周辺遺跡と旧地形（1/6,000）・・・・・・・・・・・ 3
第３図　現地形と保存遺跡・周辺の重要遺跡（1/20,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第４図　台遺跡Ｃ地点遺構配置図１ ・・・・・・・・・・・・・ 10
第５図　台遺跡Ｃ地点遺構配置図２ ・・・・・・・・・・・・・ 11
第６図　台遺跡Ｃ地点遺構配置図３ ・・・・・・・・・・・・・ 12
第７図　１号遺構実測図・１号遺構出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
第８図　２号遺構実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

出土遺物実測図 …… 125
第71図　90号遺構実測図・90号遺構出土遺物実測図 …… 128
第72図　91・92号遺構実測図 …… 129
第73図　91・92号遺構出土遺物実測図 …… 130
第74図　93・94号遺構実測図 …… 132
第75図　93号遺構出土遺物実測図 …… 133
第76図　95号遺構実測図・94号遺構出土遺物実測図 …… 134
第77図　96号遺構実測図・95号遺構出土遺物実測図 …… 136
第78図　96号遺構出土遺物実測図 …… 137
第79図　97号遺構実測図・97号遺構出土遺物実測図 …… 138
第80図　97号遺構出土遺物実測図 …… 139
第81図　98・99号遺構実測図・98号遺構出土遺物実測図 …… 140
第82図　99号遺構実測図・99号遺構出土遺物実測図 …… 142
第83図　99号遺構出土遺物実測図 …… 143
第84図　100号遺構実測図・99・100号遺構出土遺物実測図 …… 144
第85図　101号遺構実測図・101号遺構出土遺物実測図 …… 146
第86図　101号遺構出土遺物実測図 …… 147
第87図　102号遺構実測図・102号遺構出土遺物実測図 …… 148
第88図　103号遺構実測図・102号遺構出土遺物実測図 …… 149
第89図　103号遺構実測図・103号遺構出土遺物実測図 …… 151
第90図　104～106号遺構実測図・104・106号遺構出土遺物実測図 …… 152
第91図　107～109号遺構実測図・107号遺構出土遺物実測図 …… 155
第92図　108・109号遺構実測図・108・109号遺構出土遺物実測図 …… 156
第93図　110～116号遺構実測図 …… 158
第94図　111号遺構出土遺物実測図 …… 159
第95図　113・114号遺構出土遺物実測図 …… 160
第96図　117～120号遺構実測図 …… 162
第97図　117・118号遺構出土遺物実測図 …… 163
第98図　121号遺構実測図・118・119・120号遺構出土遺物実測図 …… 166
第99図　122～124号遺構実測図・121号遺構出土遺物実測図 …… 167
第100図　122号遺構実測図・122・123号遺構出土遺物実測図 …… 168
第101図　125号遺構実測図・125号遺構出土遺物実測図 …… 170
第102図　126～129号遺構実測図・125号遺構出土遺物実測図 …… 171
第103図　127・129号遺構実測図・126号遺構出土遺物実測図 …… 173
第104図　127・129号遺構出土遺物実測図 …… 174
第105図　130～138号遺構実測図・131・134号遺構出土遺物実測図 …… 176
第106図　139～147号遺構実測図・134号遺構出土遺物実測図 …… 179
第107図　148～162号遺構実測図 …… 181
第108図　163～169号遺構実測図・165・169号遺構出土遺物実測図 …… 185
第109図　170～172号遺構実測図・172号遺構出土遺物実測図 …… 188
第110図　173～216号遺構実測図 …… 190
第111図　173～204・206～216号遺構実測図 …… 191
第112図　217・218号遺構実測図 …… 199
第113図　219号遺構実測図・217・218号遺構出土遺物実測図 …… 200
第114図　220号遺構実測図・220号遺構出土遺物実測図 …… 202
第115図　221号遺構実測図 …… 204
第116図　222～226号遺構実測図・224号遺構出土遺物実測図 …… 205
第117図　227～232号遺構実測図 …… 207
第118図　台遺跡Ｃ地点溝実測図 …… 209
第119図　10・231・234～236・238・239・244・248・250・251号遺構実測図 …… 210
第120図　233・234号遺構出土遺物実測図 …… 212
第121図　234～236号遺構出土遺物実測図 …… 213
第122図　236号遺構出土遺物実測図 …… 214
第123図　236･238･244号遺構出土遺物実測図 …… 216
第124図　台遺跡遺構外出土遺物実測図１ …… 219
第125図　台遺跡遺構外出土遺物実測図２ …… 220
第126図　台遺跡遺構外出土遺物実測図３ …… 222
第127図　台遺跡遺構外出土遺物実測図４ …… 223
第128図　台遺跡遺構外出土遺物実測図５ …… 224
第129図　台遺跡遺構外出土遺物実測図６ …… 225
第130図　台遺跡遺構外出土遺物実測図７ …… 226
第131図　台遺跡遺構外出土遺物実測図８ …… 227
第132図　律令制墳墓 …… 244
第133図　房総における終末期方墳１ …… 245
第134図　房総における終末期方墳２ …… 246
第135図　中世墳墓と出土遺物１ …… 248
第136図　中世墳墓と出土遺物２ …… 249
第137図　中世墳墓と出土遺物３ …… 250
第138図　台遺跡Ｃ地点周辺の終末期方墳１ …… 252
第139図　台遺跡Ｃ地点周辺の終末期方墳２ …… 253
第140図　台遺跡Ｃ地点周辺の終末期方墳と出土遺物 …… 254
第141図　台遺跡Ｃ地点周辺の律令制墳墓１ …… 255
第142図　台遺跡Ｃ地点周辺の律令制墳墓２ …… 258

遺構図版目次

扉　台遺跡周辺航空写真（昭和36年撮影）
図版１　台遺跡調査前風景１　（南よりＢ地点方面を望む）
同２　（南より１号線方面を望む）
台遺跡Ｃ地点同３　（南より）
御林跡遺跡埋め戻し後、台遺跡Ｂ地点方面を望む
御林跡遺跡埋め戻し中に台遺跡Ｃ地点を望む
御林跡遺跡より台遺跡Ｃ地点を望む(北西より)
１号方形周溝墓周辺　（北より）
１号主体部調査状況　（南より）
図版２　１号西側周溝内土壙全景　（北西より）
２号方形周溝墓全景　（手前は34号住居跡　南西より）
３号方形周溝墓全景　（北西より）
４号方形周溝墓全景　（手前は土坑群　北東より）
４号周溝内土壙全景　（東より）
５号方形周溝墓全景　（南東より）
５号東側周溝
５号主体部調査状況　（南より）
図版３　５号主体部完掘調査状況　（東より）
６号方形周溝墓全景　（東より）
７号方形周溝墓全景　（南東より）
７号全景　（北西より）
７号主体部完掘状況　（西より）
８号方形周溝墓周辺　（手前は84号住居跡　南より）
８号南側周溝
８号西側周溝　（南より）
図版４　９号方形周溝墓全景　（手前は79号住居跡　南東より）
９号主体部完掘状況　（中央左は78号土坑　東より）
10号方形周溝墓全景　（南東より）
11号方形周溝墓全景　（左手前は89号土坑　北西より）
12号方形周溝墓全景　（手前は98号住居跡　南東より）
13号方形周溝墓全景　（南より）
13号主体部調査状況　（南西より）
14号方形周溝墓全景１　（南西より）
図版５　14号全景２　（南西より）
14号主体部　（手前Ａ　奥Ｂ　南東より）
14号主体部　（右Ａ　左Ｂ　西より）
15号方墳・地下式横穴墓周辺　（南西より）
15号羨道部調査状況　（南西より）
15号羨道部完掘状況　（南西より）
15号玄門構造
15号玄門越しの玄室内状況
図版６　15号天井部から見た玄室内人骨状況　（拡大）
15号玄門方向から見た玄室内人骨状況　（拡大）
図版７　15号玄室内人骨状況　（手前が玄門方向・拡大）
15号玄室内人骨状況　（左が玄門方向・拡大）
図版８　15号天井部から見た玄室内人骨状況　（手前が玄門方向）
15号玄室内人骨出土状況　（左が玄門方向）
16号方形区画改葬墓全景　（南より）
16号地下式小型横穴全景　（南より）
16号玄室部拡大　（南東より）
16号玄室内　（天井部より）
17号改葬系区画墓全景　（中央は68号住居跡　南より）
18号改葬系区画墓全景　（南東より）
図版９　19号改葬系区画墓全景　（中央は240号溝　北より）
20号住居跡全景　（南東より）
21号住居跡調査区内完掘状況１　（南西より）
21号調査区内完掘状況２　（南東より）
22号土坑全景　（南西より）
21号住居跡周辺　（北西より）
23号住居跡全景　（南東より）
24号土坑全景　（南東より）
図版10　25号住居跡完掘状況　（南東より）
25号カマド調査状況１　（南東より）
25号カマド調査状況２　（南東より）
26号住居跡土層断面　（南東より）
26号完掘状況　（南東より）
26号北コーナー遺物出土状況
26号遺物出土状況　（南より）
26号カマド調査状況　（南東より）
図版11　27号土坑全景　（南東より）
（奥から）28号・29号住居跡　（南東より）
30号住居跡土層断面　（南より）
30号完掘状況　（南東より）
31号住居跡完掘状況１　（南東より）
31号完掘状況２　（北西より）
32号土坑全景　（西より）
33号住居跡全景（右は34号住居跡　南東より）
図版12　33号炉内遺物出土状況　（北より）
34号住居跡全景　（南東より）
34号遺物出土状況１　（南東より）

34号遺物出土状況２　（南東より）
34号カマド左脇遺物出土状況　（東より）
34号周辺　（北西より）
35号住居跡全景　（南東より）
35号カマド　（南より）
図版13　36号住居跡（中央）全景・37号溝（中央左）（南東より）
38号土坑全景　（北東より）
39号土坑全景　（東より）
40号土坑全景　（南より）
41号（中央）・42号（右）土坑全景　（南西より）
42号（中央）・43号（右上）・44号（左）土坑（西より）
45号土坑全景　（西より）
46号（右）・47号（左）土坑全景　（南東より）
図版14　48号土坑全景　（北より）
49号土坑全景　（南西より）
50号土坑全景　（南より）
51号土坑全景　（東より）
52号土坑全景　（北西より）
54号・55号住居跡土層断面　（南東より）
54号・55号住居跡全景　（南東より）
53号周辺　（北西より）
図版15　56号住居跡完掘状況　（南東より）
56号（手前）・57号住居跡付近　（南より）
57号完掘状況　（南西より）
58号住居跡全景　（南より）
58号付近　（中央は５号方形周溝墓主体部　南より）
58号遺物出土状況　（南より）
59号住居跡全景　（左は５号方形周溝墓東側周溝　南東より）
59号遺物出土状況１　（北より）
図版16　59号遺物出土状況２　（西より）
59号Ｐ６付近遺物出土状況　（南より）
60号住居跡全景　（南東より）
60号遺物出土状況１　（南東より）
60号遺物出土状況２　（南東より）
60号カマド　（東より）
61号住居跡全景　（南より）
61号遺物出土状況　（北より）
図版17　61号カマド　（東より）
62号住居跡全景　（中央は７号方形周溝墓主体部　南より）
62号遺物出土状況１　（北より）
62号遺物出土状況２　（北東より）
62号遺物出土状況３　（南東より）
62号南壁遺物出土状況１
62号南壁遺物出土状況２
63号（右）・64号（左）住居跡　（北西より）
図版18　65号住居跡完掘状況　（南より）
65号カマド　（北東より）
66号土坑全景　（南より）
67号土坑全景　（南東より）
68号住居跡付近調査風景　（手前は17号改葬系区画墓）
68号全景　（南より）
69号住居跡全景　（北東より）
69号付近　（中央は234号溝　北西より）
図版19　69号カマド　（南東より）
70号住居跡全景　（南より）
70号カマド　（南東より）
70号カマド調査状況　（南より）
71号住居跡全景　（南より）
71号Ｐ３・Ｐ４付近遺物出土状況　（東より）
71号完掘状況　（南より）
72号住居跡全景　（南東より）
図版20　72号周辺　（南西より）
73号土坑（中央上）・74号住居跡全景　（北西より）
74号炉付近遺物出土状況　（東より）
74号遺物出土状況　（東より）
75号住居跡全景　（南東より）
75号カマド遺物出土状況１　（南東より）
75号カマド遺物出土状況２　（南東より）
76号住居跡全景　（南東より）
図版21　77号住居跡全景　（南東より）
77号周辺　（北東より）
79号住居跡全景　（南東より）
79号遺物出土状況　（南東より）
79号カマド付近遺物出土状況　（東より）
79号周辺　（南東より）
80号（右）・81号（左）土坑全景（南東より）
82号住居跡全景　（東より）
図版22　82号床面　（手前に83号土坑のプランが見える東より）
82号遺物出土状況２　（北より）
82号住居跡・83号土坑全景　（南東より）
82号周辺　（南東より）
84号住居跡全景　（南より）
84号Ｐ３付近遺物出土状況　（東より）
84号遺物出土状況　（東より）
84号（手前）周辺　（北東より）
図版23　85号土坑全景　（北東より）
86号土坑全景　（南東より）
87号土坑全景　（南東より）

88号土坑断面　（南西より）
89号土坑全景　（北より）
90号住居跡全景　（南より）
91号住居跡全景１　（南より）
91号全景２　（手前は234号溝　西より）

図版24　91号Ｐ２付近遺物出土状況１　（北より）
91号Ｐ２付近遺物出土状況２　（南東より）
91号遺物出土状況　（東より）
（手前から）91号・92号・93号住居跡　（西より）
92号住居跡全景　（南より）
92号カマド　（南より）
92号カマド調査状況　（南より）
92号カマド遺物出土状況　（南より）

図版25　93号住居跡全景　（南より）
93号カマド　（南東より）
94号住居跡全景　（西より）
95号住居跡全景　（南より）
95号遺物出土状況　（南より）
96号住居跡全景　（南東より）
96号遺物出土状況　（南より）
97号住居跡全景　（西より）

図版26　97号（手前）周辺　（北東より）
98号住居跡全景　（南東より）
98号カマド遺存状況　（南東より）
99号住居跡周辺　（北東より）
99号住居跡全景　（南西より）
99号遺物出土状況１　（南西より）
99号遺物出土状況２　（西より）
99号遺物出土状況３　（南西より）

図版27　99号南西コーナー遺物出土状況　（左は234号溝）
99号北東コーナー遺物出土状況
99号完掘状況　（南東より）
99号カマド調査状況１　（南東より）
99号カマド調査状況２　（南西より）
100号住居跡周辺　（中央は245号溝　南東より）
100号全景　（南東より）
100号カマド　（南東より）

図版28　101号住居跡周辺　（南より）
101号全景　（南西より）
101号遺物出土状況１　（南東より）
101号遺物出土状況２　（南より）
101号Ｐ４付近遺物出土状況　（南より）
101号完掘状況　（南より）
101号カマド　（南より）
101号住居跡カマド調査状況　（西より）

図版29　102号住居跡全景　（南より）
102号カマド　（西より）
102号カマド調査状況　（南より）
103号住居跡全景　（南より）
103号遺物出土状況　（南より）
103号Ｐ２付近遺物出土状況　（北西より）
103号遺物出土状況　（北より）
103号カマド　（南より）

図版30　104号横溝木棺墓全景　（北西より）
106号住居跡周辺　241号溝（中央）・234号溝（右）（南東より）
106号全景　（東より）
106号カマド　（南より）
107号住居跡完掘状況　（東より）
108号住居跡周辺　（中央は246号溝　南東より）
108号（奥）・109号（手前）住居跡全景　（南東より）
108号カマド　（南西より）

図版31　109号住居跡全景　（南より）
109号カマド　（南より）
109号カマド調査状況　（南より）
110号（奥）土坑全景　（南より）
111号～115号住居跡全景１　（東より）
111号～115号住居跡全景２　（南より）
112号土坑（中央）・115号住居跡全景　（中央奥は240号溝）
113号住居跡全景　（南西より）

図版32　113号遺物出土状況１　（中央は234号溝　北東より）
113号遺物出土状況２　（北東より）
113号完掘状況　（北東より）
14号方周内116号土坑を望む　（北東より）
116号土坑全景　（東より）
117号住居跡全景　（南より）
117号遺物出土状況１　（北西より）
117号遺物出土状況２　（南東より）

図版33　118号～120号住居跡全景　（南西より）
118号遺物出土状況　（南より）
118号カマド　（北西より）
118号カマド調査状況　（北西より）
119号（左）・120号（右）住居跡全景　（南東より）
119号遺物出土状況１　（南より）
119号遺物出土状況２　（東より）
121号住居跡全景　（左に242号溝　南西より）

図版34　121号南コーナー遺物出土状況
122号住居跡全景　（南東より）
122号Ｐ８内遺物出土状況　（北より）
122号Ｐ９内遺物出土状況　（南東より）
122号カマド　（南東より）
123号住居跡全景　（南東より）
123号Ｐ２付近遺物出土状況　（南東より）

124号土坑土層断面　（北より）
図版35　125号住居跡全景　（南西より）
125号カマド付近遺物出土状況　（南より）
125号Ｐ８内遺物出土状況１　（北西より）
125号Ｐ８内遺物出土状況２　（南より）
125号住居跡カマド　（南西より）
125号カマド調査状況　（南西より）
（奥から）126号・127号・128号住居跡全景　（南より）
126号（右）・127号（左）カマド　（東より）
図版36　（奥から）126号・127号カマド　（南より）
127号遺物出土状況　（東より）
127号全景　（南東より）
129号住居跡全景　（南西より）
129号カマド調査状況　（南西より）
130号土坑全景　（北より）
131号住居跡・132号地下式土壙全景　（南東より）
132号全景　（北東より）
図版37　133号土坑全景　（北東より）
134号住居跡全景（左）（中央に139号溝　北東より）
134号カマド　（東より）
135号（奥）・136号（手前）土坑全景　（北西より）
135号（手前）・136号（奥）土坑全景　（南東より）
137号（奥）・138号（手前）土坑全景　（北より）
137号（手前）・138号（奥）土坑全景　（南より）
140号土坑全景　（北より）
図版38　141号（左）・143号（中央）土坑周辺　（西より）
146号側壁抉り込み土坑　（南より）
146号（左）・147号（中央）土坑周辺　（西より）
148号土坑全景　（東より）
149号土坑全景　（南東より）
（手前から）151号･150号･152号土坑全景　（東より）
153号土坑全景　（北東より）
154号（中央）土坑全景　（南東より）
図版39　155号（中央）・156号（手前）土坑全景　（南東より）
155号（手前）・156号（奥）全景　（北西より）
156号土坑全景　（南東より）
156号（奥）・157号（手前）土坑全景　（北東より）
157号全景　（南東より）
158号土坑全景　（北より）
159号土坑全景　（北より）
160号土坑全景　（西より）
図版40　161号土坑全景　（南西より）
162号土坑全景　（東より）
163号土坑全景　（南西より）
164号（右）・165号（左）土坑全景　（南東より）
165号（中央）・164号（奥）全景　（南より）
165号周辺　245号溝（左）・234号溝（右）（南東より）
166号土坑全景　（北西より）
土坑群　右側の深い土坑が167号　（東より）
図版41　167号土坑全景１　（北西より）
167号全景２　（南東より）
168号土坑全景　（南東より）
169号側壁抉り込み土坑全景　（南東より）
169号周辺　（南より）
169号全景　（北西より）
169号全景　（北東より）
170号土坑全景　（北西より）
図版42　170号（手前）・171号（中央）　土坑全景　（南東より）
土坑群　（手前から）　170号･171号　（南東より）
172号住居跡全景　（南東より）
172号完掘状況　（南東より）
172号カマド　（南東より）
土坑群　左は172号　（北東より）
173号竪穴状土坑全景　（北東より）
174号土坑全景　（北西より）
図版43　175号土坑全景　（西より）
土坑群　175号周辺　（北より）
178号土坑全景　（北西より）
179号土坑全景　（北西より）
土坑群　179号（中央左）周辺　（北東より）
180号土坑（中央）全景　（北西より）
181～184号土坑全景　（南東より）
185（中央）・186号（右）土坑周辺　（南西より）
図版44　185号全景　（東より）
187号・188号（中央奥）周辺　（北より）
190号土坑全景　（北東より）
192号土坑全景　（東より）
193号土坑全景　（北西より）
194号（右上）・195号（中央）土坑全景　（東より）
196号（中央）・191号（手前）・195号（右）・197号（上）土坑全景　（北西より）
197号地下式土壙全景１　（北西より）
図版45　197号全景２　（北西より）
198号土坑全景　（北西より）
199号土坑（中央）全景　（南西より）
200号土坑（中央）周辺　（西より）
201号土坑（中央）全景　（奥は203号土坑　西より）
202号土坑（中央）全景　（南より）
土坑群　202号（手前左）周辺　（南東より）

203号全景　（南西より）
図版46　204号（中央）・205号（右上）・206号（右下）
土坑全景　（西より）
土坑群　207号（中央）周辺　（南東より）
207号土坑全景　（南東より）
208号土坑全景　（右上は206号　南東より）
209号土坑全景　（北西より）
210号土坑全景　（西より）
211号（右上）・212号（右下）土坑全景　（南より）
213号土坑全景　（東より）
図版47　214号土坑全景　（南東より）
217号住居跡全景　（南東より）
217号カマド　（南東より）
217号・218号住居跡全景　（南東より）
219号住居跡全景　（南東より）
219号カマド　（南東より）
220号住居跡全景　（南西より）
220号カマド　（南西より）
図版48　220号カマド周辺遺物出土状況　（南東より）
221号土坑全景　（南西より）
遺跡南側遺構検出状況１　（南東より）
遺跡南側遺構検出状況２　（南より）
遺跡南側遺構調査状況１　（南東より）
遺跡南側遺構調査状況２　（東より）
224号土坑全景１　（南より）
224号全景２　（南東より）
図版49　226号溝（中央）（北西より）
227号土坑全景　（北東より）
228号土坑全景　（南東より）
229号土坑全景　（北東より）
調査区南西端229号周辺
233号溝（右）・244号溝（左）（南西より）
234号溝　（南西より）
234号溝　（左は244号溝　南西より）
図版50　234号溝（中央）（南西より）
235号溝（右）（南東より）
235号（右）・236号溝（左）（南東より）
235号溝（中央）（北西より）
235号溝土層断面　（北西より）
235号溝西側起点付近土層断面　（北西より）
236号溝（中央）（右手前は103号住居跡　南東より）
236号溝　（中央左は103号住居跡　東より）
図版51　236号溝　右上は103号住居跡　（南西より）
236・240号溝の交差付近遺物出土状況　（北西より）
236号溝　遺物出土状況１　（北東より）
236号溝　遺物出土状況２　（北西より）
236号溝　遺物出土状況３　（北東より）
237号溝　（右手前は79号住居跡　南東より）
238号溝　（左は84号住居跡　北東より）
238号溝　（手前は84号住居跡　北東より）
図版52　236号溝（奥）・239号・240号溝　（南より）
240号溝　（中央は19号改葬系区画墓　北より）
234号溝（中央）・241号溝（右）（北東より）
244号溝（左）・233号溝（中央）（南より）
244号溝（Ｖ字溝）周辺１　（東より）
244号溝（Ｖ字溝）周辺２　（西より）
244号溝東側起点
244号溝土層断面
図版53　251号溝検出状況　（南東より）
250号（左）・251号（右）溝土層断面　（西より）
252号溝（右）・253号溝（左）付近　（東より）
225号溝（中央）周辺　（東より）
56号住居跡周辺調査風景　（南より）
35号住居跡付近作業風景　（北西より）
58号住居跡周辺調査風景　（北西より）
97号住居跡周辺調査風景　（北より）
図版54　100号住居跡周辺作業風景　（北西より）
235号溝周辺作業風景　（南より）
埋め戻し状況１　（南西より）
埋め戻し状況２　（南より）
諏訪台古墳群4016号出土改装骨１
諏訪台古墳群4016号出土改装骨２
諏訪台古墳群4016号出土改装骨３
諏訪台古墳群4016号出土改装骨４

遺物図版目次

図版55　5-1～4・6・8～10・6-1・2・4・7-2・9-1・10-2・11-1・13-1・16-2
図版56　20-4～12・21-1・5・7・25-1・3～5・26-2
図版57　26-3・5・6・8・29-1～4・30-1～4・34-1～3・5・6・35-1
図版58　35-2・3・10・54-3～5・56-1～6・57-2・3・58-1
図版59　59-1頸部・59-1胴部・59-3・60-1～7・61-1・62-1・2
図版60　62-3・4・10・63-1・65-1・4・7～12・15・68-5～9
図版61　68-10・69-1・2・70-2・71-5・72-1・2・74-1・3～8・75-1・2
図版62　75-3・6・76-1・3・77-5・8・79-1～5・7～9・82-4・7・84-2
図版63　84-3・5・7・89-1・90-2・4・91-1・2・4・6・7・92-1～4・93-5・6・94-1

図版64　94-5・9・95-1・3・96-1・4～8・11～13・97-3・5
図版65　97-6・7・99-1～10・14～17・21
図版66　99-22・23・100-1・101-1・3・4・6・11・12・13・15・102-4・5・7・9・103-1
図版67　103-3・5・8・104-1・106-2～4・107-1・108-2・6・7・109-2・3・5・6・111-2～4
図版68　111-5・6・8・9・14・113-1・5・8・9・11・12・16・17・19・20・22・117-1～3
図版69　117-4～6・8・9・118-1・2・6・8～11・13・119-1・2・4・5
図版70　119-6・120-2・121-1～3・122-2・4～6・8・122-10・123-1～3・125-2・12
図版71　125-15・16・18・19・126-1・8・127-1・2・4・8・129-1・2・5・6・165-1・172-1・2
図版72　172-3・217-1・2・6・218-1・4・5・220-1・220-2・234-7・9・235-4・6・236-2・16・244-1
図版73　244-2～6・一括5・7・9・40・41・43～45・65～70
図版74　一括71～74-1・74-2・76～78・80・81・87・89・90・92・95・96・97
図版75　1-1・2・2-5～12・4-3～16・5-1・12～50・6-5～8
図版76　6-9～11・7-3～14・9-5・6・10-4～6・11-5～10・13-5～11・16-1・5～12・17-1・20-13・16～34・21-8・9
図版77　21-10～23・23-2～11・24-2～4・25-6～15・26-9・10・12～20・28-1・30-5～12・14・31-1～12
図版78　34-7～13・35-5～9・36-1～5・54-1・2・6～22・55-2～4・56-8～22・24～28・57-4～9・58-2～10・59-4～8
図版79　59-9～12・16～18・20～23・60-8・61-2～6・62-21～40・42～47・63-2～6・64-2・6～15
図版80　65-16～23・68-4・11～28・30～33・69-3～7・70-3～12・71-6～8・72-4～6・73-1・74-9～13
図版81　74-14・15・17・75-10～21・76-5～13・77-1・6・11～23・79-12～16・82-2・6・9・84-4・8～17
図版82　84-18～25・89-2～6・90-5～14・91-8～20・92-6～11・93-7～26
図版83　93-27～30・94-4・10～18・95-5～11・13～25・96-14～24・97-9～13
図版84　97-14～22・98-1・2・99-29～35・100-4～18・102-10～13・103-11・12・106-5～7・107-2・108-1・8～16・109-8～14・111-15～19
図版85　111-20～27・113-23～25・117-12・13・120-3・4・121-4～11・122-11～14・126-9・10・127-9・10・129-8～12・131-2・134-12・13・165-2・172-4・217-8・9・220-5～7・234-10～18
図版86　234-19～61・235-9～18・236-4・17～28
図版87　236-29～52・238-3・4・244-8～16・一括13～27・33・34・35・42・48～54・63・64・93・98・102～104
図版88　一括105～165
図版89　一括166～192・194～206・72-7・77-24・一括29・36・60～62・215
図版90　20-1～3・26-7・56-23・59-2・13～15・19・62-5～7・9・41
図版91　62-8・68-1～3・95-12・96-2・97-1・2
図版92　97-4・118-5・134-4・一括91・193
かわらけ等底部　2-4・9-4・29-1～4・一括31・32・45～47・99～101
図版93　底部木葉痕等　2-1・5-5・6・9・7-2・9-3・11-3・34-5・6・62-16・18・19・68-8・74-5～7・84-6・94-5・129-6・234-8・235-6・一括94～96
図版94　支脚　20-14・103-13・117-7・127-7・134-9・10
土玉　111-28・122-16・233-1
土錘　134-11・165-3・一括208・209
紡垂車　7-27・79-10・103-16
土製円盤　20-15
土器片錘　54-23・一括207・236
図版95　鉄器　26-11・79-11・99-28・125-20
勾玉　101-9・102-16
臼玉　99-24～27・234-63
管玉　224-1・一括211
有孔円盤　71-9・99-37・38・101-8・102-14・15・103-14・15・111-30・126-11・一括210
古銭　一括28・212～214
どろめんこ　34-14
石斧・砥石等　13-12・54-24・59-25・68-34・71-10・74-19・93-31・111-29・218-6・220-8・234-62・236-54・238-6・7・8・一括37・55・56・216・218
図版96　石鏃　6-12・20-35・65-25・91-23・一括232～242
磨石　10-7・39-24・54-25・55-5・6・57-10・59-26・74-18・82-10・97-23・25～27・129-13・217-10・236-53・56・一括57～59・225
図版97　磨石等　2-13・4-17・5-51・25-16・31-13・56-29・65-24・77-26・82-11・91-21・22・96-25・97-28・165-4・238-5・一括217・219～224・226～231
図版98　磨石等　16-13・26-21・70-13・77-25・93-32・99-36・97-24・114-1・122-15・172-5

Ⅰ　調査経緯と遺跡の概要

１　調査に至る経緯と経過

昭和30年代後半から40年代にかけて、我国は高度経済成長期の真只中にあり、市原市は京葉工業地帯を抱えた首都圏に位置したことから、そのベッドタウンとしての大規模宅地造成が立て続けに計画された。その一つが、およそ380ヘクタールに及ぶ国分寺台土地区画整理事業である。

事業の先陣を切り、昭和45年には市原市国分寺台土地区画整理組合が設立され、これに対応する発掘調査機関として、市原市国分寺台埋蔵文化財調査会のもとに上総国分寺台遺跡調査団が結成された。

調査は翌昭和47年から開始され、当初３ヶ年計画で事業地内の遺跡の調査が終了する予定であった。しかし、当時把握していた事業地内の遺跡は、蓋を開けてみれば予想を遥かに超えた規模であり、調査面積と調査期間の大幅な変更が余儀なくされた。最終的には昭和63年までの17年間の歳月をかけ、上総国分寺・尼寺をはじめとする43遺跡、面積にして537,270㎡分の発掘調査が終了した。

整理作業については、事業地内の発掘調査を最優先としたことや、報告書刊行に伴う費用負担の問題等からほとんど進捗しなかったが、平成７年度の市原市と市原市国分寺台土地区画整理組合との協議の結果、費用負担の問題も解決し再開されることとなった。

今回報告する台遺跡Ｃ地点は、昭和54年度に上総国分寺台遺跡調査団（団長　滝口　宏）のもと、当時副団長であった平野元三郎が代表を務める平野考古学研究所が中心となって調査を実施した、その成果をまとめたものである。

２　遺跡の位置と概要

台遺跡Ｃ地点の主体は市原市役所の北西約500m、現在の根田１丁目に所在し、西側は台遺跡Ｂ地点、市道１号線を挟んで北側は台遺跡Ａ地点、Ａ地点北西の小さな範囲をＤ地点、さらに地続きの台地先端部はＥ地点として調査が実施されている。この内Ｂ地点12,600㎡分については、既に調査報告書が刊行済みである（半田2003）。

台遺跡Ｃ地点は、標高20m前後の台地上に位置し、地続きのＢ地点をはじめ市道１号線に分断されたＡ・Ｄ・Ｅ地点を含めた非常に広範囲な遺跡の一部である。さらに南には谷を隔てて辺田古墳群（木對2002）・御林跡遺跡（木對2008）、南西には根田代遺跡（大村2005）、南東には長平台遺跡（小橋2006）が存在している。これら周辺遺跡の詳細は、既に報告書刊行済みでもあり、改めては述べないが、弥生時代中期から古墳時代中期末葉まで集落が一時も途切れることなく継続して営まれるのは、周辺では谷を隔てて隣接する御林跡遺跡だけのようである。

今回報告する台遺跡Ｃ地点は、遺構密度と集落の連続性こそ御林跡遺跡には及ばないが、遺構の分布年代は御林跡遺跡を超え、断片的ながらも弥生時代中期から奈良時代初頭を経て古代末葉まで下るものである。しかしながら、古墳時代後期の６世紀前半から６世紀末葉のおよそ１世紀の間、台遺跡Ｂ地点を含めて集落が無人状態になるところは御林跡遺跡と共通しており、なぜそのような状況になるのかの原因は不明であるが、その類似性には十分な留意が必要であろう。

第１図　国分寺台地区の旧地形と調査遺跡（1/12,000）

第２図　周辺遺跡と旧地形（1/6,000）

３　調査・整理の方法

（１）グリッド・水準

公共座標に基づく20m方眼を使用しているが、さらに小グリッドには分割されていない。また、平面図は全て平板測量によって作成されている。また、水準は基準点から求められており、数値は海抜からの高さを表している。

（２）遺物

検出された遺物は整理作業の過程において、遺構ごとに種別及び総数と総重量の把握に努めた。その結果、総数19,034点、重量にして444,858.7ｇの土器片と、456点、重量にして40,669.8ｇの礫・石器を検出し、詳細については第１表にまとめた。縄文土器997点、重量23,529.2ｇ、弥生土器4,827点、重量106,171.5ｇ、土師器12,680点、重量298,041.6ｇ、須恵器447点、重量14,109.9ｇが最も多く出土した土器である。

（３）遺構番号について

遺構番号については、調査時点の遺構平面図の中に、既にいくつか重複しているものが存在したため、混乱を避けるため新規に付した。方形周溝墓・改葬系区画墓を優先し、その後に竪穴住居をはじめとする各種遺構を北側から南にかけて、また、西から東へと流れるように配し、併せて遺構規模・性格等についてもまとめて、第２表の新旧番号一覧表を作成した。

文献等

半田堅三　『市原市台遺跡Ｂ地点』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ（財）市原市文化財センター・市原市教育委員会2003

木對和紀　『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅡ（財）市原市文化財センター・市原市教育委員会2004

木對和紀　『市原市御林跡遺跡Ⅱ』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅧ　市原市教育委員会2008

大村　直　『市原市根田代遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅢ　市原市文化財センター・市原市教育委員会2005

小橋健司　『市原市長平台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅥ　市原市文化財センター・市原市教育委員会2006

第１表　台遺跡Ｃ地点遺構別遺物集計表

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期燃糸系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量	剥片	重量
1	2号方形周溝墓	方形周溝墓	10	166.0	2	92.0	3	28.0													1	111.0	16	397.0					0	0.0								
2	5号方形周溝墓	方形周溝墓	9	235.0	3	48.0	96	1252.0											5	138.0			113	1673.0			1	125.0	1	125.0								
3	13号方形周溝墓	方形周溝墓																					0	0.0					0	0.0								
4	3号方形周溝墓	方形周溝墓	18	250.0			49	585.0											4	132.0	1	7.0	72	974.0			1	330.0	1	330.0								
5	1号方形周溝墓	方形周溝墓	64	1890.0	6	231.0	356	5060.0											26	629.0			452	7810.0	2	77.0	1	740.0	3	817.0								
6	14号方形周溝墓	方形周溝墓	1	9.0			27	483.0							1	15.0			10	469.0			39	976.0	2	45.0	1	2.7	3	47.7								
7	4号方形周溝墓	方形周溝墓	59	620.0	2	30.0	58	798.0											12	247.0			131	1695.0					0	0.0								
8	なし	方形周溝墓																					0	0.0					0	0.0								
9	11号方形周溝墓	方形周溝墓	2	98.0	2	66.0	11	301.0											5	120.0	1	31.0	21	616.0					0	0.0								
10	8号方形周溝墓	方形周溝墓	17	224.0			18	340.0											1	60.0			36	624.0	11	610.0	1	30.0	12	640.0								
11	6号方形周溝墓	方形周溝墓	11	339.0			24	301.0	1	10.0									4	128.0			40	778.0	2	76.0			2	76.0					1	42.0		
12	12号方形周溝墓	方形周溝墓																					0	0.0					0	0.0								
13	7号方形周溝墓	方形周溝墓	57	764.0	4	90.0	26	327.0											3	61.0			90	1242.0	5	329.0	1	67.0	6	396.0								
14	12号方形周溝墓	方形周溝墓																					0	0.0					0	0.0								
15	7号地下式土坑	方墳																					0	0.0					0	0.0								
16	1号地下式土坑	改葬系区画墓	3	126.0	2	108.0	3	26.0											6	112.0			14	372.0			1	580.0	1	580.0								
17	10号方形周溝墓	改葬系区画墓	11	190.0	1	300.0																	12	490.0					0	0.0								
18	なし	改葬系区画墓																					0	0.0					0	0.0								
19	なし	改葬系区画墓																					0	0.0					0	0.0								
20	１号	住居跡	78	745.0	3	75.0	115	3711.0											19	554.0	1	83.0	216	5168.0	1	30.0	1	0.9	2	30.9					2	220.0		
21	２号	住居跡	267	4638.0	8	285.0	38	613.0											19	470.0			332	6006.0	3	10.0			3	10.0								
22	３号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
23	８号	住居跡	62	470.0	3	64.0	82	973.0											15	325.0	1	22.0	163	1854.0	1	160.0			1	160.0								
24	22号	土坑	19	160.0	4	55.0	27	230.0											4	50.0			54	495.0					0	0.0								
25	９号	住居跡	124	1815.0	1	44.0	33	595.0											4	98.0			162	2552.0	1	43.0	1	210.0	2	253.0					1	116.0		
26	７号	住居跡	104	4426.0	5	219.0	17	128.0											31	963.0			157	5736.0	1	116.0	1	2250.0	2	2366.0			1	4.2				
27	21号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
28	３号	住居跡	12	135.0			7	60.0															19	195.0					0	0.0								
29	４号	住居跡																			4	216.0	4	216.0					0	0.0								
30	５号	住居跡	9	153.0	1	9.0	38	760.0	1	8.0									8	319.0			57	1249.0	2	112.0			2	112.0					1	28.0		
31	12A・B号	住居跡	13	176.0	1	44.0	91	1108.0											5	59.0			110	1387.0	2	68.0	1	185.0	3	253.0								
32	24号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
33	73号	住居跡																					0	0.0					0	0.0								
34	11号	住居跡	156	5671.0	4	45.0	15	320.0											14	341.0			189	6377.0	1	31.0			1	31.0					1	4.0		
35	10号	住居跡	90	3977.0	1	7.0	2	13.0									1	20	2	46.0	1	7.0	97	4070.0					0	0.0								
36	23号	住居跡	40	592.0	2	43.0	3	48.0											3	67.0			48	750.0					0	0.0								
37	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
38	23号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
39	５号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
40	８号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
41	９号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
42	10号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
43	16号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
44	11号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
45	12号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
46	14B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
47	14A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
48	14C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
49	６号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
50	７号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
51	17号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
52	18号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
53	６C号	住居跡																					0	0.0					0	0.0								
54	６A号	住居跡	61	1020.0			87	1313.0											6	100.0			154	2433.0	1	10.0	2	360.0	3	370.0					1	44.0		
55	６B号	住居跡	2	40.0			4	147.0															6	187.0	1	60.0	2	3.5	3	63.5								
56	24号	住居跡	24	260.0			336	10668.0											7	106.0			367	11034.0	3	311.0	1	321.0	4	632.0								
57	13号	住居跡	38	610.0	1	11.0	16	393.0											4	93.0			59	1107.0	1	315.0	1	95.0	2	410.0								
58	14号	住居跡	41	805.0	14	320.0	60	802.0											2	50.0			117	1977.0	2	215.0			2	215.0								
59	15号	住居跡	4	162.0	1	14.0	197	5260.0											8	179.0			210	5615.0	7	505.0	3	495.0	10	1000.0								
60	17号	住居跡	82	8005.0	1	12.0													1	23.0			84	8040.0	1	73.0			1	73.0								
61	16号	住居跡	43	610.0	6	205.0	1	26.0											1	12.0			51	853.0	1	8.0			1	8.0		1		34.1				
62	34号	住居跡	19	200.0	1	10.7	233	8906.2											8	178.7			261	9295.6					0	0.0								
63	32号	住居跡	30	350.0			12	460.2											2	44.8			44	855.0					0	0.0								
64	33号	住居跡	65	845.0	1	32.0	22	432.0											1	42.0			89	1351.0	1	40.0			1	40.0								
65	35号	住居跡	442	10739.5	4	158.6	33	353.4											3	37.1			482	11288.6			2	608.6	2	608.6		1		5.3	1	190.0		

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期燃糸系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量	剥片	重量
66	31号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
67	32号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
68	69A・B号	住居跡	27	110.0			185	3791.8			1	16.0					1	18.0	8	168.0			222	4103.8	9	600.0	1	23.0	10	623.0								
69	70号	住居跡	11	175.0			9	142.0											3	55.0			23	372.0	1	80.0			1	80.0								
70	25号	住居跡	73	1449.0	1	16.0	12	247.0											4	120.0			90	1832.0	4	146.0	1	1315.0	5	1461.0								
71	66号	住居跡	158	2568.0	4	189.0	28	312.0											1	20.0			191	3089.0	1	10.0	1	75.0	2	85.0	1	3.50	1	5.4				
72	20号	住居跡	6	180.0	1	22.0	40	780.0															47	982.0					0	0.0					1	174.0		
73	29号	土坑					11	80.0											2	18.0			13	98.0					0	0.0								
74	18号	住居跡	2	26.0			101	3962.0											1	10.0			104	3998.0			2	296.0	2	296.0								
75	19号	住居跡	152	8155.0	2	34.0	18	291.0											1	45.0			173	8525.0	2	47.0			2	47.0								
76	22号	住居跡	97	2418.0	2	14.0	14	235.0											3	104.0			116	2771.0	6	230.0			6	230.0								
77	21号	住居跡	73	1205.0	2	238.0	54	1073.0											4	100.0	1	5.0	134	2621.0	2	140.0	3	1622.0	5	1762.0					1	63.0		
78	なし	土坑																					0	0.0					0	0.0								
79	37号	住居跡	307	7754.0	3	153.0	17	305.0											3	90.0			330	8302.0	7	405.0	1	61.2	8	466.2			1	2.7			1	0.3
80	37A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
81	37B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
82	72号	住居跡	29	176.0	3	35.0	23	1540.0															55	1751.0	1	22.0	2	173.0	3	195.0								
83	1号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
84	36号	住居跡	15	293.0			111	2529.0											5	95.0			131	2917.0	3	308.0			3	308.0					1	42.0		
85	110号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
86	33号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
87	34号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
88	なし	土坑																					0	0.0					0	0.0								
89	35号	土坑	14	104.0			9	143.0											3	69.0			26	316.0					0	0.0								
90	29号	住居跡	146	1971.0	4	33.0	21	333.0											13	281.0			184	2618.0	3	225.0			3	225.0								
91	28号	住居跡	125	2706.0	1	1.0	24	508.0											5	123.0			155	3338.0			3	413.7	3	413.7								
92	27号	住居跡	143	5006.0	3	35.0	30	617.0	1	33.0									4	92.0			181	5783.0	4	250.0			4	250.0								
93	26号	住居跡	238	2678.0	3	471.0	4	74.0											14	290.0			259	3513.0	11	210.0	2	1495.0	13	1705.0			1	1.7				
94	31号	住居跡	156	4010.0			32	938.0											3	57.0			191	5005.0	2	27.0			2	27.0								
95	30号	住居跡	24	353.0			51	1910.0											12	244.0			87	2507.0	1	21.0			1	21.0								
96	42号	住居跡	1	7.0			291	9069.0											3	63.0			295	9139.0	24	705.0	1	166.0	25	871.0					1	29.0		
97	38号	住居跡	66	1095.0	2	38.0	262	5309.0											3	78.0	1	36.0	334	6556.0	2	279.0	6	662.0	8	941.0								
98	71号	住居跡	1	13.0			1	10.0											1	27.0			3	50.0	1	9.0			1	9.0								
99	43号	住居跡	508	21298.3	2	193.8	49	456.9											20	223.5	1	8.0	580	22180.5	9	170.0	1	270.0	10	440.0	6	11.10	1	25.5				
100	44号	住居跡	106	1510.0	1	40.0	9	222.0											7	102.0	1	26.0	124	1900.0					0	0.0								
101	41号	住居跡	209	16450.0			4	94.0											1	8.0			214	16552.0	8	600.0			8	600.0	2	6.90						
102	40号	住居跡	226	3407.0	10	300.0	4	40.0											1	21.0			241	3768.0	3	21.0			3	21.0	3	23.20						
103	39号	住居跡	450	11028.0	15	365.0	19	200.0															484	11593.0	10	270.0	1	33.0	11	303.0	2	11.10	1	16.0	1	762.0		
104	13号	横溝木棺墓	9	197.0																			9	197.0					0	0.0								
105	38号	土坑	18	182.0																			0	0.0	2	40.0			2	40.0								
106	63号	住居跡	56	1201.0	1	39.0	17	209.0											2	28.0			76	1477.0					0	0.0								
107	53号	住居跡	9	119.0	1	36.0	1	7.0															11	162.0					0	0.0								
108	46号	住居跡	181	3669.0	3	34.0	3	36.0											8	143.0			195	3882.0	17	1250.0			17	1250.0								
109	47号	住居跡	366	5975.0	4	36.4	3	34.6											4	69.1	2	90.0	379	6205.1					0	0.0								
110	40号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
111	49A号	住居跡	657	10700.0	6	200.0	22	345.0											1	16.0	1	19.0	687	11280.0	14	615.0	1	42.0	15	657.0	1	3.70			1	26.0		
112	111号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
113	50号	住居跡	423	9144.0	13	831.0	4	55.0															440	10030.0	2	20.0			2	20.0								
114	48号	住居跡																					0	0.0			1	895.0	1	895.0								
115	49B号	住居跡	79	1255.0			4	40.0															83	1295.0					0	0.0								
116	14号	フラスコ状ピット																					0	0.0					0	0.0								
117	55号	住居跡	46	6712.0	2	51.0																	48	6763.0					0	0.0					1	131.0		
118	51号	住居跡	111	5772.0	3	150.0	2	54.0							2	35.0							118	6011.0	1	4.0			1	4.0								
119	52B号	住居跡	23	1207.0																			23	1207.0					0	0.0								
120	52A号	住居跡	21	279.0	1	10.0	2	27.0															24	316.0					0	0.0								
121	54号	住居跡	8	146.0	2	89.0	104	2213.0									1	19.0					115	2467.0	1	62.0			1	62.0								
122	60号	住居跡	144	7904.0															1	26.0			145	7930.0			1	297.0	1	297.0					2	39.0		
123	61号	住居跡	13	1226.0																			13	1226.0					0	0.0								
124	43号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
125	56号	住居跡	218	8350.0	5	247.0	2	16.0															225	8613.0					0	0.0			1	4.70				
126	57号	住居跡	283	4966.0	1	15.0													2	49.0			286	5030.0					0	0.0	1	8.20						
127	58A号	住居跡	119	5795.7	1	28.4	1	7.3											1	18.8			122	5850.2	1	7.7	1	432.0	2	439.7			2	14.6	1	380.0		
128	58B号	住居跡																					0	0.0					0	0.0								
129	59号	住居跡	212	4059.0	9	363.0	2	41.0															223	4463.0			1	70.0	1	70.0								
130	42号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
131	74号	住居跡	1	40.0			1	32.0															2	72.0					0	0.0								
132	2号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期燃糸系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量	剥片	重量
133	119号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
134	45号	住居跡	256	4078.0	2	17.0	10	180.0											2	51.0			270	4326.0	1	2.2			1	2.2					3	376.0		
135	89B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
136	89A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
137	93B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
138	93A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
139	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
140	96号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
141	95号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
142	121号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
143	120号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
144	84A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
145	84B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
146	10号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								
147	108号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
148	107号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
149	100号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
150	80B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
151	80A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
152	80C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
153	79号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
154	85F号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
155	85B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
156	85A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
157	85C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
158	85D号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
159	85E号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
160	87号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
161	117号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
162	116号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
163	77号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
164	76B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
165	76A号	土坑	5	100.0	3	88.0																	8	188.0	1	290.0	1	191.0	2	481.0					1	16.0		
166	78号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
167	75号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
168	74号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
169	9号	地下式土坑	31	231.0			1	40.0															32	271.0	1	15.0			1	15.0								
170	44A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
171	44B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
172	62号	住居跡	131	3438.0	2	19.0																	133	3457.0			1	95.0	1	95.0					1	36.0		
173	1号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
174	46号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
175	47号	土坑？木棺墓																					0	0.0					0	0.0								
176	52C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
177	52B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
178	52A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
179	49B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
180	49A号	土坑	38	728.0																			38	728.0					0	0.0								
181	51A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
182	51C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
183	50号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
184	51B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
185	12号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								
186	53D号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
187	53A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
188	54A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
189	54B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
190	58A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
191	58B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
192	60号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
193	54C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
194	56号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
195	58C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
196	3号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								
197	4号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								
198	113号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
199	61号	土坑																					0	0.0					0	0.0								

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期燃糸系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量	剥片	重量
200	101号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
201	62号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
202	64号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
203	63号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
204	65A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
205	65B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
206	65C号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
207	5号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								
208	66号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
209	67号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
210	8号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								
211	なし	土坑																					0	0.0					0	0.0								
212	なし	土坑																					0	0.0					0	0.0								
213	70A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
214	70B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
215	68A号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
216	68B号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
217	64号	住居跡	184	2099.0	14	740.0																	198	2839.0			1	13.0	1	13.0								
218	65号	住居跡	131	2644.0	2	50.0	1	12.0											1	9.0			135	2715.0	2	31.0	1	13.0	3	44.0								
219	67号	住居跡																					0	0.0					0	0.0								
220	68号	住居跡	111	5886.1			6	70.0											4	49.6			121	6005.7			1	21.9	1	21.9								
221	6号	地下式土坑																					0	0.0					0	0.0								
222	105号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
223	104号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
224	114号	土坑																					0	0.0					0	0.0	1	0.60						
225	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
226	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
227	92号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
228	91号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
229	90号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
230	118号	土坑																					0	0.0					0	0.0								
231	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
232	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
233	4号	溝																					0	0.0					0	0.0					1	45.0		
234	2・8号	溝	336	4325.0	19	309.0	63	961.0											86	1770.0	1	69.0	505	7434.0	12	1205.0	1	314.0	13	1519.0	1	0.10	1	8.2	1	90.0		
235	1号	溝	2	47.0	2	134.0	14	309.0											4	80.0			22	570.0					0	0.0								
236	3・5号	溝	338	4966.0	16	235.0	86	1163.0											42	868.0			482	7232.0	12	429.0	4	162.0	16	591.0					1	30.0	1	13
237	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
238	6号	溝	11	139.0	1	4.0	4	125.0													1	60.0	17	328.0	1	72.0	4	236.0	5	308.0								
239	13号	溝																					0	0.0					0	0.0								
240	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
241	7号	溝																					0	0.0					0	0.0								
242	9号	溝																					0	0.0					0	0.0								
243	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
244	なし	溝	29	466.0			33	1663.1											8	273.0			70	2402.1	1	4.0			1	4.0								
245	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
246	10号	溝																					0	0.0					0	0.0								
247	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
248	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
249	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
250	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
251	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
252	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
253	なし	溝																					0	0.0					0	0.0								
	円形土坑群	表採	23	230.0	1	20.0	3	28.0															27	278.0					0	0.0								
	西墓址群	表採	101	1850.0	10	271.0	3	54.0											6	114.0	17	774.0	137	3063.0	5	225.0	6	642.0	11	867.0					8	1305.0		
	墓址群	表採	58	745.0	2	132.0	1	14.0											3	72.0	4	107.0	68	1070.0	1	68.0	1	44.0	2	112.0					1	190.0		
	南墓址群	表採	72	1495.0	8	199.0	8	420.0											21	505.0	9	498.0	118	3117.0					0	0.0			1	1.2	1	92.0		
	表採	表採	2376	38015.0	170	4966.0	853	15983.0									7	130.0	420	10393.6	30	770.5	3856	70258.1	101	6053.0	41	5781.4	142	11834.4	2	17.40	3	7.5	18	1834.9	4	11.8
	合計		12680	298041.6	447	14109.9	4827	106171.5	3	51	1	16	0	0	3	50	10	187.0	984	23292.2	79	2939.5	19034	444858.7	342	18411.9	114	22257.9	456	40669.8	20	85.8	16	131.1	54	6304.9	6	25.1

第３図　現地形と保存遺跡・周辺の重要遺跡（1/20,000）

第４図　台遺跡Ｃ地点遺構配置図１

第５図　台遺跡Ｃ地点遺構配置図２

第６図　台遺跡Ｃ地点遺構配置図３

第２表　台遺跡Ｃ地点新旧番号一覧

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	方台部規模（ ）は推定	主軸	東側周溝	西側周溝（ ）は推定	南側周溝	北側周溝	主体部	備考
1	２号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径（東西）8.84m 方台部短径（南北）8.56m	Ｎ－47°－Ｅ	長さ3.72m 幅0.98～1.16m 深さ21.2～22.2㎝	長さ6.19m 幅0.90～1.50m 深さ15.0～34.5㎝	長さ6.76m 幅0.91～1.49m 深さ15.5～37.5㎝	長さ6.43m 幅1.02～1.26m 深さ29.5～39.0㎝	主要主体部は、長径3.04m 短径1.36m 深さ16.2～23.5㎝。 主軸方位Ｎ－57°－Ｗ。 周溝内土坑は長径2.18m 短径1.04m 深さ23.0～32.5㎝。 主軸方位Ｎ－38°－Ｅ。	東側周溝は26号竪穴に削平され、西・南側周溝・主要主体部は23号竪穴と重複する。調査時遺構Ｎｏ土坑２は西側周溝内土坑。
2	５号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径（南北）11.70m 方台部短径（東西）11.00m	Ｎ－37°－Ｅ	残存長4.54m 幅0.92～1.06m 深さ30.0～42.0㎝	長さ9.3m 幅0.90～1.03m 深さ18.2～38.0㎝	残存長6.30m 幅0.72～1.08m 深さ20.0～28.3㎝	残存長6.58m 幅1.45～1.95m 深さ25.0～41.5㎝		東側周溝は16号方形区画改葬墓・36号竪穴に、西側周溝は233号に、北側周溝は25号竪穴に、南側周溝は16号方形区画改葬墓・233号溝に削平される。
3	13号方形周溝墓	不明	方形周溝墓	方台部長径（南北）8.16m 方台部短径（東西）7.70m	Ｎ－28°－Ｅ	長さ6.55m 幅0.95～1.14m 深さ26.5～38.1㎝	長さ4.25m 幅0.72～0.86m 深さ16.4～39.9㎝	長さ5.92m 幅0.93～1.30m 深さ14.2～35.8㎝	長さ4.14m 幅0.94m 深さ13.1㎝		
4	３号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部内径（東西）9.40m	Ｎ－62°－Ｗ	残存長6.76m 幅0.96～1.14m 深さ18.0～38.0㎝	残存長7.74m 幅0.83～1.10m 深さ21.0～46.0㎝		長さ5.74m 幅1.05～1.34m 深さ記載無し	主要主体部は、長径1.90m短径1.43m 深さ27.5～30.5㎝。 主軸方位Ｎ－62°－Ｗ。 周溝内土坑は長径1.60m 短径0.86m 深さ測定値無し。 主軸方位Ｎ－69°－Ｗ。	調査時遺構Ｎｏ土坑19は北側周溝内土坑、規模から見て主体部の可能性有り。
5	１号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径（東西）17.60m 方台部短径（南北）15.40m	Ｎ－59°－Ｗ	長さ12.25m 幅1.60～2.20m 深さ29.5～108.0㎝	長さ13.65m 幅2.00～2.45m 深さ11.0～95.0㎝	長さ12.40m 幅1.90～2.30m 深さ51.9～126.5㎝	長さ14.90m 幅3.10～4.00m 深さ50.5～68.0㎝	主体部は、長径3.46m 短径2.54m深さ50.5～88.0㎝。 主軸方位Ｎ－72°－Ｅ。	東側周溝は４号方形周溝墓西側周溝を削平し59号竪穴と重複する。西側周溝は56号竪穴と重複する。南側周溝は71号竪穴・235号溝に削平される。北側周溝は16号方形区画改葬墓・57号竪穴・235号溝と重複する。主体部は58号竪穴・235号溝と重複する。
6	14号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部内径（南北）14.00m	Ｎ－４°－Ｗ	長さ7.70m 幅0.78～0.92m 深さ11.0～62.7㎝	233号溝に削平	残存長6.80m 幅0.82～1.44m 深さ31.2～50.8㎝	長さ8.72m 幅0.85～1.13m 深さ8.2～52.8㎝	主体部は、長径2.63m 短径1.32m 深さ4.1～9.5㎝。 主軸方位Ｎ－87°－Ｗ。	東側周溝は234号溝に、南側周溝は17号改葬系区画墓に削平される。北側周溝は31号竪穴・32号土坑と重複し、234号溝に削平される。調査時段階は10号方形周溝墓で調査されているが、その後14号方形周溝墓に改変されている。
7	４号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径（南北）10.74m 方台部短径（東西）10.08m	Ｎ－35°－Ｗ	長さ7.78m 幅0.63～1.15m 深さ35.9～52.0㎝	長さ8.74m 幅1.20～1.60m 深さ39.3～48.0㎝	長さ8.23m 幅0.95～1.40m 深さ27.5～39.6㎝	長さ6.73m 幅1.03～1.35m 深さ17.0～24.9㎝	主要主体部は、長径2.68m 短径1.16m 深さ22.5～42.5㎝。 主軸方位Ｎ－63°－Ｅ。 竪穴内土坑は長径2.03m 短径0.88m 深さ43.3～44.5㎝。 主軸方位Ｎ－63°－Ｗ。	東側周溝は63号竪穴と重複し65号竪穴に削平される。西側周溝は61号竪穴、南側周溝は62号竪穴と重複する。調査時遺構Ｎｏ土坑30Ｂは62号竪穴内土坑、規模から見て主体部の可能性大。
8	無し	不明	方形周溝墓	不明	不明	調査区域外	残存長3.55（7.80）m 幅3.28m 深さ38.0～66.0㎝	残存長3.40m 幅2.25～2.54m 深さ32.5～36.5㎝	調査区域外		調査時段階は大型方形周溝墓として調査される。方位は推定。
9	11号方形周溝墓	久ヶ原	方形周溝墓	方台部長径（東西）10.76m 方台部短径（南北）10.33m	Ｎ－60°－Ｗ	残存長5.96m 幅0.87～1.30m 深さ36.0～52.5㎝	残存長4.06m 幅1.14～1.20m 深さ48.0㎝	長さ7.95m 幅0.70～1.70m 深さ36.0～52.5㎝	長さ7.70m 幅1.12～1.30m 深さ38.0～41.5㎝	主体部は、長径3.46m 短径1.78m 深さ26.0～29.5㎝。 主軸方位Ｎ－99°－Ｅ。	東側周溝は79号竪穴・235号溝・238号溝に、西側周溝は75号竪穴・235号溝に、北側周溝は75号竪穴に削平される。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	方台部規模（ ）は推定	主軸	東側周溝	西側周溝（ ）は推定	南側周溝	北側周溝	主体部	備考
10	８号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径(東西)11.25m 方台部短径(南北)10.08m	N－33°－W	残存長5.20m 幅0.70～0.80m 深さ19.0～21.5cm	長さ4.45m 幅0.86～0.98m 深さ22.3～28.5cm	残存長1.84m 幅0.90～1.06m 深さ15.3～23.5cm	残存長6.56m 幅0.96～1.18m 深さ22.3～35.0cm	主体部は、長径2.87m 短径1.50m 深さ18.0～23.5cm。 主軸方位N－58°－W。	東側周溝は、76号竪穴・236号溝に削平される。西側周溝は92・93号竪穴に、南側周溝は94号竪穴に、北側周溝は236号溝に削平される。
11	６号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径(東西)8.52m 方台部短径(南北)8.48m	N－57°－W	残存長5.56m 幅1.10～1.26m 深さ30.0～31.5cm	長さ3.86m 幅0.73～1.32m 深さ8.5～14.0cm	長さ4.61m 幅0.78～0.94m 深さ20.0～20.5cm	残存長5.82m 幅0.66～0.90m 深さ18.0～20.0cm		北側周溝は89号土坑に削平される。
12	12号方形周溝墓	不明	方形周溝墓	方台部長径(南北)9.42m 方台部短径(東西)9.32m	N－46°－W	長さ8.68m 幅0.47～0.74m 深さ7.9～19.3cm	長さ7.00m 幅0.82～1.17m 深さ14.2～23.2cm	長さ10.12m 幅0.68～1.72m 深さ7.6～23.2cm	長さ5.90m 幅0.68～1.01m 深さ8.7～25.5cm	主体部は、残存長1.86m 短径0.99m 深さ16.5～22.5cm。 主軸方位N－48°－E。	東・西側周溝、主体部は234号溝に削平される。調査時段階で12号方形周溝墓は遺構番号が重複していたので、本遺構を12号Ａ方形周溝墓とした。
13	７号方形周溝墓	久ヶ原	方形周溝墓	方台部長径(東西)13.15m 方台部短径(南北)11.20m	N－17°－W	残存長7.22m 幅1.08～1.60m 深さ27.5～42.0cm	長さ10.17m 幅1.20～1.34m 深さ10.0～59.0cm	長さ10.82m 幅0.73～1.07m 深さ17.5～54.0cm	長さ9.85m 幅0.98～1.33m 深さ28.5～52.5cm	主体部は、長径3.75m 短径1.92m 深さ28.0～42.5cm。 主軸方位N－80°－E。	東側周溝は103号竪穴・236号溝に、西側周溝は101号竪穴に、南側周溝は240号溝に、北側周溝は236・240号溝に削平される。
14	12号方形周溝墓	不明	方形周溝墓	方台部長径(南北)12.38m 方台部短径(東西)（12.30）m	N－25°－W	長さ8.90m 幅0.88～1.09m 深さ39.4～43.8cm	長さ9.57m 幅0.92～1.20m 深さ22.5～60.5cm	長さ9.84m 幅0.66～1.28m 深さ28.3～56.4cm	長さ8.97m 幅0.80～1.80m 深さ25.0～72.5cm	主体部Ａは、長径3.20m 短径1.75m 深さ44.7～54.0cm。 主軸方位N－82°－E。主体部Ｂは、長径2.54m 短径1.52m 深さ13.6～40.2cm。 主軸方位N－78°－W。	東側周溝は125・126号竪穴に、西側周溝は122号竪穴に、南側周溝は129号竪穴に、北側周溝は125号竪穴・116号土坑に削平される。調査時段階で、12号方形周溝墓は遺構番号が重複していたので、本遺構を12号Ｂとした。
15	７号地下式土坑	不明	方墳・地下式横穴墓		N－11°－E（短径より）					羨道部は最大長5.76m 最大幅3.48m 深さ140.0cm（最大）。 玄室は長径1.98m 短径1.96m。 開口部は幅0.52m 高さ測定値無し。	東側に200号土坑と重複する。玄室内はコの字形の棺台座。左側・長さ1.86m幅74.0～80.0cm。中央部は長さ1.88m幅80.0cm。右側は長さ1.96m幅58.0～60.0cm。頭蓋骨３体検出。いづれも高さは測定値無し。主体部構造は地下式横穴墓。
16	１号地下式土坑	奈良	方形区画改葬墓	方台部長径(南北)6.94m 方台部短径(東西)6.68m	N－7°－W	長さ8.34m 幅0.72～1.10m 深さ8.0～40.0cm	長さ(8.52)m 幅0.82～0.92m 深さ15.0～24.0cm	長さ8.24m 幅0.79～0.9m 深さ5.5～19.8cm	長さ7.74m 幅0.88～0.95m 深さ8.5～26.5cm	羨道部は長径(東西)1.86m 短径(南北)1.48m 深さ76.0cm(最大)。玄門部は奥行き0.22m 幅1.00m、玄門部分～玄室床面の高さは9.0～9.5cm。玄室は長径(東西)1.66m 短径(南北)1.14m。玄室中央部は長径(南北)0.62m 短径(東西)0.52m 深さ東13.5cm 西19.0cm 南10.0cm 北20.0cm。玄室中央部主軸方位はN－11°－W。	２号方形周溝墓東・南側周溝、５号方形周溝墓西側周溝、35号竪穴、37・235号溝と重複する。入口部に３条の溝が存在するが、深さは測定値無し。玄室内天井部までの高さは測定値無し。
17	10号方形周溝墓	奈良	改葬系区画墓	方台部長径(南北)6.54m 方台部短径(東西)6.34m	N－12°－E	長さ7.04m 幅0.57～0.74m 深さ10.0～20.0cm	長さ8.34m 幅0.77～1.00m 深さ2.0～19.0cm	長さ7.12m 幅0.64～0.82m 深さ9.0～15.5cm	長さ7.70m 幅0.74～0.80m 深さ20.0～23.0cm		６号方形周溝墓南側周溝・68号竪穴を削平する。
18	無し	奈良	改葬系区画墓	方台部長径(南北)6.76m 方台部短径(東西)6.70m	N－51°－W	長さ7.42m 幅0.62～0.78m 深さ17.6～42.0cm	長さ7.85m 幅0.62～0.65m 深さ測定値無し	Ａ長さ5.77m 幅0.65～0.66m 深さ24.5cm	長さ7.73m 幅0.59～0.74m 深さ22.0～28.0cm		90・95号竪穴を削平する。南側周溝、開口。Ｂ長さ1.98m幅0.45～0.47m深さ20.1cm
19	無し	奈良	改葬系区画墓	方台部長径(南北)5.01m 方台部短径(東西)4.99m	N－14°－W	長さ5.56m 幅0.42～0.48m 深さ34.0～35.0cm	長さ5.76m 幅0.34～0.50m 深さ21.5～28.0cm	長さ5.55m 幅0.35～0.53m 深さ26.0～30.5cm	長さ5.95m 幅0.38～0.49m 深さ16.5～18.5cm		103号竪穴・240号溝と重複する。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模（ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
20	１号	久ヶ原	住居跡	長径6.54m 短径5.80m	Ｎ－16°－Ｗ	Ｐ１ 66cm　Ｐ２ 40cm　Ｐ３ 42cm　Ｐ４ 59cm Ｐ５ 42cm　Ｐ６ 32cm　Ｐ７ 34cm　Ｐ８ 8cm Ｐ９ 25cm　Ｐ10 19cm　Ｐ11・P12は測定値無し Ｐ13 24cm	炉 火床長軸Ｎ－25°－Ｅ 長径0.48m 短径0.28m 深さ５cm。	東　8.0cm 西　25.0cm 南　31.0cm 北　34.0cm	ほぼ全周。 深さ15～42cm。	233号溝と重複する。Ｐ１・３・４・５は主柱穴。
21	２号	古墳 終末期	住居跡	長径5.68m 短径3.56m	Ｎ－33°－Ｗ	Ｐ１ 20cm　Ｐ２ 15cm　Ｐ３ 19cm　Ｐ４ 20cm Ｐ５ 20cm　Ｐ６ 63cm　Ｐ７ 測定値無し Ｐ８ 50cm　Ｐ９ 44cm　Ｐ10 24cm　Ｐ11 22cm	カマド未検出	東　53.0cm 西　56.0cm 南　52.0cm 北　35.0cm	検出面では全周。 深さ６～12cm。	北壁に粘土散布、北カマド。Ｐ１・２・３主柱穴。
22	３号	不明	土坑	長径0.82m 短径0.68m	Ｎ－33°－Ｅ	無し		東　13.0cm 西　11.5cm 南　13.0cm 北　13.0cm		
23	８号	弥生	住居跡	残存長径6.40m 短径6.20m	Ｎ－７°－Ｅ	Ｐ１ 60cm　Ｐ２ 74cm　Ｐ３ 24cm　Ｐ４ 59cm Ｐ５ 35cm　Ｐ６ 60cm　Ｐ７ 34cm　Ｐ８ 30cm Ｐ９ 42cm　Ｐ10 20cm　Ｐ11 39cm　Ｐ12 測定値無し　Ｐ13 26cm	炉未検出	東　10.0cm 西　8.0cm 北　22.0cm	削平以外ほぼ全周。 深さ６～13cm。	１号方形周溝幕南側周溝・主体部を削平する。 Ｐ２～Ｐ５は主柱穴。
24	22号	不明	土坑	長径2.62m 短径1.92m	Ｎ－15°－Ｅ	無し		深さ　51.5cm		東側を25号竪穴、235号溝と重複する。
25	９号	奈良	住居跡	長径4.80m 短径4.40m	Ｎ－42°－Ｗ	Ｐ１ 53cm　Ｐ２ 62cm　Ｐ３ 58cm　Ｐ４ 30cm Ｐ５ 17cm　Ｐ６ 10cm　Ｐ７ 4cm	カマド北西壁。	東　6.0cm 西　7.0cm 南　23.0cm 北　28.0cm	削平以外ほぼ全周。 深さ６～９cm。	２号方形周溝北側周溝を削平し、24号土坑と接して存在する。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
26	７号	奈良	住居跡	長径4.78m 短径4.62m	Ｎ－40°－Ｗ	Ｐ１ 29cm　Ｐ２ 48cm　Ｐ３ 43cm　Ｐ４ 54cm Ｐ５ 18cm　Ｐ６ 8cm	カマド北西壁。	東　33.0cm 西　46.0cm 南　28.0cm 北　37.0cm	削平以外ほぼ全周。 深さ３～８cm。	１号方形周溝幕東側周溝を削平する。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 焼土は１ヵ所に検出され、厚さ２cmを測る。
27	21号	不明	土坑	長径1.77m 短径1.10m	Ｎ－43°－Ｅ	無し		東26.5cm 西27.7cm 南24.7cm 北31.2cm		
28	３号	久ヶ原	住居跡	残存長径4.15m 残存短径1.28m	－	Ｐ１ 11cm	炉・カマド未検出	西6.0cm	検出面では全周。 深さ４～10cm。	
29	４号	古代末	住居跡	残存長径3.38m 残存短径1.40m	－	無し	炉・カマド未検出	南　30.0cm	無し	
30	５号	久ヶ原	住居跡	残存長径5.55m 残存短径1.68m	－	Ｐ１ 46cm　Ｐ２ 18cm　Ｐ３ 51cm　Ｐ４ 25cm Ｐ５ 6cm　Ｐ６ 2cm　Ｐ７ 16cm	炉・カマド未検出	西　37.0cm 南　38.0cm	検出面では全周。 深さ６～10cm。	
31	12A号	宮ノ台	住居跡	長径(6.64)m 残存短径4.28m	Ｎ－40°－Ｅ	無し	炉・カマド未検出	東　22.0cm 南　18.0cm	削平以外残。 深さ９～14.5cm。	６号方形周溝幕北側周溝・244号Ｖ字溝と重複し、233号溝に削平される。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
31	12B号	宮ノ台	住居跡	長径7.00m 残存短径4.70m	N－41°－E	P1 62.5cm　P2 63cm　P3 47.5cm P4 64cm　P5 15cm　P6 16cm　P7 15cm P8 17.5cm　P9 12cm　P10 22cm　P11 13cm P12 30cm　P13 28.5cm	炉 火床長軸N－27°－E 残存長径0.65m 残存短径0.48m 深さ8.5cm。	東　1.0cm 西　6.0cm 南　1.0cm 北　測定値無し	削平以外残。 深さ10～17cm。	６号方形周溝墓北側周溝・244号溝と重複し、233号溝に削平される。 Ｐ１～Ｐ３は主柱穴。
32	24号	不明	土坑	残存長径1.83m 短径1.80m	N－18°－W	P1 46cm		深さ　50.4cm		北側を６号方形周溝墓北側周溝と削平する。
33	73号	久ヶ原	住居跡	残存長径5.15m 残存短径2.94m	－	P1 35.4cm　P2 32cm　P3 3.6cm	炉 火床長軸N－17°－E 長径0.84m　短径0.65m 深さ10.5cm。	東　4.5cm 南　3.4cm	深さ4.5～8.3cm。	233・234号溝・34号竪穴に削平され、東及び南側の一部が存在する。 炉内の１ヶ所から炭化物検出。
34	11号	古墳 終末期	住居跡	長径4.83m 短径4.60m	N－33°－W	P1 28cm　P2 22cm　P3 56cm　P4 45cm P5 40cm　P6 33cm　P7 29cm　P8 23cm P9 25cm	カマド北壁。	東　2.0cm 西　13.0cm 南　12.0cm 北　11.0cm	全周。 深さ７～13cm。	Ｐ２～Ｐ５は主柱穴。 焼土は１ヶ所に検出され、厚さ10cmを測る。
35	10号	奈良	住居跡	長径3.71m 短径3.28m	N－32°－W	無し	カマド北壁。	東　21.0cm 西　19.0cm 南　14.0cm 北　20.0cm	ほぼ全周。 深さ６～10cm。	16号方形区画改葬墓と重複する。
36	23号	鬼高5C	住居跡	長径3.62m 短径3.60m	N－26°－W	P1 21cm　P2 16.2cm　P3 46.9cm P4 59.1cm　P5 85.2cm	カマド北壁。	西　29.0cm 南　2.0cm 北　29.2cm	カマド付近から北東コーナーにかけて溝無し。 深さ6.3～13cm。	２号方形周溝南側周溝を削平し、16号方形区画改葬墓・235号溝に削平される。
37	無し	不明	溝	長さ4.00m 幅0.95～1.04m 深さ0.24cm	N－53°－W	無し				16号方形区画改葬墓と重複する。
38	23号	不明	土坑	長径1.05m 短径0.94m	N－5°－W	無し		深さ　49.5cm		２号方形周溝墓南側周溝と重複する。
39	５号	不明	土坑	長径1.18m 短径1.05m	N－47°－W	P1 15.9cm		東・西　測定値無し 南　27.7cm 北　23.4cm		
40	８号	不明	土坑	長径1.00m 残存短径0.88m	N－30°－E	無し		深さ　30.4cm		41号土坑と重複する。
41	９号	不明	土坑	長径0.99m 残存短径0.54m	N－15°－E	無し		深さ　38.4cm		40・42号土坑と重複する。
42	10号	不明	土坑	長径1.14m 短径1.04m	N－16°－E	無し		深さ　40.9cm		41・44号土坑と重複する。
43	16号	不明	土坑	長径0.93m 短径0.90m	N－15°－E	無し		深さ　19.7cm		

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
44	11号	不明	土坑	長径0.98m 残存短径0.58m	N－9°－E	無し		深さ　24.3cm		南側を42号土坑、北側を45号土坑と重複する。
45	12号	不明	土坑	長径0.92m 残存短径0.76m	N－84°－W	無し		深さ　21.7cm		南側を44号土坑と重複する。
46	14B号	不明	土坑	長径0.82m 残存短径0.57m	N－33°－W	無し		深さ　13.6cm		東側を47号土坑と重複する。
47	14A号	不明	土坑	長径0.97m 短径0.88m	N－63°－E	無し		深さ　31.1cm		西側を46号土坑と重複する。
48	14C号	不明	土坑	長径0.87m 短径0.83m	N－62°－E	無し		深さ　21.0cm		
49	6号	不明	土坑	長径0.94m 短径0.92m	N－62°－E	無し		深さ　25.2cm		
50	7号	不明	土坑	長径0.93m 短径0.88m	N－89°－E	無し		深さ　33.0cm		
51	17号	不明	土坑	長径1.85m 短径1.65m	N－30°－E	無し		深さ　38.5cm		
52	18号	不明	土坑	長径1.27m 短径(0.83)m	N－28°－E	無し		東　測定値無し 西　11.5cm 南　15.2cm 北　17.5cm		
53	6C号	不明	住居跡	残存長径3.30m 残存短径1.96m	－	P1 15cm　P2 37cm　P3 17cm　P4 16cm P5 16cm	炉・カマド未検出	西　7.0cm	無し	54号竪穴に削平される。
54	6A号	宮ノ台	住居跡	長径6.70m 残存短径4.70m	N－42°－W	P1 10cm	炉・カマド未検出	西　35.0cm 南　25.0cm 北　11.0cm	無し	53号竪穴を削平する。 焼土は３ヶ所に検出され、厚さ４～８cmを測る。
55	6B号	久ヶ原	住居跡	長径5.66m 残存短径4.33m	N－33°－W	P1 47cm　P2 測定値無し　P3 59cm P4 65cm　P5 21cm　P6 28cm　P7 28cm P8 43cm　P9 18cm　P10 67cm	炉 火床長軸N－31°－W 長径0.93m　短径0.60m 深さ11cm。	東　14.0cm 西　14.0cm 南　15.0cm 北　13.0cm	検出面では全周。 深さ７～14cm。	54号竪穴を削平する。 P１～P４は主柱穴。
56	24号	宮ノ台	住居跡	残存長径6.00m 残存短径6.02m	N－28°－E	P1 68cm　P2 60cm　P3 64cm　P4 53cm P5 30cm　P6 31cm　P7 11cm　P8 13cm P9 24cm　P10 24cm	炉 火床長軸N－51°－E 長径0.85m　短径0.65m 深さ11cm。	東　18.0cm 西　6.0cm 南　測定値無し 北　16.0cm	重複以外全周。 深さ８～31cm。	南側は５号方形周溝墓南側周溝と重複する。 P１～P４は主柱穴。 P11 15cm　P12 16cm　P13 10cm　P14 13cm P15 33cm　P16 20cm

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模（ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
57	13号	宮ノ台	住居跡	残存長径5.46m 短径(4.90)m	N－54°－W	P1 95cm　P2 66cm　P3 83cm　P4 58cm P5 41cm　P6 22cm　P7 39cm　P8 21cm P9 35cm　P10 59cm　P11 28cm　P12 46cm P13 50cm	炉 火床長軸N－52°－W 長径0.85m 短径0.65m 深さ11cm。	西　4.0cm 南　26.0cm 北　16.0cm	深さ８～14cm。	東側は５号方形周溝墓西側周溝と重複する。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 焼土は１ヶ所に検出され、厚さ８cmを測る。 炭化物１ヶ所に検出。南西の壁高セクションより読む。
58	14号	宮ノ台	住居跡	残存長径5.48m 短径6.45m	N－18°－W	P1 74cm　P2 36cm　P3 53cm　P4 100cm P5 94cm　P6 56cm　P7 88cm　P8 26cm	炉 火床長軸N－22°－W 長径0.85m 残存短径0.70m 深さ７cm。	東　9/0cm 西　15.0cm 北　13.0cm	深さ３～13cm。	235号溝に削平され５号方形周溝墓主体部と重複する。 Ｐ１・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ７は主柱穴。焼土は１ヵ所に検出され、厚さ８cmを測る。 推定長径7.1m。
59	15号	宮ノ台	住居跡	長径7.68m 残存短径3.25m	N－49°－W	P1 35cm　P2 65cm　P3 62cm　P4 75cm P5 39cm　P6 35cm　P7 15cm　P8 19cm P9 31cm　P10 18cm　P11 6cm　P12 12cm P13 20cm	炉 火床長軸N－69°－W 長径0.86m 短径0.63m 深さ８cm。	東　33.0cm 西　測定値なし 南　37.0cm 北　20.0cm	深さ７～18cm。	西側は５号方形周溝墓北側周溝と重複する。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 推定短径6.48m。
60	17号	古墳 終末期	住居跡	長径4.68m 短径3.58m	N－27°－W	無し	カマド北壁。	東　38.0cm 西　24.0cm 南　36.0cm 北　35.0cm	全周。 深さ５～10cm。	
61	16号	古墳 終末期	住居跡	長径3.68m 短径3.02m	N－23°－W	P1 11cm	カマド北壁。	東　27.0cm 西　54.0cm 南　47.0cm 北　50.0cm	全周。 深さ５～９cm。	
62	34号	宮ノ台	住居跡	長径5.70m 短径5.30m	N－15°－E	P1 65.7cm　P2 50.2cm　P3 23.7cm　P4 51cm	炉 火床長軸N－３°－E 長径1.00m 短径0.52m 深さ12cm。	東　18.5cm 西　22.7cm 南　17.0cm 北　14.2cm	削平以外全周。 深さ5.7～12.3cm。	７号方形周溝墓南側周溝・主体部と重複する。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
63	32号	久ヶ原	住居跡	残存長径3.25m 残存短径1.22m	－	P1 17cm	無し	西　30.0cm	無し	７号方形周溝墓東側周溝・８号方形周溝墓西側周溝と重複し、64号竪穴に削平される。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
64	33号	鬼高5C	住居跡	残存長径4.20m 残存短径1.92m	N－34°－W	P1 70cm	カマドと推定	西　17.0cm 南　32.0cm	調査区域に関しては全周。 深さ10～12cm。	８号方形周溝墓西側周溝・63号竪穴を削平する。
65	35号	奈良	住居跡	長径4.95m 短径4.93m	N－25°－W	P1 69cm　P2 52cm　P3 70cm　P4 35cm P5 11cm　P6 4cm　P7 20cm	カマド北壁。	東　25.0cm 西　17.0cm 南　22.0cm 北　7.0cm	東コーナーから西側にかけて、深さ６～12cm。	７号方形周溝墓東側周溝・８号方形周溝墓西側周溝を削平する。 焼土は４ヶ所に検出され、厚さ１～６cmを測る。 Ｐ１～Ｐ３は主柱穴。
66	31号	不明	土坑	長径1.52m 短径0.97m	N－69°－E	無し		東　28.0cm 西　28.0cm 南　26.0cm 北　27.0cm		
67	32号	不明	土坑	長径1.26m 短径0.75m	N－47°－W	無し		東　79.0cm 西　82.5cm 南・北　測定値無し		1/100の全体図より復元。
68	69A・B号	宮ノ台	住居跡	長径6.98m 短径6.00m	N－３°－W	P1 71cm　P2 78cm　P3 63cm　P4 52cm P5 51cm　P6 66cm　P7 57cm　P8 73cm P9 27cm　P10 測定値なし　P11 39cm	炉 火床長軸N－10°－W 長径0.90m 短径0.86m 深さ17cm。	東　15.0cm 西　2.0cm 南　3.0cm 北　13.0cm	削平以外全周。 深さ１～12cm。	17号改葬系区画墓に削平される。 Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４～Ｐ８は主柱穴。
69	70号	奈良	住居跡	長径4.24m 短径4.13m	N－32°－W	P1 23cm　P2 40cm　P3 56cm　P4 52cm	カマド北壁。	東　39.0cm 西　29.0cm 南　28.0cm 北　27.0cm	削平以外全周。 深さ７～13cm。	234号溝に削平される。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 焼土は２ヶ所に検出され、厚さ５～６cmを測る。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
70	25号	奈良	住居跡	長径4.24m 短径4.12m	N－23°－W	P1 9cm　P2 9cm　P3 9cm　P4 4cm　P5 9cm	カマド北壁。	東　32.0cm 西　29.0cm 南　33.0cm 北　36.0cm	削平以外全周。 深さ４～９cm。	
71	66号	奈良	住居跡	長径4.73m 短径4.62m	N－29°－W	P1 16cm　P2 32cm　P3 47cm　P4 36cm P5 30cm	カマド北西壁。	東　24.0cm 西　26.0cm 南　23.0cm 北　22.0cm	削平以外全周。 深さ５～11cm。	５号方形周溝墓東側周溝を削平し、236号溝に削平される。 Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴。
72	20号	宮ノ台	住居跡	残存長径5.60m 短径5.22m	N－58°－W	P1 45cm　P2 45cm　P3 42cm　P4 23cm P5 27cm　P6 23cm　P7 12cm　P8 10cm	炉 火床長軸N－25°－W 残長径0.50m 短径0.43m 深さ23cm。	東　25.0cm 西　32.0cm 南　測定値無し 北　28.0cm	削平以外全周。 深さ７～11cm。	235号溝に削平される。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 推定長径5.60m。
73	2号	不明	土坑	長径1.22m 短径0.79m	N－5°－E	無し		深さ　37.0cm		
74	18号	宮ノ台	住居跡	長径5.90m 短径5.48m	N－17°－E	P1 73cm　P2 72cm　P3 42cm　P4 71cm P5 24cm	炉 火床長軸N－20°－E 長径0.95m 短径0.47m 深さ８cm。	東　16.0cm 西　17.0cm 南　18.0cm 北　15.0cm	南西～東にかけて検出。 深さ７～13cm。	Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
75	19号	奈良	住居跡	長径5.00m 短径4.90m	N－27°－W	P1 54cm　P2 55cm　P3 67cm　P4 62cm	カマド北壁。	東　35.5cm 西　38.0cm 南　33.0cm 北　32.5cm	削平以外ほぼ全周。 深さ4.2～13.7cm。	９号方形周溝墓東側・北側周溝を削平し、237号溝と重複する。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
76	22号	鬼高5C	住居跡	長径3.84m 短径3.05m	N－70°－E	P1 38cm　P2 23cm　P3 50cm　P4 11cm	カマド東壁。	東　16.0cm 西　測定値無し 南　21.0cm 北　41.0cm	深さ６～11cm。	77号竪穴を削平し、西側は236号溝に削平される。 貝ブロック１ヶ所検出。 45×35cmの厚さ24cmを測る。 推定短径3.78m。
77	21号	宮ノ台	住居跡	長径6.60m 残存短径3.44m	N－39°－W	P1 25cm　P2 73cm　P3 32cm　P4 22cm P5 70cm　P6 28cm　P7 54cm　P8 41cm P9 30cm　P10 47cm　P11 52cm P12 11cm　P13 22cm　P14 53cm	炉 火床長軸N－62°－W 残長径0.20m 残存短径 0.50m 深さ測定値無し。	東　3.0cm 西　測定値無し 南　21.0cm 北　19.0cm	深さ８～18cm。	西側は76号竪穴に削平される。 推定短径5.60m。
78	無し	不明	土坑	長径1.01m 短径0.93m	N－20°－W	無し		深さ　38.5cm		
79	37号	古墳 終末期	住居跡	長径5.26m 短径4.72m	N－27°－W	P1 75cm　P2 60.5cm　P3 76cm　P4 65cm P5 31cm	カマド北壁。	東　39.0cm 西　36.0cm 南　41.0cm 北　21.0cm	削平以外全周。 深さ５～8.5cm。	９号方形周溝墓東側周溝を削平し238号溝と重複する。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 焼土は３ヶ所に検出され、厚さ２～15.5cmを測る。 Ｐ３付近に炭化物散乱。
80	37A号	不明	土坑	長径2.81m 短径1.03m	N－67°－W	無し		深さ　75.0cm		235号溝に削平される。
81	37B号	不明	土坑	長径3.30m 短径0.91m	N－60°－W	無し		深さ　233号溝床面から33.5cm		235号溝に削平される。
82	72号	久ヶ原	住居跡	長径4.16m 短径4.02m	N－31°－W	P1 78cm　P2 40cm　P3 46cm　P4 55cm P5 19cm　P6 11cm　P7 7cm　P8 18cm P9 19.5cm　P10 13.5cm　P11 9cm P12 1cm　P13 7.5cm　P14 9cm	炉 火床長軸N－23°－W 長径0.47m 短径0.50m 深さ3.7cm。	東　16.5cm 西　12.0cm 南　15.0cm 北　9.0cm	無し	83号土坑に削平される。 Ｐ15 15cm　Ｐ16 11.5cm　Ｐ17 29cm　Ｐ18 8.9cm Ｐ19 21.2cm　Ｐ20 118cm　Ｐ21 67cm　Ｐ22 22.5cm Ｐ23 11cm　Ｐ24 9cm　Ｐ25 10cm

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
83	1号	不明	土坑	長径0.94m 短径0.69m	N－61°－W	無し		東　35.5cm 西　37.5cm 南　37.5cm 北　38.0cm		82号竪穴を削平する。
84	36号	宮ノ台	住居跡	長径7.62m 短径6.58m	N－16°－E	P1 39.5cm　P2 48cm　P3 69.5cm P4 62cm　P5 33.5cm　P6 36cm　P7 23cm P8 41cm　P9 43cm　P10 39.5cm	炉 火床長軸N－12°－E 長径0.56m 短径0.36m 深さ2cm。	東　39.5cm 西　26.5cm 南　35.0cm 北　37.5cm	全周。 深さ6～10cm。	P1～P4は主柱穴。 P11 28cm　P12 15.5cm　P13 39cm　P14 25.5cm P15 39cm　P16 33cm　P17 21cm　P18 12cm　P19 6cm
85	110号	不明	土坑	長径1.14m 短径0.86m	N－34°－E	無し		深さ　26.5cm		
86	33号	不明	土坑	長径0.82m 短径0.79m	N－24°－W	無し		深さ　22.0cm		
87	34号	不明	土坑	長径1.20m 短径1.03m	N－16°－W	無し		深さ　25.5cm		
88	無し	不明	土坑	長径1.24m 短径1.22m	N－2°－E	無し		深さ　32.0cm		
89	35号	不明	土坑	長径2.00m 短径1.55m	N－78°－W	無し		深さ　44.5cm		南側に11号方形周溝墓北側周溝を削平する。
90	29号	古墳 終末期	住居跡	長径6.86m 短径6.62m	N－16°－W	P1 27cm　P2 53cm　P3 60cm　P4 47.5cm	カマド北壁。	東　23.5cm 西　13.5cm 南　10.5cm 北　14.0cm	削平以外全周。 深さ4～11cm。	18号改葬系区画墓・236号溝に削平される。 刀子出土（P2付近）。
91	28号	鬼高5C	住居跡	長径4.84m 短径4.64m	N－83°－E	P1 61.5cm　P2 44cm　P3 49cm P4 48.5cm　P5 31.5cm	カマド東壁。	東　20.0cm 西　8.5cm 南　24.5cm 北　20.0cm	深さ2～9.5cm。	東側は92号竪穴・234号溝に削平される。 P1～P4は主柱穴。 焼土は3ヶ所に検出され、厚さ5～8.5cmを測る。
92	27号	古墳 終末期	住居跡	長径4.88m 短径4.74m	N－9°－W	P1 57cm　P2 44.5cm　P3 54.5cm P4 43.5cm　P5 10cm　P6 2cm　P7 6cm P8 32cm	カマド北壁。	東　35.0cm 西　13.3cm 南　32.5cm 北　30.5cm	削平以外全周。 深さ3.5～13cm。	西側は91号竪穴を削平する。 P1～P4は主柱穴。 粘土は1ヶ所に検出され、厚さ8.5cmを測る。
93	26号	奈良	住居跡	長径4.76m 短径4.70m	N－22°－W	P1 55cm　P2 56.5cm　P3 61.5cm P4 62.5cm　P5 4cm	カマド北壁。	東　42.0cm 西　21.0cm 南　40.5cm 北　38.0cm	深さ5～10cm。	10号方形周溝墓西側周溝を削平する。 P1～P4は主柱穴。
94	31号	和泉	住居跡	長径4.94m 短径4.90m	N－7°－W	P1 64.5cm　P2 69.5cm　P3 62.5cm P4 72.5cm　P5 40.5cm	カマド北壁。	東　26.0cm 西　21.5cm 南　25.0cm 北　26.0cm	削平以外全周。 深さ4.5～10cm。	10号方形周溝墓南側周溝を削平する。 P1～P4は主柱穴。 カマドの詳細図無し。
95	30号	宮ノ台	住居跡	長径6.84m 短径6.30m	N－13°－W	P1 24cm　P2 58.7cm　P3 45.5cm P4 65cm　P5 66cm　P6 50cm　P7 41.5cm P8 39cm　P9 66.5cm　P10 11cm	炉 火床長軸N－20°－E 長径0.80m 短径0.58m 深さ18cm。	東　26.5cm 西　10.5cm 南　25.8cm 北　15.2cm	削平以外全周。 深さ3.2～12.8cm。	18号改葬系区画墓・234号溝に削平される。 P1～P4は主柱穴。 炭化物2ヵ所に検出。 P11 68.1cm　P12 19.5cm　P13 45cm

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
96	42号	宮ノ台	住居跡	長径6.30m 短径5.74m	N－34°－E	P1 78cm　P2 66cm　P3 64cm　P4 61.5cm P5 35cm　P6 13cm　P7 23cm　P8 51cm	無し	東　18.0cm 西　18.5cm 南　24.5cm 北　4.0cm	無し	238号溝に削平される。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 Ｐ９～Ｐ36は深さ４～17cm。
97	38号	宮ノ台	住居跡	長径7.94m 短径7.24m	N－25°－W	P1 51cm　P2 74cm　P3 16cm　P4 40cm P5 69cm　P6 51cm　P7 65cm　P8 7cm P9 13cm　P10 6cm	炉 火床長軸N－15°－W 長径1.00m　短径0.56m 深さ５cm。	東　49.0cm 西　36.0cm 南　46.0cm 北　34.0cm	全周。 深さ８～19cm。	Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴。 焼土は２ヶ所に検出され、厚さ10cmを測る。 P11 22cm　P12 47cm　P13 11cm　P14 16cm　P15 3cm P16 7cm　P17 5cm　P18 28cm
98	71号	奈良	住居跡	長径(4.86)m 短径(4.76)m	N－18°－W	P1 49.5cm　P2 46cm　P3 44.0cm　P4 45.8cm	カマド残骸あり	東　1.8cm 南　1.5cm 北　0.5cm	東側のみ残存。 深さ１～8.3cm。	238号を削平する。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
99	43号	和泉	住居跡	長径5.50m 短径5.36m	N－61°－E	P1 54cm　P2 48cm　P3 59cm　P4 45.5cm P5 29cm　P6 48cm　P7 13.5cm　P8 14.5cm	カマド北東壁。	東　29.0cm 西　13.5cm 南　20.0cm 北　22.5cm	南西を除き全周。 深さ8.5～13cm。	234号溝に削平される。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 焼土は３ヶ所に検出され、厚さ7.5～10cmを測る。 炭化物２ヶ所に検出。
100	44号	古墳 終末期	住居跡	長径6.32m 短径5.26m	N－17°－W	P1 50cm　P2 47cm　P3 47cm　P4 47.5cm P5 55cm	カマド北壁。	東　28.5cm 西　測定値無し 南　20.5cm 北　29.0cm	無し	234・246号溝に削平される。 平面図がない為全体図より測定値を出す。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
101	41号	和泉	住居跡	長径4.16m 短径3.98m	N－71°－E	P1 62cm　P2 47cm　P3 20cm　P4 61cm P5 40cm　P6 28cm	カマド東壁。	東　45.0cm 西　38.0cm 南　40.0cm 北　38.0cm	削平以外全周。 深さ3.5～11cm。	13号方形周溝墓西側周溝を削平し、239号溝と重複する。 焼土は１ヶ所に検出され、厚さ6.5cmを測る。 粘土は１ヶ所に検出され、厚さ８cmを測る。 炭化物６ヶ所に検出。 Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴。 Ｐ６貯蔵穴。
102	40号	奈良	住居跡	長径5.35m 短径5.22m	N－3°－W	P1 51cm　P2 52.5cm　P3 46.5cm P4 43.5cm　P5 13.5cm　P6 17.5cm P7 12.5cm	カマド北壁。	東　30.0cm 西　30.0cm 南　31.0cm 北　22.0cm	ほぼ全周。 深さ0.5～10cm。	Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 貝ブロック１ヶ所に検出され、深さ20cmを測る。
103	39号	奈良	住居跡	長径5.75m 短径5.44m	N－13°－W	P1 60cm　P2 62.5cm　P3 38cm　P4 51cm P5 48.5cm　P6 64cm　P7 24.8cm P8 21.5cm　P9 46cm　P10 36.5cm	カマド北壁。	東　32.0cm 西　29.0cm 南　29.5cm 北　27.0cm	削平以外全周。 深さ12.2～15.5cm。	13号方形周溝墓東側周溝を削平し、19号改葬系区画墓と重複し236号溝に削平される。 Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５は主柱穴。
104	13号	鬼高Ｃ	横溝 木棺墓	長径2.40m 短径0.97m	N－41°－W	無し		深さ　40.9cm		全体の規模は長径2.43m短径2.06m、テラス部は長径2.06m短径0.46m、深さ61.4cm。 溝A6.5cm溝B3.0cm溝C4.7cm。
105	38号	不明	土坑	長径1.30m 短径0.83m	N－33°－W	無し		深さ　34.5cm		
106	63号	古墳 終末期	住居跡	長径2.76m 短径2.72m	N－7°－W	P1 22cm	カマド北壁。	東　49.0cm 西　45.5cm 南　50.0cm 北　48.0cm	削平以外全周。 深さ８～10cm。	241号溝と重複する。
107	53号	弥生	住居跡	残存長径2.00m 残存短径0.86m	不明	P1 41cm　P2 5.9cm　P3 16.6cm	カマド？ 火床長軸N－73°－W 長径0.62m　短径0.30m 深さ1.6cm。	西　11.8cm 東・南・北　測定値無し	無し	234号溝に削平される。 焼土１ヶ所に検出され、厚さ1.6cmを測る。 主軸方位は北壁より。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
108	46号	奈良	住居跡	長径5.62m 短径5.58m	N－35°－W	P1 43.7cm　P2 54.2cm　P3 53.5cm P4 57.2cm　P5 69cm　P6 55.5cm P7 41cm	カマド北西壁。	東　25.5cm 西　17.7cm 南　24.3cm 北　22.8cm	削平以外全周。 深さ2.8～9.5cm。	246号溝に削平される。 Ｐ１・Ｐ３～Ｐ５は主柱穴。
109	47号	奈良	住居跡	長径4.30m 短径4.18m	N－22°－W	P1 36.5cm　P2 38cm　P3 16.5cm P4 39.5cm　P5 25.8cm　P6 47cm P7 21.5cm　P8 66.5cm	カマド北西壁。	東　19.0cm 西　19.5cm 南　18.0cm 北　測定値無し	削平以外全周。 深さ４～8.8cm。	244号溝を削平し、234号に削平される。 新旧逆調査の為カマド付近の壁不明。 Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ６は主柱穴。
110	40号	不明	土坑	長径2.10m 短径0.85m	N－63°－E	無し		東　25.0cm 西　29.0cm 南　29.5cm 北　29.0cm		
111	49A号	鬼高5C	住居跡	長径7.48m 短径7.46m	N－9°－W	P1 61.6cm　P2 58cm　P3 60.5cm P4 41.5cm　P5 44cm　P6 26cm　P7 13cm P8 15.5cm	カマド 火床長軸N－3°－E 長径0.52m 短径0.49m 深さ3.8cm。	東　39.5cm 西　40.5cm 南　40.0cm 北　44.0cm	南西コーナーから時計回りに東中央部まで存在。 深さ2.5～10cm。	114・115号竪穴を削平し112号土坑・113号竪穴、234・240号溝に削平される。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 焼土は３ヶ所に検出され、厚さ9.2～10.2cmを測る。 粘土は２ヶ所に検出され、厚さ7.7cmを測る。
112	111号	不明	土坑	長径1.27m 短径0.83m	N－75°－E	無し		深さ　46.7cm		111号竪穴を削平する。 深さは111号竪穴の床面より。
113	50号	奈良	住居跡	長径5.04m 短径4.78m	N－25°－W	P1 26.3cm　P2 46.5cm　P3 60cm P4 44.7cm　P5 4.5cm　P6 5.5cm	カマド北壁。	東　37.5cm 西　5.7cm 南　39.0cm 北　33.7cm	削平以外ほぼ全周。 深さ3.5～18cm。	111号竪穴を削平し、234号溝に削平される。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。 焼土10ヶ所に検出され、厚さ4.2～17.5cmを測る。 炭化物６ヶ所に検出。
114	48号	久ヶ原	住居跡	残存長径3.70m 残存短径2.20m	N－19°－W	P1 55cm	炉 火床長軸N－24°－W 残存長径0.48m 残存短径0.30m	西　33.0cm 南　33.5cm 北　31.5cm	削平以外全周。 深さ5.5～12.5cm。	東側は111・115号竪穴に削平される。 焼土は１ヶ所に検出され、厚さ９cmを測る。 カマドが壊されている。
115	49B号	五領	住居跡	残存長径4.44m 残存短径0.48m	－	無し	無し	北　37.0cm	無し	114号竪穴を削平し111号竪穴及び240号溝に削平される。
116	14号	縄文	フラスコ状ピット	本体 長径1.52m 短径1.38m	N－18°－E			南　112.5cm 北　109.0cm 東・西　測定値無し		開口部の長径1.24m。フラスコ状ピット。14号方形周溝墓北側周溝に削平される。
117	55号	和泉	住居跡	長径3.77m 短径3.55m	N－83°－E	無し	炉 火床長軸N－124°－E 長径0.70m 短径0.47m 深さ0.5cm。	東　32.5cm 西　44.5cm 南　44.5cm 北　45.0cm	削平以外ほぼ全周。 深さ3.0～5.5cm。	234号溝に削平される。 焼土１ヵ所に検出され、厚さ7.5cmを測る。 粘土１ヶ所に検出され、厚さ13cmを測る。
118	51号	奈良	住居跡	長径4.15m 短径4.14m	N－16°－W	P1 42cm　P2 35.8cm	カマド北壁。	東　24.5cm 西　18.6cm 南　22.7cm 北　24.5cm	削平以外全周。 深さ5.7～10.2cm。	北西コーナーは119号竪穴を削平する。
119	52B号	五領	住居跡	長径4.34m 短径3.70m	N－54°－W	P1 22.9cm	炉 火床長軸N－34°－W 長径0.48m 短径0.34m 深さ5.1cm。	西　33.8cm 南　31.5cm 北　13.8cm	無し	118号竪穴に削平され、120号を削平する。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
120	52A号	五領	住居跡	残存長径3.48m 残存短径1.37m	－	P1 14.9cm	炉 火床長軸N－80°－W 長径0.46m 短径0.32m 深さ5.6cm。	東41.0cm 北13.8cm	無し	119号竪穴に削平される。
121	5号4	久ヶ原	住居跡	長径5.12m 短径4.74m	N－35°－W	P1 47cm　P2 45cm　P3 38cm　P4 33cm P5 41cm　P6 21.5cm	炉 火床長軸N－14°－W 長径0.76m 短径0.56m 深さ6cm。	東　40.5cm 西　42.5cm 南　44.5cm 北　47.0cm	無し	242号溝に削平される。 P1～P3・P5は主柱穴。 焼土2ヶ所に検出され、厚さ9.5～10cmを測る。 炭化物1ヶ所に検出。
122	60号	和泉	住居跡	長径4.18m 短径3.82m	N－28°－W	P1 19.5cm　P2 16cm　P3 17.2cm P4 18.2cm　P5 26.8cm　P6 48.5cm P7 42.5cm　P8 14.3cm　P9 25.8cm P10 18.7cm	カマド北壁。	東　22.0cm 西　14.3cm 南　15.0cm 北　21.0cm	削平以外全周。 深さ2.4～5.5cm。	14号方形周溝墓西側周溝を削平する。 P1～P4は主柱穴。
123	61号	五領	住居跡	長径3.90m 短径3.70m	N－16°－W	P1 15cm　P2 37cm　P3 12cm　P4 40.5cm	炉 火床長軸N－24°－W 長径0.62m 短径0.44m 深さ0cm。	東　12.0cm 西　11.0cm 南　13.0cm 北　14.0cm	全周。 深さ2～7cm。	焼土は1ヶ所に検出され、厚さ12cmを測る。
124	43号	不明	土坑	長径1.47m 短径1.29m	N－62°－E	無し		深さ　62.5cm		
125	56号	奈良	住居跡	長径4.86m 短径4.84m	N－16°－E	P1 62cm　P2 62cm　P3 65.5cm P4 55.5cm　P5 25cm　P6 25cm　P7 43cm P8 17cm　P9 35cm　P10 26cm　P11 22cm	カマド北壁。	東　27.5cm 西　25.0cm 南　26.0cm 北　26.0cm	削平以外全周。 深さ3.5～13cm。	14号方形周溝墓北側周溝を削平する。 P1～P4は主柱穴。 粘土1ヶ所に検出され、厚さ10.5cmを測る。
126	57号	古墳 終末期	住居跡	長径5.08m 短径4.90m	N－12°－W	P1 23.8cm　P2 11.8cm　P3 42.7cm P4 46.4cm　P5 29.5cm　P6 56.5cm	カマド北壁。	東　27.0cm 西　20.7cm 南　24.7cm 北　24.8cm	削平以外全周。 深さ3～6.7cm。	14号方形周溝墓東・南側周溝、127号竪穴と重複する。 P2～P5は主柱穴。
127	58A号	古墳 終末期	住居跡	長径3.80m 短径3.54m	N－7°－W	P1 25.5cm　P2 27cm　P3 13.2cm P4 49.1cm　P5 108.5cm　P6 20cm	カマド北壁。	東　12.5cm 西　13.0cm 南　8.3cm 北　10.5cm	削平以外全周。 深さ8.7～12.2cm。	126号竪穴と重複する。 P1・P2・P4・P5は主柱穴。
128	58B号	不明	住居跡	長径(3.70)m 残存短径0.80m	－	無し	無し	測定値無し	測定値無し	127号竪穴に削平される。
129	59号	奈良	住居跡	長径5.05m 短径4.60m	N－47°－W	P1 45.5cm　P2 63cm　P3 75.5cm P4 61cm　P5 26cm　P6 21cm	カマド北西壁。	東　33.0cm 西　26.0cm 南　31.5cm 北　28.0cm	削平以外全周。 深さ5～14cm。	14号方形周溝墓南側周溝を削平する。 P1～P4は主柱穴。
130	42号	不明	土坑	長径2.40m 短径1.72m	N－20°－E	無し		東　75.8cm 西　58.2cm 南　68.6cm 北　76.4cm		
131	74号	古墳 終末期	住居跡	長径(3.60)m 短径3.50m	N－38°－W	P1 17cm　P2 59.8cm	カマド北西壁。	東　11.2cm 西　5.7cm 南　4.2cm 北　7.0cm	削平以外ほぼ全周。 深さ0.8～9.7cm。	132号地下式土壙に削平される。
132	2号	不明	地下式 土壙	玄室 長径2.54m 短径1.55m	N－34°－E			深さ　116.6cm		開口部の長径1.85m短径1.52m。 131号竪穴を削平する。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
133	119号	不明	土坑	長径0.92m 短径0.70m	N－54°－E	無し		深さ　52.6cm		西側を131号竪穴と重複する。
134	45号	古墳 終末期	住居跡	長径3.90m 残存短径1.80m	N－111°－E	P1 49.2cm　P2 56.9cm　P3 7.5cm P4 23cm　P5 9.1cm　P6 7.9cm	カマド東壁。	東　18.0cm 北　11.0cm	無し	139号溝に削平される。
135	89B号	不明	土坑	長径1.63m 短径0.80m	N－22°－E	無し		深さ　26.5cm		西側を136号土坑と重複する。
136	89A号	不明	土坑	長径2.40m 短径1.30m	N－58°－W	無し		東　13.6cm 西　13.2cm 北　10.5cm 南　測定値無し		東側を135号土坑と重複する。
137	93B号	不明	土坑	残存長径1.08m 短径0.61m	N－25°－E	無し		深さ　23.6cm		北側を138号土坑と重複する。
138	93A号	不明	土坑	長径1.26m 短径0.72m	N－25°－E	P1 18.8cm		深さ　59.0cm		南側を137号土坑と重複する。
139	無し	不明	溝	長さ16.00m 幅0.66～0.94m	N－38°－E			深さ　13.1～33.0cm		134号竪穴・244号溝を削平し、141～145号土坑と重複する。
140	96号	不明	土坑	残存長径1.38m 短径1.30m	N－23°－E	無し		深さ　52.6cm		東側を247号溝と重複する。
141	95号	不明	土坑	長径1.22m 短径(1.10)m	N－65°－W	無し		深さ　26.4cm		139号溝と重複する。
142	121号	不明	土坑	残存長径1.02m 残存短径0.54m	N－28°－E	無し		深さ　33.0cm		139号溝、143・144号土坑と重複する。
143	120号	不明	土坑	長径0.90m 短径(0.80)m	N－2°－W	無し		深さ　19.6cm		142号土坑と重複する。
144	84A号	不明	土坑	長径1.30m 短径0.85m	N－85°－W	無し		深さ　71.8cm		西～南側を139号溝・142号土坑、南側を244号溝と重複する。
145	84B号	不明	土坑	残存長径0.65m 残存短径0.63m	N－52°－E	無し		深さ　13.6cm		北～西側を139・244号溝と重複する。 残存する長軸方位で測定。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
146	10号	不明	地下式土壙	本体 長径(1.88)m 短径1.17m	N－16°－E （開口部）			深さ　測定値無し		開口部の長径1.33m短径1.20m。 南側を147号土坑と重複する。 1/200の全体図より復元。
147	108号	不明	土坑	長径1.88m 短径1.70m	N－71°－W	無し		深さ　1.05m		146・148号土坑と重複する。
148	107号	不明	土坑	長径1.68m 残存短径1.15m	N－33°－E	無し		東・西　測定値無し 南　25.5cm 北　33.2cm		西側を147号土坑、東側を151・152号土坑と重複する。
149	100号	不明	土坑	長径1.82m 短径1.32m	N－62°－W	無し		深さ　18.5cm		
150	80B号	不明	土坑	長径1.22m 短径1.16m	N－26°－E	無し		深さ　23.2cm		151・152号土坑と重複する。
151	80A号	不明	土坑	長径3.30m 短径2.55m	N－59°－W	無し		深さ　46.4cm		150・152号土坑と重複する。
152	80C号	不明	土坑	長径1.06m 短径0.48m	N－65°－W	無し		深さ　19.5cm		148・150・151号土坑と重複する。
153	79号	不明	土坑	長径2.88m 短径1.86m	N－78°－E	無し		深さ　50.3cm		
154	85F号	不明	土坑	長径1.96m 短径1.78m	N－25°－E	P1 14.8cm　P2 39.3cm　P3 2.6cm		深さ　43.2cm		157号土坑と重複する。
155	85B号	不明	土坑	長径1.17m 短径1.00m	N－24°－E	P1 35cm　P2 32cm　P3 17.7cm		深さ　17.7cm		東側を157号土坑と重複する。
156	85A号	不明	土坑	長径1.50m 短径1.16m	N－36°－E	無し		深さ　28.0cm		北側を157号土坑と重複する。
157	85C号	不明	土坑	長径(2.25)m 残存短径1.64m	N－26°－E	無し		深さ　41.0cm		西～南側を154・155・156号土坑と重複する。
158	85D号	不明	土坑	長径0.95m 短径0.88m	N－16°－E	無し		深さ　27.6cm		

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
159	85E号	不明	土坑	長径1.43m 短径1.27m	N－31°－E	P1 17.4cm		東　31.0cm 西　28.3cm 南　20.3cm 北　26.4cm		
160	87号	不明	土坑	長径1.47m 短径1.42m	N－44°－E	無し		深さ　37.8cm		
161	117号	不明	土坑	長径1.15m 短径0.93m	N－54°－W	無し		深さ　38.5cm		
162	116号	不明	土坑	長径1.43m 短径1.06m	N－54°－E	P1 16cm　P2 17.2cm　P3 10.8cm		深さ　12.7cm		
163	77号	不明	土坑	長径1.52m 短径1.48m	N－50°－E	無し		深さ　49.4cm		北側を245号溝、西～南側を247号溝と重複する。
164	76B号	不明	土坑	長径(1.50)m 残存短径1.40m	N－60°－W	無し		深さ　63.9cm		南側を165号土坑と重複する。
165	76A号	不明	土坑	長径1.84m 残存短径1.83m	N－61°－W	無し		深さ　55.2cm		北側を164号土坑と重複する。
166	78号	不明	土坑	長径1.94m 短径1.20m	N－63°－W	P1 25.1cm　P2 31cm		深さ　21.4cm		
167	75号	不明	土坑	長径2.27m 短径1.40m	N－37°－E	無し		深さ　67.0cm		
168	74号	不明	土坑	長径1.38m 短径1.20m	N－1°－E	無し		深さ　26.6cm		
169	9・109号	不明	地下式土壙	玄室長径1.61m 短径1.50m	N－47°－W （本体）	無し		東　94.1cm 西　83.5cm 南　61.9cm 北　72.8cm		前庭部の長径1.80m短径0.56m。 玄室の深さは前庭部より36.5cm下がる。 天井部の残存している所から深さ1.40m。 248号溝と重複する。
170	44A号	不明	土坑	長径2.15m 短径1.22m	N－64°－W	無し		東　48.5cm 西　39.7cm 南　44.9cm 北　70.5cm		
171	44B号	不明	土坑	長径1.40m 短径0.68m	N－43°－E	無し		東　22.8cm 西　4.1cm 南　5.0cm 北　20.9cm		

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
172	62号	古墳 終末期	住居跡	長径(4.06)m 短径3.02m	N－49°－W	P1 39cm　P2 48.5cm　P3 27.7cm P4 62cm　P5 57.8cm	カマド西壁。	東　9.0cm 西　測定値無し 南　18.2cm 北　1.5cm	削平以外全周。 深さ8.0～10.0cm。	174号土坑に削平される。
173	1号	不明	土坑	長径3.46m 残存短径1.62m	N－57°－W	P1 13.8cm　P2 16.8cm　P3 12.6cm P4 38.8cm		西　13.8cm 北　13.2cm 東・南　測定値無し		175号木棺墓に削平される。 調査所見に竪穴状遺構とある。
174	46号	不明	土坑	長径2.15m 残存短径1.78m	N－57°－W	P1 44.5cm　P2 39.5cm　P3 33.4cm		東　41.7cm 西　16.8cm 南　27.7cm 北　13.0cm		東側は172号竪穴を削平し、南側を175号木棺墓と重複する。
175	47号	古墳 終末期	木棺墓	長径2.92m 短径1.18m	N－81°－W	無し		東　55.8cm 西　30.3cm 南　測定値無し 北　43.3cm		西側を173号土坑、北側を174号土坑と重複する。 溝A4.6～6.0cm　溝B2.1～2.5cm　溝C0.3～2.0cm
176	52C号	不明	土坑	長径0.63m 短径0.60m	N－55°－W	無し		深さ　53.2cm		
177	52B号	不明	土坑	長径0.66m 残存短径0.63m	N－39°－E	無し		東　6.4cm 西　21.6cm 南　18.0cm 北　19.1cm		
178	52A号	不明	土坑	長径1.35m 短径1.00m	N－47°－W	P1 21.5cm		東　17.7cm 西　11.2cm 南　8.6cm 北　15.4cm		
179	49B号	不明	土坑	残存長径1.58m 短径1.50m	N－28°－E	P1 35.5cm　P2 59.4cm　P3 41cm		深さ　22.0cm		南側を180号土坑と重複する。
180	49A号	不明	土坑	長径1.65m 短径1.32m	N－36°－E	P1 20.2cm　P2 33cm		深さ　22.0cm		北側を179号土坑、南側を183号土坑と重複する。
181	51A号	不明	土坑	長径2.16m 短径1.60m	N－57°－W	無し		深さ　51.3cm		北側を182号土坑、南～西側を183・184号土坑と重複する。
182	51C号	不明	土坑	残存長径1.36m 残存短径1.00m	N－59°－W	無し		深さ　12.8cm		西～南側を181号土坑と重複する。
183	50号	不明	土坑	長径1.20m 短径1.17m	N－37°－E	P1 24.3cm		深さ　37.3cm		北側を180号土坑、南側を181・184号土坑と重複する。
184	51B号	不明	土坑	残存長径1.34m 残存短径0.80m	N－56°－W	無し		深さ　38.8cm		北～東側を181・183号土坑と重複する。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
185	12号	不明	フラスコ状ピット	本体 長径1.55m 短径1.30m	N－62°－W	無し		東　64.7cm 西　61.8cm 南　67.8cm 北　66.1cm		開口部の長径1.41ｍ短径1.12m。 地下式土壙として調査される。
186	53D号	不明	土坑	長径1.29m 短径1.24m	N－47°－W	無し		深さ　31.4cm		
187	53A号	不明	土坑	長径1.30m 短径1.24m	N－57°－W	無し		深さ　23.1cm		東側を188号土坑と接する。
188	54A号	不明	土坑	本体 長径1.66m 短径0.90m	N－56°－W	無し		深さ　55.8cm		開口部の長径1.66ｍ短径0.69m。 西側を187号土坑と接する。
189	54B号	不明	土坑	長径(2.23)m 残存短径1.06m	N－65°－W	P1 13.9cm　P2 28.2cm　P3 29.1cm P4 32.7cm　P5 45.8cm　P6 31.7cm P7 12.4cm		深さ　26.8cm		南側を190・191号土坑と重複する。 土坑に直接伴わないピット有り。
190	58A号	不明	土坑	長径1.60m 残存短径1.00m	N－34°－E	P1 65.8cm		深さ　34.8cm		北側を189号土坑、東～南側を191・195号土坑と重複する。
191	58B号	不明	土坑	長径1.56m 短径1.15m	N－31°－E	無し		東　87.4cm 西　31.3cm 南　20.4cm 北　60.5cm		北～南側を189・190・195・196号土坑、東側を192号土坑と重複する。
192	60号	不明	土坑	長径0.84m 短径0.78m	N－67°－W	無し		深さ　42.7cm		西側を191号土坑と重複する。
193	54C号	不明	土坑	長径1.57m 短径1.14m	N－33°－E	P1 56.5cm　P2 61.6cm　P3 37.9cm		東　41.0cm 西　33.1cm 南　40.8cm 北　34.6cm		
194	56号	不明	土坑	長径1.01m 短径0.95m	N－35°－E	無し		深さ　12.9cm		
195	58C号	不明	土坑	長径1.47m 短径1.24m	N－56°－W	無し		深さ　50.0cm		北～東側を190・191・196号土坑、南側を197号地下式土壙・199号土坑と重複する。
196	3号	不明	地下式土壙	玄室 長径1.25m 短径0.95m	N－55°－W	無し		深さ 玄室内最大 136.0cm 前庭部　86.0cm		前庭部の長径1.30ｍ短径1.12m。 玄門部の長径0.30ｍ短径0.12m。 北～西側を191・195号土坑と重複する。 主軸方位は前庭部と玄室を通るライン。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
197	4号	不明	地下式土壙	玄室 長径1.53m 短径1.45m	N－58°－W			玄室部 東　125.0cm 西　43.4cm 南　126.0cm 北　122.4cm		前庭部の長径1.10m短径1.00m。 玄門部の長径0.78m短径0.15～0.33m。 前庭部の深さ77.7cm。 開口部の深さは7.2cm（前庭部より7.2cm高い）。 壁高は玄室より。195・199号土坑と重複する。
198	113号	不明	土坑	長径0.78m 短径0.76m	N－51°－W	P1 43.3cm		深さ　24.2cm		東側を199号土坑と重複する。
199	61号	不明	土坑	長径1.94m 短径1.03m	N－34°－E	無し		深さ　32.5cm		197号地下式土壙、北～西側を198・201号土坑と重複する。
200	101号	不明	土坑	長径4.98m 短径2.33m	N－50°－W	P1 91.7cm　P2 27.7cm		東　21.2cm 西　24.8cm 南　28.8cm 北　測定値無し		15号地下式横穴墓（方墳）と重複する。
201	62号	不明	土坑	長径1.95m 短径1.05m	N－27°－E	P1 42.2cm		深さ　22.1cm		東側を199号土坑、西～南側を202・205号土坑と重複する。
202	64号	不明	土坑	長径1.70m 短径1.10m	N－41°－E	無し		深さ　45.7cm		東～南側を201・204・205号土坑と重複する。
203	63号	不明	土坑	長径1.06m 短径0.85m	N－23°－W	P1 19.5cm		深さ　20.3cm		
204	65A号	不明	土坑	残存長径1.42m 短径1.20m	N－16°－W	無し		深さ　22.0cm		北～東側を200・202・205号土坑、南側を206号と重複する。
205	65B号	不明	土坑	残存長径0.86m 残存短径0.64m	N－10°－E	無し		深さ　9.5cm		北～西側を201・202・204号土坑、南側を207号地下式土壙と重複する。
206	65C号	不明	土坑	長径0.90m 残存短径0.76m	N－47°－W	無し		深さ　34.4cm		北側を204号土坑、南側を208号土坑と重複する。
207	5号	不明	地下式土壙	本体 長径1.51m 短径1.45m	N－31°－E			東　63.0cm 西　63.2cm 南　61.0cm 北　61.4cm		開口部は長径1.35m短径1.17m。 北側を205号土坑と重複する。フラスコ状ピット。
208	66号	不明	土坑	残存長径0.83m 残存短径0.48m	N－44°－E	無し		深さ　41.2cm		北側を206号土坑と重複する。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
209	67号	不明	土坑	長径1.15m 残存短径0.86m	N－33°－E	無し		東　44.3cm 西　29.4cm 南　38.5cm		
210	８号	不明	地下式 土壙	玄室 長径(1.02)m 短径(0.50)m	N－20°－E （前庭部）	無し		東　94.1cm 西　83.5cm 南　61.9cm 北　72.8cm		前庭部は長径0.90m短径0.82m。 前庭部の深さ86.0cm(最大)。 玄室内の深さは前庭部より29.5cm下がる。 玄室の主軸方位N－62°－W。
211	無し	不明	土坑	残存長径1.34m 短径0.96m	N－20°－E	無し		深さ　11.1cm		南側を212号土坑と重複する。
212	無し	不明	土坑	長径1.04m 短径0.93m	N－67°－W	無し		深さ　43.5cm		北側を211号土坑と重複する。
213	70A号	不明	土坑	長径1.04m 短径0.98m	N－80°－E	無し		深さ　10.5cm		
214	70B号	不明	土坑	長径0.94m 短径0.90m	N－60°－E	無し		深さ　11.4cm		
215	68A号	不明	土坑	長径1.65m 残存短径1.22m	N－41°－E	無し		東　53.3cm 西　18.8cm 北　42.6cm		
216	68B号	不明	土坑	長径1.50m 残存短径1.05m	N－40°－E	無し		東　54.0cm 西　24.2cm 南　40.0cm		
217	64号	奈良	住居跡	長径4.20m 短径4.17m	N－22°－W	P1 38.5cm　P2 46cm　P3 38.7cm P4 46cm　P5 14.5cm	カマド北壁。	東　12.0cm 西　6.9cm 南　1.7cm 北　1.0cm	削平以外全周。 深さ8.0cm。	218号竪穴を削平する。
218	65号	古墳 終末期	住居跡	長径5.82m 短径5.76m	N－43°－W	P1 57.4cm　P2 55.9cm　P3 49.1cm P4 40.5cm　P5 46.4cm　P6 44.7cm P7 59cm　P8 65.8cm　P9 60.5cm P10 55.3cm　P11 52.8cm　P12 51.5cm	カマド北西壁。	東　測定値無し 西　1.5cm 南　10.5cm 北　9.3cm	削平以外全周。 深さ測定値無し。	217号竪穴に削平される。 現場の図面には上場のみ記入されているが測定値は上・下場が記されている。 エレベーション・セクション図無し。 P13 11cm　P14 21.5cm。
219	67号	古墳 終末期	住居跡	長径5.58m 残存短径4.75m	N－36°－W	P1 51.8cm　P2 60cm　P3 55cm　P4 64.7cm	カマド北西壁。	東　調査区域外 西　2.8cm 南　7.3cm 北　2.0cm	調査区域以外ほぼ全周。 深さ5.0～9.7cm。	東側は調査区域外。 Ｐ１～Ｐ４は主柱穴。
220	68号	鬼高5C	住居跡	長径4.26m 残存短径1.32m	N－31°－E	P1 53.6cm　P2 51.5cm　P3 52cm P4 36.8cm　P5 67cm　P6 9.9cm	カマド北壁。	北　29.6cm	深さ2.9～7.5cm。	北側を除き、ほとんどが249号溝に削平される。
221	６号	不明	地下式 土壙	本体 長径1.40m 短径1.15m	N－48°－W （本体）	無し		深さ　測定値無し		開口部は長径1.02m短径0.58m。 開口部の主軸方位N－42°－W。 側壁抉り込み土坑。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
222	105号	不明	土坑	長径2.35m 短径1.33m	N－53°－W	無し		深さ　不明		
223	104号	不明	土坑	本体 長径1.70m 短径1.42m	N－28°－E	無し		深さ　不明		開口部は長径1.48ｍ短径1.08m。
224	114号	不明	土坑	長径3.35m 短径2.50m	N－44°－W	不明		深さ　32.0㎝		1/200の全体図より復元。
225	無し	不明	溝	残存長8.80m 幅0.90～1.40m	N－42°－E			深さ　9.5～29.0㎝		
226	106号	不明	溝	残存長25.80m 幅1.56～4.90m	N－56°－W			深さ　14.3～80.0㎝		230号土坑を削平し、231・232号溝に削平される。
227	92号	不明	土坑	残存長径2.66m 短径1.30m	N－60°－W	無し		東　34.7㎝ 西　調査区域外 南　21.6㎝ 北　48.6㎝		
228	91号	不明	土坑	長径1.34m 短径1.06m	N－44°－W	無し		東　33.7㎝ 西　24.5㎝ 南　36.5㎝ 北　56.7㎝		
229	90号	不明	土坑	長径3.20m 短径1.67m	N－40°－E	無し		東　26.3㎝ 西　14.1㎝ 南　4.5㎝ 北　37.9㎝		226号溝と重複する。
230	118号	不明	土坑	残存長径1.55m 短径1.34m	N－41°－E	無し		深さ　28.7㎝		西～南側、266号溝に削平される。
231	無し	不明	溝	残存長24.60m 幅0.30～0.70m	N－62°－W			深さ　13.5～73.9㎝		
232	無し	不明	溝	残存長1.80m 幅0.32～0.46m	N－60°－W			深さ　35.2㎝		
233	４号	不明	溝	残存長51.50m 幅2.50～4.42m	N－27°－E			深さ　5.0～19.0㎝		２号方形周溝墓西・南側周溝、20・31・33号竪穴を削平する。
234	２号	奈良	溝	長さ97.50m 幅0.66～1.72m	N－41°－W			深さ　9.0～49.5㎝		重複するすべての遺構を削平して存在する。 旧８号溝と同一とする。 総延長148.30ｍで163号土坑付近で90°に折れる。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （　）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
234	８号	奈良	溝	長さ50.80m 幅0.88～2.68m	N－48°－E			深さ　7.5～55.0cm		旧２号溝と同一とする。 総延長148.30ｍで163号土坑付近で90°に折れる。
235	１号	奈良	溝	長さ58.20m 幅2.16～3.00m	N－55°－W			深さ　22.0～49.0cm		２・５・９号方形周溝墓東・西側周溝、５号方形周溝墓主体部、36・58・72号竪穴を削平し、238号溝と重複する。 16号方形区画改葬墓・233号溝と重複する。
236	３号	奈良	溝	長さ34.50m 幅1.14～1.80m	N－37°－E			深さ　27.0～56.5cm		90号竪穴を削平し、234号溝と重複する。 旧５号溝と同一とする。 総延長123.40ｍで71号竪穴付近で90°に折れる。
236	５号	奈良	溝	長さ88.90m 幅0.82～1.34m	N－56°－W			深さ　5.0～36.5cm		10・13号方形周溝墓東、北側周溝、36号溝、76・117号竪穴を削平し、71・103号竪穴、238・234号溝と重複する。
237	無し	不明	溝	長さ8.50m 幅0.84～1.08m	N－57°－W			深さ　7.5～11.0cm		75・79号竪穴と重複する。
238	６号	不明	溝	長さ65.30m 幅0.90～3.50m	N－29°－E			深さ　6.8～48.5cm		８号大型方形周溝墓南側周溝、９号方形周溝墓東側周溝、12号方形周溝墓東側周溝、79・96・98号竪穴、234・235・236号溝を削平する。
239	13号	不明	溝	長さ8.40m 幅0.31～0.48m	N－58°－W			深さ　17.5～23.0cm		101号竪穴と重複する。
240	無し	不明	溝	長さ22.50m 幅0.60～1.25m	N－29°－W			深さ　6.0～39.5cm		13号方形周溝墓南・北側周溝、19号改葬系区画墓・111・115号竪穴、236号溝に削平される。
241	７号	奈良	溝	長さ15.80m 幅0.99～1.20m	N－43°－E			深さ　16.0～23.5cm		106号竪穴を削平する。
242	９号	奈良	溝	長さ29.00m 幅0.51～0.93m	N－39°－W			深さ　12.0～20.5cm		121号竪穴を削平し、243号溝と重複する。 方位は243号溝に接する方向の溝で測定。
243	無し	不明	溝	長さ9.60m 幅1.43～1.57m	N－45°－W			深さ　測定値無し		242号溝と重複する。 詳細は1/200の全体図のみ。 規模等については全体図より測定。
244	無し	弥生	環濠	長さ121.30m 幅0.50～1.58m	測定不可能			深さ　14.4～86.5cm		109号竪穴、139・234・236・246号溝に削平され、31号竪穴、144・145号土坑、245・247号溝と重複する。 113号竪穴手前で途切れる。Ｖ字溝として調査される。

新遺構No.	旧遺構No.	時期	性格	規模 （ ）は推定	主軸	ピット（深さ）	火床施設	壁高	周溝	備考
245	無し	不明	溝	長さ28.70m 幅0.76～1.50m	N－62°－W			深さ　測定値無し		100号竪穴・163号土坑・244号溝と重複する。
246	10号	奈良	溝	長さ25.50m 幅0.60～0.91m	N－70°－W			深さ　20.5～38.0cm		99・100・108号竪穴を削平し、234号溝と重複する。
247	無し	不明	溝	長さ40.00m 幅0.37～1.30m	N－69°－W			深さ　12.2～51.5cm		140・163号土坑、244号溝と重複する。
248	無し	不明	溝	長さ19.50m 幅2.24～3.26m	N－29°－E			深さ　17.5～48.0cm		169号地下式土壙・222号土坑・226号溝と重複する。
249	無し	不明	溝	長さ18.40m 幅0.56～1.70m	N－48°－W			深さ　2.4～9.9cm		
250	無し	不明	溝	長さ17.26m 幅0.90～1.47m	N－54°－W			深さ　7.5～9.1cm		
251	無し	不明	溝	長さ15.00m 幅0.90～1.60m	N－51°－W			深さ　18.0cm		221号地下式土壙と重複する。 詳細は1/200の全体図のみ。 規模等については全体図より測定。
252	無し	不明	溝	長さ6.60m 幅0.50～0.72m	N－86°－E			深さ　7.5～9.1cm		253号溝と重複する。
253	無し	不明	溝	長さ10.30m 幅0.59～1.03m	N－40°－E			深さ　26.5～28.0cm		252号溝と重複する。

Ⅱ　遺構と遺物

１号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号２号方形周溝墓。遺構は調査区北端部に位置し、西・南側周溝および主体部は23号竪穴と重複し、東側周溝は26号竪穴に削平される四隅開口形の方形周溝墓である。

方台部東西方向の長径は8.84m、南北方向の短径8.56mを測り、主軸方位はＮ－47°－Ｅを示す。東側周溝は、残存長3.72m幅0.98～1.16m、深さ21.2～22.2cmを計り、26号竪穴に削平される。西側周溝は長さ6.19m幅0.90～1.50m、深さ15.0～34.5cmを測り、先端部に２号土坑として調査され、周溝内土壙と想定される落ち込みが検出されている。南側周溝は、長さ6.76m幅0.91～1.49m、深さ15.5～37.5cm、北側周溝は、長さ6.43m幅1.02～1.26m、深さ29.5～39.0cmを測る。

埋葬施設

本遺構からは埋葬施設と思われる墓壙が２基検出された。一つは本遺構本来の埋葬施設と思われる中央墓壙であり、もう一つは北側周溝先端部に検出された周溝内土壙である。

本祉本来の墓壙は方台部中央に存在し、本遺構の主体的な埋葬施設である。長径3.04m短径1.36m、深さ最大23.5cmを計り、主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。底面は平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

西側周溝内墓壙は、長径2.18m短径1.04m、深さ最大32.5cmを計り、主軸方位はＮ－38°－Ｅを示す。底面は平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

遺物

本遺構からは16点397ｇの土器片が出土した。土器片の内訳は10点166ｇの土師器、２点92ｇの須恵器、３点28ｇの弥生土器、１点111ｇの中世陶器であり、これらの出土遺物の内２点を図示した。１・２とも弥生甕口縁部であるが、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

２号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号５号方形周溝墓。１号方形周溝墓南側溝と本遺構北側溝が重複し、25号・36号竪穴に削平される四隅開口形の方形周溝墓である。

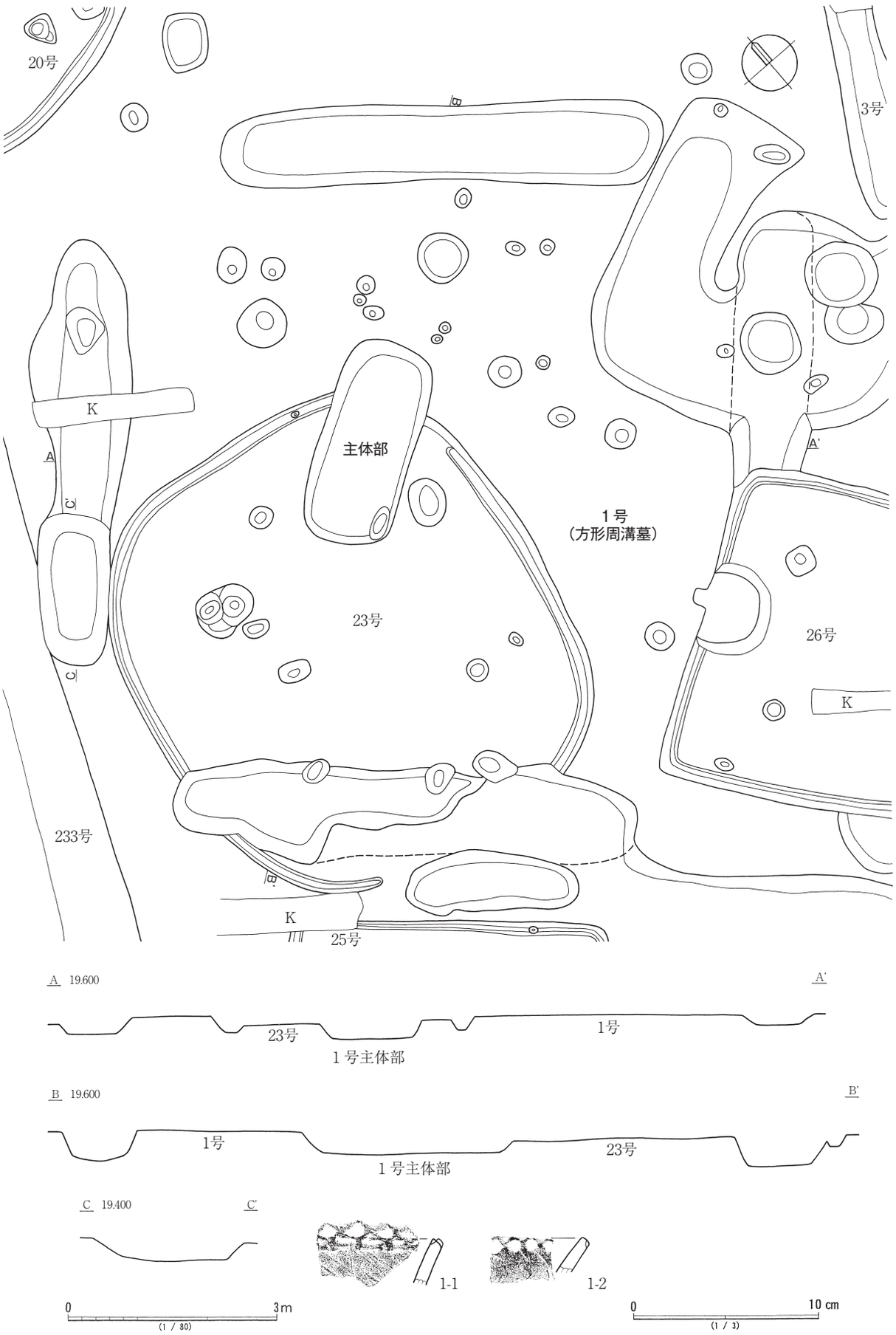
方台部南北方向の長径は11.70m、東西方向の短径11.00mを測り、主軸方位はＮ－37°－Ｅを示す。東側周溝は、残存長4.54m幅0.92～1.06m、深さ30.0～42.0cmを測り、36号竪穴に削平される。西側周溝は長さ9.30m幅0.90～1.30m、深さ18.2～38.0cmを測り、233号溝に上端を削平される。南側周溝は、残存6.30m幅0.72～1.08m、深さ20.0～28.3cmを測り、両端部を233号溝と16号方形区画改葬墓に削平される。北側周溝は、残存長6.58m幅1.45～1.95m、深さ25～41.5cmを測り、25号竪穴に削平される。

埋葬施設

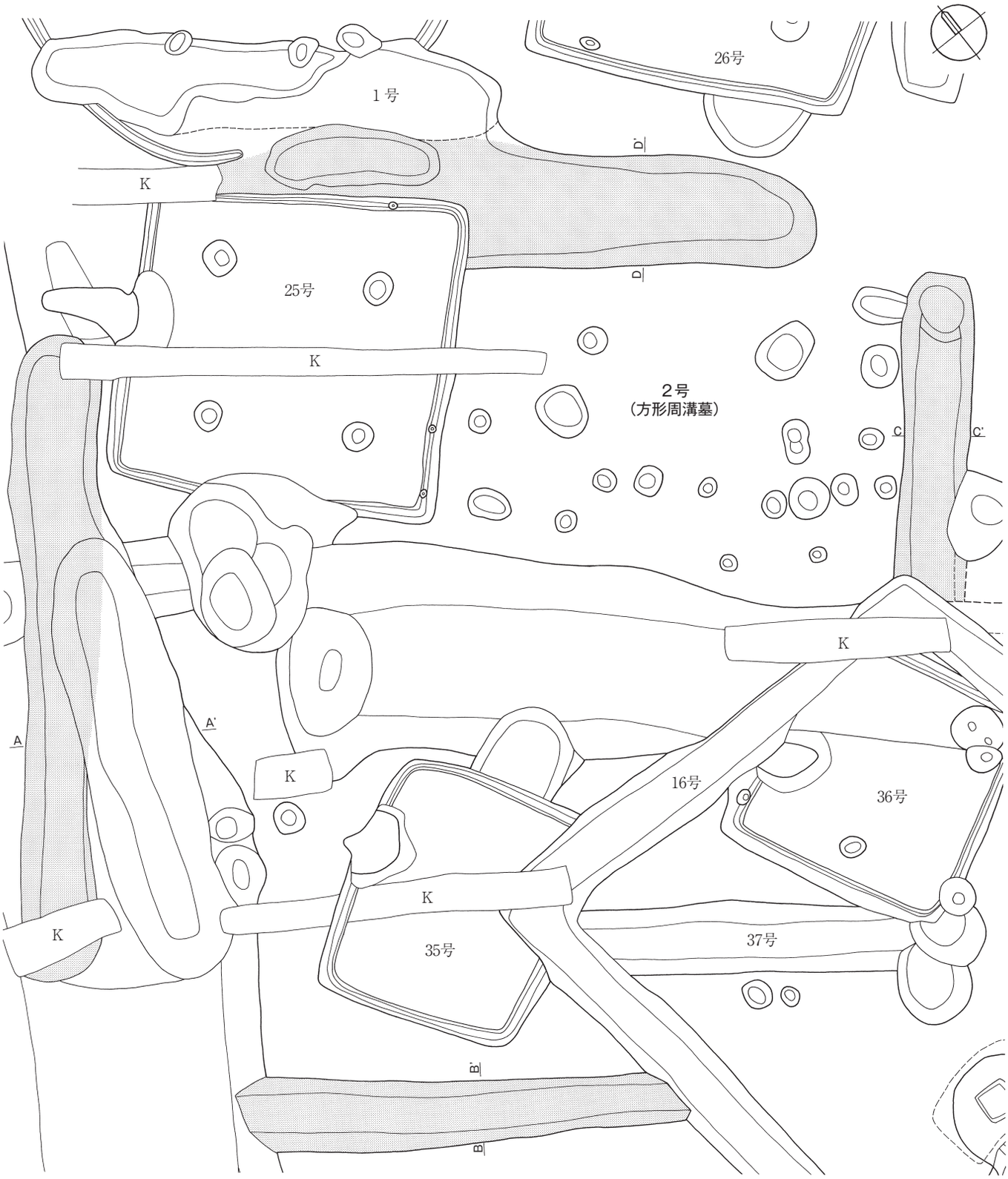
本遺構方台部中央を235号溝が削平しており、本祉からは埋葬施設と思われる墓壙は検出されなかった。

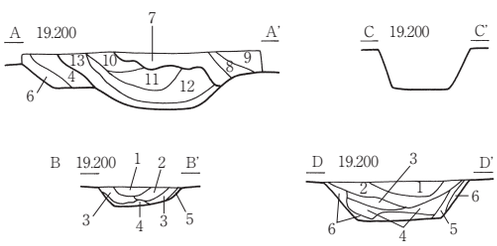
遺物

本墳からは113点1,673ｇの土器片と、１点125ｇの磨石を検出した。土器片の内訳は、９点235ｇの



第７図　１号遺構実測図・１号遺構出土遺物実測図





2号遺構

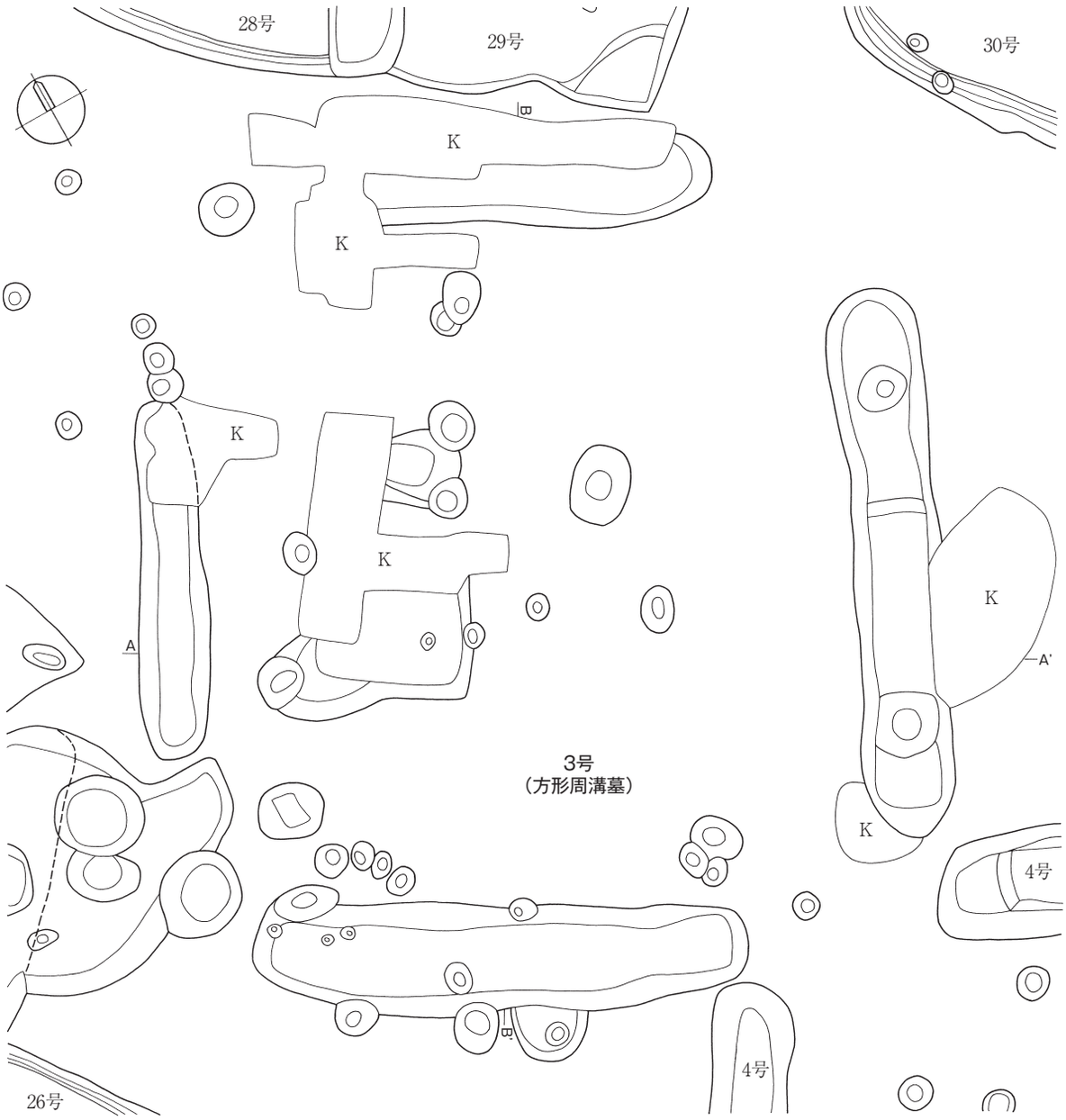
1	黒褐色土	有機質土主体。
2	暗褐色土	ローム粒若干含む。
3	暗褐色土	ローム粒霜降り状に含む。
4	褐色土	ローム粒霜降り状に多量に含む。
5	褐色土	ローム粒小多量に混入。
6	明褐色土	ロームブロック・ローム粒多量に混入。

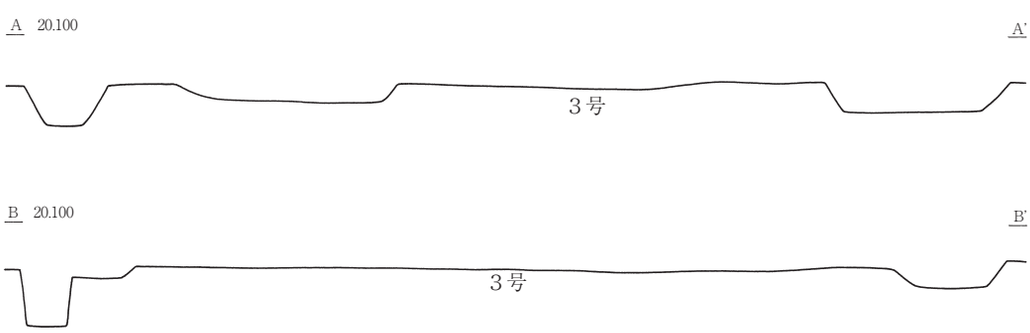
溝状遺構

7	暗褐色土	ローム粒小混入。
8	暗褐色土	ローム粒霜降り状に含む。
9	褐色土	ローム粒霜降り状に多量に含む。
10	暗褐色土	ローム粒霜降り状に含む。
11	褐色土	ローム粒霜降り状に多量に含む。
12	褐色土	ローム粒小混入。
13	暗褐色土	ローム粒霜降り状に含む。

0 3m
(1 / 80)

第８図　２号遺構実測図


28号
29号
30号
B
K
K
K
K
K
A
A'
3号
（方形周溝墓）
4号
4号
26号
B'


A 20.100
A'
3号
B 20.100
B'
3号

0
3m
(1 / 80)

第９図　３号遺構実測図

土師器、３点48ｇの須恵器、96点1,252ｇの弥生土器、５点138ｇ縄文土器である。この内13点を図示した。なお、出土土器の大半は、後期弥生土器である。本遺構出土遺物の全ては、いずれも一括で取上げられたものであり、周溝覆土中なのか方台部内なのかを判定すべく出土地点を明示するものはない。ただし、須恵器高台付き坏は、８世紀前半代の所産であり、時期的に17号方形区画改葬墓に伴う可能性が高い。

３号遺構（方形周溝墓）

昭和５年度調査時遺構番号13号方形周溝墓。１号方形周溝墓の東に位置する四隅開口形の方形周溝墓である。方台部南北方向の長径は8.16m、東西方向の短径7.70m、主軸方位はＮ－28°－Ｅを示す。東側周溝は長さ6.55m幅0.95～1.14m、深さ26.5～38.1㎝を測り、西側周溝は長さ4.25m幅0.72～0.86m、深さ16.4～39.9㎝を測る。南側周溝は長さ5.92m幅0.93～1.30m深さ14.2～35.8㎝を測り、北側周溝は長さ4.14m幅0.94m深さ13.1㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

４号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号３号方形周溝墓。３号方形周溝墓の南側に存在し、５号方形周溝墓と59号竪穴が東側周溝と重複する四隅開口形の方形周溝墓である。

東西周溝間の方台部内径9.4mを測り、主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。東側周溝は残存長6.76m幅0.96～1.14m深さは18.0～38.0㎝を計る。西側周溝は残存長7.74m幅0.83～1.10m深さ21.0～46.0㎝を測る。南側周溝は５号方形周溝墓に削平されて存在しない。北側周溝は長さ5.74m幅1.05～1.34mを測るが、深さの記載がない。

埋葬施設

本遺構からは埋葬施設と思われる墓壙が２基検出された。一つは本遺構本来の埋葬施設と思われる中央墓壙であり、もう一つは北側周溝内に検出された周溝内土壙である。

本祉本来の墓壙は方台部中央に存在し、本遺構の主体的な埋葬施設である。長径1.90m短径1.43m、深さは27.5～30.5㎝を測り、主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であるが、本墓壙内からは遺物が全く検出されなかった。

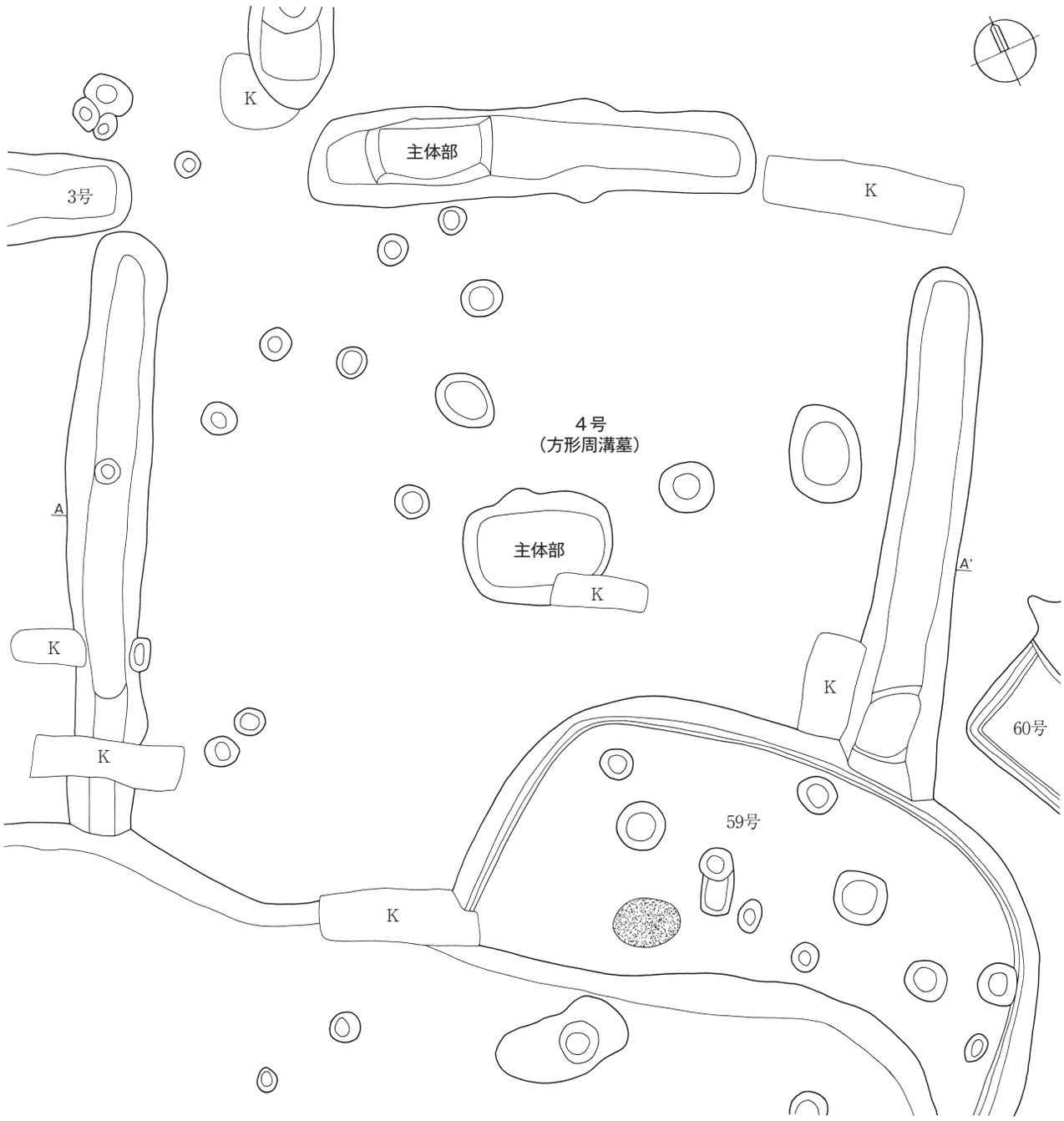
北側周溝内土壙は、19号土坑として調査された。長径1.60m短径0.86mを計るが、深さの測定値はない。主軸方位はＮ－69°－Ｗを示し、記録写真からは底面ほぼ周溝底から10㎝程掘り下がった比較的確りした墓壙として捉えられる。

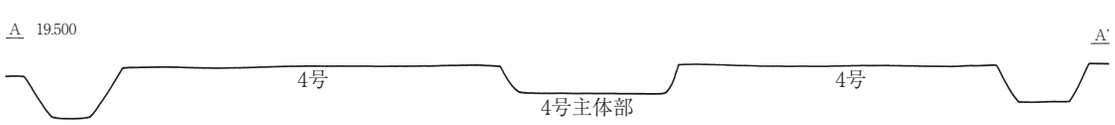
遺物

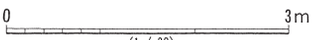
本遺構からは72点974ｇの土器片と１点330ｇの磨石・叩き石が出土した。土器片の内訳は18点250ｇの土師器、49点585ｇの弥生土器、４点132ｇの縄文土器、１点７ｇの近世陶器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。12は沈線による重四角文を文様とする弥生時代中期後半の壺型土器であるが、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

５号遺構（方形周溝墓）

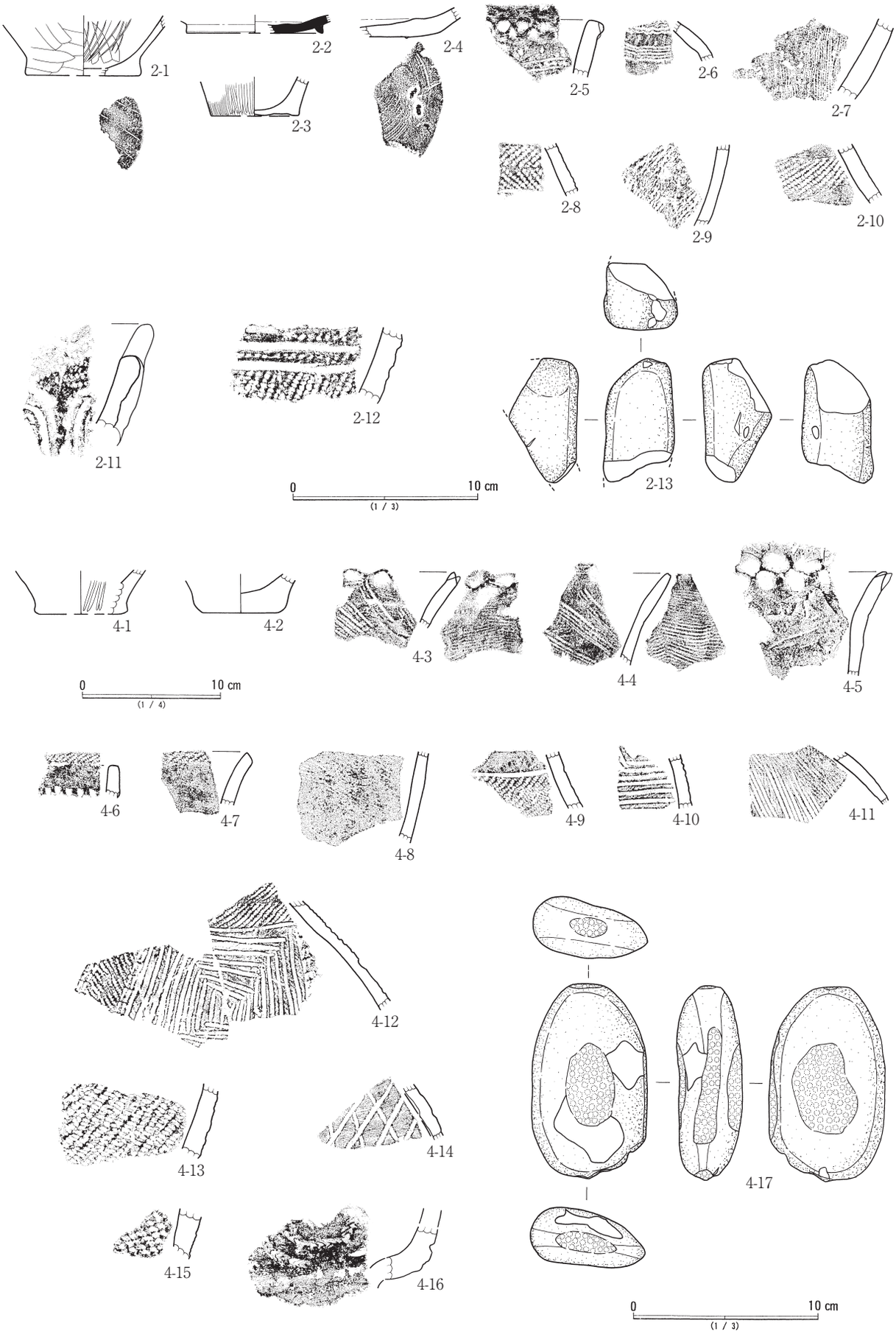
昭和54年度調査時遺構番号１号方形周溝墓。４号方形周溝墓西側周溝と56・59号竪穴とが重複し、71号竪穴に削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓である。



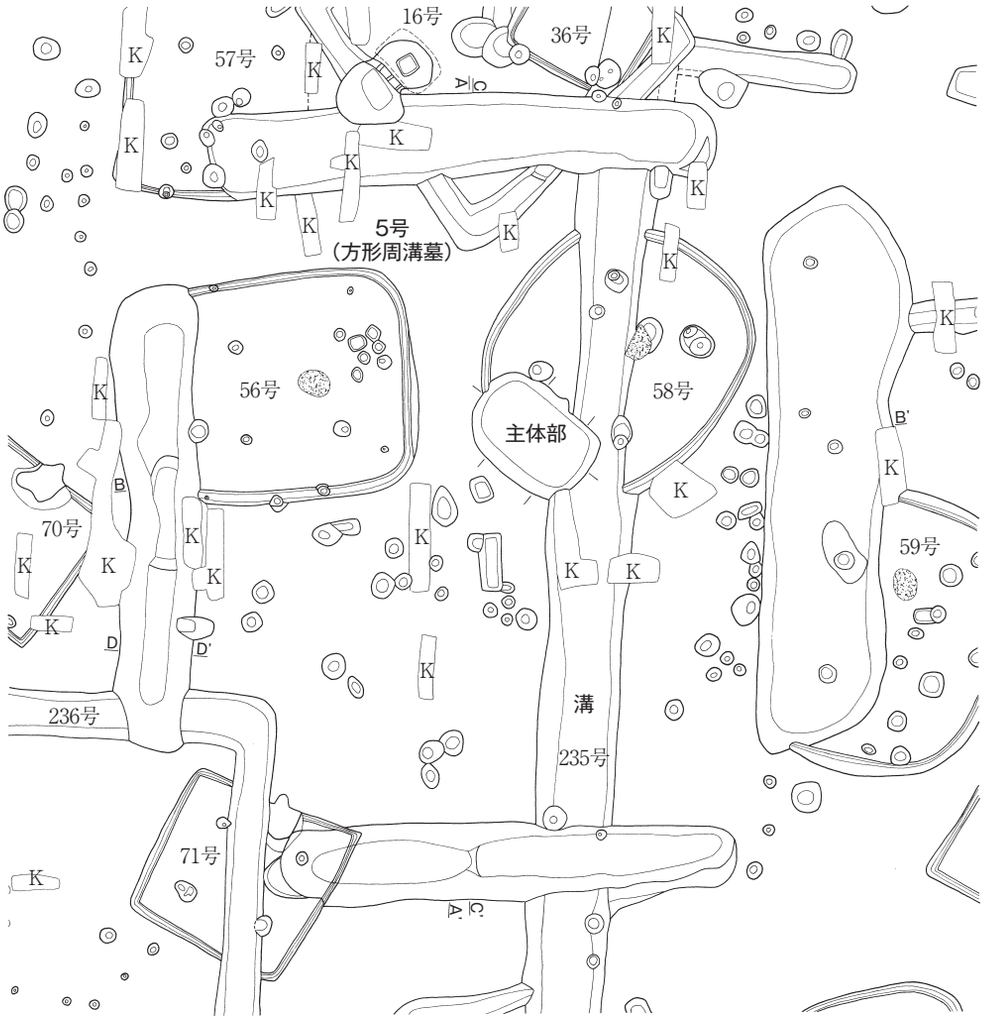


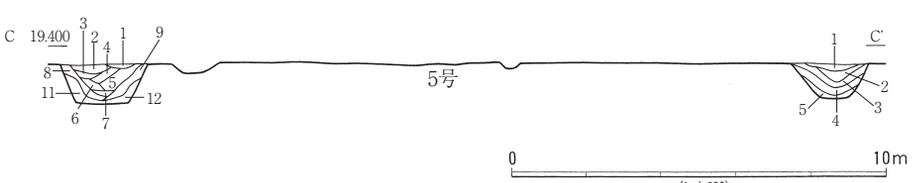


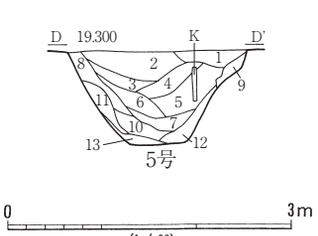
第10図　４号遺構実測図



第11図　２・４号遺構出土遺物実測図



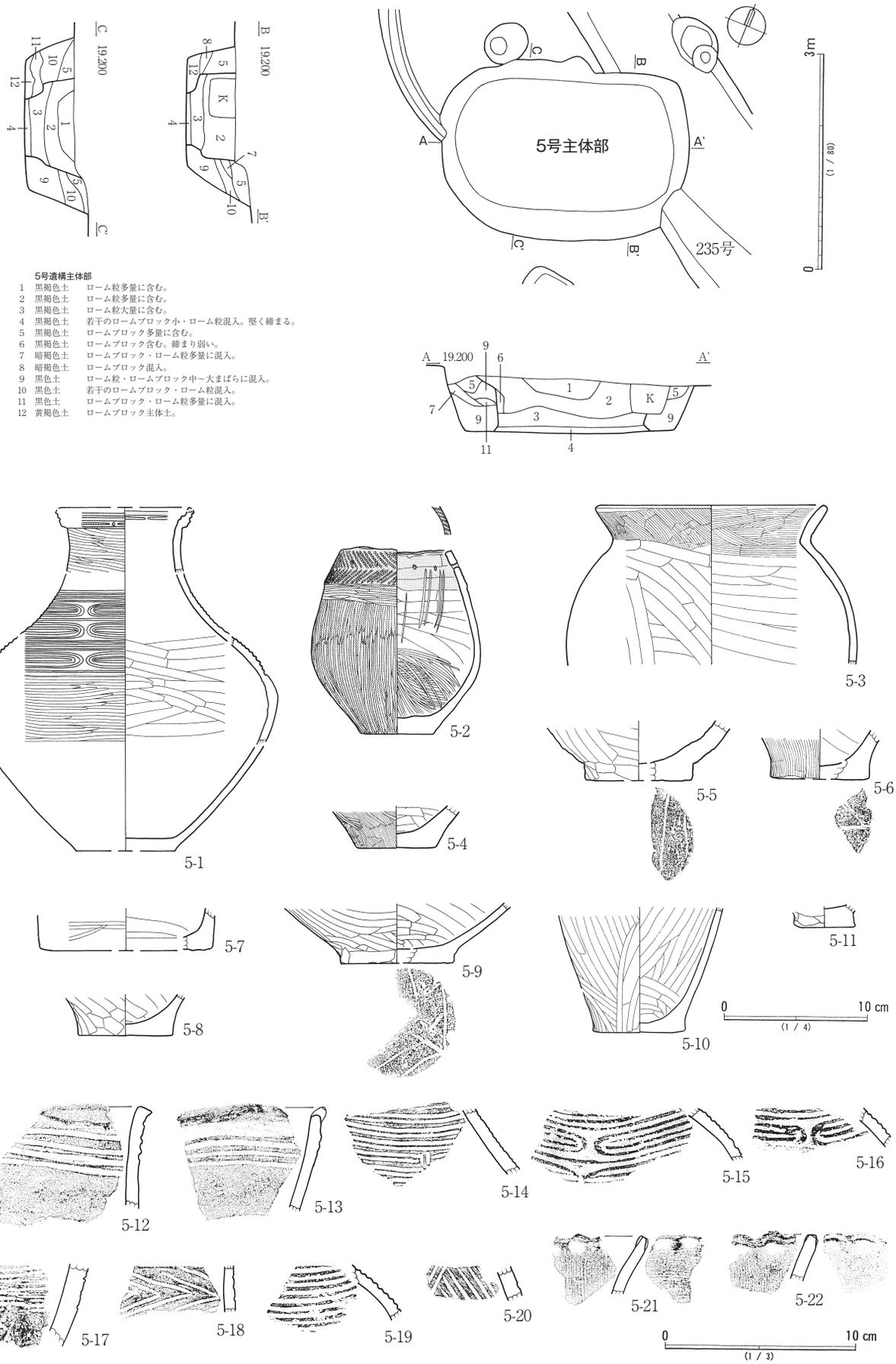




5号遺構

1	暗褐色土	ローム粒若干含む。
2	黒褐色土	有機質土主体。
3	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
4	褐色土	ロームブロック小～中・ローム粒混入。
5	黒褐色土	ロームブロック小混入。
6	黒色土	有機質土主体。
7	黒褐色土	ロームブロック小混入。
8	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
9	暗褐色土	ロームブロック小・ローム粒多量に混入。
10	暗褐色土	ロームブロック小～中混入。
11	褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
12	黒褐色土	ロームブロック小多量に混入。
13	明褐色土	ロームブロック中混入。

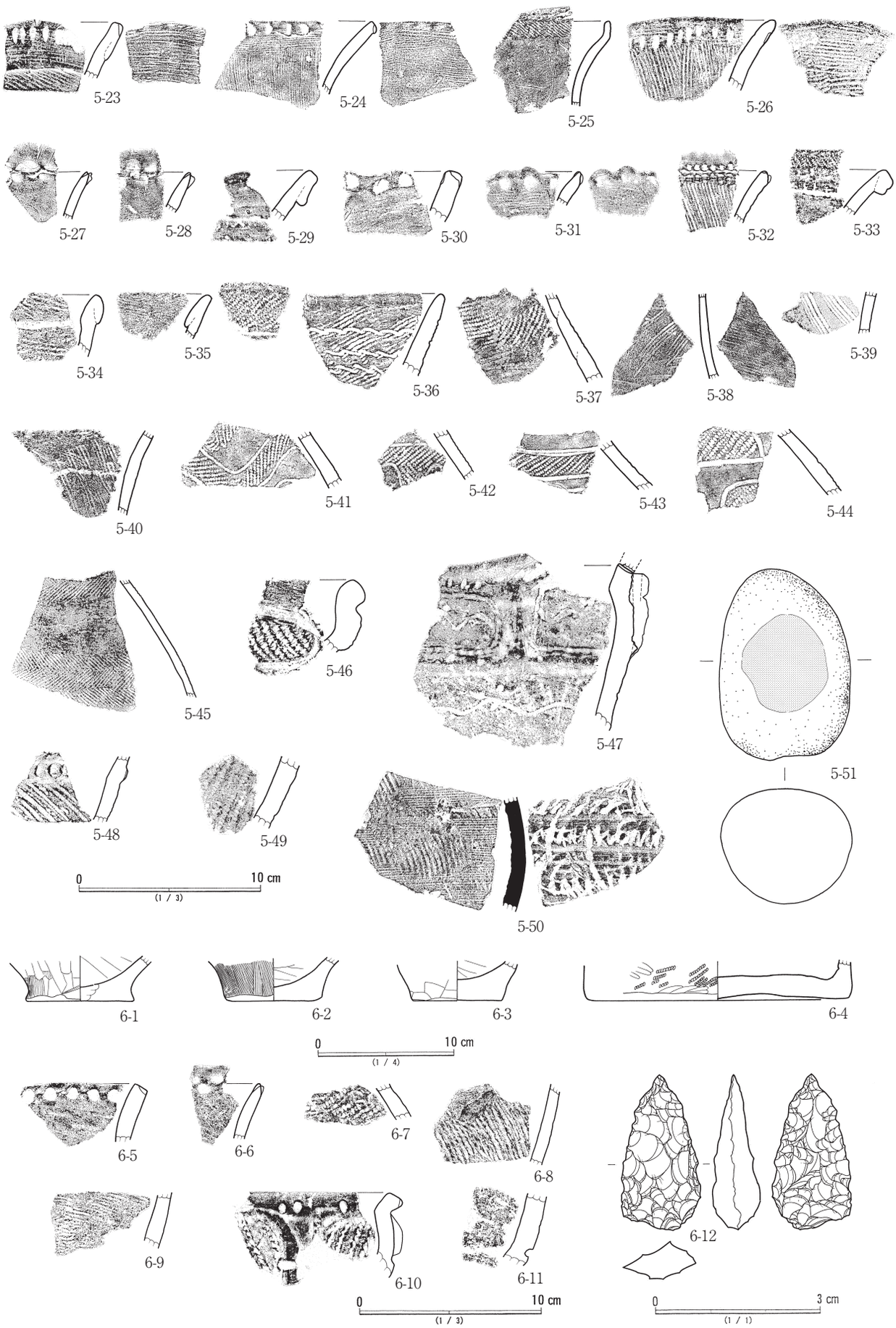
第12図　５号遺構実測図



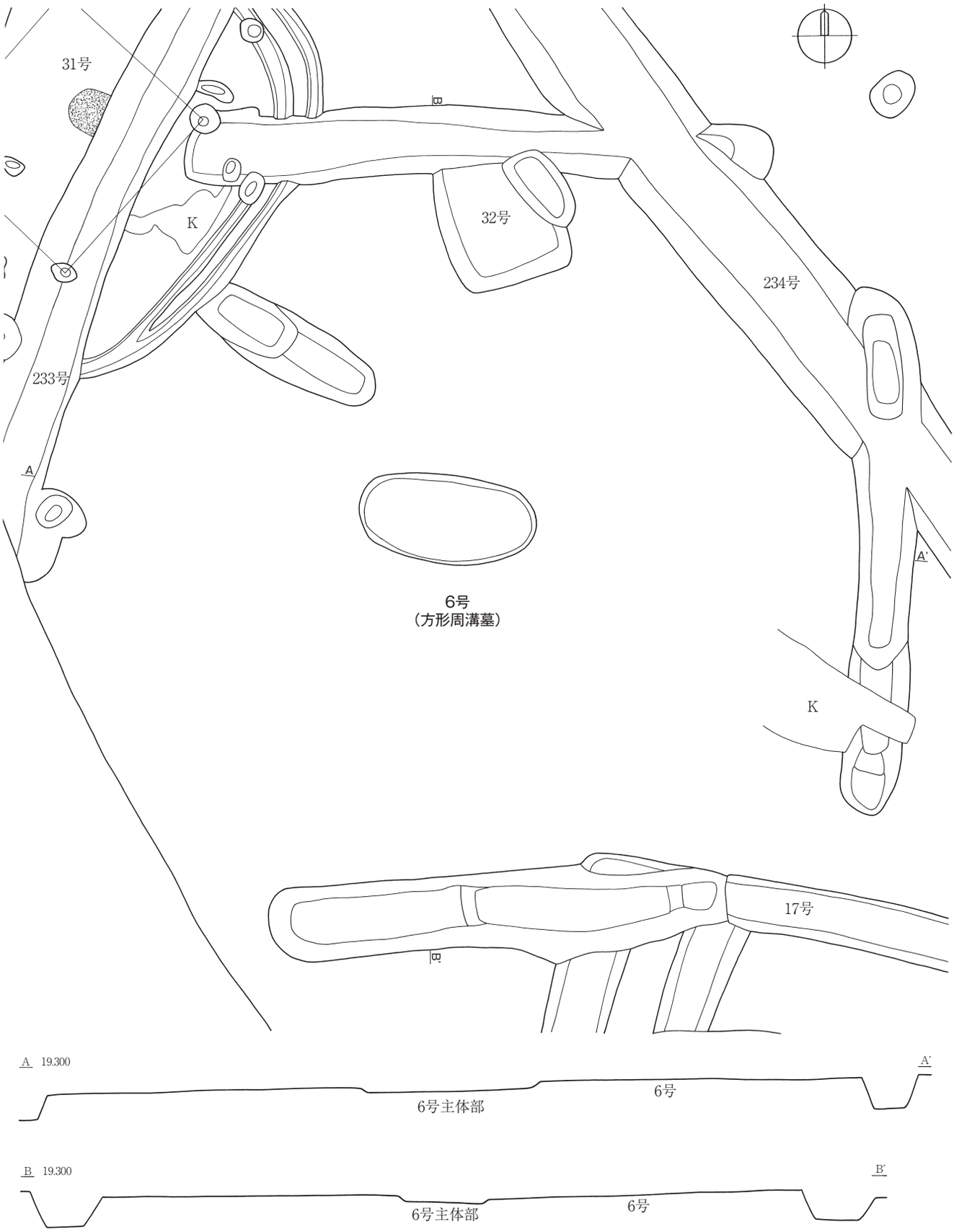
5号遺構主体部

1　黒褐色土　　ローム粒多量に含む。
2　黒褐色土　　ローム粒多量に含む。
3　黒褐色土　　ローム粒大量に含む。
4　黒褐色土　　若干のロームブロック小・ローム粒混入。堅く締まる。
5　黒褐色土　　ロームブロック多量に含む。
6　黒褐色土　　ロームブロック含む。締まり弱い。
7　暗褐色土　　ロームブロック・ローム粒多量に混入。
8　暗褐色土　　ロームブロック混入。
9　黒色土　　ローム粒・ロームブロック中～大まばらに混入。
10　黒色土　　若干のロームブロック・ローム粒混入。
11　黒色土　　ロームブロック・ローム粒多量に混入。
12　黄褐色土　　ロームブロック主体土。

第13図　５号遺構実測図・５号遺構出土遺物実測図



第14図　５・６号遺構出土遺物実測図



第15図　６号遺構実測図

方台部東西方向の長径は17.60m、南北方向の短径15.4mを測り、主軸方位はＮ－59°－Ｗを示す。東側周溝は長さ12.25m幅1.60～2.20m深さ29.5～108.0cmを測り、71号竪穴・235号溝に削平される。西側周溝は長さ13.65m幅2.00～2.45m深さ11.0～95.0cmを測り、16号方形区画改葬墓・57号竪穴及び235溝と重複し、遺構遺存度は極めて悪い。南側周溝は、長さ12.40m幅1.90～2.30m深さ51.9～126.5cmを測り、56号竪穴と重複する。北側周溝は59号竪穴と重複し、長さ14.90m幅3.10～4.00m深さ50.5～68.0cmを測る。

埋葬施設

方台部のほぼ中央に位置し58号竪穴及び235溝と重複して存在し、長径3.46m短径2.54m深さ50.5～88.0cmを測り、主軸方位はＮ－72°－Ｅを示す。底面は平坦であり、土層断面より木棺が使用されていたことが察知されるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

遺物

本遺構からは452点7,810ｇの土器片と２点77ｇの礫、１点740ｇの磨石が出土した。土器片の内訳は64点1,890ｇの土師器、６点231ｇの須恵器、356点5,060ｇの弥生土器、26点629ｇの縄文土器であり、これらの出土遺物の内51点を図示した。

縄文土器や縄文晩期、弥生土器、土師器、須恵器などが検出されているが、何れも覆土一括で取り上げられている。この内１・12・13・15～19は沈線工字文を主とする縄文晩期の土器群である。本祉に直接伴うものは弥生中期の土器群であろう。

６号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号10・14号方形周溝墓。調査段階で当初10号として調査され、後に14号へと改変されている。西側周溝を233号溝、南側周溝を17号改葬系区画墓に削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓である。

南北周溝間の方台部内径14.00mを測り、主軸方位はＮ－４°－Ｗを示す。東・北側周溝は234号溝に削平され、東側周溝は長さ7.70m幅0.78～0.92m深さ11.0～62.7cmを測る。南側周溝は残存長6.80m幅0.82～1.44m深さ31.2～50.8cmを測り、17号改葬系区画墓に削平される。北側周溝は長さ8.72m幅0.85～1.13m深さ8.2～52.8cmを測り、31号竪穴と重複し、遺構遺存度は極めて悪い。

埋葬施設

方台部中央に存在し、墓壙の規模は長径2.63m短径1.32m深さ4.1～9.5cmを測り、主軸方位はＮ－87°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であるが墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

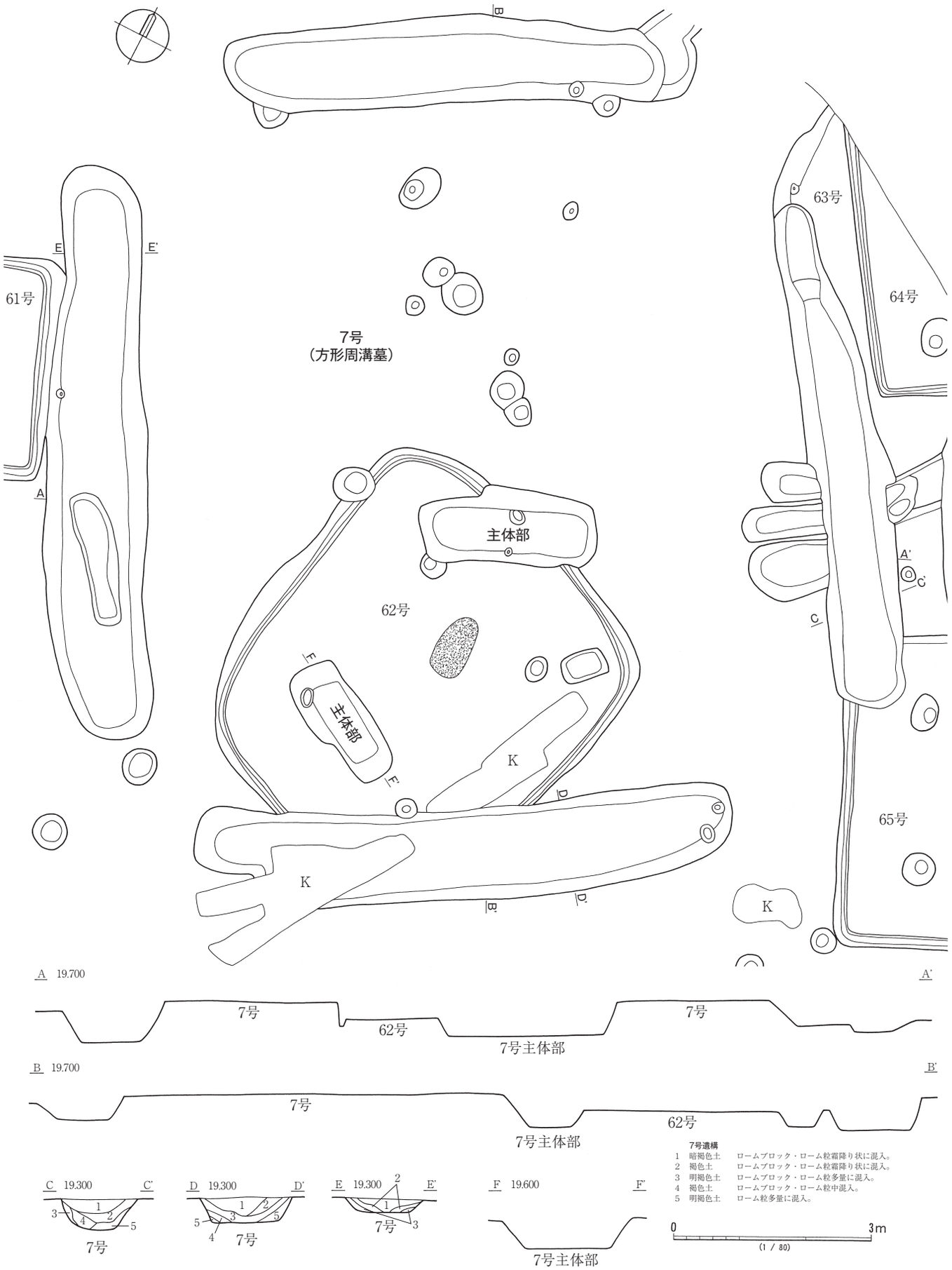
遺物

本遺構からは39点983ｇの土器片と３点47.7ｇの礫・石器が検出された。土器片の内訳は１点９ｇの土師器、27点483ｇの弥生土器、11点491ｇの縄文土器であり、これらの出土遺物の内12点を図示したが、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

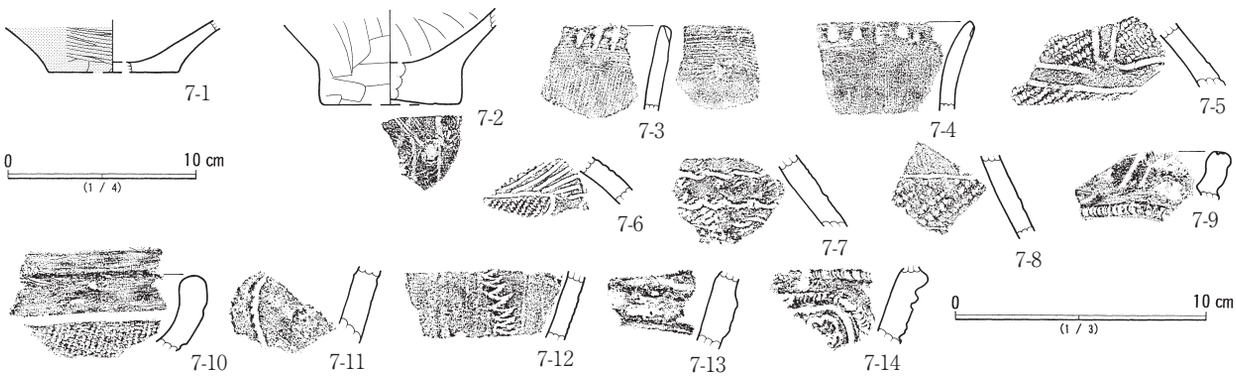
７号遺構（方形周溝墓）

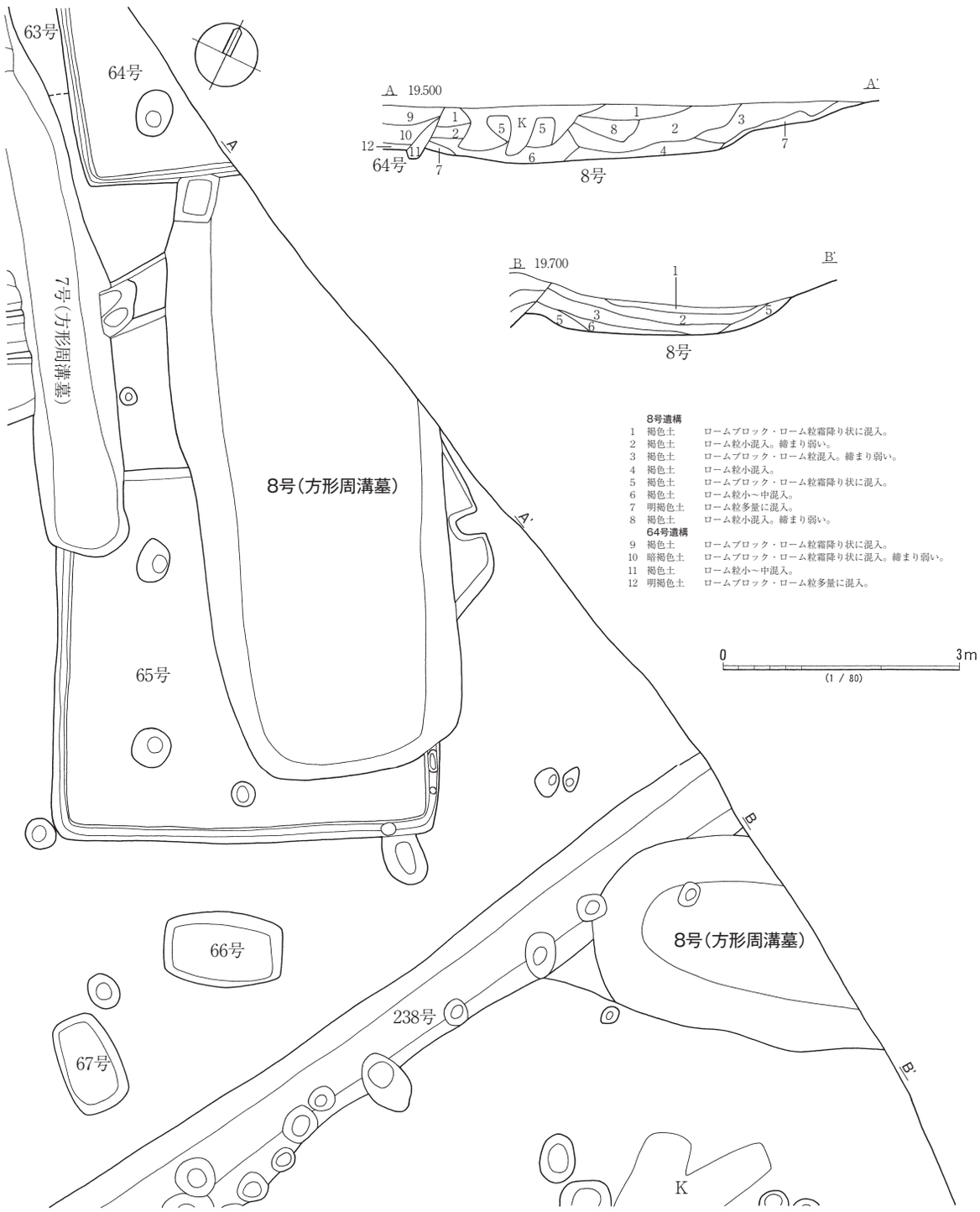
昭和54年度調査時遺構番号４号方形周溝墓。主体部２基は30号土坑Ａ・Ｂとして調査される。東側周溝は63・65号竪穴に削平され、西側周溝を61号竪穴、南側周溝を62号竪穴と重複して存在する四隅開口形の方形周溝墓である。

方台部南北方向の長径は10.74m、東西方向の短径10.08mを測り、主軸方位はＮ－35°－Ｗを示す。



第16図　７号遺構実測図





第17図　８号遺構実測図・７号遺構出土遺物実測図

東側周溝は63号竪穴と重複し、65号竪穴に削平され、長さ7.78m幅0.63～1.15m深さ35.9～52.0cmを測る。西側周溝は61号竪穴と重複し、長さ8.74m幅1.20～1.60m深さ39.3～48.0cmを測る。南側周溝は62号竪穴と重複し、長さ8.23m幅0.95～1.40m深さ27.5～39.6cmを測る。北側周溝は長さ6.73m幅1.03～1.35m深さ17.0～24.9cmを測る。

埋葬施設

本遺構からは埋葬施設と思われる墓壙が２基検出された。一つは本遺構本来の埋葬施設と思われる中央墓壙であり、もう一つは62号竪穴内に検出された墓壙である。

本祉本来の墓壙は方台部中央に存在し、本遺構の主体的な埋葬施設である。調査時遺構番号30Ａ号土坑で、長径2.68m短径1.16m、深さは22.5～42.5cmを測り、主軸方位はＮ－63°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であるが、本墓壙内からは遺物が全く検出されなかった。

62号竪穴内墓壙は、調査時遺構番号30Ｂ号土坑として調査された。長径2.03m短径0.88m、深さ43.3～44.5cmを測り主軸方位はＮ－63°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であるが、本墓壙内からは遺物が全く検出されなかった。

遺物

本遺構からは131点1,695ｇの土器片が検出された。土器片の内訳は59点620ｇの土師器、２点30ｇの須恵器、58点798ｇの弥生土器、12点247ｇの縄文土器であり、これらの出土遺物の内14点を図示した。これらの遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

８号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号なし。ただし大型方形周溝墓と命名されて調査されている。66号竪穴に覆土上層を削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓と想定されるが、大半は市道１号線に削平されている。西側周溝は残存長3.55m幅3.28m、65号竪穴と接する部分で7.8mを測り、深さ38.0～66.0cmを測る。南側周溝は残存長3.40m幅2.25～2.54m深さ32.5～36.5cmを測る。

埋葬施設

未検出である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

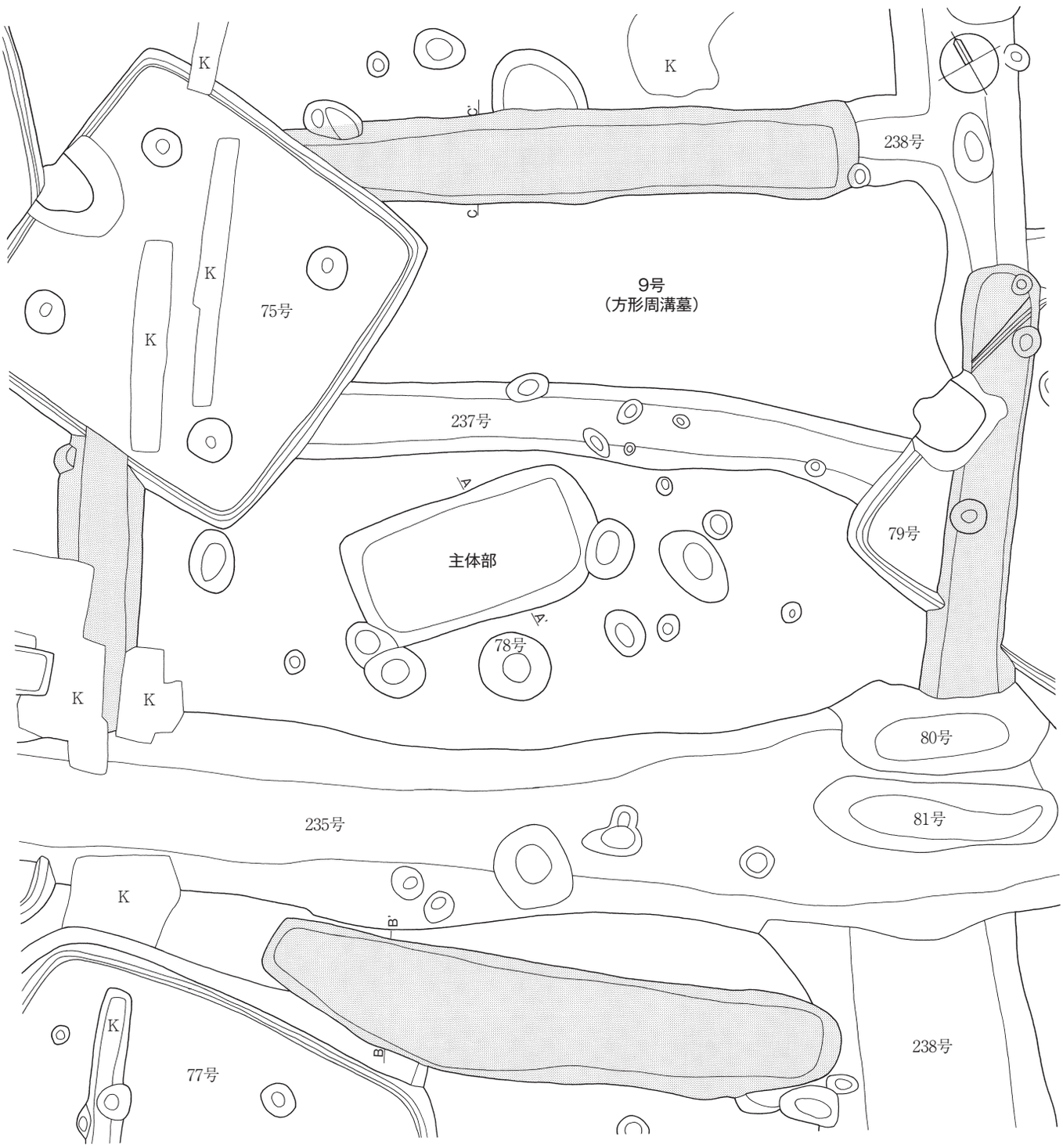
９号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号11号方形周溝墓。調査区中央やや北側に位置し、75号・79号竪穴及び235号・237号・238号に削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓である。

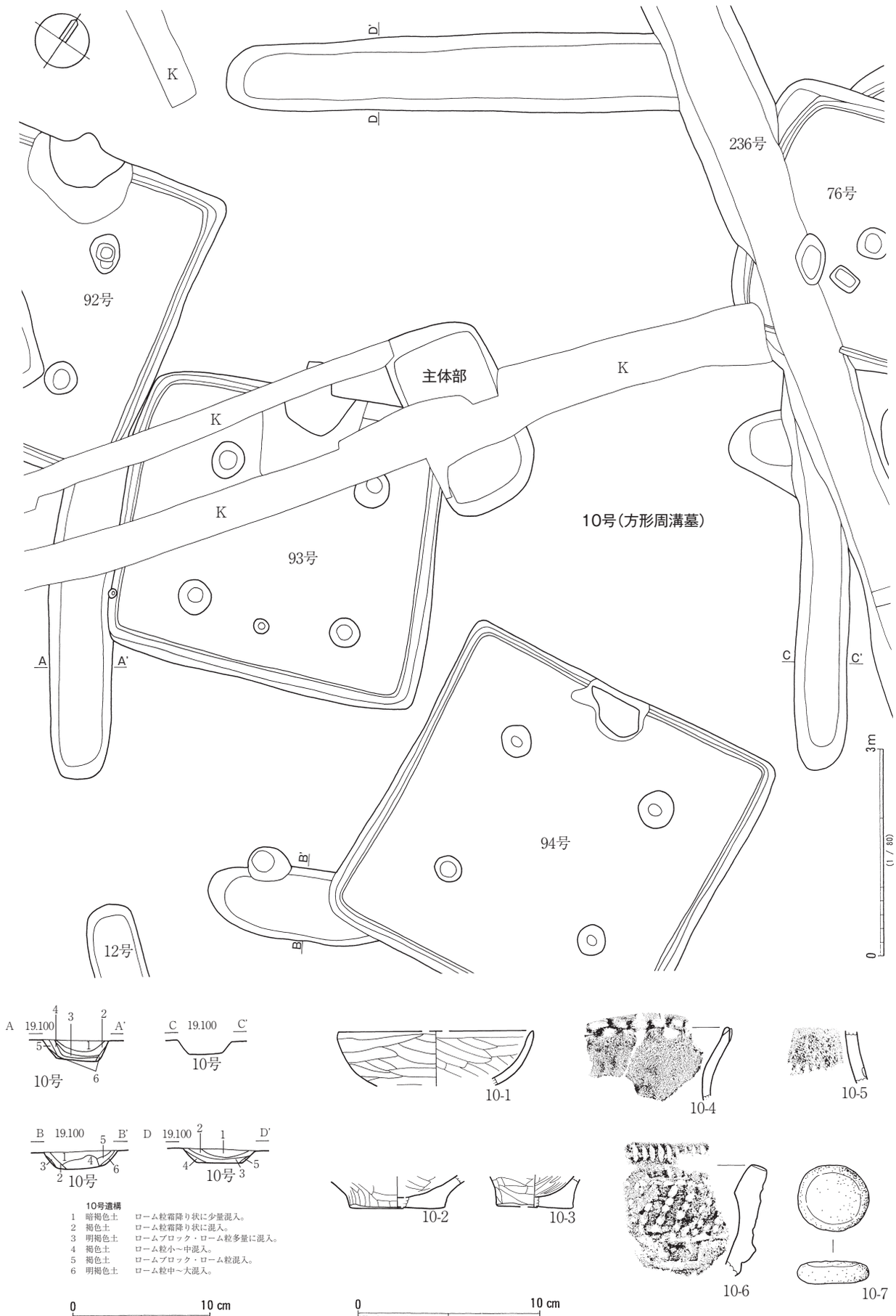
方台部東西方向の長径は10.76m、南北方向の短径10.33mを測り、主軸方位はＮ－60°－Ｗを示す。東側周溝は79号竪穴に削平され、残存長5.96m幅0.87～1.30m深さ36.0～52.5cmを測る。西側周溝は75号竪穴、235号溝に削平され、残存長4.06m幅1.14～1.20m深さ48.0cmを測る。南側周溝は79号竪穴に削平され､長さ7.95m幅0.70～1.70m深さ36.0～52.5cmを測る。北側周溝は75号竪穴に削平され、長さ7.70m幅1.12～1.30m深さ38.0～41.5cmを測る。

埋葬施設

方台部中央に存在し、墓壙の規模は長径3.46m短径1.78m深さ26.0～29.5cmを測り、主軸方位はＮ－99°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。



第18図　９号遺構実測図・９号遺構出土遺物実測図



第19図　10号遺構実測図・10号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは21点616ｇの土器片が検出された。土器片の内訳は２点98ｇの土師器、２点66ｇの須恵器、11点301ｇの弥生土器、５点120ｇの縄文土器、１点31ｇの中世土器であり、これらの出土遺物の内６点を図示した。これらの遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

10号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号８号方形周溝墓。調査区中央やや西側に位置し、76号・92～94号竪穴及び236号溝に削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓である。

方台部東西方向の長径は11.25m、南北方向の短径10.08mを測り、主軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。東側周溝は76号竪穴と236号溝に削平され、残存長5.20m幅0.70～0.80m深さ19.0～21.5cmを測る。西側周溝は92・93号竪穴に削平され、残存長4.45m幅0.86～0.98m深さ22.3～28.5cmを測る。南側周溝は94号竪穴に削平され、残存長1.84m幅0.90～1.06m深さ15.3～23.5cmを測る。北側周溝は236号溝に削平され、残存長6.56m幅0.96～1.18m深さ22.3～35.0cmを測る。

埋葬施設

方台部中央に存在し、撹乱と93号竪穴に削平される。墓壙の規模は長径2.87m短径1.50m深さ18.0～23.5cmを測り、主軸方位はＮ－58°－Ｗ　を示す。底面はほぼ平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

遺物

本遺構からは36点624ｇの土器片と12点640ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は17点224ｇの土師器、18点340ｇの弥生土器、１点60ｇの縄文土器、11点610ｇの自然石、１点30ｇの磨石であり、これらの出土遺物の内７点を図示した。これらの遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

11号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号６号方形周溝墓。調査区中央東側に位置し、89号土坑に削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓である。

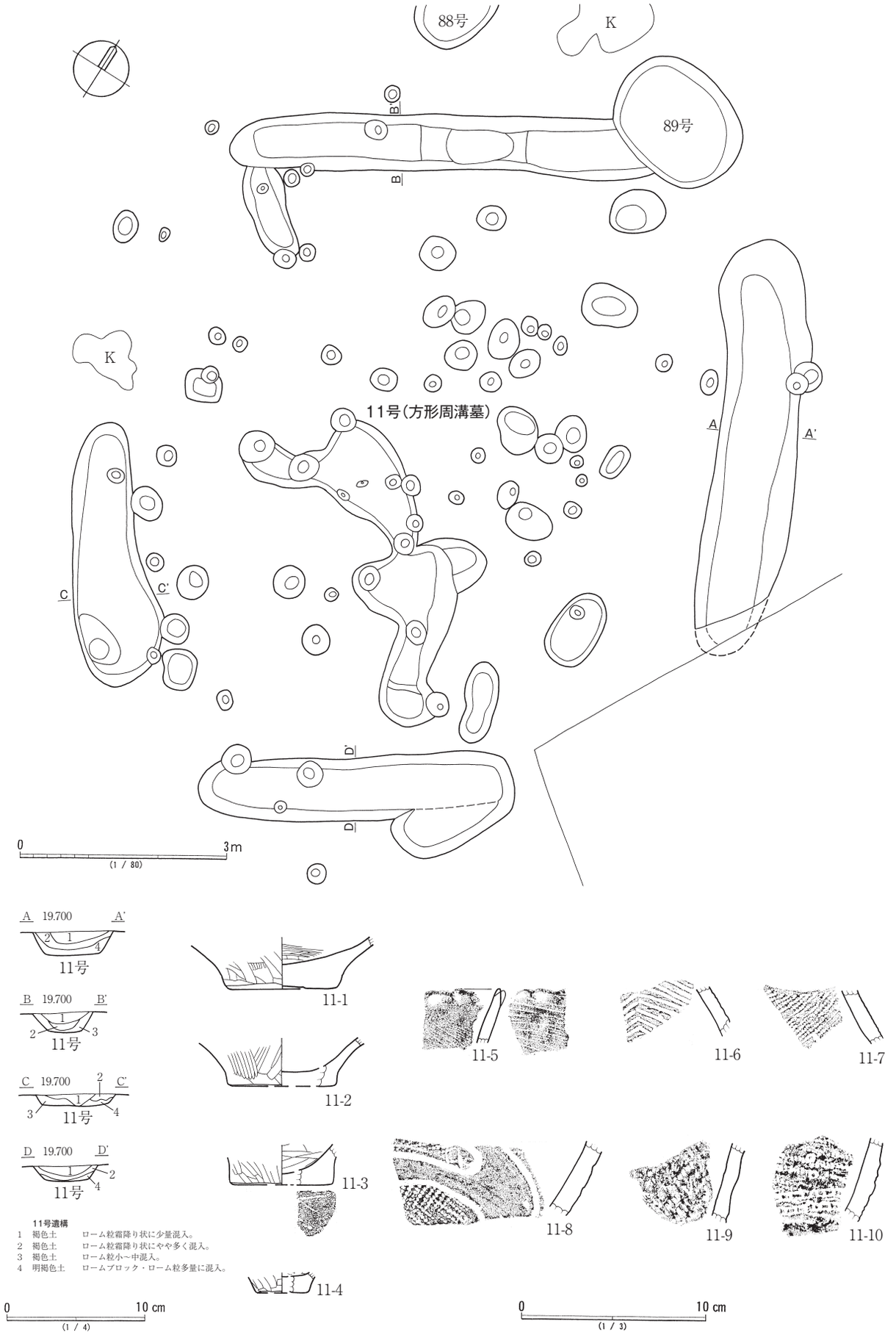
方台部東西方向の長径は8.52m、南北方向の短径8.48mを測り、主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。東側周溝の一部は調査区域外に存在するが、残存長5.56m幅1.10～1.26m深さ30.0～31.5cmを測る。西側周溝は、長さ3.86m幅0.73～1.32m深さ8.5～14.0cmを測る。南側周溝は、長さ4.61m幅0.78～0.94m深さ20.0～20.5cmを測る。北側周溝は89号土坑に削平され、残存長5.82m幅0.66～0.90m深さ18.0～20.0cmを測る。

埋葬施設

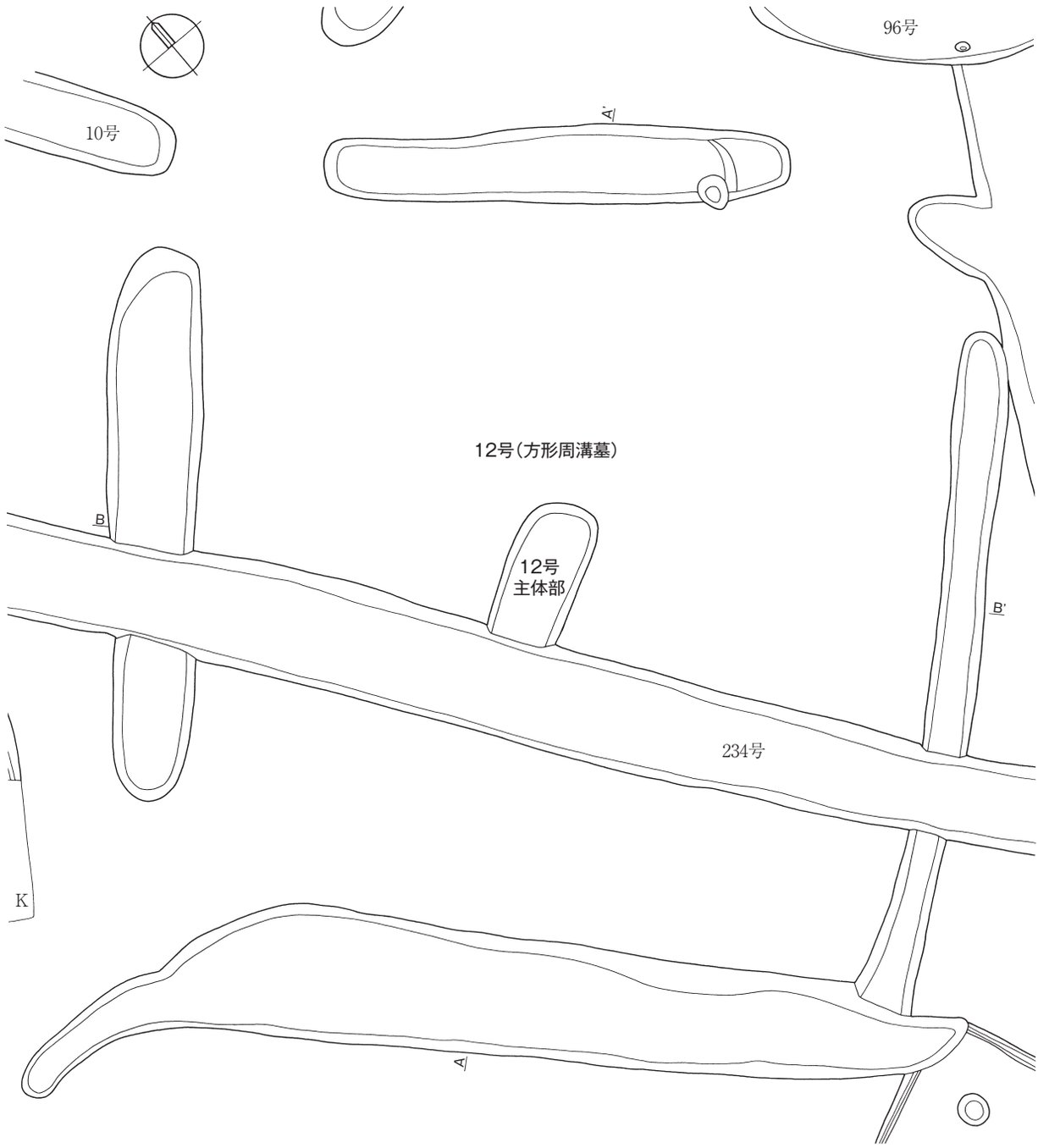
方台部内には多数の染み状ピットが存在するが、埋葬施設は検出されなかった。

遺物

本遺構からは40点778ｇの土器片と、２点76ｇの礫、１点42ｇの瓦片が検出された。土器片の内訳は11点339ｇの土師器、24点301ｇの弥生土器、１点10ｇの手づくね土器、４点128ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示したが、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第20図　11号遺構実測図・11号遺構出土遺物実測図



第21図　12号遺構実測図

12号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号12号方形周溝墓。14号方形周溝墓と調査時遺構番号が重複する。調査区中央やや西側に位置し、234号溝に削平されて存在する三隅開口形の方形周溝墓である。

方台部南北方向の長径は9.42m、東西方向の短径9.32mを測り、主軸方位はＮ－46°－Ｗを示す。東側周溝は、長さ8.68m幅0.47～0.74m深さ7.9～19.3cmを測る。西側周溝は、長さ7.00m幅0.82～1.17m深さ14.2～23.2cmを測る。南側周溝は、長さ10.12m幅0.68～1.72m深さ7.6～23.2cmを測る。北側周溝は、長さ5.90m幅0.68～1.01m深さ8.7～25.5cmを測る。

埋葬施設

方台部中央に存在し、234号溝に一部削平されて存在する。墓壙の規模は残存長1.86m短径0.99m深さ16.5～22.5cmを測り、主軸方位はＮ－48°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

13号遺構（方形周溝墓）

昭和54年度調査時遺構番号７号方形周溝墓。調査区中央やや南側に位置し、101～103号竪穴及び236・240号溝に削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓である。

方台部東西方向の長径は13.15m、南北方向の短径11.20mを測り、主軸方位はＮ－17°－Ｗを示す。東側周溝は103号竪穴と236号溝に削平され、残存長7.22m幅1.08～1.60m深さ27.5～42.0cmを測る。西側周溝は101号竪穴に削平され、長さ10.17m幅1.20～1.34m深さ10.0～59.0cmを測る。南側周溝は240号溝に削平され、長さ10.82m幅0.73～1.07m深さ17.5～54.0cmを測る。北側周溝は236・240号溝に削平され、長さ9.85m幅0.98～1.33m深さ28.5～52.5cmを測る。

埋葬施設

方台部中央に存在し、102号竪穴と接して検出されている。墓壙の規模は長径3.75m短径1.92m深さ40.0cm前後を測り、主軸方位はＮ－80°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

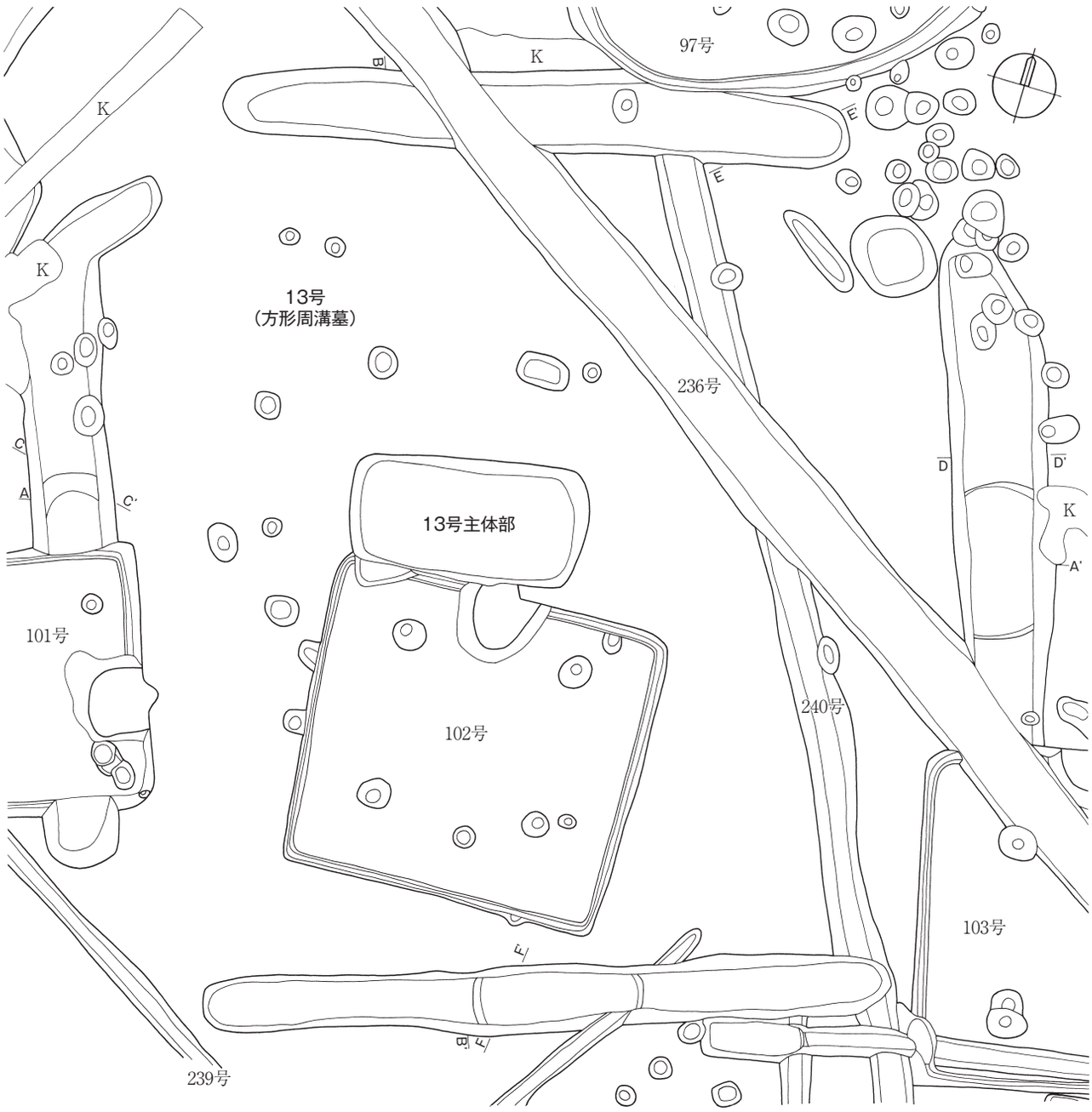
遺物

本遺構からは90点1,242ｇの土器片と６点396ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は57点764ｇの土師器、４点90ｇの須恵器、26点327ｇの弥生土器、３点61ｇの縄文土器、５点329ｇの自然石、１点67ｇの磨石であり、これらの出土遺物の内12点を図示した。これらの遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

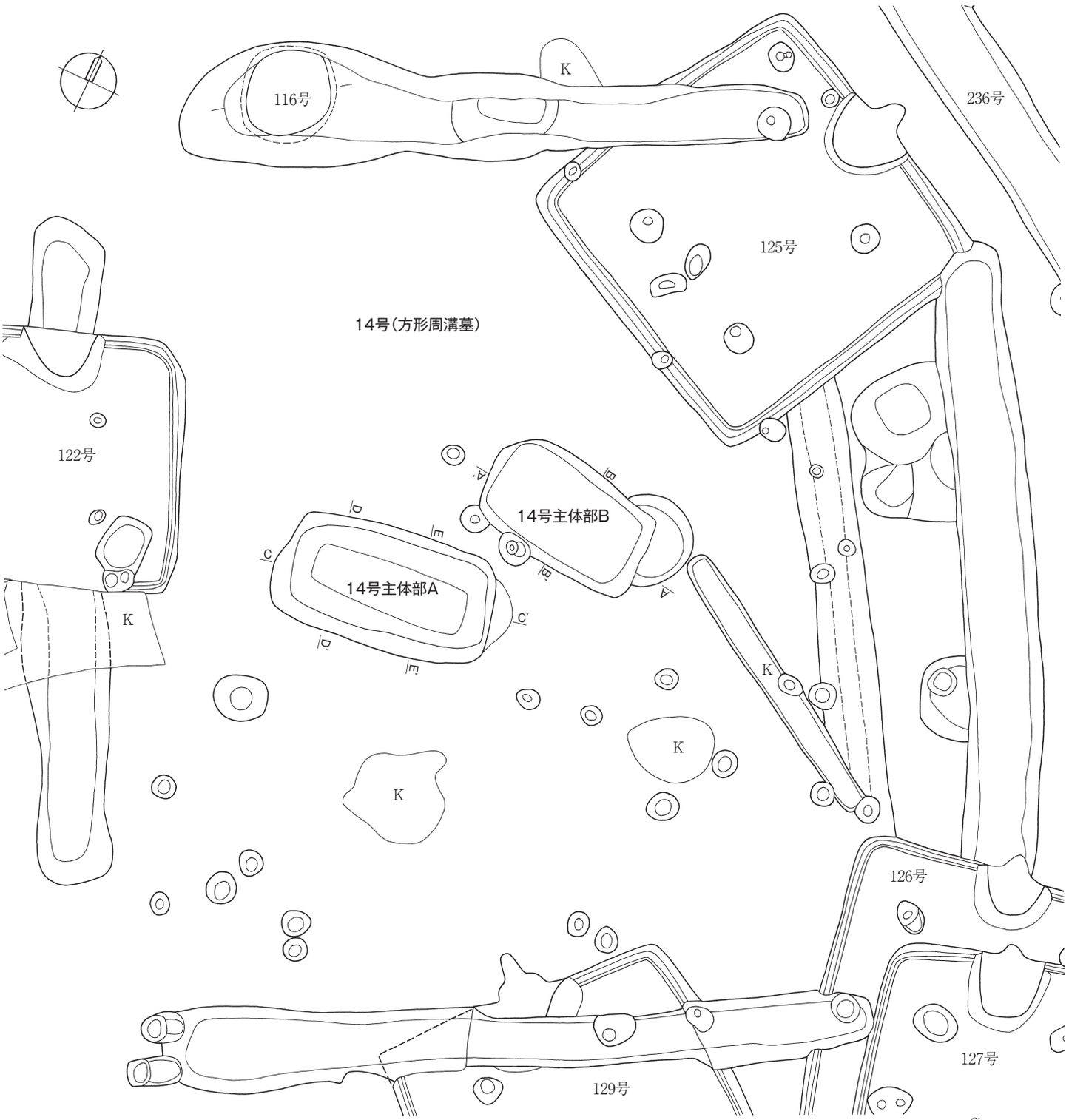
14号遺構（方形周溝墓）

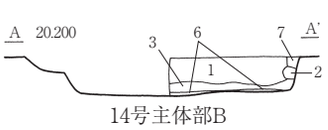
昭和54年度調査時遺構番号12号方形周溝墓。12号方形周溝墓と調査時遺構番号が重複する。調査区南東端に位置し、116号土坑と重複し122・125～127・129号竪穴に削平されて存在する四隅開口形の方形周溝墓である。

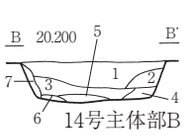
方台部南北方向の長径は12.38m、東西方向の短径推定12.30mを測り、主軸方位はＮ－25°－Ｗを示す。東側周溝は126号・127号竪穴に削平され、残存長8.90m幅0.88～1.09m深さ39.4～43.8cmを測る。西側周溝中央部は122号竪穴に削平されるが、長さ9.57m幅0.92～1.20m深さ22.5～60.5cmを測る。



第22図　13号遺構実測図





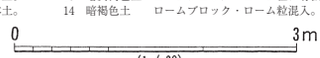


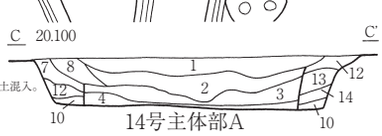
14号遺構主体部B

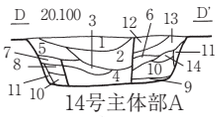
1	黒褐色土	若干のローム粒混入。
2	黒褐色土	ローム粒少量混入。
3	黒褐色土	ローム粒まばらに混入。
4	黒褐色土	ローム粒多量に混入。
5	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒多量に混入。
6	暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒主体土。
7	暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒主体土。

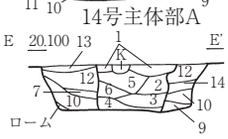
14号遺構主体部A

1	暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒に若干の有機質土混入。
2	黒褐色土	若干のロームブロック混入。
3	黒褐色土	ローム粒少量混入。
4	黒褐色土	ローム粒少量混入。
5	黒褐色土	若干のロームブロック・ローム粒混入。
6	暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒に若干の有機質土混入。
7	暗黒褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
8	黒色土	有機質土主体。
9	暗黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。硬く締まる。
10	黒色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。有機質性強。
11	黄褐色土	ロームブロック・ローム粒主体土。
12	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
13	暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒に有機質土少量混入。
14	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。









第23図　14号遺構実測図

南側周溝は126・129号竪穴に削平され、長さ9.84m幅0.66～1.28m深さ28.3～56.4cmを測る。北側周溝は125号竪穴に削平され、長さ8.97m幅0.80～1.80m深さ25.0～72.5cmを測り、西側先端部はフラスコ状ピットの116号土坑と重複する。

埋葬施設

方台部中央に２基の埋葬施設が検出された。Ａ基は土層断面に明瞭な木棺痕を残す墓壙であり、Ｂからは木棺痕を検出することはできなかった。Ａは長径3.20m短径1.75m深さ44.7～54.0cmを測り、主軸方位はＮ－82°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。Ｂは長径2.54m短径1.52m深さ13.6～40.2cmを測り、主軸方位はＮ－78°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であるが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物は全く検出されなかった。

15号遺構（方墳・地下式横穴墓）

昭和54年度調査時遺構番号７号地下式土壙。調査区南側に位置し、現況では200号土坑と重複して存在する地下式横穴墓であるが、土坑群が密集する周囲は、南側に向かってなだらかな傾斜を有し、現表土以下にハードロームが露呈するほどの広範囲な台地整形が施されていることから、単独の地下式横穴墓ではなく、規模等は不明ながら、本来は御林跡遺跡２号方墳に類似する方墳の可能性が高いものとして想定周溝を復元しておいた。

埋葬施設

前述したとおり本遺構は埋葬施設として地下式横穴墓を採用する。羨道部は最大長5.76m最大幅3.48m深さ最大1.40mを測り、南から北側に向かって階段状に掘り窪められており、玄室への入口部分で60.0cm程立ち上がる。玄室入口は幅52.0cm高さ70.0cm程の長方形を呈し、黒色を呈する粘土で閉塞されていたと調査日誌に記載されている。玄室内は幅1.90m前後、高さ最大1.75mの方形を呈し、主軸方位はＮ－11°－Ｅを示す。棺台座と想定される中央部より10.0cm程高い範囲は、入口部分の左右から奥壁に向かって幅80.0cm前後でコの字形に存在する。

人骨は向かって左側の棺台座から手前に１号人骨頭部、その奥に２号人骨頭部、右側に大きく離れて３号人骨頭部が検出されている。何れも大腿骨などの足骨近くに頭蓋骨が検出されていることから、玄室内で骨化した後に集骨したか、或いは別の場所で骨化させ、玄室内に再葬した可能性が考えられる。何れにせよ御林跡遺跡の終末期古墳である２号方墳との類似性が指摘でき、時期的にも近い年代の遺構と想定される。

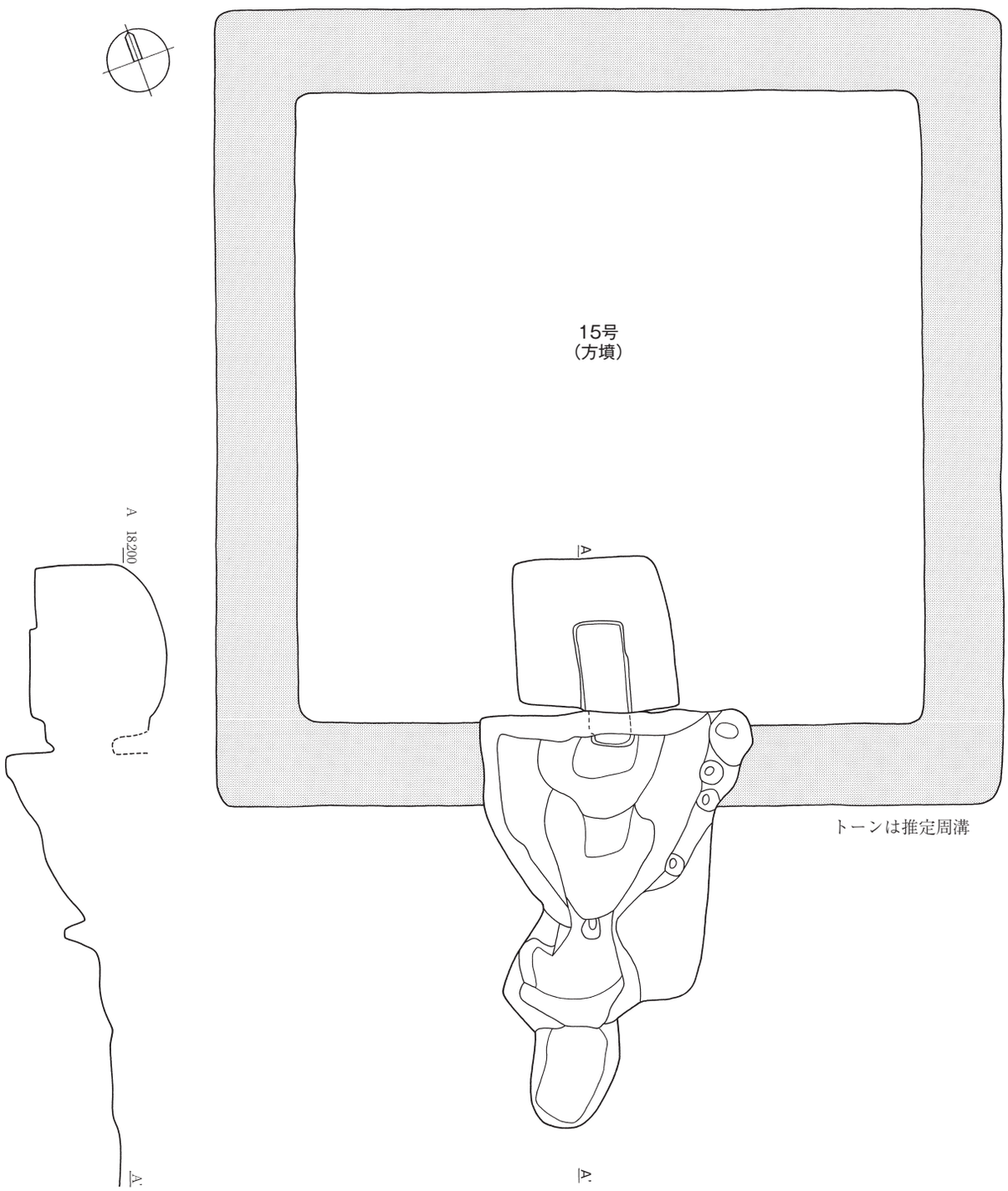
遺物

本遺構からは人骨以外、遺物が全く検出されなかった。

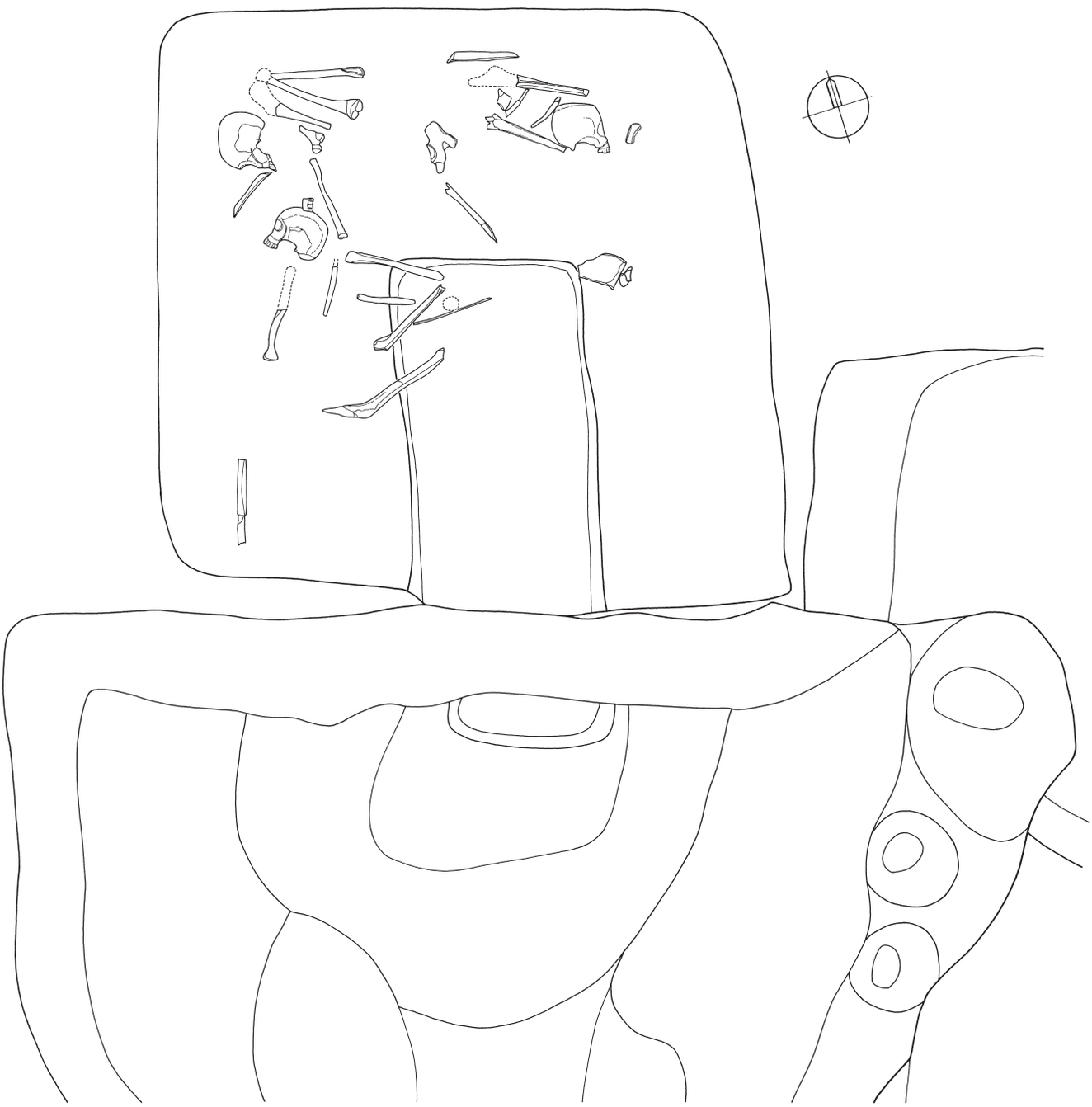
16号遺構（方形区画改葬墓）

昭和54年度調査時遺構番号１号地下式土壙。調査区北西に位置し、35号竪穴及び５号方形周溝墓西側周溝、37・235号溝と重複して存在する仰臥伸展葬を完全に放棄した方形区画改葬墓である。

方台部南北方向の長径は6.94m、東西方向の短径6.68mを測り、主軸方位はＮ－７°－Ｗを示す。東・南側周溝は５号方形周溝墓との新旧逆調査によって一部失われているが、東側周溝は長さ8.34m幅0.72～1.10m深さ8.0～40.0cmを測る。西側周溝は、長さ8.52m幅0.82～0.92m深さ15.0～24.0cmを



第24図　15号遺構実測図 1



第25図　15号遺構実測図２

測る。南側周溝は、長さ8.24m幅0.79～0.90m深さ5.5～19.8㎝を測る。北側周溝は、長さ7.74m幅0.88～0.95m深さ8.5～26.5㎝を測る。

５号方形周溝墓を除いた235号溝及び35・36・57号竪穴よりも本祉掘り方が深いが、土層断面等による新旧確認がないため、出土遺物から見ると57号竪穴を除いたすべての遺構の最新段階の遺物が、８世紀前半代のほぼ同時期の所産である。したがって、ここでは住居が墳墓を削平するのではなく、墳墓が住居を削平するものと捉えておきたい。

埋葬施設

本遺構は埋葬施設として地下式小型玄室を採用する。南側周溝中央よりやや西側に偏って羨道部が存在し、羨道部長径1.86m短径1.48m深さ最大76.0㎝を測り、玄室への入口部分で43.0㎝程立ち上がる。玄門部分は奥行き0.22m幅1.00m、玄室内との比高差は9.0～9.5㎝を測る。玄門部には幅10.0～12.0㎝の排水溝と思われる溝が３条刻み込まれており、排水溝底面は玄室内と同じレベルである。

玄室は、長径1.66m短径1.14m、天井部の一部が残存した高さは最大で95㎝を測る。玄室内中央は、長径0.62m短径0.52m深さ最大20.0㎝を測り、長方形を呈し一段掘り下がっている。このような玄室構造が類似する墳墓には、文武陵と想定されている８世紀初頭の中尾山古墳が存在しており、ここに木櫃ないしは第27図１・２の番号を付した須恵器甕・盤等を転用した蔵骨器が納められていたものと考えられる。ただし、玄室内から遺物が出土したという記録は、平面図や記録写真・調査日誌にも存在しないため、蔵骨器として納められていたのは木櫃の可能性が高い。

遺物

本遺構からは14点372ｇの土器片と１点580ｇの石器が検出された。土器片等の内訳は３点126ｇの土師器、２点108ｇの須恵器、３点26ｇの弥生土器、６点112ｇの縄文土器、１点580ｇの石皿であり、これらの出土遺物の内13点を図示した。これらの遺物は何れも一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無いが、仮に転用蔵骨器が玄室内に納められていたとすれば、２の須恵器蓋ないし盤は１の須恵器甕の蓋として転用されていた可能性が高い。

17号遺構（改葬系区画墓）

昭和54年度調査時遺構番号10号方形周溝墓。調査区中央西側に位置し、６号方形周溝墓南側周溝・68号竪穴を削平する改葬系区画墓である。

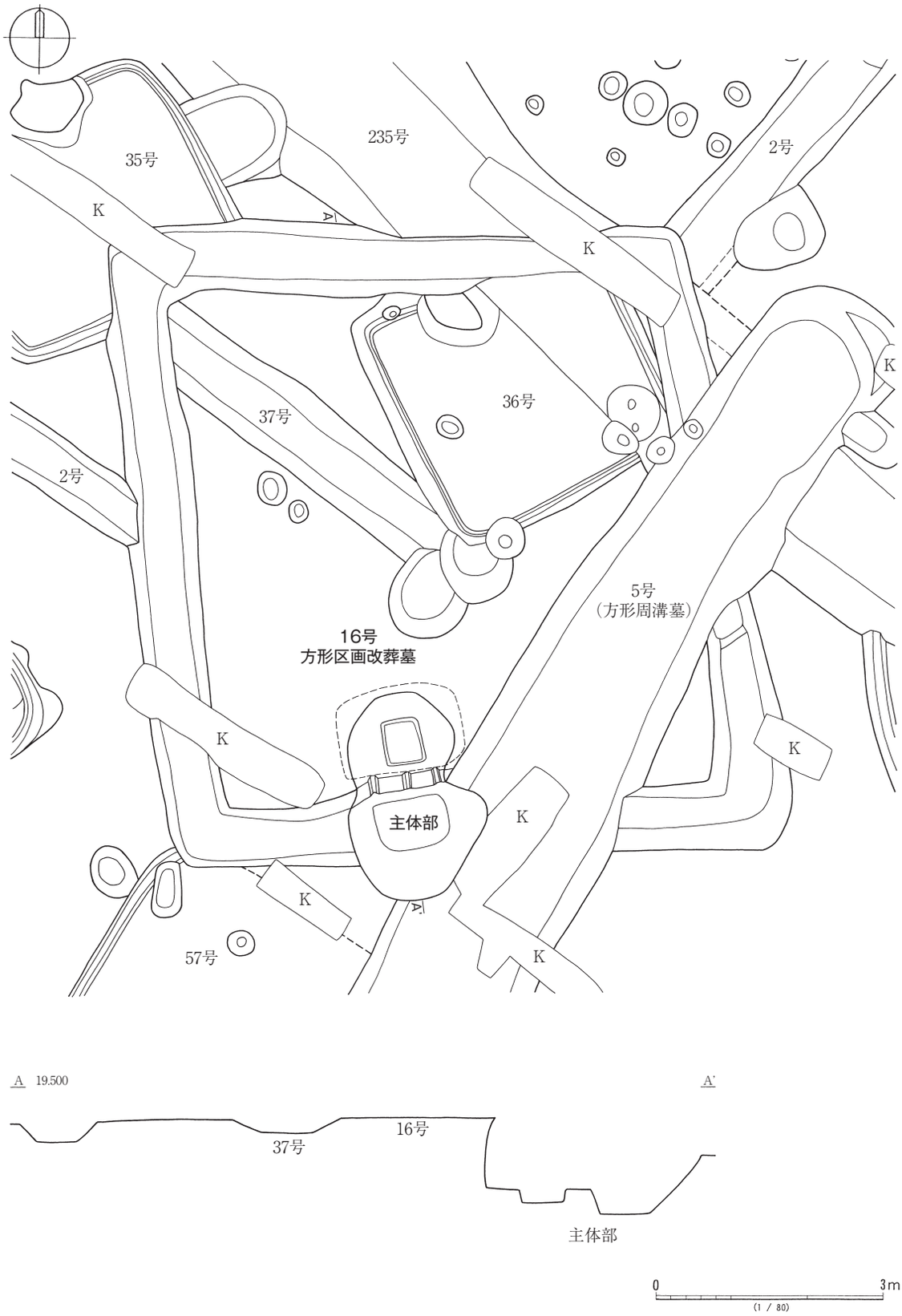
方台部南北方向の長径は6.54m、東西方向の短径6.34mを測り、主軸方位はＮ－12°－Ｅを示す。東側周溝は、長さ7.04m幅0.57～0.74m深さ10.0～20.0㎝を測る。西側周溝は、長さ8.34m幅0.77～1.00m深さ2.0～19.0㎝を測る。南側周溝は、長さ7.12m幅0.64～0.82m深さ9.0～15.5㎝を測る。北側周溝は本来６号方形周溝墓を削平するのであるが、掘り込みの深い６号方形周溝墓が本遺構を削平したかのような平面図となっている。長さ7.70m幅0.74～0.80m深さ20.0～23.0㎝を測る。

埋葬施設

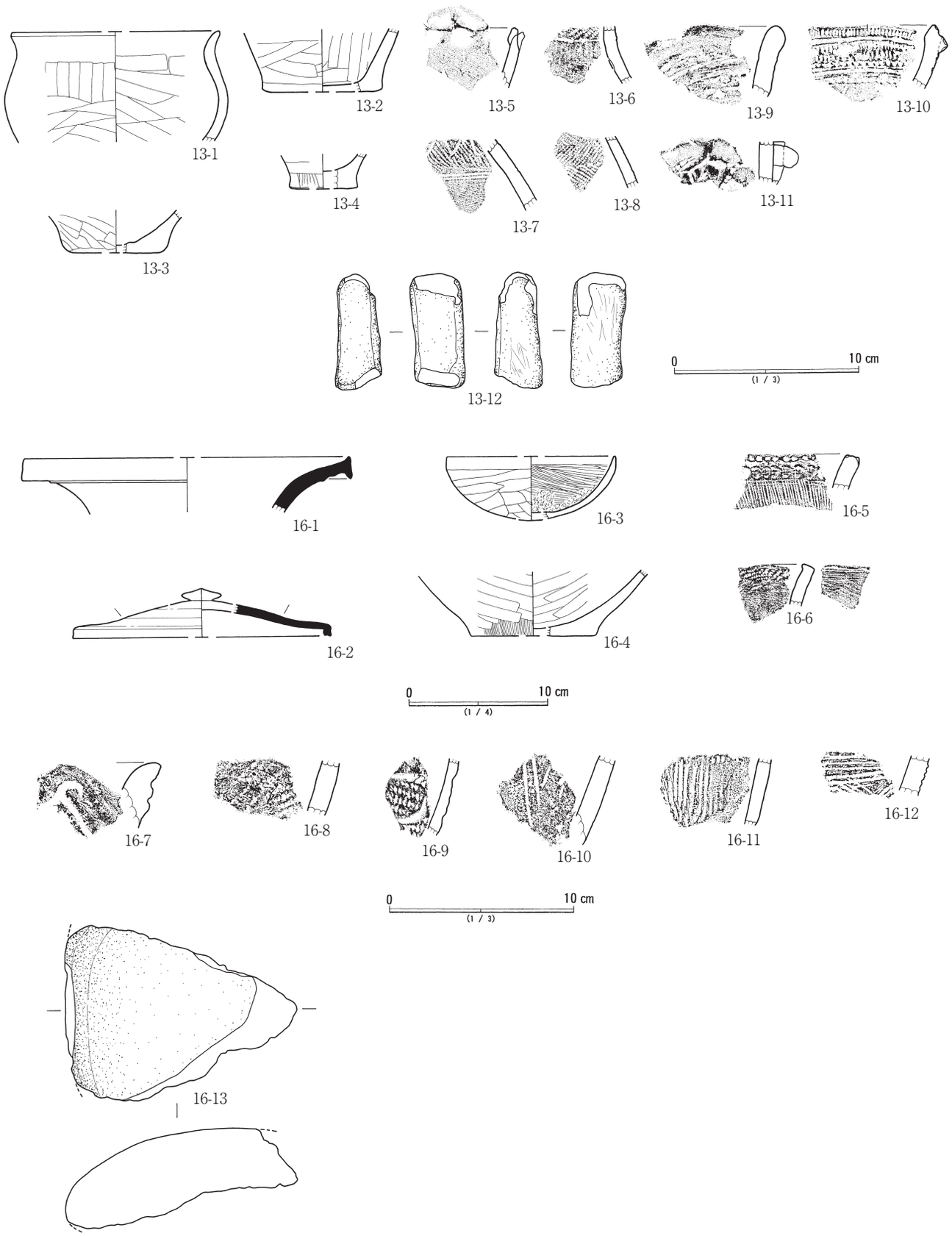
本遺構からは埋葬施設が検出されなかった。

遺物

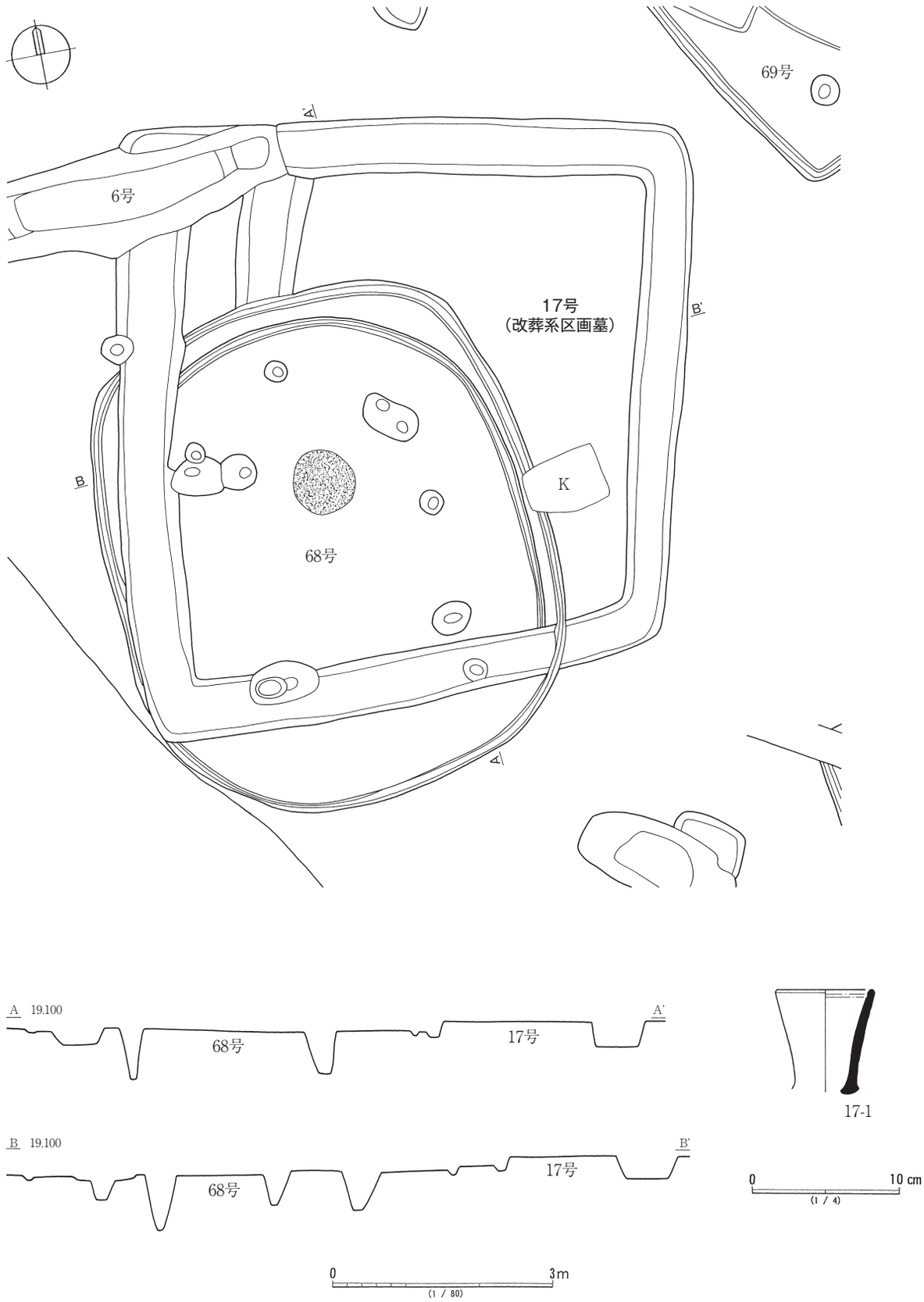
本遺構からは12点490ｇの土器片が検出された。土器片の内訳は11点190ｇの土師器、１点300ｇの須恵器であるが、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。また、図示に至る遺物はなかった。



第26図　16号遺構実測図



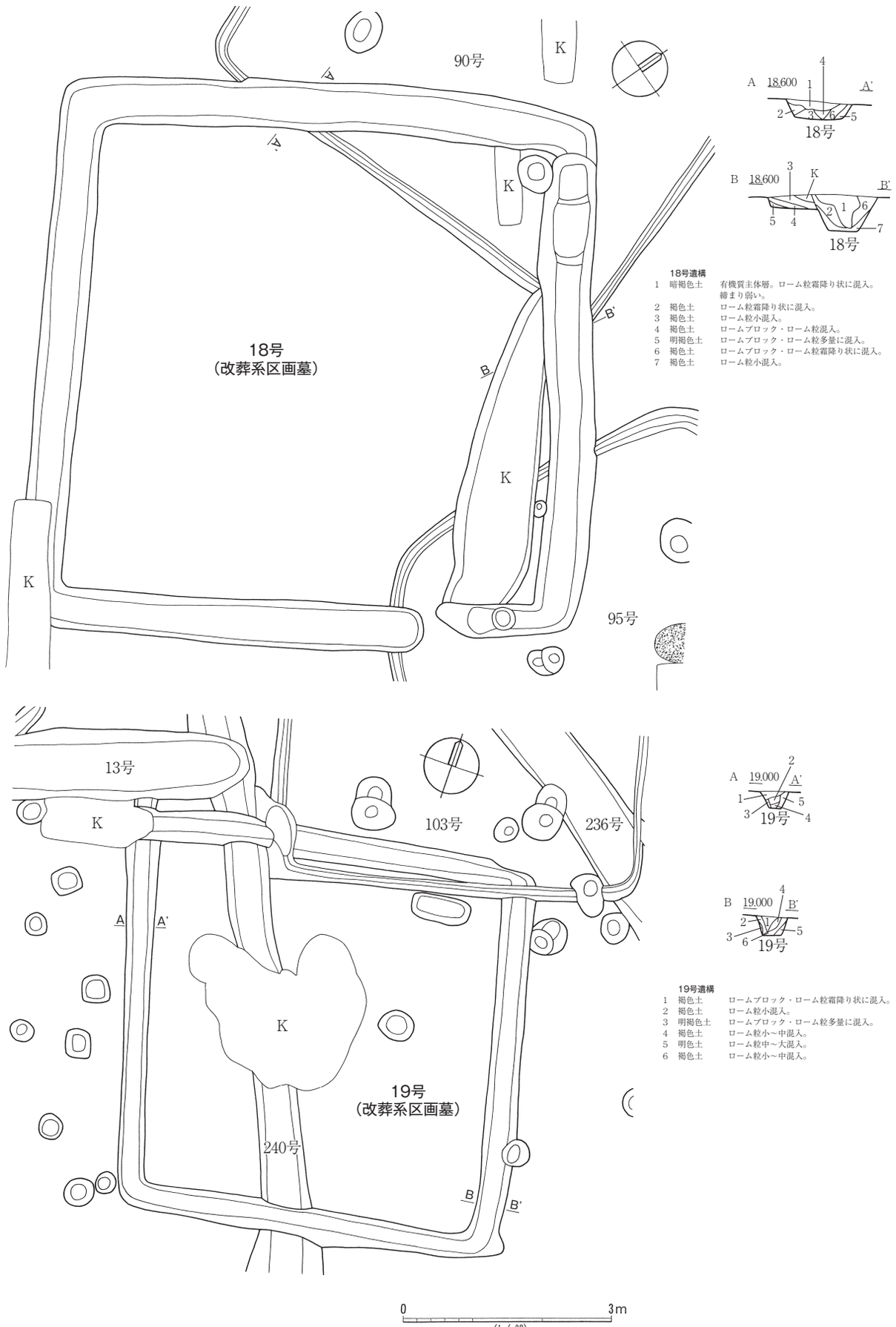
第27図　13・16号遺構出土遺物実測図



17-1

0 10 cm
(1 / 4)

第28図　17号遺構実測図・17号遺構出土遺物実測図



第29図　18・19号遺構実測図

18号遺構（改葬系区画墓）

昭和54年度調査時遺構番号なし。調査区中央やや西側に位置し、90・95号竪穴を削平して存在する一部開口形の改葬系区画墓である。

方台部南北方向の長径は6.76m、東西方向の短径6.70mを測り、主軸方位はＮ－51°－Ｗを示す。東側周溝は、長さ7.42m幅0.62～0.78m深さ17.6～42.0cmを測る。西側周溝は、長さ7.85m幅0.62～0.65mを測るが、深さの測定値はない。南側周溝は、途中で途切れるがＡの長さ5.77m幅0.65～0.66m深さ24.5cmを測る。Ｂの長さは1.98m幅0.45～0.47m深さ20.1cmを測る。北側周溝は、長さ7.73m幅0.59～0.74m深さ22.0～28.0cmを測る。

埋葬施設

本遺構からは埋葬施設が検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

19号遺構（改葬系区画墓）

昭和54年度調査時遺構番号なし。103号竪穴及び240号溝と重複して存在する改葬系区画墓である。

方台部南北方向の長径は5.01m、東西方向の短径4.99mを測り、主軸方位はＮ－14°－Ｗを示す。東側周溝は、長さ5.56m幅0.42～0.48m深さ34.0～35.0cmを測る。西側周溝は、長さ5.76m幅0.34～0.50m深さ21.5～28.0cmを測る。南側周溝は、長さ5.55m幅0.35～0.53m深さ26.0～30.5cmを測る。北側周溝は、長さ5.95m幅0.38～0.49m深さ16.5～18.5cmを測る。

埋葬施設

本遺構からは埋葬施設が検出されなかった。

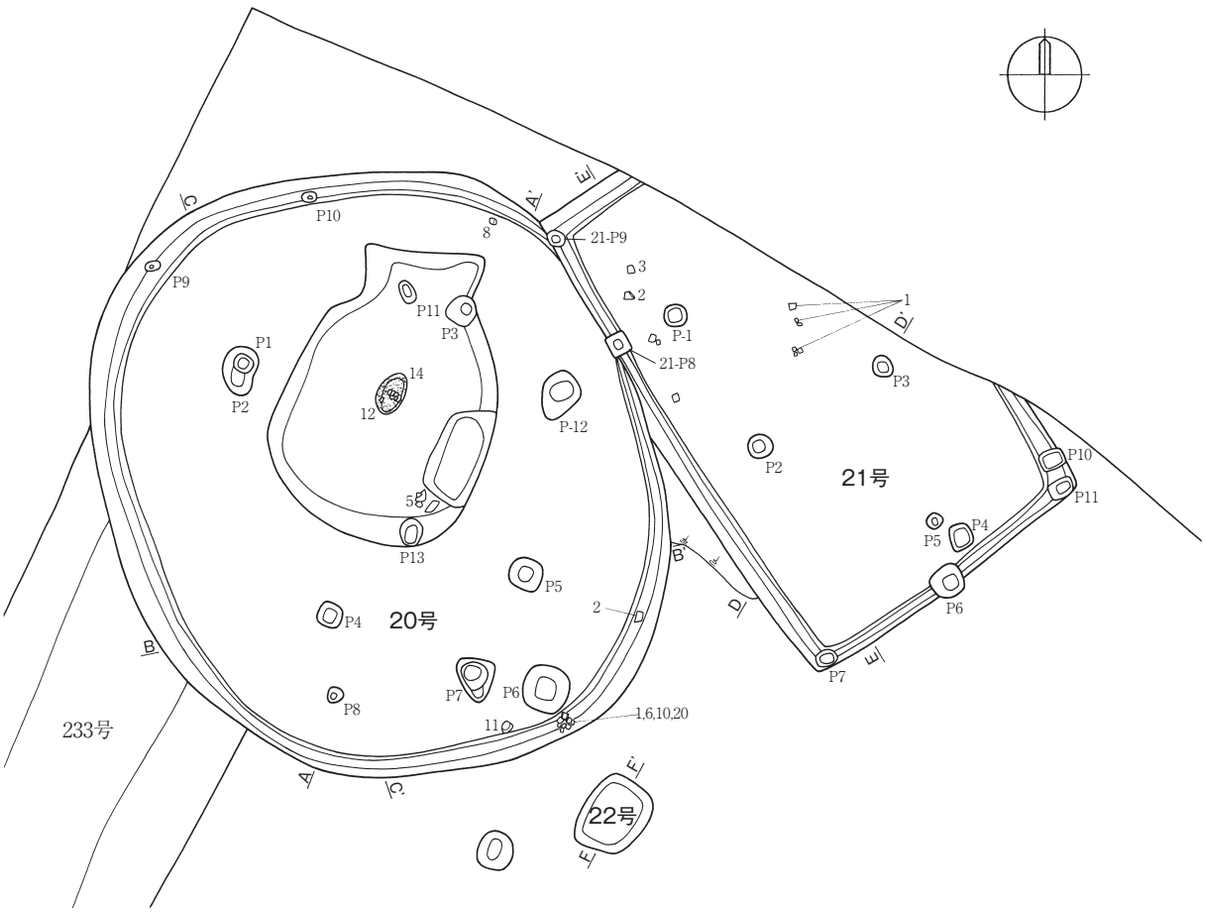
遺物

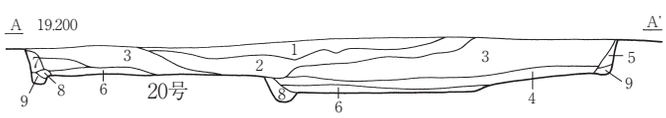
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

20号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号１号住居跡。調査区北端部に21号竪穴・233号溝と重複して存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径6.56m短径5.80mを測り、主軸方位はＮ－16°－Ｗを示す。炉はＰ１～Ｐ３間に検出された。火床長軸長0.48m幅0.28m深さ５cmを測り、火床主軸方位はＮ－25°－Ｅを示す。炉の存在する床面は周囲より15cm程不整形に掘り下がっている。当初土坑などの重複を考えたが、土層断面に大きな乱れがないことや、この一段掘り下がった範囲の遺物と通常床面の遺物を対比しても、時期的に大幅な齟齬がないことから、炉の付近は、当初より周囲から一段掘り下がった特異なプランの竪穴であった可能性が考えられる。

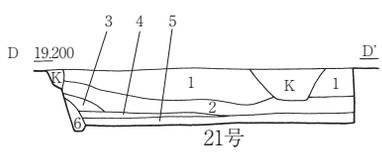
残存する壁高は、それぞれ東８cm、西25cm、南31cm、北34cmを測り、北壁が最も遺存状態がよい。周溝は全周し、深さは15～42cmを測り深い。床面はソフトローム層中に掘り込まれ全体的に軟弱であり、ピットは13ヶ所に検出された。深さはそれぞれＰ１が66cm、Ｐ２が40cm、Ｐ３が42cm、Ｐ４が59cm、Ｐ５が42cm、Ｐ６が32cm、Ｐ７が34cm、Ｐ８が８cm、Ｐ９が25cm、Ｐ10が19cm、Ｐ11・Ｐ12は測定値なし、Ｐ13が24cmを測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は掘り込みもしっかりしており主柱穴と考えられる。





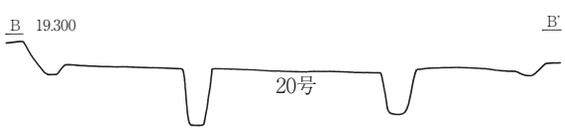
20号遺構

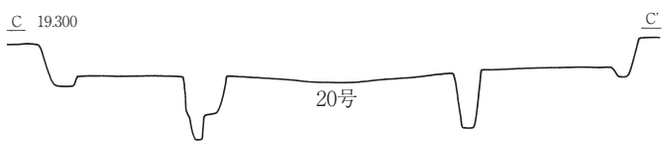
1 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒少量混入。
2 黒褐色土　ロームブロック小少量混入。
3 暗褐色土　ロームブロック小混入。
4 暗褐色土　ロームブロック小・ローム粒少量混入。
5 黒褐色土　ロームブロック中若干混入。
6 暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
7 暗褐色土　ローム粒少量混入。
8 暗褐色土　ロームブロック中～大混入。
9 暗褐色土　ロームブロック中混入。

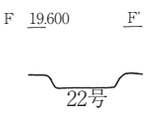


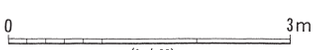
21号遺構

1 暗褐色土　ロームブロック小混入。
2 暗褐色土　ロームブロック中混入。
3 暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
4 暗褐色土　ロームブロック中～大混入。
5 黒褐色土　ロームブロック中少量混入。
6 暗褐色土　ロームブロック小～中少量混入。

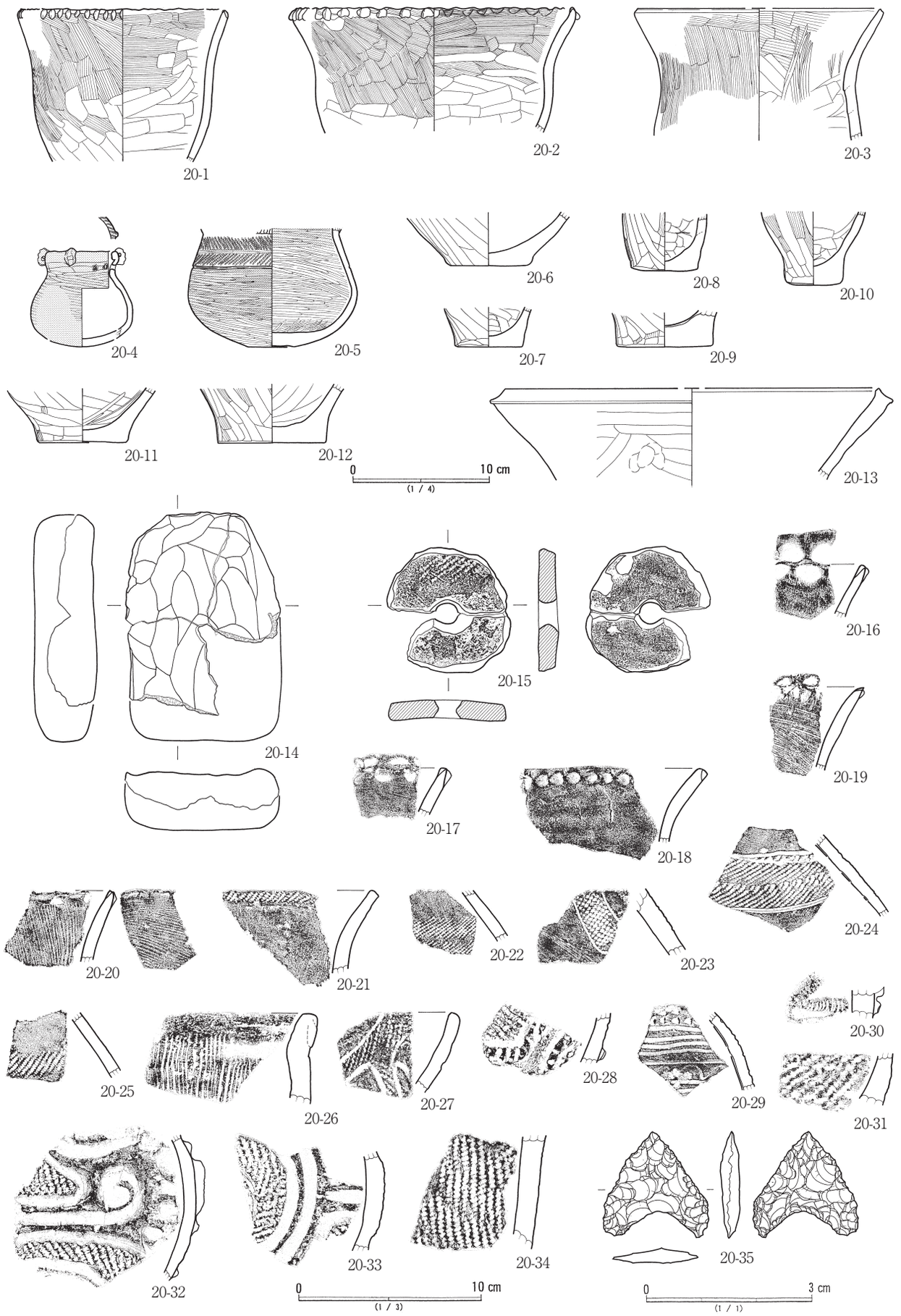








第30図　20～22号遺構実測図



第31図　20号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは216点5,168ｇの土器片と２点30.9ｇの礫・石器、１点170ｇの土製品が検出された。土器片の内訳は78点745ｇの土師器、３点75ｇの須恵器、115点3,711ｇの弥生土器、19点554ｇの縄文土器、１点83ｇの中世捏鉢、石器は１点0.9ｇの石鏃、土製品は１点170ｇのパン状土製品と１点50ｇの弥生土器片利用の土製円盤である。これらの出土遺物の内35点を図示した。

１・６・10・20は、南側周溝内より13㎝浮いた状態で出土し、８は北側周溝付近で、同じく床面より13㎝浮いた状態で検出されている。５は、一段掘り下がった炉周囲の床面から出土しており、12・14は炉火床に密着して検出された。14は扁平な手捏土製品・15は土器片再利用の有孔円盤である。これと類似した製品は御林跡遺跡89号竪穴からも出土している。

これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものはない。

21号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号２号住居跡。調査区北端部で20号竪穴と重複して存在する長方形の竪穴住居跡である。調査所見では２軒の方形竪穴が重複として調査されているが、土層断面に重複痕が認められないことや柱穴数、縄文や弥生土器を除いた土師器に時間差が認められないことから１軒の長方形竪穴として報告する。長径5.68ｍ短径3.56ｍを測り、主軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。カマドは未検出ながら、調査区域外の北壁前面に粘土の散布が認められると調査日誌にあり、北壁に接して構築されているものと捉えられる。

残存する壁高は、それぞれ東53㎝、西56㎝、南52㎝、北35㎝を測り、遺存状況は良好である。周溝は検出面で全周し、深さは６～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、ほぼ平坦であり、よく踏み固められている。ピットは11ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が20㎝、Ｐ２が15㎝、Ｐ３が19㎝、Ｐ４が20㎝、Ｐ５が20㎝、Ｐ６が63㎝、Ｐ７は測定値なし。Ｐ８が50㎝、Ｐ９が44㎝、Ｐ10が24㎝、Ｐ11が22㎝を測る。掘り込みは浅いが、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は出土位置から主柱穴と考えられる。

遺物

本遺構からは332点6,006ｇの土器片と３点10ｇの礫が検出された。土器片の内訳は267点4,638ｇの土師器、８点285ｇの須恵器、38点613ｇの弥生土器、19点470ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内23点を図示した。

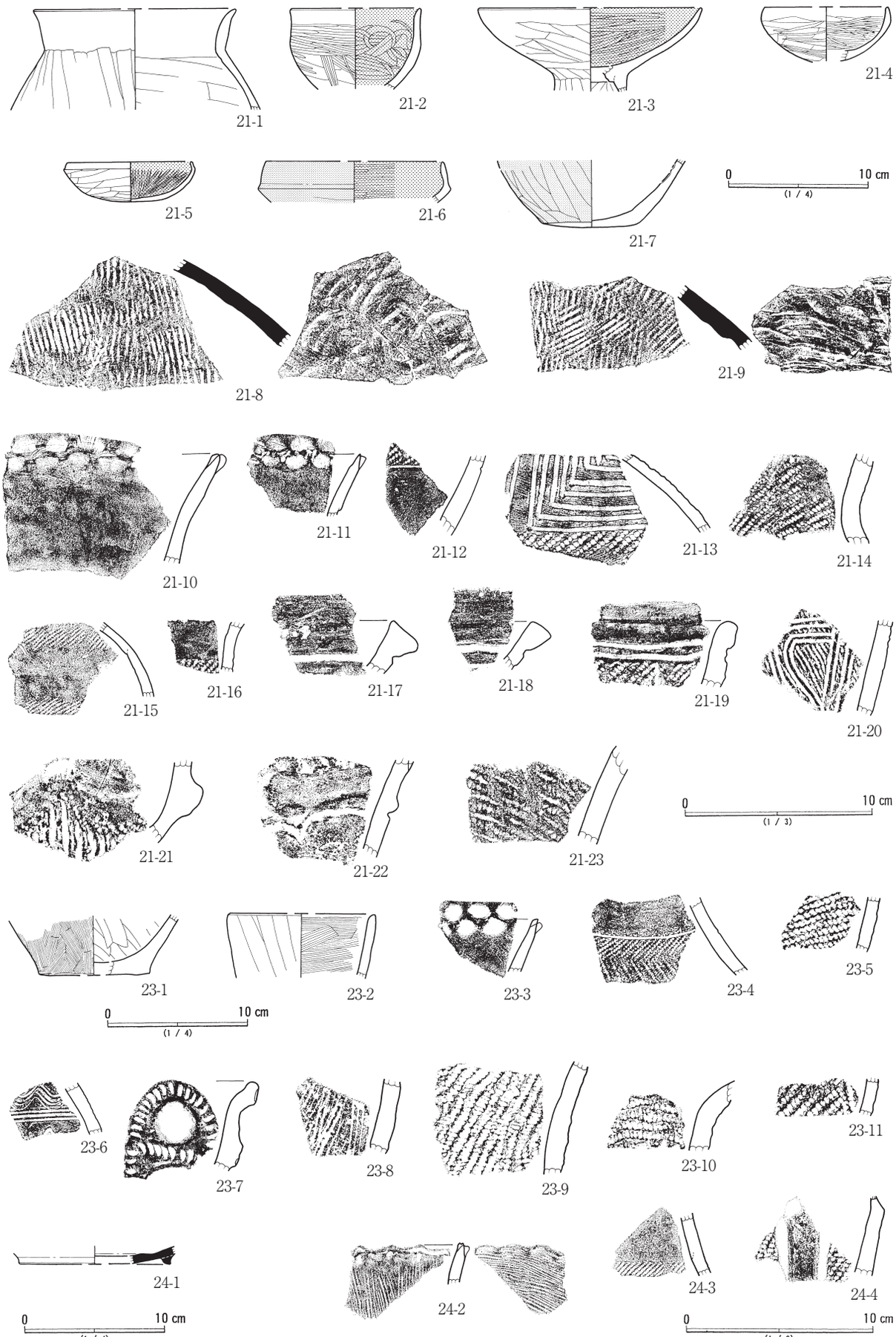
２・３は北側コーナー付近の床面から出土した土師器鉢と高坏である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

22号遺構（土坑）

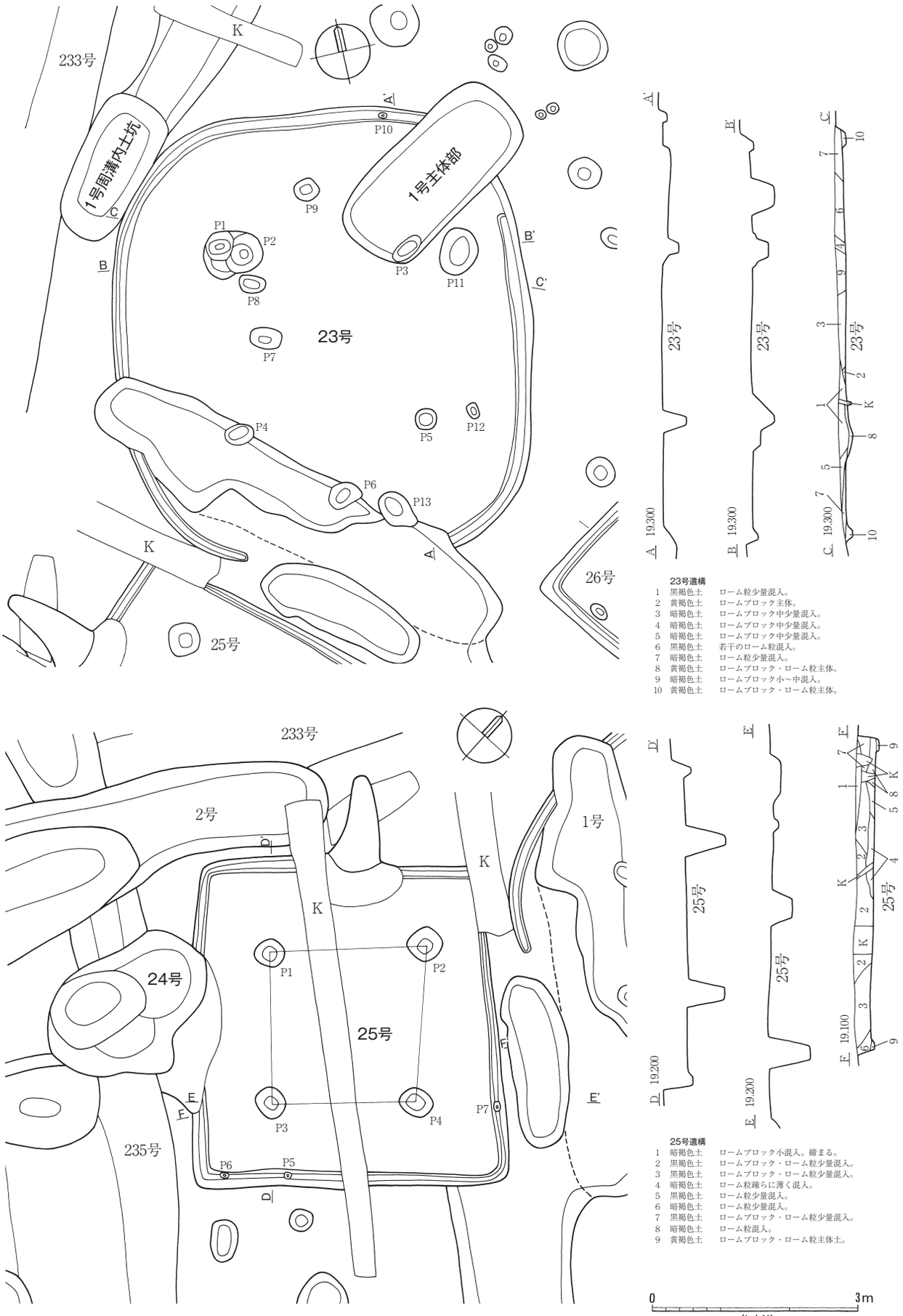
昭和54年度調査時遺構番号３号土坑。20号竪穴の南側に位置する長方形土坑である。長径0.82ｍ短径０・68ｍ測り、主軸方位はＮ－33°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東13㎝、西11.5㎝、南13㎝、北13㎝を測る。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。



第32図　21・23・24号遺構出土遺物実測図



第33図　23～25号遺構実測図

23号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号８号住居跡。調査区北側に位置し、１号方形周溝墓南側周溝・主体部に重複して存在する楕円形の竪穴住居跡である。残存長径6.40m短径6.20mを測り、主軸方位はＮ－７°－Ｅを示す。炉は検出されなかったが、出土遺物より火床施設は炉であった可能性が高い。

残存する壁高は、それぞれ東10cm、西８cm、北22cmを測るが、南は１号方形周溝墓に削平されて存在しない。周溝は検出面で全周し深さは６～13cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され平坦であり、よく踏み固められている。ピットは13ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が60cm、Ｐ２が74cm、Ｐ３が24cm、Ｐ４が59cm、Ｐ５が35cm、Ｐ６が60cm、Ｐ７が34cm、Ｐ８が30cm、Ｐ９が42cm、Ｐ10が20cm、Ｐ11が39cm、Ｐ12は測定値なし、Ｐ13が26cmを測る。

遺物

本遺構からは163点1,854ｇの土器片と１点160ｇの礫が検出された。土器片の内訳は62点470ｇの土師器、３点64ｇの須恵器、82点973ｇの弥生土器、15点325ｇの縄文土器、１点22ｇの中近世土器であり、これらの出土遺物の内11点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

24号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号22号土坑。25号竪穴の西側を削平して存在する不整形な土坑である。長径2.62m短径1.92m、深さ最大51.5cmを測り、主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。床面は凹凸激しく平坦ではない。

遺物

本遺構からは54点495ｇの土器片が検出された。土器片の内訳は、19点160ｇの土師器、４点55ｇの須恵器、27点230ｇの弥生土器、４点50ｇの縄文土器であり、これらの出土遺物の内４点を図示した。１は底部外面が高台を超える所謂伊場Ａ類の特徴を残しており、７世紀末葉～８世紀初頭に位置づけられるが、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

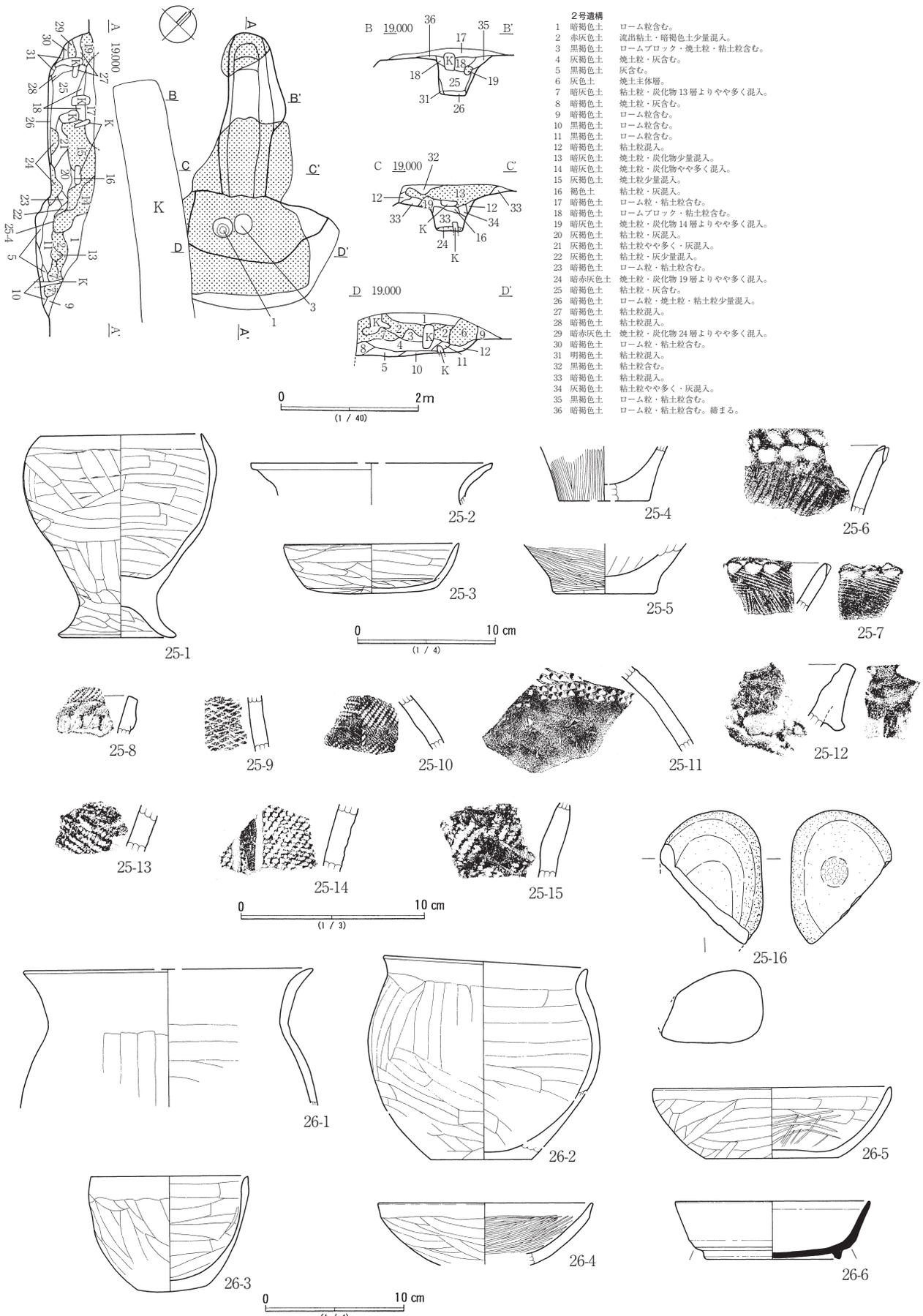
25号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号９号住居跡。２号方形周溝墓を削平し、24号土坑に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.80m短径4.40mを測り、主軸方位はＮ－42°－Ｗを示す。カマドは北西壁中央に構築され、煙道部が長い構造を呈しているが、火床構造は不明である。

残存する壁高は、それぞれ東６cm、西７cm、南23cm、北28cmを測り、周溝はほぼ全周し、深さは６～９cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で非常によく踏み固められており、ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が53cm、Ｐ２は62cm、Ｐ３は58cm、Ｐ４は30cmを測る。Ｐ５・Ｐ６・Ｐ７は周溝内ピットであり、深さはそれぞれ17cm・10cm・４cmを測る。

遺物

本遺構からは162点2,552ｇの土器片と１点43ｇの礫、１点210ｇの磨石、１点116ｇの支脚片が検出された。土器片の内訳は124点1,815ｇの土師器、１点44ｇの須恵器、33点595ｇの弥生土器、４点98ｇの縄文土器であり、これらの出土遺物の内16点を図示した。１・３はカマド内中層から検出された台付き鉢と土師器坏である。坏型土器の年代観から８世紀第２四半世紀から中葉にかけての製品と察



第34図　25号遺構実測図・25・26号遺構出土遺物実測図

知される。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

26号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号７号住居跡。１号方形周溝墓東溝を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.74m短径4.62mを測り、主軸方位はＮ－40°－Ｗを示す。カマドは北西壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東33㎝西46㎝南28㎝北37㎝を測り、周溝は全周し、深さは３～８㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦でカマド周囲は非常によく踏み固められており、ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が29㎝、Ｐ２は48㎝、Ｐ３は43㎝、Ｐ４は54㎝を測る。このほか、Ｐ５は18㎝、Ｐ６は８㎝を測る。

遺物

本遺構からは157点5,736ｇの土器片と２点2,366ｇの礫･石器、１点4.2ｇの閂状鉄器が検出された。土器片等の内訳は、104点4,426ｇの土師器、５点219ｇの須恵器、17点128ｇの弥生土器、31点963ｇの縄文土器であり、石器は磨石である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

１はカマド前面、３は北側コーナー部の床面から出土した。２・６・21床直ないしは床面から２～12㎝浮いた状態で検出されている。11は市原市北ノ原遺跡27号方墳の地下式横穴墓主体部から出土した閂状鉄器と称された製品と類似した形態を呈している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

27号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号21号土坑。26号竪穴の南側に単独で存在する長方形土坑である。長径1.77m短径1.10mを測り、主軸方位はＮ－43°－Ｅを示す。

残存する壁高は、それぞれ東26.5㎝、西27.7㎝、南24.7㎝、北31.2㎝を測り、底面はほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

28号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号３号住居跡。３号方形周溝墓の北側に位置し、プランの大半は調査区域外に存在する竪穴住居跡である。残存長径4.15m残存短径1.28mを測るが、主軸方位は不明である。残存する壁高は６㎝前後を測るが、炉跡等の火床施設は検出されておらず、検出範囲での周溝は全周し、深さは４～10㎝前後を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で非常によく踏み固められている。ピットは１ヶ所に検出され、深さは11㎝を測る。

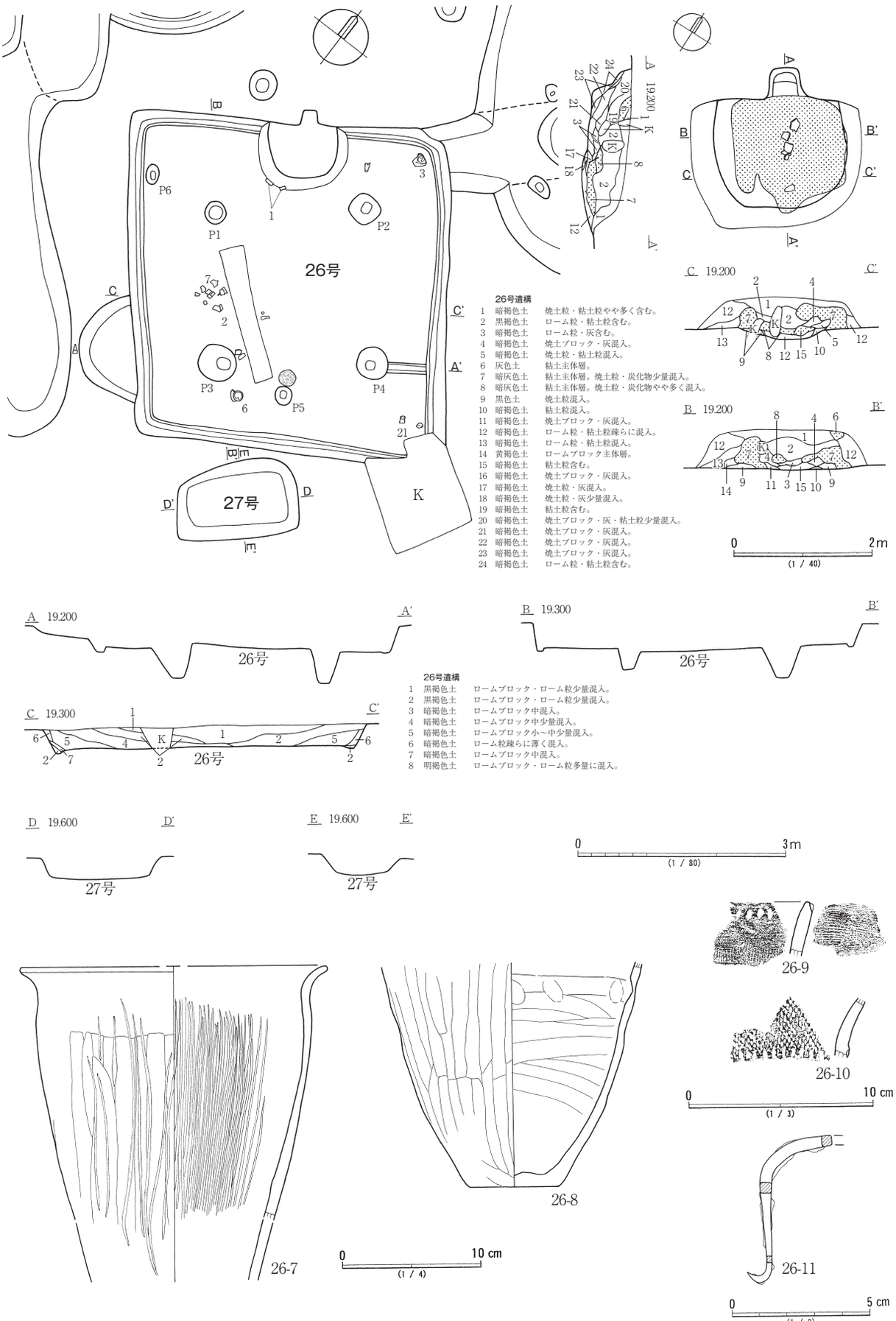
遺物

本遺構からは19点195ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、12点135ｇの土師器、７点60ｇの弥生土器であり、これらの出土遺物の内１点を図示した。

本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

29号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号４号住居跡。28号竪穴の東側に隣接して存在し、プランの大半は調査区域外に存在する竪穴住居跡である。残存長径3.38m残存短径1.40mを測るが､主軸方位は不明である。カマドや炉跡等の火床施設は検出されておらず、残存する壁高は30㎝前後を測る。床面はソフトロー



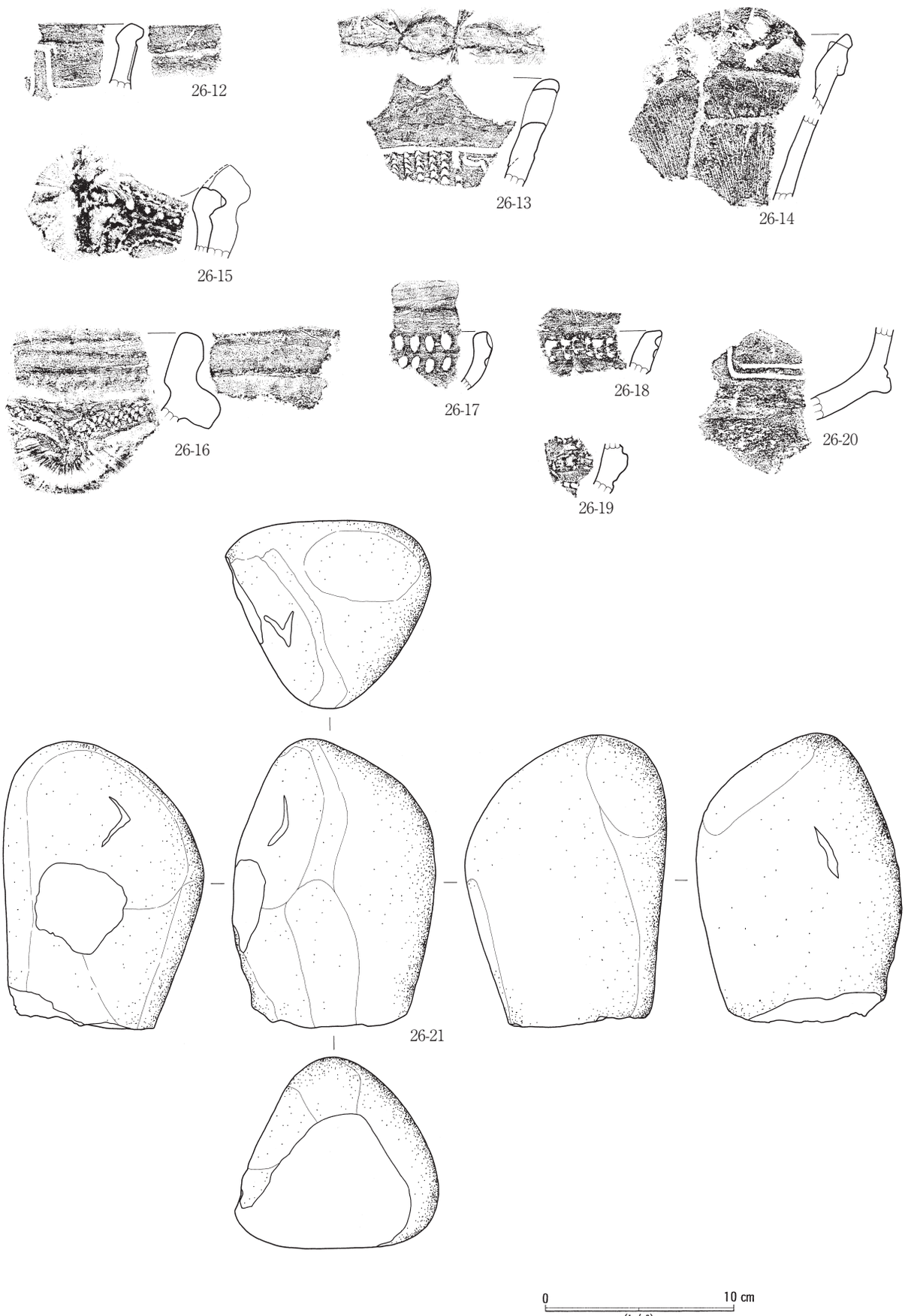
26号遺構

1	暗褐色土	焼土粒・粘土粒やや多く含む。
2	黒褐色土	ローム粒・粘土粒含む。
3	暗褐色土	ローム粒・灰含む。
4	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。
5	暗褐色土	焼土粒・粘土粒混入。
6	灰色土	粘土主体層。
7	暗灰色土	粘土主体層。焼土粒・炭化物少量混入。
8	暗灰色土	粘土主体層。焼土粒・炭化物やや多く混入。
9	黒色土	焼土粒混入。
10	暗褐色土	粘土粒混入。
11	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。
12	暗褐色土	ローム粒・粘土粒疎らに混入。
13	暗褐色土	ローム粒・粘土粒混入。
14	黄褐色土	ロームブロック主体層。
15	暗褐色土	粘土粒含む。
16	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。
17	暗褐色土	焼土粒・灰混入。
18	暗褐色土	焼土粒・灰少量混入。
19	暗褐色土	粘土粒含む。
20	暗褐色土	焼土ブロック・灰・粘土粒少量混入。
21	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。
22	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。
23	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。
24	暗褐色土	ローム粒・粘土粒含む。

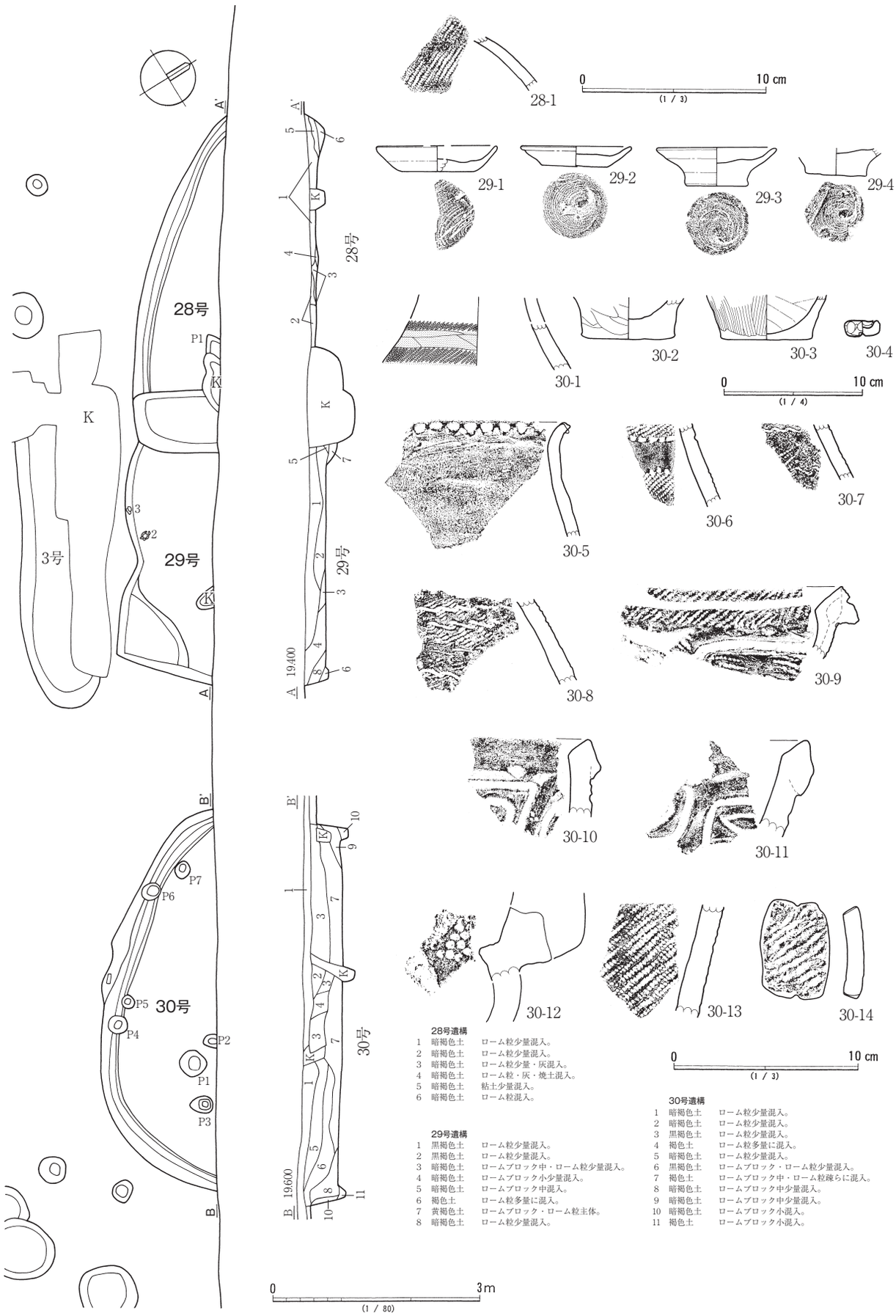
26号遺構

1	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
2	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
3	暗褐色土	ロームブロック中混入。
4	暗褐色土	ロームブロック中少量混入。
5	暗褐色土	ロームブロック小～中少量混入。
6	暗褐色土	ローム粒疎らに薄く混入。
7	暗褐色土	ロームブロック中混入。
8	明褐色土	ロームブロック・ローム粒多量に混入。

第35図　26・27号遺構実測図・26号遺構出土遺物実測図



第36図　26号遺構出土遺物実測図



28号遺構

1	暗褐色土	ローム粒少量混入。
2	暗褐色土	ローム粒少量混入。
3	暗褐色土	ローム粒少量・灰混入。
4	暗褐色土	ローム粒・灰・焼土混入。
5	暗褐色土	粘土少量混入。
6	暗褐色土	ローム粒混入。

29号遺構

1	黒褐色土	ローム粒少量混入。
2	黒褐色土	ローム粒少量混入。
3	暗褐色土	ロームブロック中・ローム粒少量混入。
4	暗褐色土	ロームブロック小少量混入。
5	暗褐色土	ロームブロック中混入。
6	褐色土	ローム粒多量に混入。
7	黄褐色土	ロームブロック・ローム粒主体。
8	暗褐色土	ローム粒少量混入。

30号遺構

1	暗褐色土	ローム粒少量混入。
2	暗褐色土	ローム粒少量混入。
3	黒褐色土	ローム粒少量混入。
4	褐色土	ローム粒多量に混入。
5	暗褐色土	ローム粒少量混入。
6	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
7	褐色土	ロームブロック中・ローム粒疎らに混入。
8	暗褐色土	ロームブロック中少量混入。
9	暗褐色土	ロームブロック中少量混入。
10	暗褐色土	ロームブロック小混入。
11	褐色土	ロームブロック小混入。

第37図　28～30号遺構実測図・28～30号遺構出土遺物実測図

ム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。

遺物

本遺構からは４点216ｇの土師質土器が出土した。この内２は床面より７㎝程浮いた状態で、３は床面から出土した。これ以外は覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点は明示できない。

30号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号５号住居跡。29号竪穴の東側に隣接し、プランの大半は調査区域外に存在する方形の竪穴住居跡である。平面プラン楕円形の弥生竪穴住居跡として捉えられ、残存長径5.55ｍ残存短径1.68ｍを測るが、主軸方位は不明である。炉跡等の火床施設は検出されておらず、残存する壁高は、それぞれ38㎝前後を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは７か所に検出され、深さはＰ１が46㎝、Ｐ２が18㎝、Ｐ３は51㎝、Ｐ４は25㎝、Ｐ５が６㎝、Ｐ６が２㎝、Ｐ７が16㎝を測る。

遺物

本遺構からは57点1,249ｇの土器片と２点112ｇの礫が検出された。土器片の内訳は９点153ｇの土師器、１点９ｇの須恵器、38点760ｇの弥生土器、１点８ｇの手づくね土器、８点319ｇの縄文土器、１点28ｇは縄文土器細片利用の土器片錘であり、これらの出土遺物の内14点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

31号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号12Ａ・Ｂ号住居跡。調査区西側に位置し、報告済み台遺跡Ｂ地点68号Ｂ竪穴・233号溝・244号Ｖ字溝・６号方形周溝墓北側周溝に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。推定長径7.00ｍ残存短径4.70ｍを測り、主軸方位はＮ－41°－Ｅを示す。炉は中央やや北側に位置し、233号溝に削平されて存在し、残存する火床長径0.65ｍ短径0.48ｍ深さ8.5㎝を測り、復元される火床主軸方位はＮ－27°－Ｅを示す。

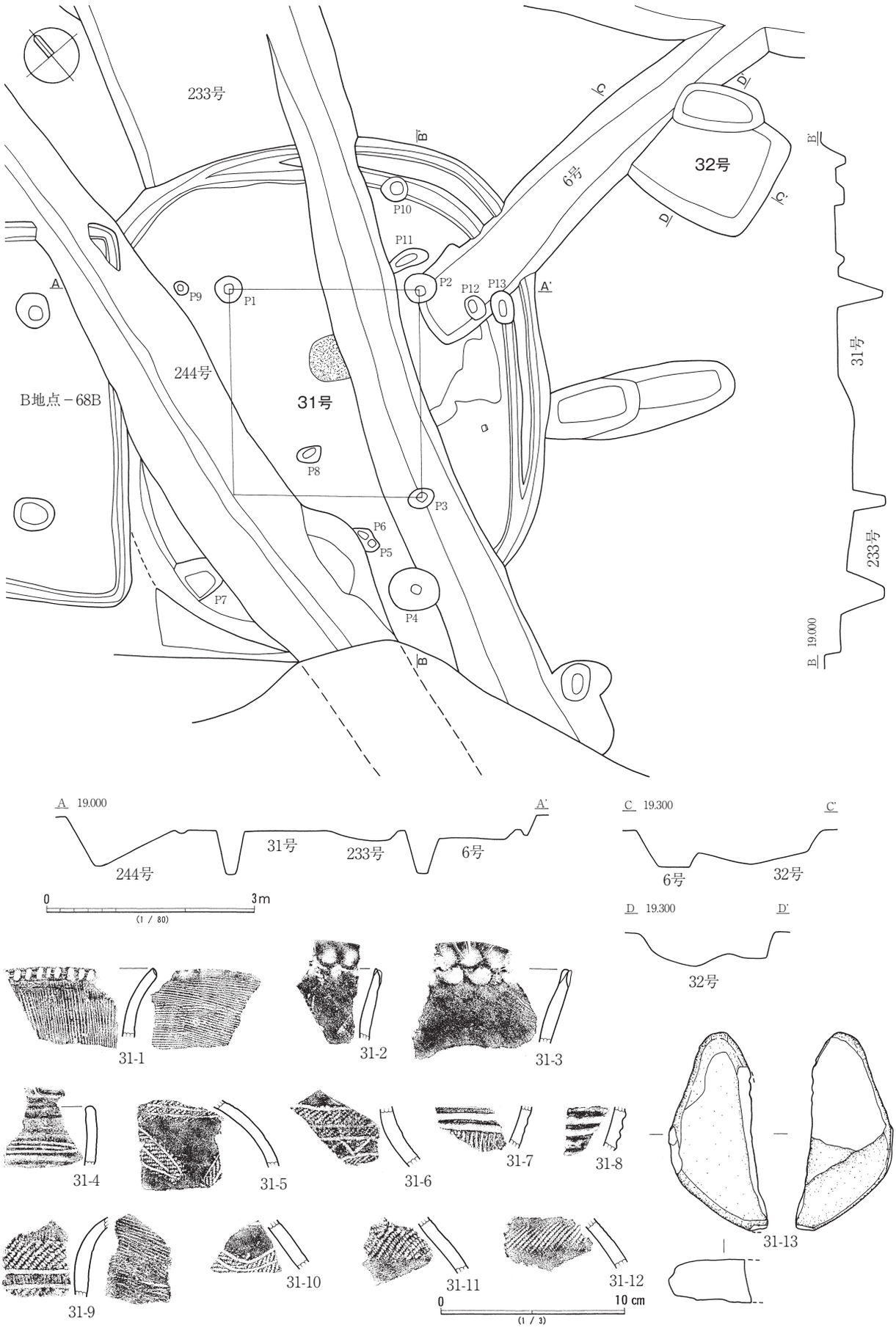
残存する壁高は、それぞれ東１㎝西６㎝南１㎝を測り、北壁は測定値がない。周溝は削平された個所以外はほぼ全周し、東から北側にかけて拡張された痕跡を残し、深さは10～17㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であるが軟弱である。ピットは13ヶ所に検出され、深さはＰ１が62.5㎝、Ｐ２は63㎝、Ｐ３は47.5㎝、Ｐ４は64㎝、Ｐ５が15㎝、Ｐ６が16㎝、Ｐ７が15㎝、Ｐ８は17.5㎝、Ｐ９は12㎝、Ｐ10は22㎝、Ｐ11が13㎝、Ｐ12が30㎝、Ｐ13が28.5㎝を測る。Ｐ１からＰ３は掘り込みも深く主柱穴に、Ｐ４はその位置から貯蔵穴と想定される。

遺物

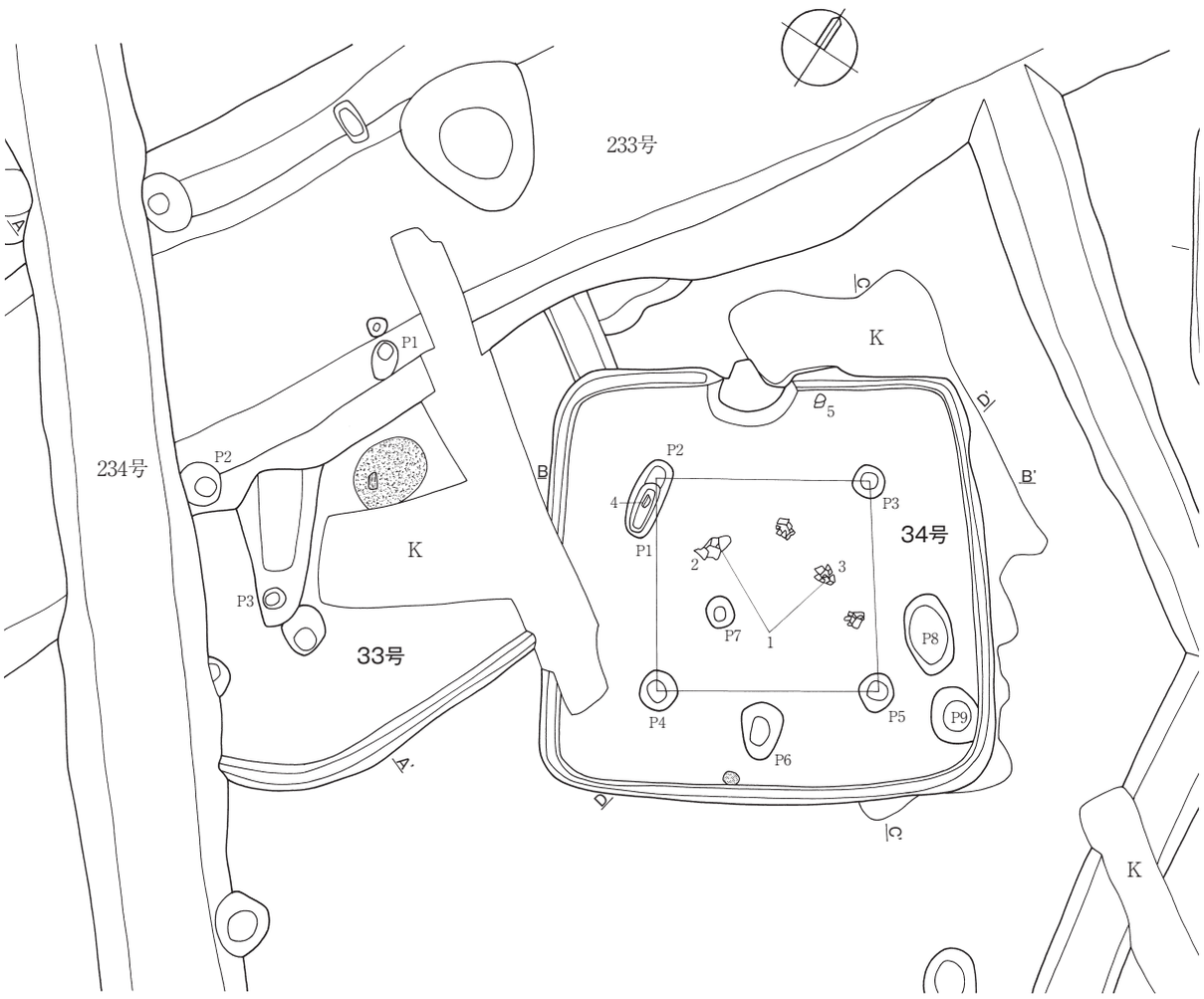
本遺構からは110点1,387ｇの土器片と３点253ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、13点176ｇの土師器、１点44ｇの須恵器、91点1,108ｇの弥生土器、５点59ｇの縄文土器、１点185ｇの磨石である。これらの出土遺物の内13点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

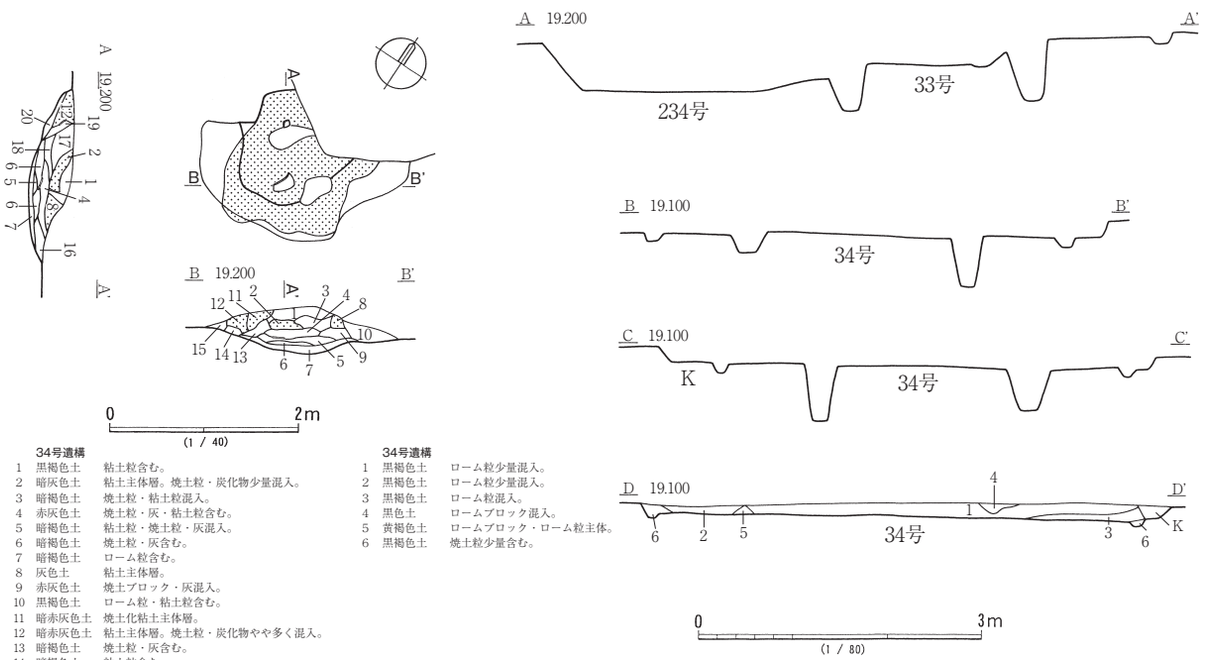
32号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号24号土坑。31号竪穴の東側に位置し、６号方形周溝墓北溝に削平され存在する方形土坑である。残存長径1.83ｍ短径1.80ｍ、深さ最大50.4㎝を測り、主軸方位はＮ－18°－Ｗを示す。底面は緩やかなカーブを描き、ピットは１ヶ所に検出され、深さは46㎝を測る。



第38図　31・32号遺構実測図・31号遺構出土遺物実測図





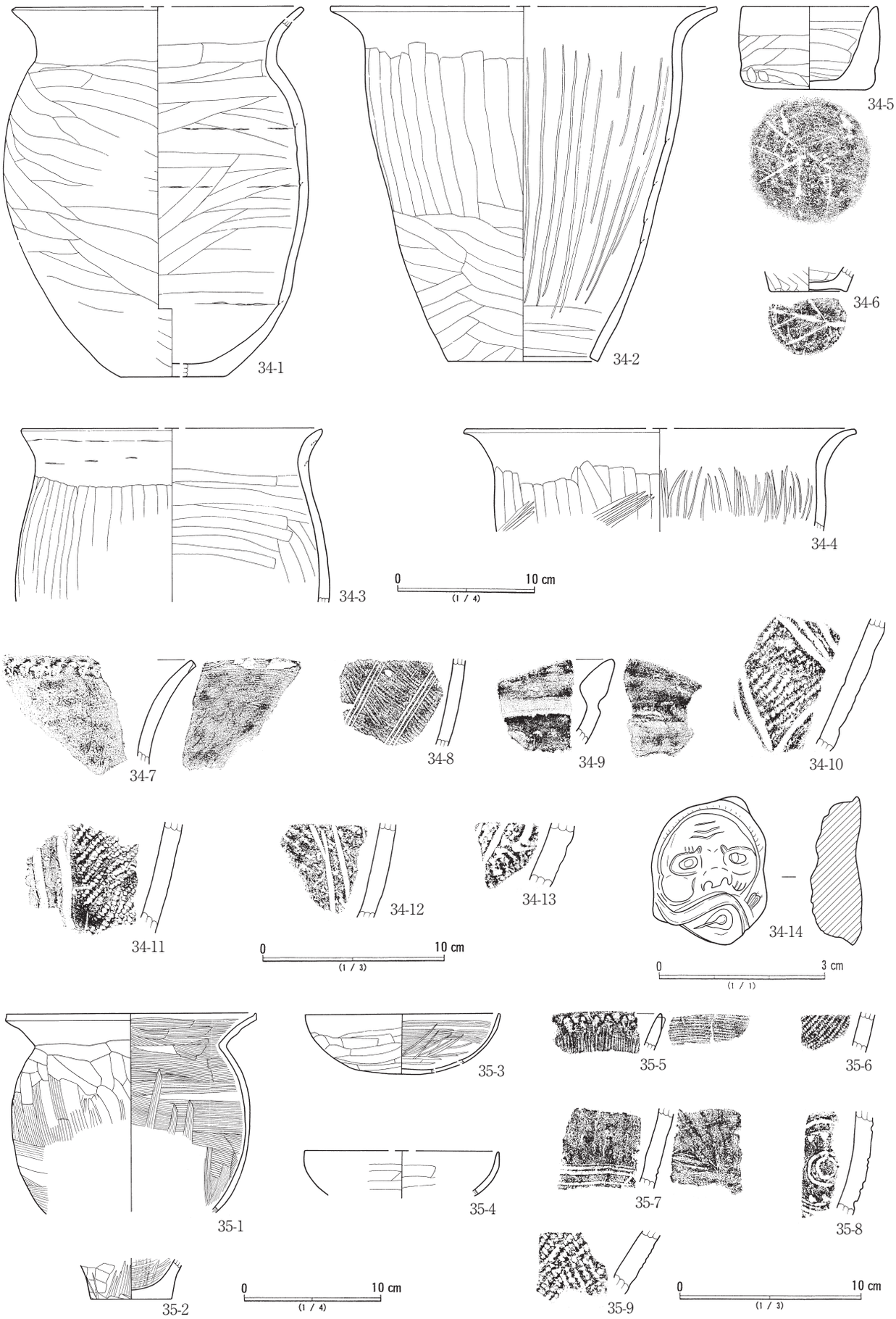
34号遺構

1	黒褐色土	粘土粒含む。
2	暗灰色土	粘土主体層。焼土粒・炭化物少量混入。
3	暗褐色土	焼土粒・粘土粒混入。
4	赤灰色土	焼土粒・灰・粘土粒含む。
5	暗褐色土	粘土粒・焼土粒・灰混入。
6	暗褐色土	焼土粒・灰含む。
7	暗褐色土	ローム粒含む。
8	灰色土	粘土主体層。
9	赤灰色土	焼土ブロック・灰混入。
10	黒褐色土	ローム粒・粘土粒含む。
11	暗赤灰色土	焼土化粘土主体層。
12	暗赤灰色土	粘土主体層。焼土粒・炭化物やや多く混入。
13	暗褐色土	焼土粒・灰含む。
14	暗褐色土	粘土粒含む。
15	暗褐色土	ローム粒・粘土粒含む。
16	黒褐色土	焼土粒・粘土粒・灰少量混入。
17	黒褐色土	粘土粒含む。
18	暗褐色土	焼土粒少量・粘土粒・灰混入。
19	暗褐色土	粘土粒含む。
20	暗褐色土	ローム粒・粘土粒少量混入。

34号遺構

1	黒褐色土	ローム粒少量混入。
2	黒褐色土	ローム粒少量混入。
3	黒褐色土	ローム粒混入。
4	黒色土	ロームブロック混入。
5	黄褐色土	ロームブロック・ローム粒主体。
6	黒褐色土	焼土粒少量含む。

第39図　33・34号遺構実測図



第40図　34・35号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

33号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号73号住居跡。31号竪穴の北側に位置し233号・234号溝・34号竪穴に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。残存長径5.15m残存短径2.94mを測る。炉は長径0.84m短径0.65m深さ10.5cmを測り、火床主軸方位はＮ－17°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東4.5cm、南3.4cmを測り、周溝は削平された個所以外はほぼ全周し、深さは4.5～8.3cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であるが軟弱である。ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が35.4cm、Ｐ２は32cm、Ｐ３は3.6cmを測る。炉内からは炭化材が検出されている。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

34号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号11号住居跡。33号竪穴の東に位置し、33号竪穴を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.83m短径4.60mを測り、主軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東2cm、西13cm、南12cm、北11cmを測る。周溝は撹乱により削平された個所以外はほぼ全周し、深さは７～13cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であるが軟弱である。ピットは９ヶ所に検出され、深さはＰ１が28cm、Ｐ２は22cm、Ｐ３は56cm、Ｐ４は45cm、Ｐ５が40cm、Ｐ６が33cm、Ｐ７が29cm、Ｐ８は23cm、Ｐ９は25cmを測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は掘り込みも深く主柱穴と想定される。Ｐ５はその位置から入り口施設に伴うもの、Ｐ８・Ｐ９は貯蔵穴と想定される。

遺物

本遺構からは189点6,377ｇの土器片と１点31ｇの礫・石器、１点４ｇの土製品が検出された。土器片等の内訳は、156点5,671ｇの土師器、４点45ｇの須恵器、15点320ｇの弥生土器、14点341ｇの縄文土器、１点４ｇの泥メンコである。これらの出土遺物の内14点を図示した。１～３は床面密着の状態で検出された。４はＰ１内から出土した甑である。５はカマド左脇の床面から出土した鉢である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

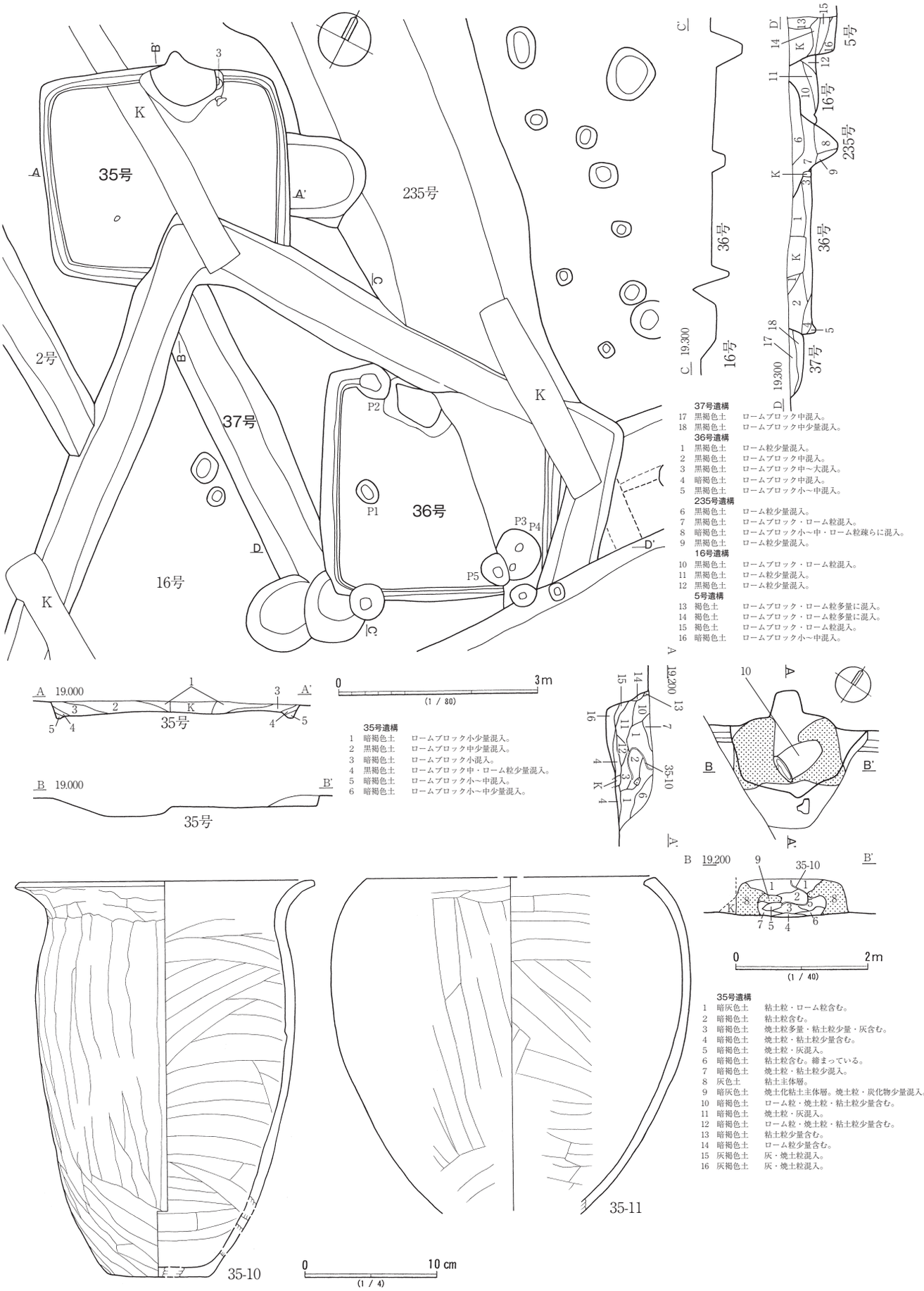
35号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号10号住居跡。16号改葬系区画墓と重複して存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.71m短径3.28mを測り、主軸方位はＮ－32°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東21cm、西19cm、南14cm、北20cmを測る。周溝はほぼ全周し、深さは６～10cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であり、遺構中央部が固く引き締まる。ピットは検出されなかった。

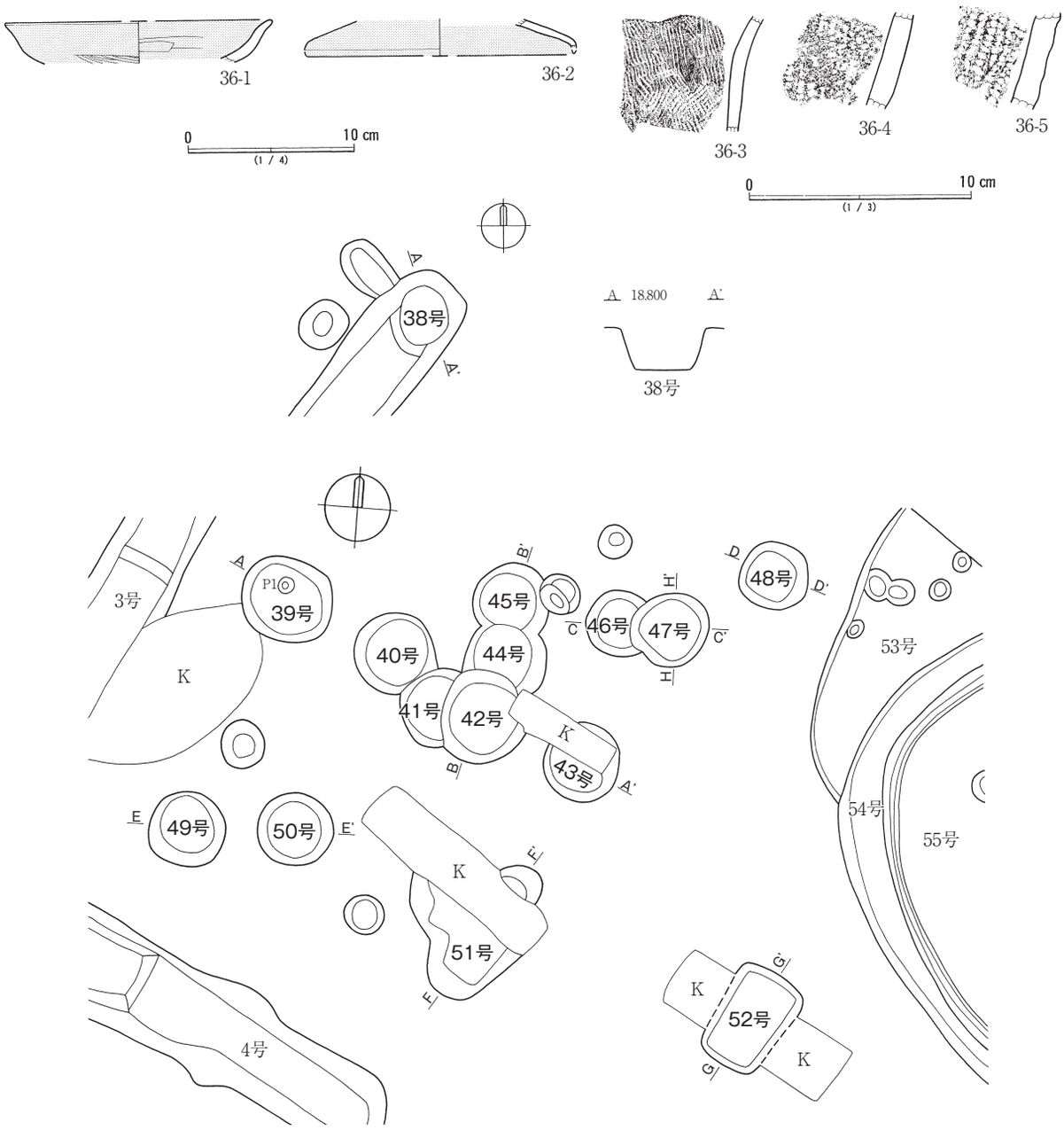
遺物

本遺構からは97点4,070ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、90点3,977ｇの土師器、１点７ｇの須恵器、２点13ｇの弥生土器、３点66ｇの縄文土器、１点７ｇの中近世土器であり、これらの出土遺物の内11点を図示した。

１は、カマド右脇床面から21cm浮いた状態で検出された土師器甕である。３はカマド粘土の上から



第41図　35～37号遺構実測図・35号遺構出土遺物実測図



第42図　38～52号遺構実測図・36号遺構出土遺物実測図

検出された土師器坏である。10はカマド内一括で検出された土師器甕である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。11は覆土一括で検出された土師器鉄鉢形土器である。この手の土器はしばしば蔵骨器として火葬墓から出土する例があり、重複する16号方形区画改葬墓との関連性を考えてみてもよいのかも知れない。

36号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号23号住居跡。35号竪穴の南側に位置し、16号方形区画改葬墓及び235号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.62m短径3.60mを測り、主軸方位はＮ－26°－Ｗを示す。カマドは北壁中央部に構築され、残存する壁高は、それぞれ西で29㎝、南２㎝、北29.2㎝を測る。周溝は検出面で全周し、深さは6.3～13.0㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であるが軟弱である。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が21㎝、Ｐ２は16.2㎝、Ｐ３が46.9㎝、Ｐ４は59.1㎝、Ｐ５は85.2㎝を測る。

遺物

本遺構からは48点750ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、40点592ｇの土師器、２点43ｇの須恵器、３点48ｇの弥生土器、３点67ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。１は土師器坏、２は土師器蓋であり、何れも赤彩が施されている。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

37号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。16号方形区画改葬墓方台部内に存在し36号竪穴と重複して存在する溝状遺構である。長さ4.00m幅0.95～1.04mを測り、主軸方位はＮ－53°－Ｗを示す。断面形状は逆台形を呈し、深さは24㎝前後を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

38号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号23号土坑。２号方形周溝墓南側周溝先端部に存在する円形土坑である。長径1.05m短径0.94m、深さ49.5㎝を測り、主軸方位はＮ－５°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

39号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号５号土坑。３号方形周溝墓の東に位置する円形土坑である。長径1.18m短径1.05m、深さ最大27.7㎝を測り、主軸方位はＮ－47°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦で、ピットは１ヶ所に検出され、深さは15.9㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

40号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号８号土坑。39号土坑の東に位置する円形土坑で、41号土坑と重複する。長径1.00m短径0.88m、深さ最大30.4㎝を測り、主軸方位はＮ－30°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、

ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

41号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号９号土坑。40号土坑の東に位置する円形土坑で、40号・42号土坑と重複する。長径0.99m残存短径0.54m、深さ最大38.4㎝を測り、主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

42号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号10号土坑。41号土坑の東に位置する円形土坑である。長径1.14m短径1.04m、深さ最大40.9㎝を測り、主軸方位はＮ－16°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

43号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号16号土坑。42号土坑の東に位置する円形土坑である。長径0.93m短径0.90m、深さ最大19.7㎝を測り、主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

44号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号11号土坑。42号土坑の北側に位置する円形土坑である。長径0.98m残存短径0.58m、深さ最大24.3㎝を測り、主軸方位はＮ－９°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

45号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号12号土坑。44号土坑の北側に位置する円形土坑である。長径0.92m残存短径0.76m、深さ最大21.7㎝を測り、主軸方位はＮ－84°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

46号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号14Ｂ号土坑。45号土坑の東側に位置する円形土坑である。長径0.82m残存短径0.57m、深さ最大13.6㎝を測り、主軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

47号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号14Ａ号土坑。46号土坑の東側に位置する円形土坑である。長径0.97m短径0.88m、深さ最大31.1cmを測り、主軸方位はＮ－63°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

48号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号14Ｃ号土坑。47号土坑の東側に位置する単独の円形土坑である。長径0.87m短径0.83m、深さ最大21cmを測り、主軸方位はＮ－62°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

49号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号６号土坑。４号方形周溝墓の北側に単独で存在する円形土坑である。長径0.94m短径0.92m、深さ最大25.2cmを測り、主軸方位はＮ－62°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

50号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号７号土坑。49号土坑の東側に位置する単独の円形土坑である。長径0.93m短径0.88m、深さ最大33.0cmを測り、主軸方位はＮ－89°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

51号遺構（土坑）

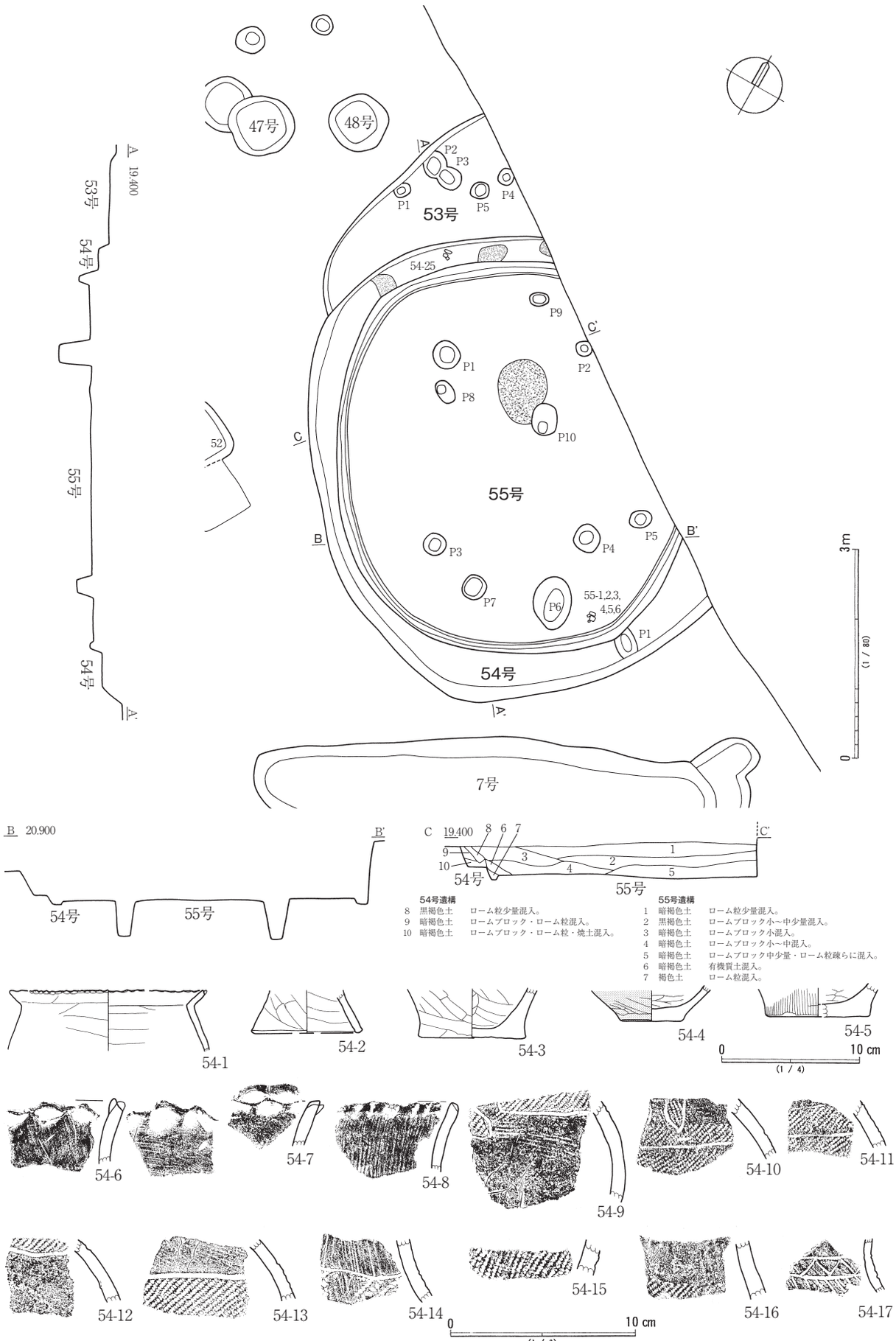
昭和54年度調査時遺構番号17号土坑。42号土坑の南側に位置する単独の不整形土坑である。遺構1/2弱を撹乱により削平され、遺存状況は極めて不良である。長径1.85m短径1.65m、深さ最大38.5cmを測り、主軸方位はＮ－30°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

52号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号18号土坑。51号土坑の東側に単独で存在する長方形土坑である。遺構大半を撹乱により削平され、遺存状況は極めて不良である。長径1.27m推定短径0.83m、深さ最大17.5cmを測り、主軸方位はＮ－28°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。



第43図　53～55号遺構実測図・54号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

53号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号６Ｃ号住居跡。48号土坑東側に位置し、54号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。東側の大半は調査区域外に存在し、残存長径3.30m短径1.96mを測るが、炉・カマドの所在等は不明である。残存する壁高は西壁で７㎝を測り、掘り込みは極めて浅く、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であり硬く引き締まっている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が15㎝、Ｐ２は37㎝、Ｐ３が17㎝、Ｐ４は16㎝、Ｐ５は16㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

54号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号６Ａ号住居跡。53号竪穴の南側に位置し、53号竪穴を削平し55号竪穴に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。東側の一部は調査区域外に所在し、長径6.70m残存短径4.70mを測り、主軸方位はＮ－42°－Ｗを示す。遺構プランから火床施設は炉と想定されるが、55号竪穴に削平されて存在しない。残存する壁高は、それぞれ西で35㎝、南25㎝、北11㎝を測り、周溝は未検出である。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められており、ピットは１ヶ所に検出され、深さは10㎝を測る。北側の３ヶ所から焼土が検出され、厚さ４～８㎝を測る。

遺物

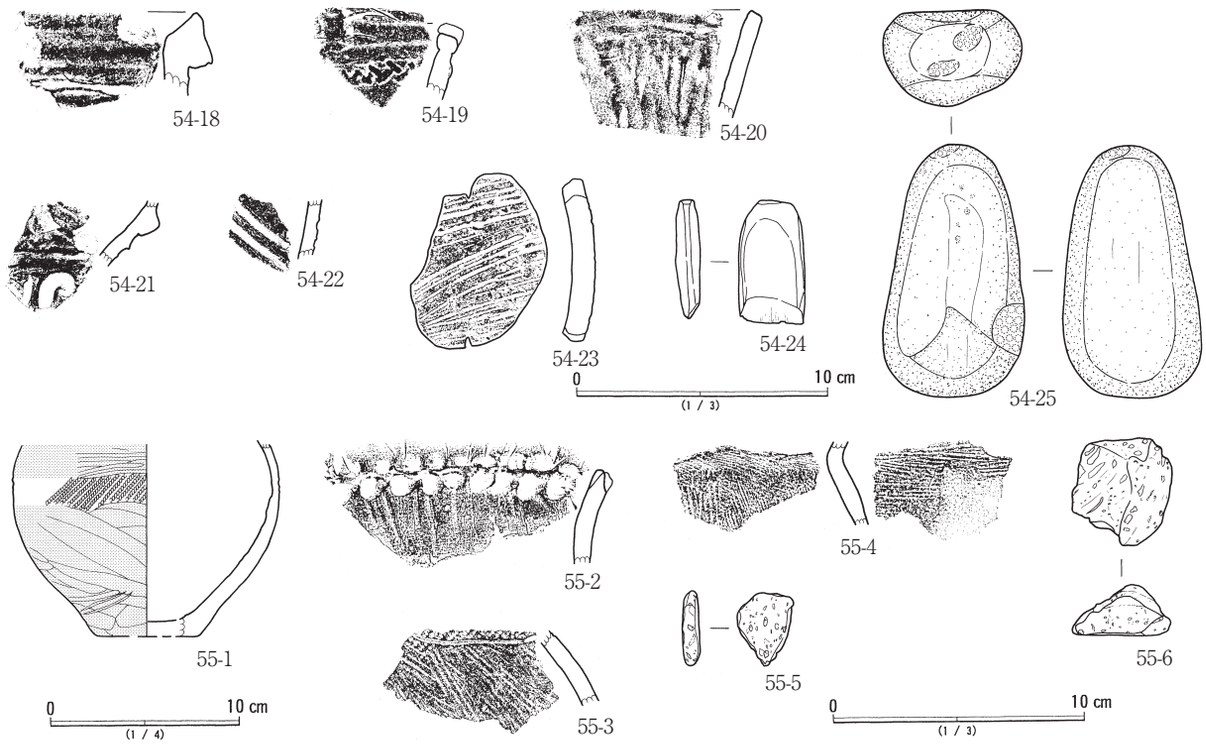
本遺構からは154点2,433ｇの土器片と３点370ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、61点1,020ｇの土師器、87点1,313ｇの弥生土器、６点100ｇの縄文土器、１点335ｇの磨石、１点25ｇの磨製石斧である。これらの出土遺物の内25点を図示した。25は北側の壁際の床面から５㎝程浮いた状態で検出された磨石である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

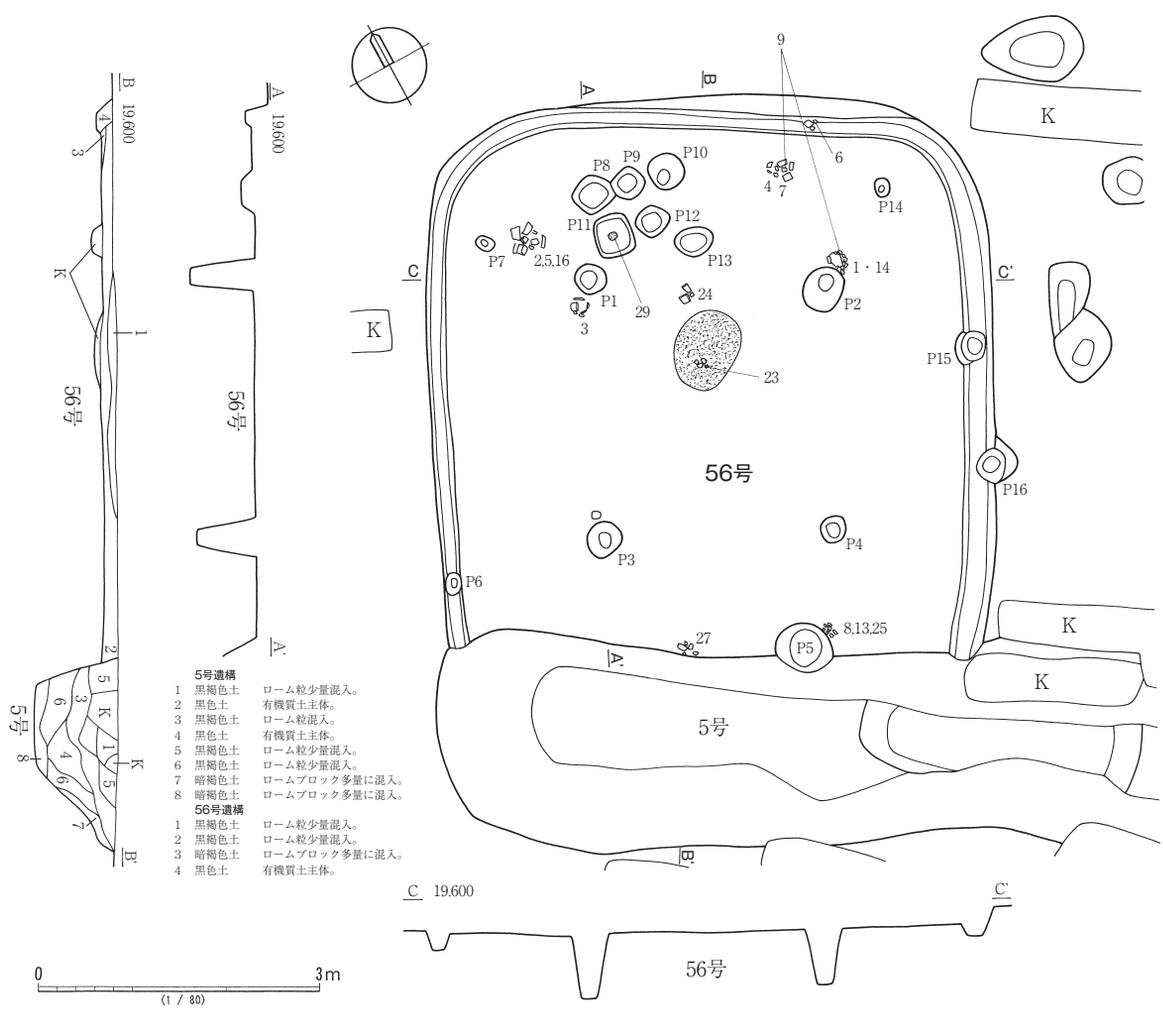
55号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号６Ｂ号住居跡。54号竪穴のほぼ中央に位置し、遺構東側の一部は調査区域外に存在するものの54号竪穴を削平して存在する楕円形の竪穴住居跡として捉えられる。長径5.66m残存短径4.33mを測り、主軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。炉は中央やや北側に位置し、長径0.93m短径0.6m深さ11㎝を測り、火床長軸方向はＮ－31°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で14㎝、西で14㎝、南15㎝、北13㎝を測る。周溝は検出面で全周し、深さは７～14㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く引き締まる。ピットは10ヶ所に検出され、深さはＰ１が47㎝、Ｐ２は測定値なし、Ｐ３が59㎝、Ｐ４は65㎝、Ｐ５は21㎝、Ｐ６が28㎝、Ｐ７は28㎝、Ｐ８が43㎝、Ｐ９は18㎝、Ｐ10は67㎝を測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４は掘り込みも深く、Ｐ２には測定値がないが、その位置から主柱穴であると捉えられる。

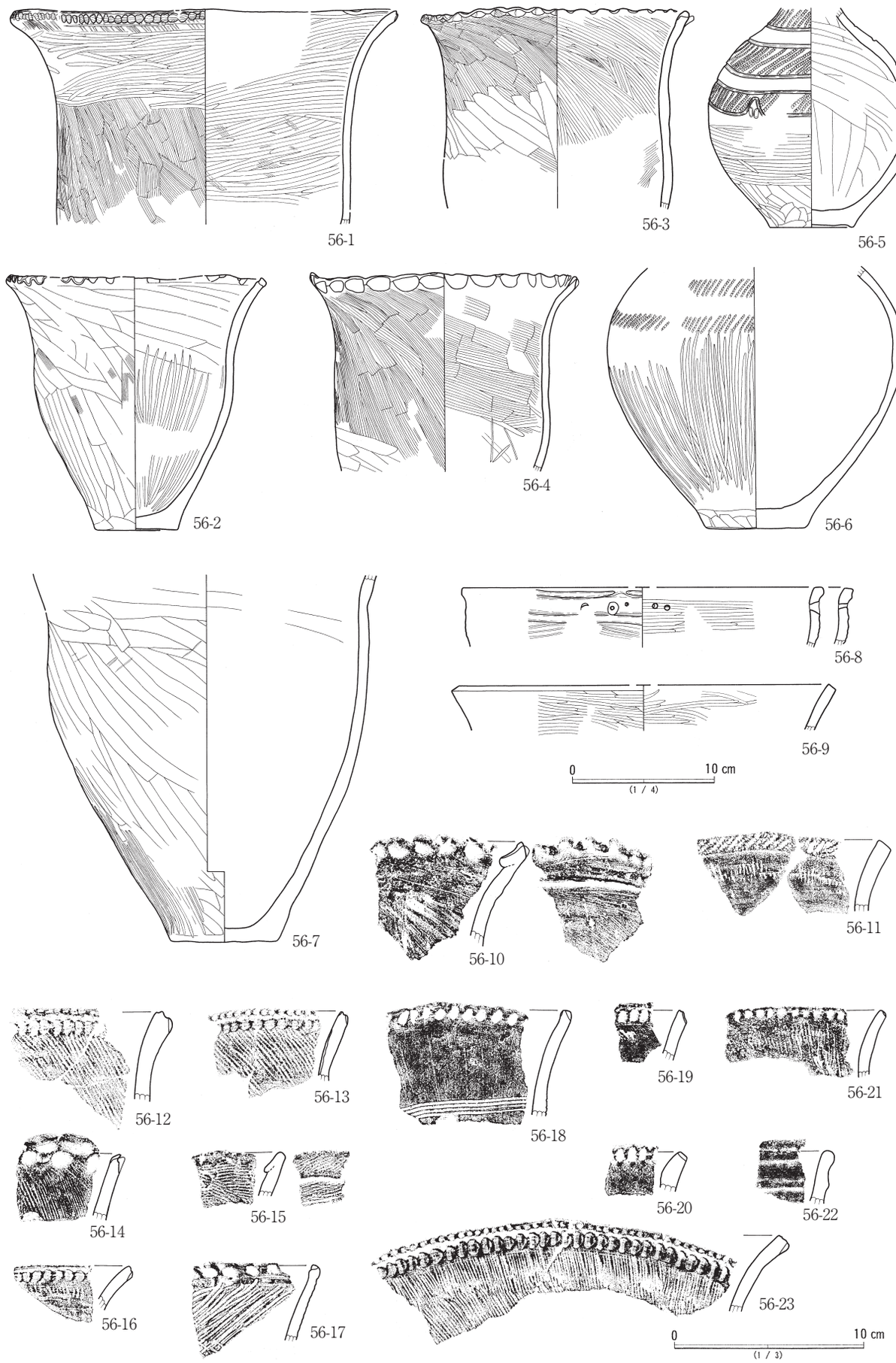
遺物

本遺構からは６点187ｇの土器片と、３点63.5ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、２点40ｇの土師器、４点147ｇの弥生土器、１点60ｇの礫、２点3.5ｇの軽石である。これらの出土遺物の内６点を図示した。これらの遺物は、何れもＰ６付近の床面から５㎝程浮いた状態で検出されている。





第44図　56号遺構実測図・54・55号遺構出土遺物実測図



第45図　56号遺構出土遺物実測図

56号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号24号住居跡。５号方形周溝墓南側周溝と重複して存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。残存長径6.00m短径6.02mを測り、主軸方位はＮ－28°－Ｅを示す。炉は中央やや北側に位置し、長径0.85m短径0.65m深さ11cmを測り、火床長軸方向はＮ－51°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東で18cm、西で６cm、北16cmを測る。周溝は検出面で全周し、深さは８～31cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であるが軟弱である。ピットは16ヶ所に検出され、深さはＰ１が68cm、Ｐ２は60cm、Ｐ３が64cm、Ｐ４は53cm、Ｐ５は30cm、Ｐ６が31cm、Ｐ７は11cm、Ｐ８が13cm、Ｐ９は24cm、Ｐ10は24cm、Ｐ11が15cm、Ｐ12は16cm、Ｐ13が10cm、Ｐ14は13cm、Ｐ15は33cm、Ｐ16は20cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深く主柱穴と考えられる。

遺物

本遺構からは367点11,034ｇの土器片と４点632ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、24点260ｇの土師器、336点10,668ｇの弥生土器、７点106ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内29点を図示した。１・14はＰ２付近の床面より10cm浮いた状態で検出されている。２・５・16はＰ１の北側床面より５cm浮いた状態で、３はＰ１付近の床面より出土した。４・６・７・９は北側の壁際付近から10～12cm浮いた状態で出土しており、23は炉内火床より５cm浮いて、24は炉付近の床面から６cm浮いた状態で、29はＰ11の底面から４cm浮いた状態で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

57号遺構（竪穴住居跡）

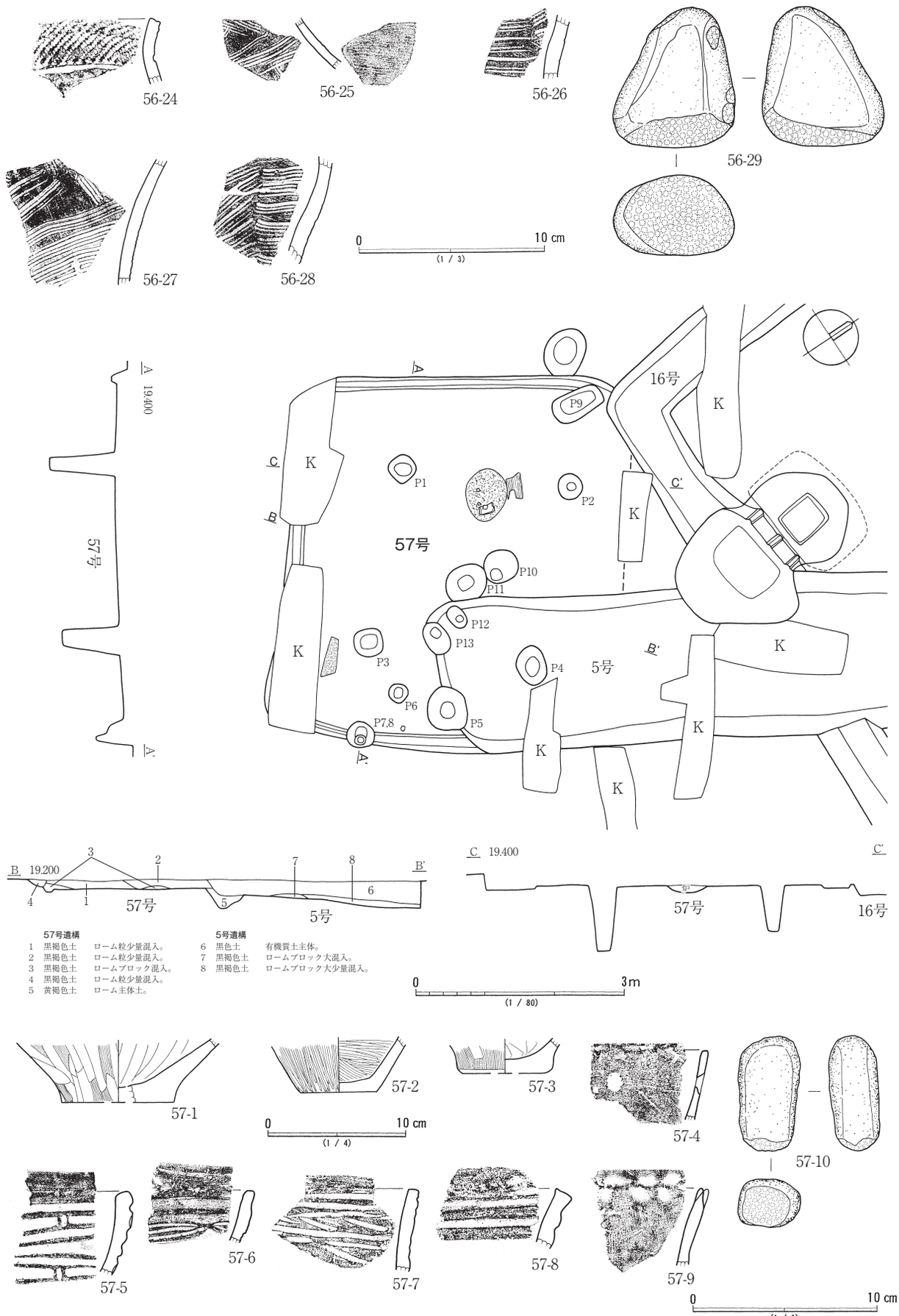
昭和54年度調査時遺構番号13号住居跡。５号方形周溝墓と重複し16号方形区画改葬墓に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径5.46m推定短径4.90mを測り、主軸方位はＮ－54°－Ｗを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央に検出され、長径0.85m短径0.65m深さ11cmを測り、火床長軸方向はＮ－52°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ西で４cm、南26cm、北16cmを測る。周溝は検出面で全周し、深さは８～14cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であるがあまり硬く踏み固められていない。ピットは13ヶ所に検出され、深さはＰ１が95cm、Ｐ２は66cm、Ｐ３が83cm、Ｐ４は58cm、Ｐ５は41cm、Ｐ６は22cm、Ｐ７が39cm、Ｐ８は21cm、Ｐ９が35cm、Ｐ10は59cm、Ｐ11は28cm、Ｐ12は46cm、Ｐ13は50cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深く主柱穴と捉えられる。Ｐ５はその位置から、入り口施設に伴うものと捉えられる。

遺物

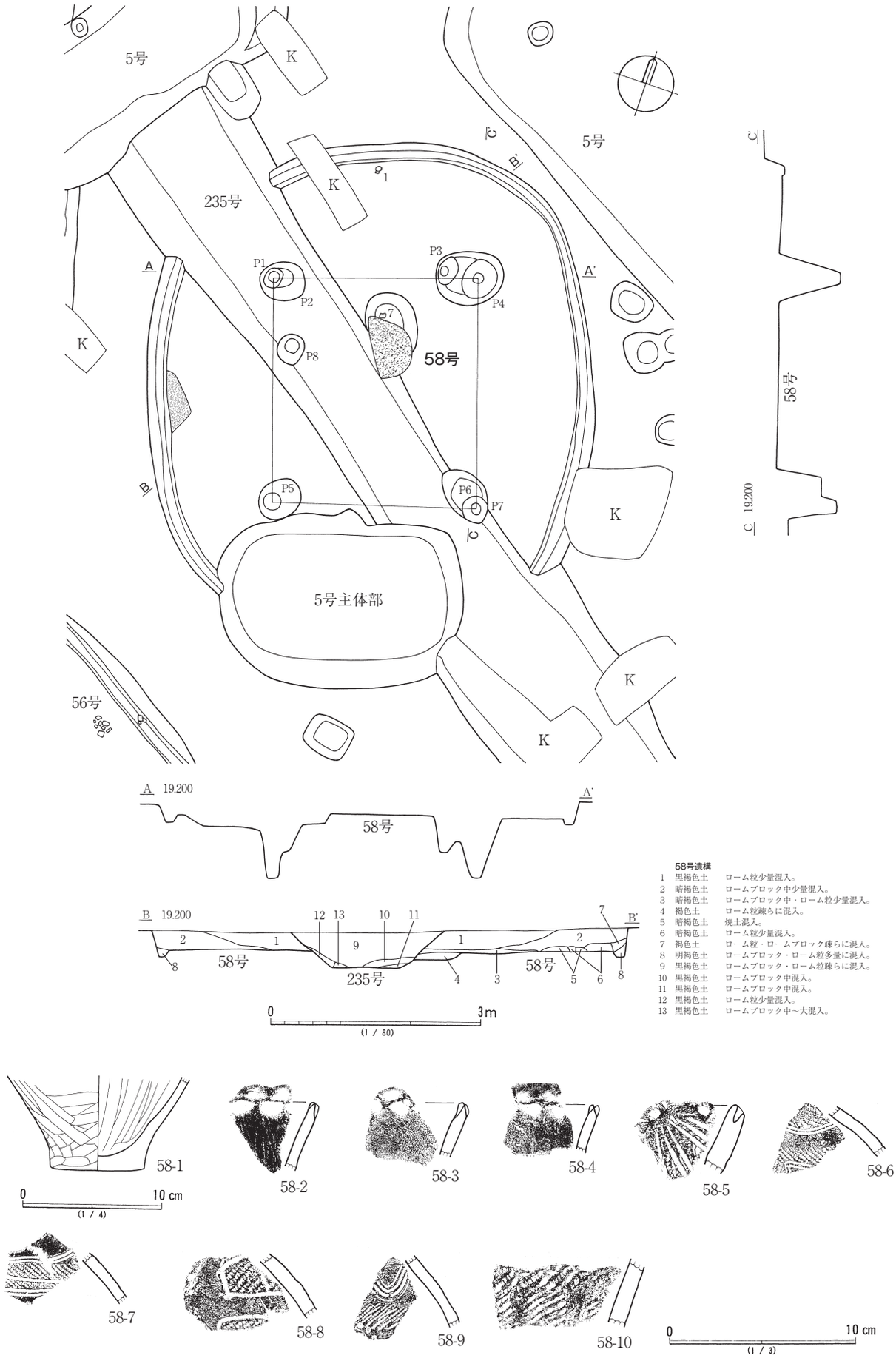
本遺構からは59点1,107ｇの土器片と２点410ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、38点610ｇの土師器、１点11ｇの須恵器、16点393ｇの弥生土器、４点93ｇの縄文土器、１点95ｇの敲石である。これらの出土遺物の内10点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

58号遺構（竪穴住居跡）

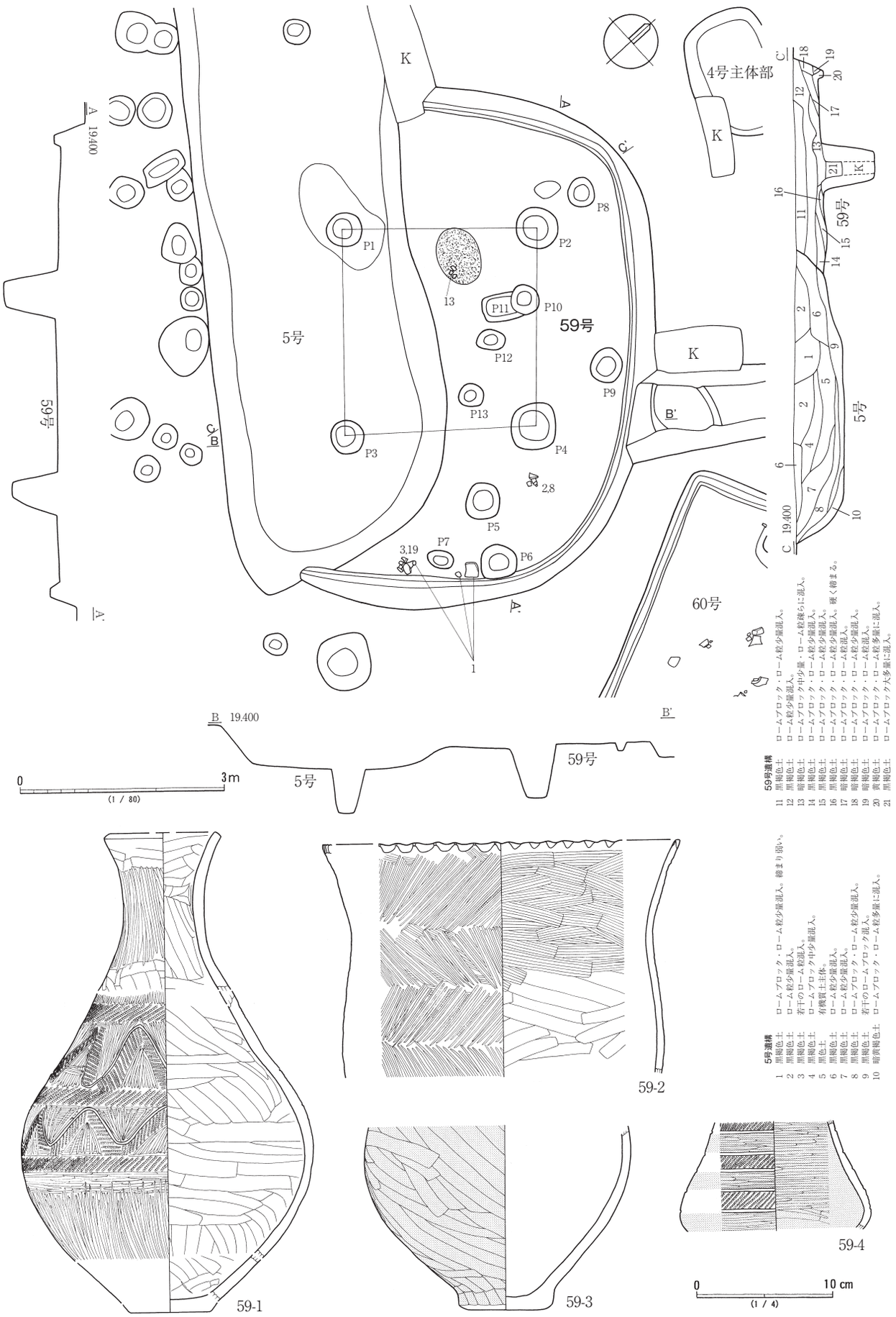
昭和54年度調査時遺構番号14号住居跡。５号方形周溝墓方台部内に位置し、主体部と重複し235号溝に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径5.48m短径6.45mを測り、主軸方位はＮ－18°－Ｗを示す。炉はＰ２・Ｐ４間の中央やや南側に検出され、長径0.85m短径0.70m深さ７cmを測り、火床長軸方向はＮ－22°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で９cm、西で15cm、北13cmを測る。



第46図　57号遺構実測図・56・57号遺構出土遺物実測図



第47図　58号遺構実測図・58号遺構出土遺物実測図



第48図　59号遺構実測図・59号遺構出土遺物実測図

周溝は検出面で全周し、深さは３～13㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦であるがあまり硬く踏み固められていない。ピットは８ヶ所に検出され、深さはＰ１が74㎝、Ｐ２は36㎝、Ｐ３が53㎝、Ｐ４は100㎝、Ｐ５は94㎝、Ｐ６は56㎝、Ｐ７が88㎝、Ｐ８は26㎝を測る。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ７は掘り込みも深く主柱穴と捉えられる。

遺物

本遺構からは117点1,977ｇの土器片と２点215ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、41点805ｇの土師器、14点320ｇの須恵器、60点802ｇの弥生土器、２点50ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。１は北側の壁際で床面から13㎝浮いた状態で検出された弥生土器底部である。７は炉内火床密着で検出された弥生土器壺片である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

59号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号15号住居跡。４号方形周溝墓方台部内に一部が位置し、４・５号方形周溝墓と重複して存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径7.68ｍ残存短径3.25ｍを測り、主軸方位はＮ－49°－Ｗを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南側に検出され、長径0.86ｍ短径0.63ｍ深さ８㎝を測り、火床長軸方向はＮ－69°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で33㎝、南37㎝、北20㎝を測り、西壁は５号方形周溝墓に削平されて存在しない。周溝は検出面で全周し、深さは７～18㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、平坦で硬く踏み固められている。ピットは13ヶ所に検出され、深さはＰ１・Ｐ３が５号方形周溝墓底面よりそれぞれ35㎝・62㎝を測る。それ以外のピットは何れも59号竪穴住居床面からの深さで、Ｐ２は65㎝、Ｐ４は75㎝、Ｐ５は39㎝、Ｐ６は35㎝、Ｐ７が15㎝、Ｐ８は19㎝、Ｐ９が31㎝、Ｐ10は18㎝、Ｐ11は６㎝、Ｐ12は12㎝、Ｐ13は20㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深く主柱穴と捉えられる。

遺物

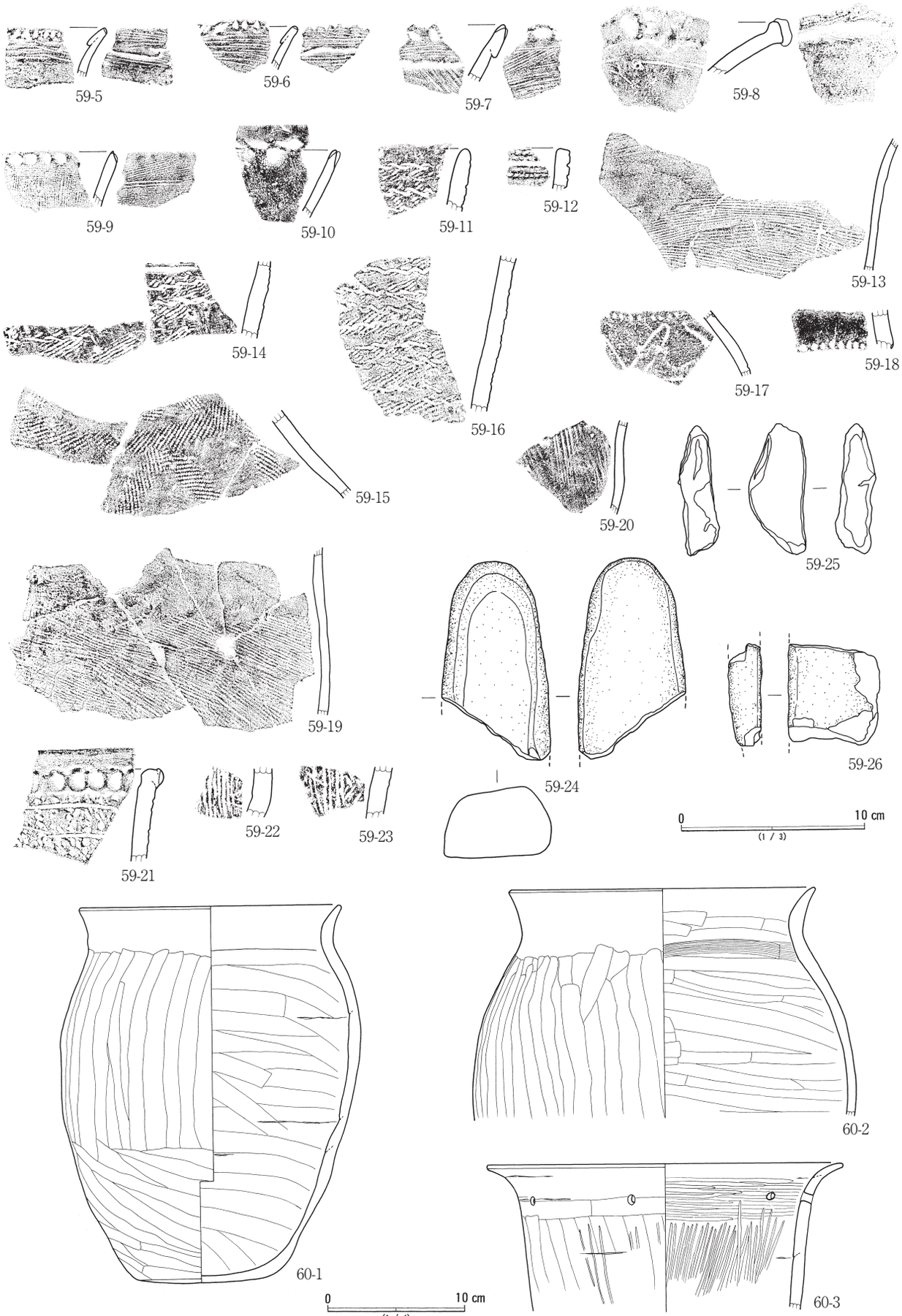
本遺構からは210点5,615ｇの土器片と10点1,000ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、４点162ｇの土師器、１点14ｇの須恵器、197点5,260ｇの弥生土器、８点179ｇの縄文土器、１点374ｇの磨石、１点77ｇの石剣、１点44ｇの砥石である。これらの出土遺物の内26点を図示した。１・３・19は南側の壁際近くの床面から８～10㎝浮いた状態で検出されている。２・８はＰ４付近の床面から12㎝浮いた状態で出土した。13は炉内火床密着の状況で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

60号遺構（竪穴住居跡）

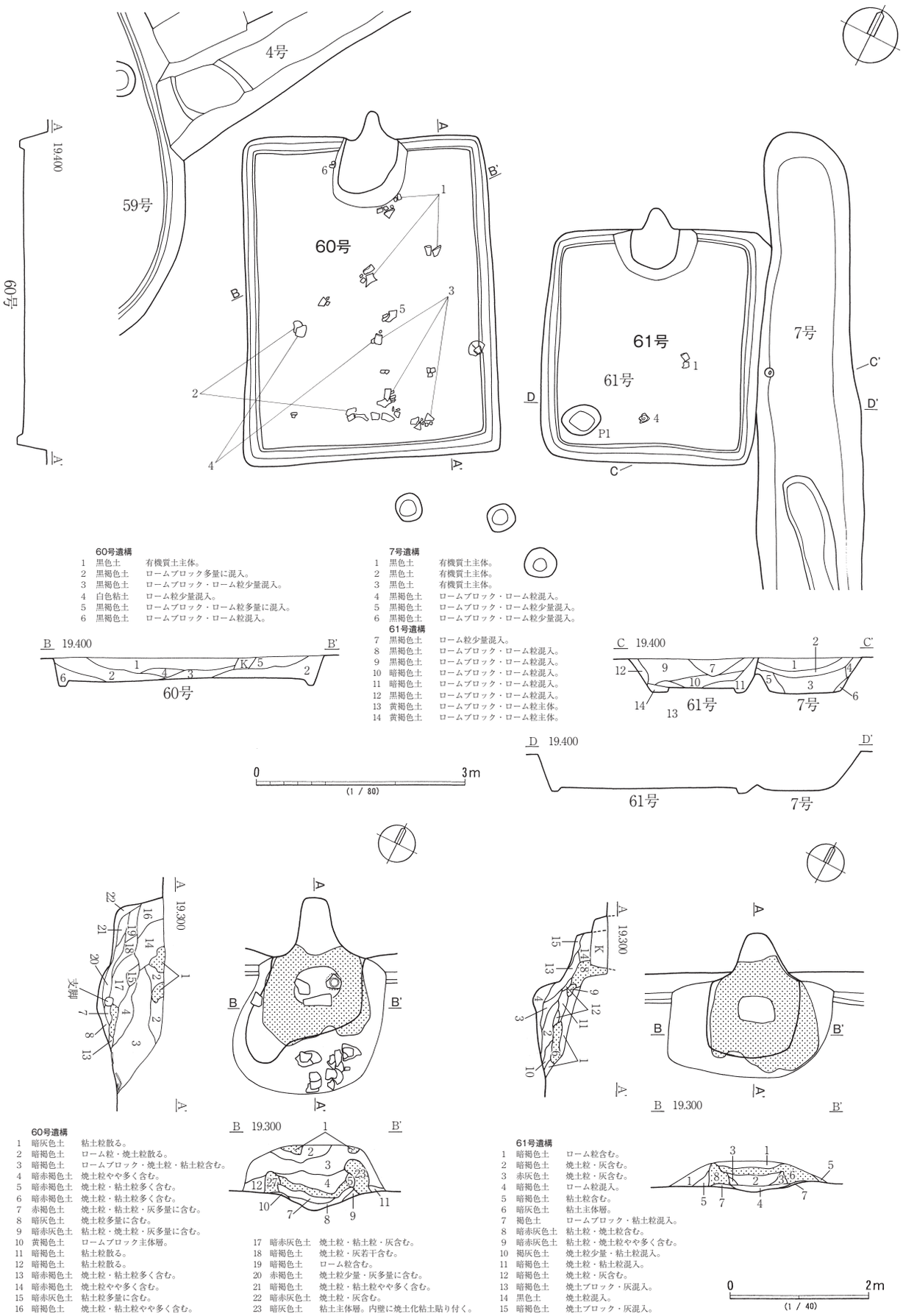
昭和54年度調査時遺構番号17号住居跡。59号竪穴の東側に位置し、単独で存在する長方形の竪穴住居跡である。長径4.68ｍ短径3.58ｍを測り、主軸方位はＮ－27°－Ｗを示す。カマドは北壁中央部に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で38㎝、西で24㎝、南36㎝、北35㎝を測る。周溝は全周し、深さは５～10㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、カマド前面から中央部にかけて特に硬く踏み固められている。ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは84点8,040ｇの土器片と１点73ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、82点8,005ｇの土師器、１点12ｇの須恵器、１点23ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。



第49図　59・60号遺構出土遺物実測図



60号遺構

1	黒色土	有機質土主体。
2	黒褐色土	ロームブロック多量に混入。
3	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
4	白色粘土	ローム粒少量混入。
5	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒多量に混入。
6	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。

7号遺構

1	黒色土	有機質土主体。
2	黒色土	有機質土主体。
3	黒色土	有機質土主体。
4	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
5	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
6	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。

61号遺構

7	黒褐色土	ローム粒少量混入。
8	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
9	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
10	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
11	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
12	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
13	黄褐色土	ロームブロック・ローム粒主体。
14	黄褐色土	ロームブロック・ローム粒主体。

60号遺構

1	暗灰色土	粘土粒散る。
2	暗褐色土	ローム粒・焼土粒散る。
3	暗褐色土	ロームブロック・焼土粒・粘土粒含む。
4	暗赤褐色土	焼土粒やや多く含む。
5	暗赤褐色土	焼土粒・粘土粒多く含む。
6	暗赤褐色土	焼土粒・粘土粒多く含む。
7	赤褐色土	焼土粒・粘土粒・灰多量に含む。
8	暗灰色土	焼土粒多量に含む。
9	暗赤灰色土	粘土粒・焼土粒・灰多量に含む。
10	黄褐色土	ロームブロック主体層。
11	暗褐色土	粘土粒散る。
12	暗褐色土	粘土粒散る。
13	暗赤褐色土	焼土粒・粘土粒多く含む。
14	暗赤褐色土	焼土粒やや多く含む。
15	暗赤灰色土	粘土粒多量に含む。
16	暗褐色土	焼土粒・粘土粒やや多く含む。
17	暗赤灰色土	焼土粒・粘土粒・灰含む。
18	暗褐色土	焼土粒・灰若干含む。
19	暗褐色土	ローム粒含む。
20	赤褐色土	焼土粒少量・灰多量に含む。
21	暗褐色土	焼土粒・粘土粒やや多く含む。
22	暗赤灰色土	焼土粒・灰含む。
23	暗灰色土	粘土主体層。内壁に焼土化粘土貼り付く。

61号遺構

1	暗褐色土	ローム粒含む。
2	暗褐色土	焼土粒・灰含む。
3	赤灰色土	焼土粒・灰含む。
4	暗褐色土	ローム粒混入。
5	暗褐色土	粘土粒含む。
6	暗灰色土	粘土主体層。
7	褐色土	ロームブロック・粘土粒混入。
8	暗赤灰色土	粘土粒・焼土粒含む。
9	暗赤灰色土	粘土粒・焼土粒やや多く含む。
10	褐灰色土	焼土粒少量・粘土粒混入。
11	暗褐色土	焼土粒・粘土粒混入。
12	暗褐色土	焼土粒・灰含む。
13	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。
14	黒色土	焼土粒混入。
15	暗褐色土	焼土ブロック・灰混入。

第50図　60・61号遺構実測図

１はカマド全面及び中央部の床面に密着して、６は左脇床面から、２～４は中央から南壁付近の床面から、５は中央床面から９㎝浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

61号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号16号住居跡。60号竪穴の東側に位置し、７号方形周溝墓西溝と接して存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.68ｍ短径3.02ｍを測り、主軸方位はＮ－23°－Ｗを示す。カマドは北壁中央部に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で27㎝、西で54㎝、南47㎝、北50㎝を測る。周溝は全周し、深さは５～９㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは１ヶ所に検出され、深さは11㎝を測る。

遺物

本遺構からは51点853ｇの土器片と１点８ｇの礫、１点34.1ｇの鉄鎌が検出された。土器片等の内訳は、43点610ｇの土師器、６点205ｇの須恵器、１点26ｇの弥生土器、１点12ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。１は遺構中央部の床面から出土した土師器坏である。４は南壁際の床面から出土した須恵器甕片である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

62号遺構（竪穴住居跡）

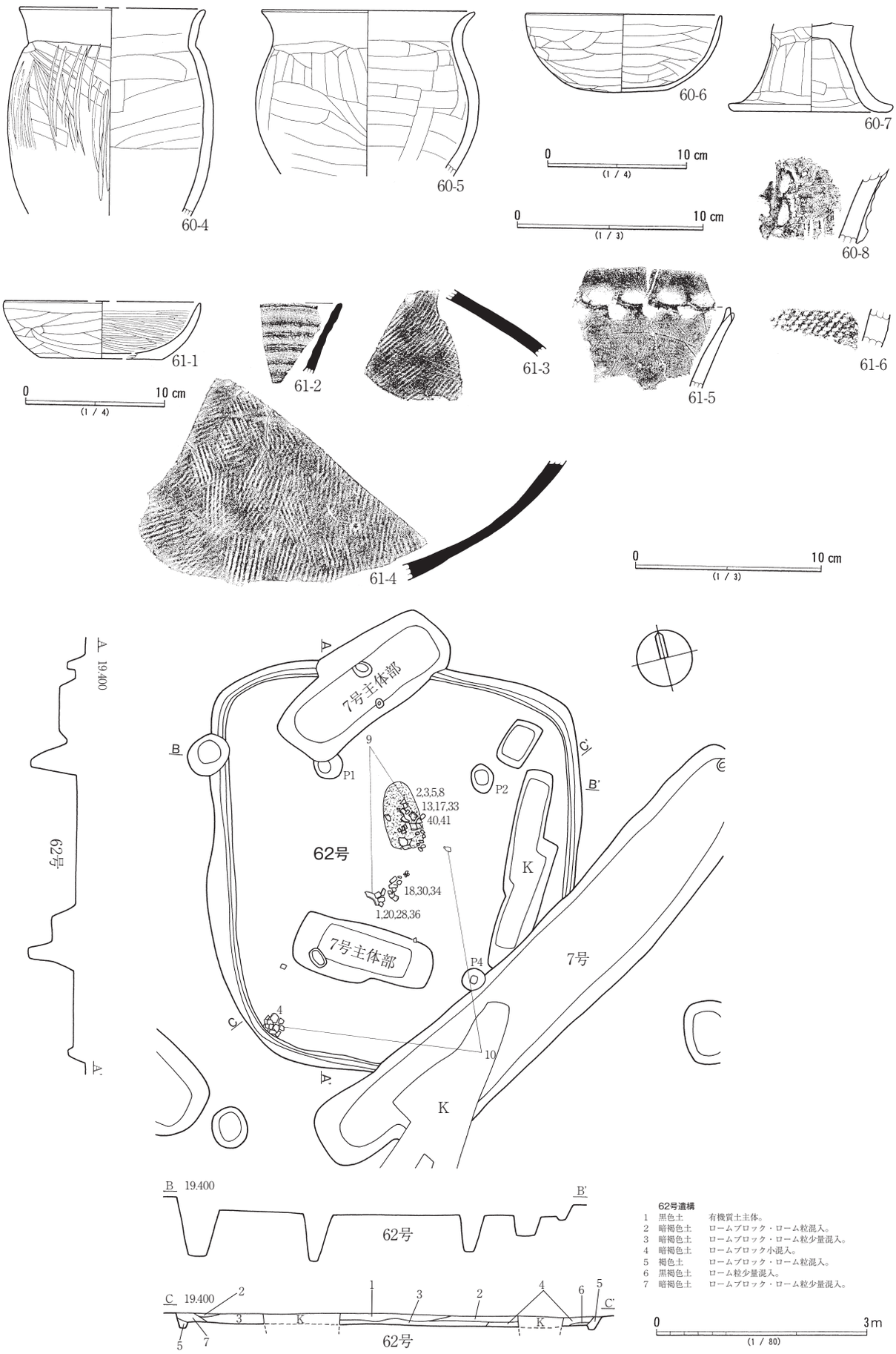
昭和54年度調査時遺構番号34号住居跡。61号竪穴の東側に位置し、７号方形周溝墓南溝及び主体部と重複して存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径5.70ｍ短径5.30ｍを測り、主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南側に検出され、長径1.00ｍ短径0.52ｍ深さ12㎝を測り、火床長軸方向はＮ－３°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東で18.5㎝、西で22.7㎝、南17㎝、北14.2㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは5.7～12.3㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が65.7㎝、Ｐ２は50.2㎝、Ｐ３が７号方形周溝墓主体部墓壙底面より23.7㎝、Ｐ４は51㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深く主柱穴と捉えられる。

遺物

本遺構からは261点9,295.6ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、19点200ｇの土師器、１点10.7ｇの須恵器、233点8,906.2ｇの弥生土器、８点128.7ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内47点を図示した。１・18・20・28・30・34・36・37は遺構中央部の床面から19.2㎝浮いた状態で出土した。４は南壁際の床面から12.2㎝浮いた状態で出土した弥生壺である。２・３・５・８・13・17・33・40・41は炉の火床から12㎝程浮いた状態で検出されている。９・10は１・２・４を中心とする土器群から検出され、接合関係を有する弥生壺片である。これら弥生土器を主体とする土器群中に須恵器蓋が混入しており、かつ、床面からかなり高い位置での出土であることに留意が必要である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

63号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号32号住居跡。調査区西側に位置し、遺構の大半が調査区域外に所在し、かつ、７・８号方形周溝墓と重複し64号竪穴に削平されて存在する平面プラン不明な竪穴住居跡である。残存長径3.25ｍ残存短径1.22ｍを測り、主軸方位は不明である。西壁のみ残存し、高さ30㎝を測る。



第51図　62号遺構実測図・60・61号遺構出土遺物実測図

第52図　62号遺構出土遺物実測図

周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが硬化は認められない。ピットは１ヶ所に検出され、深さは17㎝を測る。

遺物

本遺構からは44点855ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、30点350ｇの土師器、12点460.2ｇの弥生土器、２点44.8ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。１は床面から28㎝浮いた状態で出土した弥生甕底部である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

64号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号33号住居跡。63号竪穴の東側に位置し、63号竪穴及び８号方形周溝墓西溝を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。残存長径4.20m残存短径1.92mを測り、西壁の傾きはＮ－34°－Ｗを示す。遺構プランや出土遺物から火床施設はカマドと想定されるが、調査区域外に所在するため詳細は不明である。残存する壁高は、それぞれ西で17㎝、南32㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは10～12㎝を測る。床面は貼り床で、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは１ヶ所に検出され、深さは70㎝を測る。

遺物

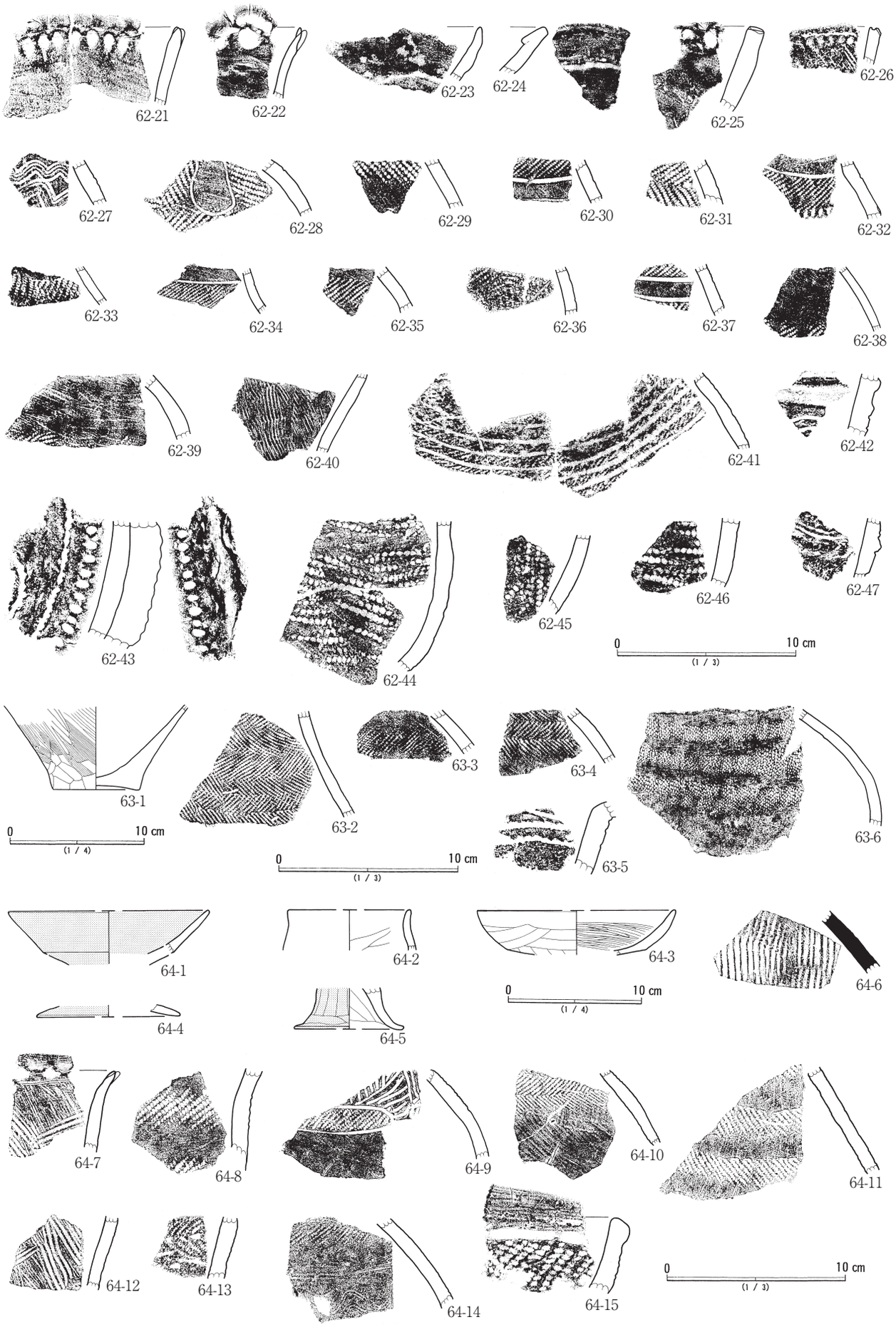
本遺構からは89点1,351ｇの土器片１点40ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、65点845ｇの土師器、１点32ｇの須恵器、22点432ｇの弥生土器、１点42ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内15点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

65号遺構（竪穴住居跡）

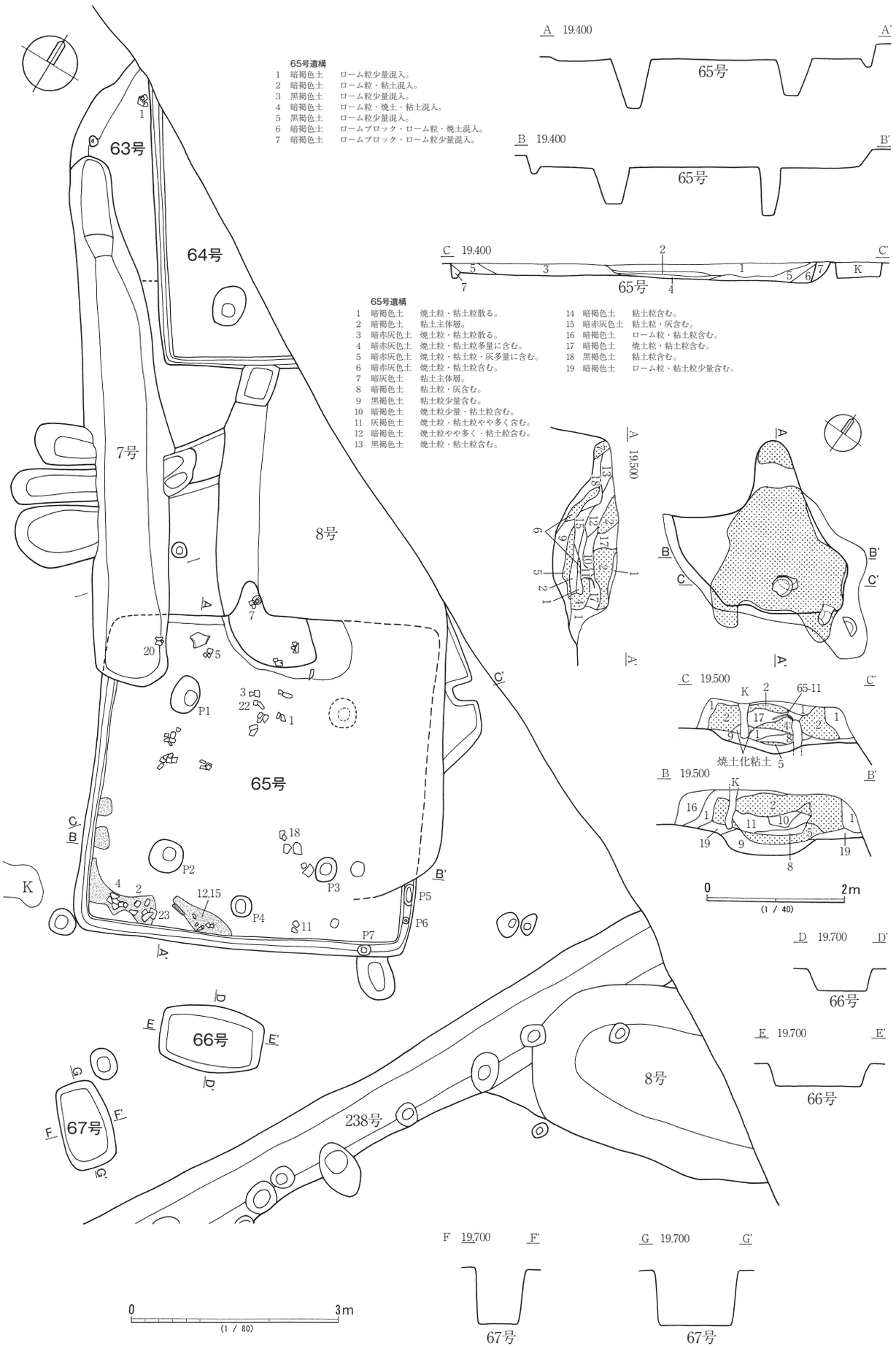
昭和54年度調査時遺構番号35号住居跡。64号竪穴の南に位置し、７・８号方形周溝墓を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.95m短径4.93mを測り、主軸方位はＮ－25°－Ｗを示す。カマドは北壁中央部に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で25㎝、西17㎝、南22㎝、北７㎝を測る。周溝は検出面でほぼ全周し、深さは６～12㎝を測る。床面はソフトローム層中及び８号方形周溝墓の覆土上に貼り床で構築され、平坦であるが軟弱である。ピットは７ヶ所に検出され、深さはＰ１が69㎝、Ｐ２は52㎝、Ｐ３が70㎝、Ｐ４は35㎝、Ｐ５は11㎝、Ｐ６は４㎝、Ｐ７が20㎝を測る。Ｐ１～Ｐ３は掘り込みも深く主柱穴に、Ｐ４は入口施設に伴うものと考えられる。

遺物

本遺構からは482点11,288.6ｇの土器片と２点608.6ｇの石器、１点5.3ｇの鉄器が検出された。土器片等の内訳は、442点10,739.5ｇの土師器、４点158.6ｇの須恵器、33点353.4ｇの弥生土器、３点37.1ｇの縄文土器、１点3.6ｇの石鏃、１点605ｇの磨石、１点190ｇの支脚片である。これらの出土遺物の内26点を図示した。１・７はカマドやカマド周囲の床面から検出され、３・５・22はカマド周囲の床面から４～12㎝程浮いた状態で検出されている。２・４・23は南壁際近くの床面から12～15㎝浮いた状態で検出されている。11は南壁際近くの床面から検出され12・15は同じく南壁際近くの床面から６㎝浮いた状態で検出されている。18は７号方形周溝墓と重複する貼り床に密着して検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。



第53図　62～64号遺構出土遺物実測図



第54図　63～67号遺構実測図

66号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号31号土坑。65号竪穴の南側に位置する単独の長方形土坑である。長径1.52m短径0.97m、深さ最大28cmを測り、主軸方位はＮ－69°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

67号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号32号土坑。66号土坑の西側に位置する単独の長方形土坑である。長径1.26m短径0.75m、深さ最大82.5cmを測り、主軸方位はＮ－47°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

68号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号69Ａ・Ｂ号住居跡。調査区西側に位置し17号改葬系区画墓に削平されて存在する拡張痕跡のある楕円形の竪穴住居跡である。長径6.96m短径6.00mを測り、主軸方位はＮ－３°－Ｗを示す。炉はＰ１・Ｐ５間の中央やや南側に検出され、長径0.90m短径0.86m深さ17cmを測り、火床長軸方向はＮ－10°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で15cm、西で２cm、南３cm、北13cmを測る。検出面での周溝は全周し、深さは１～12cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは11ヶ所に検出され、深さはＰ１が71cm、Ｐ２は78cm、Ｐ３が63cm、Ｐ４は52cm、Ｐ５が51cm、Ｐ６は66cm、Ｐ７が57cm、Ｐ８は73cm、Ｐ９が27cm、Ｐ10は測定値なし、Ｐ11が39cmを測る。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ８は拡張後の主柱穴、Ｐ２・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８は拡張以前のそれぞれの主柱穴と捉えられる。

遺物

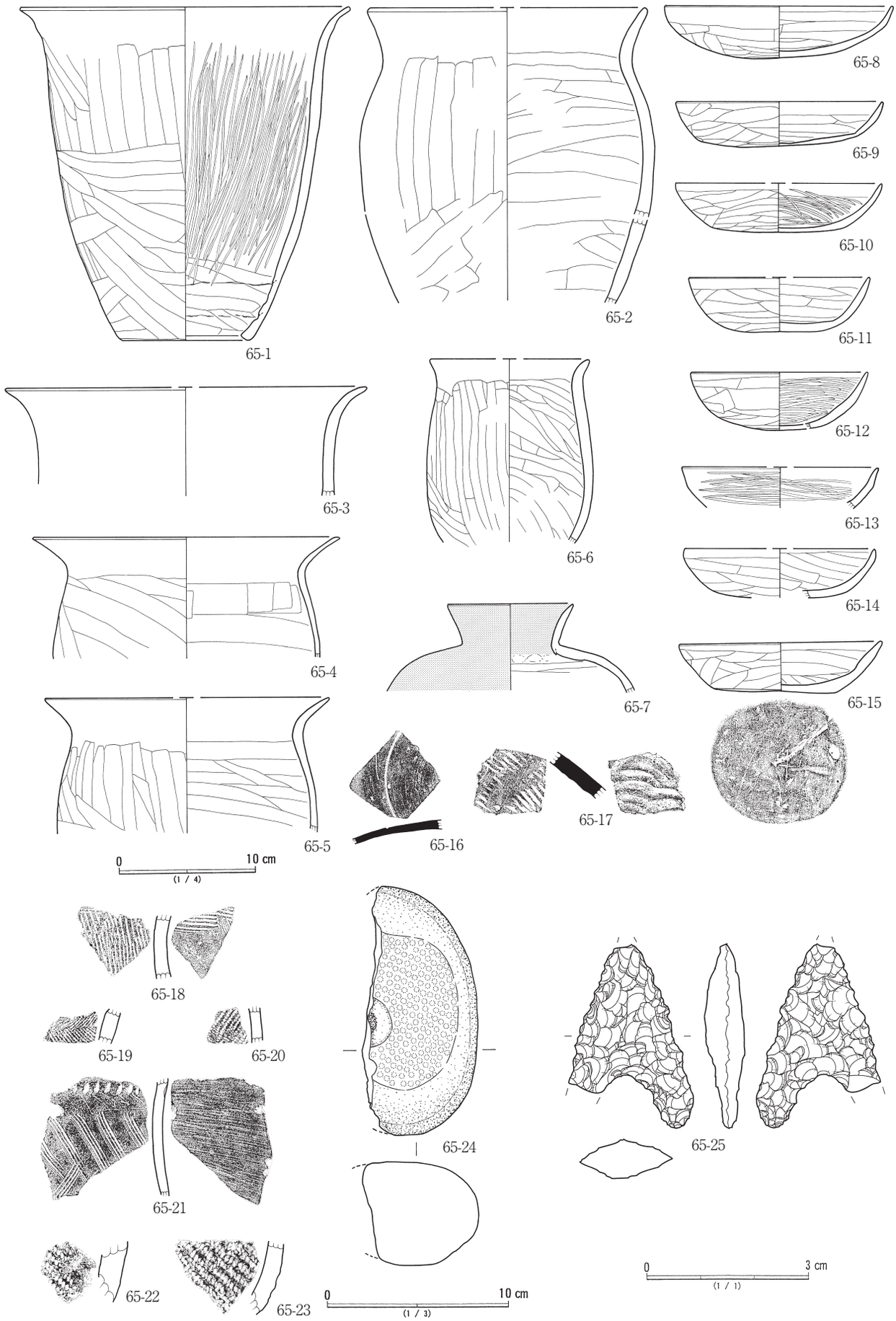
本遺構からは222点4,103.8ｇの土器片と10点623ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、27点110ｇの土師器、185点3,791.8ｇの弥生土器、１点16ｇのミニチュア土器、９点186ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内34点を図示した。１・５・７・12・17は何れも床面から出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

69号遺構（竪穴住居跡）

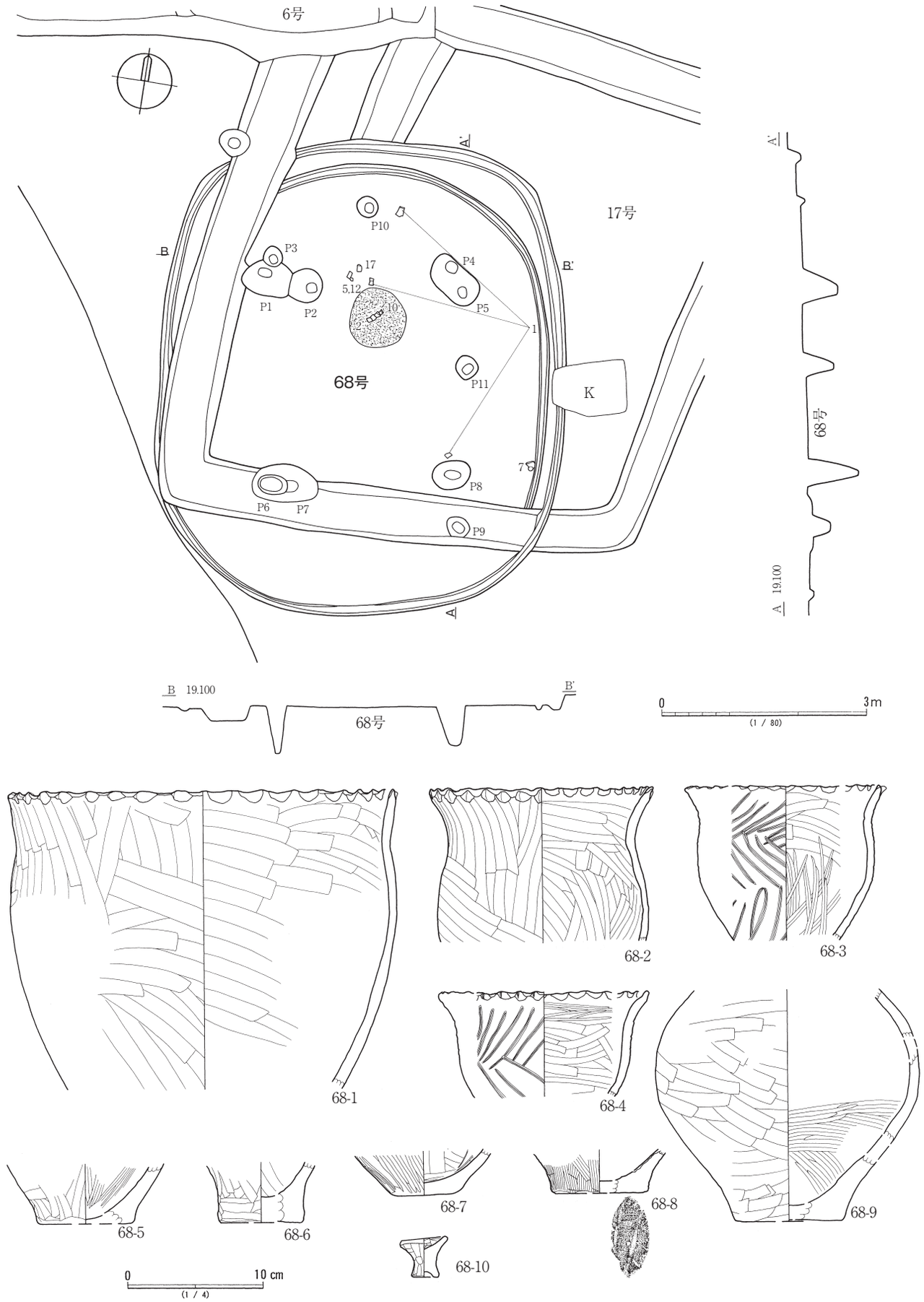
昭和54年度調査時遺構番号70号住居跡。調査区西側に位置し17号改葬系区画墓に隣接し、234号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.24m短径4.13mを測り、主軸方位はＮ－32°－Ｗを示す。カマドは北壁に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で39cm、西で29cm、南28cm、北27cmを測る。検出面での周溝は全周し、深さは７～13cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が23cm、Ｐ２は40cm、Ｐ３が56cm、Ｐ４は52cmを測る。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と捉えられる。

遺物

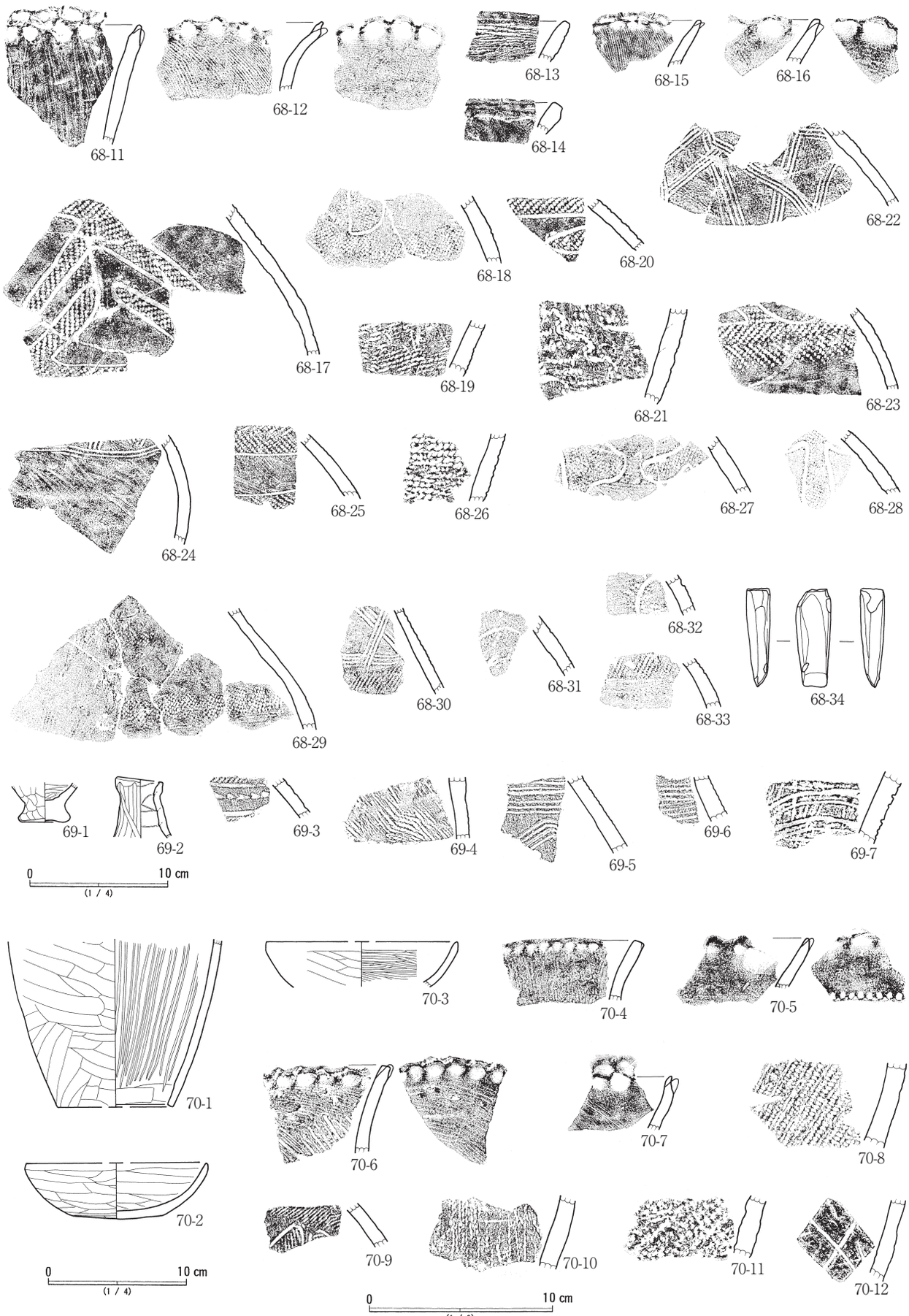
本遺構からは23点372ｇの土器片と１点80ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、11点175ｇの土師器、９点142ｇの弥生土器、３点55ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。



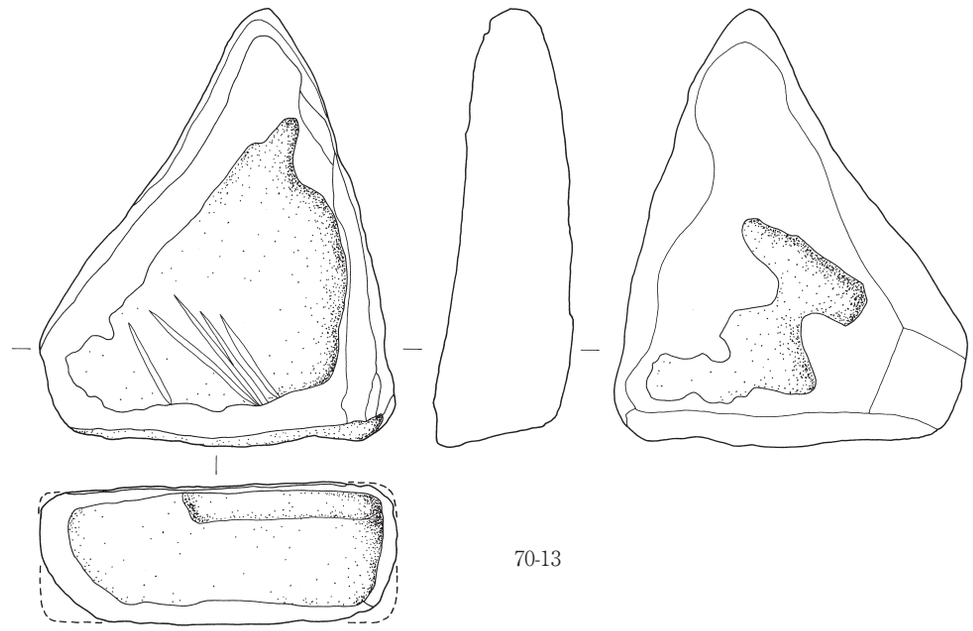
第55図　65号遺構出土遺物実測図

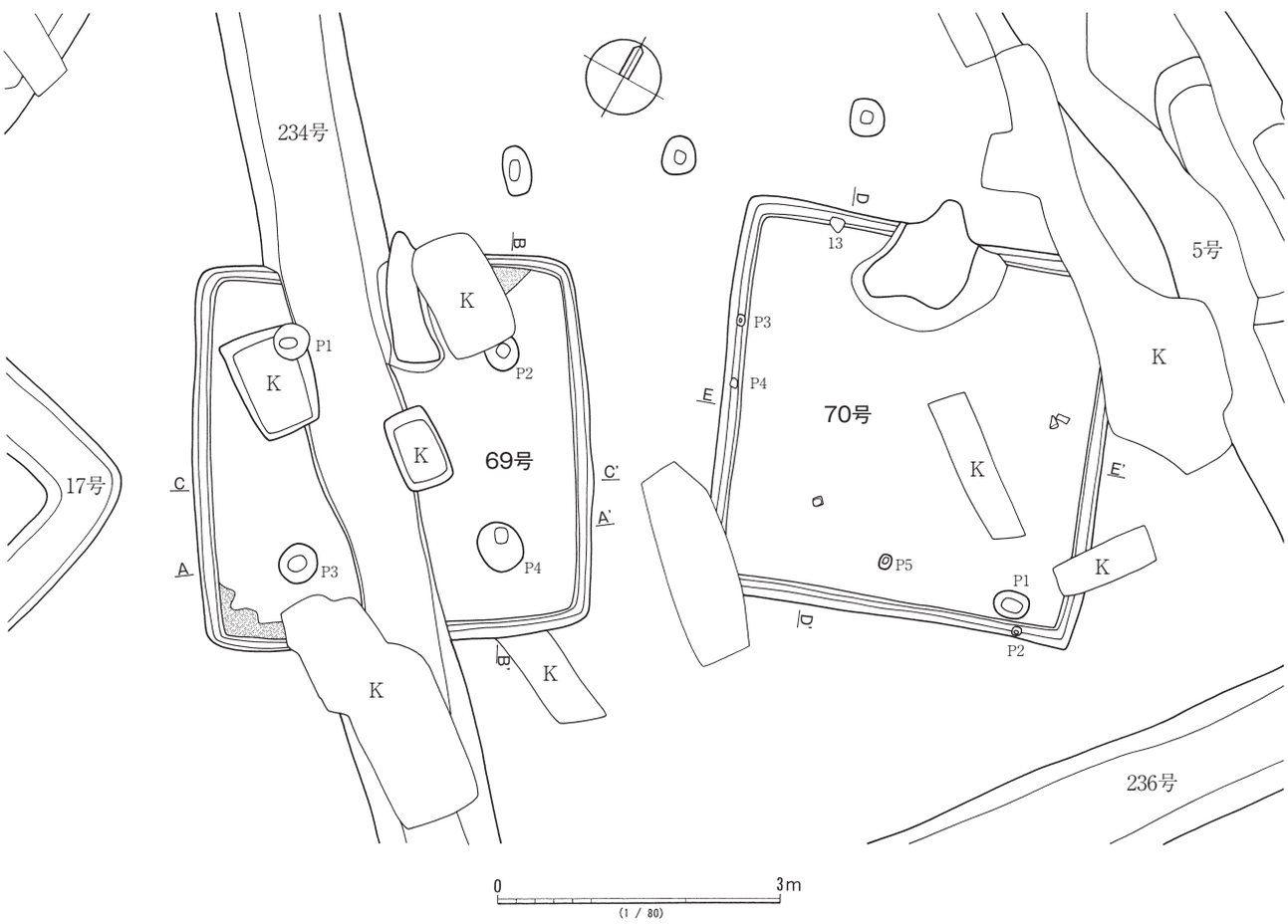


第56図　68号遺構実測図・68号遺構出土遺物実測図

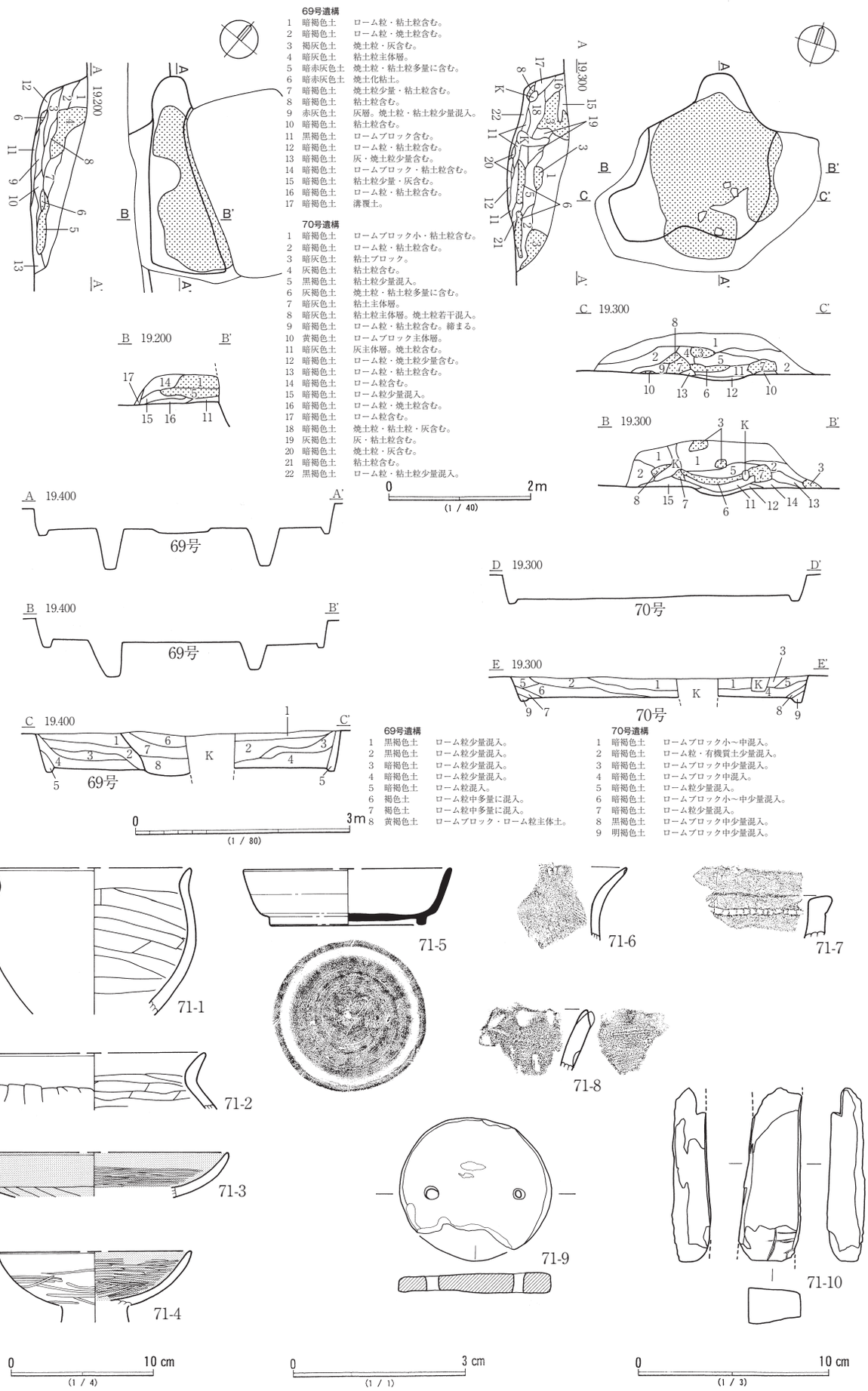


第57図　68～70号遺構出土遺物実測図





第58図　69・70号遺構実測図・70号遺構出土遺物実測図



第59図　69・70号遺構実測図・71号遺構出土遺物実測図

これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

70号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号25号住居跡。69号竪穴の東に単独で存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.24m短径4.12mを測り、主軸方位はＮ－23°－Ｗを示す。カマドは北壁に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で32㎝、西で29㎝、南33㎝、北36㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは４～９㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築されほぼ平坦であり、カマド前面から中央部にかけて硬く引き締まる。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ５を除けば何れも周溝内ピットである。深さはＰ４を除いて何れのピットも９㎝を測り、Ｐ４は４㎝を測る。

遺物

本遺構からは90点1,832ｇの土器片と５点1,461ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、73点1,449ｇの土師器、１点16ｇの須恵器、12点247ｇの弥生土器、４点120ｇの縄文土器、１点1,315ｇの石皿である。これらの出土遺物の内13点を図示した。13は北壁際の床面から出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

71号遺構（竪穴住居跡）

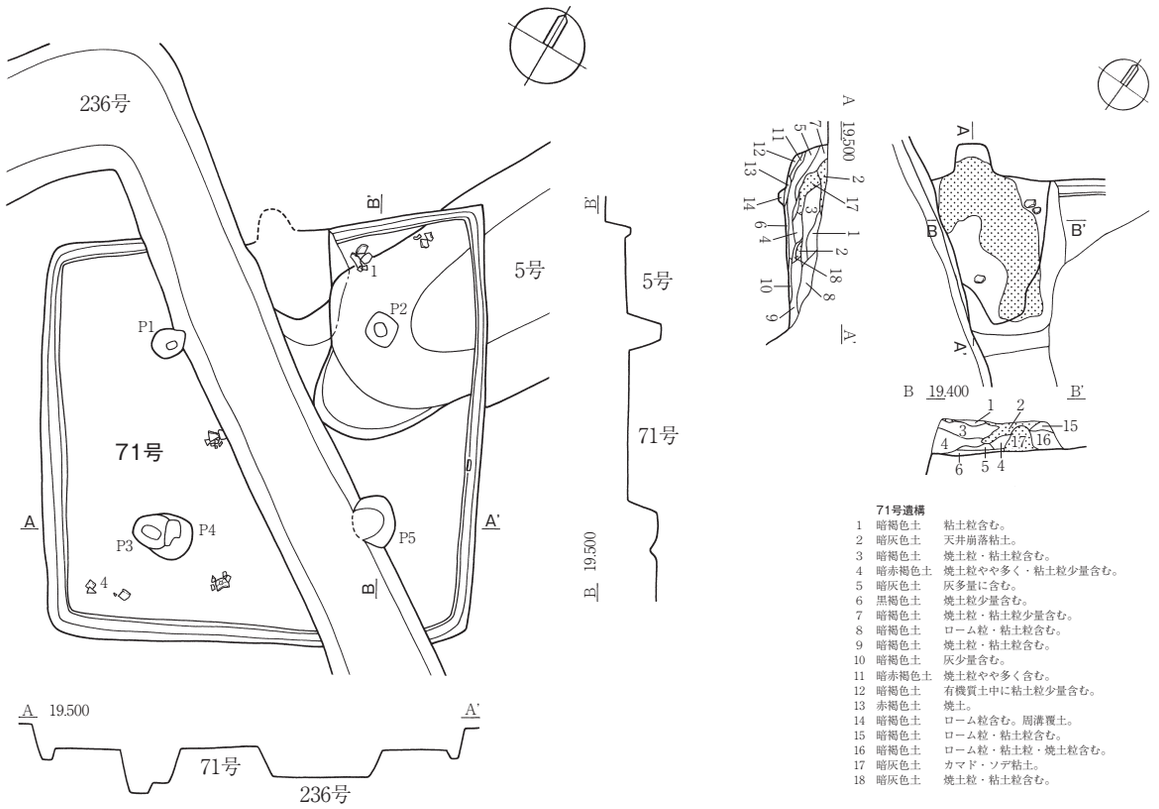
昭和54年度調査時遺構番号66号住居跡。５号方形周溝墓東側溝を削平し、236号に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.73m短径4.62mを測り、主軸方位はＮ－29°－Ｗを示す。カマドは北壁に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で24㎝、西で26㎝、南23㎝、北22㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは５～11㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築されほぼ平坦であり、カマド前面から中央部にかけて硬く引き締まっている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が16㎝、Ｐ２は32㎝、Ｐ３が47㎝、Ｐ４は36㎝、Ｐ５は30㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴と捉えられる。

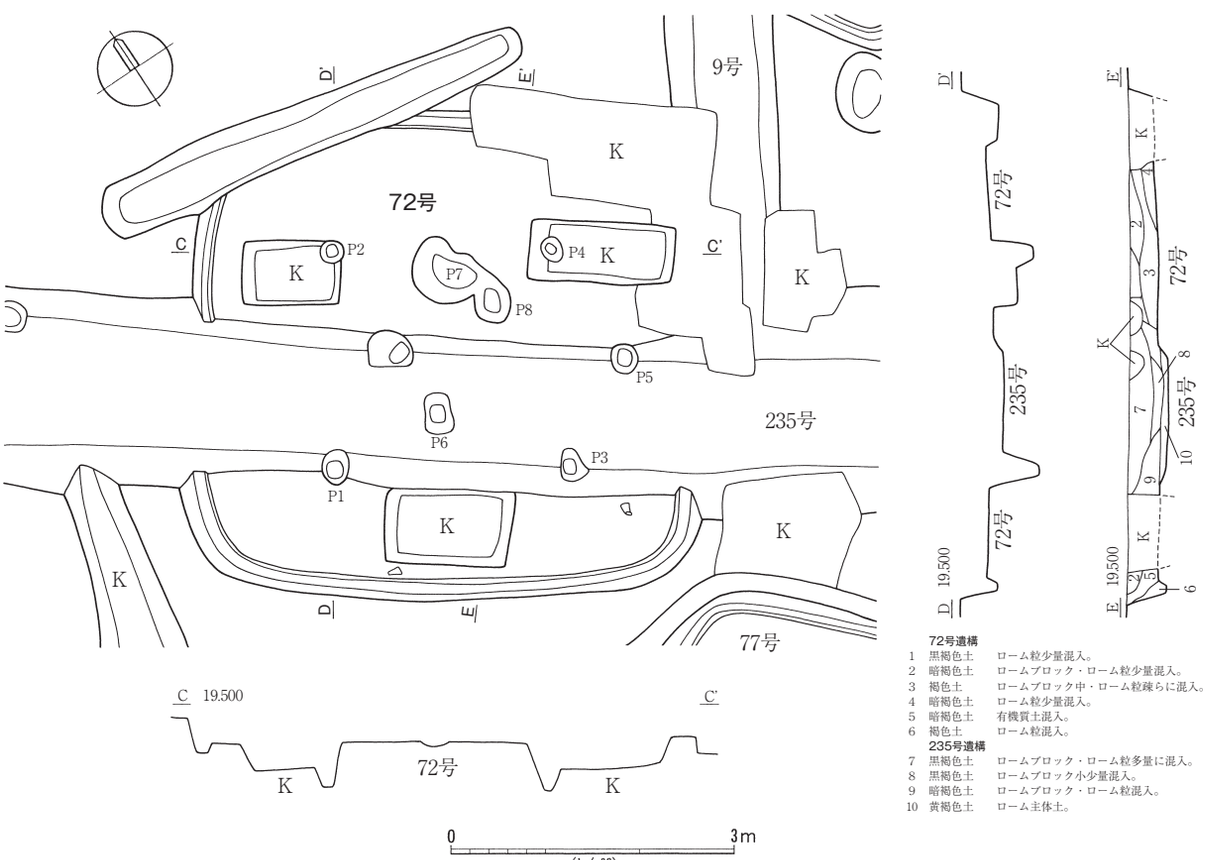
遺物

本遺構からは191点3,089ｇの土器片と２点85ｇの礫・石器、１点3.5ｇの有孔円盤、１点5.4ｇの刀子が検出された。土器片等の内訳は、158点2,568ｇの土師器、４点189ｇの須恵器、28点312ｇの弥生土器、１点20ｇの縄文土器、１点75ｇの砥石である。これらの出土遺物の内11点を図示した。１はカマド右脇の床面から、４は南西コーナー部の床面から出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

72号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号20号住居跡。235号溝に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。残存長径5.60m短径5.22mを測り、主軸方位はＮ－58°－Ｗを示す。炉・カマドともに検出されていないが、遺構平面プランより火床施設は炉であった可能性が高い。残存する壁高は、それぞれ東で25㎝、西で32㎝、南測定値なし、北は28㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは７～11㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築されほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた痕跡がない。遺構内外に多数の攪乱が存在し、遺構の依存度は極めて悪い。ピットは８ヶ所に検出され、深さはＰ１が45㎝、Ｐ２は45㎝、Ｐ３は233号溝底面から42㎝、Ｐ４は撹乱底面から23㎝を測る。Ｐ５は27㎝、Ｐ６が23㎝、Ｐ７は12㎝、Ｐ８は10㎝を測る。各ピットの位置から、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設と捉えられる。





第60図　71・72号遺構実測図

遺物

本遺構からは47点982ｇの土器片と１点174ｇの土製品が検出された。土器片等の内訳は、６点180ｇの土師器、１点22ｇの須恵器、40点780ｇの弥生土器、１点174ｇの瓦片である。これらの出土遺物の内７点を図示した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

73号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号29号土坑。74号竪穴の東側に位置する単独の長方形土坑である。長径1.22m短径0.79m、深さ最大37㎝を測り、主軸方位はＮ－５°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは13点98ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、11点80ｇの弥生土器、２点18ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内１点を図示した。１は弥生土器口縁部である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

74号遺構（竪穴住居跡）

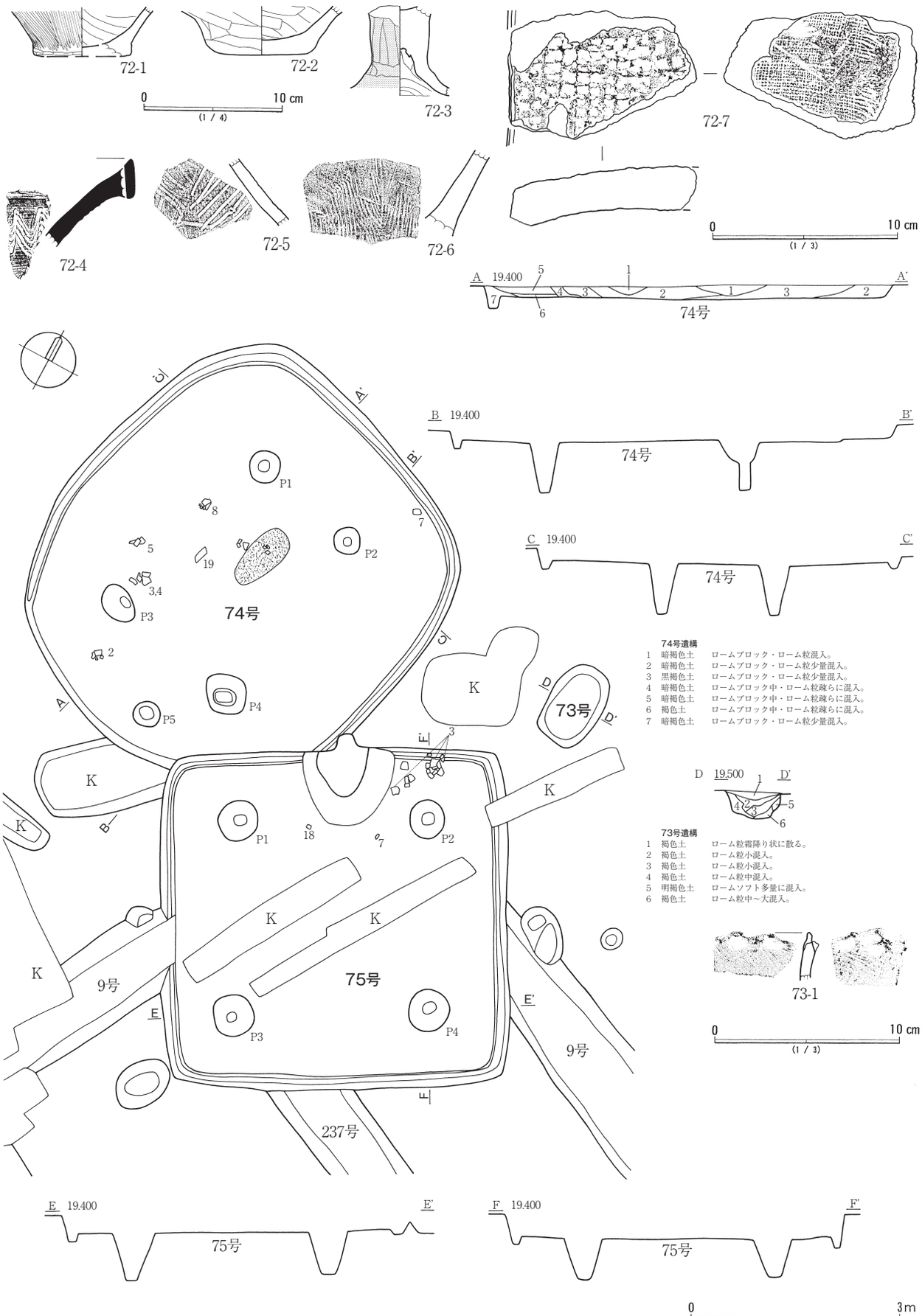
昭和54年度調査時遺構番号18号住居跡。75号竪穴に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径5.90m短径5.48mを測り、主軸方位はＮ－17°－Ｅを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央南側に検出され、長径0.95m短径0.47m深さ８㎝を測り、火床長軸方向はＮ－20°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東で16㎝、西で17㎝、南18㎝、北は15㎝を測る。検出面での周溝は南側を除いて全周し、深さは７～13㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築されほぼ平坦であり、炉の周辺がよく踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が73㎝、Ｐ２は72㎝、Ｐ３は42㎝、Ｐ４は71㎝、Ｐ５は24㎝を測る。各ピットの位置から、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設と捉えられる。

遺物

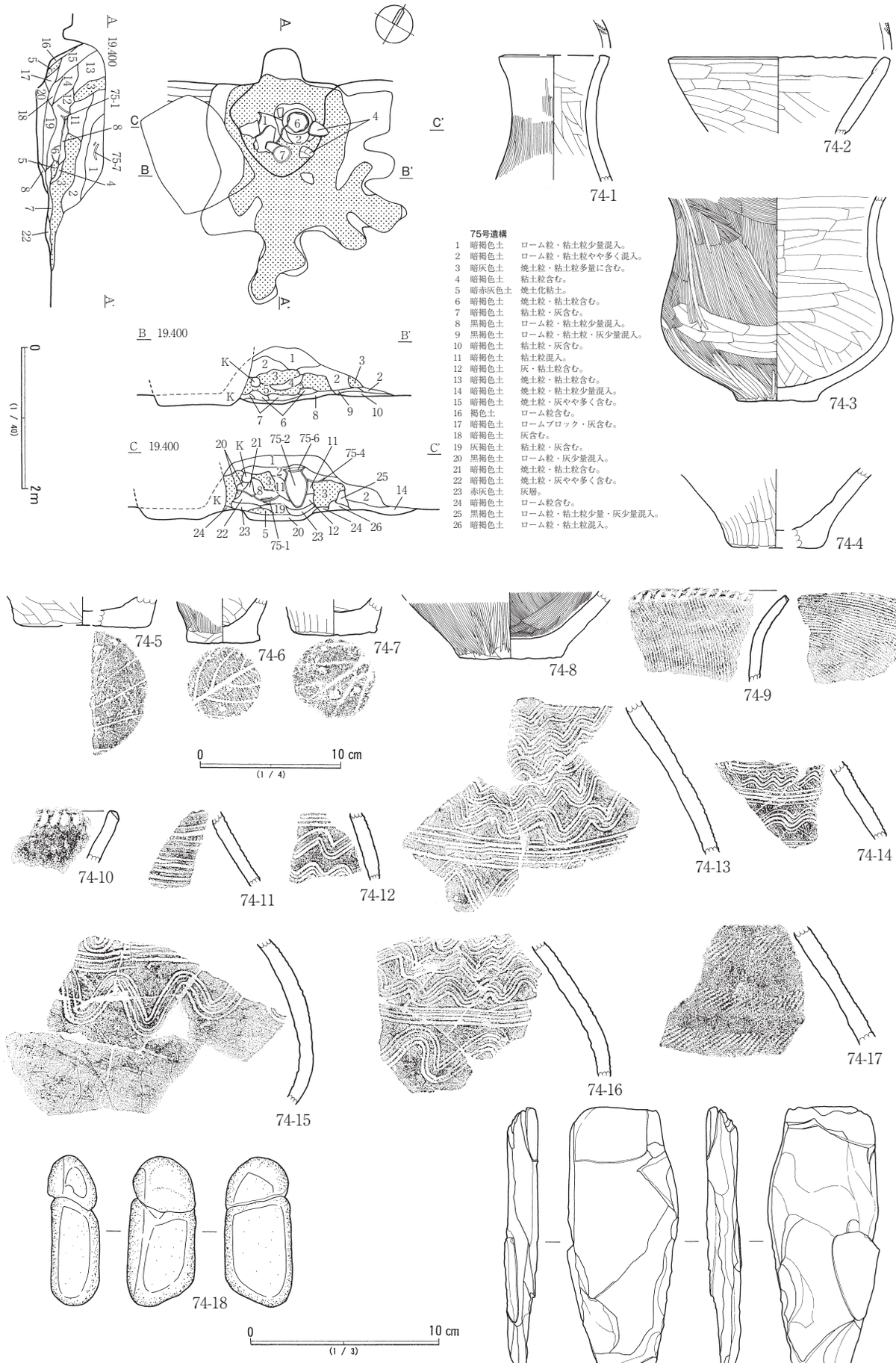
本遺構からは104点3,998ｇの土器片と２点296ｇの石器が検出された。土器片等の内訳は、２点26ｇの土師器、101点3,962ｇの弥生土器、１点10ｇの縄文土器、１点95ｇの磨石、１点201ｇの石剣である。これらの出土遺物の内19点を図示した。２は床面から７㎝、３・４は17㎝、５は21㎝離れて検出されている。７は９㎝、８は22㎝、19は10㎝浮いた状態で出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

75号遺構（竪穴住居跡）

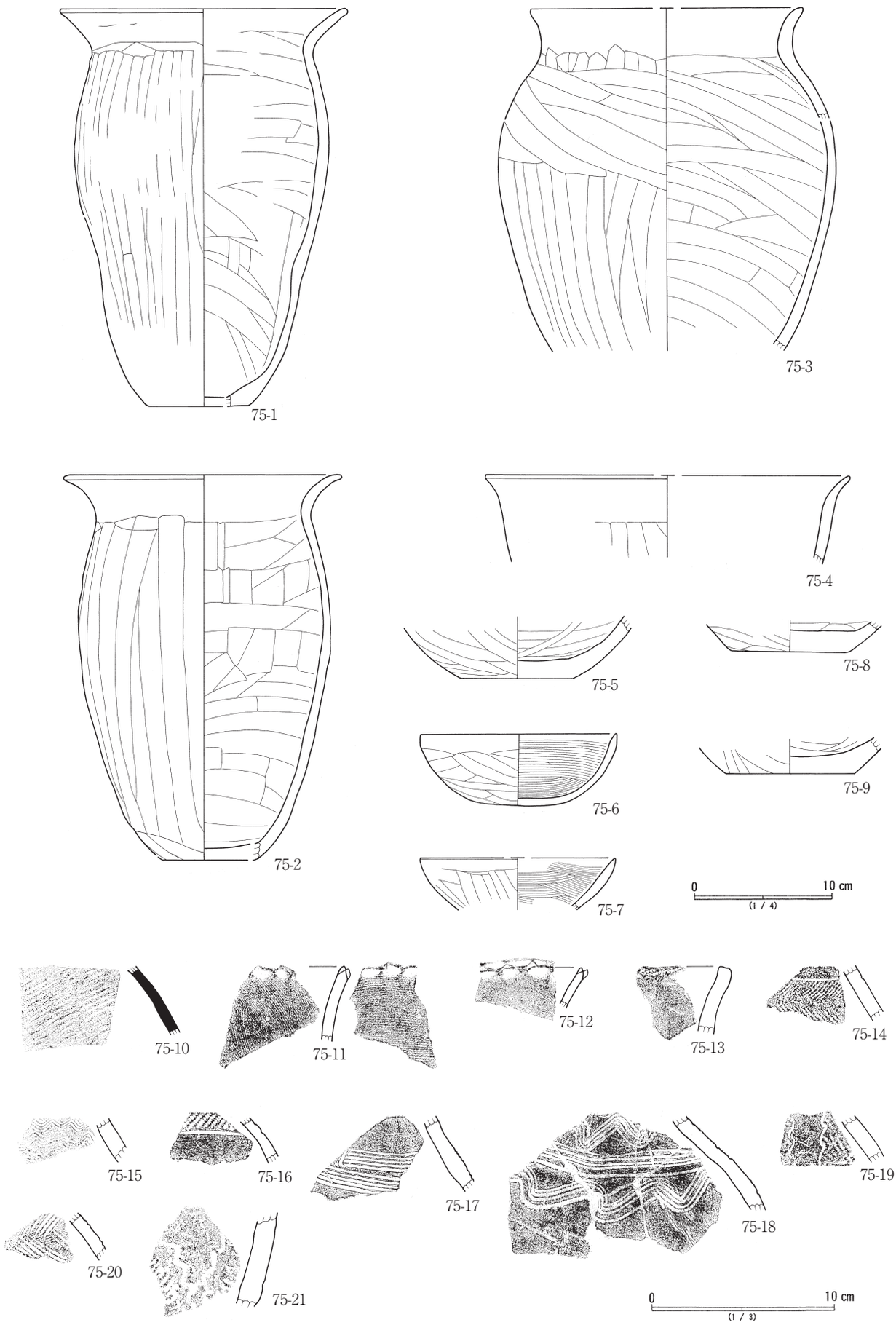
昭和54年度調査時遺構番号19号住居跡。74号竪穴を削平し、237号溝と重複して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.00m短径4.90mを測り、主軸方位はＮ－27°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で35.5㎝、西で38㎝、南33㎝、北は32.5㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは4.2～13.7㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、カマド前面から中央部にかけてよく踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が54㎝、Ｐ２は55㎝、Ｐ３は67㎝、Ｐ４は62㎝を測る。各ピットの位置から、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と捉えられる。



第61図　73～75号遺構実測図・72・73号遺構出土遺物実測図



第62図　75号遺構実測図・74号遺構出土遺物実測図



第63図　75号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは173点8,525ｇの土器片と２点47ｇの石器が検出された。土器片等の内訳は、152点8,155ｇの土師器、２点34ｇの須恵器、18点291ｇの弥生土器、１点45ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内21点を図示した。３カマド右脇の床直と最大13㎝浮いた状態で検出された。７はカマド前面の床面から14㎝浮いた状態で検出され、18は床直で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

76号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号22号住居跡。調査区中央に位置し77号竪穴を削平し、236号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.84ｍ短径3.05ｍを測り、主軸方位はＮ－70°－Ｅを示す。カマドは東壁中央やや南側に偏った位置に構築されたものと推定され、煙道部状の掘り込みが残存する。残存する壁高は、それぞれ東で16㎝、西は測定値なし、南21㎝、北は41㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは６～11㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、全体的にかけてよく踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が38㎝、Ｐ２は23㎝、Ｐ３は50㎝、Ｐ４は11㎝を測る。なお、遺構東側に45㎝×35㎝厚さ24㎝の貝ブロック１ヶ所が検出されている。

遺物

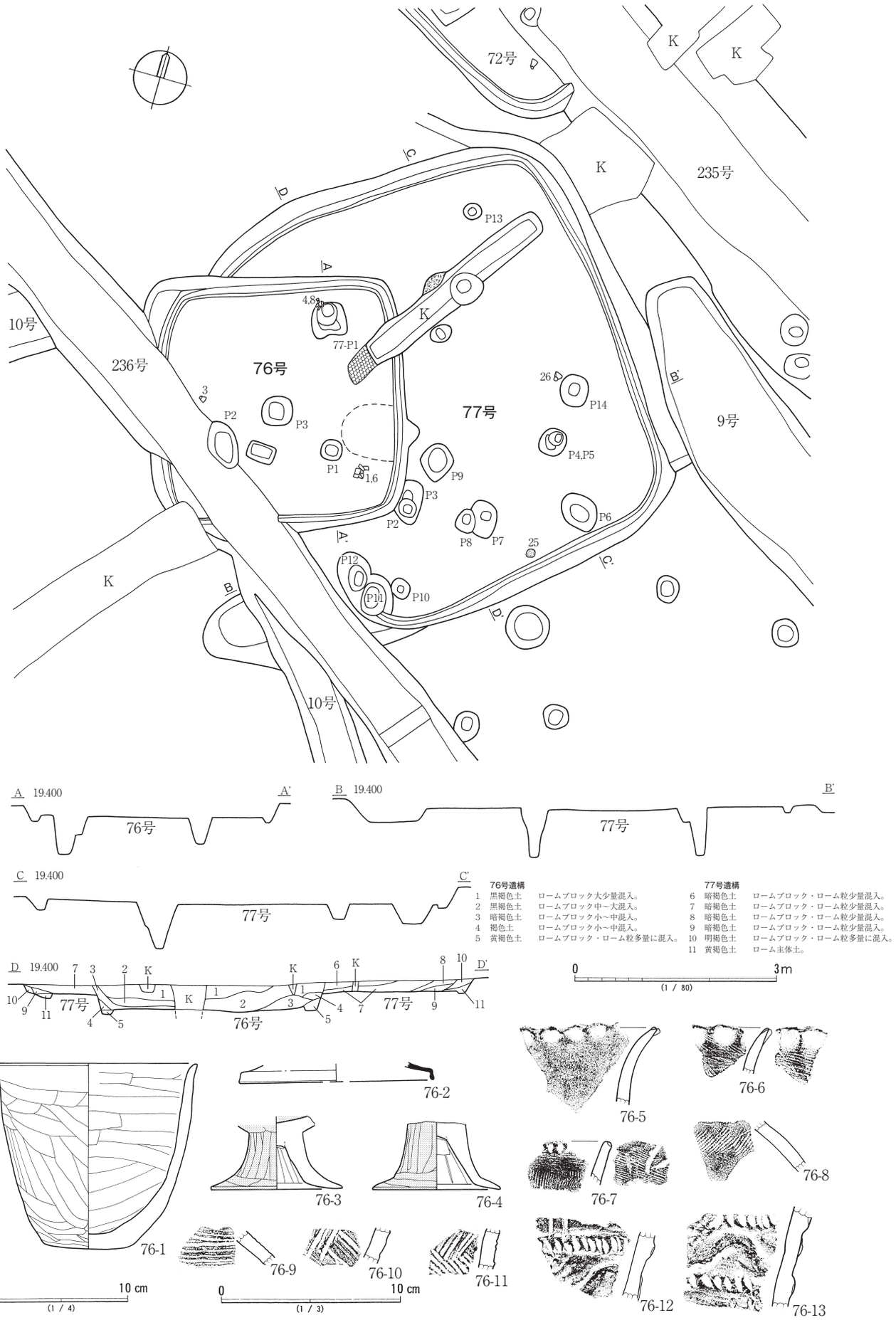
本遺構からは116点2,771ｇの土器片と６点230ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、97点2,418ｇの土師器、２点14ｇの須恵器、14点235ｇの弥生土器、３点104ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。１・６はカマド残存痕跡の右側床面から出土した。３は西側４・８が北側の床面から出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

77号遺構（竪穴住居跡）

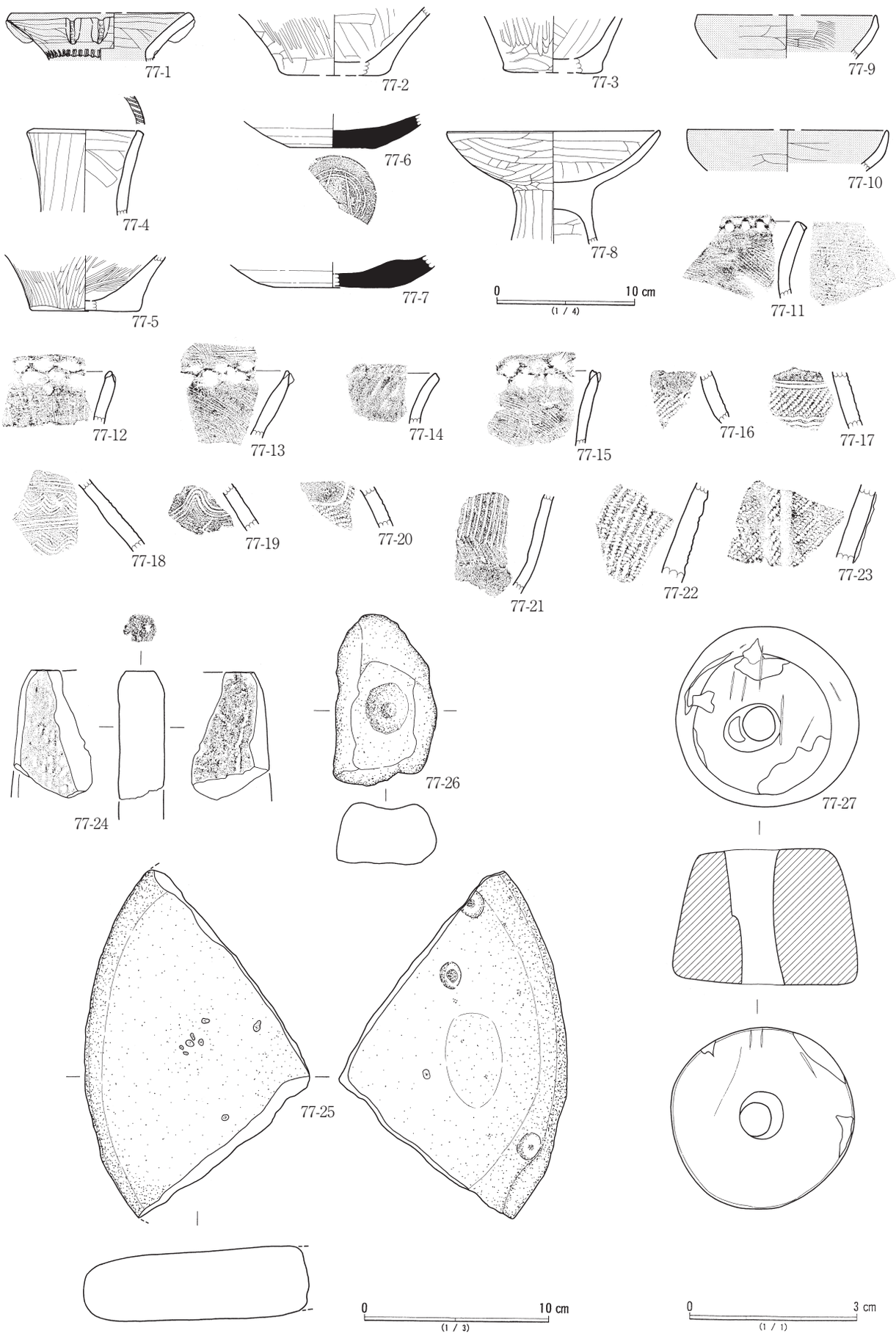
昭和54年度調査時遺構番号21号住居跡。調査区中央に位置し76号竪穴・236号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径6.60ｍ残存短径3.44ｍを測り、主軸方位はＮ－39°－Ｗを示す。炉はＰ12の西側から撹乱に削平されて検出され、残存長0.20ｍ残存幅0.50ｍを測るが、深さの測定値はない。主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で３㎝、西は測定値なし、南21㎝、北は19㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは８～18㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築されほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは14ヶ所に検出され、深さはＰ１が76号床面より25㎝、Ｐ２は73㎝、Ｐ３は32㎝、Ｐ４は22㎝、Ｐ５が70㎝、Ｐ６は28㎝、Ｐ７は54㎝、Ｐ８は41㎝、Ｐ９が30㎝、Ｐ10が47㎝、Ｐ11は52㎝、Ｐ12は11㎝、Ｐ13は22㎝、Ｐ14は53㎝を測る。

遺物

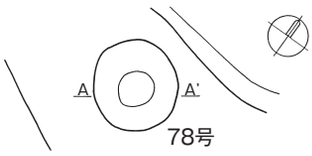
本遺構からは134点2,621ｇの土器片と５点1,762ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、73点1,205ｇの土師器、２点238ｇの須恵器、54点1,073ｇの弥生土器、４点100ｇの縄文土器、１点５ｇの中近世土器、１点63ｇの布目瓦である。これらの出土遺物の内27点を図示した。25は南壁際の床面から出土した石皿、26はＰ14付近の床面から出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

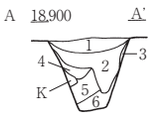


第64図　76・77号遺構実測図・76号遺構出土遺物実測図

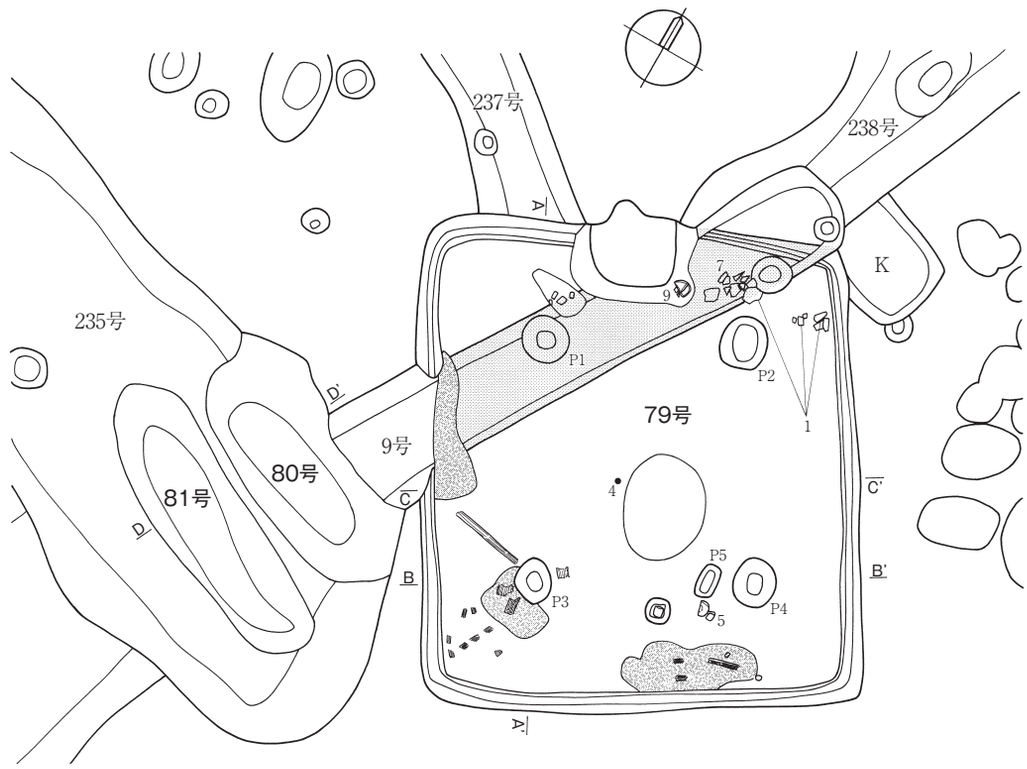


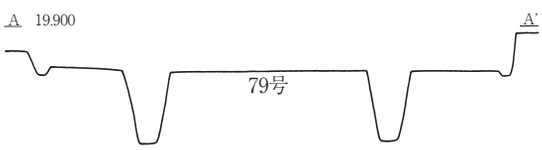
第65図　77号遺構出土遺物実測図

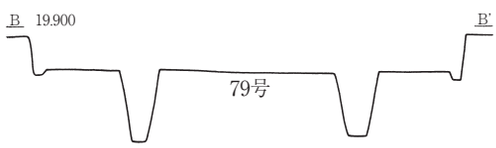


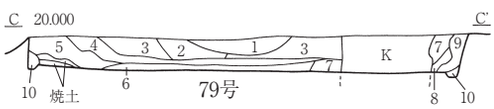


78号遺構
1 褐色土 ローム粒霜降り状に散る。
2 褐色土 ロームブロック大混入。
3 明褐色土 ローム粒多量に混入。
4 褐色土 ローム粒霜降り状に散る。
5 褐色土 ロームブロック大多量に混入。
6 褐色土 ローム粒中多量に混入。

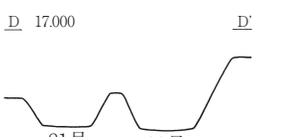


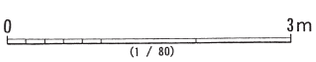


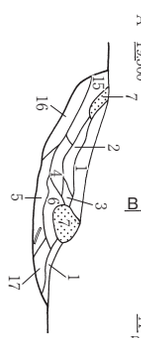


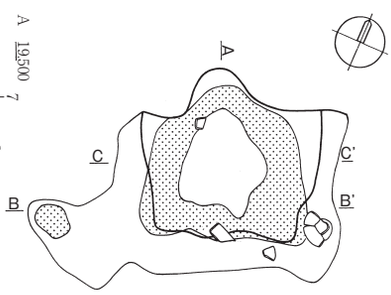


79号遺構
1 暗褐色土 ローム粒少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
3 暗褐色土 ローム粒少量混入。
4 黒褐色土 ローム粒少量混入。
5 暗褐色土 ローム粒混入。
6 暗褐色土 粘土粒・炭片少量混入。
7 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。
8 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。
9 明褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒多量に混入。
10 暗褐色土 焼土混入。

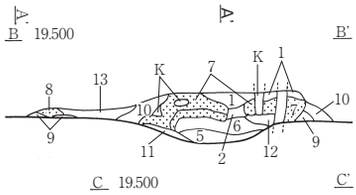


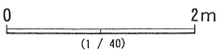




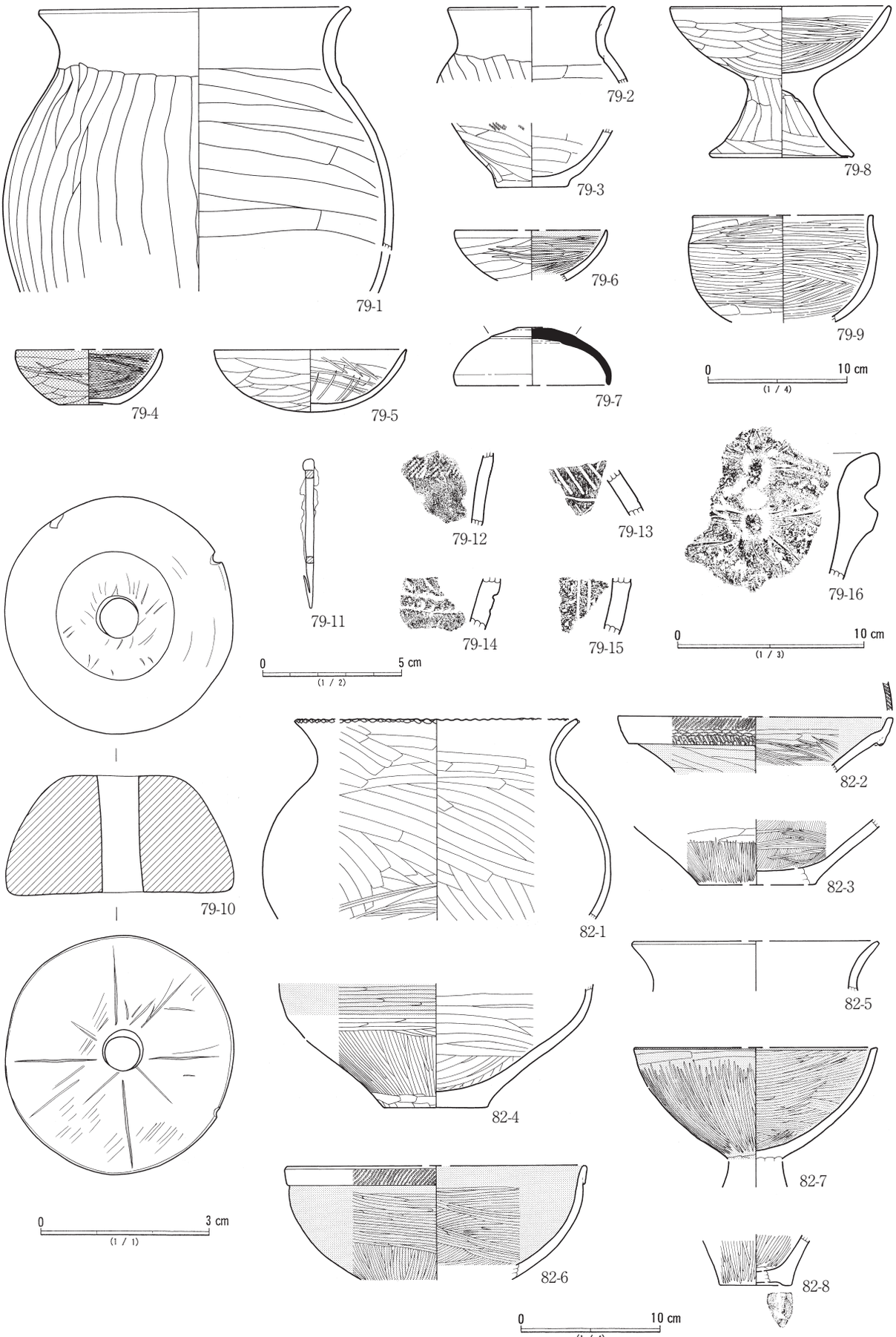


79号遺構
1 暗褐色土 粘土粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒・粘土粒少量含む。
3 暗褐色土 粘土粒少量含む。
4 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
5 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
6 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
7 暗灰色土 粘土主体層。若干の焼土粒混じる。
8 暗灰色土 粘土ブロック。
9 暗褐色土 粘土粒含む。
10 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
11 暗褐色土 ローム粒含む。
12 暗褐色土 炭化物・焼土粒含む。
13 暗褐色土 焼土粒含む。
14 暗褐色土 ローム粒少量・粘土粒含む。
15 暗褐色土 ローム粒・粘土粒少量含む。
16 暗褐色土 ロームブロック・粘土粒少量含む。
17 暗褐色土 粘土粒・灰疎らに混入。





第66図　78～81号遺構実測図



第67図　79・82号遺構出土遺物実測図

78号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号なし土坑。９号方形周溝墓方台部内に存在する単独の円形土坑である。長径1.01ｍ短径0.93ｍ、深さ最大38.5㎝を測り、主軸方位はＮ－20°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

79号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号37号住居跡。調査区中央に位置し、９号方形周溝墓東溝を削平し、238号溝と重複して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.26ｍ短径4.72ｍを測り、主軸方位はＮ－27°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で39㎝、西は36㎝、南41㎝、北は21㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは５～8.5㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が75㎝、Ｐ２は60.5㎝、Ｐ３は76㎝、Ｐ４は65㎝、Ｐ５は31㎝を測る。焼土は３ヶ所に検出され、厚さは２～15.5㎝を測り、周囲には炭化物が散乱している。

遺物

本遺構からは330点8,302ｇの土器片と８点466ｇの礫・石器、１点2.7ｇの鉄器１点0.3ｇの黒曜石剥片が検出された。土器片等の内訳は、307点7,754ｇの土師器、３点153ｇの須恵器、17点305ｇの弥生土器、３点90ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。１・７カマド付近の床面から、９はカマド粘土に密着して検出された。４・５は床面から４㎝程浮いて出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

80号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号37Ａ号土坑。79号竪穴の西側に位置し、235号溝に削平されて存在する長楕円形土坑である。長径2.81ｍ短径1.03ｍ、深さ最大75㎝を測り、主軸方位はＮ－67°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

81号遺構（土坑）

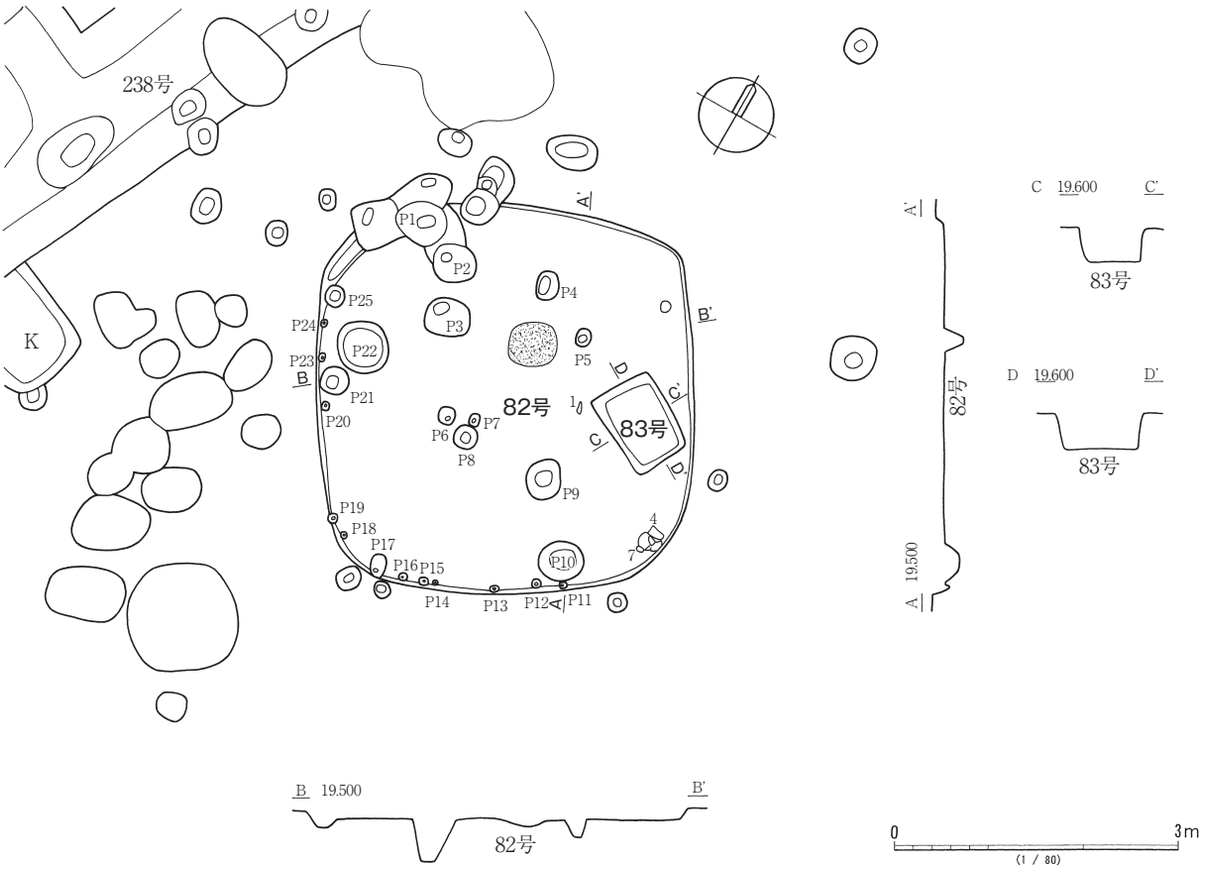
昭和54年度調査時遺構番号37Ｂ号土坑。80号土坑の西側に隣接し、235号溝に覆土の大半を削平されて存在する長楕円形の土坑である。長径3.30ｍ短径0.91ｍ、235号溝底面からの深さは最大33.5㎝を測り、主軸方位はＮ－60°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は全く検出されなかった。

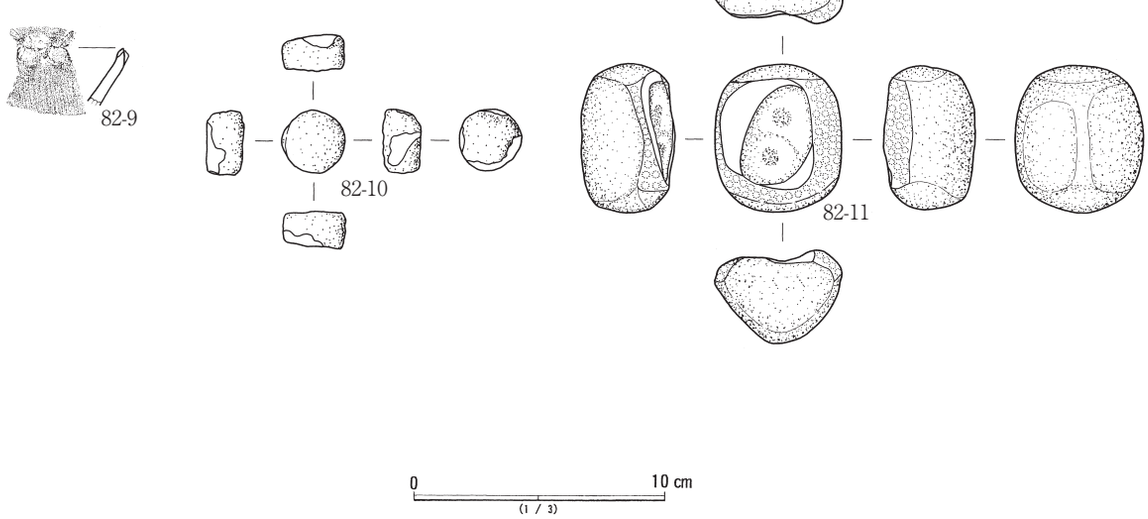
遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

82号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号72号住居跡。調査区中央東側に位置し、83号土坑に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径4.16ｍ短径4.02ｍを測り、主軸方位はＮ－31°－Ｗを示す。炉はＰ４の南側に位置し、長径0.47ｍ短径0.50ｍ、深さ3.7㎝を測り、主軸方位はＮ－23°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で16.5㎝、西は12.0㎝、南15.0㎝、北は9.0㎝を測る。周溝は存在せず、





第68図　82・83号遺構実測図・82号遺構出土遺物実測図

床面はソフトローム層中に構築されほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは25ヶ所に検出され、何れが主柱穴なのかよくわからない。深さはＰ１が78㎝、Ｐ２は40㎝、Ｐ３は46㎝、Ｐ４は55㎝、Ｐ５が19㎝、Ｐ６は11㎝、Ｐ７は７㎝、Ｐ８は18㎝、Ｐ９が19.5㎝、Ｐ10が13.5㎝、Ｐ11は９㎝、Ｐ12は１㎝、Ｐ13は7.5㎝、Ｐ14は９㎝、Ｐ15が15㎝、Ｐ16は11.5㎝、Ｐ17は29㎝、Ｐ18は8.9㎝、Ｐ19が21.2㎝、Ｐ20は118㎝、Ｐ21は67㎝、Ｐ22は22.5㎝、Ｐ23が11㎝、Ｐ24が９㎝、Ｐ25は10㎝を測る。

遺物

本遺構からは55点1,751ｇの土器片と３点195ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、29点176ｇの土師器、３点35ｇの須恵器、23点1,540ｇの弥生土器、１点11ｇの砥石、１点162ｇの磨石である。これらの出土遺物の内11点を図示した。１・４・７は床面密着の状態で出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

83号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号１号土坑。82号竪穴を削平して存在する長方形土坑である。長径0.94m短径0.69m、深さ最大38㎝を測り、主軸方位はＮ－61°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は全く検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

84号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号36号住居跡。調査区中央東側に位置し、単独で存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径7.62m短径6.58mを測り、主軸方位はＮ－16°－Ｅを示す。炉は中央やや北側に検出され、長径0.56m短径0.36m深さ２㎝を測り、主軸方位はＮ－12°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東で39.5㎝、西26.5㎝、南35㎝、北は37.5㎝を測る。検出面での周溝は一部を除いて全周し、深さは６～10㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築されほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは19ヶ所に検出され、深さはＰ１が39.5㎝、Ｐ２は48㎝、Ｐ３は69.5㎝、Ｐ４は62㎝、Ｐ５が33.5㎝、Ｐ６は36㎝、Ｐ７は23㎝、Ｐ８は41㎝、Ｐ９が43㎝、Ｐ10が39.5㎝、Ｐ11は28㎝、Ｐ12は15.5㎝、Ｐ13は39㎝、Ｐ14は25.5㎝、Ｐ15が39㎝、Ｐ16が33㎝、Ｐ17は21㎝、Ｐ18は12㎝、Ｐ19は６㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深く、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

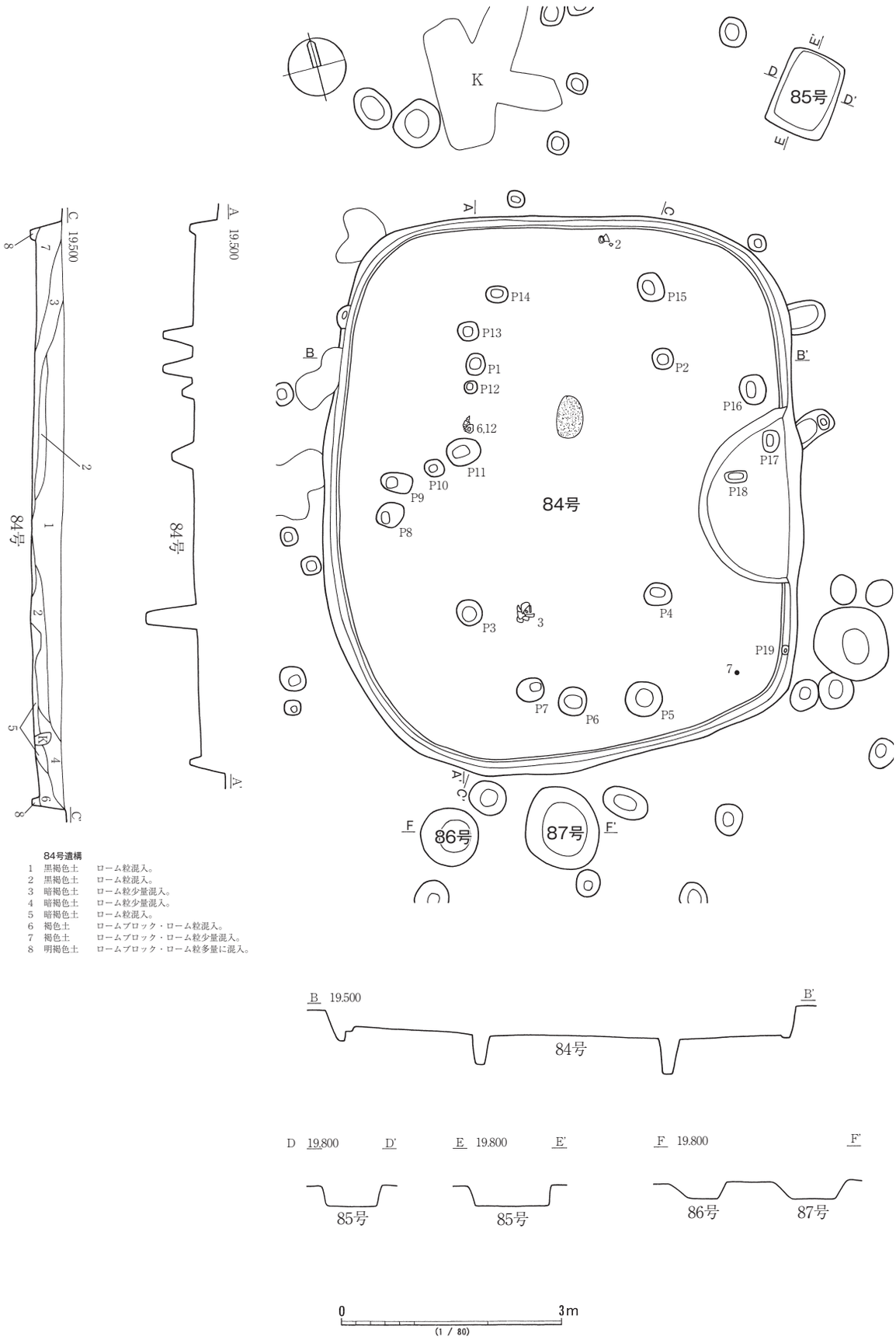
本遺構からは131点2,917ｇの土器片と３点308ｇの礫、１点42ｇの布目瓦片が検出された。土器片等の内訳は、15点293ｇの土師器、111点2,529ｇの弥生土器、５点95ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。２・３・６・７・12全て床面から出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

85号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号110号土坑。84号竪穴の北側に単独で存在する長方形土坑である。長径1.14m短径0.86m、深さ最大26.5㎝を測り、主軸方位はＮ－34°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は全く検出されなかった。

遺物

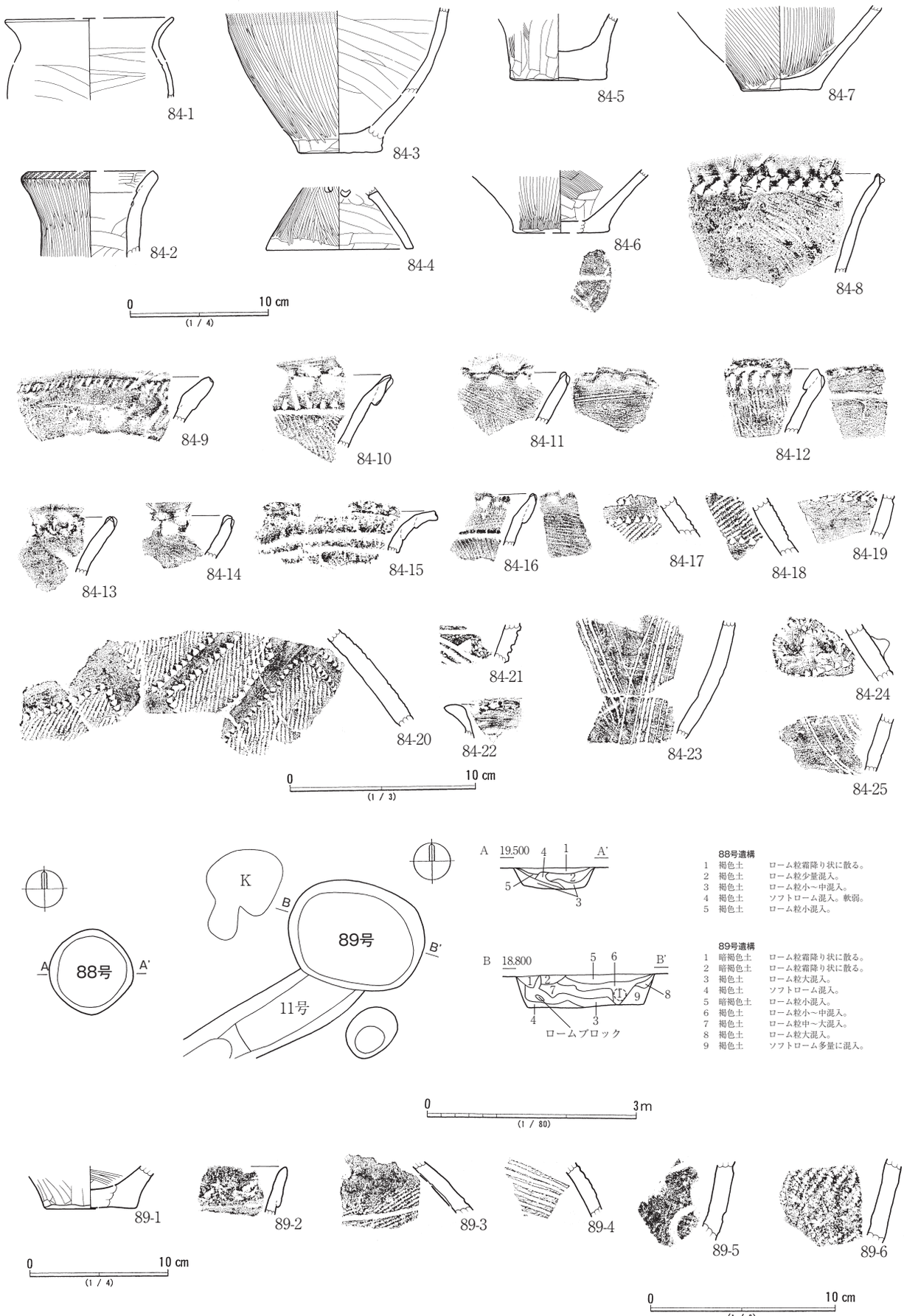
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。



84号遺構

1	黒褐色土	ローム粒混入。
2	黒褐色土	ローム粒混入。
3	暗褐色土	ローム粒少量混入。
4	暗褐色土	ローム粒少量混入。
5	暗褐色土	ローム粒混入。
6	褐色土	ロームブロック・ローム粒混入。
7	褐色土	ロームブロック・ローム粒少量混入。
8	明褐色土	ロームブロック・ローム粒多量に混入。

第69図　84～87号遺構実測図



第70図　88・89号遺構実測図・84・89号遺構出土遺物実測図

86号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号33号土坑。84号竪穴の南側に単独で存在する円形土坑である。長径0.82ｍ短径0.79ｍ、深さ最大22㎝を測り、主軸方位はＮ－24°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は全く検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

87号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号34号土坑。86号土坑東側に単独で存在する円形土坑である。長径1.20ｍ短径1.03ｍ、深さ最大25.5㎝を測り、主軸方位はＮ－16°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は全く検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

88号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構なし。11号方形周溝墓の北側に単独で存在する円形土坑である。長径1.24ｍ短径1.22ｍ、深さ最大32㎝を測り、主軸方位はＮ－２°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は全く検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

89号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号35号土坑。11号方形周溝墓の北溝を削平して存在する楕円形土坑である。長径2.00ｍ短径1.55ｍ、深さ最大44.5㎝を測り、主軸方位はＮ－78°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は全く検出されなかった。

遺物

本遺構からは26点316ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、14点104ｇの土師器、９点143ｇの弥生土器、３点69ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

90号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号29号住居跡。調査区中央西側に位置し、18号改葬系区画墓・236号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径6.86ｍ短径6.62ｍを測り、主軸方位はＮ－16°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在したが、236号溝に削平され、粘土によるカマド痕跡が残存する。残存する壁高は、それぞれ東で23.5㎝、西は13.5㎝、南10.5㎝、北14㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは４～11㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が236号溝底面から27㎝、Ｐ２は53㎝、Ｐ３は60㎝、Ｐ４は47.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは184点2,618ｇの土器片と３点225ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、146点1,971

ｇの土師器、４点33ｇの須恵器、21点333ｇの弥生土器、13点281ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。２はカマド粘土に密着して、１・３・９は床面から検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

91号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号28号住居跡。90号竪穴の東側に位置し、92号竪穴・234号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.84m短径4.64mを測り、主軸方位はＮ－83°－Ｅを示す。カマドは東壁中央やや南側に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で20㎝、西は8.5㎝、南24.5㎝、北20㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは２～9.5㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が61.5㎝、Ｐ２は44㎝、Ｐ３は49㎝、Ｐ４は48.5㎝、Ｐ５は31.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは155点3,338ｇの土器片と３点413.7ｇの石器が検出された。土器片等の内訳は、125点2,706ｇの土師器、１点１ｇの須恵器、24点508ｇの弥生土器、５点123ｇの縄文土器、１点135ｇの磨石、１点275ｇの磨石･敲石、１点3.7ｇの尖頭器である。これらの出土遺物の内23点を図示した。１・２・４・５床面から５㎝以内の範囲から、22は南側周溝底から2.5㎝浮いた状態で検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

92号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号27号住居跡。91号竪穴の東側に位置し、91号竪穴を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.88m短径4.74mを測り、主軸方位はＮ－９°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東壁で35㎝、西壁は13.3㎝、南壁32.5㎝、北壁30.5㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは3.5～13.0㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、深さはＰ１が57㎝、Ｐ２は44.5㎝、Ｐ３は54.5㎝、Ｐ４は43.5㎝、Ｐ５は10㎝、Ｐ６は２㎝、Ｐ７は６㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。Ｐ８は91号・92号竪穴に跨り、直接両者に伴うピットではないが、深さ32㎝を測る。

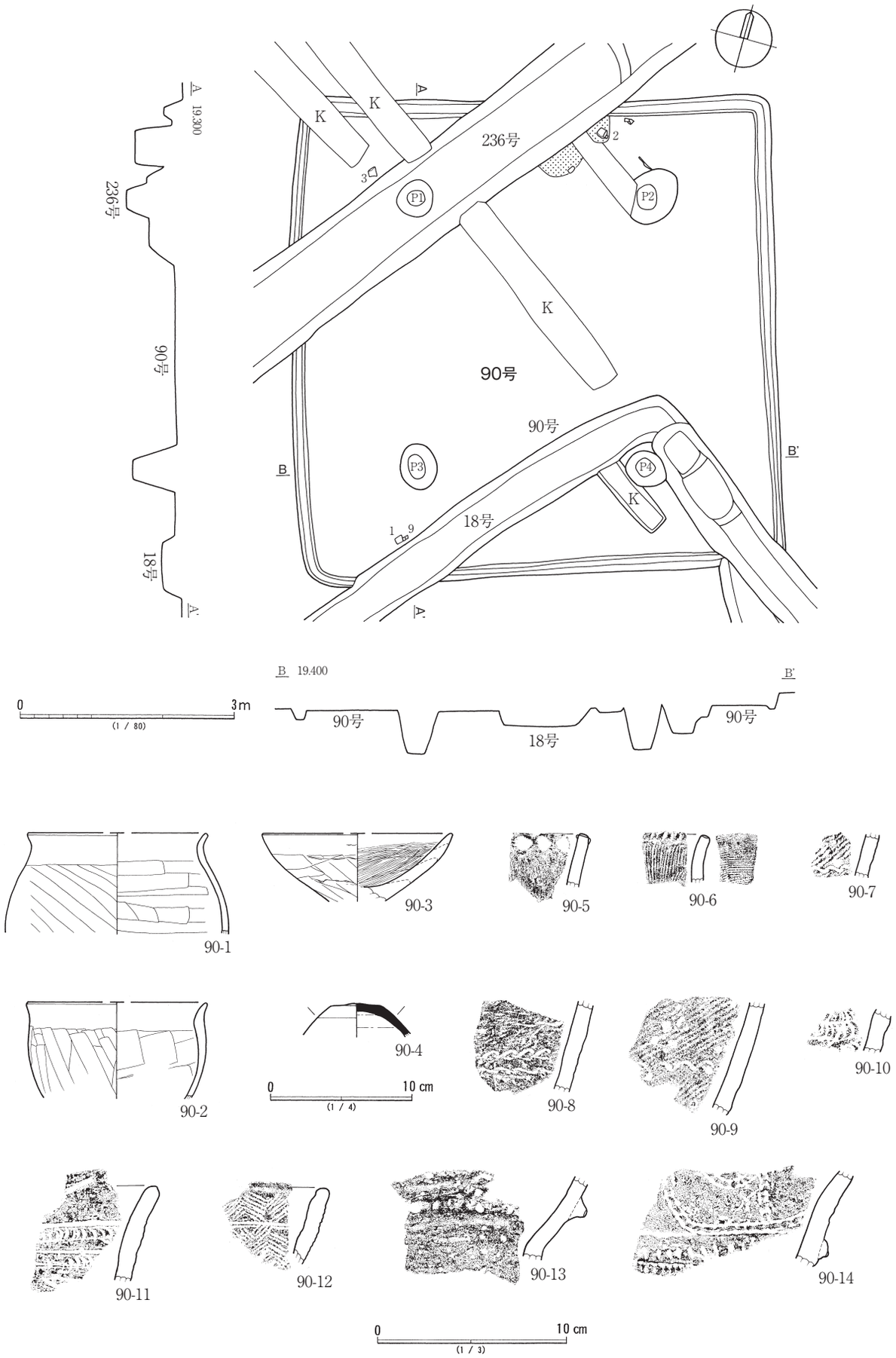
なお遺構中央に長径2.50m短径1.07m深さ62㎝の土坑状の落ち込みが存在するが、調査日誌等には何の記載もされていなかった。

遺物

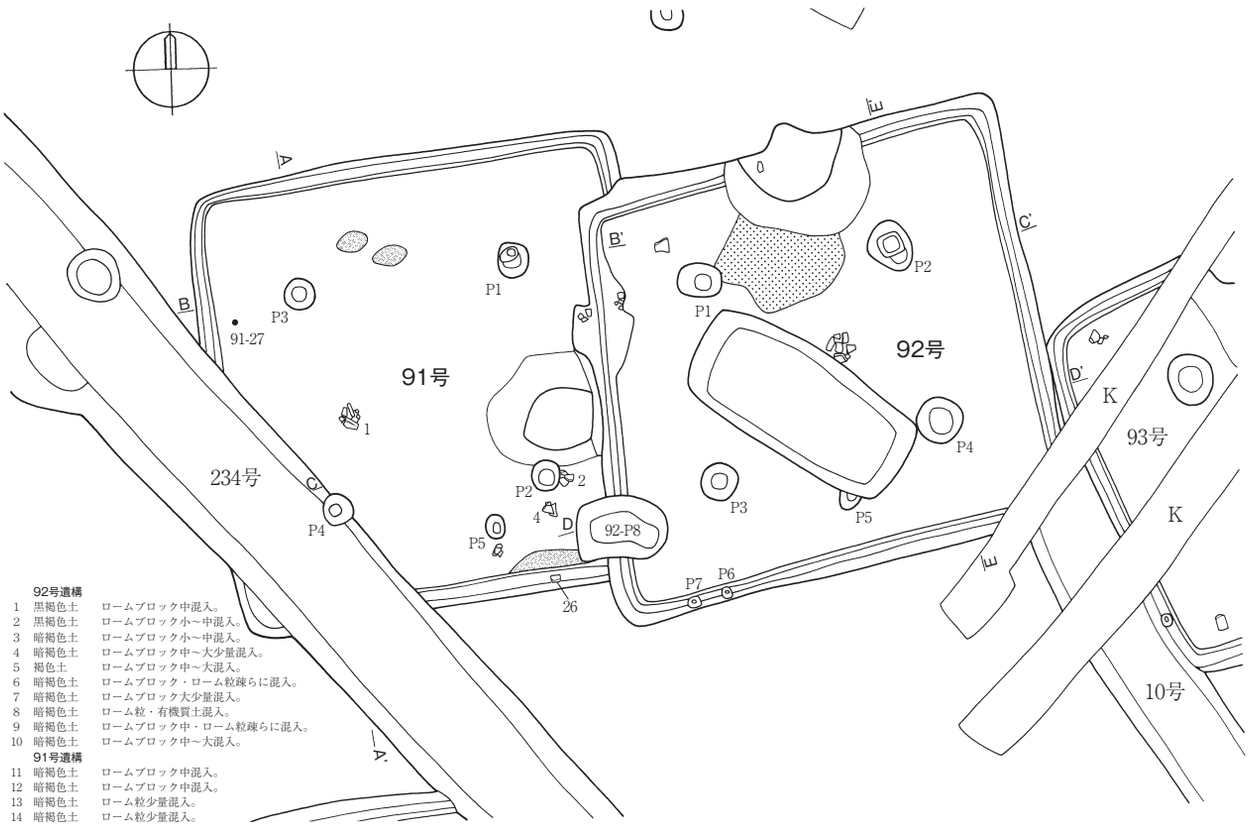
本遺構からは181点5,783ｇの土器片と４点250ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、143点5,006ｇの土師器、３点35ｇの須恵器、30点617ｇの弥生土器、１点33ｇの手づくね土器、４点92ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。１・３・４はカマド内から検出された。２は床面から8.5㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

93号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号26号住居跡。10号方形周溝墓方台部内に位置し、10号方形周溝墓の一部を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.76m短径4.70mを測り、主軸方位はＮ－22°－



第71図　90号遺構実測図・90号遺構出土遺物実測図

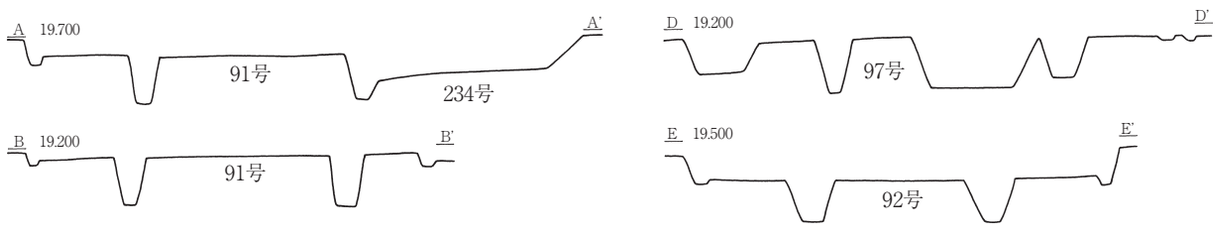


92号遺構

1 黒褐色土 ロームブロック中混入。
2 黒褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
5 褐色土 ロームブロック中～大混入。
6 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒疎らに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック大少量混入。
8 暗褐色土 ローム粒・有機質土混入。
9 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒疎らに混入。
10 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。

91号遺構

11 暗褐色土 ロームブロック中混入。
12 暗褐色土 ロームブロック中混入。
13 暗褐色土 ローム粒少量混入。
14 暗褐色土 ローム粒少量混入。

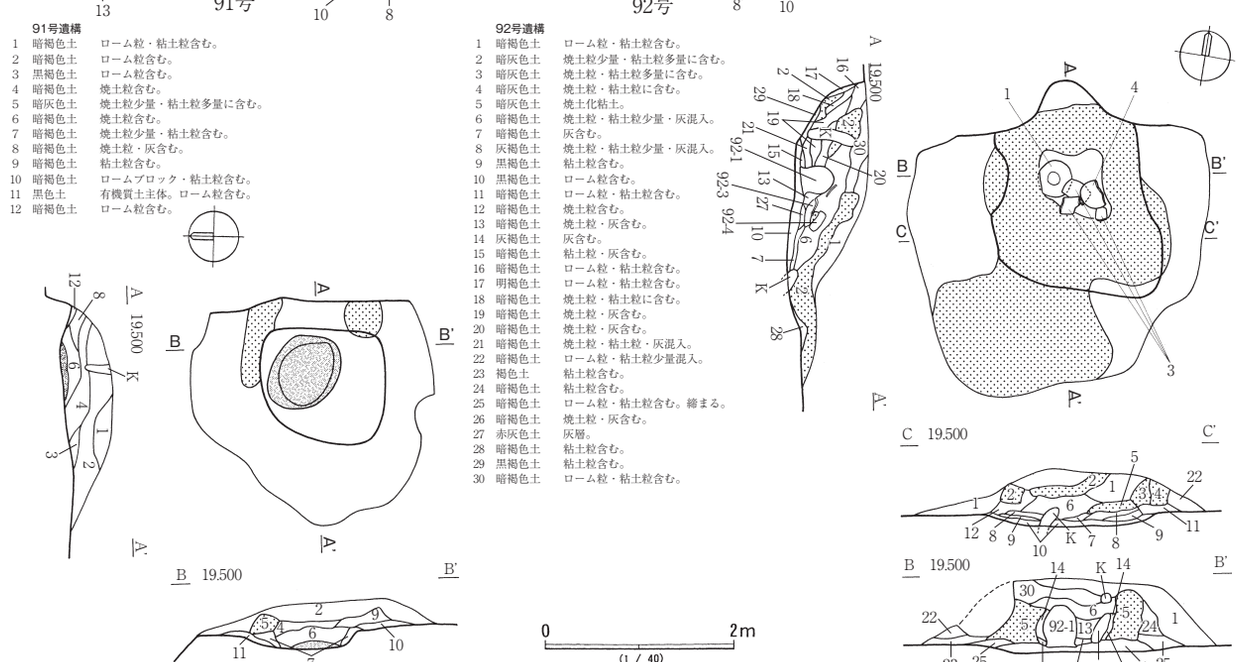


91号遺構

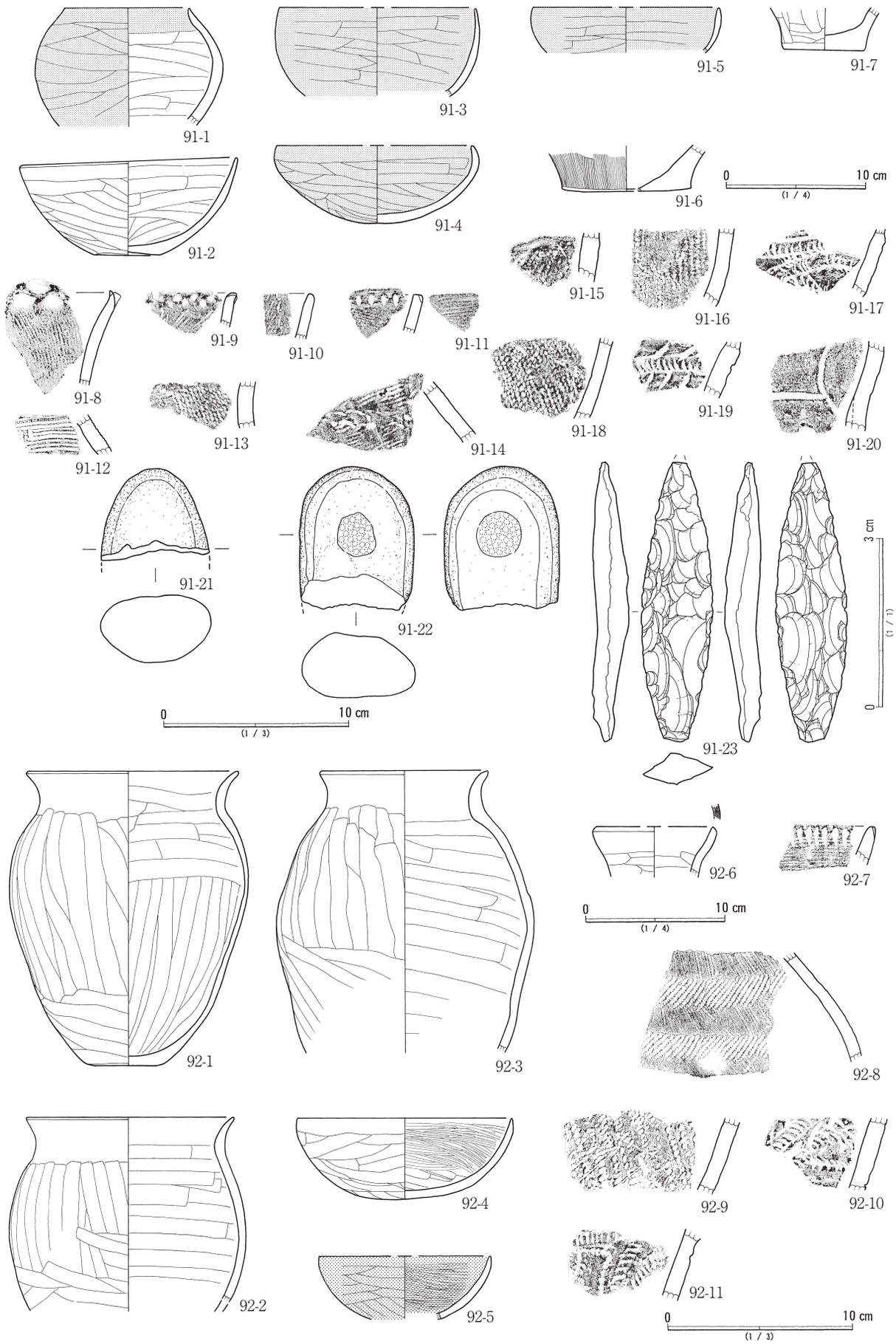
1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒含む。
3 黒褐色土 ローム粒含む。
4 暗褐色土 焼土粒含む。
5 暗灰色土 焼土粒少量・粘土粒多量に含む。
6 暗褐色土 焼土粒含む。
7 暗褐色土 焼土粒少量・粘土粒含む。
8 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
9 暗褐色土 粘土粒含む。
10 暗褐色土 ロームブロック・粘土粒含む。
11 黒色土 有機質土主体。ローム粒含む。
12 暗褐色土 ローム粒含む。

92号遺構

1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
2 暗灰色土 焼土粒少量・粘土粒多量に含む。
3 暗灰色土 焼土粒・粘土粒多量に含む。
4 暗灰色土 焼土粒・粘土粒に含む。
5 暗灰色土 焼土化粘土。
6 暗褐色土 焼土粒・粘土粒少量・灰混入。
7 暗褐色土 灰含む。
8 灰褐色土 焼土粒・粘土粒少量・灰混入。
9 黒褐色土 粘土粒含む。
10 黒褐色土 ローム粒含む。
11 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
12 暗褐色土 焼土粒含む。
13 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
14 灰褐色土 灰含む。
15 暗褐色土 粘土粒・灰含む。
16 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
17 明褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
18 暗褐色土 焼土粒・粘土粒に含む。
19 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
20 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
21 暗褐色土 焼土粒・粘土粒・灰混入。
22 暗褐色土 ローム粒・粘土粒少量混入。
23 褐色土 粘土粒含む。
24 暗褐色土 粘土粒含む。
25 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。締まる。
26 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
27 赤灰色土 灰層。
28 暗褐色土 粘土粒含む。
29 黒褐色土 粘土粒含む。
30 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。



第72図　91・92号遺構実測図



第73図　91・92号遺構出土遺物実測図

Wを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で42㎝、西は21㎝、南40.5㎝、北38㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは５～10㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が55㎝、Ｐ２は56.5㎝、Ｐ３は61.5㎝、Ｐ４は62.5㎝、Ｐ５は４㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは259点3,513ｇの土器片と13点1,705ｇの礫・石器、１点1.7ｇの鉄滓が検出された。土器片等の内訳は、238点2,678ｇの土師器、３点471ｇの須恵器、４点74ｇの弥生土器、14点290ｇの縄文土器、１点95ｇの砥石、１点1,400ｇの石皿である。これらの出土遺物の内32点を図示した。4・6・7・32はそれぞれ壁際の床面から出土した。５はカマド粘土に密着して検出された須恵器蓋である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

94号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号31号住居跡。93号竪穴の東に位置し、10号方形周溝墓の南側溝を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.94ｍ短径4.90ｍを測り、主軸方位はＮ－７°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で26㎝、西は21.5㎝、南25㎝、北26㎝を測る。周溝は全周し、深さは4.5～10.0㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が64.5㎝、Ｐ２は69.5㎝、Ｐ３は62.5㎝、Ｐ４は72.5㎝、Ｐ５は40.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。Ｐ５はその位置から貯蔵穴と想定される。

遺物

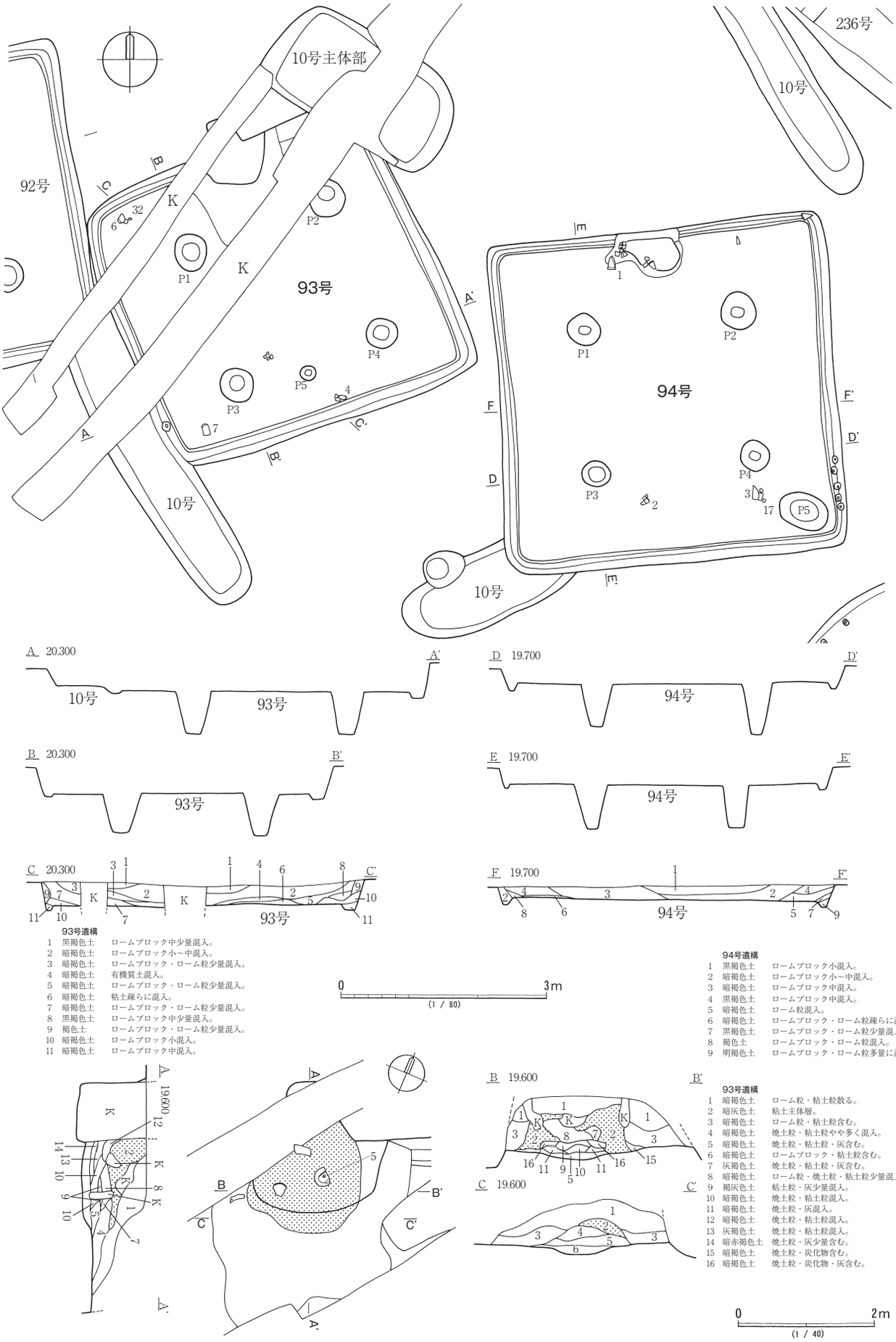
本遺構からは191点5,005ｇの土器片と２点27ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、156点4,010ｇの土師器、32点938ｇの弥生土器、３点57ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。１はカマド粘土に密着して検出された土師器甕である。２は床直、３・17は床面から13㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

95号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号30号住居跡。18号改葬系区画墓・234号溝に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径6.84ｍ短径6.30ｍを測り、主軸方位はＮ－13°－Ｗを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南側に存在し、長径0.80ｍ短径0.58ｍ深さ18㎝を測り、主軸方位はＮ－20°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東で26.5㎝、西は10.5㎝、南25.8㎝、北15.2㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは3.2～12.8㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で比較的硬く踏み固められている。ピットは13ヶ所に検出され、深さはＰ１が24㎝、Ｐ２は58.7㎝、Ｐ３は45.5㎝、Ｐ４は65㎝、Ｐ５は66㎝、Ｐ６が50㎝、Ｐ７は41.5㎝、Ｐ８は39㎝、Ｐ９は66.5㎝、Ｐ10は11㎝、Ｐ11が68.1㎝、Ｐ12は19.5㎝、Ｐ13は45㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは87点2,507ｇの土器片と１点21ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、24点353ｇの



93号遺構

1 黒褐色土　ロームブロック中少量混入。
2 暗褐色土　ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒少量混入。
4 暗褐色土　有機質土混入。
5 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒少量混入。
6 暗褐色土　粘土疎らに混入。
7 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒少量混入。
8 黒褐色土　ロームブロック中少量混入。
9 褐色土　ロームブロック・ローム粒少量混入。
10 暗褐色土　ロームブロック小混入。
11 暗褐色土　ロームブロック中混入。

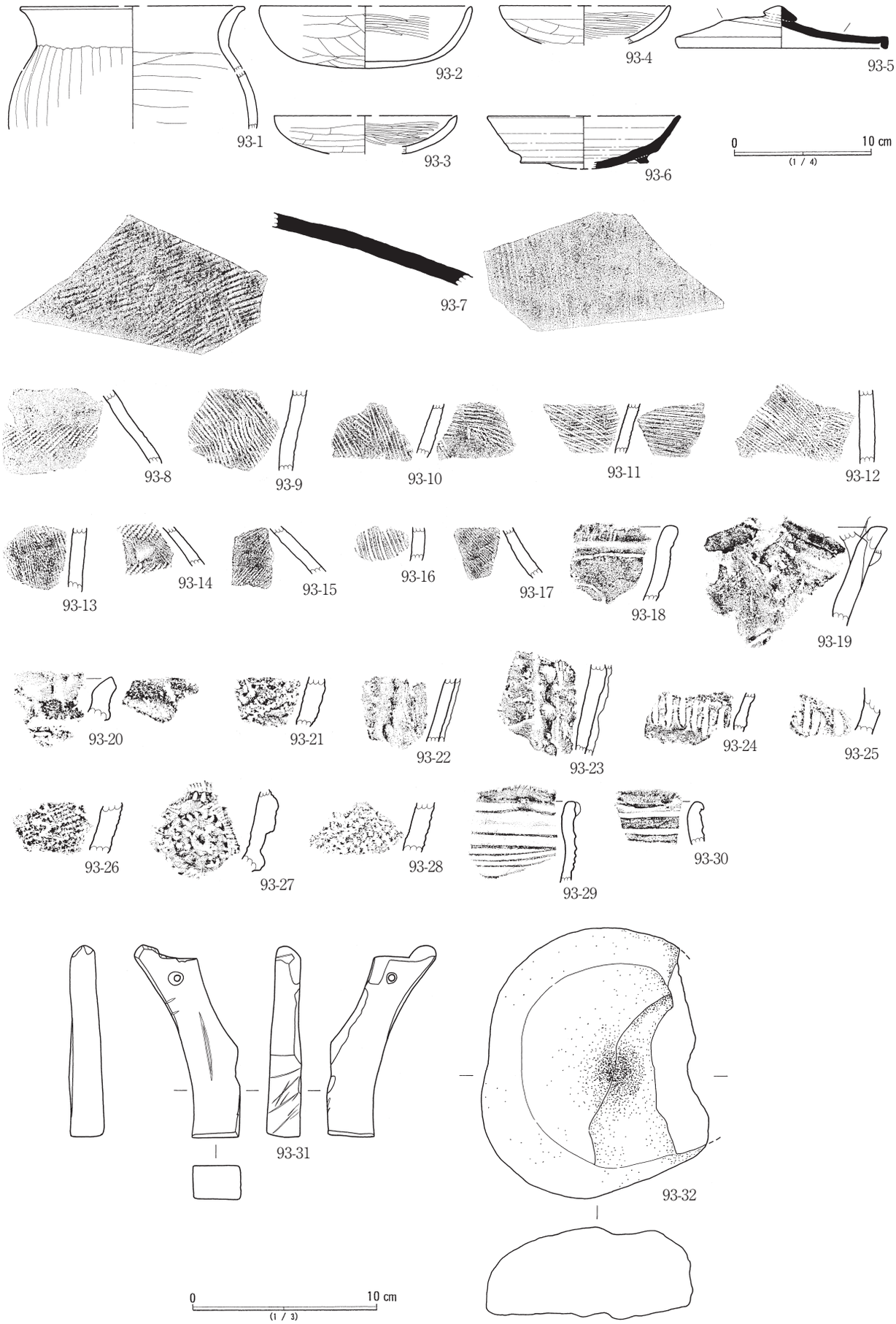
94号遺構

1 黒褐色土　ロームブロック小混入。
2 暗褐色土　ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土　ロームブロック中混入。
4 黒褐色土　ロームブロック中混入。
5 暗褐色土　ローム粒混入。
6 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒疎らに混入。
7 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒少量混入。
8 褐色土　ロームブロック・ローム粒混入。
9 明褐色土　ロームブロック・ローム粒多量に混入。

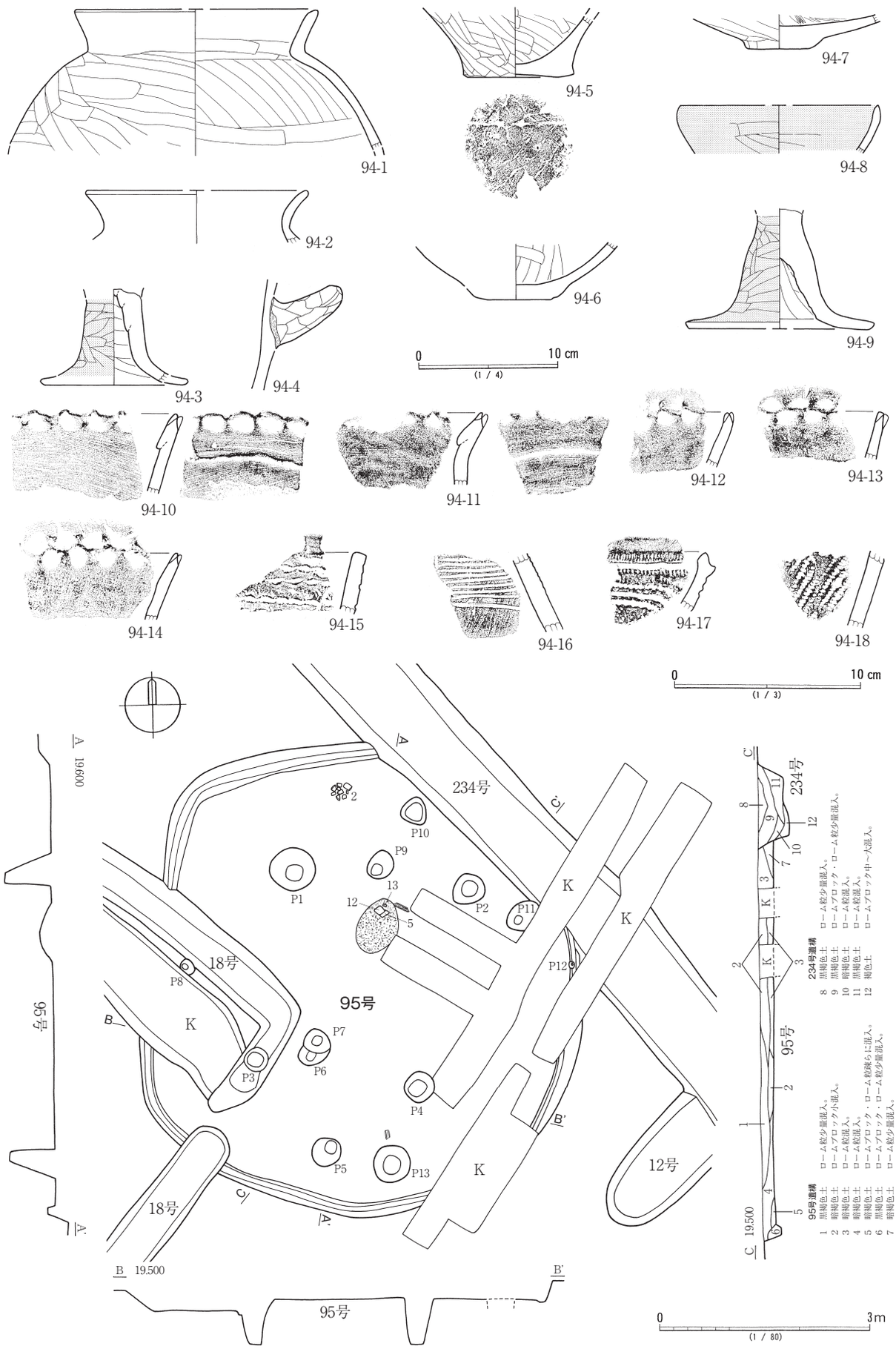
93号遺構

1 暗褐色土　ローム粒・粘土粒散る。
2 暗灰色土　粘土主体層。
3 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
4 暗褐色土　焼土粒・粘土粒やや多く混入。
5 暗褐色土　焼土粒・粘土粒・灰含む。
6 暗褐色土　ロームブロック・粘土粒含む。
7 灰褐色土　焼土粒・粘土粒・灰含む。
8 暗褐色土　ローム粒・焼土粒・粘土粒少量混入。
9 褐灰色土　粘土粒・灰少量混入。
10 暗褐色土　焼土粒・粘土粒混入。
11 暗褐色土　焼土粒・灰混入。
12 暗褐色土　焼土粒・粘土粒混入。
13 灰褐色土　焼土粒・粘土粒混入。
14 暗赤褐色土　焼土粒・灰少量含む。
15 暗褐色土　焼土粒・炭化物含む。
16 暗褐色土　焼土粒・炭化物・灰含む。

第74図　93・94号遺構実測図



第75図　93号遺構出土遺物実測図



第76図　95号遺構実測図・94号遺構出土遺物実測図

土師器、51点1,910ｇの弥生土器、12点244ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。２は北壁付近の床面から８㎝浮いた状態で検出されている。５・12・13は炉内火床から13㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

96号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号42号住居跡。94号竪穴の南側に位置し、238号溝に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径6.30ｍ短径5.74ｍを測り、主軸方位はＮ－34°－Ｅを示す。遺構中央を238号溝が削平するため、炉は削平されてしまった可能性が高い。残存する壁高は、それぞれ東で18㎝、西は18.5㎝、南24.5㎝、北４㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に構築され、比較的凹凸が目立つが硬く踏み固められている。ピットは壁際に28ヶ所に検出され、深さは４～17㎝を測る。床面には８ヶ所のピットが検出され、深さはＰ１が78㎝、Ｐ２は66㎝、Ｐ３は64㎝、Ｐ４は61.5㎝、Ｐ５は35㎝、Ｐ６が13㎝、Ｐ７は23㎝、Ｐ８は51㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

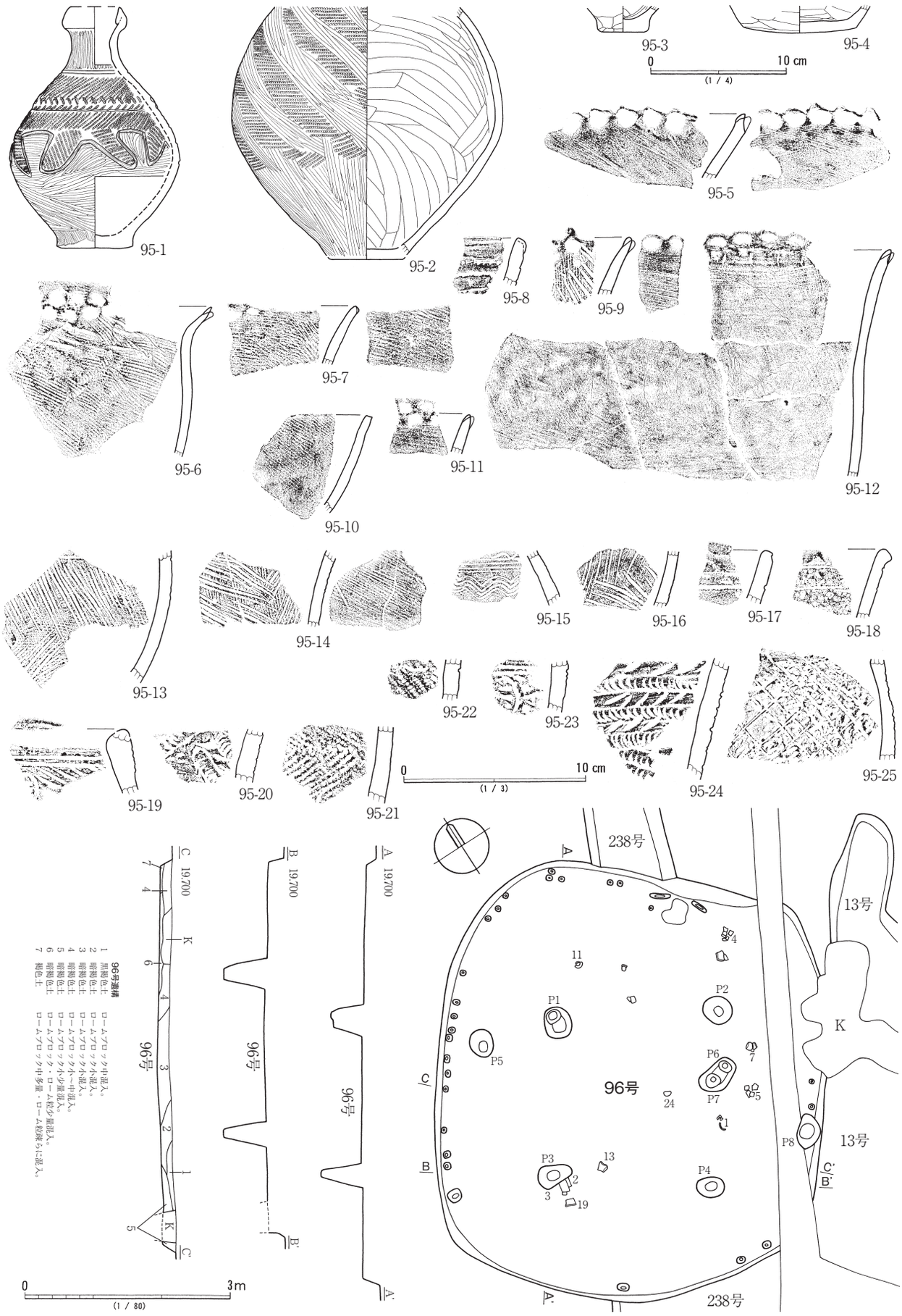
本遺構からは295点9,139ｇの土器片と25点871ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、１点７ｇの土師器、291点9,069ｇの弥生土器、３点63ｇの縄文土器、１点166ｇの磨石、１点29ｇの瓦である。これらの出土遺物の内25点を図示した。１・２・３・４・５・７・11・13は床面から５～10㎝程浮いた状態で検出されている。この他19は床面から14㎝浮いて、24は床面密着の状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

97号遺構（竪穴住居跡）

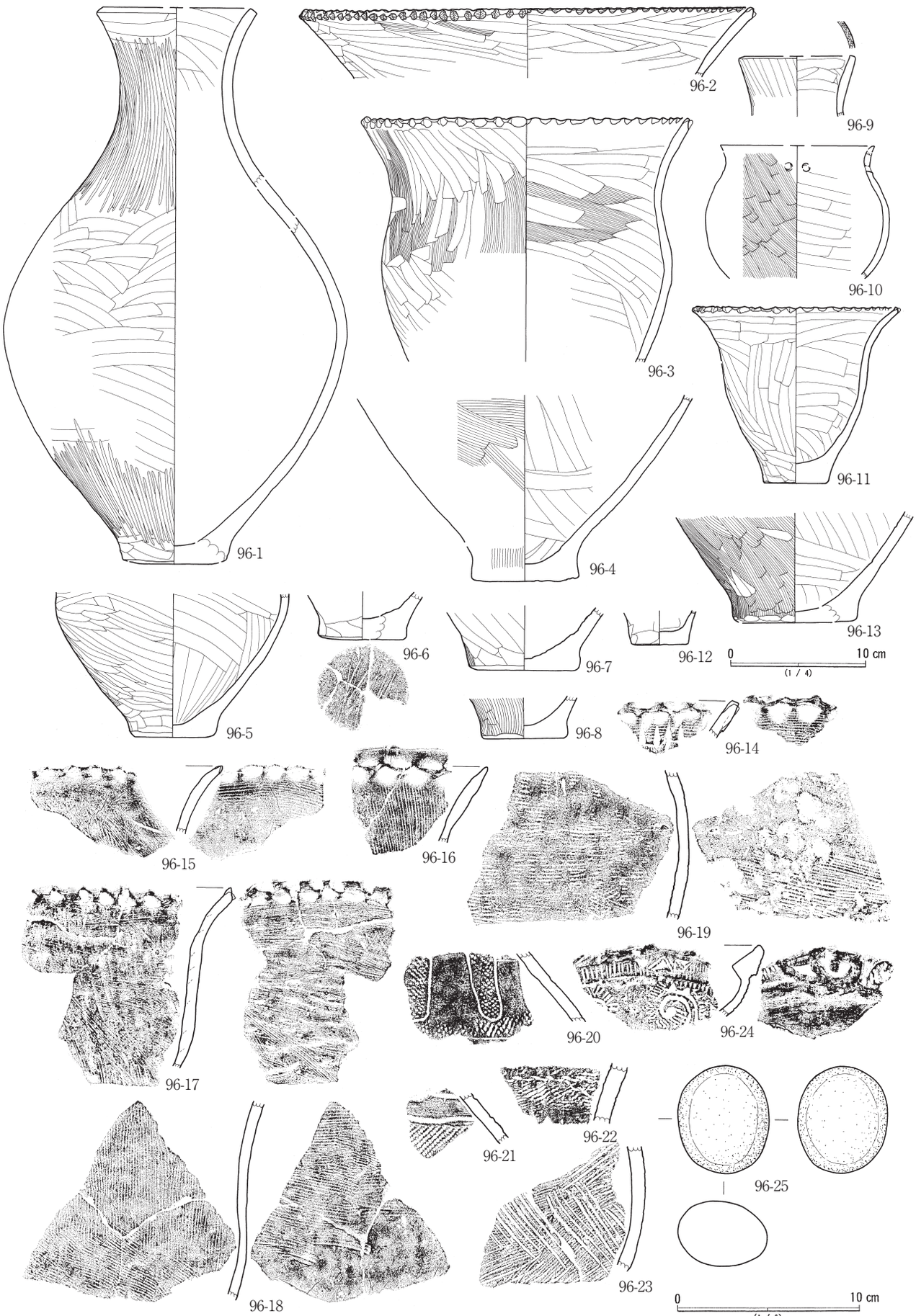
昭和54年度調査時遺構番号38号住居跡。13号方形周溝墓の北側に位置し13号方形周溝墓北溝に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径7.94ｍ短径7.24ｍを測り、主軸方位はＮ－25°－Ｗを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央やや南側に検出され、長径1.00ｍ短径0.56ｍ深さ５㎝を測り、主軸方位はＮ－15°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で49㎝、西は36㎝、南46㎝、北34㎝を測り、周溝は全周し、深さは８～19㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、平坦で硬く踏み固められている。ピットは18ヶ所に検出され、深さはＰ１が51㎝、Ｐ２は74㎝、Ｐ３は16㎝、Ｐ４は40㎝、Ｐ５は69㎝、Ｐ６が51㎝、Ｐ７は65㎝、Ｐ８は７㎝、Ｐ９が13㎝、Ｐ10は６㎝、Ｐ11は22㎝、Ｐ12は47㎝、Ｐ13は11㎝、Ｐ14が16㎝、Ｐ15は３㎝、Ｐ16は７㎝、Ｐ17は５㎝、Ｐ18は28㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴に、Ｐ７は入口施設と想定される。この他、北壁付近の床面の２ヶ所に焼土が検出され、厚さ10㎝前後を測る。

遺物

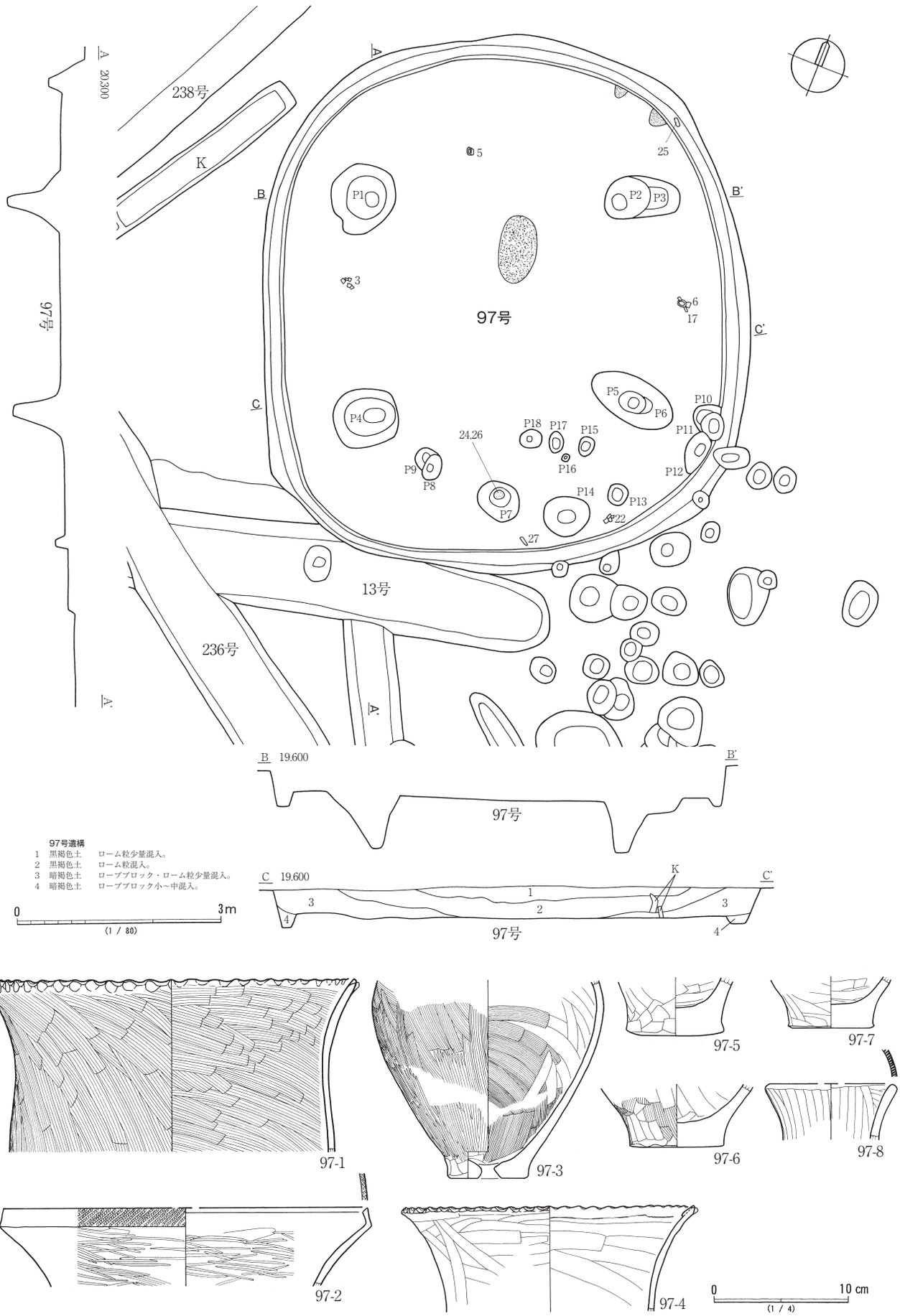
本遺構からは334点6,556ｇの土器片と８点941ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、66点1,095ｇの土師器、２点38ｇの須恵器、262点5,309ｇの弥生土器、３点78ｇの縄文土器、１点36ｇの中近世土器、３点324ｇの磨石、３点338ｇの軽石である。これらの出土遺物の内28点を図示した。３・５は床面から８～９㎝程浮いた状態で検出されている。６・17は床面密着で検出された。22は床面密着、25は周溝内底面密着の状態で、27は床面より14㎝浮いた状態で検出されている。この他24・26は



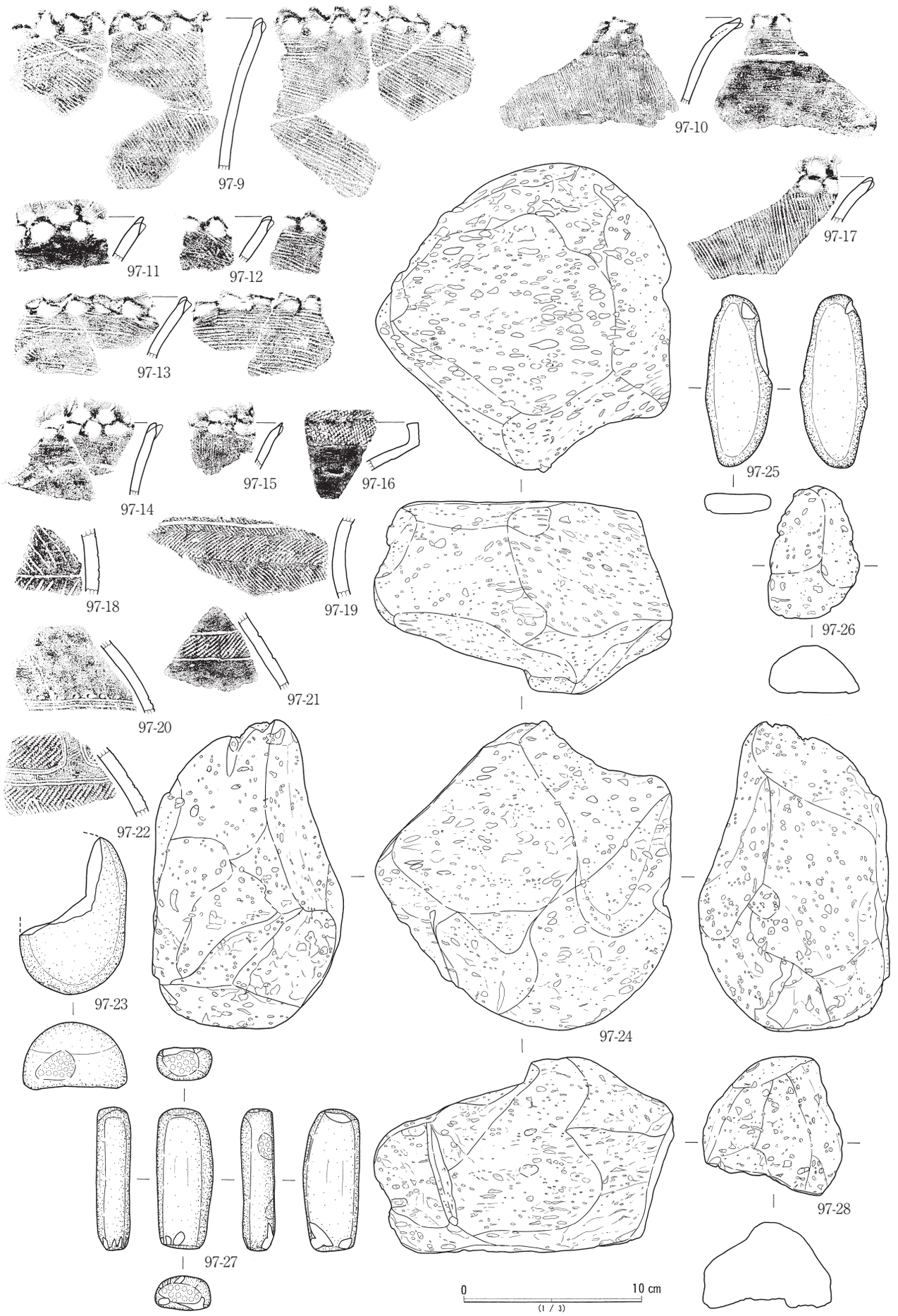
第77図　96号遺構実測図・95号遺構出土遺物実測図



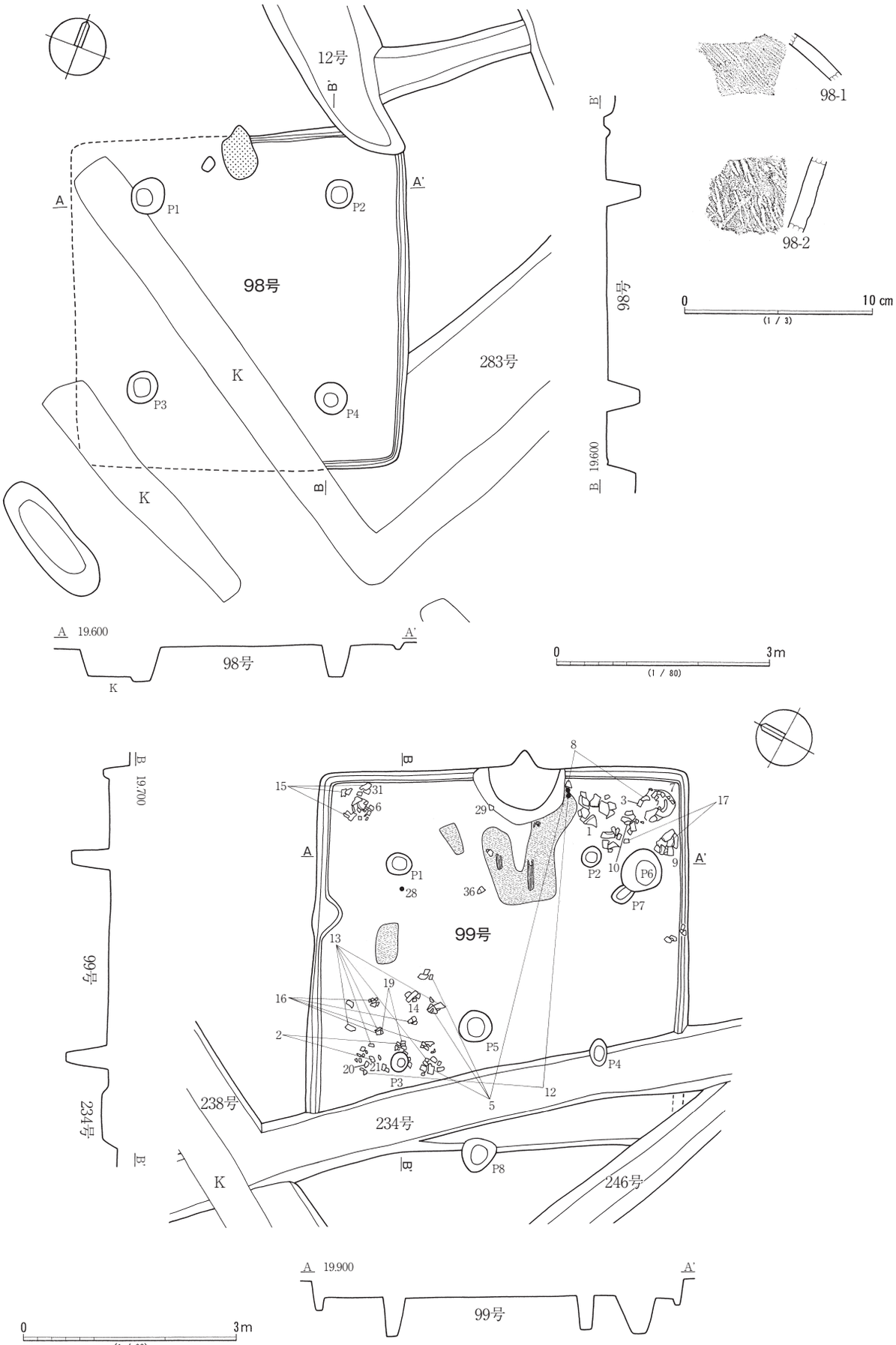
第78図　96号遺構出土遺物実測図



第79図　97号遺構実測図・97号遺構出土遺物実測図



第80図　97号遺構出土遺物実測図



第81図　98・99号遺構実測図・98号遺構出土遺物実測図

Ｐ７内から検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

98号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号71号住居跡。12号方形周溝墓の南側に位置し、12号方形周溝墓・238号溝を削平して存在する竪穴住居跡である。遺構西側の大半は台地整形により喪失しているが、かろうじて残存するカマド粘土より方形プランを呈するものと想定され、推定長径4.86m推定短径4.76mを測り、主軸方位はＮ－18°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、東で1.8cm、南1.5cm、北0.5cmを測る。検出面での周溝は西半分を除いて全周し、深さは１～8.3cmを測る。残存する床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で中央部が硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が49.5cm、Ｐ２は46cm、Ｐ３は44cm、Ｐ４は45.8cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは３点50ｇの土器片と１点９ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、１点13ｇの土師器、１点10ｇの弥生土器、１点27ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

99号遺構（竪穴住居跡）

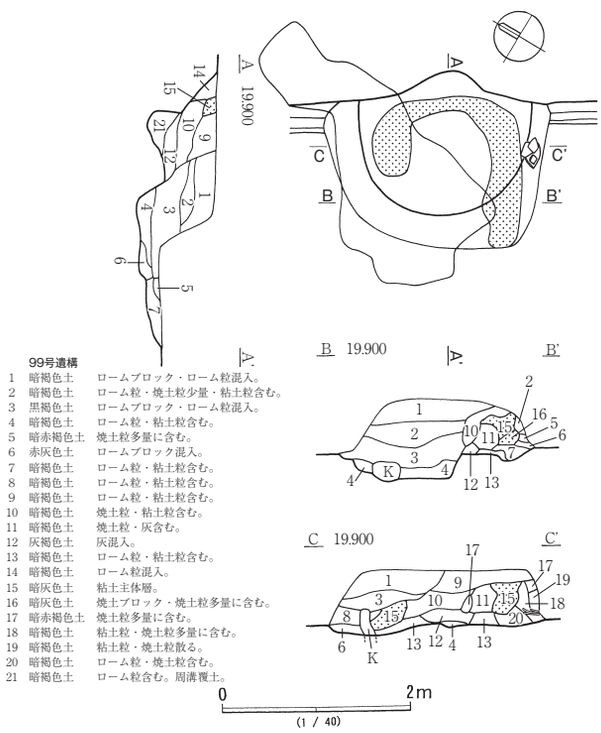
昭和54年度調査時遺構番号43号住居跡。98号竪穴の東側に位置し、234号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.50m短径5.36mを測り、主軸方位はＮ－61°－Ｅを示す。カマドは東壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で29cm、西13.5cm、南20.0cm、北22.5cmを測る。検出面での周溝は南側を除いて全周し、深さは8.5～13cmを測る。残存する床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で中央部が硬く踏み固められている。ピットは８ヶ所に検出され、深さはＰ１が54cm、Ｐ２は48cm、Ｐ３は59cm、Ｐ４は45.5cm、Ｐ５が29cm、Ｐ６は48cm、Ｐ７は13.5cm、Ｐ８は14.5cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。この他、床面の３ヶ所から焼土・炭化物が検出され、厚さは５～10cmを測る。

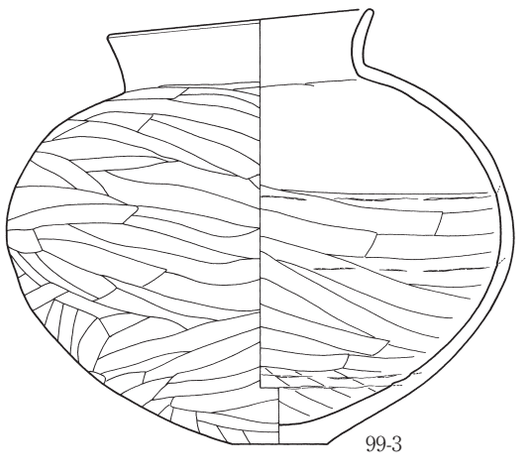
遺物

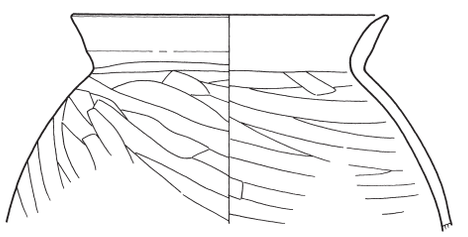
本遺構からは580点22,180.5ｇの土器片と10点440ｇの礫・石器、４点0.4ｇの臼玉、２点10.7ｇの有孔円盤、１点25.5ｇの槍鉋が検出された。土器片等の内訳は、508点21,298.3ｇの土師器、２点193.8ｇの須恵器、49点456.9ｇ弥生土器、20点223.5ｇの縄文土器、１点８ｇの中近世土器である。これらの出土遺物の内38点を図示した。１・３・７～10・17はカマド右側からコーナー部にかけての床面から５～18cm浮いた状態で出土した。２・５・12・13・16・19～21は南西コーナー部の床直から13cm浮いた状態で検出されている。６・15・31は北東コーナー部で、床直から16cm浮いた状態で検出されている。28は床面から10cm浮いた状態で検出された鉇である。この他29がカマド密着状態で、36はカマド前面で出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

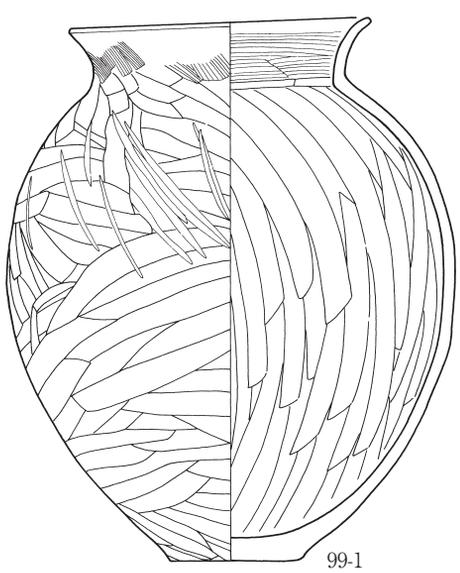
100号遺構（竪穴住居跡）

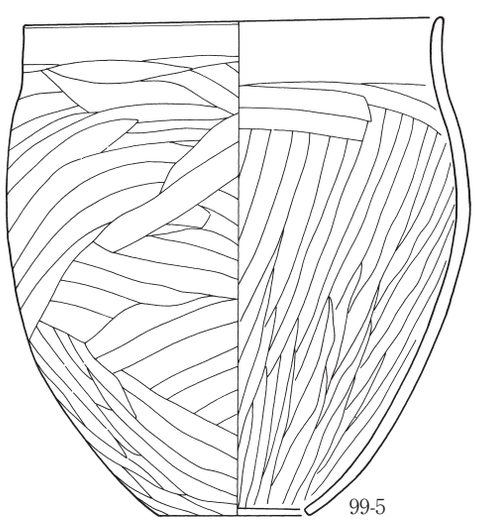
昭和54年度調査時遺構番号44号住居跡。99号竪穴の南側に位置し、234・246号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径6.52m短径5.26mを測り、主軸方位はＮ－17°－Ｗを示す。カマ

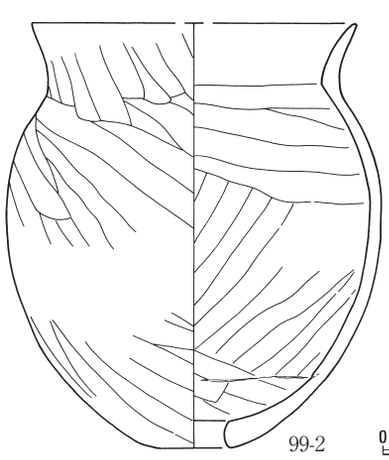


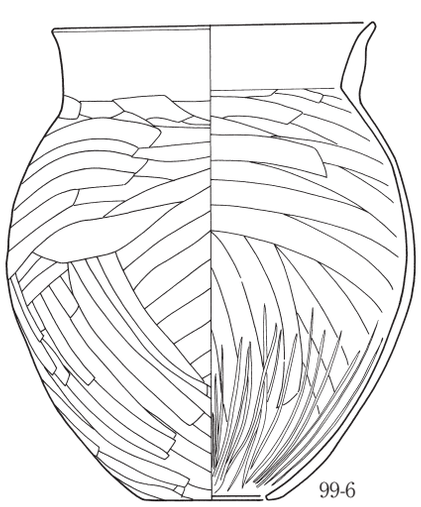




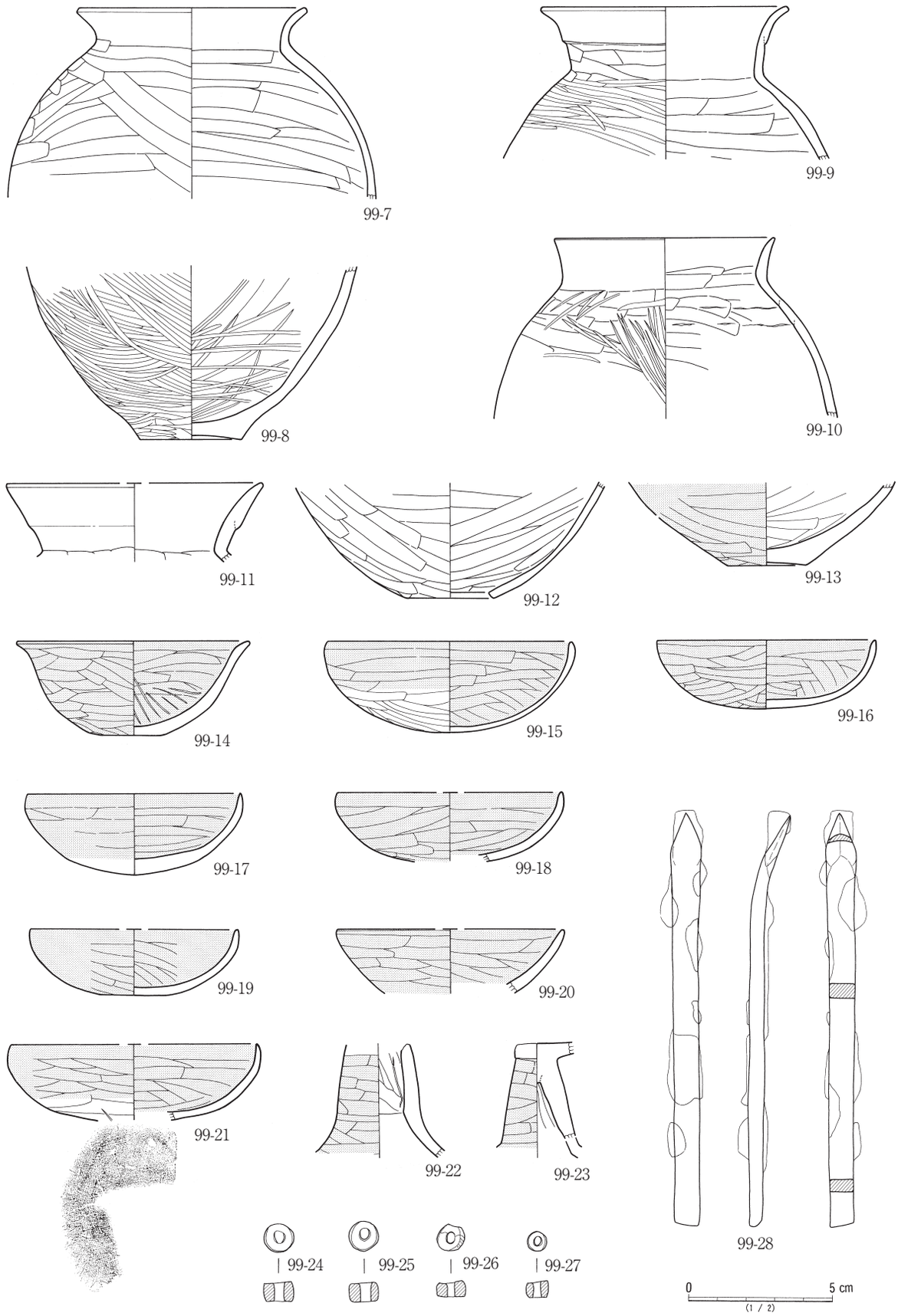




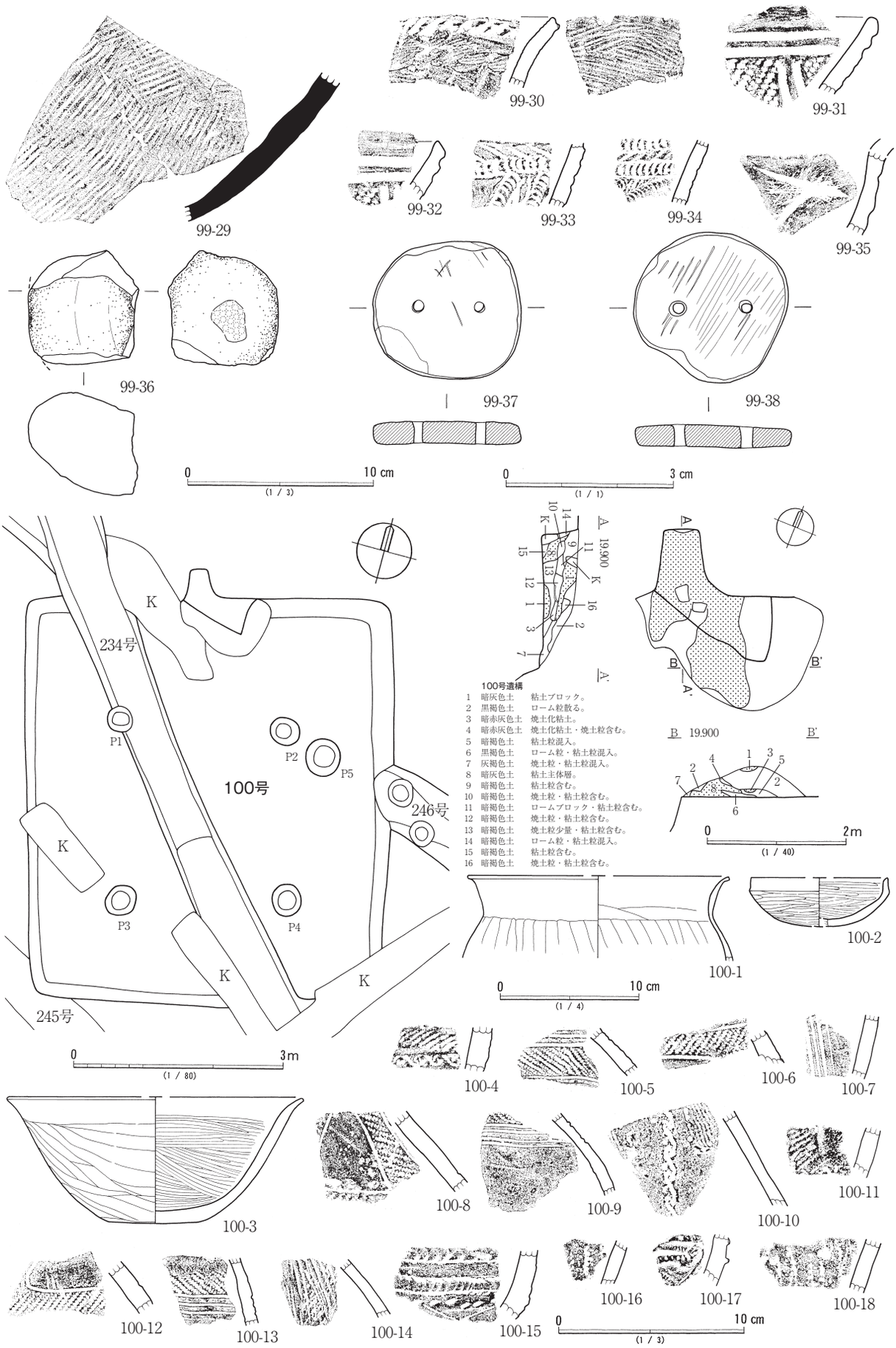




第82図　99号遺構実測図・99号遺構出土遺物実測図



第83図　99号遺構出土遺物実測図



第84図　100号遺構実測図・99・100号遺構出土遺物実測図

ドは北壁中央に存在するが、大半を246号溝に削平されている。残存する壁高は、それぞれ東で28.5㎝、西測定値なし、南20.5㎝、北29.0㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が50㎝、Ｐ２は47㎝、Ｐ３は47㎝、Ｐ４は47.5㎝、Ｐ５が55㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは124点1,900ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、106点1,510ｇの土師器、１点40ｇの須恵器、９点222ｇ弥生土器、７点102ｇの縄文土器、１点26ｇの中近世土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

101号遺構（竪穴住居跡）

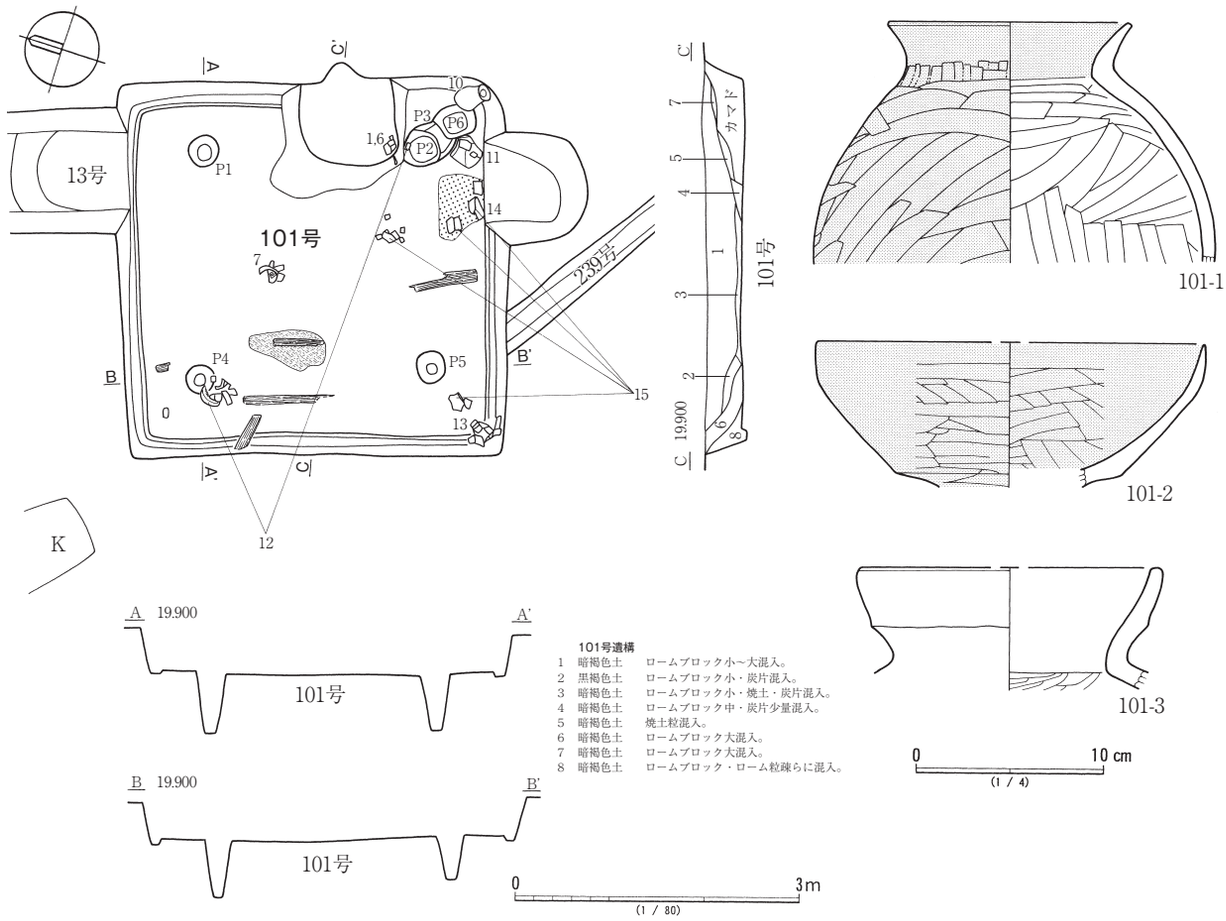
昭和54年度調査時遺構番号41号住居跡。13号方形周溝墓西溝を削平し、239号溝と重複して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.16ｍ短径3.98ｍを測り、主軸方位はＮ－71°－Ｅを示す。カマドは東壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で45㎝、西38㎝、南40㎝、北38㎝を測る。周溝は東南コーナー部を除いて全周し、深さは3.5～11㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはＰ１が62㎝、Ｐ２は47㎝、Ｐ３は20㎝、Ｐ４は61㎝、Ｐ５が40㎝、Ｐ６が28㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴に、Ｐ６は貯蔵穴と想定される。

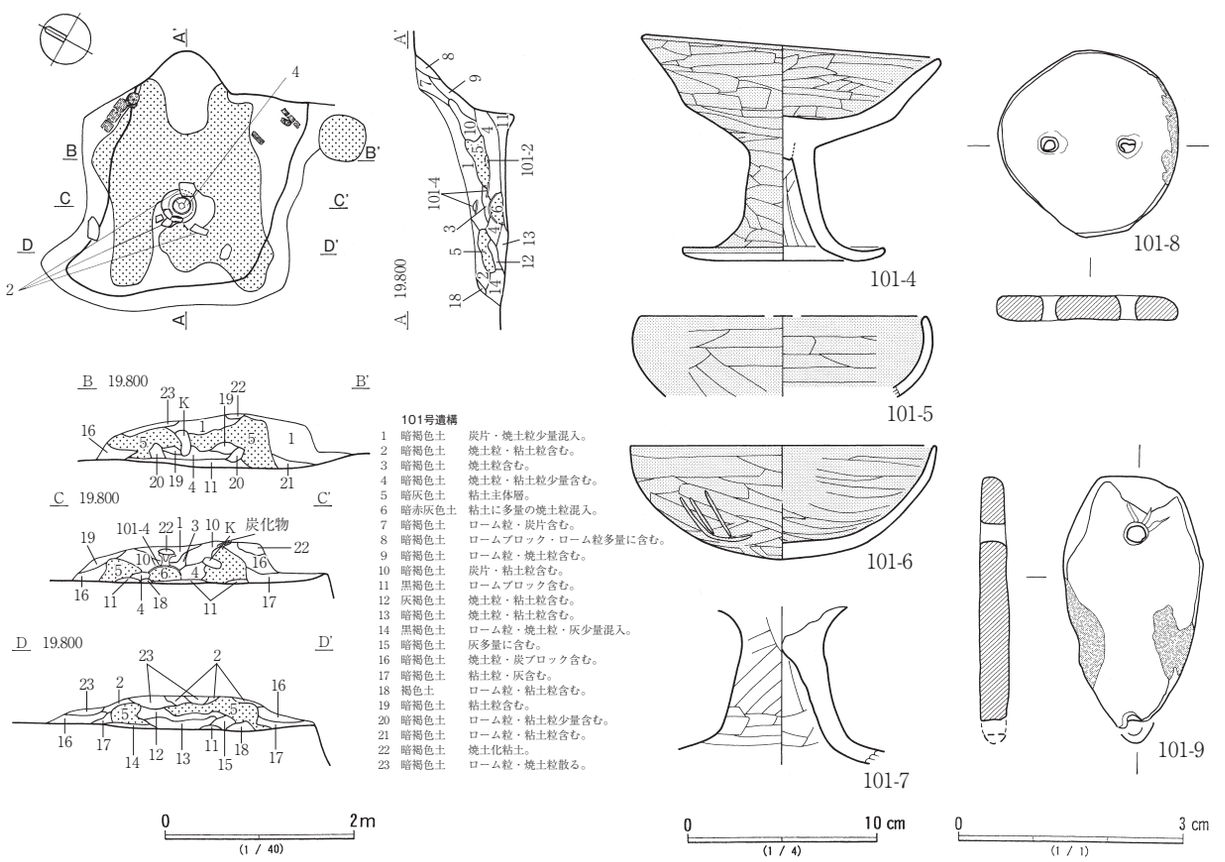
遺物

本遺構からは214点16,552ｇの土器片と８点600ｇの礫･石器、２点6.9ｇの石製模造品が検出された。土器片等の内訳は、209点16,450ｇの土師器、４点94ｇ弥生土器、１点８ｇの縄文土器、１点3.2ｇの有孔円盤、１点3.7ｇの剣形製品である。これらの出土遺物の内15点を図示した。１・２・４・６はカマド内ないしはカマド密着で検出され､特に４は坏部を下にした倒立状態で出土していることから、転用支脚ないしはカマド閉鎖に伴う祭祀行為が行われた可能性が高い。７は遺構中央部の床面から26㎝浮いた状態で、10・11は東南コーナー部の床面から出土している。12はカマド右脇床面とＰ４付近の床面から10㎝浮いた状況で検出されている。13は西南コーナー部で、床面から14㎝浮いた状態で、14・15は、床面から５㎝浮いた状態で出土した。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

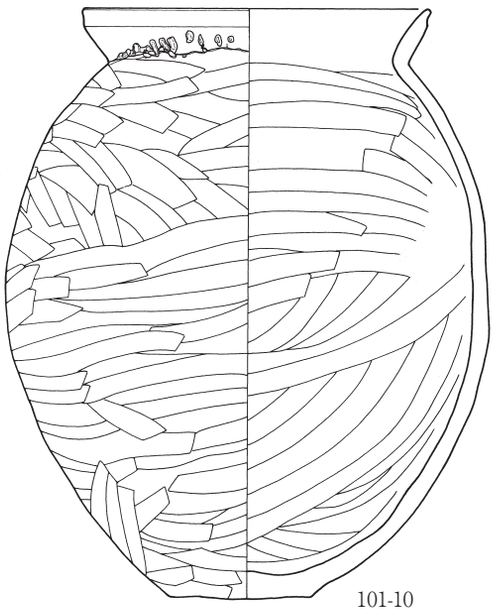
102号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号40号住居跡。13号方形周溝墓方台部内に位置し、13号方形周溝墓主体部と接して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.35ｍ短径5.22ｍを測り、主軸方位はＮ－３°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、東・西30㎝、南31㎝、北22㎝を測る。周溝はほぼ全周し、深さは0.5～10㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、深さはＰ１が51㎝、Ｐ２は52.5㎝、Ｐ３は46.5㎝、Ｐ４は43.5㎝、Ｐ５が13.5㎝、Ｐ６が17.5㎝、Ｐ７が12.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴に、Ｐ５は入口施設と想定される。

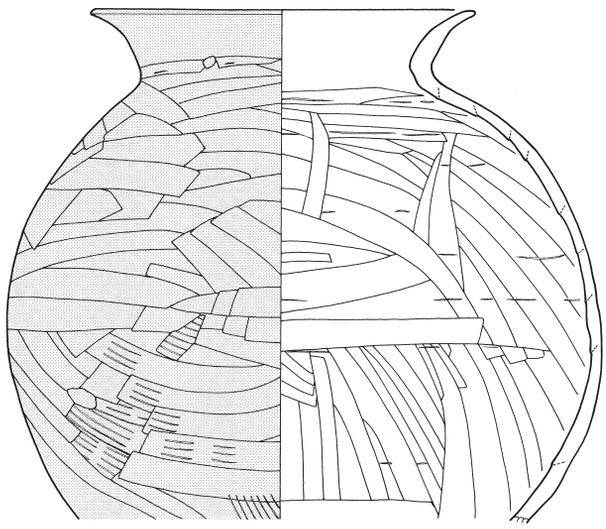




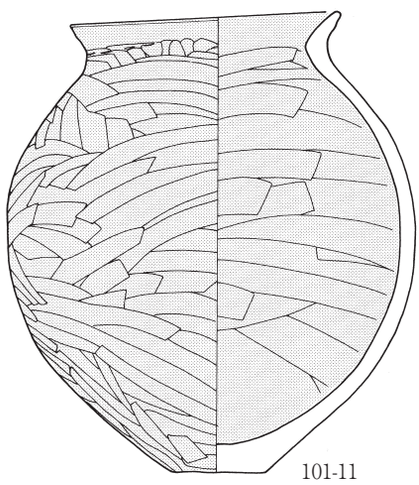
第85図　101号遺構実測図・101号遺構出土遺物実測図



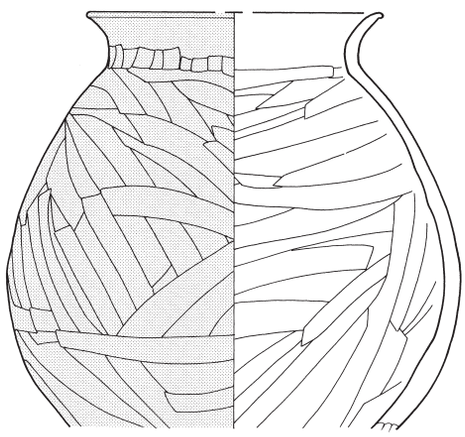
101-10



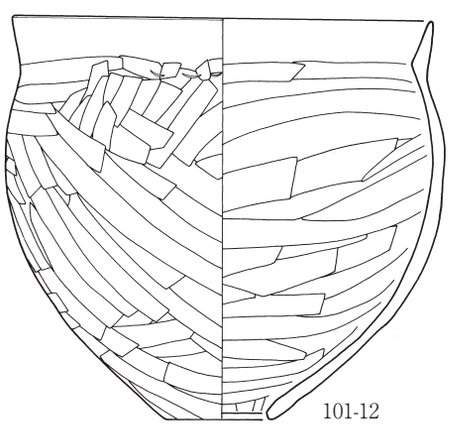
101-13



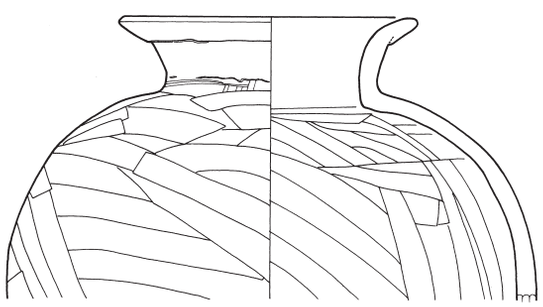
101-11



101-14



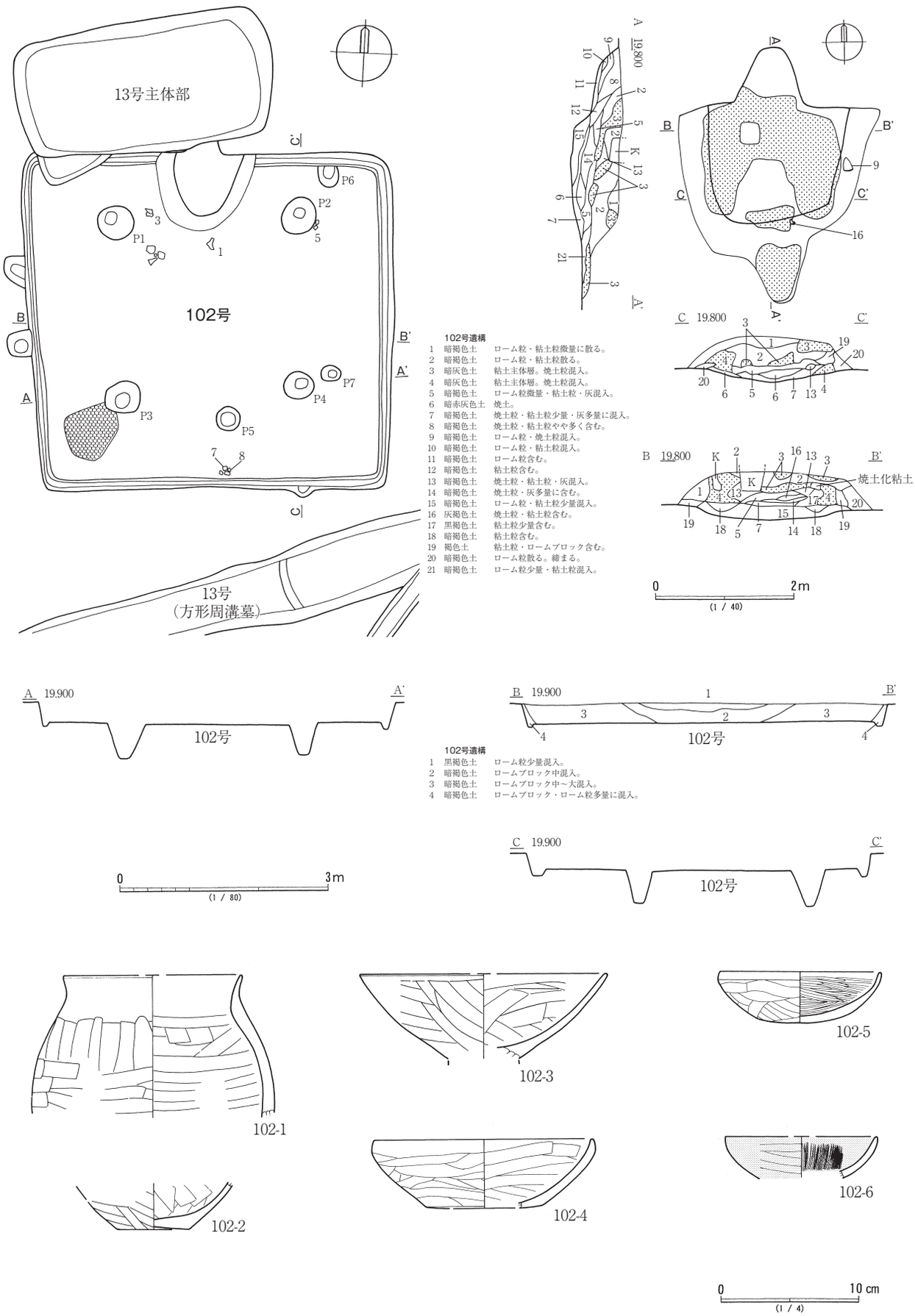
101-12



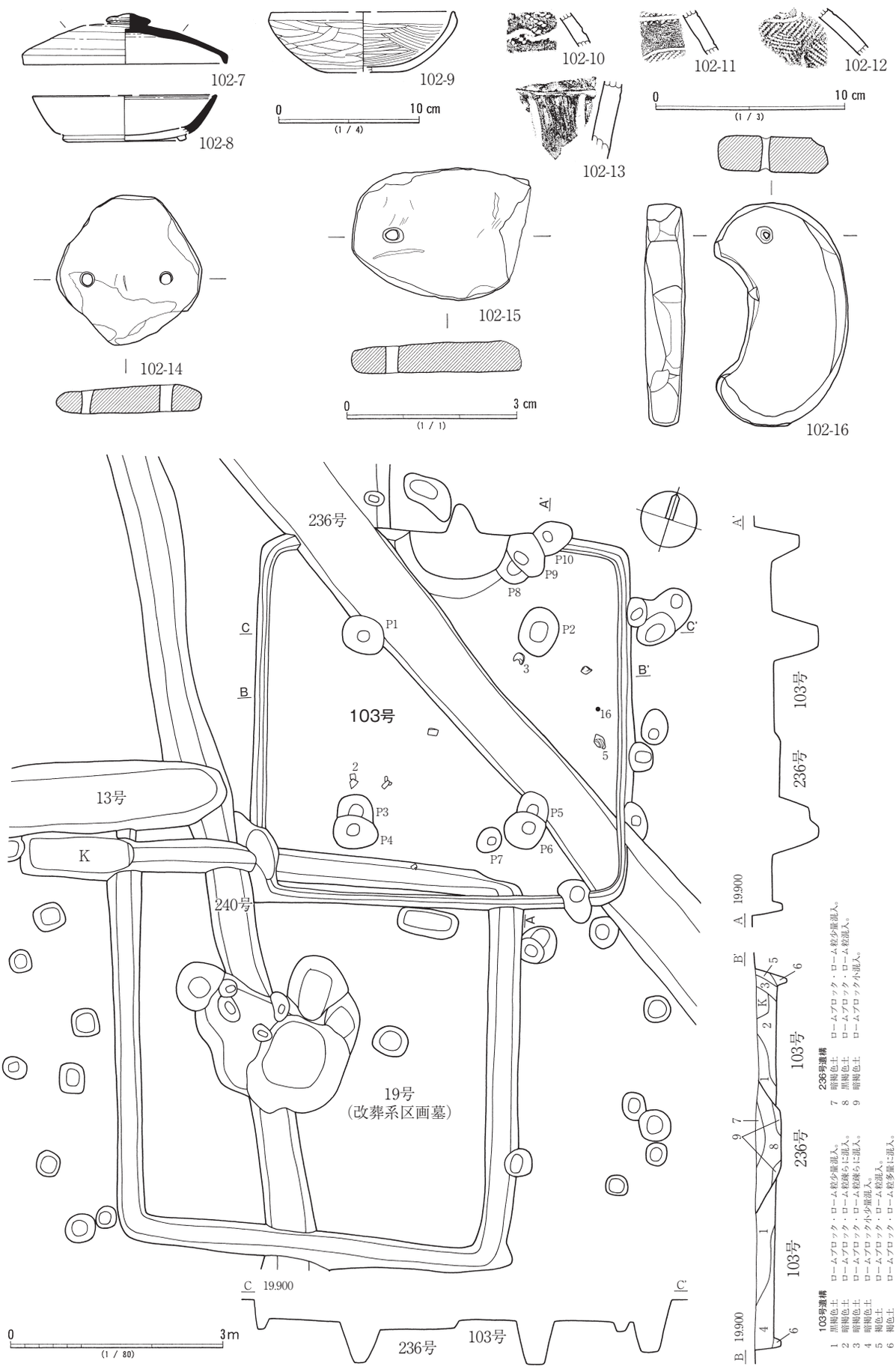
101-15

0 10 cm
(1 / 4)

第86図　101号遺構出土遺物実測図



第87図　102号遺構実測図・102号遺構出土遺物実測図



第88図　103号遺構実測図・102号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは241点3,768ｇの土器片と３点21ｇの礫、３点23.2ｇの石製模造品が検出された。土器片等の内訳は、226点3,407ｇの土師器、10点300ｇの須恵器、４点40ｇの弥生土器、１点21ｇの縄文土器、２点11.7ｇの有孔円盤、１点11.5ｇの扁平勾玉である。これらの出土遺物の内16点を図示した。１・３はカマド周囲の床面からそれぞれ７～９㎝浮いた状況で出土した。５はＰ２付近の床面から、７・８は、南壁際の床面から６㎝浮いた状況で出土している。この他９・16は、カマド粘土に密着した状態で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

103号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号39号住居跡。102号竪穴の東に位置し、19号改葬系区画墓と重複し236号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.75ｍ短径5.44ｍを測り、主軸方位はＮ－13°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で32㎝、西29㎝、南29.5㎝、北27㎝を測る。検出面での周溝はほぼ全周し、深さは12.2～15.5㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められており、特に中央部の硬化が際立っている。ピットは10ヶ所に検出され、深さはＰ１が60㎝、Ｐ２は62.5㎝、Ｐ３は38㎝、Ｐ４は51㎝、Ｐ５が48.5㎝、Ｐ６が64㎝、Ｐ７が24.8㎝、Ｐ８は21.5㎝、Ｐ９は46㎝、Ｐ10は36.5㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ５は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴に、Ｐ７は入口施設と想定される。

遺物

本遺構からは484点11,593ｇの土器片と10点270ｇの礫、１点33ｇの紡錘車、２点11.1ｇの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、450点11,028ｇの土師器、15点365ｇの須恵器、19点200ｇの弥生土器、１点762ｇの支脚である。これらの出土遺物の内16点を図示した。１・８はカマド内で１の口縁部に８の坏が逆さまに被せられた状態で出土した。２・３・５は床面からそれぞれ10㎝・７㎝・10㎝程浮いた状態で検出されている。16は石製紡錘車で、床面密着の状態で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

104号遺構（横溝木棺墓）

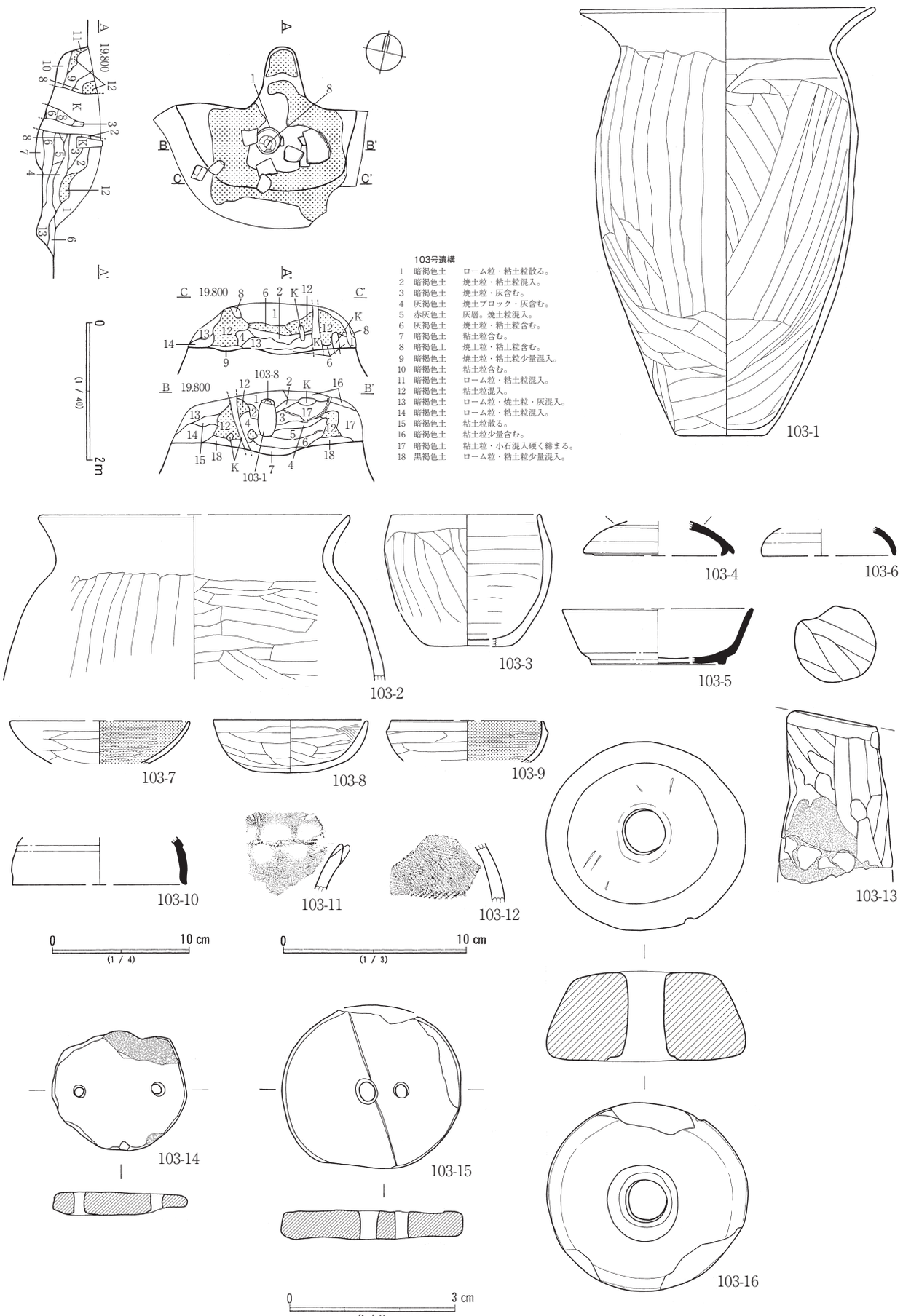
昭和54年度調査時遺構番号13号地下式土坑。102号竪穴の南側に単独で存在する半地下式の横溝木棺墓である。長径2.40ｍ短径0.97ｍ、深さ最大40.9㎝を測り、主軸方位はＮ－41°－Ｗを示す。底面には排水溝と想定される深さ10㎝程の３条の溝が伴うもののほぼ平坦であり、ここに木棺を納めた墓壙と想定される。木棺痕跡を期待したが、縦方向の断面図には木棺痕跡は確認されなかった。

遺物

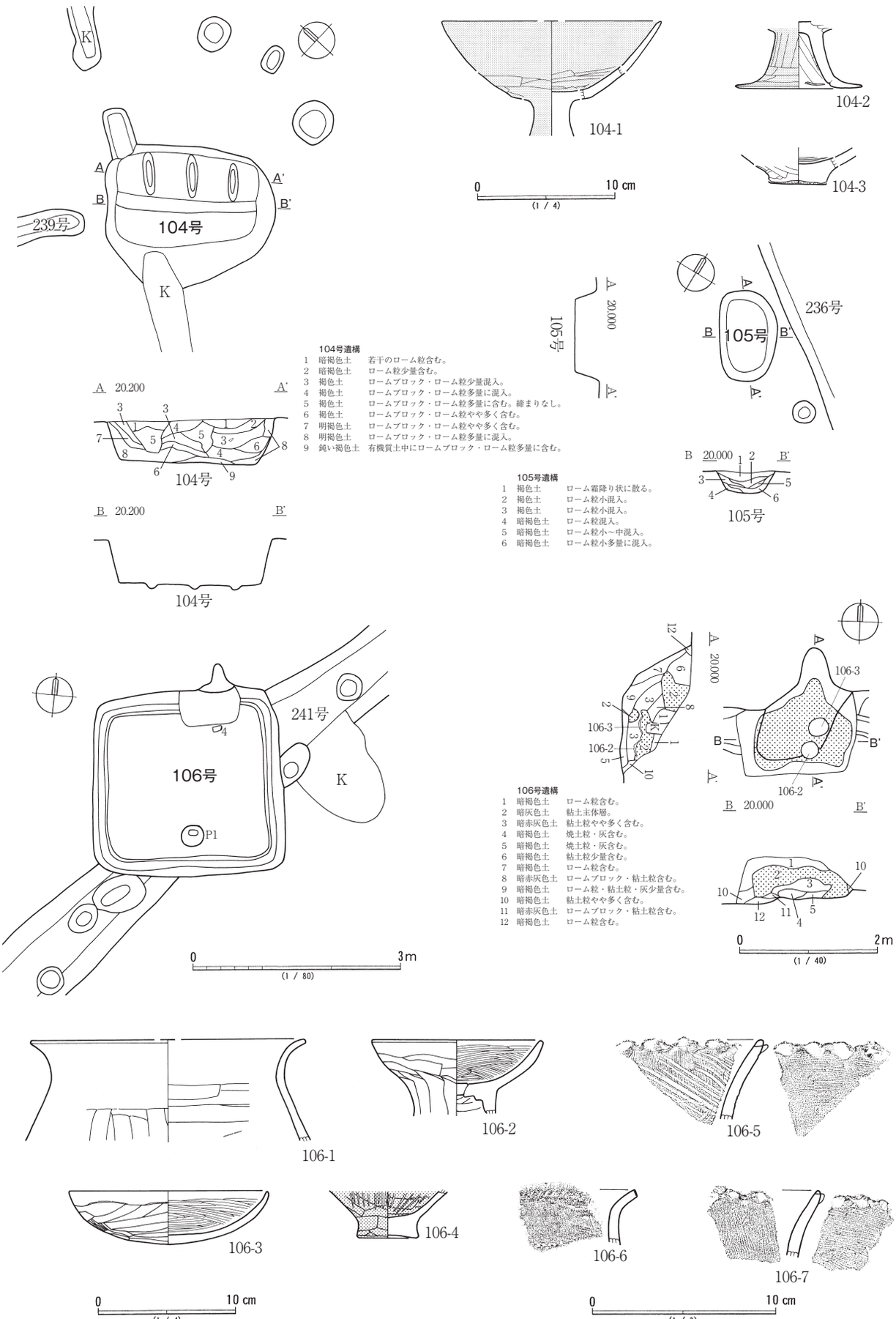
本遺構からは９点197ｇの土師器が検出され、これらの出土遺物の内３点を図示した。１・２は高坏、３は底部が突出する甕形土器底部である。出土遺物に時間差が存在し、かつ、本遺構の最盛期と思われる古墳時代終末期から奈良時代の遺物が存在しないので、本祉に直接伴う遺物は無いと考えられる。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

105号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号38号土坑。19号改葬系区画墓に東側に単独で存在する長方形土坑である。長径1.30ｍ短径0.83ｍ、深さ最大34.5㎝を測り、主軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。底面は平坦であり、



第89図　103号遺構実測図・103号遺構出土遺物実測図



第90図　104～106号遺構実測図・104・106号遺構出土遺物実測図

ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは18点182ｇの土師器と２点40ｇの礫が検出されたが、いずれも小片で図示に至るものはない。

106号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号63号住居跡。103号竪穴の東に位置し、241号溝と重複するが新旧関係不明な方形の竪穴住居跡である。長径2.76m短径2.72mを測り、主軸方位はＮ－７°－Ｗを示す。カマドは北壁中央からやや東に偏って構築され、残存する壁高は、それぞれ東で49㎝、西45.5㎝、南50㎝、北は48㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは８～10㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピット１は、深さ22㎝を測る。

遺物

本遺構からは76点1,477ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、56点1,201ｇの土師器、１点39ｇの須恵器、17点209ｇの弥生土器、２点28ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。１は一括で検出された土師器甕である。２・３はカマド内から検出された高坏と坏である。４はカマド前面の床面から出土した弥生壺底部である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

107号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号53号住居跡。106号竪穴の東に位置し、234号溝に遺構の大半を削平されて存在する不整形な竪穴住居跡である。残存長径2.00m残存短径0.86mを測るが、主軸方位は不明である。炉・カマドとも未検出であるが、北壁付近に火床状の焼土が検出され、長径0.62m短径0.30m深さ1.6㎝を測り、主軸方位はＮ－73°－Ｗを示す。出土遺物の割合から或いはカマドが存在した竪穴住居跡の可能性が考えられる。残存する壁高は、西壁11.8㎝を測るのみで、他の壁高の測定値はない。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され、平坦で硬く引き締まっている。ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が41㎝、Ｐ２は5.9㎝、Ｐ３は16.6㎝を測る。

遺物

本遺構からは11点162ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、９点119ｇの土師器、１点36ｇの須恵器、１点７ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

108号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号46号住居跡。調査区南側100号竪穴の東に位置し、246号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.62m短径5.58mを測り、主軸方位はＮ－35°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で25.5㎝、西17.7㎝、南24.3㎝、北22.8㎝を測る。検出面での周溝はほぼ全周し、深さは2.8～9.5㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、中央部が硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、深さはＰ１が43.7㎝、Ｐ２は54.2㎝、Ｐ３は53.5㎝、Ｐ４は57.2㎝、Ｐ５が69.0㎝、Ｐ６が55.5㎝、Ｐ７が41.0㎝を測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは195点3,882ｇの土器片と17点1,250ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、181点3,669ｇの土師器、３点34ｇの須恵器、３点36ｇの弥生土器、８点143ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。２・６は東壁際の床面から出土した土師器蓋及び高坏である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

109号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号47号住居跡。調査区南側109号竪穴の南に位置し、244号溝を削平し、234号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.30m短径4.18mを測り、主軸方位はＮ－22°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東で19㎝、西19.5㎝、南18㎝を測る。北壁は244号溝と重複する部分を先に掘り上げてしまったため残存していない。検出面での周溝は北側を除いてほぼ全周し､深さは４～8.8㎝を測る｡床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められている。ピットは８ヶ所に検出され、深さはＰ１が36.5㎝、Ｐ２は38㎝、Ｐ３は16.5㎝、Ｐ４は39.5㎝、Ｐ５が25.8㎝、Ｐ６が47㎝、Ｐ７が21.5㎝、Ｐ８が66.5㎝を測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ６は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴に、Ｐ７が入口施設と想定される。

遺物

本遺構からは379点6,205.1ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、366点5,975ｇの土師器、４点36.4ｇの須恵器、３点34.6ｇの弥生土器、４点69.1ｇの縄文土器、２点90ｇの中近世土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。２はカマド粘土に密着して検出された土師器甕である。３は南壁際の床面から出土した土師器甕である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

110号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号40号土坑。114号竪穴の北側に単独で存在する長方形土坑である。長径2.10m短径0.85m、深さ最大29.5㎝を測り、主軸方位はＮ－63°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

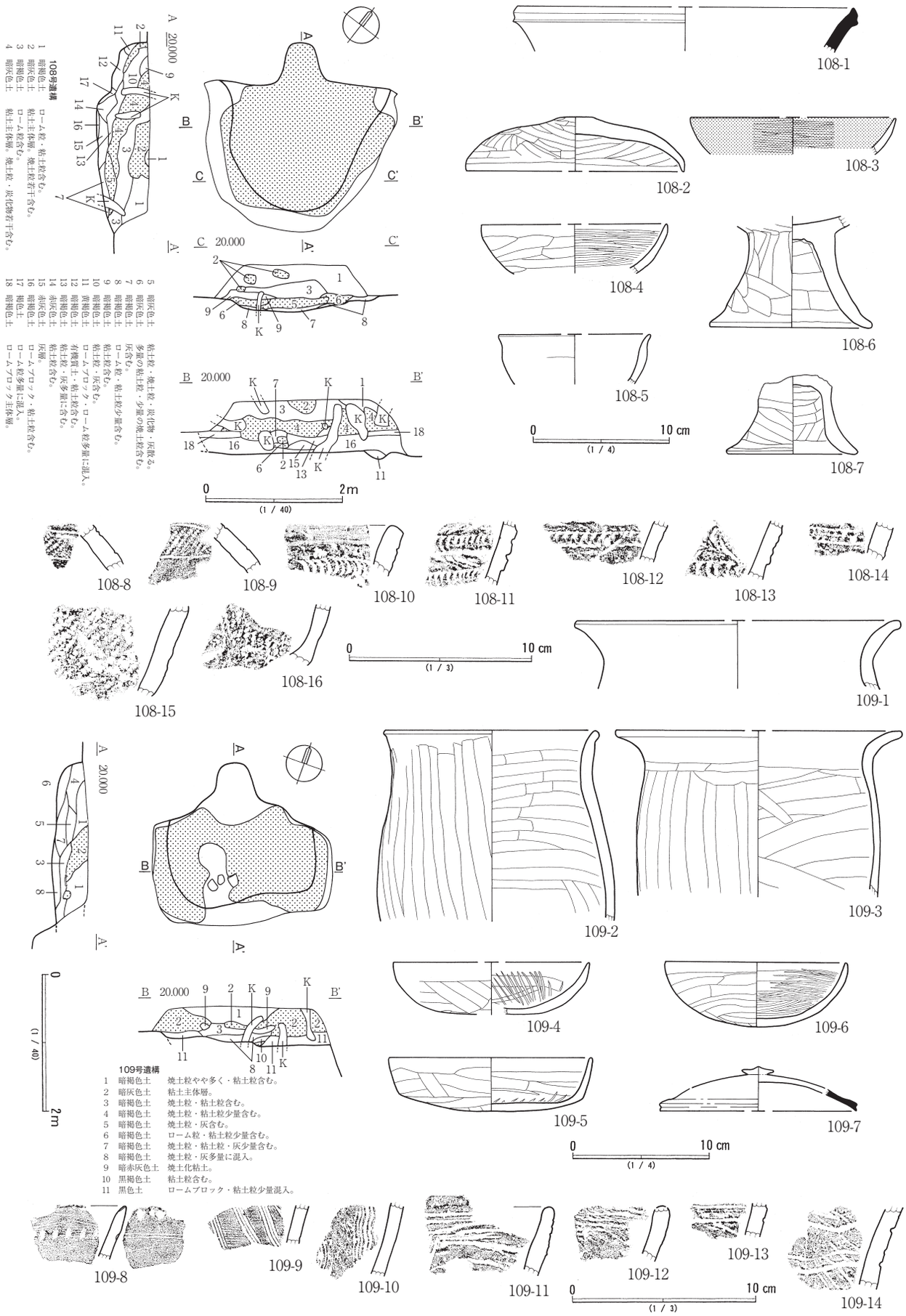
遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

111号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号49Ａ号住居跡。調査区南側108号竪穴の東に位置し、240号・244号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径7.48m短径4.76mを測り、主軸方位はＮ－９°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に袖の一部と火床が辛うじて残存する。この部分は240号溝と重複しており、この溝によって削平されてしまったものと判断される。火床長径0.52m短径0.49m深さ3.8㎝を測り、火床主軸方位はＮ－３°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁で39.5㎝、西壁40.5㎝、南壁40㎝、北壁は44㎝を測る。検出面での周溝は南側を除いてほぼ全周し、深さは2.5～10㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められている。ピットは８ヶ所に検出され、深さはＰ１が61.6㎝、Ｐ２は58㎝、Ｐ３は60.5㎝、Ｐ４は41.5㎝、Ｐ５が44㎝、Ｐ６が26㎝、Ｐ７が13㎝、Ｐ８が15.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から

第91図　107～109号遺構実測図・107号遺構出土遺物実測図



第92図　108・109号遺構実測図・108・109号遺構出土遺物実測図

主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは687点11,280ｇの土器片と14点615ｇの礫、１点42ｇの砥石、１点3.7ｇの有孔円盤、１点26ｇの土玉が検出された。土器片等の内訳は、657点10,700ｇの土師器、６点200ｇの須恵器、22点345ｇの弥生土器、１点16ｇの縄文土器、１点19ｇの中近世土器である。これらの出土遺物の内30点を図示した。３はカマド周囲の壁際に接して床面から12.5㎝浮いた状態で出土した。６・７・９・10・27はカマド周囲の床面ないしは床面直上で検出されている。５は北壁際の床面から11.8㎝浮いた状態で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

112号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号111号土坑。111号竪穴床面を削平して存在する長方形土坑である。長径1.27ｍ短径0.83ｍ、深さ最大46.7㎝を測り、主軸方位はＮ－75°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

113号遺構（竪穴住居跡）

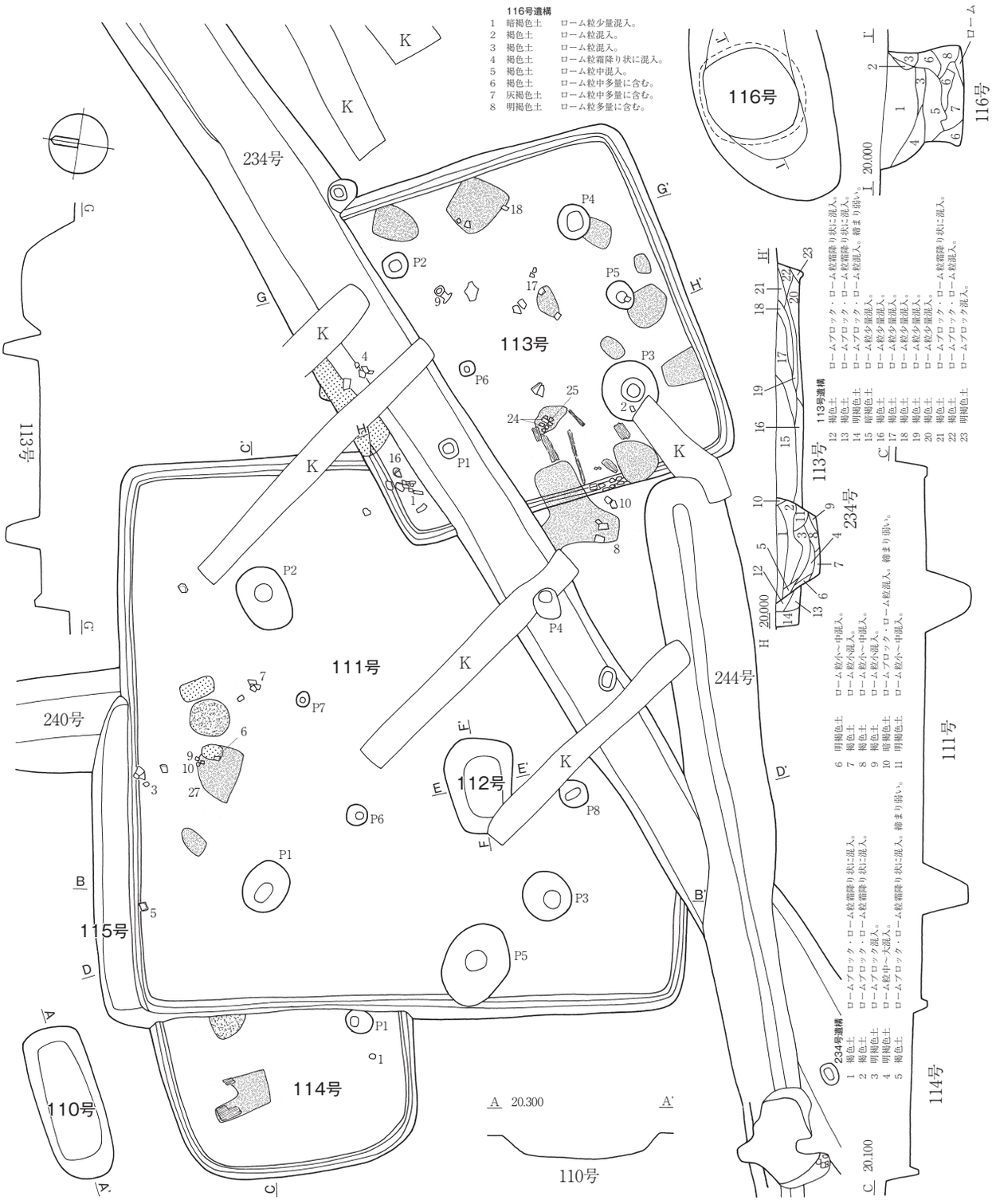
昭和54年度調査時遺構番号50号住居跡。111号竪穴の東に位置し、111号竪穴を削平し234号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.04ｍ短径4.78ｍを測り、主軸方位はＮ－25°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在していたものと推定され、234号溝に削平された北壁の一部にカマドの粘土材が残存する。残存する壁高は、それぞれ東で37.5㎝、西5.7㎝、南39㎝、北は33.7㎝を測る。検出面での周溝は削平された個所を除いてほぼ全周し、深さは3.5～18㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められている。床面一帯の10ヶ所に厚さ4.2～17.5㎝にわたる焼土と６ヶ所に及ぶ炭化物が検出されている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはＰ１が234号溝底から26.3㎝、Ｐ２は46.5㎝、Ｐ３は60㎝、Ｐ４は44.7㎝、Ｐ５が4.5㎝、Ｐ６が5.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴に、Ｐ５は入口施設と想定される。

遺物

本遺構からは440点10,030ｇの土器片と２点20ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、423点9,144ｇの土師器、13点831ｇの須恵器、４点55ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。１・16は辛うじて残存したカマド周囲の床面から検出された。４は234号溝底からの検出であるが、同一個体の土器片がカマド粘土中より検出されていることから、本遺構に伴うものと判断される。２・９・18・24・25は床面ないしは床直上からの検出であり、17は床面より15㎝程浮いた状態で出土している。この他遺構外に８・10が検出されているが、本遺構の焼土が遺構外まで伸びていることから、間接的に伴うものと判断される。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

114号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号48号住居跡。111号竪穴の西に位置し、111号・115号竪穴に削平されて



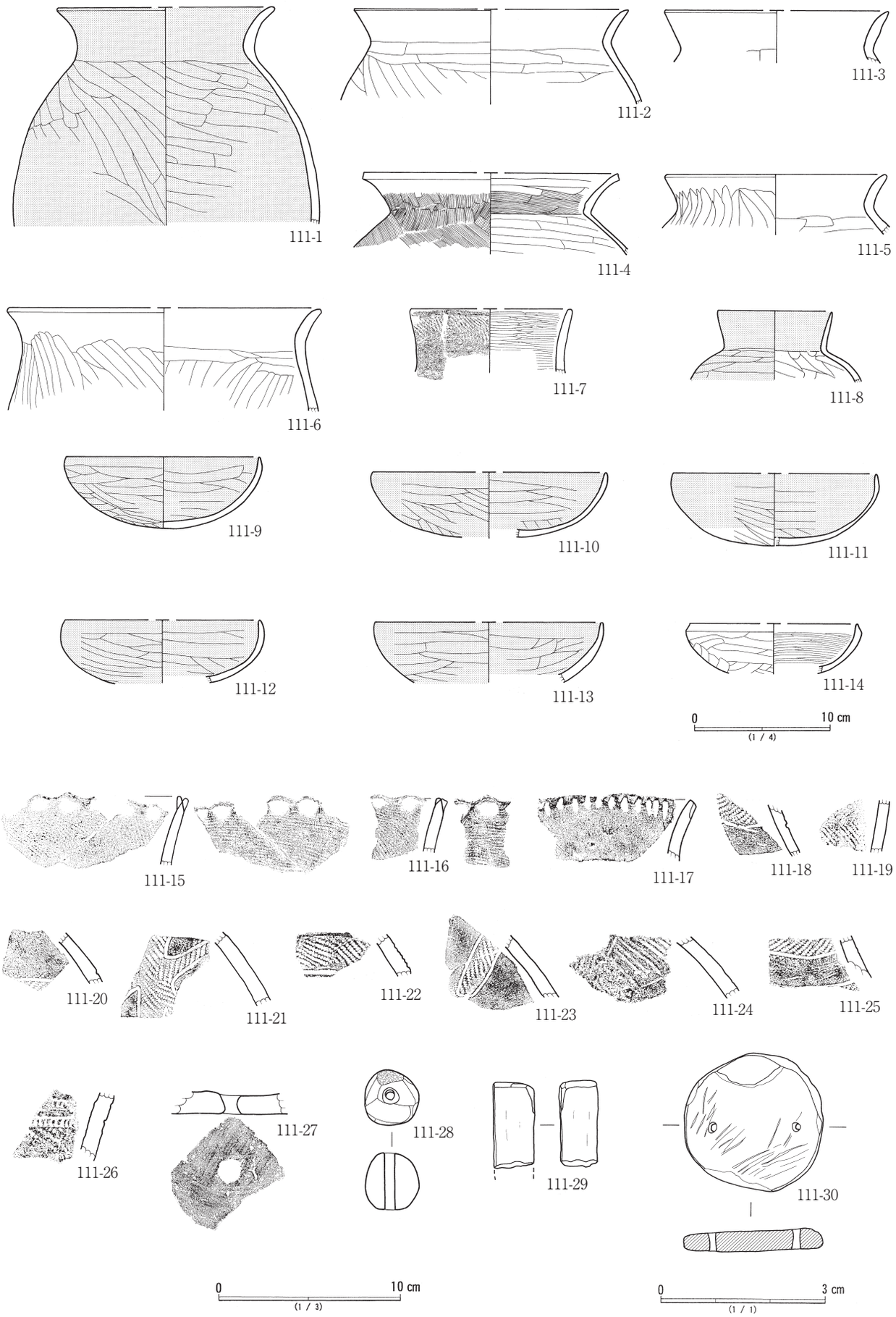
115号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック中少量混入。
2 暗褐色土 ローム粒少量混入。

111号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック中少量混入。
2 褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
5 褐色土 ロームブロック小混入。
6 明褐色土 ロームブロック小～大混入。
7 暗褐色土 ロームブロック中混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
9 褐色土 ロームブロック中～大混入。

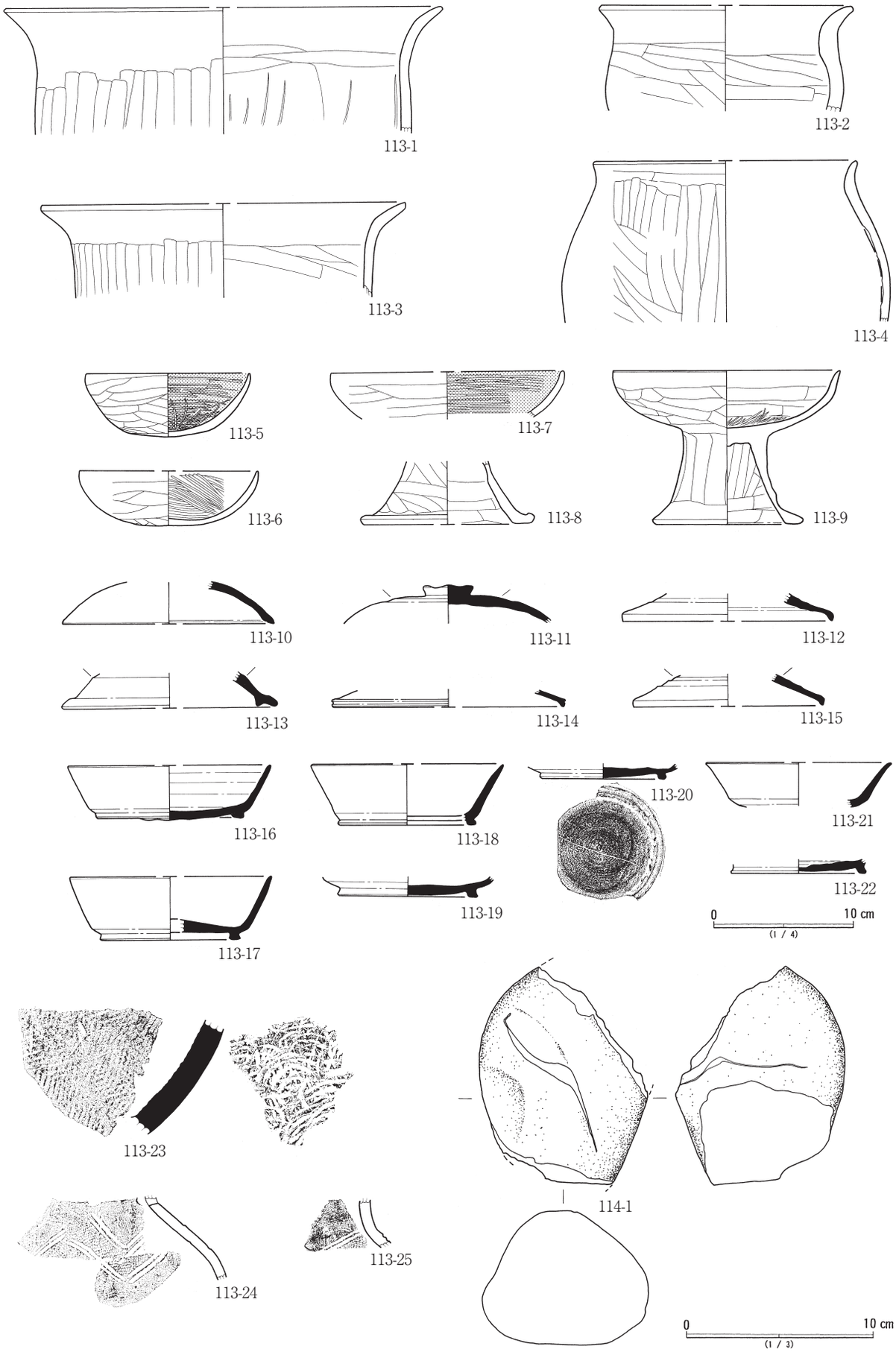
244号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック中少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。
3 黒褐色土 ローム粒混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中・ローム粒疎らに混入。

234号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小混入。
3 黒褐色土 ロームブロック小少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
5 黒褐色土 ロームブロック小混入。

第93図　110～116号遺構実測図



第94図　111号遺構出土遺物実測図



第95図　113・114号遺構出土遺物実測図

存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。残存長径3.70m残存短径2.20mを測り、主軸方位はＮ－19°－Ｗを示す。炉は111号竪穴におよそ1/2弱を削平されており残存長径0.48m残存短径0.30mを測り深さの測定値はない。主軸方位はＮ－24°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ西33㎝、南33.5㎝、北は31.5㎝を測る。検出面での周溝は削平された個所を除いてほぼ全周し、深さは5.5～12.5㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、硬く踏み固められている。ピットは１ヶ所に検出され、深さは55㎝を測る。焼土は１ヶ所に検出され厚さ９㎝を測る。

遺物

本遺構からは１点895ｇの磨石が床面から検出された。

115号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号49Ｂ号住居跡。111号竪穴の北に位置し、111号竪穴に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。残存長径4.44m残存短径0.48mを測り、主軸方位は不明である。炉は未検出ながら遺構プランと出土遺物から、火床施設は炉と想定される。残存する壁高は、北壁37㎝を測る。検出面での周溝は存在しない。残存する床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは83点1,295ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、79点1,255ｇの土師器、４点40ｇの弥生土器である。これらの出土遺物で図示に値する遺物は存在しなかった。111号出土遺物のうち４の番号を付した遺物は、注記に49Ａ表採と記されており、強いて言えば本遺構と時期を同じくする遺物であり、本祉に伴う可能性が高い。

116号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号14号地下式土坑。14号方形周溝墓北溝先端部に位置し、14号方形周溝墓に削平されて存在する円形のフラスコ状ピットである。本体部長径1.52m短径1.38m、開口部長径1.24m、深さ最大112.5㎝を測り、主軸方位はＮ－18°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

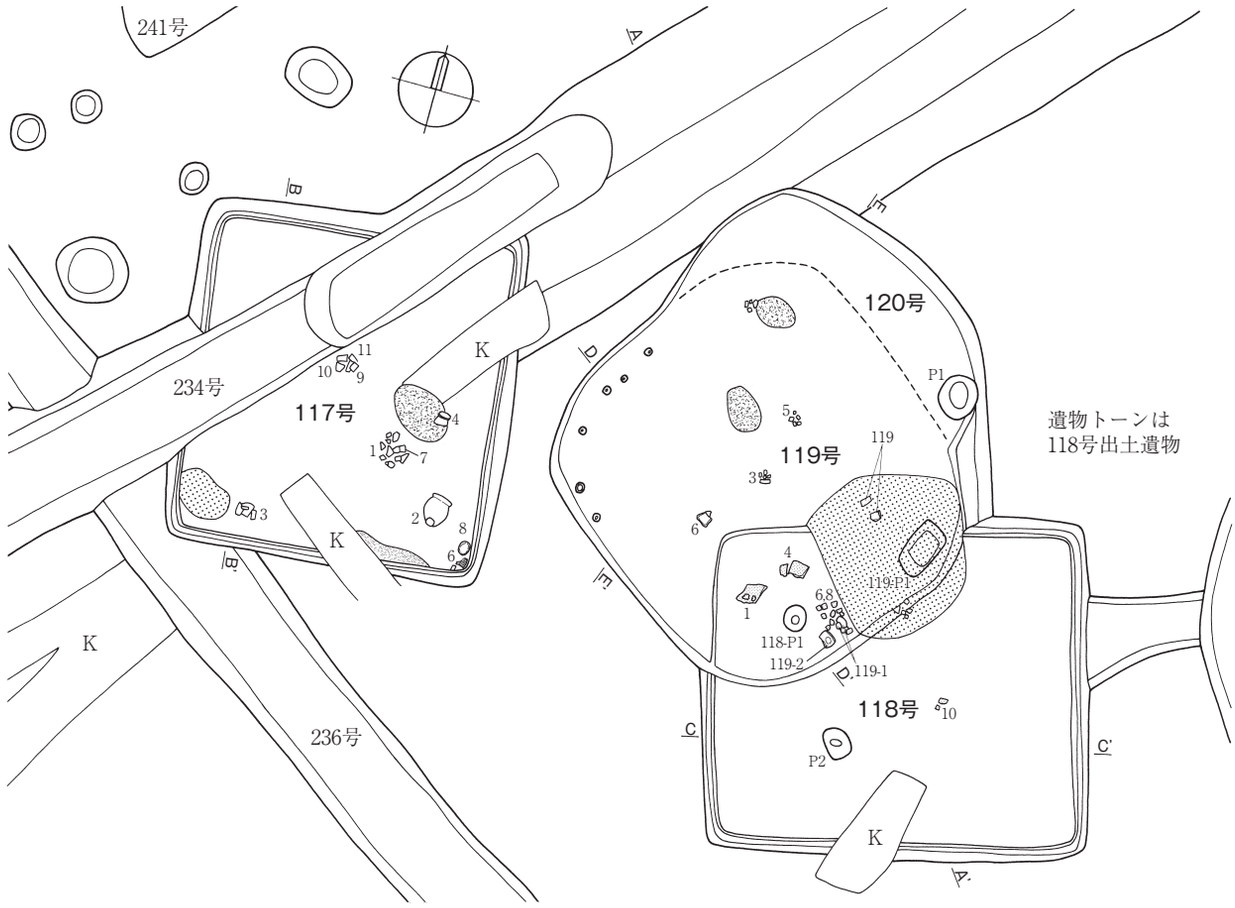
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

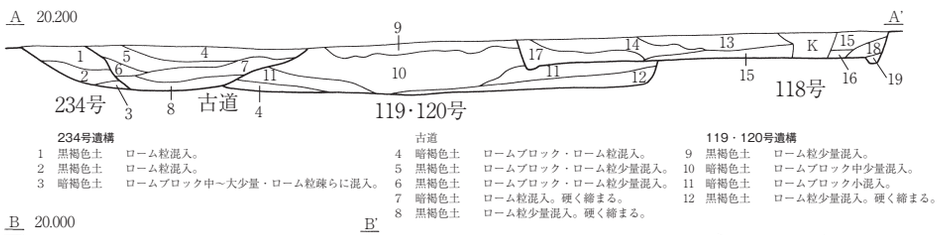
117号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号55号住居跡。調査区南側111号竪穴の東に位置し、234号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.77m短径3.55mを測り、主軸方位はＮ－83°－Ｅを示す。炉は中央東側に位置し長径0.7m短径0.47m、深さ0.5㎝を測り主軸方位はＮ－124°－Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ東で32.5㎝、西44.5㎝、南44.5㎝、北は45㎝を測る。検出面での周溝は削平個所を除いてほぼ全周し、深さは３～5.5㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、中央部分が硬く踏み固められている。ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは48点6,763ｇの土器片と１点131ｇの支脚が検出された。土器片等の内訳は、46点6,712ｇの土師器、２点51ｇの須恵器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。１・２・３・４・６・７～11は何れも床面から出土しており、本祉に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は、何れ



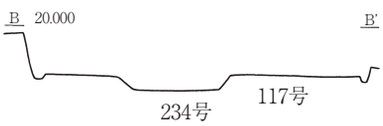


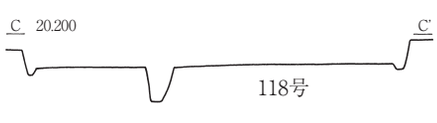
234号遺構
1 黒褐色土 ローム粒混入。
2 黒褐色土 ローム粒混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中～大少量・ローム粒疎らに混入。

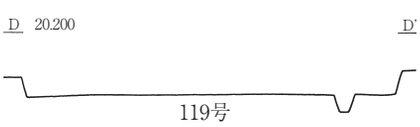
古道
4 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。
5 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。
6 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。
7 暗褐色土 ローム粒混入。硬く締まる。
8 黒褐色土 ローム粒少量混入。硬く締まる。

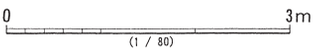
119・120号遺構
9 黒褐色土 ローム粒少量混入。
10 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
11 暗褐色土 ロームブロック小混入。
12 黒褐色土 ローム粒少量混入。硬く締まる。

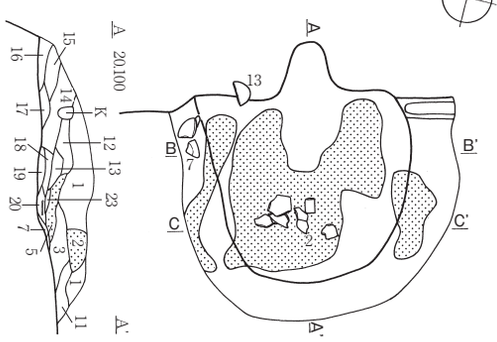
118号遺構
13 黒褐色土 ロームブロック小混入。
14 暗褐色土 ロームブロック小混入。
15 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。
16 褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。
17 暗褐色土 ローム粒・粘土粒少量混入。
18 黒色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。
19 明褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。



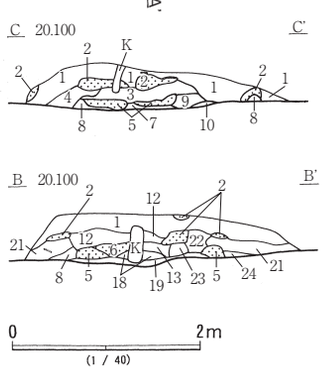




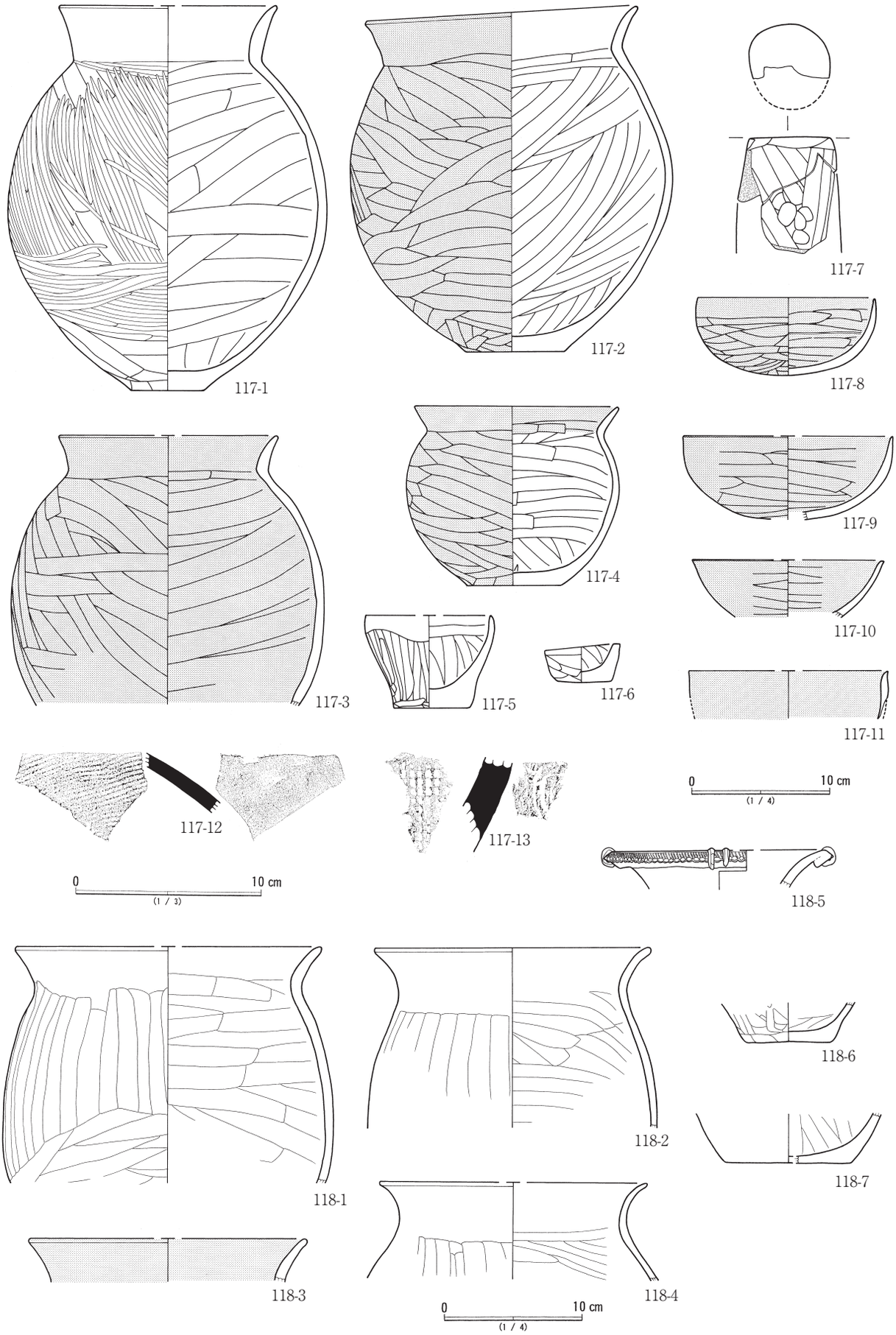




118号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック・粘土粒含む。
2 暗灰色土 粘土主体層。焼土粒若干含む。
3 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
4 暗褐色土 粘土粒含む。
5 暗灰色土 粘土主体層。焼土粒やや多く含む。
6 暗灰色土 粘土主体層。焼土粒・灰含む。
7 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
8 暗褐色土 粘土粒含む。
9 暗褐色土 粘土粒含む。
10 暗褐色土 焼土粒含む。
11 暗褐色土 ローム粒含む。
12 暗褐色土 焼土粒少量・粘土粒含む。
13 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
14 暗褐色土 焼土粒多量に含む。
15 暗褐色土 焼土粒・ローム粒含む。
16 暗褐色土 120号の覆土。
17 暗褐色土 灰含む。
18 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
19 黒褐色土 ローム粒含む。
20 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
21 暗褐色土 焼土ブロック・粘土粒・灰含む。
22 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
23 赤灰色土 焼土化粘土。
24 暗褐色土 粘土粒含む。



第96図　117～120号遺構実測図



第97図　117・118号遺構出土遺物実測図

も覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

118号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号51号住居跡。117号竪穴の東に位置し、119号・120号竪穴を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.15m短径4.14mを測り、主軸方位はＮ－16°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東壁で24.5㎝、西壁18.6㎝、南壁22.7㎝、北壁は24.5㎝を測る。検出面での周溝は119号竪穴と重複する個所を除いてほぼ全周し、深さは5.7～10.2㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で、中央部分が硬く踏み固められている。ピットは２か所に検出され、Ｐ１が119号床面から42㎝、Ｐ２は35.8㎝を測る。

遺物

本遺構からは118点6,011ｇの土器片と１点４ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、111点5,772ｇの土師器、３点150ｇの須恵器、２点54ｇの弥生土器、２点35ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。１・４・６は何れも床面ないしはカマド際から出土しており、本祉に直接伴うものと考えられる。６は床面から６㎝、10は床面から10㎝程浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

119号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号52Ｂ号住居跡。118号竪穴の北に位置し、120号竪穴を削平し、118号竪穴に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径4.34m短径3.70mを測り、主軸方位はＮ－54°－Ｗを示す。炉は中央やや北側に位置し、長径0.48m短径0.34m深さ5.1㎝を測り、主軸方位はＮ－34°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ西33.8㎝、南31.5㎝、北13.8㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは118号カマド下から検出され、深さは22.9㎝を測る。

遺物

本遺構からは23点1,207ｇの土器片が検出された。その内６点を図示した。１・２・４・５・６は何れもほぼ床面から出土しており、本祉に直接伴うものと考えられる。３は床面から20㎝程浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

120号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号52Ａ号住居跡。119号竪穴の東に位置し、119号竪穴に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。残存長径3.48m残存短径1.37mを測り、主軸方位は不明である。炉は119号プラン内に残存し、長径0.46m短径0.32m深さ5.6㎝を測り、主軸方位はＮ－80°－Ｗを示す。残存する壁高は、東壁41㎝、北壁13.8㎝を測り、周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピット１は、深さ14.9㎝を測る。

遺物

本遺構からは24点316ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、21点279ｇの土師器、１点10ｇの須恵器、２点27ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

121号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号54号住居跡。120号竪穴の東に位置し、242号溝に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径5.12m短径4.74mを測り、主軸方位はＮ－35°－Ｗを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央に存在し、長径0.76m短径0.56m深さ6.0cmを測り、主軸方位はＮ－14°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東40.5cm、西42.5cm、南44.5cm、北47cmを測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはＰ１が47cm、Ｐ２は45cm、Ｐ３は38cm、Ｐ４は33cm、Ｐ５が41cm、Ｐ６が21.5cmを測る。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは115点2,467ｇの土器片と１点62ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、８点146ｇの土師器、２点89ｇの須恵器、104点2,213ｇの弥生土器、１点19ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。１・６・11は何れも床面から出土した。２は南壁際で床面から７cm浮いた状態で検出されている。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

122号遺構（竪穴住居跡）

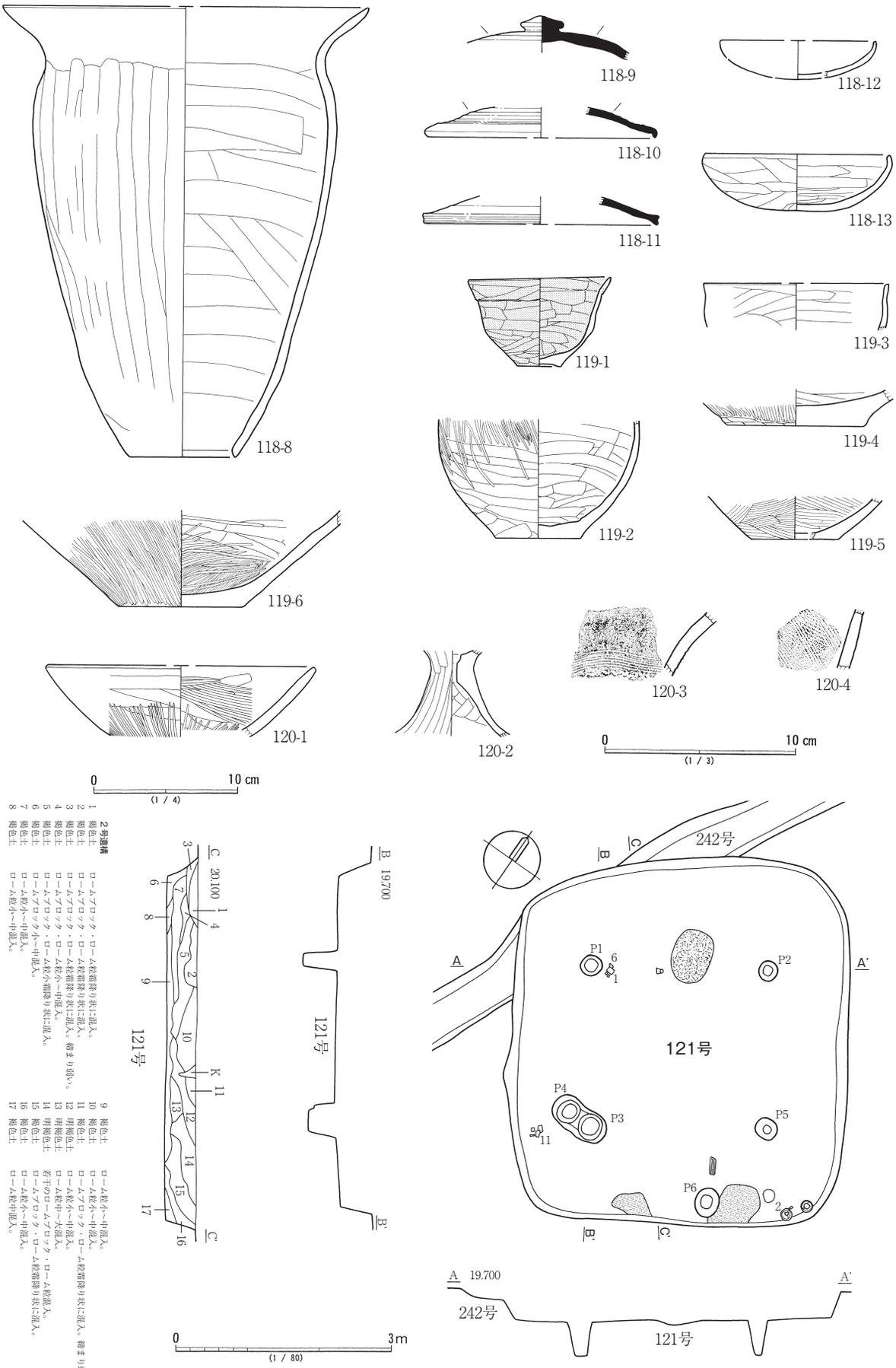
昭和54年度調査時遺構番号60号住居跡。14号方形周溝墓西側周溝を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.18m短径3.82mを測り、主軸方位はＮ－28°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で22cm、西14.3cm、南15cm、北は21cmを測る。検出面での周溝は南側を除いてほぼ全周し、深さは2.4～5.5cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。ピットは10ヶ所に検出され、深さはＰ１が19.5cm、Ｐ２は16cm、Ｐ３は17.2cm、Ｐ４は18.2cm、Ｐ５が26.8cm、Ｐ６が48.5cm、Ｐ７が42.5cm、Ｐ８は14.3cm、Ｐ９は25.8cm、Ｐ10は18.7cmを測る。掘り込みは浅いが、Ｐ１～Ｐ４が位置的に主柱穴と考えられる。この他Ｐ５・Ｐ９は位置的に貯蔵穴と想定される。

遺物

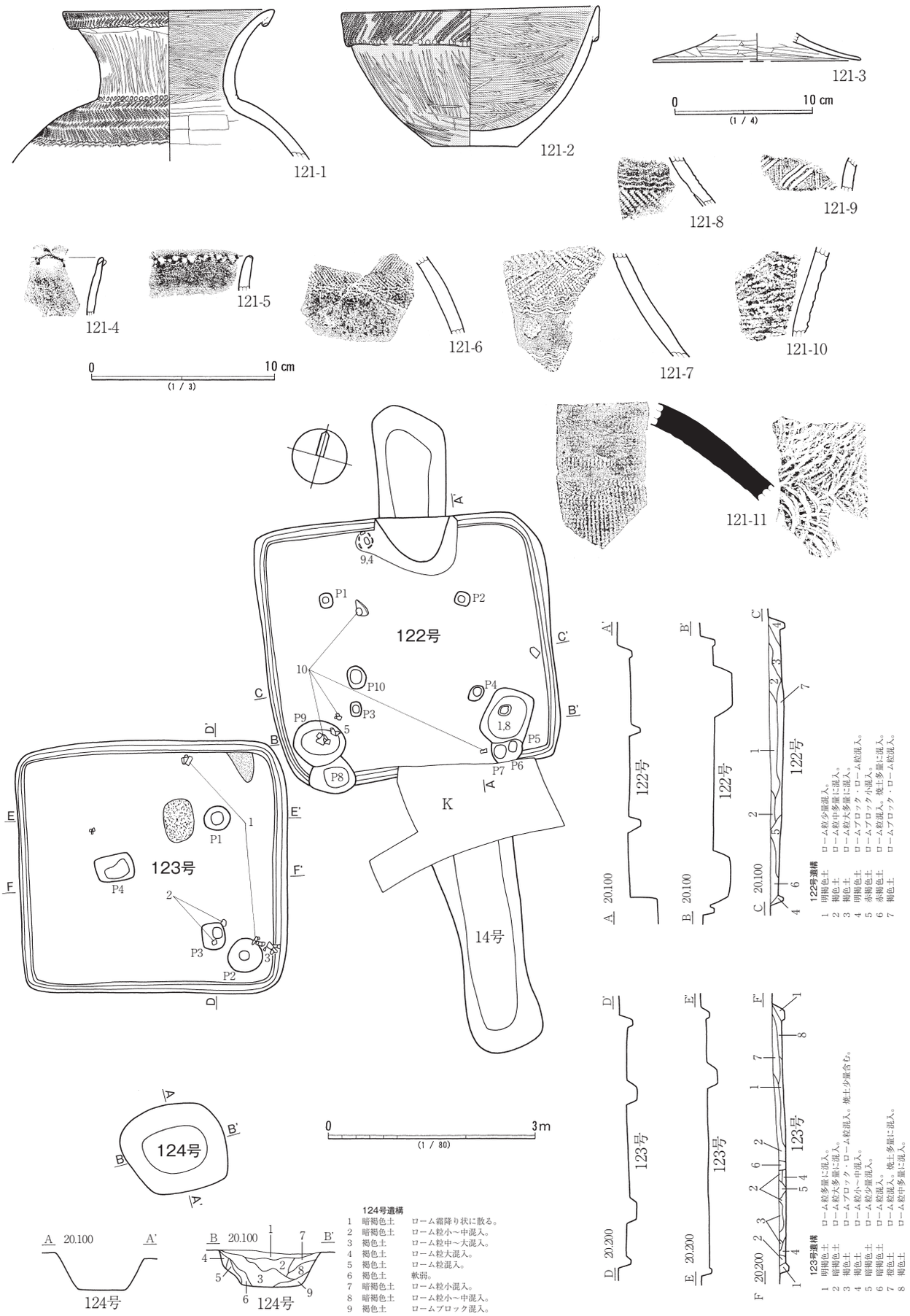
本遺構からは145点7,930ｇの土器片と１点297ｇの磨石・敲石、１点20ｇの土玉と１点19ｇの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、144点7,904ｇの土師器、１点26ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。１・８はＰ５内の床面から検出された。５・10はＰ９内や床面から検出されている。４・９はカマド粘土に密着した状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

123号遺構（竪穴住居跡）

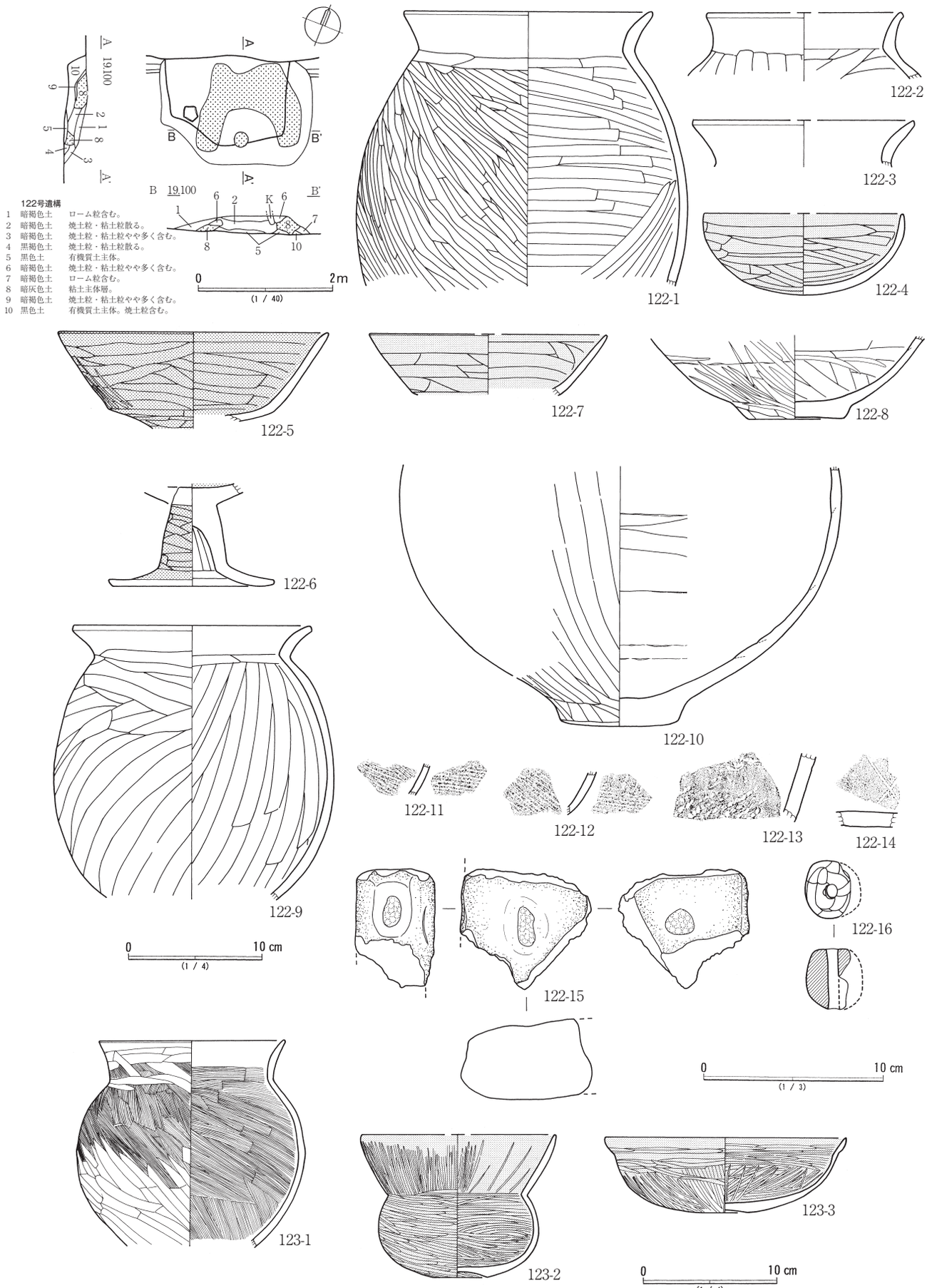
昭和54年度調査時遺構番号61号住居跡。122号竪穴の西側に位置する方形の竪穴住居跡である。長径3.90m短径3.70mを測り、主軸方位はＮ－16°－Ｗを示す。炉は中央よりやや北東に偏った位置から検出され、長径0.62m短径0.44m深さ０cmを測り、主軸方位はＮ－24°－Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東で12cm、西11cm、南13cm、北は14cmを測る。検出面での周溝は全周し、深さは２～７cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が15cm、Ｐ２は37cm、Ｐ３は12cm、Ｐ４は40.5cmを測る。北壁に沿った床面から焼土は１ヶ所に検出され、厚さは12cmを測る。



第98図　121号遺構実測図・118・119・120号遺構出土遺物実測図



第99図　122～124号遺構実測図・121号遺構出土遺物実測図



第100図　122号遺構実測図・122・123号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは13点1,226ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、全て土師器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。１～３は何れも床面ないしは床直上から検出されており、本祉に伴う可能性が高い。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

124号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号43号土坑。123号竪穴の南に位置し、単独で存在する円形土坑である。長径1.47m短径1.29m、深さ最大62.5cmを測り、主軸方位はＮ－62°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

125号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号56号住居跡。14号方形周溝墓の東・北側周溝を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.86m短径4.84mを測り、主軸方位はＮ－16°－Ｅを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で27.5cm、西25cm、南26cm、北は26cmを測る。検出面での周溝は削平箇所を除いてほぼ全周し、深さは3.5～13.0cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で、カマド前面から主柱穴を結ぶライン内が全体的に硬く踏み固められている。ピットは11ヶ所に検出され、深さはＰ１が62cm、Ｐ２は62cm、Ｐ３は65.5cm、Ｐ４は55.5cm、Ｐ５が25cm、Ｐ６が25cm、Ｐ７が43cm、Ｐ８は17cm、Ｐ９は35cm、Ｐ10は26cm、Ｐ11は22cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、位置的に主柱穴と考えられる。この他Ｐ５は入口施設に伴うものと想定される。

遺物

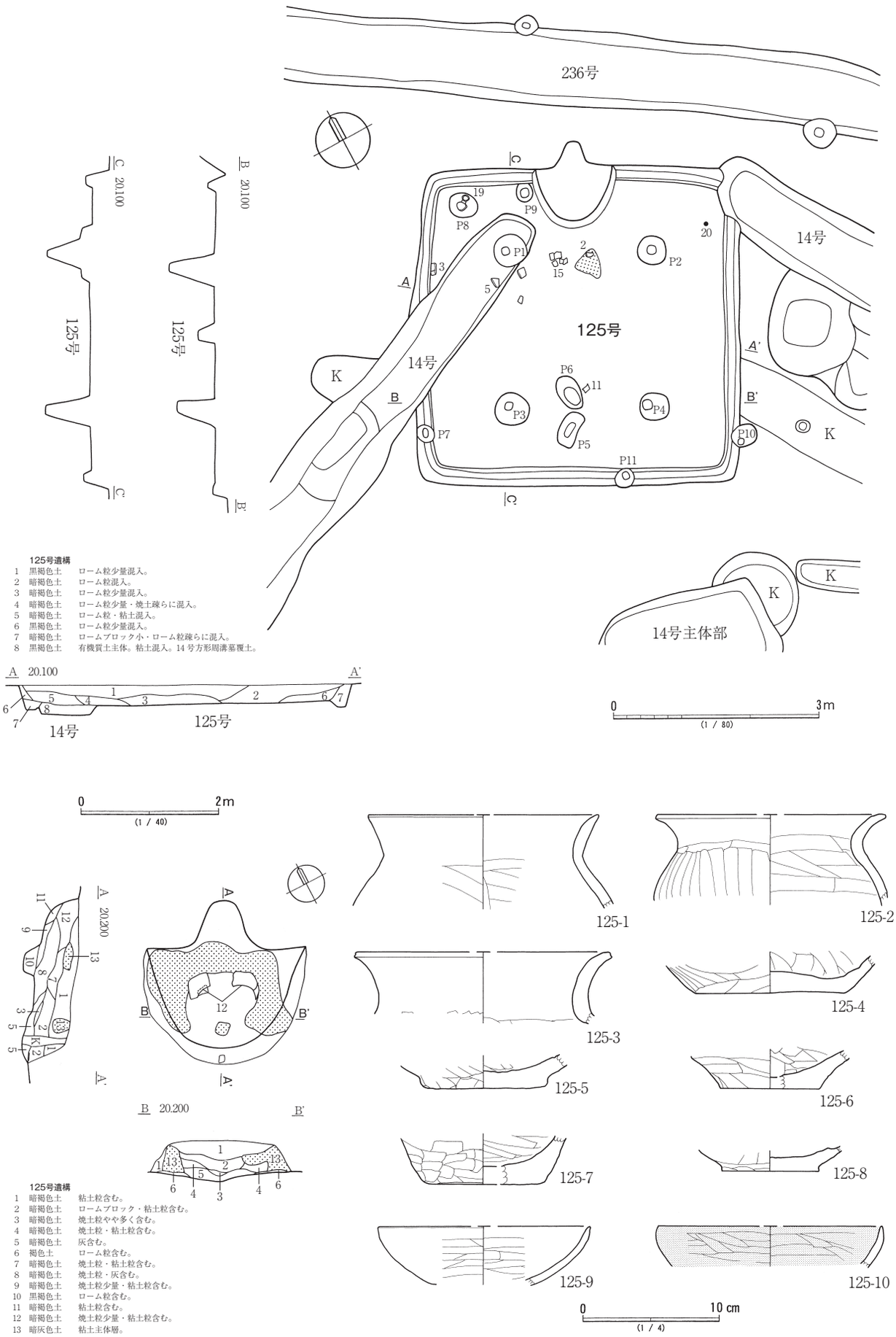
本遺構からは225点8,613ｇの土器片と１点4.7ｇの刀子片が検出された。土器片等の内訳は、218点8,350ｇの土師器、５点247ｇの須恵器、２点16ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内20点を図示した。２・３・５・11・15・20は何れも床面ないしは床直上の状態で検出されている。19はＰ８内の床面から16cm程下がった位置で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

126号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号57号住居跡。14号方形周溝墓の東・南側周溝を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.08m短径4.90mを測り、主軸方位はＮ－12°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で27cm、西20.7cm、南24.7cm、北は24.8cmを測る。検出面での周溝は削平箇所を除いてほぼ全周し、深さは３～６cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で、比較的全体に硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはＰ１が23.8cm、Ｐ２は11.8cm、Ｐ３は42.7cm、Ｐ４は46.4cm、Ｐ５が29.5cm、Ｐ６が56.5cmを測る。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は、位置的に主柱穴と考えられる。この他Ｐ６は入口施設に伴うものと想定される。

遺物

本遺構からは286点5,030ｇの土器片と１点8.2ｇの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、283



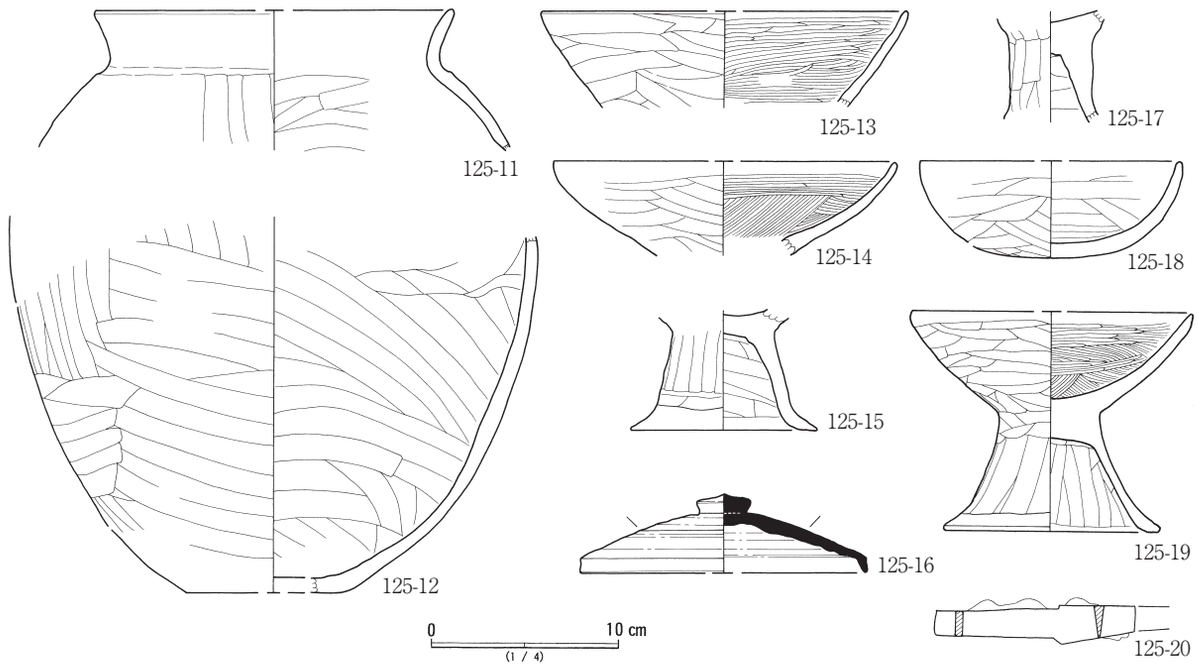
125号遺構

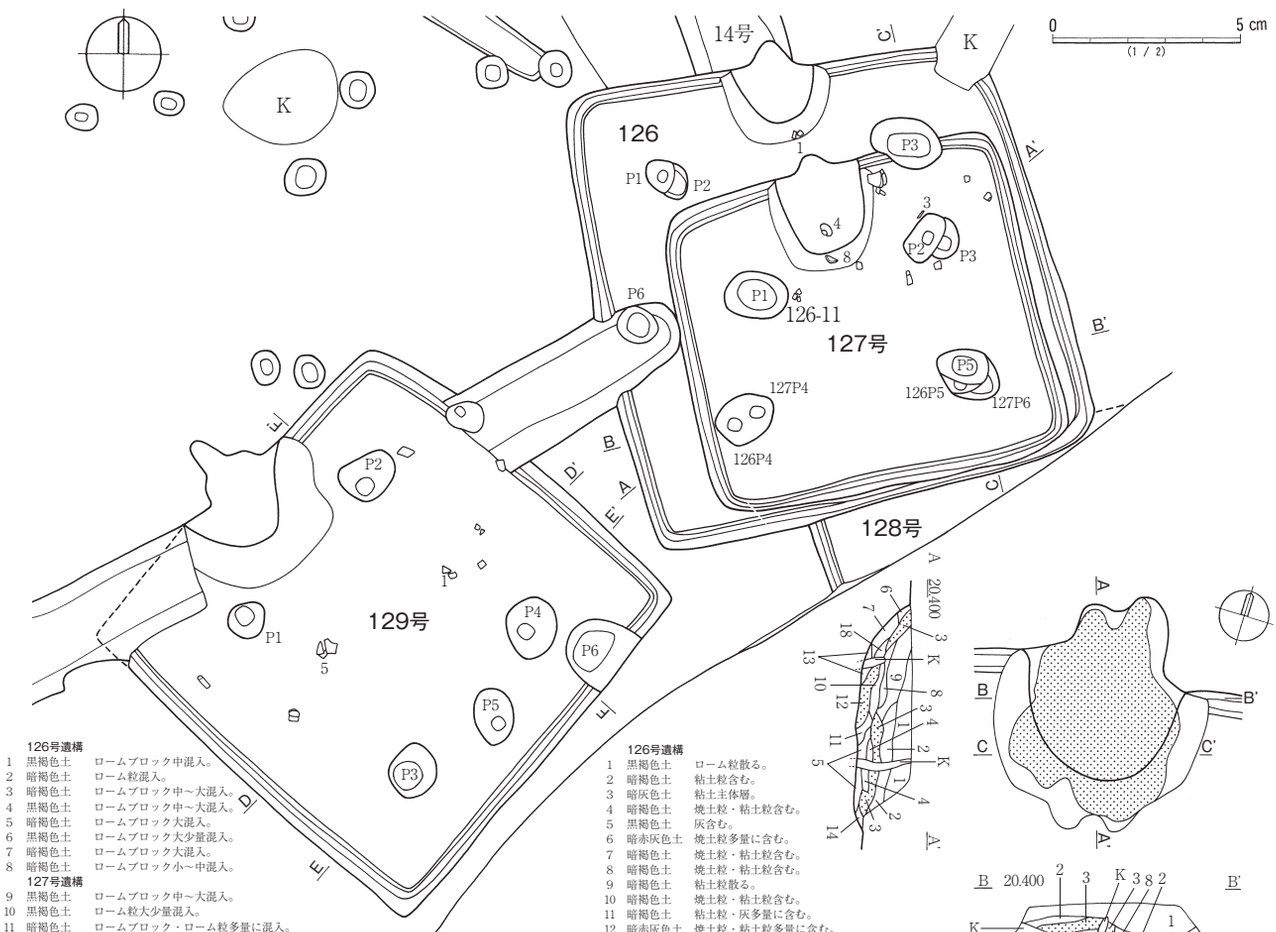
1 黒褐色土　ローム粒少量混入。
2 暗褐色土　ローム粒混入。
3 暗褐色土　ローム粒少量混入。
4 暗褐色土　ローム粒少量・焼土粒らに混入。
5 暗褐色土　ローム粒・粘土混入。
6 黒褐色土　ローム粒少量混入。
7 暗褐色土　ロームブロック小・ローム粒粒らに混入。
8 黒褐色土　有機質土主体。粘土混入。14 号方形周溝墓覆土。

125号遺構

1 暗褐色土　粘土粒含む。
2 暗褐色土　ロームブロック・粘土粒含む。
3 暗褐色土　焼土粒やや多く含む。
4 暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
5 暗褐色土　灰含む。
6 褐色土　ローム粒含む。
7 暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
8 暗褐色土　焼土粒・灰含む。
9 暗褐色土　焼土粒少量・粘土粒含む。
10 黒褐色土　ローム粒含む。
11 暗褐色土　粘土粒含む。
12 暗褐色土　焼土粒少量・粘土粒含む。
13 暗灰色土　粘土主体層。

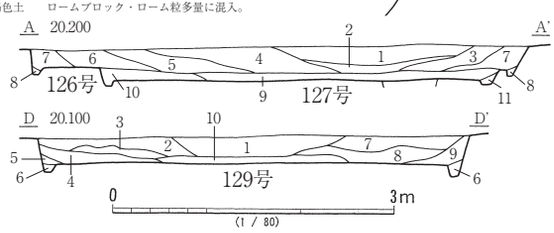
第101図　125号遺構実測図・125号遺構出土遺物実測図



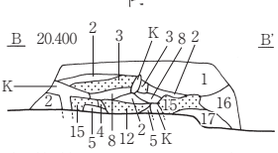


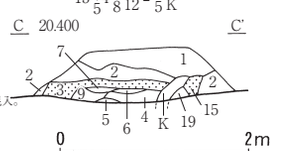
126号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック中混入。
2 暗褐色土 ローム粒混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
4 黒褐色土 ロームブロック中～大混入。
5 暗褐色土 ロームブロック大混入。
6 黒褐色土 ロームブロック大少量混入。
7 暗褐色土 ロームブロック大混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。

127号遺構
9 黒褐色土 ロームブロック中～大混入。
10 黒褐色土 ローム粒大少量混入。
11 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に混入。



126号遺構
1 黒褐色土 ローム粒散る。
2 暗褐色土 粘土粒含む。
3 暗灰色土 粘土主体層。
4 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
5 黒褐色土 灰含む。
6 暗赤灰色土 焼土粒多量に含む。
7 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
8 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
9 暗褐色土 粘土粒散る。
10 暗褐色土 焼土粒・粘土粒含む。
11 暗褐色土 粘土粒・灰多量に含む。
12 暗赤灰色土 焼土粒・粘土粒多量に含む。
13 黒色土 有機質土主体。
14 黒褐色土 粘土粒含む。
15 暗灰色土 粘土主体層中に焼土粒含む。
16 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
17 黒褐色土 ローム粒・粘土粒混入。
18 黒褐色土 粘土粒含む。
19 黒褐色土 粘土粒・灰含む。





129号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒霜降り状に、焼土多量に混入。
2 黒褐色土 ローム粒少量混入。
3 褐色土 ローム粒中多量に混入。
4 暗褐色土 ローム粒少量混入。
5 褐色土 ローム粒大多量に混入。
6 褐色土 ローム粒大多量に混入。
7 褐色土 ローム粒・焼土粒多量に混入。
8 暗褐色土 ローム粒霜降り状に、焼土少量混入。
9 暗褐色土 ローム粒少量混入。
10 暗褐色土 焼土少量含む。

第102図　126～129号遺構実測図・125号遺構出土遺物実測図

点4,966ｇの土師器、１点15ｇの須恵器、２点49ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。１はカマド粘土に密着して検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

127号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号58Ａ号住居跡。126号竪穴と重複して存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.80m短径3.54mを測り、主軸方位はＮ－７°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で12.5㎝、西13.0㎝、南8.3㎝、北は10.5㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは8.7～12.2㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが、全体的に踏み固められていない。ピットは６ヶ所に検出され、深さはＰ１が25.5㎝、Ｐ２は27㎝、Ｐ３は13.2㎝、Ｐ４は49.1㎝、Ｐ５が108.5㎝、Ｐ６が20㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は、位置的に主柱穴と考えられる。

遺物

本遺構からは122点5,850.2ｇの土器片と２点439.7ｇの礫・石器、１点380ｇの土製品、２点14.6ｇの金属器が検出された。土器片等の内訳は、119点5,795.7ｇの土師器、１点28.4ｇの須恵器、１点7.3ｇの弥生土器、１点18.8ｇの縄文土器、１点380ｇの支脚である。これらの出土遺物の内12点を図示した。１・２・４・７・８はカマド内及びカマド粘土に密着して検出された土師器鉢・甕・支脚・高坏である。３はＰ２付近の床面から検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

128号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号58Ｂ号住居跡。127号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径3.70m残存短径0.80mを測り、主軸方位は不明である。遺物が検出されていないので、火床施設も不明である。本遺構の存在を示す平面図に数値が全く記載されていないため、残存する壁高や周溝の深さ等も不明である。調査日誌には、全体形状不明な竪穴住居としか記載されていない。

遺物

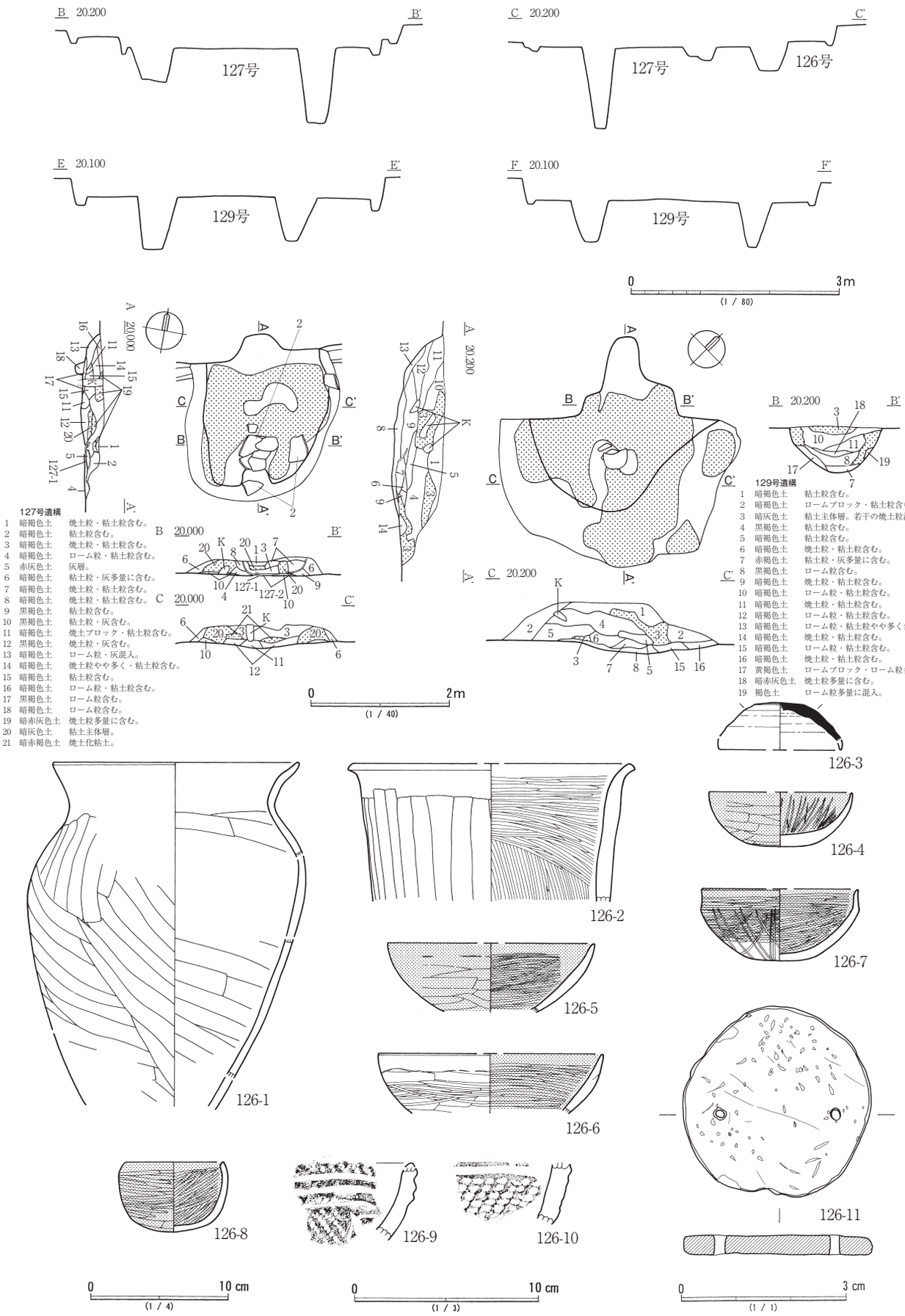
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

129号遺構（竪穴住居跡）

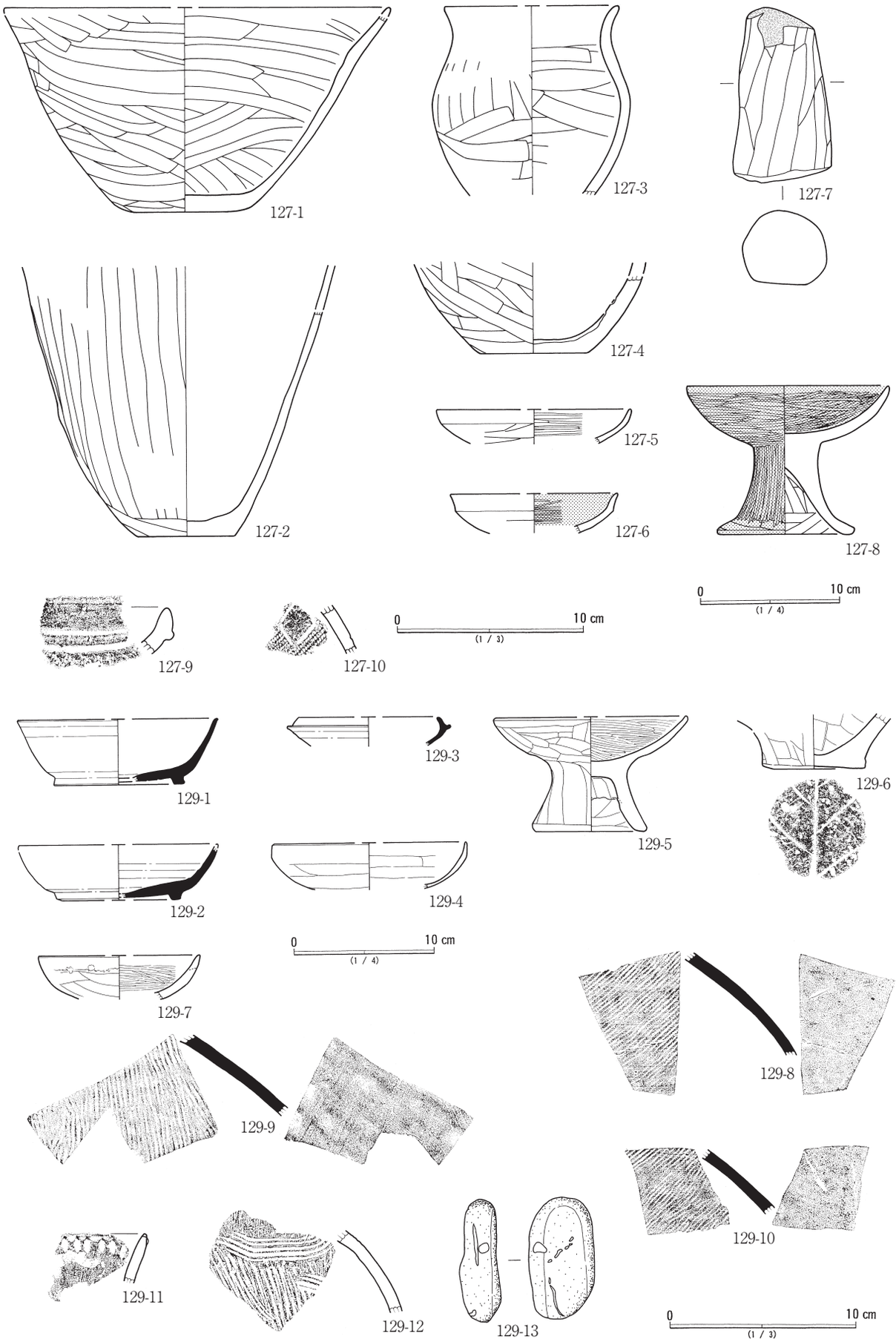
昭和54年度調査時遺構番号59号住居跡。14号方形周溝墓の南溝を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.05m短径4.60mを測り、主軸方位はＮ－47°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で33㎝、西26㎝、南31.5㎝、北は28㎝を測る。検出面での周溝は削平箇所を除いて全周し、深さは５～14㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはＰ１が45.5㎝、Ｐ２は63㎝、Ｐ３は75.5㎝、Ｐ４は61㎝、Ｐ５が26㎝、Ｐ６が21㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、位置的に主柱穴と考えられる。Ｐ５は、入口施設と想定される。

遺物

本遺構からは223点4,463ｇの土器片と１点70ｇの磨石が検出された。土器片等の内訳は、212点4,059ｇの土師器、９点363ｇの須恵器、２点41ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。１・５は床面から出土した須恵器高台付き坏と土師器高坏である。これ以外の遺物は、何れ



第103図　127・129号遺構実測図・126号遺構出土遺物実測図



第104図　127・129号遺構出土遺物実測図

も覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

130号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号42号土坑。調査区南東端部に単独で存在する長方形土坑である。長径2.40m短径1.72m、深さ最大76.4cmを測り、主軸方位はＮ－20°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

131号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号74号住居跡。調査区南西部244号溝の南側に位置し、132号地下式土壙に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。推定長径3.60m短径3.50mを測り、主軸方位はＮ－38°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する壁高は、それぞれ東で11.2cm、西5.7cm、南4.2cm、北は７cmを測る。検出面での周溝は西側を除いて全周し、深さは0.8～9.7cmを測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が17cm、Ｐ２は59.8cmを測る。

遺物

本遺構からは２点72ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、１点40ｇの土師器、１点32ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の２点を図示した。１は床面から出土した土師器甕底部片である。弥生土器口縁部は、覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できない。

132号遺構（地下式土壙）

昭和54年度調査時遺構番号２号地下式土壙。131号竪穴の中央部に位置し、131号竪穴を削平して存在する地下式土壙である。平面図には開口部より奥に潜り込む玄室奥壁を破線で示しているが、天井部の高さや厚みと奥壁までの距離を示す断面図が存在しないため、正確な数値は詳細不明ながら、玄室長径2.54m短径1.55m、開口部長径1.85m短径1.52m、深さ最大116.6cmを測り、主軸方位はＮ－34°－Ｅを示す。短径方向の底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

133号遺構（土坑）

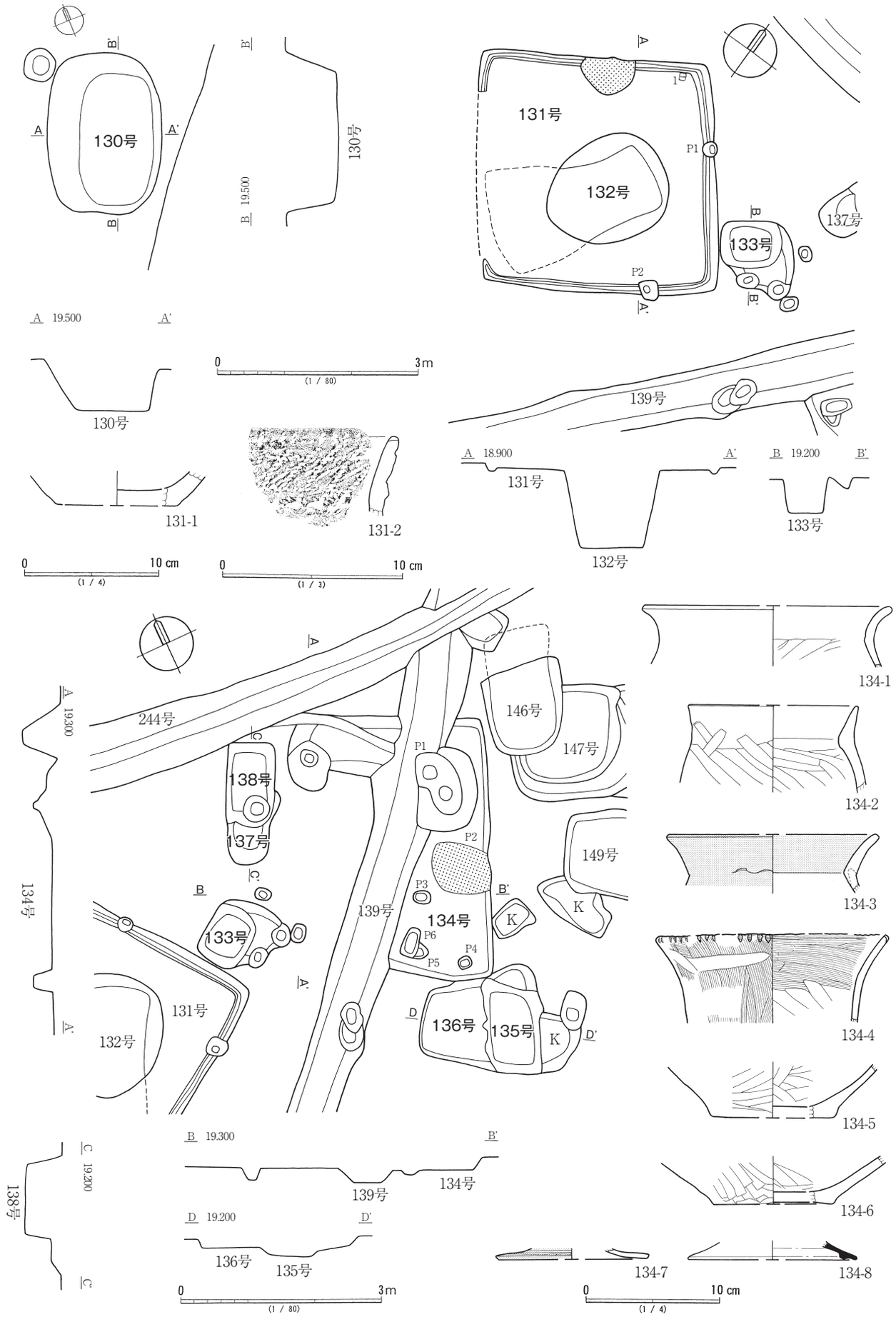
昭和54年度調査時遺構番号119号土坑。131号竪穴東側に接して存在する長方形土坑である。長径0.92m短径0.70m、深さ最大52.6cmを測り、主軸方位はＮ－54°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

134号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号45号住居跡。131号竪穴の東に位置し、139号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.90m残存短径1.80mを測り、主軸方位はＮ－111°－Ｅを示す。カマドは東壁中央に構築され、残存する壁高は、東で18.0cm、北11.0cmを測る。検出面での周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは６ヶ所に検出され、深



第105図　130～138号遺構実測図・131・134号遺構出土遺物実測図

さはＰ１が49.2㎝、Ｐ２は56.9㎝、Ｐ３が7.5㎝、Ｐ４は23.0㎝、Ｐ５が9.1㎝、Ｐ６は7.9㎝を測る。

遺物

本遺構からは270点4,326ｇの土器片、１点2.2ｇの礫、３点376ｇの土製品が検出された。土器片等の内訳は、256点4,078ｇの土師器、２点17ｇの須恵器、10点180ｇの弥生土器、２点51ｇの縄文土器、１点18ｇの管状土錘、２点358ｇの支脚片である。これらの出土遺物の内13点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

135号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号89Ｂ号土坑。134号竪穴の南側に接し、136号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.63m短径0.80m、深さ最大26.5㎝を測り、主軸方位はＮ－22°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

136号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号89Ａ号土坑。134号竪穴の南側に接し、135号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径2.40m短径1.30m、深さ最大13.6㎝を測り、主軸方位はＮ－58°－Ｗを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

137号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号93Ｂ号土坑。134号竪穴の西側に位置し、138号土坑に削平されて存在する長方形土坑である。残存長径1.08m短径0.61m、深さ最大23.6㎝を測り、主軸方位はＮ－25°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

138号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号93Ａ号土坑。134号竪穴の西側に位置し、137号土坑を削平して存在する長方形土坑である。長径1.26m短径0.72m、深さ最大59.0㎝を測り、主軸方位はＮ－25°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピットは１ヶ所に検出され、深さは18.8㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

139号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。131号竪穴の東側に位置し、134号竪穴・244号溝を削平し、141～145号土坑と重複する溝である。長さ16.0m幅0.66～0.94m、深さ13.1～33.0㎝を測り、主軸方位はＮ－38°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピットは２ヶ所に検出されたが、深さの測定値はない。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

140号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号96号土坑。247号溝の西側に位置し、247号溝と重複して存在する長方形土坑である。残存長径1.38m短径1.30m、深さ最大52.6㎝を測り、主軸方位はＮ－23°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。土層断面が存在しないため、247号溝との新旧関係は不明である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

141号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号95号土坑。140号土坑の南側に位置し、139号溝と重複して存在する円形土坑である。長径1.22m推定短径1.10m、深さ最大26.4㎝を測り、主軸方位はＮ－65°－Ｗを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。土層断面が存在し、139号溝との新旧関係は、本遺構の方が新しい。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

142号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号121号土坑。141号土坑の南側に位置し、139号溝・143・144号土坑と重複して存在する長方形土坑である。残存長径1.02m残存短径0.54m、深さ最大33.0㎝を測り、主軸方位はＮ－28°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。土層断面が存在しないため、重複する各遺構との新旧関係は不明である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

143号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号120号土坑。142号土坑の西側に位置し、142号土坑と重複して存在する円形土坑である。長径0.90m推定短径0.80m、深さ最大19.6㎝を測り、主軸方位はＮ－２°－Ｗを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。土層断面が存在しないため、重複する各遺構との新旧関係は不明である。

遺物

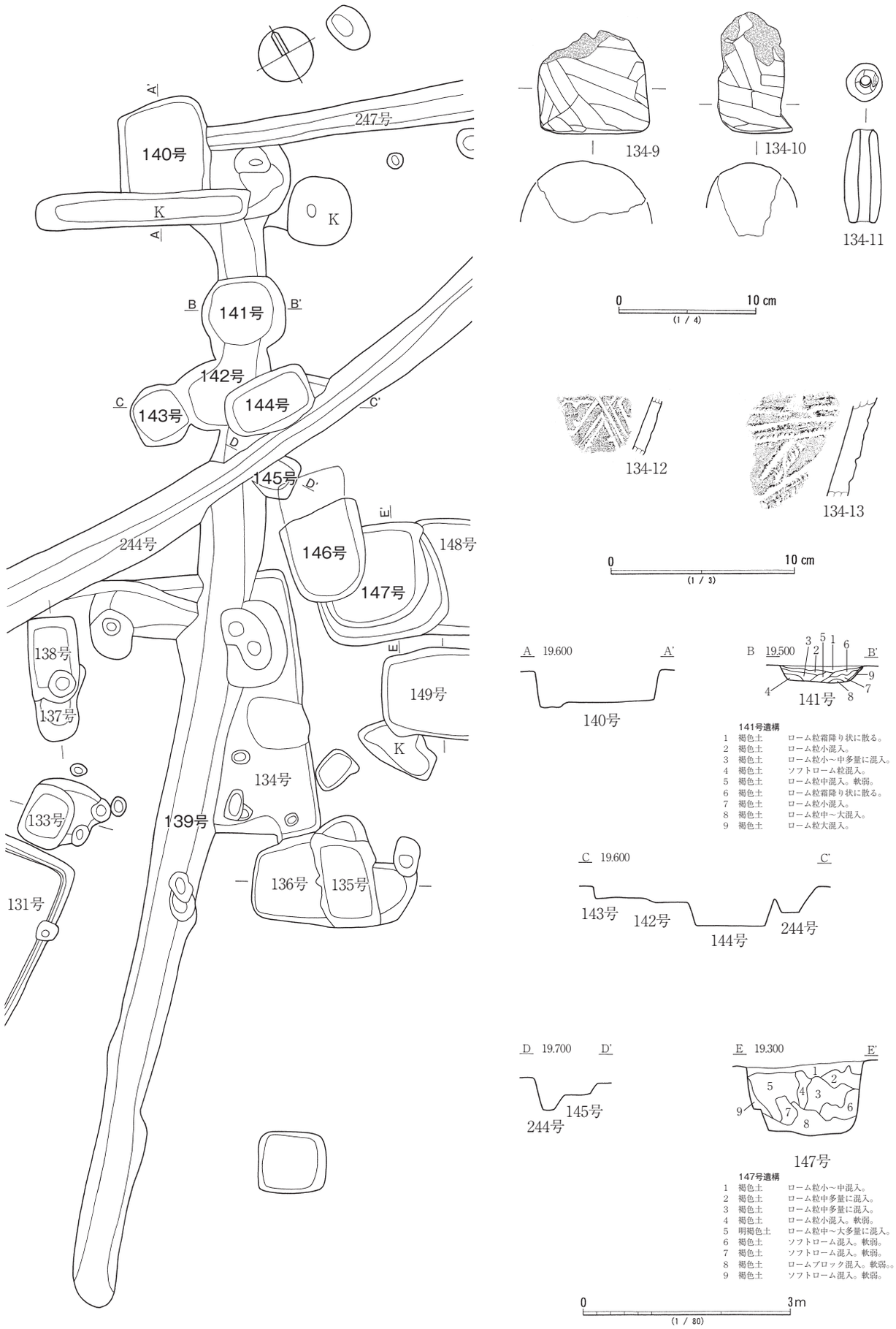
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

144号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号84Ａ号土坑。142号土坑の東側に位置し、139・244号溝・142号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.30m短径0.85m、深さ最大71.8㎝を測り、主軸方位はＮ－85°－Ｗを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。土層断面が存在しないため、重複する各遺構との新旧関係は不明であるが、244号溝は断面Ｖ字状を呈する弥生環濠であるため、本祉の方が新しい段階の遺構と考えられる。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。



第106図　139～147号遺構実測図・134号遺構出土遺物実測図

145号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号84Ｂ号土坑。144号土坑の南側に位置し、139・244号溝と重複して存在する長方形土坑である。残存長径0.65m残存短径0.63m、深さ最大13.6㎝を測り、主軸方位はＮ－52°－Ｅを示す。底面は平坦であり、ピット等は検出されなかった。土層断面が存在しないため、重複する各遺構との新旧関係は不明であるが、244号溝は弥生環濠であるため、本祉の方が新しい段階の遺構と考えられる。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

146号遺構（側壁抉り込み土壙）

昭和54年度調査時遺構番号10号地下式土壙。145号土坑の南側に位置し、147号土坑と重複して存在する側壁抉り込み土壙であろうと推定される。詳細平面図が存在しないため、1/200の全体図から図面を起こして作成した。破線で示された側壁抉り込みを含めた本体長径1.88m短径1.17m、開口部の長径1.33m短径1.20mを測るが、深さの測定値がない。開口部主軸方位はＮ－16°－Ｅを示し、底面形状は不明である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

147号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号108号土坑。146号土坑の南側に位置し、146・148号土坑と重複して存在する方形土坑である。長径1.88m短径1.70m、深さ最大1.05㎝を測り、主軸方位はＮ－71°－Ｗを示す。北方向を除いた断面は二段掘りの痕跡を残し、おそらく古い段階の落ち込みを削平して構築されたものと想定される。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。土層断面から見ると、覆土は自然田遺跡の状況ではなく、人為的な埋め戻しが想定される。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

148号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号107号土坑。147号土坑東側に位置し、147・151・152号土坑と重複して存在する方形土坑である。長径1.68m残存短径1.15m、深さ最大33.2㎝を測り、主軸方位はＮ－33°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

149号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号100号土坑。148号土坑南側に位置し、単独で存在する長方形土坑である。長径1.82m短径1.32m、深さ最大18.5㎝を測り、主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

第107図　148～162号遺構実測図

150号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号80Ｂ号土坑。148号土坑東側に位置し、148・151・152号土坑と重複して存在する方形土坑である。長径1.22m短径1.16m、深さ最大23.2㎝を測り、主軸方位はＮ－26°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

151号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号80Ａ号土坑。148号土坑東側に位置し、148・150・151号土坑と重複して存在する不整形土坑である。長径3.30m短径2.55m、深さ最大46.4㎝を測り、主軸方位はＮ－59°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

152号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号80Ｃ号土坑。150号土坑北側に位置し、148・150・151号土坑と重複して存在する不整形土坑である。長径1.06m短径0.48m、深さ最大19.5㎝を測り、主軸方位はＮ－65°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

153号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号79号土坑。151号土坑の東側に位置し、単独で存在する不整形土坑である。長径2.88m短径1.86m、深さ最大50.3㎝を測り、主軸方位はＮ－78°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

154号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号85Ｆ号土坑。151号土坑の南側に位置し、157号土坑と重複して存在する不整形土坑である。長径1.96m短径1.78m、深さ最大43.2㎝を測り、主軸方位はＮ－25°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が14.8㎝、Ｐ２は39.3㎝、Ｐ３が2.6㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

155号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号85Ｂ号土坑。154号土坑の南側に位置し、157号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.17m短径1.00m、深さ最大17.7㎝を測り、主軸方位はＮ－24°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が35.0㎝、Ｐ２は32.0㎝、Ｐ３が17.7㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

156号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号85Ａ号土坑。157号土坑の南側に位置し、157号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.50m短径1.16m、深さ最大28.0㎝を測り、主軸方位はＮ－36°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

157号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号85Ｃ号土坑。156号土坑の北側に位置し、154・155・156号土坑と重複して存在する長方形土坑である。推定長径2.25m短径1.64m、深さ最大41㎝を測り、主軸方位はＮ－26°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

158号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号85Ｄ号土坑。157号土坑の東側に接して存在する方形土坑である。長径0.95m短径0.88m、深さ最大27.6㎝を測り、主軸方位はＮ－16°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

159号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号85Ｅ号土坑。157号土坑の東側に位置し、単独で存在する不整形土坑である。長径1.43m短径1.27m、深さ最大31㎝を測り、主軸方位はＮ－31°－Ｅを示す。底面はやや凹凸激しく、ピットは１ヶ所に検出され、深さ17.4㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

160号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号87号土坑。155号土坑の南側に位置し、単独で存在する方形土坑である。長径1.47m短径1.42m、深さ最大37.8㎝を測り、主軸方位はＮ－44°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

161号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号117号土坑。160号土坑の東側に位置し、単独で存在する長方形土坑である。長径1.15m短径0.93m、深さ最大38.5㎝を測り、主軸方位はＮ－54°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

162号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号116号土坑。161号土坑の西側に単独で存在する不整形土坑である。長径1.43m短径1.06m、深さ最大12.7cmを測り、主軸方位はＮ－54°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が16.0cm、Ｐ２は17.2cm、Ｐ３が10.8cmを測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

163号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号77号土坑。調査区南側のほぼ中央に位置し、245号・247号溝と重複して存在する不正円形土坑である。長径1.52m短径1.48m、深さ最大49.4cmを測り、主軸方位はＮ－50°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

164号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号76Ｂ号土坑。163号土坑の東側に位置し、165号土坑と重複して存在する長方形土坑である。中央部を芋穴によって削平されるが、東西方向に本来のコーナー部が残存しており、推定長径1.50m残存短径1.40m、深さ最大63.9cmを測り、主軸方位はＮ－60°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

165号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号76Ａ号土坑。164号土坑の南側に位置し、164号土坑と重複して存在する方形土坑である。長径1.84m短径1.83m、深さ最大55.2cmを測り、主軸方位はＮ－61°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

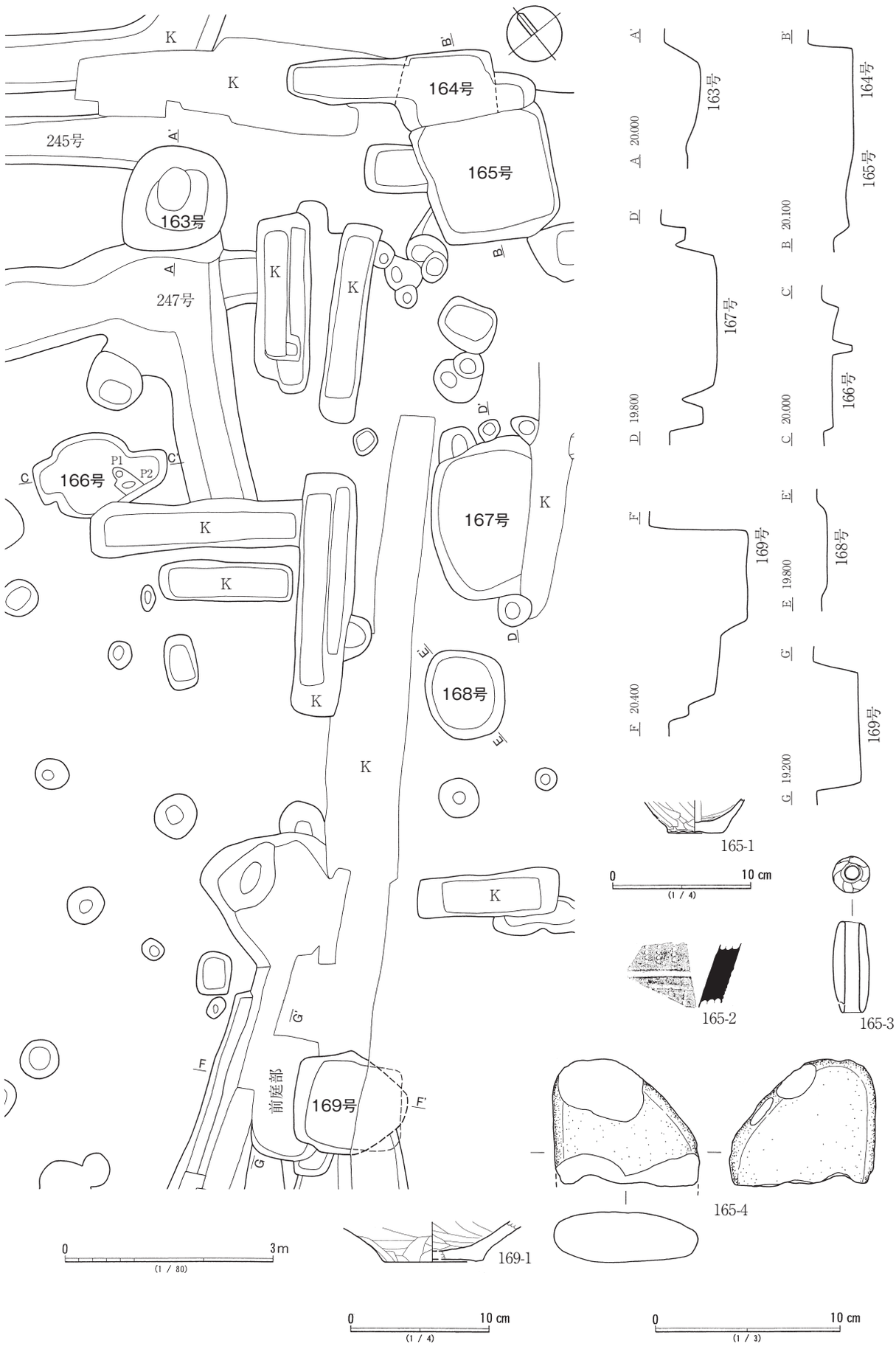
本遺構からは８点188ｇの土器片と２点481ｇの礫・石器、１点16ｇの土製品が検出された。土器片等の内訳は、５点100ｇの土師器、３点88ｇの須恵器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。１は土師器甕底部、２は須恵器甕片、３は管状土錘、４は磨石である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

166号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号78号土坑。165号土坑の西側に位置し、単独で存在する不整形土坑である。長径1.94m短径1.20m、深さ最大21.2cmを測り、主軸方位はＮ－63°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が25.1cm、Ｐ２が31.0cmを測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。



第108図　163～169号遺構実測図・165・169号遺構出土遺物実測図

167号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号75号土坑。166号土坑の東側に位置し、単独で存在する長方形土坑である。長径2.27m短径1.40m、深さ最大67.0cmを測り、主軸方位はＮ－37°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

168号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号74号土坑。167号土坑の南側に位置し、単独で存在する方形土坑である。長径1.38m短径1.20m、深さ最大26.6cmを測り、主軸方位はＮ－１°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

169号遺構（地下式土壙）

昭和54年度調査時遺構番号９号地下式土壙及び109号土坑。調査時段階では側壁抉り込み形態の９号地下式土壙と通常土坑形態の109号土坑とに二分されていたが、通常土坑形態の109号土坑は側壁抉り込み形態の９号地下式土壙の前庭部として捉え、一連の遺構として取り扱う。166号土坑の南側に位置し、248号溝に削平されて存在する地下式土壙である。前庭部として捉えられる長方形土坑は、長径1.80m短径0.56m、深さ最大59.6cmを測る。玄室に相当する側壁抉り込み土壙は、長径1.61m短径1.50m、深さ最大94.1cmを測り、前庭部より36.5cm低く掘り込まれており、主軸方位はＮ－47°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

天井部は残存するものの、玄室部の高さ及び天井部の厚さに関しての記録はない。

遺物

本遺構からは32点271ｇの土師器片と１点15ｇの礫が検出された。器片等の内訳は、31点231ｇの土師器、１点40ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内１点を図示した。１は土師器甕底部であるが、覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

170号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号44Ａ号土坑。165号土坑の東側に位置し、単独で存在する長方形土坑である。長径2.15m短径1.22m、深さ最大70.7cmを測り、主軸方位はＮ－64°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

171号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号44Ｂ号土坑。170号土坑の西側に位置し、単独で存在する長方形土坑である。長径1.40m短径0.68m、深さ最大22.8cmを測り、主軸方位はＮ－43°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

172号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号62号住居跡。170号土坑の南側に位置し、174・175号土坑に削平されて存在する推定長方形の竪穴住居跡である。柱穴の位置から推定される長径4.06m短径3.02mを測り、主軸方位はＮ－49°－Ｗを示す。カマドは西壁中央に構築され、残存する壁高は、東で９㎝、南18.2㎝、北1.5㎝を測る。検出面での周溝は削平された個所以外は全周し、深さは８～10㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が39㎝、Ｐ２は48.5㎝、Ｐ３が27.7㎝、Ｐ４は62.0㎝、Ｐ５が57.8㎝を測る。撹乱により削平された個所は掘り込みも深く、Ｐ１に対応する位置に、破線で示した本来の主柱穴が存在したものと想定される。

遺物

本遺構からは133点3,457ｇの土器片と１点95ｇの石皿片、１点36ｇの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、131点3,438ｇの土師器、２点19ｇの須恵器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。１はＰ２～Ｐ３間の床面から８㎝浮いた状態で検出された土師器甕である。２・３は東壁付近の床面からそれぞれ３～４㎝程浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

173号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号１号竪穴状土坑。172号竪穴の西側に位置し、南壁を流失し、175号木棺墓に削平されて存在する長方形土坑である。長径3.46m残存短径1.62m、深さ最大13.8㎝を測り、主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が13.8㎝、Ｐ２が16.8㎝、Ｐ３が12.6㎝、Ｐ４が38.8㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

174号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号46号土坑。172号竪穴の西側に位置し、172号竪穴を削平して存在する不整形土坑である。長径2.15m残存短径1.78m、深さ最大41.7㎝を測り、主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が44.5㎝、Ｐ２が39.5㎝、Ｐ３が33.4㎝を測る。

遺物

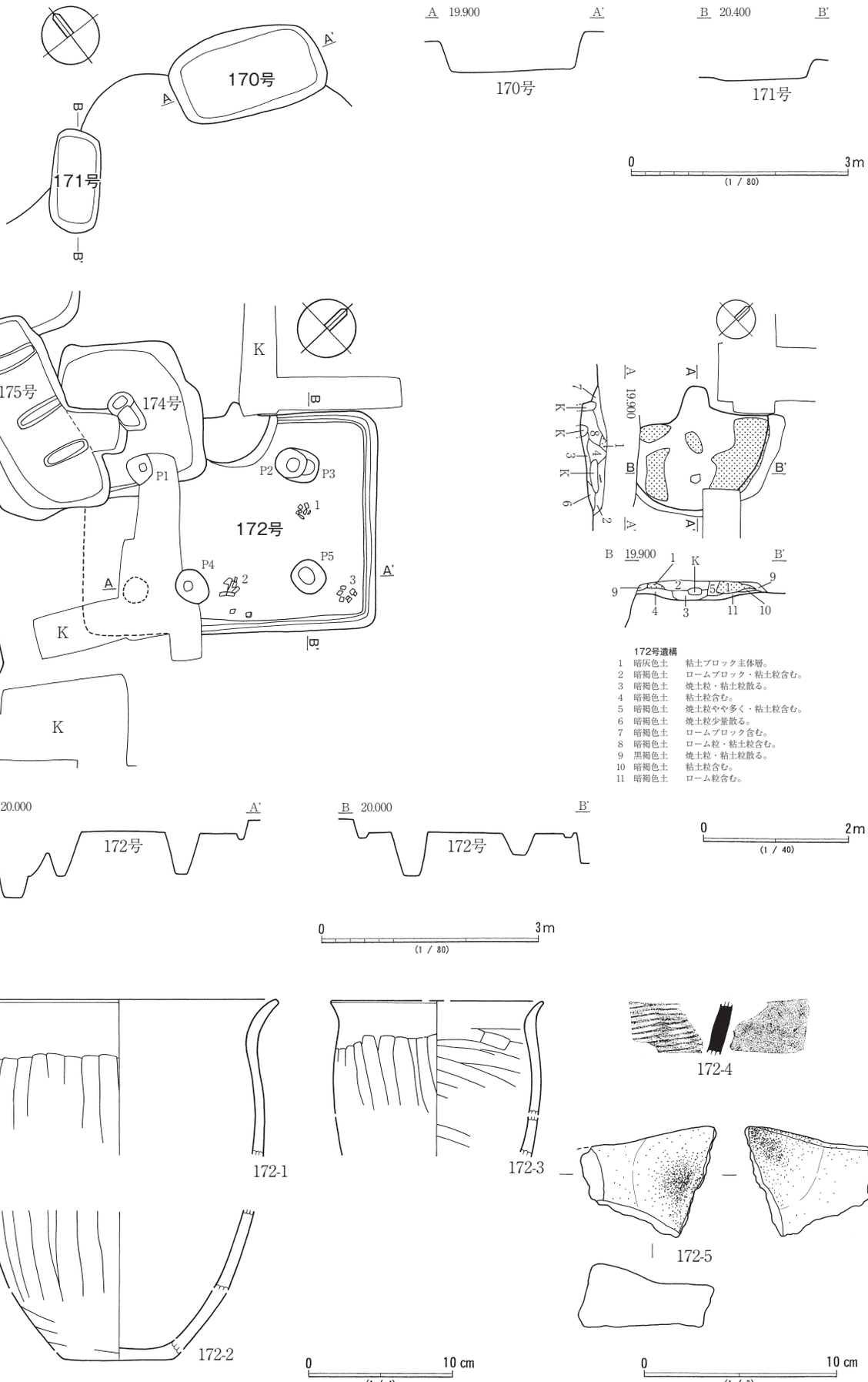
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

175号遺構（横溝木棺墓）

昭和54年度調査時遺構番号47号土坑。174号土坑の南側に位置し、174号土坑を削平して存在する横溝木棺墓である。長径2.92m短径1.18m、深さ最大55.8㎝を測り、主軸方位はＮ－81°－Ｗを示す。底面には排水溝と想定される幅18～20㎝、深さ２～６㎝前後の溝が３条存在するものの、それ以外はほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。



第109図　170～172号遺構実測図・172号遺構出土遺物実測図

176号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号52Ｃ号土坑。173号土坑の南側に位置し、単独で存在する円形土坑である。長径0.63m短径0.60m、深さ最大53.2㎝を測り、主軸方位はＮ－55°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

177号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号52Ｂ号土坑。176号土坑の東側に位置し、単独で存在する方形土坑である。長径0.66m短径0.63m、深さ最大21.6㎝を測り、主軸方位はＮ－39°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

178号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号52Ａ号土坑。177号土坑の南側に位置し、単独で存在する長方形土坑である。長径1.35m短径1.00m、深さ最大17.7㎝を測り、主軸方位はＮ－47°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは１ヶ所に検出され、深さは21.5㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

179号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号49Ｂ号土坑。178号土坑の東側に位置し、180号土坑と重複して存在する方形土坑である。残存長径1.58m短径1.50m、深さ最大22.0㎝を測り、主軸方位はＮ－28°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、壁際の３ヶ所にピットが検出され、深さはＰ１が35.5㎝、Ｐ２が59.4㎝、Ｐ３が41.0㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

180号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号49Ａ号土坑。179号土坑の東側に位置し、179・183号土坑と重複して存在する不整形土坑である。長径1.65m短径1.32m、深さ最大22.0㎝を測り、主軸方位はＮ－36°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が20.2㎝、Ｐ２が33.0㎝を測る。

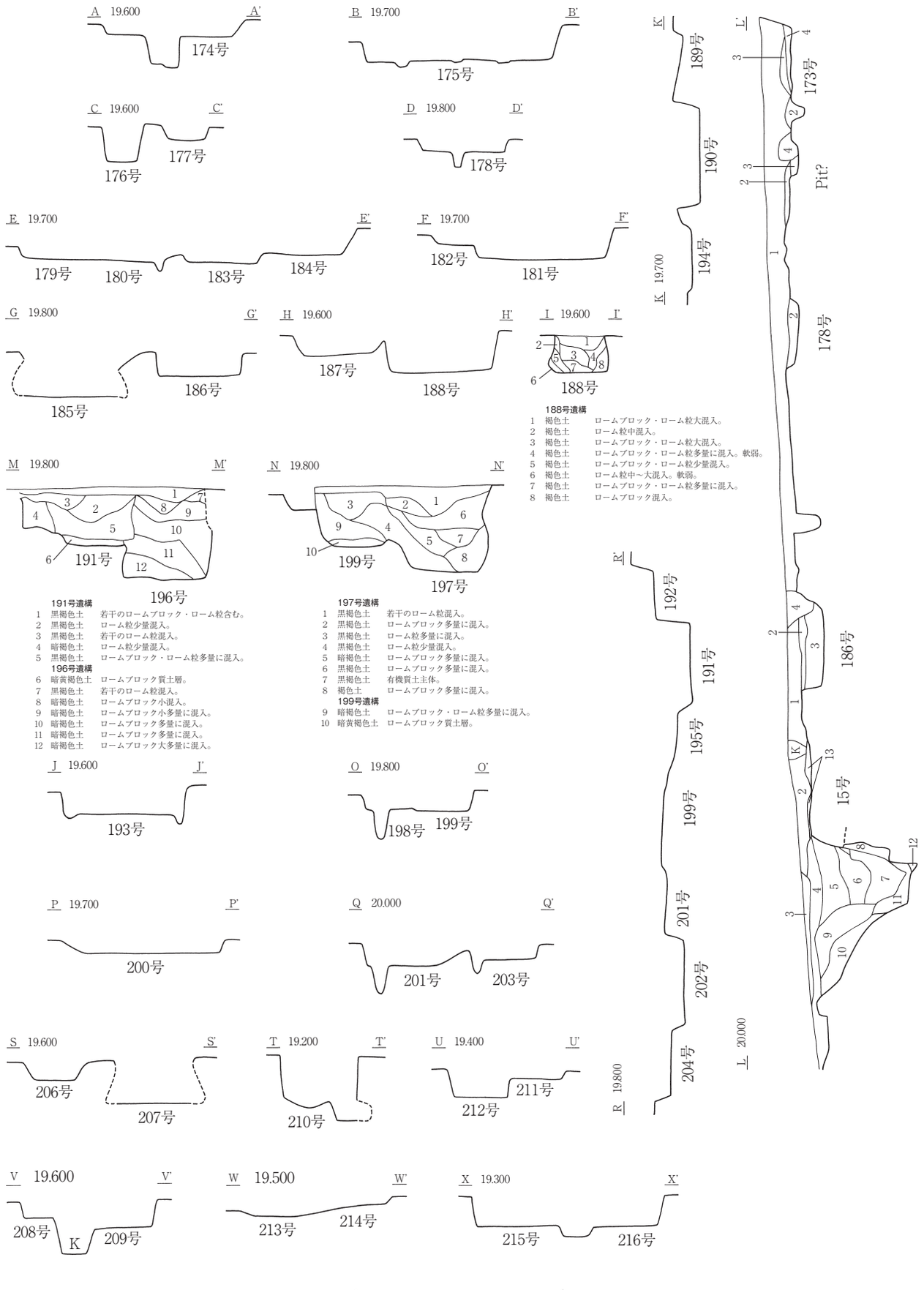
遺物

本遺構からは38点728ｇの土師器片が検出された。何れも覆土一括で取り上げられた特徴のない砕片で、図化に至るものがない。

181号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号51Ａ号土坑。180号土坑の東側に位置し、182・183・184号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径2.16m短径1.60m、深さ最大51.3㎝を測り、主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

第110図　173～216号遺構実測図



188号遺構
1 褐色土 ロームブロック・ローム粒大混入。
2 褐色土 ローム粒中混入。
3 褐色土 ロームブロック・ローム粒大混入。
4 褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に混入。軟弱。
5 褐色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。
6 褐色土 ローム粒中～大混入。軟弱。
7 褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に混入。
8 褐色土 ロームブロック混入。

191号遺構
1 黒褐色土 若干のロームブロック・ローム粒含む。
2 黒褐色土 ローム粒少量混入。
3 黒褐色土 若干のローム粒混入。
4 暗褐色土 ローム粒少量混入。
5 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に混入。

196号遺構
6 暗黄褐色土 ロームブロック質土層。
7 黒褐色土 若干のローム粒混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小多量に混入。
10 暗褐色土 ロームブロック多量に混入。
11 暗褐色土 ロームブロック多量に混入。
12 暗褐色土 ロームブロック大多量に混入。

197号遺構
1 黒褐色土 若干のローム粒混入。
2 黒褐色土 ロームブロック多量に混入。
3 黒褐色土 ローム粒多量に混入。
4 黒褐色土 ローム粒少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック多量に混入。
6 黒褐色土 ロームブロック多量に混入。
7 黒褐色土 有機質土主体。
8 褐色土 ロームブロック多量に混入。

199号遺構
9 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に混入。
10 暗黄褐色土 ロームブロック質土層。

第111図　173～204・206～216号遺構実測図

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

182号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号51Ｃ号土坑。181号土坑の北側に位置し、181号土坑と重複して存在する長方形土坑である。残存長径1.36m残存短径1.00m、深さ最大12.8㎝を測り、主軸方位はＮ－59°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

183号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号50号土坑。180号土坑の東側に位置し、180・181・184号土坑と重複して存在する方形土坑である。長径1.20m短径1.17m、深さ最大37.3㎝を測り、主軸方位はＮ－37°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、壁際の１ヶ所にピットが検出され、深さは24.3㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

184号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号51Ｂ号土坑。183号土坑の東側に位置し、181・183号土坑と重複して存在する長方形土坑である。残存長径1.34m残存短径0.80m、深さ最大38.8㎝を測り、主軸方位はＮ－56°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

185号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号12号地下式土壙。176号土坑の南側に単独で存在するフラスコ状ピットである。開口部は長径1.41m短径1.12mの長方形を呈し、破線で示された袋状の本体底部は、開口部より一回り大きく、長径1.55m短径1.30m深さ最大67.8㎝を測りオーバーハングして立ち上り、主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

186号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号53Ｄ号土坑。185号土坑の東側に位置し、単独で存在する長方形土坑である。長径1.29m短径1.24m、深さ最大31.4㎝を測り、主軸方位はＮ－47°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

187号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号53Ａ号土坑。186号土坑の東側に位置し、188号土坑と接して存在する円形土坑である。長径1.30m短径1.24m、深さ最大23.1㎝を測り、主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

188号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号54Ａ号土坑。187号土坑の東側に位置し、187号土坑と接して存在する長方形土坑である。開口部は長径1.66m短径0.69mの長方形を呈し、破線で示された袋状の本体は、短径が開口部より一回り大きく、長径1.66m短径0.90m深さ最大55.8cmを測り、主軸方位はＮ－56°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

189号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号54Ｂ号土坑。188号土坑の東側に位置し、190・191号土坑と重複して存在する長方形土坑である。南西部は流失しているが、推定長径2.23m残存短径1.06m、深さ最大26.8cmを測り、主軸方位はＮ－65°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは７ヶ所に検出され、深さはＰ１が13.9cm、Ｐ２が28.2cm、Ｐ３が29.1cm、Ｐ４が32.7cm、Ｐ５が45.8cm、Ｐ６が31.7cm、Ｐ７が12.4cmを測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

190号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号58Ａ号土坑。189号土坑の南側に位置し、189・191・195号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.60m残存短径1.00m、深さ最大34.8cmを測り、主軸方位はＮ－34°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、壁際にピットが検出され、深さは65.8cmを測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

191号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号58Ｂ号土坑。190号土坑の東側に位置し、189・190・192・195・196号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.56m短径1.15m、深さ最大87.4cmを測り、主軸方位はＮ－31°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

192号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号60号土坑。190号土坑の東側に位置し、191号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径0.84m短径0.78m、深さ最大42.7cmを測り、主軸方位はＮ－67°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

193号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号54Ｃ号土坑。188号土坑の南側に位置し、単独で存在する長方形土坑で

ある。長径1.57m短径1.14m、深さ最大41.0cmを測り、主軸方位はＮ－33°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、壁際の３ヶ所からピットが検出され、深さはＰ１が56.5cm、Ｐ２が61.6cm、Ｐ３が37.9cmを測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

194号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号56号土坑。193号土坑の東側に位置し、単独で存在する方形土坑である。長径1.01m短径0.95m、深さ最大12.9cmを測り、主軸方位はＮ－35°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

195号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号58Ｃ号土坑。194号土坑の東側に位置し、190・191・196・199号土坑、197号地下式土壙と重複して存在する不整形土坑である。長径1.47m短径1.24m、深さ最大50.0cmを測り、主軸方位はＮ－56°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

196号遺構（地下式土壙）

昭和54年度調査時遺構番号３号地下式土壙。195号土坑の東側に位置し、191・195号土坑と重複して存在する前底部と玄室構造の地下式土壙である。玄室に至る前庭部は長径1.30m短径1.12m、深さ最大88cmを測り、玄室へと下る玄門は幅30cm、奥行き12cmの方形を呈して開口しており、おそらく方形の閉塞板によって閉鎖されていたものと推定される。破線で示された玄室は長径1.25m短径0.95m、深さ最大136cmを測り、前底部から玄室までの主軸方位はＮ－55°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。なお、記録写真と破線で示された土層断面により、天井部の残存が確認され、厚さ56cm程の天井部の存在が確認される。

本遺構は、玄門および玄室構造の特徴から、成人の仰臥伸展葬は完全に不可能な遺構であり、埋葬遺構であるならば、火葬骨ないしは再葬骨専用の埋葬施設と想定されるが、前底部の土層断面からは人為的な埋め戻しの痕跡は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

197号遺構（地下式土壙）

昭和54年度調査時遺構番号４号地下式土壙。196号地下式土壙の南側に位置し、195・199号土坑と重複して存在する前底部と玄室構造の地下式土壙である。玄室に至る前庭部は長径1.10m短径1.00m、深さ最大88.0cmを測り、玄室へと下る玄門部は長径0.78m短径0.15～0.33mを測り、前底部より７cm程高く盛上っている。この部分には197号遺構同様、閉塞板が存在していたものと推定される。破線で示された玄室は長径1.53m短径1.45mを測り、玄門部より最大50cm程掘り下がっており、前底部から玄室までの主軸方位はＮ－58°－Ｗを示す。天井部はすでに崩落していたが、玄室壁の立ち上がり

が何れもオーバーハングしており、本遺構にも天井部が残存していたことを暗示している。

本遺構は、玄門および玄室構造の特徴から、196号地下式土壙との類似性が認められ、埋葬遺構であるならば火葬ないしは再葬墓と想定されるが、前底部から玄室内の土層断面からは天井部の早期崩落が認められるが、人為的な埋め戻しの痕跡は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

198号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号113号土坑。199号土坑の西側に位置し、199号土坑と重複して存在する円形土坑である。長径0.78m短径0.76m、深さ最大24.2㎝を測り、主軸方位はＮ－51°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは１ヶ所に検出され、深さは43.3㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

199号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号61号土坑。198号土坑の東側に位置し、197号地下式土壙、198・201号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.94m短径1.03m、深さ最大32.5㎝を測り、主軸方位はＮ－34°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

200号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号101号土坑。193号土坑の南側に位置し、15号地下式横穴墓（方墳）・204号土坑と重複して存在する不整形土坑である。長径4.98m短径2.33m、深さ最大28.8㎝を測り、主軸方位はＮ－50°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が91.7㎝、Ｐ２が27.7㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

201号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号62号土坑。200号土坑の東側に位置し、199・202・205号土坑と重複して存在する不整形土坑である。長径1.95m短径1.05m、深さ最大22.1㎝を測り、主軸方位はＮ－27°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは１ヶ所に検出され、深さは42.2㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

202号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号64号土坑。201号土坑の西側に位置し、201・204・205号土坑と重複して存在する不整形土坑である。長径1.70m短径1.10m、深さ最大45.7㎝を測り、主軸方位はＮ－41°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

203号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号63号土坑。201号土坑の東側に位置し、単独で存在する不整形土坑である。長径1.06m短径0.85m、深さ最大20.3cmを測り、主軸方位はN－23°－Wを示す。底面はほぼ平坦であり、ピットは１ヶ所に検出され、深さは19.5cmを測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

204号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号65A号土坑。202号土坑の南側に位置し、200・202・205・206号土坑と重複して存在する不整形土坑である。残存長径1.42m短径1.20m、深さ最大22.0cmを測り、主軸方位はN－16°－Wを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

205号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号65B号土坑。204号土坑の東側に位置し、201・202・204・207号土坑と重複して存在する方形土坑である。残存長径0.86m残存短径0.64m、深さ最大9.5cmを測り、主軸方位はN－10°－Eを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

206号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号65C号土坑。204号土坑の南側に位置し、204・208号土坑と重複して存在する円形土坑である。長径0.90m残存短径0.76m、深さ最大34.4cmを測り、主軸方位はN－47°－Wを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

207号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号５号地下式土壙。205号土坑の東側に位置し、205号土坑と重複して存在するフラスコ状ピットである。開口部は長径1.35m短径1.17mの長方形を呈し、破線で示された袋状の本体底部は、開口部より一回り大きく、長径1.51m短径1.45m深さ最大63.2cmを測り、開口部に向けてオーバーハングして立ち上り、主軸方位はN－31°－Eを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

208号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号66号土坑。206号土坑の南側に位置し、206号土坑と重複し、撹乱に削平されて存在する土坑である。残存長径0.83m残存短径0.48m、深さ最大41.2cmを測り、主軸方位はN－44°－Eを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

209号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号67号土坑。208号土坑の東側に位置し、撹乱に削平されて存在する長方形土坑である。長径1.15m残存短径0.86m、深さ最大44.3cmを測り、主軸方位はＮ－33°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

210号遺構（地下式土壙）

昭和54年度調査時遺構番号８号地下式土壙。15号遺構（方墳・地下式横穴墓）の西側に位置し、単独で存在する側壁抉り込みタイプの地下式土壙である。前庭部として捉えられる開口部は、長径0.90m短径0.82m、深さ最大86cmを測り、底部の中央が周囲より10cm程低く掘り込まれている。玄室に相当する側壁抉り込み部は、長径1.02m短径0.50m、深さ最大94.1cmを測り、玄門に相当する部分より30cm程低く掘り込まれ、前庭部～玄室までの主軸方位はＮ－20°－Ｅを示す。側壁に抉り込まれた玄室部の規模は、奥行き20cm高さ最大30cm、天井部は厚さ50cmを測り、玄室部の主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

本遺構が埋葬墓壙であるならば、成人の仰臥伸展葬は完全に不可能であり、可能性としては幼子の仰臥伸展葬、ないしは木櫃等に納めた火葬骨等の改装骨埋葬施設が考えられる。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

211号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号なし土坑。210号土坑の東側に位置し、212号土坑と重複して存在する長方形土坑である。残存長径1.34m短径0.96m、深さ最大11.1cmを測り、主軸方位はＮ－20°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。なお、本祉に調査時遺構番号は付加されていないが、周囲の類似遺構に全て遺構番号が付加されているので、土坑として取り扱うこととした。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

212号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号なし土坑。211号土坑の南側に位置し、211号土坑と重複して存在する長方形土坑である。長径1.04m短径0.93m、深さ最大43.5cmを測り、主軸方位はＮ－67°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。なお、本祉にも調査時遺構番号は付加されていないが、周囲の類似遺構に全て遺構番号が付加されているので、土坑として取り扱う。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

213号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号70Ａ号土坑。200号土坑の南側に位置し、単独で存在する円形土坑である。長径1.04m短径0.98m、深さ最大10.5cmを測り、主軸方位はＮ－80°－Ｅを示す。底面はほぼ平

坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

214号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号70Ｂ号土坑。213号土坑の東側に位置し、単独で存在する円形土坑である。長径0.94m短径0.90m、深さ最大11.4㎝を測り、主軸方位はＮ－60°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

215号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号68Ａ号土坑。214号土坑の南側に位置し、撹乱に削平されて存在する長方形土坑である。長径1.65m残存短径1.22m、深さ最大53.3㎝を測り、主軸方位はＮ－41°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

216号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号68Ｂ号土坑。215号土坑の東側に位置し、撹乱に削平されて存在する長方形土坑である。長径1.50m残存短径1.05m、深さ最大54.0㎝を測り、主軸方位はＮ－40°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

217号遺構（竪穴住居跡）

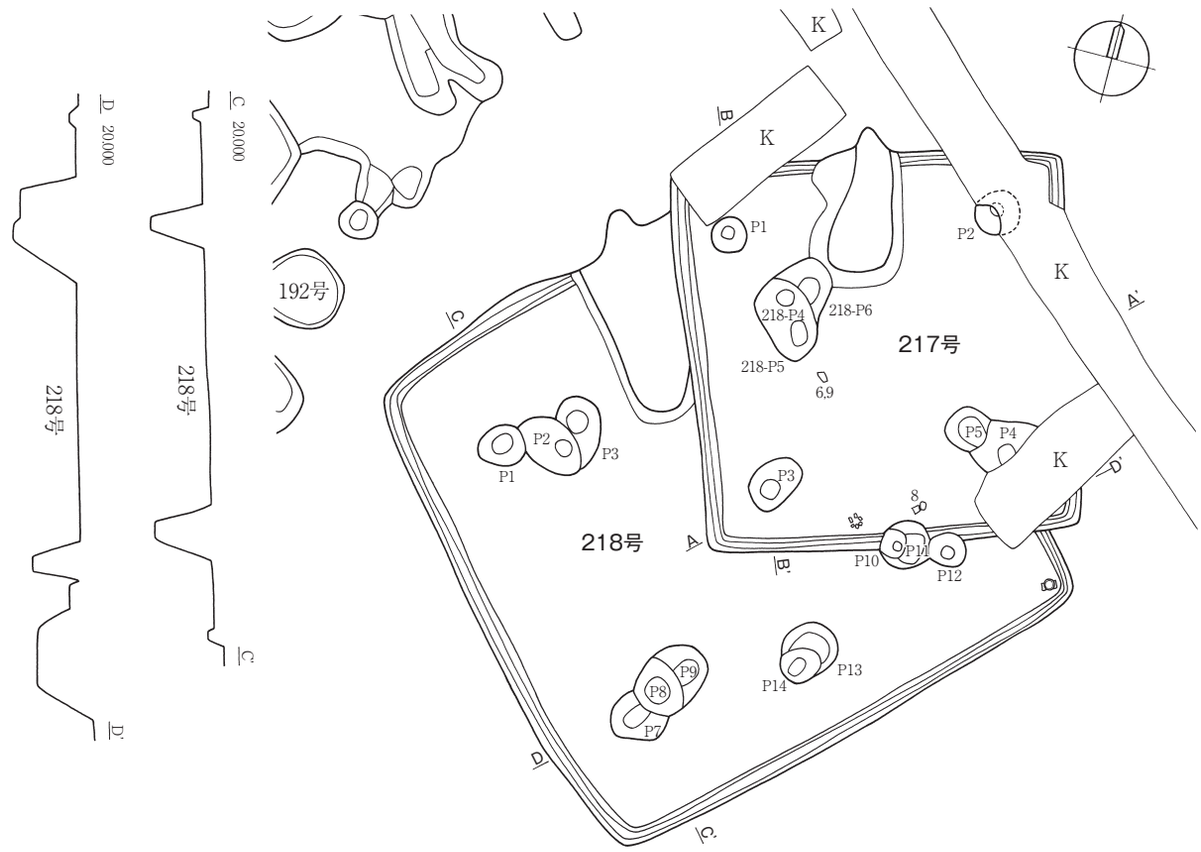
昭和54年度調査時遺構番号64号住居跡。調査区南東部に位置し、218号竪穴を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.20m短径4.17mを測り、主軸方位はＮ－22°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東壁で12㎝、西壁は6.9㎝、南壁1.7㎝、北壁１㎝を測る。撹乱によって削平された以外の周溝は全周し、深さは８㎝前後を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が38.5㎝、Ｐ２は46㎝、Ｐ３は38.7㎝、Ｐ４は46㎝、Ｐ５は14.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは198点2,839ｇの土器片と１点13.0ｇの軽石が検出された。土器片等の内訳は、184点2,099ｇの土師器、14点740ｇの須恵器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。１はカマド粘土に密着して、６・８・９は床面から検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

218号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号65号住居跡。217号竪穴に西側に位置し、217号竪穴に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.82m短径5.76mを測り、主軸方位はＮ－43°－Ｗを示す。カマ



217号遺構

1 褐色土　ロームブロック・ローム粒多量に混入。
2 褐色土　ロームブロック・ローム粒多量に混入。
3 褐色土　ロームブロック大・ローム粒多量に混入。
4 明褐色土　ロームブロック大・ローム粒多量に混入。

0 3m (1 / 80)

217号遺構

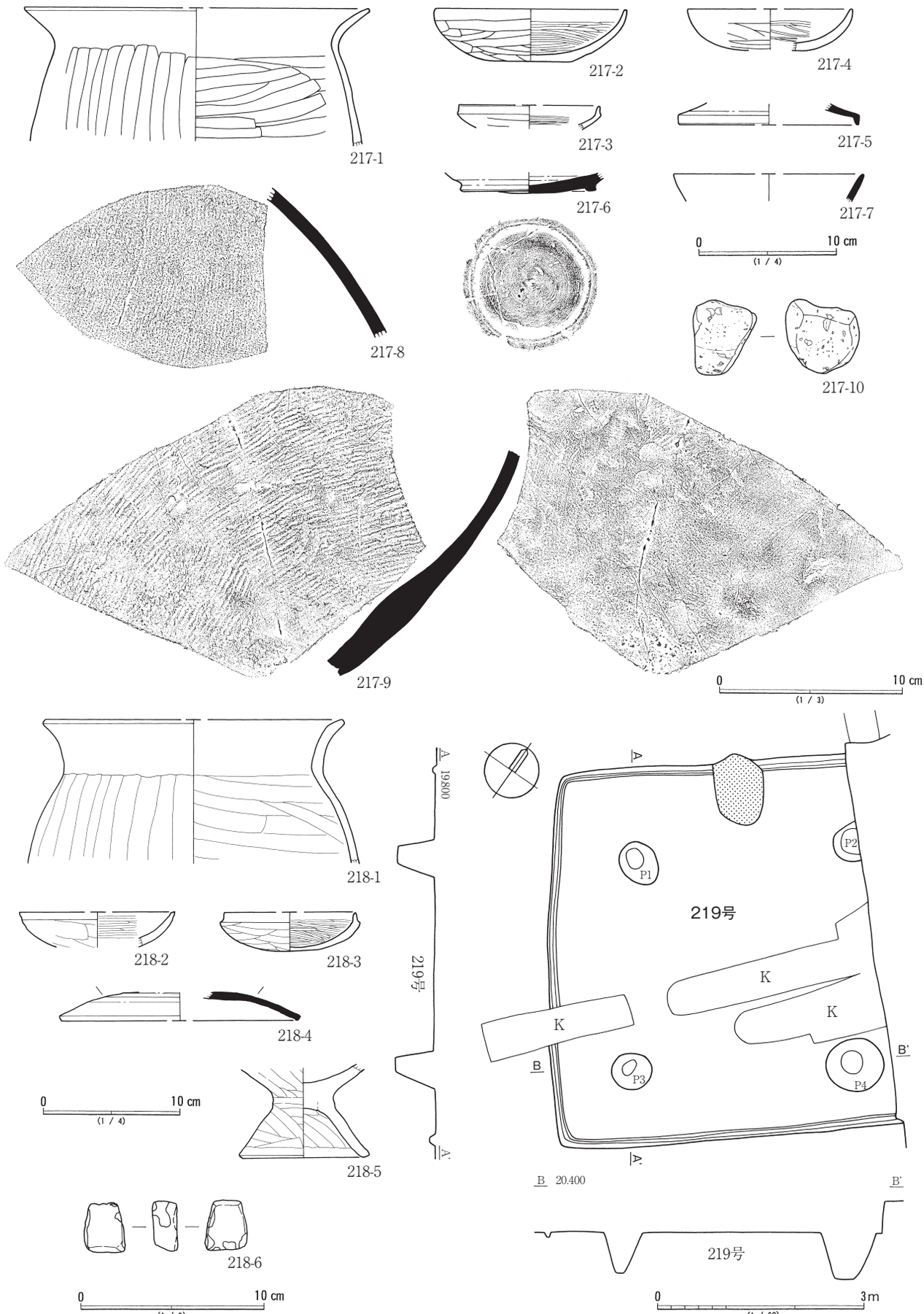
1 暗灰色土　粘土ブロックやや多く含む。
2 暗褐色土　粘土粒やや多く含む。
3 暗褐色土　焼土粒・灰含む。
4 暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
5 暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
6 赤灰色土　粘土粒少量含む。
7 暗褐色土　ローム粒含む。
8 暗赤灰色土　焼土化粘土。
9 暗褐色土　ロームブロック含む。
10 暗灰色土　焼土粒・粘土粒やや多く含む。

218号遺構

1 暗灰色土　粘土粒多量に含む。
2 暗褐色土　粘土粒散る。
3 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
4 暗褐色土　ロームブロック・粘土粒少量混入。
5 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
6 暗赤灰色土　灰含む。
7 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
8 暗褐色土　ロームブロック・粘土粒含む。
9 暗褐色土　ローム粒・粘土粒・焼土粒少量混入。
10 暗褐色土　焼土粒・灰混入。
11 暗褐色土　ロームブロック含む。
12 褐色土　ローム粒混入。
13 暗褐色土　ロームブロック含む。
14 暗褐色土　ロームブロック少量・粘土粒含む。

0 2m (1 / 40)

第112図　217・218号遺構実測図



第113図　219号遺構実測図・217・218号遺構出土遺物実測図

ドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ西壁で1.5㎝、南壁10.5㎝、北壁で9.3㎝を測る。217号竪穴によって削平された以外の周溝は全周するが、深さの測定値はない。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは14ヶ所に検出され、深さはＰ１が57.4㎝、Ｐ２は55.9㎝、Ｐ３は49.1㎝、Ｐ４は40.5㎝、Ｐ５は46.4㎝、Ｐ６が44.7㎝、Ｐ７は59㎝、Ｐ８は65.8㎝、Ｐ９は60.5㎝、Ｐ10は55.3㎝、Ｐ11は52.8㎝、Ｐ12は51.5㎝、Ｐ13は11.0㎝、Ｐ14は21.5㎝を測る。Ｐ１～Ｐ12は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から３度の建て替えが行われた主柱穴と想定される。Ｐ13～Ｐ14は、その位置から建て替えによって掘り返された入口施設に伴うものと想定される。

遺物

本遺構からは135点2,715ｇの土器片と２点31.0ｇの礫、１点13.0ｇの砥石が検出された。土器片等の内訳は、131点2,644ｇの土師器、２点50ｇの須恵器、１点12ｇの弥生土器、１点９ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。１はカマドに密着して検出された土師器甕である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

219号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号67号住居跡。218号竪穴の南東に位置し、調査区南東端に存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.58ｍ残存短径4.75ｍを測り、主軸方位はＮ－36°－Ｗを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ西壁で2.8㎝、南壁7.3㎝、北壁で２㎝を測る。調査区内の周溝は全周するが、深さの測定値はない。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が51.8㎝、Ｐ２は60㎝、Ｐ３は55㎝、Ｐ４は64.7㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

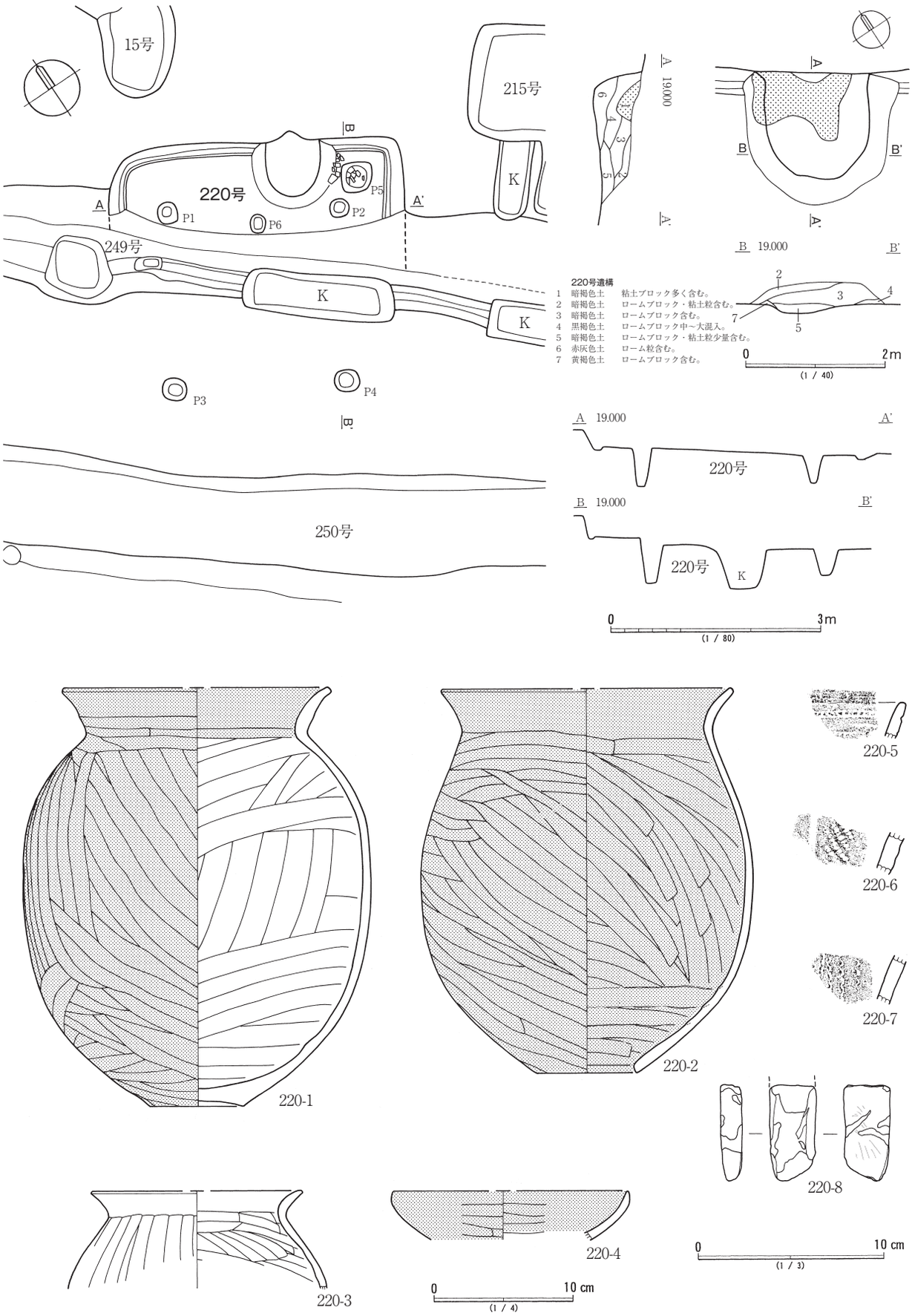
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

220号遺構（竪穴住居跡）

昭和54年度調査時遺構番号68号住居跡。15号遺構（方墳・地下式横穴墓）の南側に位置し、249号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.26ｍ残存短径1.32ｍを測り、主軸方位はＮ－31°－Ｅを示す。カマドは北壁中央やや東側に偏って存在し、残存する壁高は、北で29.6㎝を測る以外測定値はない。検出範囲での周溝は全周し、深さは2.9～7.5㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦で硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはＰ１が53.6㎝、Ｐ２は51.5㎝、Ｐ３は52㎝、Ｐ４は36.8㎝、Ｐ５は67㎝、Ｐ６は9.9㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており、その位置から主柱穴と想定される。Ｐ５は、カマド脇から検出されており、その位置から貯蔵穴と想定される。

遺物

本遺構からは121点6,005.7ｇの土器片と１点21.9ｇの砥石が検出された。土器片等の内訳は、111点5,886.1ｇの土師器、６点70ｇの弥生土器、４点49.6ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。１・５は貯蔵穴内底部から検出された赤彩土師器甕と縄文土器口縁部である。２はカマド粘土に密着して検出された赤彩土師器甑である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げ



第114図　220号遺構実測図・220号遺構出土遺物実測図

られたものであり、出土地点を明示できるものはない。

221号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号６号地下式土壙。220号竪穴の南東側に位置し、詳細平面図が存在しないが、251号溝と重複して存在する側壁抉り込みタイプの土坑であることが調査日誌の略図から読み取れる。開口部は長径1.02m短径0.58mの長方形を呈し、破線で示された袋状の本体底部は、開口部の２倍程度大きく、長径1.40m短径1.15mを測るが、エレベーションや断面図がないため、詳細構造は不明である。開口部に向けてオーバーハングして立ち上ることが図面上で明らかであり、主軸方位はＮ－48°－Ｗを示す。調査日誌によれば、開口部直下から天井部分の広い奥壁に向かって、底面はなだらかに傾斜しており、開口部と同程度の広さの天井部が残存していたことになっているが、玄室部の広さや天井部までの高さ等不明な点が多い。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

222号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号105号土坑。248号溝の南端部に位置し、248号溝と重複して存在する長楕円形土坑である。長径2.35m短径1.33mを測るが、深さの測定値はない。主軸方位はＮ－53°－Ｗを示す。底面形状も不明であるが、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

223号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号104号土坑。222号竪穴の南側に位置し、詳細平面図が存在しないが、記録写真から側壁抉り込みタイプの土坑であると判断される。開口部は長径1.48m短径1.08mの長方形を呈し、破線で示された袋状の本体底部は開口部より一回り大きく、長径1.70m短径1.42mを測る。エレベーションや断面図がないため、詳細構造は不明であるが、記録写真から底面はほぼ平坦で、西側に向かって側壁を抉り込むようにオーバーハングして立ち上っており、主軸方位はＮ－28°－Ｅを示す。本遺構については調査日誌にも何も記載されておらず、玄室部の広さや天井部までの高さ等不明な点が多い。

遺物

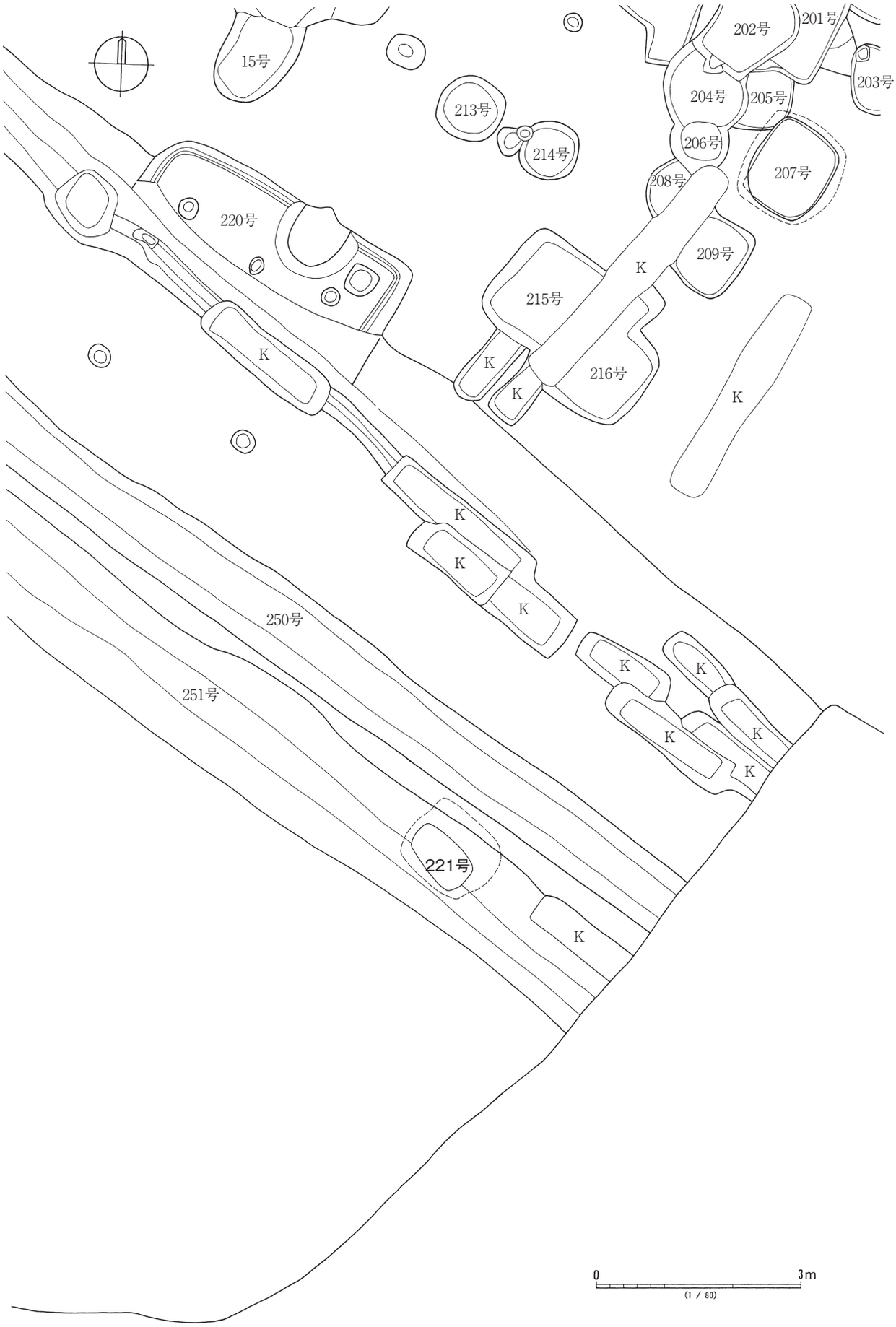
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

224号遺構（土坑）

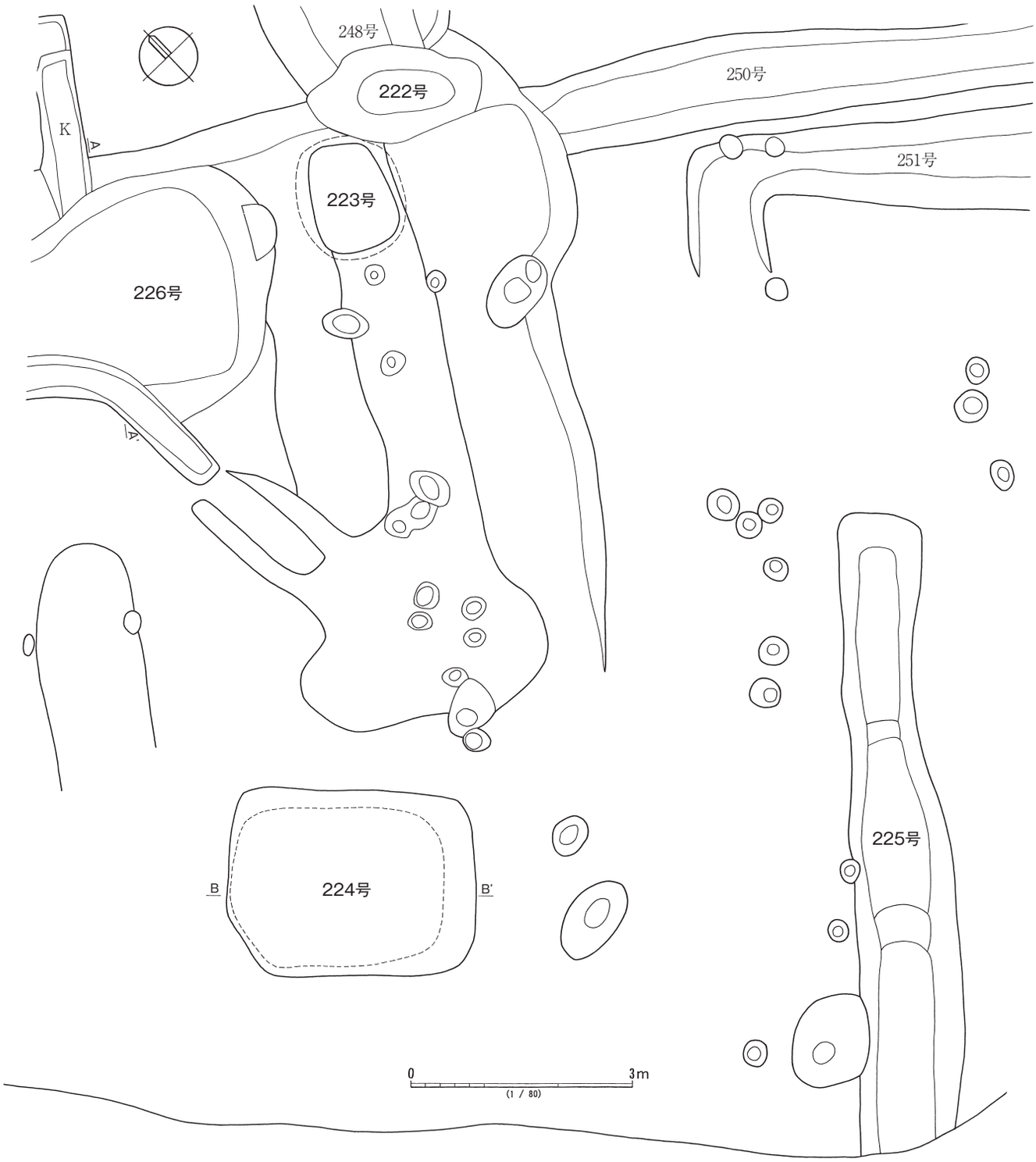
昭和54年度調査時遺構番号114号土坑。223号竪穴の南西側に位置し、詳細平面図が存在しないため200分の１の全体図から図面を起こした。遺構の下端が記録されていないため、断面図より下端を復元し、破線で示した。出土遺物に管玉が検出されているので、土壙墓的な性格の遺構と判断される。長径3.35m短径2.50mの長方形を呈し、深さ最大32㎝を測り、主軸方位はＮ－44°－Ｗを示す。記録写真から底面は凹凸激しく、ピットも多数確認されるが、調査日誌等にも何も記載されておらず、不明な点が多い。

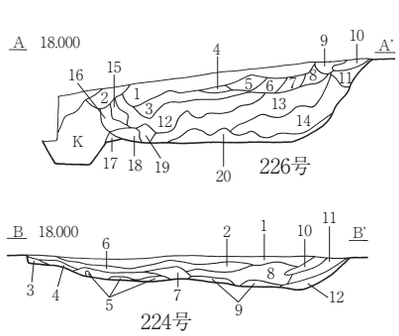
遺物

本遺構からは１点0.6ｇの管玉が検出されているが、出土位置を正確に示すものはない。記録写真



第115図　221号遺構実測図



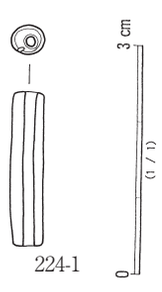


226号遺構

1	褐色土	ローム粒霜降り状に散る。
2	褐色土	ローム粒小混入。
3	褐色土	ローム粒小～中混入。
4	褐色土	ローム粒小～中混入。
5	褐色土	ローム粒霜降り状に散る。
6	褐色土	ローム粒小混入。
7	褐色土	ローム粒小～中混入。
8	褐色土	ローム粒中～大混入。
9	褐色土	ローム粒小～中混入。
10	明褐色土	ローム粒小多量に混入。
11	明褐色土	ローム粒小～中多量に混入。
12	褐色土	ローム粒含む。
13	褐色土	ローム粒含む。軟弱。
14	褐色土	ローム粒含む。軟弱。
15	褐色土	ローム粒中～大混入。
16	褐色土	ローム粒大混入。軟弱。
17	褐色土	ローム粒含む。
18	褐色土	ローム粒小混入。
19	褐色土	ローム粒含む。軟弱。
20	明褐色土	ソフトローム混入。

224号遺構

1	褐色土	ローム粒霜降り状に散る。
2	褐色土	ローム粒霜降り状に散る。
3	褐色土	ローム粒混入。
4	明褐色土	ソフトローム混入。
5	明褐色土	ソフトローム混入。
6	褐色土	ローム粒小混入。
7	褐色土	ローム粒小～中混入。軟弱。
8	褐色土	ローム粒霜降り状に散る。
9	褐色土	ローム粒小混入。
10	褐色土	ローム粒小～中混入。
11	褐色土	ローム粒小霜降り状に散る。
12	褐色土	ソフトローム混入。



第116図　222～226号遺構実測図・224号遺構出土遺物実測図

の１ヶ所に土柱が写し出されており、この位置から出土した可能性が高い。

225号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。調査区南端から北東方向に走る溝である。224号土坑を挟んでほぼ同位置で途切れる溝状の落ち込みが西側に存在することから、224号土坑を主体部とする方形周溝墓の溝である可能性がある。残存長8.8m幅0.9～1.4m、深さ9.5～29.0㎝を測り、主軸方位はＮ－42°－Ｅを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

226号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号溝106号溝。調査区南端部を東西方向に走る溝であり、230号土坑を削平し、231・232号溝に削平されて存在する。西側端部は不明ながら、東側端部は223号土坑の手前で半円形を呈して閉じる。残存長25.8m幅1.56～4.9m、深さ14.3～80.0㎝を測り、主軸方位はＮ－56°－Ｗを示す。土層断面から、断面形状は逆台形を呈する。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

227号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号92号土坑。調査区南西端部に位置し、単独で存在する長楕円形土坑である。残存長径2.66m短径1.30m、深さ最大48.6㎝を測り、主軸方位はＮ－60°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

228号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号91号土坑。調査区南西端部に位置し、単独で存在する不整形土坑である。長径1.34m短径1.06m、深さ最大56.7㎝を測り、主軸方位はＮ－44°－Ｗを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

229号遺構（土坑）

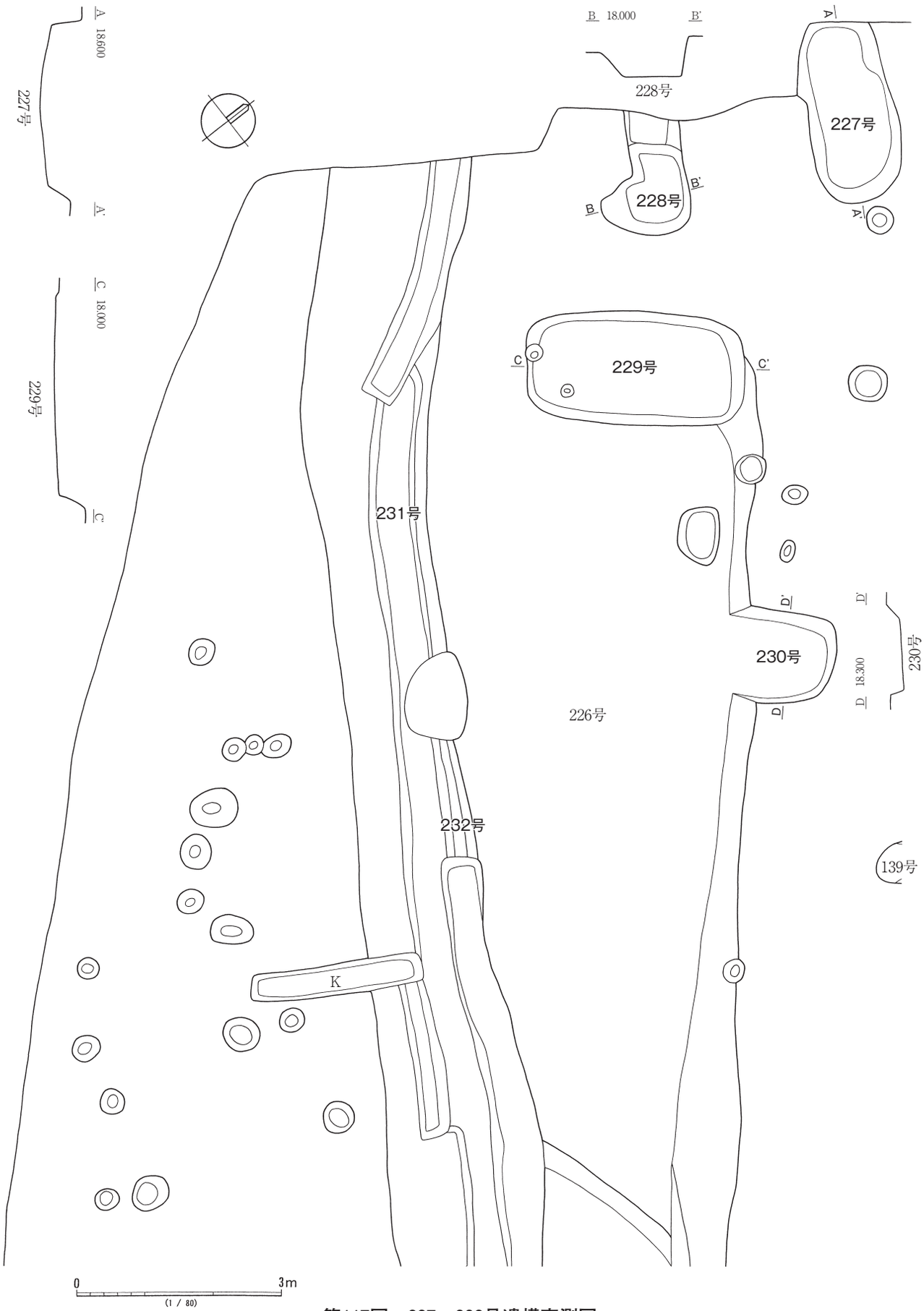
昭和54年度調査時遺構番号90号土坑。228号土坑の東側に位置し、226号溝に削平されて存在する長方形土坑である。長径3.20m短径1.67m、深さ最大37.9㎝を測り、主軸方位はＮ－40°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

230号遺構（土坑）

昭和54年度調査時遺構番号118号土坑。229号土坑の東側に位置し、226号溝に削平されて存在する長方形土坑である。残存長径1.55m短径1.34m、深さ最大28.7㎝を測り、主軸方位はＮ－41°－Ｅを示す。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。



第117図　227～232号遺構実測図

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

231号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号溝なし。226号溝の南側を並走して東西方向に走る溝であり、226号溝に削平されて存在する。東側端部は僅かに226号溝より南側に折れて終息する。残存長24.6m幅0.3～0.7m、深さ13.5～73.9㎝を測り、主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。土層断面から、断面形状は逆台形を呈する。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

232号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。231号溝内に存在する溝であり、あるいは231号溝の一部の可能性が高い溝である。残存長1.8m幅0.32～0.46m、深さ最大35.2㎝を測り、主軸方位はＮ－60°－Ｗを示し、断面形状は逆台形を呈する。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

233号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号４号溝。調査区北西端部を走る溝であり、２号方形周溝墓・20・31・33号竪穴を削平し、また台遺跡Ｂ地点001号竪穴を削平して存在する溝である。残存長51.5m幅2.50～4.42m、深さ最大19.0㎝を測り、主軸方位はＮ－27°－Ｅを示す。なお、この溝は既に報告書が刊行されている台遺跡Ｂ地点においては、７号溝として調査されており、Ｂ・Ｃ地点の領域にまたがって存在しているが、Ｂ地点での詳細な報告はない。

遺物

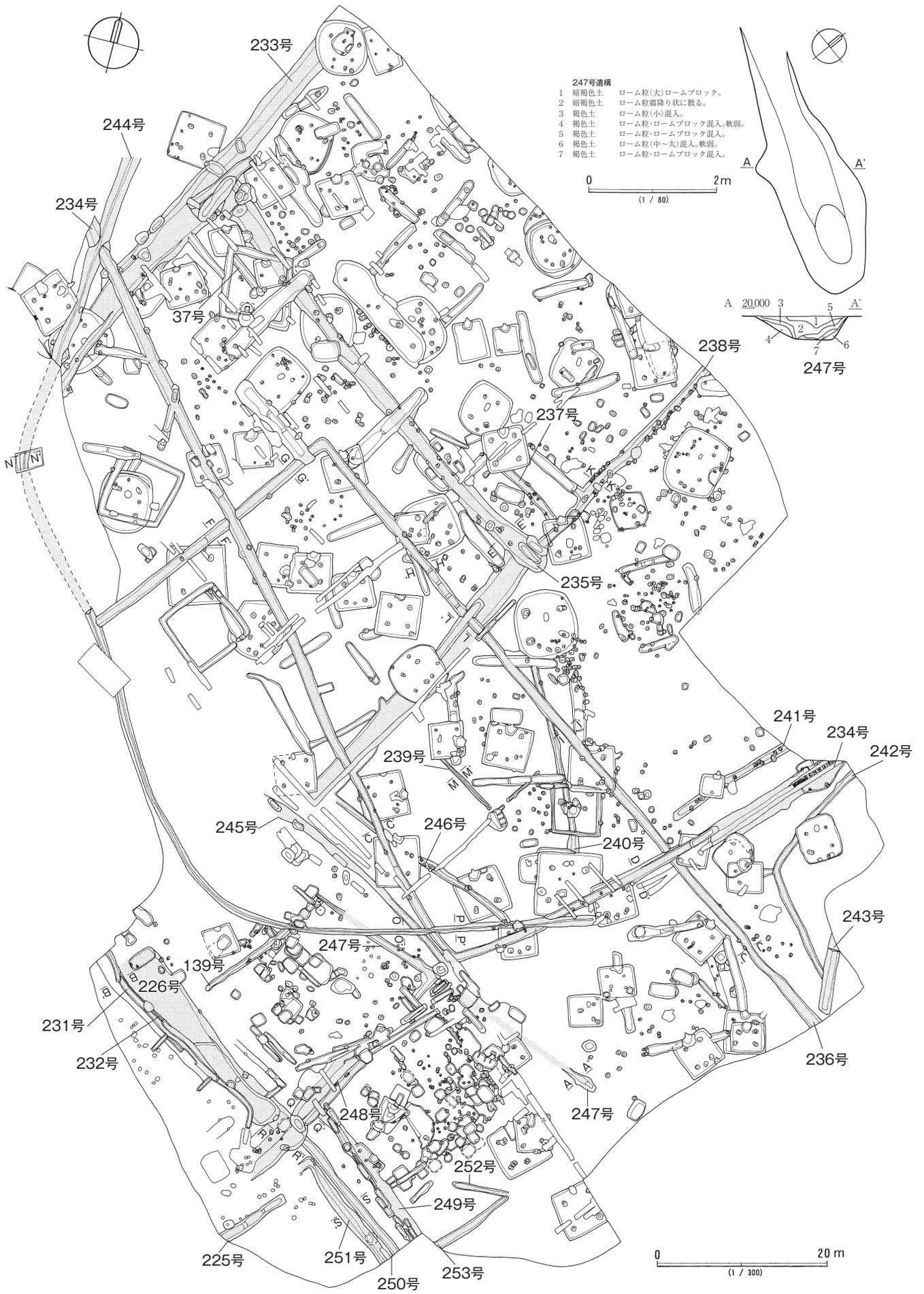
本遺構からは１点45ｇの土玉が検出されたが、出土位置を正確に示すものはない。

234号遺構（溝）

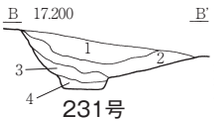
昭和54年度調査時遺構番号２・８号溝。調査区内を東西南北方向に90度折れて走る溝であり、重複するすべての遺構を削平して存在する。南北方向に走る溝は調査時段階に２号溝として調査され、長さ97.5m幅0.66～1.72m、深さ最大49.5㎝を測り、主軸方位はＮ－41°－Ｗを示す。東西方向に走る溝は調査時段階に８号溝として調査され、長さ50.8m幅0.88～2.68m、深さ最大55.0㎝を測り、主軸方位はＮ－48°－Ｅを示す。調査区域内での両者の全長約148mを測り、90度にクランクすることから、何らかの区画溝と捉えられるが、調査区内からは区画の意義に相当するような建物跡等は検出されなかった。なおこの溝は、既に報告書が刊行されている台遺跡Ｂ地点において、２号溝として調査されている（半田2003）。Ｃ地点同様、90度クランクして北側に向かうとすれば、Ｂ地点13号方形周溝墓と重複する西側の３号溝が規模的に類似しているが、Ｂ地点での詳細な報告はない。

遺物

本遺構からは505点7,434ｇの土器片と12点1,205ｇの礫、１点314ｇの磨石、１点0.1ｇの臼玉、１点90ｇの支脚片、１点8.2ｇの鉄釘が検出された。土器片等の内訳は、336点4,325ｇの土師器、19点309ｇの須恵器、63点961ｇ弥生土器、86点1,770ｇの縄文土器、１点69ｇの中近世土器である。これ

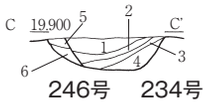


第118図　台遺跡Ｃ地点溝実測図



231号

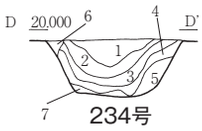
231号遺構
1 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
2 暗褐色土 少量のローム粒・ロームブロック含む。締まり欠く。
3 褐色土 ローム粒・ロームブロック多量に含む。締まり欠く。
4 褐色土 ローム粒・ロームブロックのみ。締まり欠く。



246号 234号

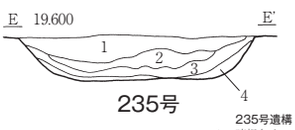
234号遺構
1 黒褐色土 有機質土。ローム等ほとんど含まない。
2 暗褐色土 有機質性強。若干のローム粒含む。
3 暗褐色土 ローム粒2層より多い。
4 褐色土 ローム粒多量に含む。

246号遺構
5 褐色土 ローム粒・ロームブロック量に含む。
6 暗褐色土 ロームブロック(小)多量に混入。



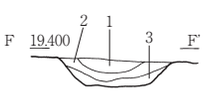
234号

234号遺構
1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。やや締まり欠く。
3 褐色土 ローム粒多量に含む。
4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量混入。
5 褐色土 ローム粒・ロームブロック多量に含む。
6 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。
7 褐色土 ローム粒・ロームブロック多量に含む。



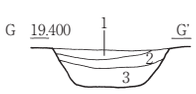
235号

235号遺構
1 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
2 暗褐色土 ローム粒若干含む。
3 暗褐色土 有機質土にやや大粒のロームブロック含む。
4 暗褐色土 ローム粒少量含む。硬く締まる。



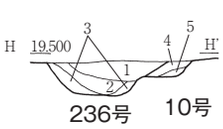
236号

236号遺構
1 暗褐色土 ローム粒若干含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。



236号

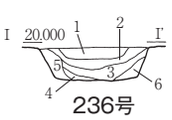
236号遺構
1 暗褐色土 ローム粒若干含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。



236号 10号

236号遺構
1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2 褐色土 ローム粒やや多く含む。
3 褐色土 ローム粒・ロームブロック含む。

10号遺構
4 暗褐色土 ローム粒若干含む。
5 暗褐色土 ローム粒多量に含む。

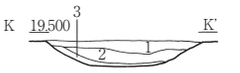


236号

236号遺構
1 暗褐色土 ローム粒若干含む。
2 褐色土 ローム粒多量に含む。
3 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
4 褐色土 ローム粒・ロームブロック含む。
5 暗褐色土 ローム粒含む。
6 明褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に含む。

236号

236号遺構
1 暗褐色土 ローム粒若干含む。
2 褐色土 ローム粒・ロームブロック若干含む。
3 褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
4 明褐色土 ローム粒多量に含む。
5 褐色土 ローム粒含む。

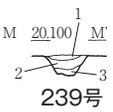


238号

238号遺構
1 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 褐色土 ローム粒多量に含む。

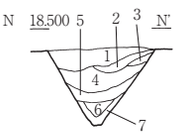
238号

238号遺構
1 黒褐色土 ローム粒少量混入。
2 暗褐色土 ローム粒多量に混入。
3 暗褐色土 ローム粒疎らに含む。
4 褐色土 ローム粒・ロームブロック多量に含む。



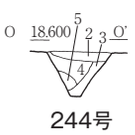
239号

239号遺構
1 褐色土 ローム粒やや多く混入。
2 褐色土 ローム粒霜降り状に多く含む。
3 褐色土 ローム粒多量に含む。

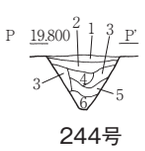


244号

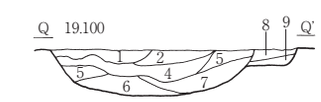
244号遺構
1 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
2 暗褐色土 ローム粒若干含む。
3 褐色土 ローム粒多量に含む。
4 褐色土 ローム粒多量に含む。
5 暗褐色土 ローム粒少量含む。
6 褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多く含む。
7 褐色土 ローム粒多量に含む。



244号

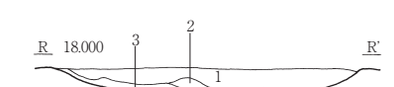


244号



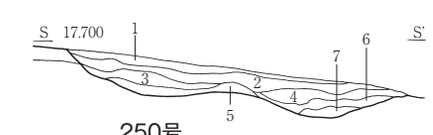
248号

248号遺構
1 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
2 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。ややローム量多い。
3 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。
4 暗褐色土 ローム粒少量含む。締まり弱い。
5 褐色土 ローム粒含む。
6 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
7 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。
8 暗褐色土 ローム粒含む。
9 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック含む。



248号

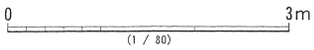
248号遺構
1 暗褐色土 ローム粒霜降り状に含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。



250号 251号

250号遺構
1 褐色土 ローム粒含む。
2 褐色土 ロームブロック・ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒少量含む。
4 暗褐色土 3層と似る。3層より有機質性強。
5 暗褐色土 ローム粒少量含む。
6 褐色土 ロームブロック・ローム粒少量含む。
7 褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に含む。

251号遺構
1 褐色土 ローム粒含む。
2 褐色土 ロームブロック・ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒少量含む。
4 褐色土 3層と似る。3層より有機質性強。
5 暗褐色土 ローム粒少量含む。
6 褐色土 ロームブロック・ローム粒少量含む。
7 褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に含む。



第119図　10・231・234～236・238・239・244・248・250・251号遺構実測図

らの出土遺物の内64点を図示した。１～６は古墳時代終末期の土師器・須恵器である。７～９は弥生土器底部である。10は中世擂鉢片、11は須恵器甕片であり内面に明瞭な青海波が残る。12～24は弥生土器片である。25～28は縄文早期条痕文系土器、29～31は前期繊維土器で関山・黒浜系土器である。32～38は諸磯・浮島系土器、39～42は五領ヶ台式土器、43は勝坂式土器、44～50は阿玉台式土器、51～55は加曽利Ｅ式土器、56～59は時期不明縄文土器である。60・61は晩期大洞系の土器群である。この他62が砥石、63は臼玉である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

235号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号１号溝。調査区北側を東西方向に走る溝であり、238号溝と重複して存在する。長さ58.2m幅2.16～3.0m、深さ最大49.0㎝を測り、主軸方位はＮ－55°－Ｗを示す。

遺物

本遺構からは22点570ｇの土器片が検出された。土器片等の内訳は、２点47ｇの土師器、２点134ｇの須恵器、14点309ｇ弥生土器、４点80ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。１～５は古墳時代終末期から奈良時代にかけての土師器・須恵器である。６から８は弥生土器底部、９～16は弥生土器片、17・18は縄文土器片である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

236号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号３・５号溝。調査区の西から東側に向かって伸び、90度にクランクして南側へと走る溝である。調査時段階では西側を３号溝、90度にクランクして南側に走る溝を５号溝として調査していたが、明らかな同一遺構であり、遺構番号をまとめた。旧３号溝部分は、長さ34.5m幅1.14～1.80m、深さ最大56.5㎝を測り、主軸方位はＮ－37°－Ｅを示す。旧５号溝部分は、長さ88.9m幅0.82～1.34m、深さ最大36.5㎝を測り、主軸方位はＮ－56°－Ｗを示す。90度にクランクすることから234号溝同様何らかの区画溝と想定されるが、調査区内からは区画の意義に相当するような建物跡等は検出されなかった。

遺物

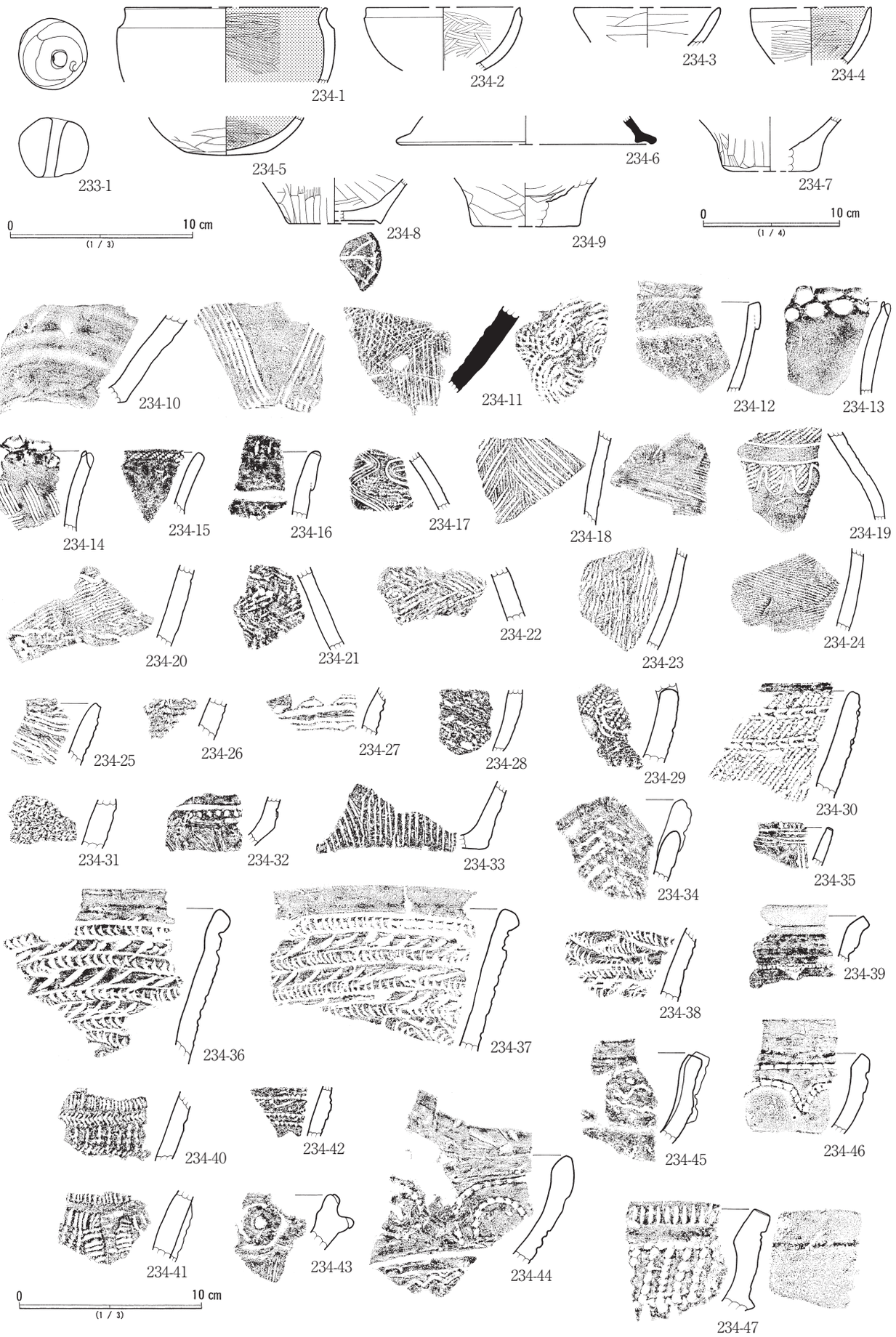
本遺構からは482点7,232ｇの土器片と16点591ｇの礫・石器、１点30ｇの土器片錘、１点13ｇの剥片が検出された。土器片等の内訳は、338点4,966ｇの土師器、16点235ｇの須恵器、86点1,163ｇ弥生土器、42点868ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内56点を図示した。１～13は古墳時代の土師器・須恵器である。14～16は弥生土器底部、17～30は弥生土器片である。31～37は前期繊維土器、38～43は阿玉台式土器である。44・45は加曽利Ｅ式土器、46・47は堀之内式土器、48は加曽利Ｂ式土器、49～52は時期不明縄文土器である。53は磨石、54は砥石、55は無紋の土器片錘、56は軽石である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

237号遺構（溝）

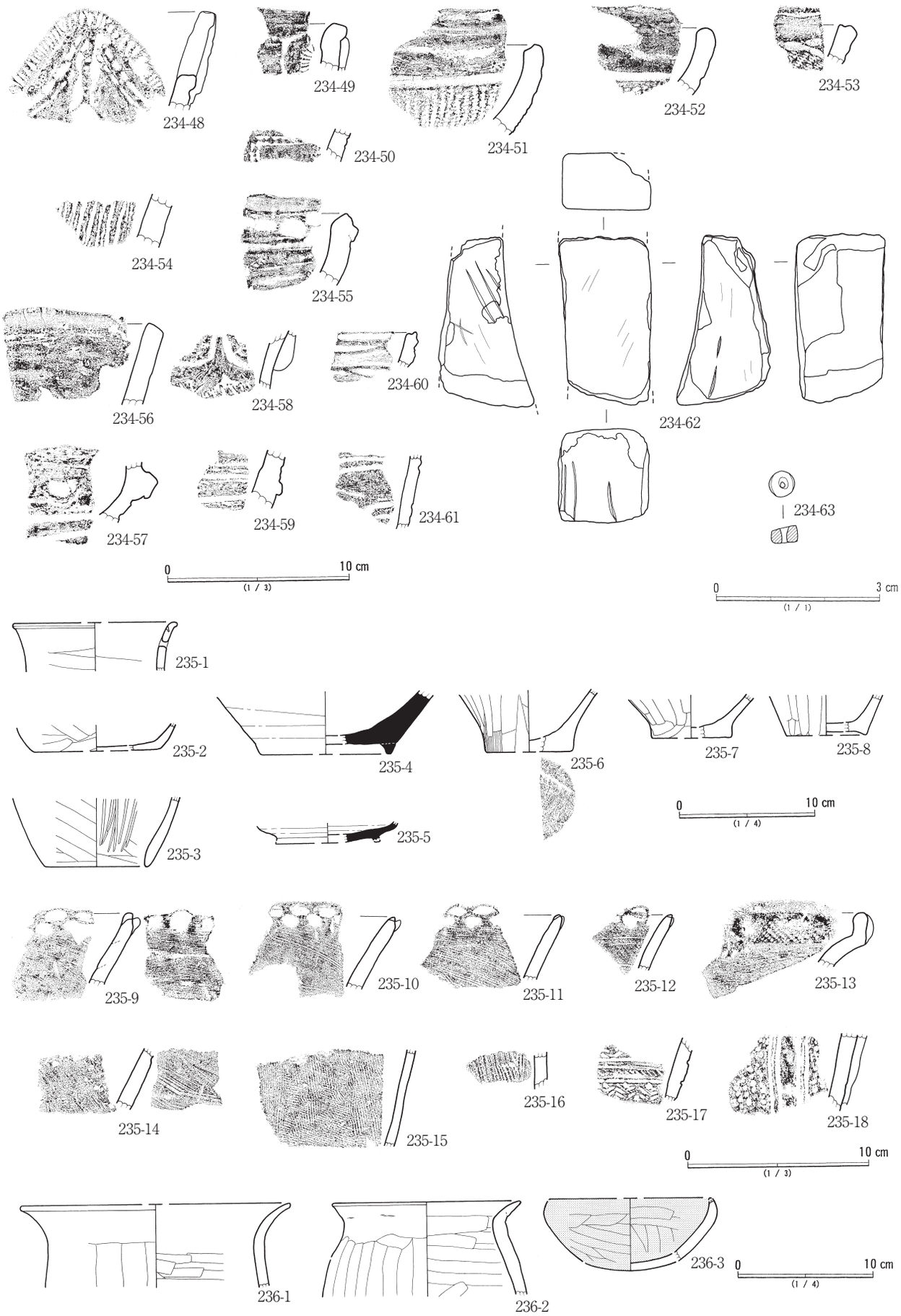
昭和54年度調査時遺構番号なし。９号方形周溝墓方台部内に存在する溝状の遺構である。長さ8.5m幅0.84～1.08m、深さ最大11.0㎝を測り、主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。

遺物

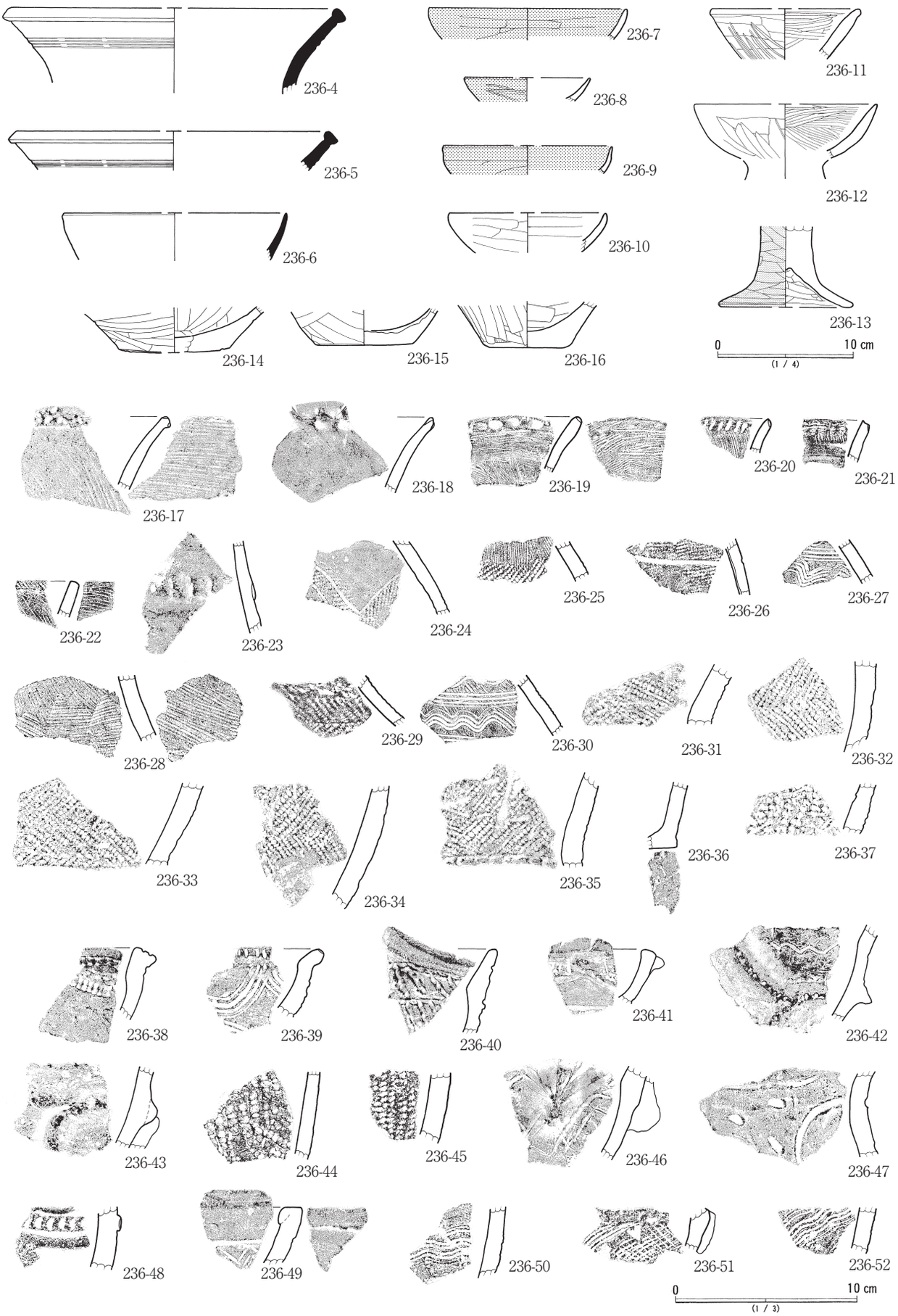
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。



第120図　233・234号遺構出土遺物実測図



第121図　234～236号遺構出土遺物実測図



第122図　236号遺構出土遺物実測図

238号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号６号溝。調査区中央部に存在し、235号溝と交差する地点で幅を変え、233号溝と平行に走る溝である。長さ65.3m、狭い方の幅は0.9～1.67m、広い方は1.78～3.50m、深さ最大48.5㎝を測り、主軸方位はＮ－29°－Ｅを示す。

遺物

本遺構からは17点328ｇの土器片と５点308ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、11点139ｇの土師器、１点４ｇの須恵器、４点125ｇ弥生土器、１点60ｇの近世陶器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。１・２は弥生土器底部、３・４は弥生土器片である。５は片面中央部に敲痕の残る磨石であり、６から８はかなり摩耗した砥石片である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

239号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号13号溝。101号竪穴の南に位置する溝である。長さ8.4m幅0.31～0.48m、深さ最大23.0㎝を測り、主軸方位はＮ－58°－Ｗを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

240号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。13号方形周溝墓の方台部内から111号竪穴まで走る溝であり、111号竪穴のカマドを削平し236号溝に削平されることから、13号方形周溝墓・111号竪穴より新しいが、19号改葬系区画墓との新旧関係は不明である。長さ22.5m幅0.6～1.25m、深さ最大39.5㎝を測り、主軸方位はＮ－29°－Ｗを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

241号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号７号溝。調査区南側の東から西側に走る溝であり、106号竪穴を削平する。長さ15.8m幅0.99～1.20m、深さ最大23.5㎝を測り、主軸方位はＮ－43°－Ｅを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

242号遺構（溝）

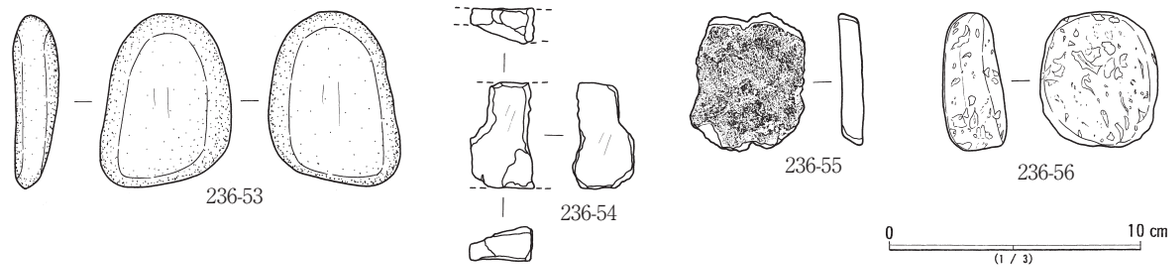
昭和54年度調査時遺構番号９号溝。調査区南側の東から南側に走る溝であり、243号溝に接して消滅する。長さ29.0m幅0.51～0.93m、深さ最大20.5㎝を測り、243号溝に接する位置の主軸方位はＮ－39°－Ｗを示す。

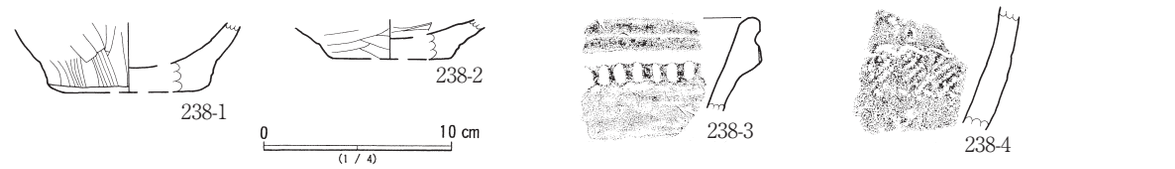
遺物

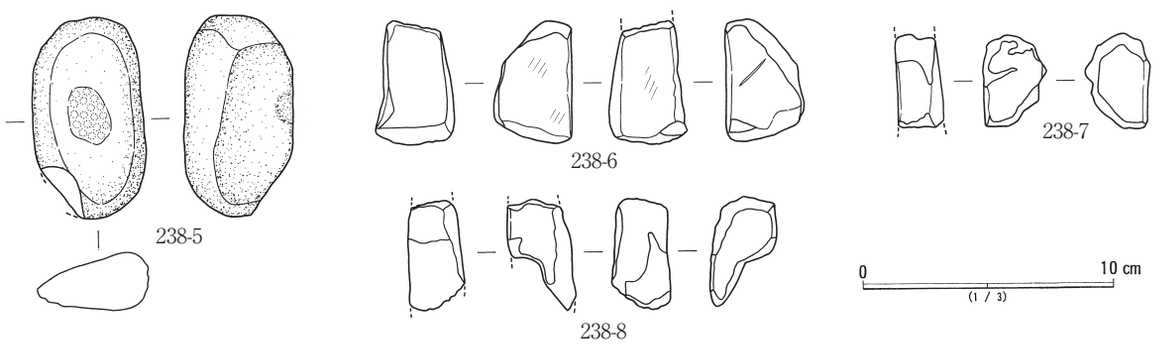
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

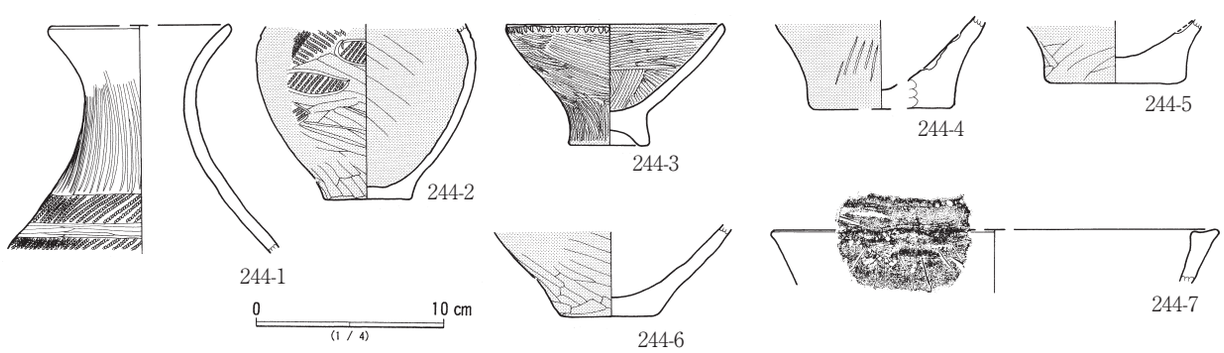
243号遺構（溝）

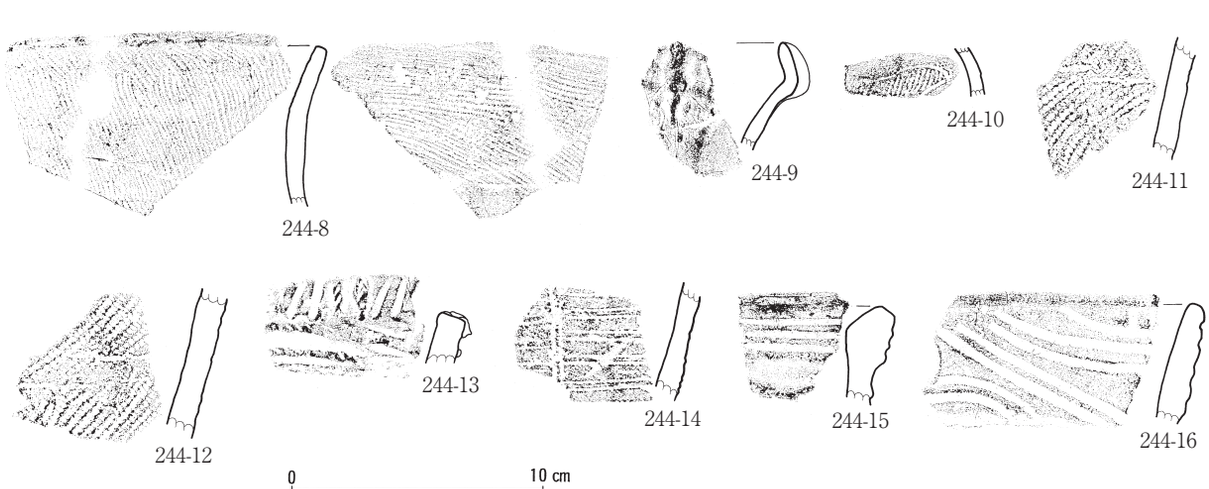
昭和54年度調査時遺構番号なし。調査区南東端部に存在し、南から北側に走る溝である。検出面での長さ9.6m幅1.43～1.57ｍを測るが、深さの測定値はない。平面図から断面逆台形の溝であろうと判断されるが、記録写真もなく詳細不明である。主軸方位はＮ－45°－Ｗを示す。











第123図　236・238・244号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

244号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。ただし平面図や記録写真にはＶ字溝と記載されており、記録写真から判断して弥生環濠と判断される。この環濠は台遺跡Ｂ・Ａ地点まで伸びることが浅利幸一によって指摘されており（浅利2002）、長軸長185m短軸長125mの復元案が示されている。今回の調査区内では、長さ121.3m幅0.5～1.58m、深さ最大86.5㎝を測り検出されている。

遺物

本遺構からは70点2,402.1ｇの土器片と１点４ｇの礫が検出された。土器片等の内訳は、29点466ｇの土師器、33点1,663.1ｇ弥生土器、８点273ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。１～６、８～10は弥生土器、７は無紋で時期不明縄文深鉢土器片、11・12は前期関山式土器、13・14は諸磯系土器、15・16は阿玉台式土器である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

245号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。100号竪穴の南に位置し、100号竪穴・163号土坑・244号溝と重複する溝である。検出面での長さ28.7m幅0.76～1.50mを測るが、深さの記録はない。主軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。平面図上からは重複している全ての遺構に削平されたかのようであるが、そんなに古い溝とは思えない。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

246号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号10号溝。100号竪穴のカマドを削平して存在する溝である。検出面での長さ25.5m幅0.60～0.91m、深さ最大38.0㎝を測り、主軸方位はＮ－70°－Ｗを示す。なお100号竪穴床面に本祉の痕跡が見当たらないが、調査日誌によれば、溝底面と100号竪穴床面が同一レベルとされる。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

247号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。西は140号土坑東側から始まり、163号土坑付近で南側に南下する溝と、東側に伸びようとする溝に分離し、東側は直後に途中消滅し、辛うじて先端部分が172号竪穴東側に残存する溝である。検出面での長さ40.0m幅0.37～1.30m、深さ最大51.5㎝を測り、主軸方位はＮ－69°－Ｗを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

248号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。北は169号土坑南側から始まり、南は222号土坑の先で消滅する溝である。検出面での長さ19.5m幅2.24～3.26m、深さは土層断面が残存する箇所で最大48.0㎝を測り、

主軸方位はＮ－29°－Ｅを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

249号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。西は248号溝から始まり、東は220号竪穴の東側で消滅する溝である。検出面での長さ18.4m幅0.56～1.70m、深さ最大9.9㎝を測り、主軸方位はＮ－48°－Ｗを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

250号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。西は226号溝の東側から始まり、東は南側調査区域より更に存在すると想定される溝である。検出面での長さ17.26m幅0.90～1.47m、深さ最大9.1㎝を測り、主軸方位はＮ－54°－Ｗを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

251号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。250号溝と平行に走り、途中西側に折れた所で消滅する溝である。検出面での長さ15.0m幅0.90～1.60m、深さ最大18.0㎝を測り、主軸方位はＮ－51°－Ｗを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

252号遺構（溝）

昭和54年度調査時遺構番号なし。218号竪穴の南西に端を発し、253号溝と接する所で消滅する溝である。検出面での長さ6.60m幅0.50～0.72m、深さ最大9.1㎝を測り、主軸方位はＮ－86°－Ｅを示す。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

253号遺構（溝）

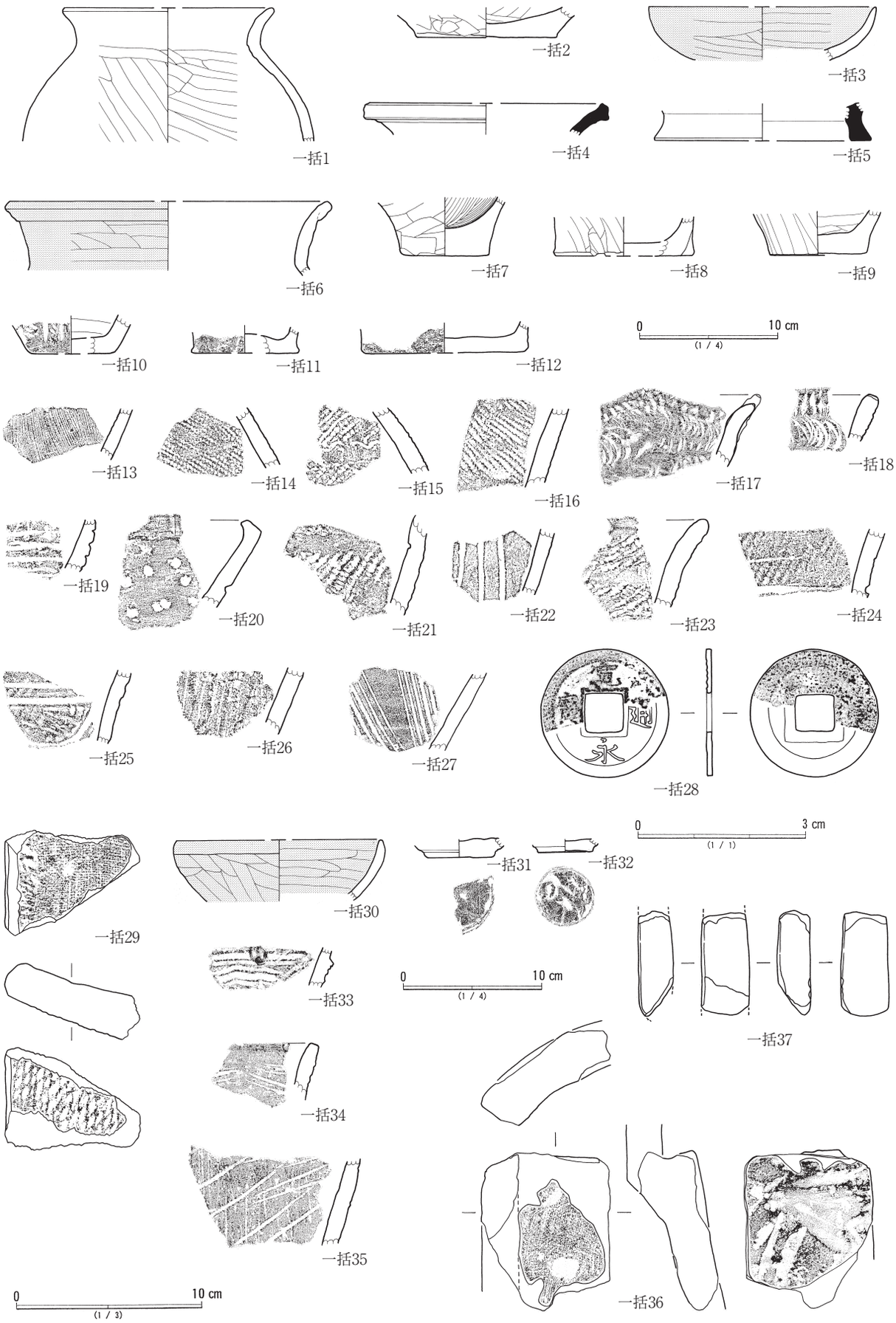
昭和54年度調査時遺構番号なし。調査区南端に端を発し252号溝と接する所で消滅する溝である。検出面での長さ10.3m幅0.59～1.03m、深さ最大28㎝を測り、主軸方位はＮ－40°－Ｅを示す。

遺物

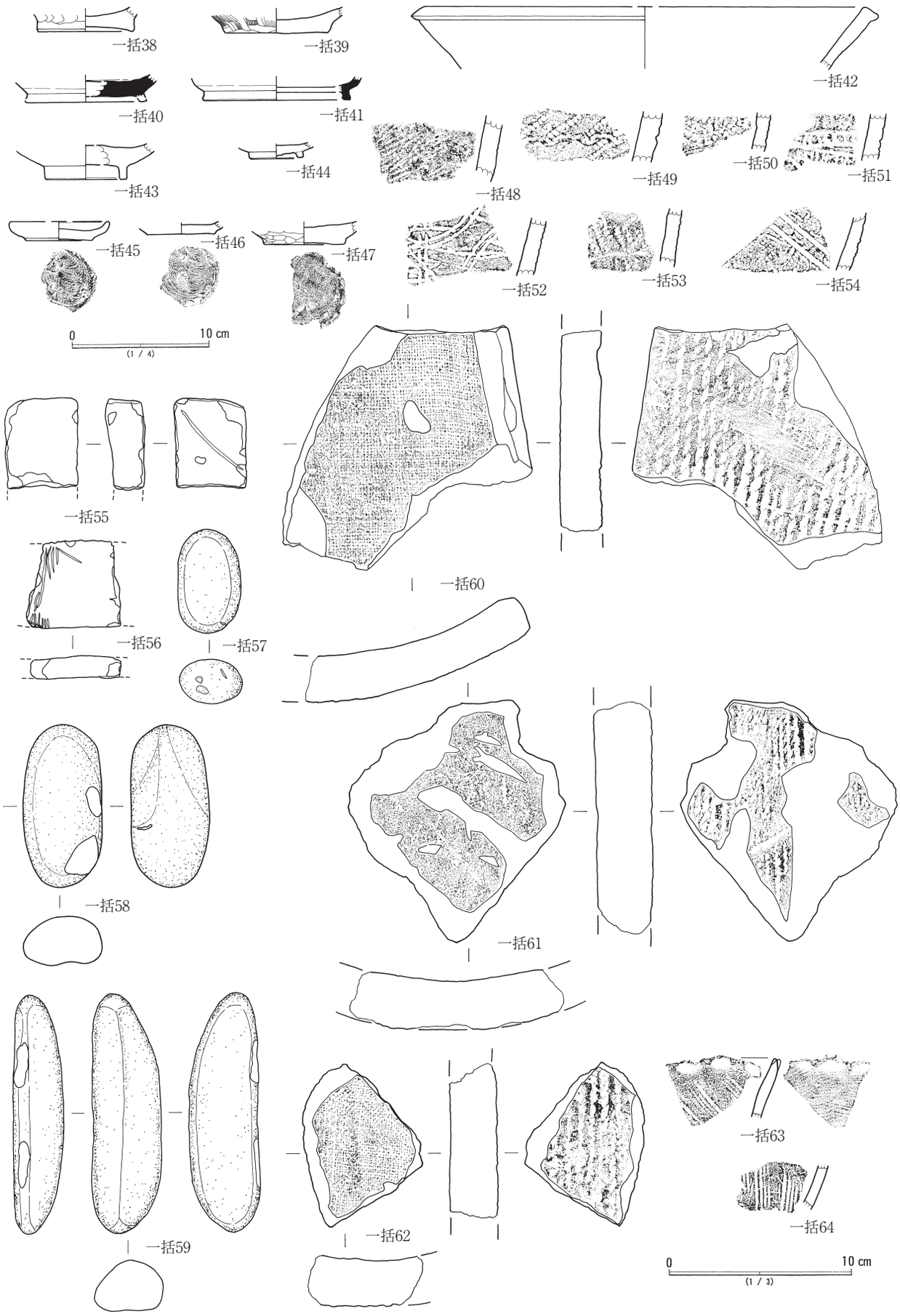
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

遺跡一括出土遺物

最後に遺跡一括出土遺物について触れておきたい。これらの遺物は、円形土坑群・西墓祉群・墓祉群・南墓祉群・表採と言うように、それぞれ注記されて整理箱に分離されていた。しかし、肝心の円形土坑群・西墓祉群・墓祉群・南墓祉群と命名された遺物は、具体的にはどの辺りの遺構群を指しているのか詳細不明のため、報告に際し、全て遺跡一括扱いとした。ただし、遺物出土量については命名地点ごとに集計した後、全体を総合した。その結果、遺跡一括遺物は、総数4,203点75,693.6ｇの土器片と、155点12,819.3ｇの礫・石器、１点16.3ｇの有孔円盤、１点1.1ｇの管玉、２点4.4ｇの寛永通宝、１点2.3ｇの文久永宝、１点2.0ｇの皇宋通宝、１点36ｇの土器片錘、２点18.9ｇの管状土錘、３点695



第124図　台遺跡遺構外出土遺物実測図 1



第125図　台遺跡遺構外出土遺物実測図２

ｇの支脚片、22点2,672ｇの布目瓦、４点11.8ｇの剥片石器が検出された。土器片等の内訳は、2,630点42,335ｇの土師器、191点5,588ｇの須恵器、868点16,449ｇの弥生土器、７点130ｇの縄文前期繊維土器、450点11,084.6ｇの縄文土器、60点2,149.5ｇの中近世土器である。また、石器は22点5,298ｇの磨石、２点340ｇの石皿、１点105ｇの分銅型石斧、１点2.2ｇの尖頭器、10点23.1ｇの石鏃、５点19ｇの軽石である。これらの遺物の内242点を図示した。

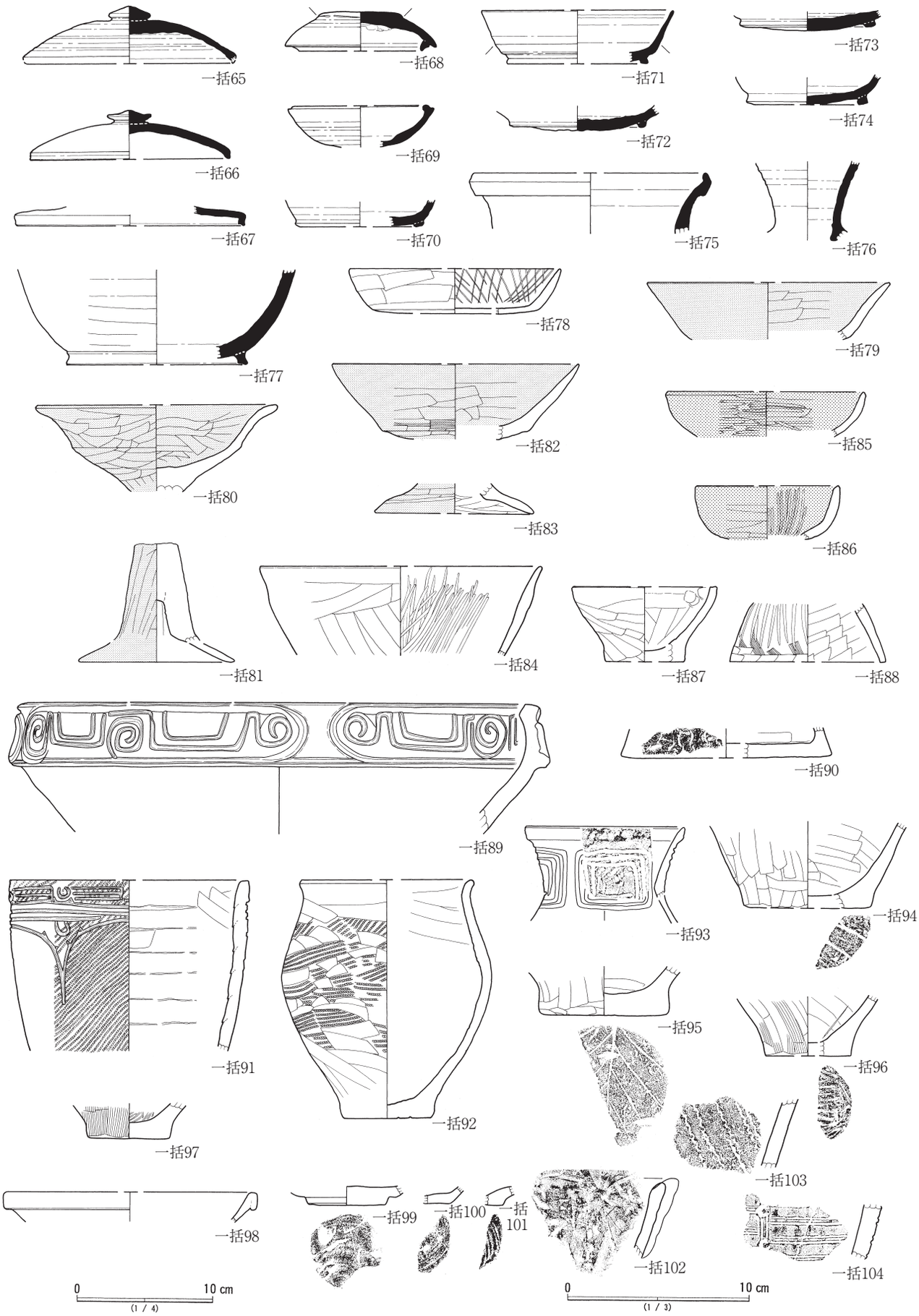
１～29は、南墓祉群として取り上げられた一括遺物である。１～６は古墳時代後期から奈良時代にかけての土師器・須恵器であり、５は須恵器短頸壺類の高台部である。７～９は弥生土器底部、10～12は縄文土器底部である。13～16は弥生土器片、17～19は諸磯・浮島系の土器群である。20は阿玉台式、21・22は加曽利Ｅ式、23は堀之内式、24～26は加曽利Ｂ式土器である。27は中世擂鉢片、28は1/2を欠損する寛永通宝、29は布目瓦片である。

30～36は、墓祉群として取り上げられた一括遺物である。30は土師器坏、31・32はカワラケ、33は前期黒浜式土器、34・35は加曽利Ｂ式土器、36は布目瓦、37は砥石である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

38～62は西墓祉群として取り上げられた一括遺物である。38・39は土師器甕、40・41は須恵器長頸壺・高台付き坏である。42は捏鉢、43は青磁埦、44は白磁高台付き皿である。45～47はカワラケ、48は弥生土器片、49・50は前期繊維土器、51は黒浜式、52～54は加曽利Ｂ式土器である。この他55は砥石、56は石剣片、57～59は磨石、60～62は布目瓦片である。

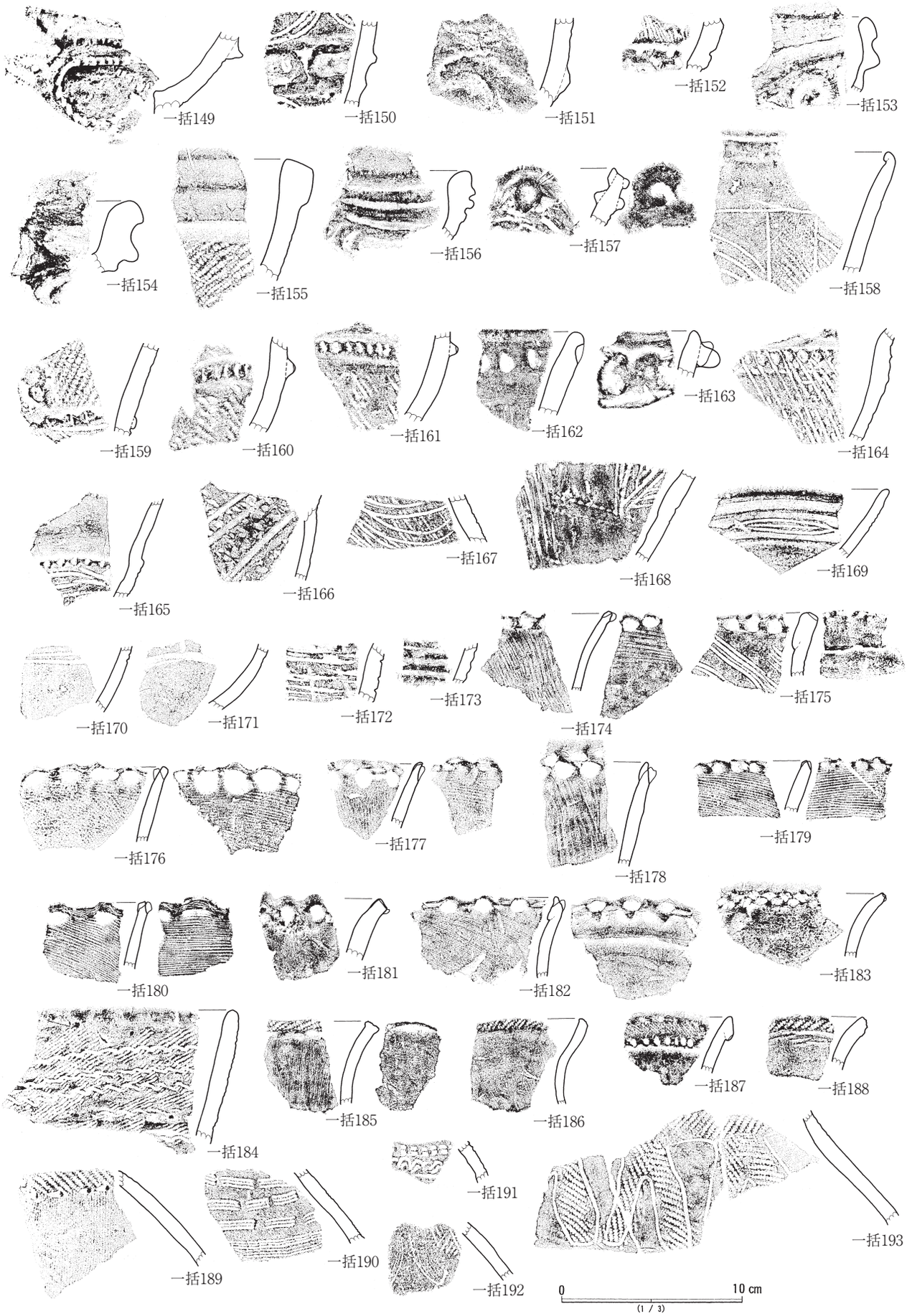
63・64は円形土壙群表採として取り上げられた一括遺物である。共に弥生土器片である。

65～111は、単なる表採として取り上げられた一括遺物である。65～78は、古墳時代終末から８世紀中葉の奈良時代にかけての土師器・須恵器である。67は、おそらく須恵器短頸壺の蓋である。77は須恵器長頸壺の類である。78は斜格子状の暗文が施された土師器坏である。79～88は、古墳時代中期から終末期の土師器である。86には放射状暗文風のヘラミガキが施されている。88は古墳時代前期土師器台付き甕脚部である。89は、縄文中期阿玉台式の浅鉢形土器である。91は、縄文と沈線を基調とする縄文晩期の深鉢形土器である。92は、当域には珍しい中部高地系列の、単口縁単節縄文系の弥生土器で、弥生中期の範疇に属すると想定される。93は重四角文系列の弥生土器で同じく弥生中期の範疇に属するものと想定される。94～97は弥生土器底部で、94・95・96には底部に木葉痕が存在する。98は白磁埦、99～101はカワラケ底部である。102は田戸上層式土器103は田戸下層式土器で、103には貝殻復縁文が認められる。104は早期鵜ヶ島台式土器、105は縄文早期の範疇に属する土器であり、胎土に繊維を含んでいる。106は前期の繊維土器である。107～114は諸磯系土器で、半裁竹管と爪形文を基調とする。115・116は浮島式土器117～119は前期末葉の土器群である。120・121は五領ヶ台式土器、122～152は阿玉台式土器であり、金雲母の混入が目立つ。153～155は加曽利Ｅ式土器、156～161は堀之内式土器、162～168は加曽利Ｂ式土器である。169～173は沈線工字文等を基調とする縄文晩期の土器群である。174～201は弥生中期宮ノ台式土器であり、202から205は須恵器甕片であり、206は須恵器樽型瓶片である。207は加曽利Ｅ式土器片再利用の土器片錘、208・209は管状土錘である。210は有孔円盤、211は滑石製の玉である。212は摩耗激しいが、北宋宝元２年（1039年）に作製された皇宋通宝である。213は寛永通宝、214は文久永宝である。215は布目瓦、216は分銅形の打製石斧、217・218は砥石であり、217には打痕が残る。219～231は磨石であり219には擦痕と打痕が、220・

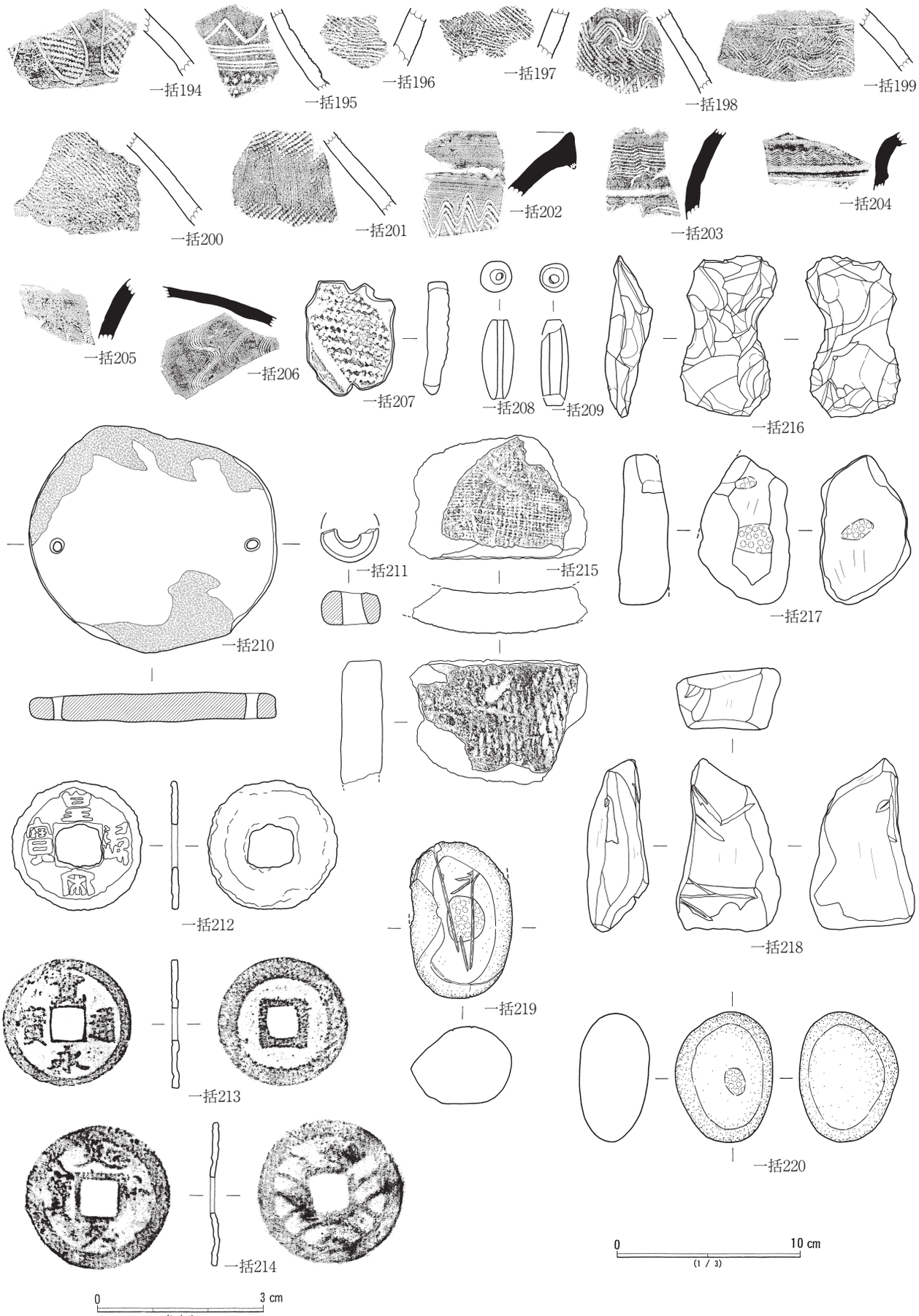


第126図　台遺跡遺構外出土遺物実測図３

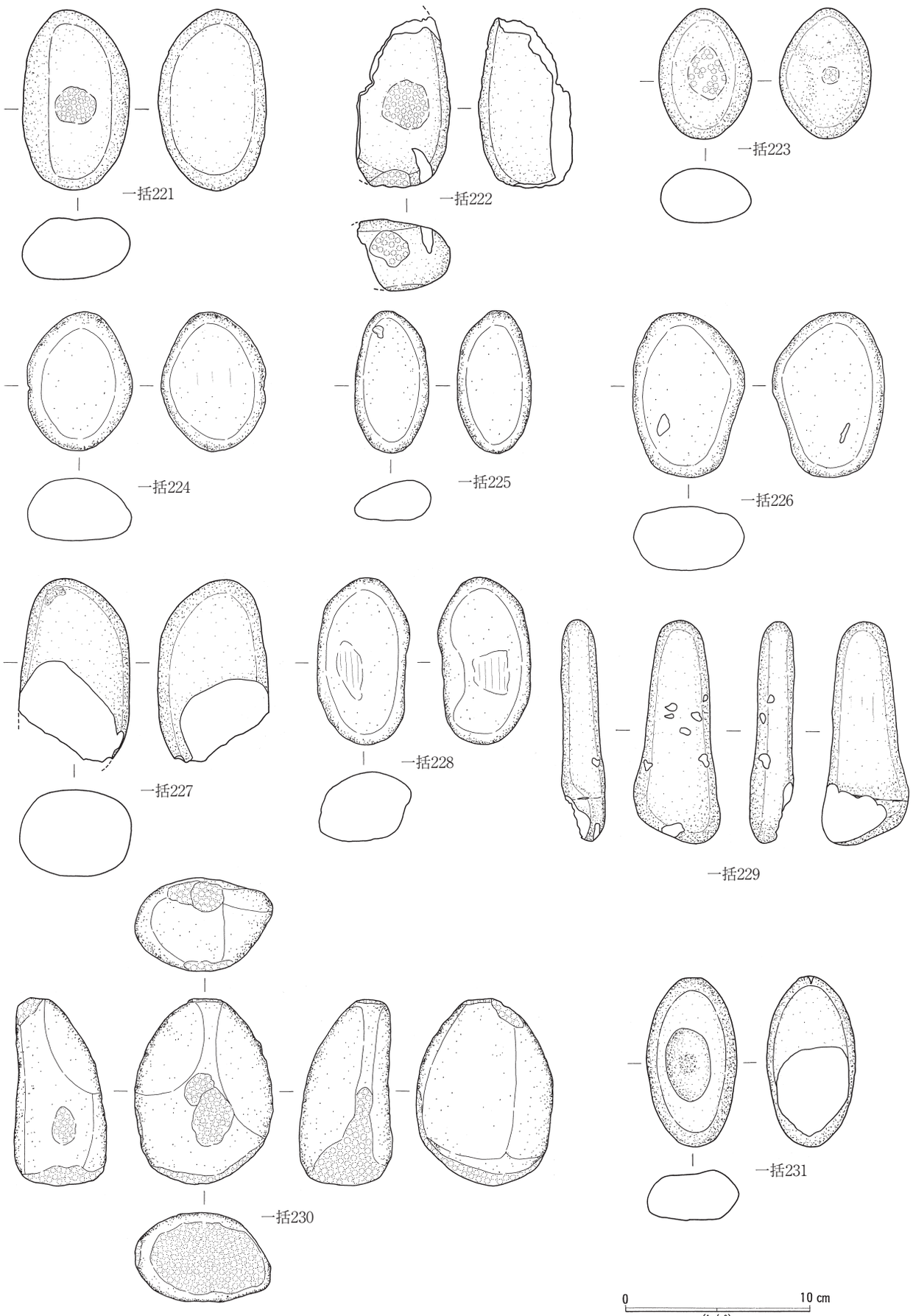
第127図　台遺跡遺構外出土遺物実測図４



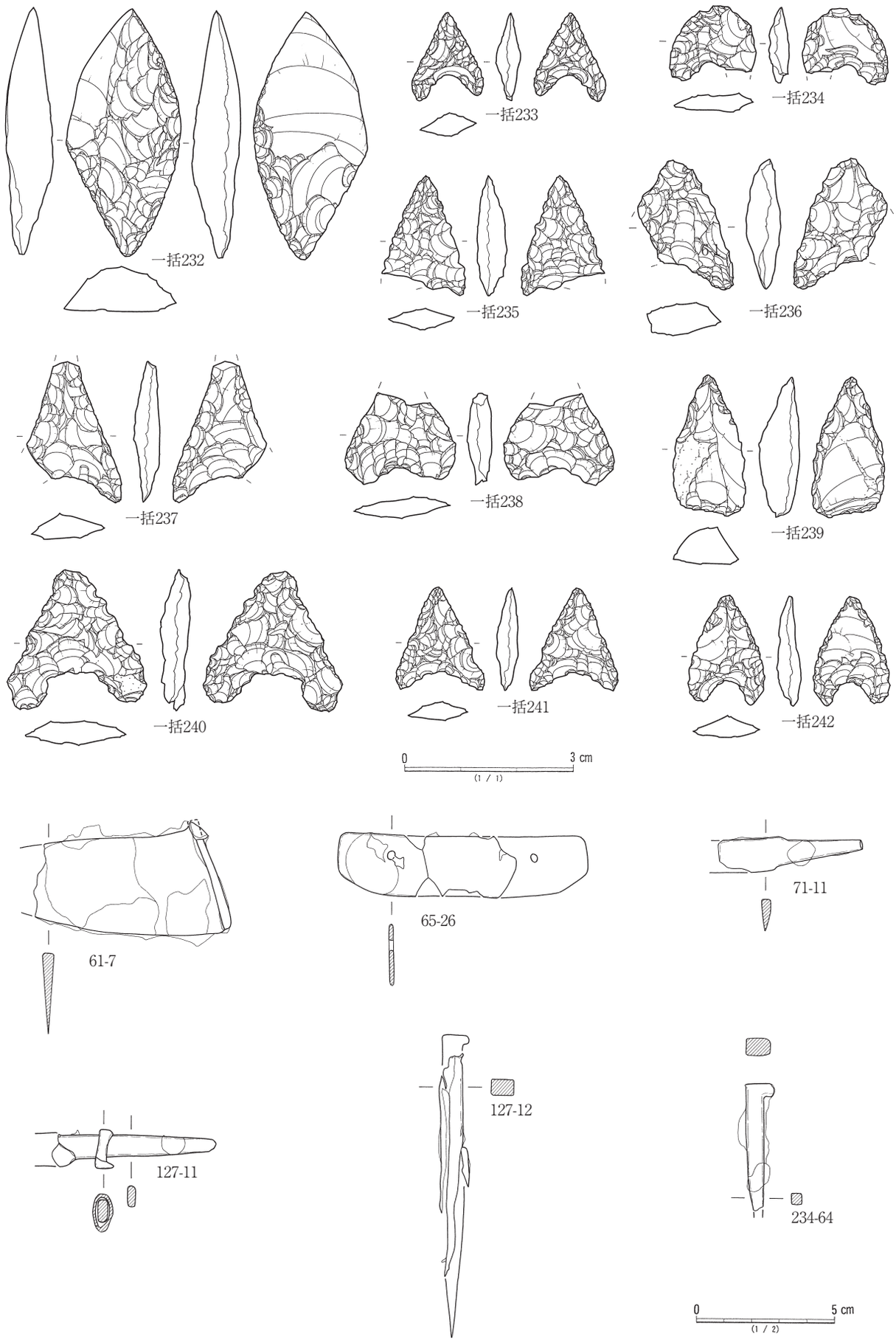
第128図　台遺跡遺構外出土遺物実測図５



第129図　台遺跡遺構外出土遺物実測図６



第130図　台遺跡遺構外出土遺物実測図７



第131図　台遺跡遺構外出土遺物実測図８

221・222・223には打痕が残る。230は敲石であり、231は凹石である。232～242は石鏃類である。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

文献

半田堅三　「市原市台遺跡Ｂ地点」市原市教育委員会2003

浅利幸一　「市原台遺跡群」『千葉県の歴史　資料編　考古２　弥生・古墳時代』千葉県2002

Ⅲ　千葉県市原市台遺跡Ｃ地点出土人骨について

聖マリアンナ医科大学　星野敬吾　平田和明

千葉県市原市国分寺台地区、台遺跡Ｃ地点より出土した人骨について報告する。人骨は類例から古墳時代終末期に属する15号地下式横穴墓より出土した。当初３個体と思われていたが、調査の結果頭蓋骨から最小個体数は４体と推定された。以下にその詳細を示す。

発掘時に付されたNo.1~40の番号にもとづいて鑑定を行い、以下の記述にはその通し番号を付記する。

＜頭蓋＞

No.11、No.20、No.24、No.40 および他のいくつかにそれぞれ頭蓋骨が確認された。頭蓋冠および上顎骨の重複から最小個体数は４体と推定する。それらを個体ａ～ｄとする。

１．個体ａ（No.11およびNo.10）熟年期男性　（写真１～６）

No.11に頭蓋の全体がほぼ残る。左側頭部および左眼窩下壁から鼻腔にかけて一部が欠損するのみであった。歯列弓が咬耗を含めて一致することからNo.10の下顎骨と同一個体であると推定できる。乳様突起、外後頭隆起、眉弓の発達から男性と推定する。

歯式は以下の通りである。(歯式中数字は中切歯から第三大臼歯までを１～８で示す。○は歯槽開放、×は破損等により不明、●は歯槽閉鎖、―は未萌出を示す。以下同様である。)

×○６５４○○○｜○○３○５○７―

○７６５４３○○｜○○３４５６７○

咬耗度はブロカの１～３度である。大臼歯はすべて咬耗度２以上。左側小臼歯に咬耗度１度が認められた。右上顎側切歯歯槽の根尖部に膿瘍痕が認められる(写真６)。その他、上顎右第二大臼歯歯槽部および上顎左第一大臼歯歯槽部にも歯周病と推定する歯の脱落が認められる。

頭蓋三主要縫合で内板部に縫合線の消失があり、外板でも矢状縫合後半部に破線状の消失が認められる。熟年期と推定する。

後頭部ラムダ付近に大きな縫合骨（84×57mm）が認められる（写真４)。

２．個体ｂ（No.24およびNo.22）壮年期女性　（写真７～10）

No.24に頭蓋のほぼ全体が残る。右側頭部から右眼窩外側壁および下壁を欠くが、その他の部位は残りがよい。歯列弓の咬合面がNo.22の下顎骨と一致することからこれらは同一個体であると推定する。乳様突起はやや発達しているが、外後頭隆起と眉弓の発達は弱く、前頭結節が発達する。女性と推定する。

歯式は以下の通りである。

○７６５４３２１｜１２３４５６７―

８７６５○３２１｜１２３４５６７―

咬耗度はブロカの１～２度である。齲蝕はない。三主要縫合はブロカ１度。ラムダ近辺にいくつかの縫

合骨（30×14mm、17×17mm）がみられた。咬耗度および歯槽退縮も顕著でないことなどから壮年期と推定する。

３．個体ｃ（No.40およびNo.39）熟年期女性　（写真11～13）

前頭骨から左右頭頂骨および右側頭骨と後頭骨までの部位がNo.40に含まれていた。No.39に含まれていた右上顎骨と左側頭骨のうち、右上顎骨と接合することが確認できた。（写真11）乳様突起および外後頭隆起の発達は弱く、前頭結節がやや発達している。眉弓は破損により確認できない。性別は女性と推定される。

歯式は以下の通りである。

８７６５４３２○｜

その他、No.39からは遊離歯９本が出土する。歯式を示す。

｜３４５６　８

（他に部位不明の下顎小臼歯１本、部位不明の下顎大臼歯３本）

咬耗度はブロカの１～３度である。上顎左右の第三大臼歯に関してのみ咬耗度は１度であった。

頭蓋冠のラムダ近辺に巨大な骨欠損（58×57mm）が認められる。破損ではなく縫合骨の一部が発掘時に失われたものと思われる（写真13）。

４．個体ｄ（No.20）成人女性　（写真14～16）

No.20に前頭骨から左頭頂骨にかけての部位と、分離して左側頭骨が残る。乳様突起の発達は弱く、一部破損するが眉弓からも女性的な印象を受ける。冠状縫合の側頭部は縫合線が消失するほどに閉鎖が進行している。

＜体肢骨＞

それぞれ、頭蓋との個体関係は不明である。

（１）大腿骨

右１本、左４本が残る。

・右大腿骨（No.27）　ほぼ全体が残る。最大長（Ｍ１）413.3mm 骨体中央矢状径（Ｍ６）28.4mm、骨体中央横径（Ｍ７）29.0mm である。骨の形状から男性と推定し、藤井の式を用いて推定身長は157.0cmとなる。

・左大腿骨（No. １、No. ５、No.29、No.35）おもに骨幹部が残る。

（２）脛骨

右２本、左３本が残る。

・右脛骨（No.26、No.31）、左脛骨（No.18、No.25、No.33）はいずれも骨端部を欠くため、最大長等の計測は不可能である。

（３）腓骨

右腓骨片としてNo.28が残る。他に左右不明の腓骨片がNo.13、No.31、No.32にみられる。

（４）上腕骨

右３本、左３本が残る。

・右上腕骨（No.19、No.21、No.31）の２本である。

・左上腕骨（No. ３、No.14、No.23）の３本である。その他に、No. ８に上腕骨頭のみが残る。前述の３本と接合する可能性あるが、詳細は不明である。

（５）尺骨・橈骨

破片が多い。比較的よく残る右尺骨（No.38）と左尺骨（No.15）以外に、右尺骨片（No. ７、No.32)、左尺骨片（No. ４、No.36）が残る。右橈骨片として No.22が残る。

（６）その他の四肢骨

その他の上肢骨として、鎖骨(No.29右鎖骨、No. ８左鎖骨)、肩甲骨片(No. ８右鎖骨、No.29左肩峰のみ、左右不明肩甲骨片 No.16および No.23)、手骨（No.17左有頭骨、中手骨および手指骨、No.22第一中手骨、No.32中手骨）が残る。

その他の下肢骨として、寛骨(右３体 No.28､No.37､No.38､左２体 No. ６､No.30)、踵骨(No. ９右踵骨、No.28左踵骨、No.17左右踵骨)、距骨（No.17左右距骨)、その他足骨（No.17中足骨および左立方骨、No.23中足骨、No.28右内側楔状骨、中足骨および足指骨）が残る。

（７）体幹骨

椎骨（No.23仙骨第一仙椎部、No.12軸椎片および胸椎１個、No.31軸椎片、椎骨片多数 No.7,8,22,23,32)、肋骨（肋骨片多数 No.7,23,28,29,31）が残る。

＜まとめ＞

当初３個体と思われていた人骨群だが、頭蓋骨の重複部位から最小個体数は成人４個体と推定された。頭蓋骨に基づく４個体は、男性１名（熟年期）女性３名（熟年期１名、壮年期１名、年齢不詳の成人１名）である。出土した体肢骨について、頭蓋との個体関係は不明である。保存状態のよい大腿骨１本（男性）から推定した身長は、157.0㎝である。特記事項として個体ａ(熟年期男性　No.11および No.10)の上顎骨に根尖部膿瘍および歯周病による歯の脱落が認められた。また、個体ａ（熟年期男性）および個体ｃ（熟年期女性）には、インカ骨が認められた。

表１．　頭蓋骨計測値（mm）

	個体 b（No.11,10）	個体 c（No.24,22）
M1 頭蓋最大長	177.5	182.0
M8 頭蓋最大幅	141.1	146.1
M17 Ba-Br 高	－	135.3
M45 頬骨弓幅	－	－
M46 中顔幅	97.2	－
M48 上眼高	－	64.2

表２．　大腿骨計測値（mm）

	No.27（右）	No. 5（左）	No.29（左）	No.35（左）
M1大腿骨最大長	413.3	－	－	－
M6骨体中央矢状径	28.4	31.6	26.0	27.5
M7骨体中央横径	29.0	30.2	29.6	28.0
M9骨体上横径	－	－	－	33.8

※追伸、発掘時に付された１～40の番号を示す平面図は、何度も整査してみたが、ついに当埋蔵文化財調査センター内からは発見することができなかった。
よって、各人骨の分布および帰属については詳細な検討ができなかったことをあらためて申し加えておく。（木對和紀）

写真１．個体 a 頭蓋（正面）№11

写真２．個体 a 頭蓋（右側面）№11

写真３．個体 a 頭蓋（左側面）№11

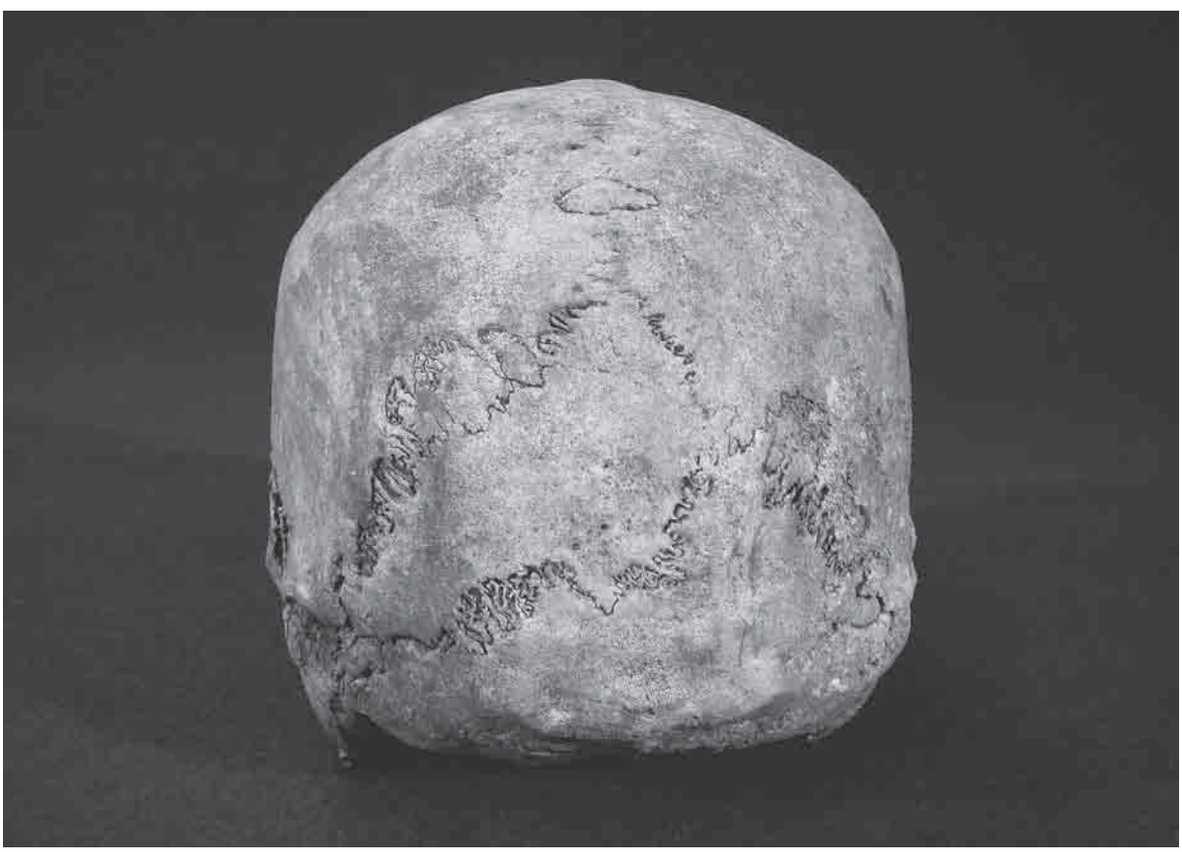


写真４．個体 a 頭蓋（後面）№11

写真５．個体ａ下顎骨№10

写真６．個体ａ上顎骨（根尖膿瘍痕）№11

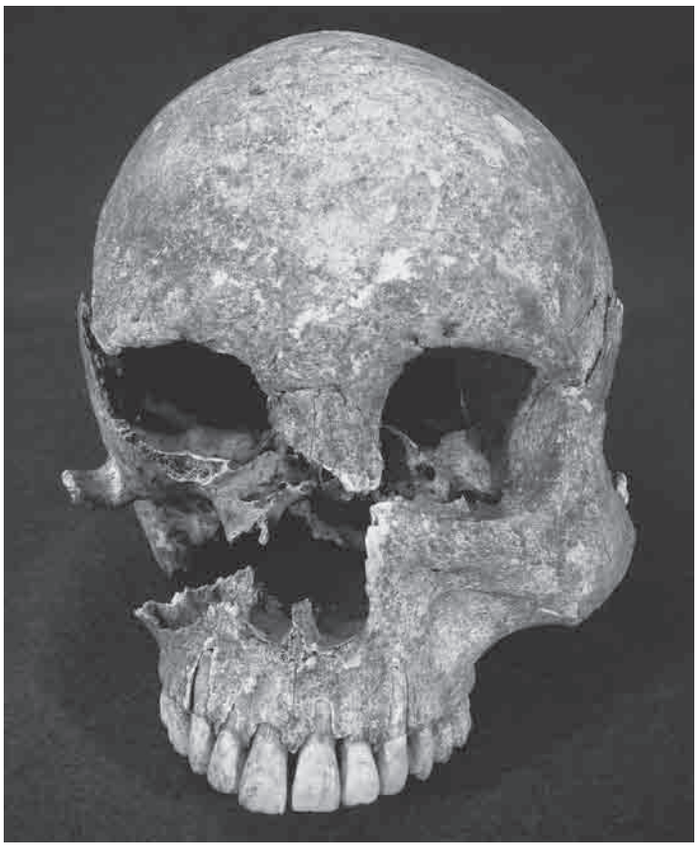


写真７．個体ｂ頭蓋（正面）№24

写真８．個体ｂ頭蓋（左側面）№24

写真９．個体ｂ頭蓋（後面）№24

写真10. 個体ｂ下顎骨№22

写真11. 個体 c 頭蓋（正面）№40

写真12. 個体 c 頭蓋（右側面）№40

写真13. 個体ｃ頭蓋（後面　インカ骨）№40

写真14. 個体ｄ頭蓋冠（正面）№20

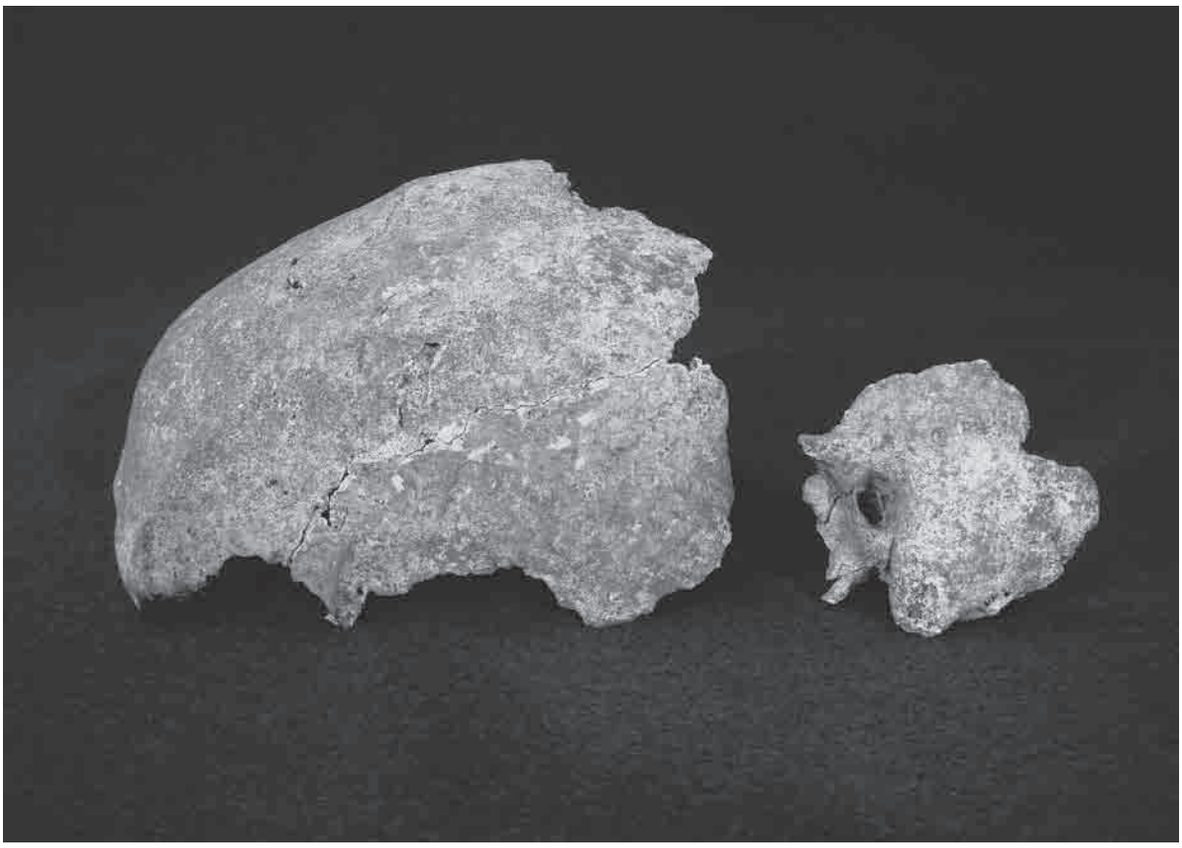


写真15. 個体ｄ頭蓋冠（左側面）および左側頭骨№20

写真16. 個体ｄ頭蓋冠（上面）№20

写真17. 大腿骨　　右大腿骨：No.27　左大腿骨：（写真中央から順に）No.５，　No.29，　No.35，　No.１

写真18. 脛骨　　右脛骨：（写真中央から順に）No.26，　No.31
左脛骨：（写真中央から順に）No.25，　No.18，　No.33

写真19. 上腕骨　　右上腕骨：（写真中央から順に）No.３，　No.23，　No.31
左上腕骨：（写真中央から順に）No.14，　No.21，　No.19

写真20. 尺骨　　右尺骨：No.38　　左尺骨：No.15

Ⅳ　台遺跡における「律令制墳墓」の形態

１．はじめに

かつて方形周溝状遺構と呼ばれた方台部を取囲む周溝からなる遺構は、近年、方台部内に火葬を含む改装骨を納めた地下式小型横穴や擬灰質砂岩製の石櫃埋納小土壙などの検出例が増加し、仰臥伸展葬の終末期方墳とは全く埋葬形態の異なる火葬・改葬主体の改葬系区画墓としての類例が十分に蓄積されつつある。一方、国分寺台地区の整理報告が進んだ現在では、地下式横穴墓を内部主体とする終末期方墳や、地下式小型横穴内に完全なる改装骨を納めた改葬系区画墓の類例も増加し、仰臥伸展葬の高塚墳墓ではない改葬系区画墓には、かつて筆者が提唱した「方形区画改葬墓」と総称しても過言ではないほどの資料集積が認められつつある。

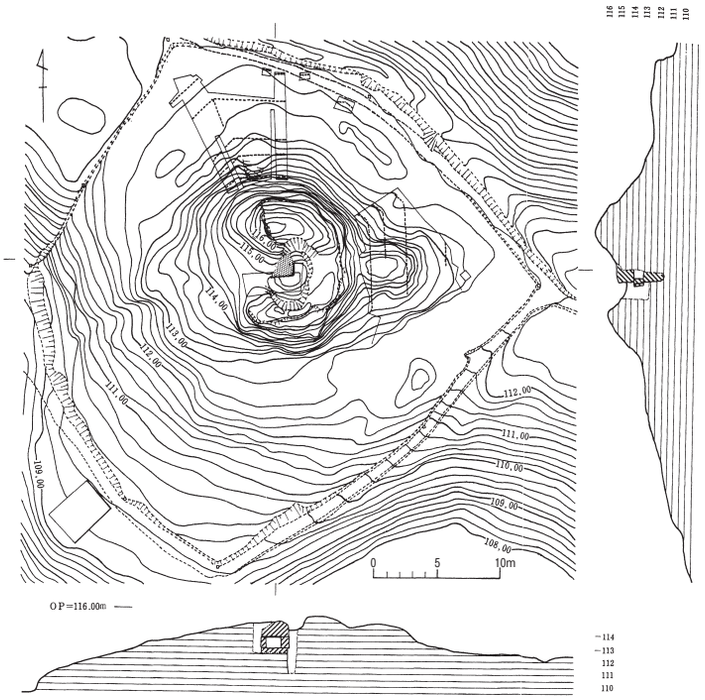
ここでは台遺跡Ｃ地点で検出された16号遺構（方形区画改葬墓）・19号遺構（方墳・地下式横穴墓）を取り込み、８世紀前半代に成立する改葬系区画墓である「方形区画改葬墓」を、律令制施行後に出現する新たな墓制としての「律令制墳墓」と命名し、最近の考古学的成果と併せて纏めておきたい。

２．房総における終末期方墳と律令制墳墓

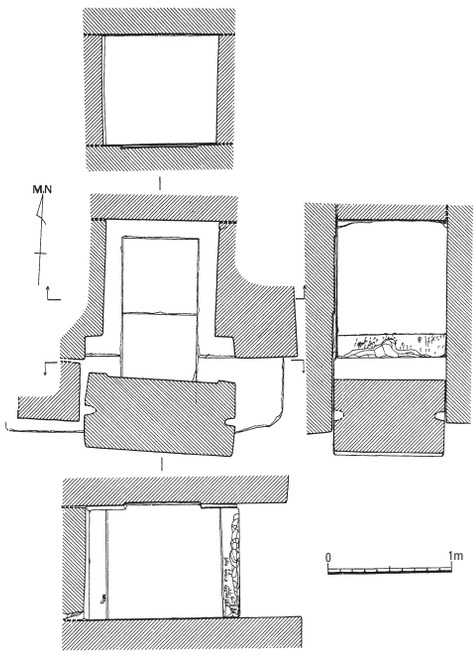
房総における８世紀以降に存続する終末期古墳､およびこれと併行して出現する「律令制墳墓」（改葬系区画墓・方形区画改葬墓）を論じる前に、ここで、房総における終末期古墳の概念を明確にしておかねばならない。

房総では、特に終末期古墳の概念が一定しておらず、明らかな終末期方墳およびこれに継続する墳墓遺構を総称して、「方形周溝状遺構」･「方形墳墓」･「方形区画墓」･「古墳」などの名称が、個人レベルで相次いで提唱され、名称乱立状態が継続しているのが実情である。これらの遺構名称の根源を整理しておくと、①木棺直葬等の仰臥伸展葬の高塚墳墓であっても、遺構の帰属する年代が奈良・平安時代であるため、古墳からは切り離されて、区画墓としての年代的傾向に重点を置くもの、②群としての終末期小型方墳からの連続性に重点を置くもの、③現状では墳丘や埋葬施設が存在しないことに重点を置くもの、④形状が方形で、７世紀から９世紀までのさまざまな埋葬施設を伴う墳墓であることに重点を置くもの、⑤弥生時代中期から歴史時代に至る全ての墳丘・区画を有する墳墓を全て古墳と総称するもの、などがその要旨となっている。しかし、これらの論考では、遺構本来が包蔵する性格の究明を避け、「終末期方墳」との根本的な相違の解明とは異次元での狭義な相違に論点が集中するか、あるいは広義の古墳拡大解釈の結果、弥生時代中期から歴史時代に至る全ての墳丘ないしは区画を有する全ての墳墓を「古墳」の名に包括してしまおうとする論考も存在しており、現状では収拾困難な状態が続いている（註１）。

筆者はかつて、古墳消滅段階の墳墓について、従来の古墳墓制を踏襲した仰臥伸展葬可能な埋葬施設を採用する方形周溝からなる遺構は､現状での墳丘の有無､規模の大小､奈良･平安時代の墳墓といった狭義の問題に捉われずに終末期古墳とすべき立場に立ち、逆に石櫃や木櫃･蔵骨器を納める小土壙、火葬を含む改葬を主体とした地下式小型横穴など、仰臥伸展葬が完全に不可能な埋葬施設を採用する「改葬系区画墓」は、従来の古墳葬法を意識的に放棄し、新たな埋葬施設採用へと推移した歴史時代の新たな墓制であり、これを「方形区画改葬墓」と提唱した（註２）。ただし、この「方形区画改葬墓」

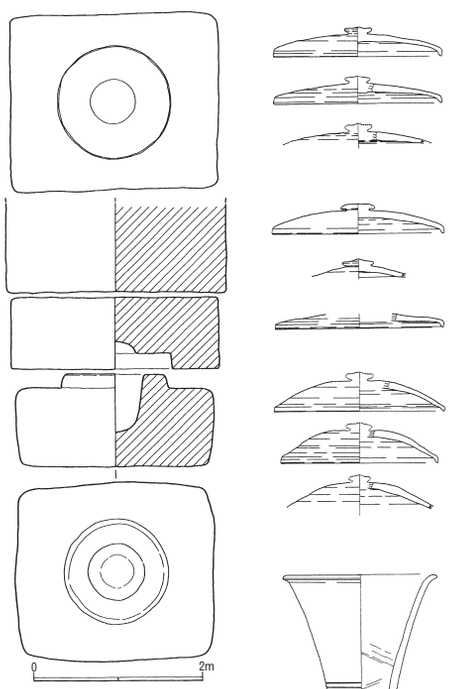


奈良県中尾山古墳

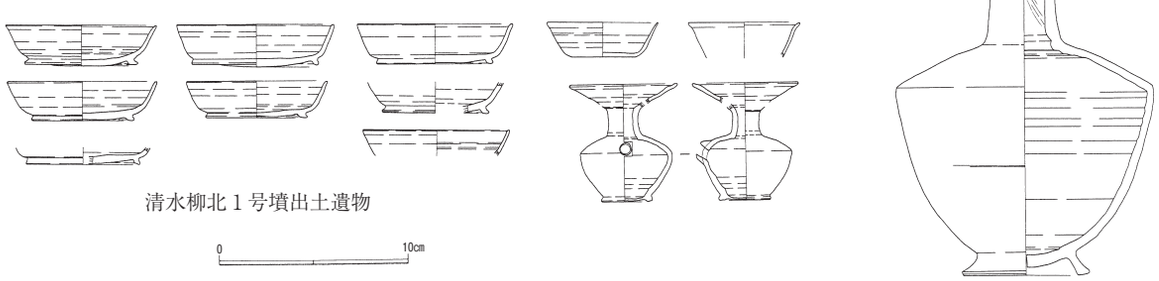


中尾山古墳横口式石棺

清岡県清水柳北１号墳

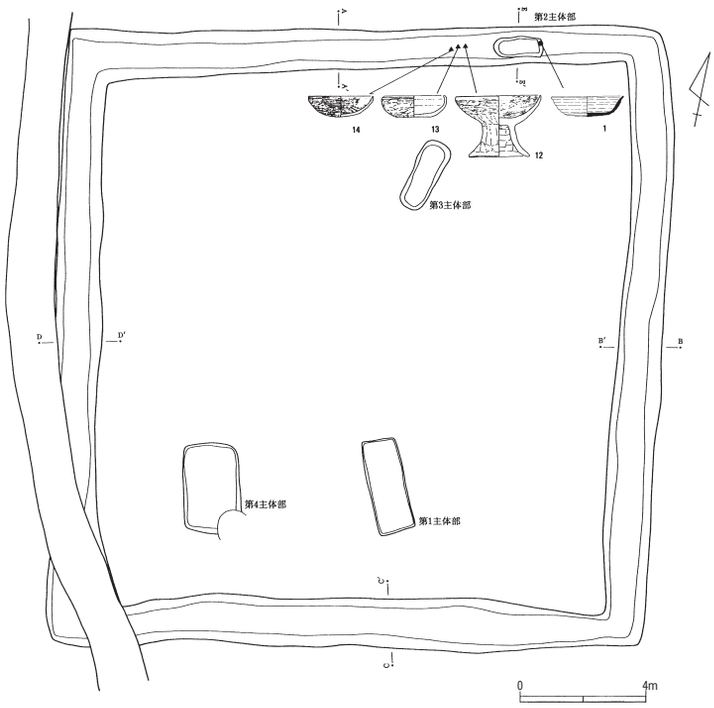


清水柳北１号墳石櫃復原図

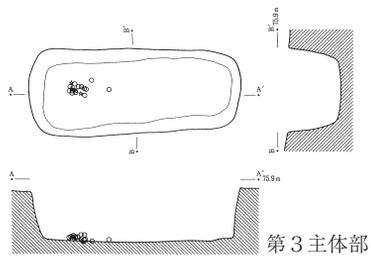


清水柳北１号墳出土遺物

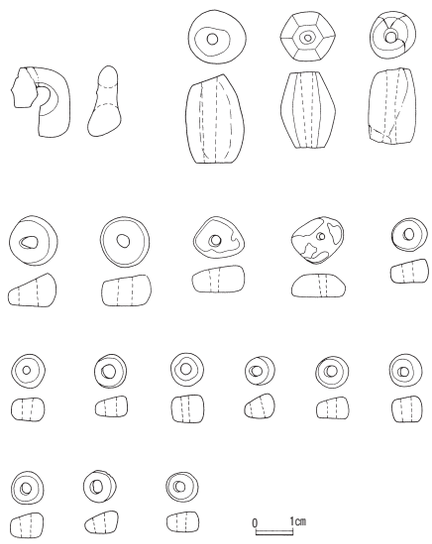
第132図　律令制墳墓



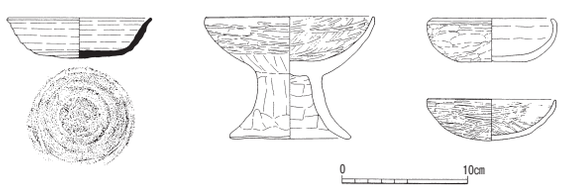
武士遺跡021号方形墳墓

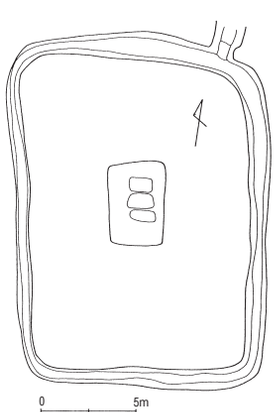


第３主体部

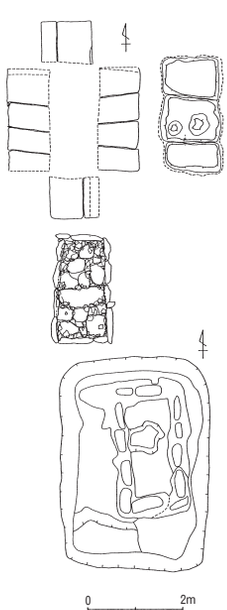


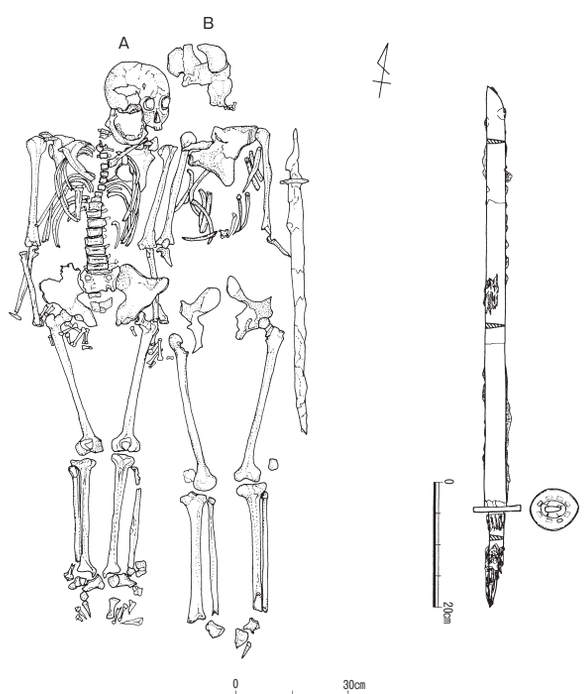
武士遺跡021号方形墳墓第３主体部出土玉類





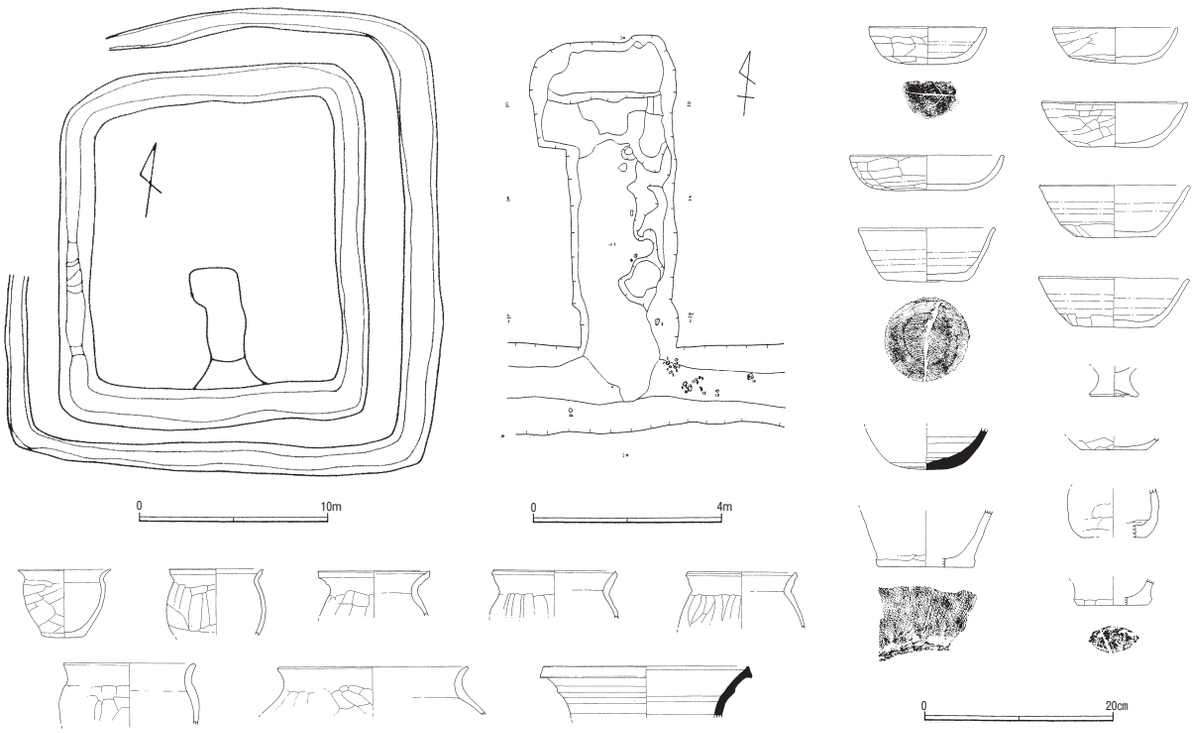
雉子ノ台遺跡８号墳



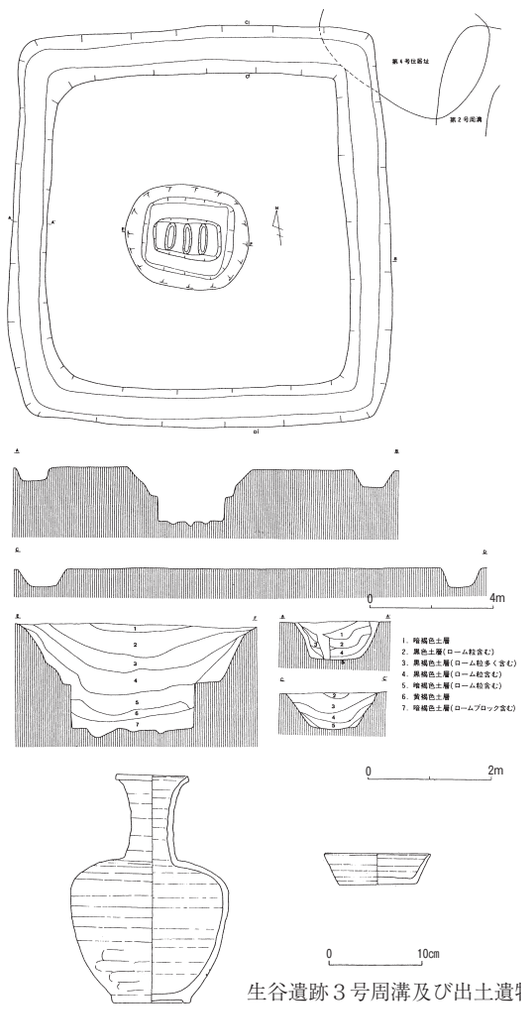


雉子ノ台８号方墳主体部人骨出土状態及び出土遺物

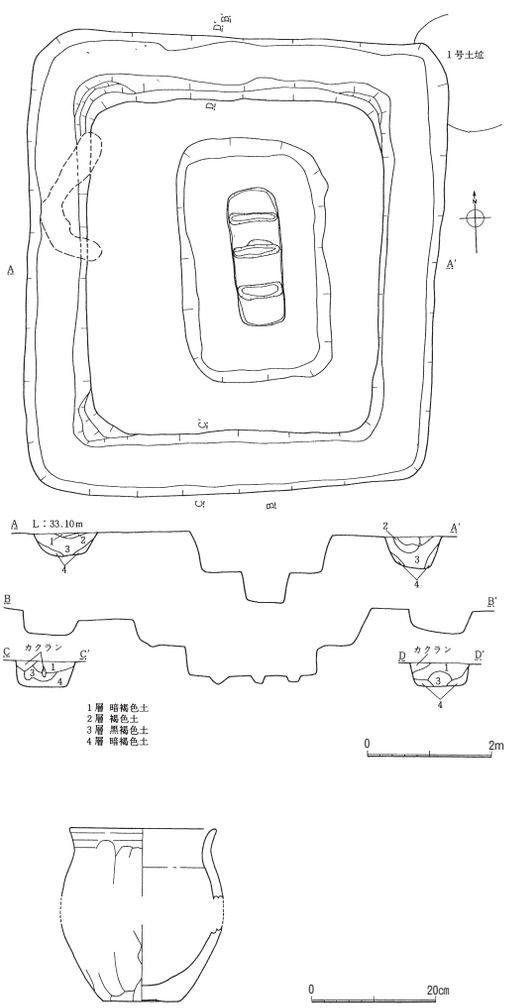
第133図　房総における終末期方墳１



雉子ノ台遺跡６号墳（終末期古墳）及び出土遺物



生谷遺跡３号周溝及び出土遺物



羽根戸遺跡１号方形周溝墓及び出土遺物

第134図　房総における終末期方墳２

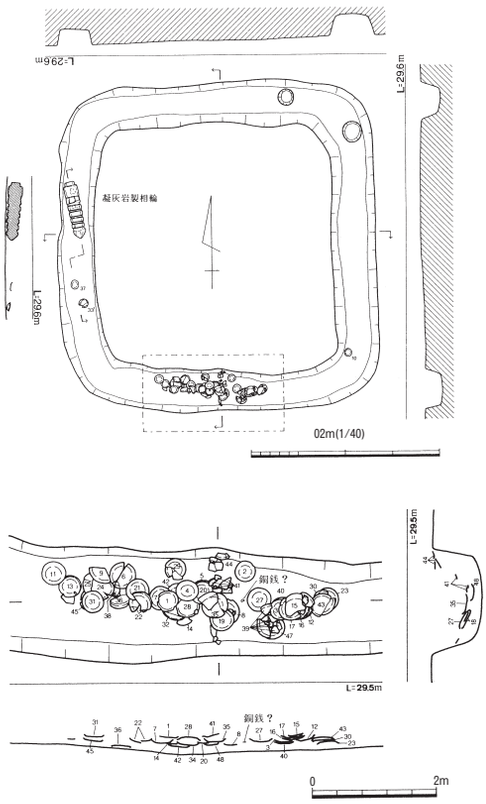
なる名称が、同遺構の性格を端的に表現する理にかなった名称であるのかは、今後の研究次第とした。

今回「方形区画改葬墓」を「律令制墳墓」と読み替えて論考するのは、房総のみならず、全国的規模で終末期古墳に継続して成立する墳墓の名称として考慮した時、その時代背景には大化薄葬令以来の墓制規制が少なからず存在したことを考慮した。そして、房総においても８世紀前半代以降の律令制施行期に、これまでの古墳に代わる改葬系の区画墓が新たな墓制として出現することに注目し、律令制の施行という一定規制のもとに全国的に成立する区画墓として、より相応しい名称と考えるに到ったからである。

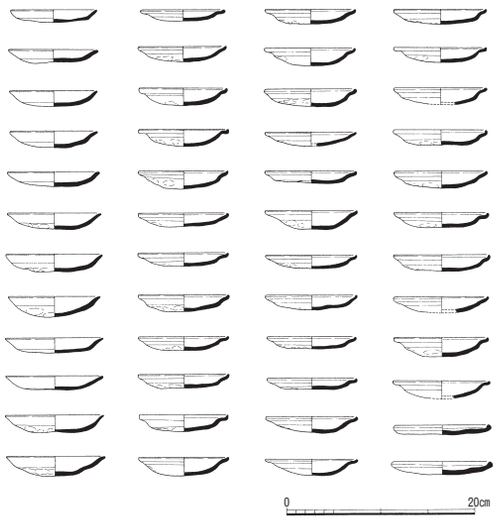
終末期古墳に連続して成立した「律令制墳墓」には、中央では文武陵たる八角墳の中尾山古墳、地方では有力官人層墓と想定される上円下方墳の清水柳北１号墳など、８世紀初頭段階にその成立を見る。これらの「律令制墳墓」は、当初から仰臥伸展葬を放棄し、石櫃や蔵骨器を納めるための計画的な小型埋葬施設を採用する火葬墳墓として成立し、以後、「律令制墳墓」としての火葬墓が爆発的に増加する。このことは、大化薄葬令以来の律令体制完成期における墓制改革の到達点は、当時の国家元首たる天皇を頂点とした旧来の葬法からの段階的な脱却であり、これに有力官人層などが追随して旧来の古墳葬法を完全に排除したものと想定される。即ち文武陵成立以降の火葬を主体とした墳墓体制こそが律令体制に則った「律令制墳墓」と想定されよう。なお、初期の「律令制墳墓」は、墓標としての墳丘は、旧来の古墳からの完全なる脱却ができなかったが、葬法としての埋葬形態は従来の古墳とは大幅に異なり、仰臥伸展葬を許容するものではなかった。すなわち、火葬の導入が少なくとも遺体を安置する棺から遺骨を収納する器へと変化させているのであり、ここに従来の古墳とは異なる新たな墳墓体制の原点を求めるものである。

したがって筆者は、改葬骨・火葬骨を納める地下式小型横穴、火葬骨を納める方台部内小土壙などを除いて、房総における「木棺直葬土壙」・「箱式石棺」・「切石積横穴式石室」・「地下式横穴墓」など仰臥伸展葬可能な空間施設を内部主体とする方形周溝からなる古墳消滅段階の遺構は、現状における盛土の有無や、追葬を含めて畿内での終末期古墳の全盛期である飛鳥時代より時期が大幅に下ったとしても、房総での終末期古墳に追葬が盛んに行われている９世紀代に至るまでは、全て終末期方墳として捉えていることを予め申し上げておきたい。ただし、武士遺跡８号方形墳墓は、玄室入口から奥壁までの距離が短い内法1.3×2.3m、高さ0.5～0.7mの長方形地下式横穴を埋葬施設とするが、玄室入口部の幅0.5m、高さ0.7mしか開口しておらず、理論的には仰臥伸展葬可能な空間を保持しているものの、木棺等に遺体を入れて埋葬するには非常に窮屈で困難な形態を呈しており、実体として仰臥伸展葬が不可能な埋葬施設も存在している。ちなみに、同遺構の横穴内には剥き出しの火葬骨が埋葬されていたことから、理論上仰臥伸展葬可能な空間を保持していても、実体としては火葬骨や改装骨を納める施設も存在することになる。したがって同遺構は「律令制墳墓」の範疇に属する遺構として判断してよいことになろう。なお、８世紀前半に構築された直葬方墳への追葬による下限は、房総全域で見た場合、雉子ノ台遺跡６号墳などでは９世紀代に至る追葬が確認されることから、房総における方墳への追葬の下限は、９世紀代まで下るものと想定される。したがって、現状では概ね９世紀代までが房総における終末期古墳活用の下限であろう（註３）。

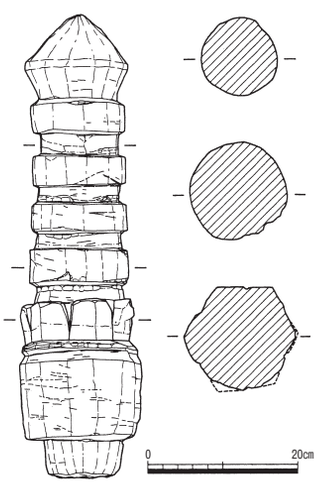
一方、時期をさらに下って県内外に目を向けると、類似する遺構には中世もしくは中世近くまで下る可能性がある遺構がある。たとえば長岡京市西陣町遺跡では、餓鬼草子に見える墳墓に近い形状に



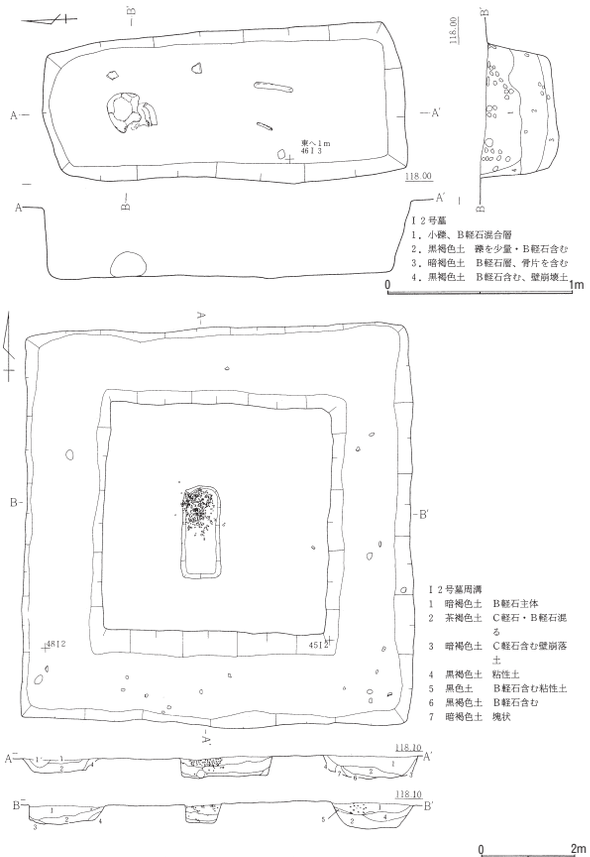
長岡京市西陣町遺跡 SX13002



長岡京市西陣町遺跡 SX13002 出土遺物

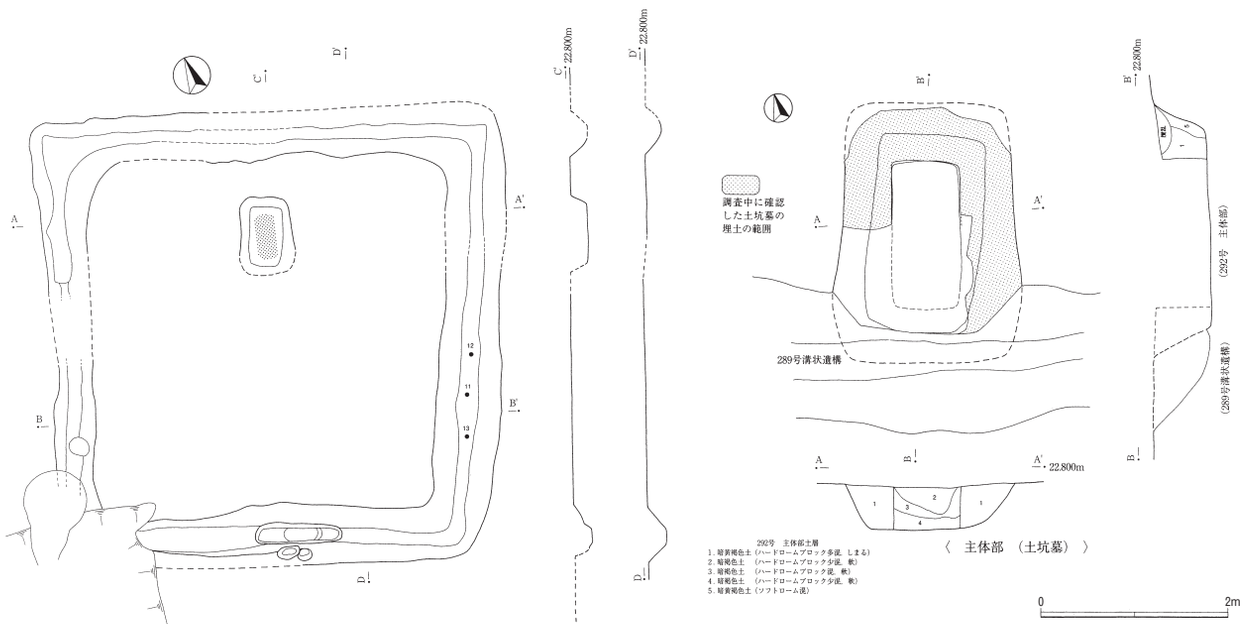


SX13002 凝灰岩製相輪出土

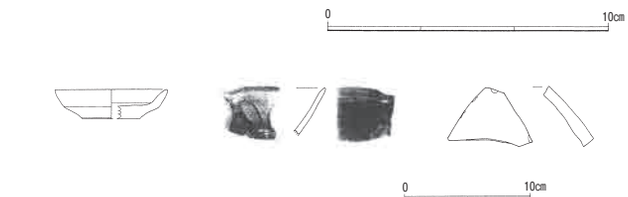


群馬県鳥羽遺跡Ｉ区２号墓

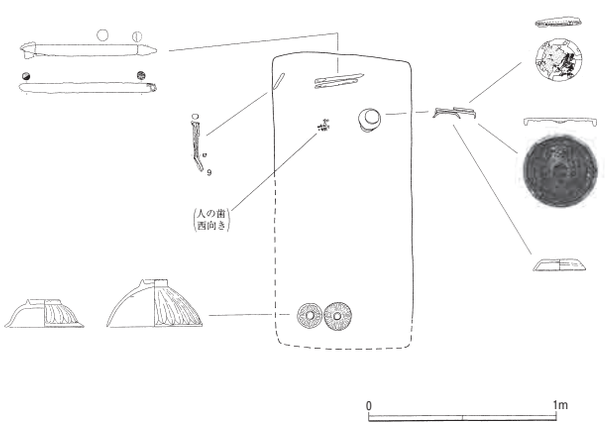
第135図　中世墳墓と出土遺物１



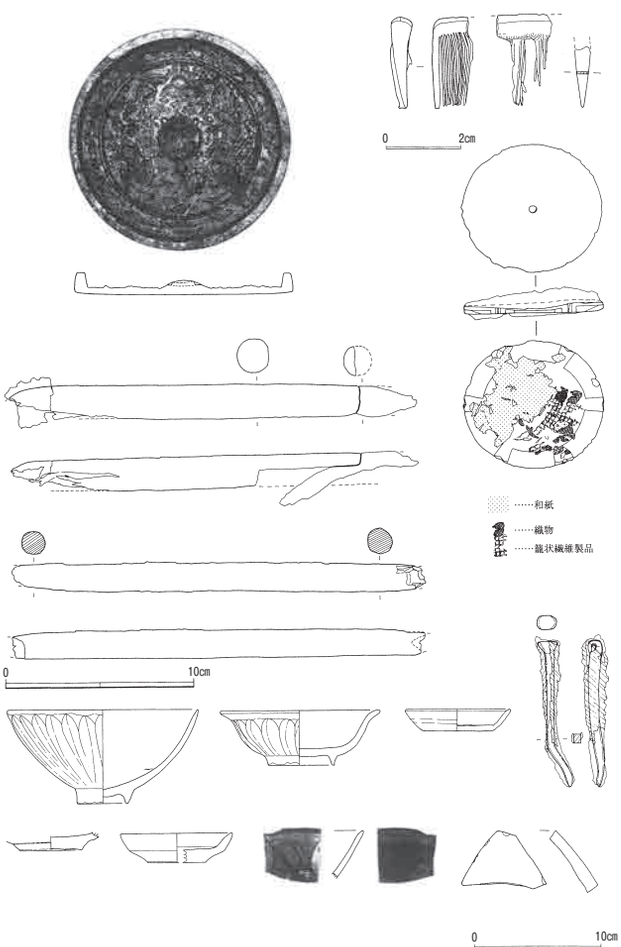
思井堀ノ内遺跡292号方形周溝区画墓主体部（土壙墓）



流山市思井堀ノ内遺跡292号方形周溝区画墓及び出土遺物

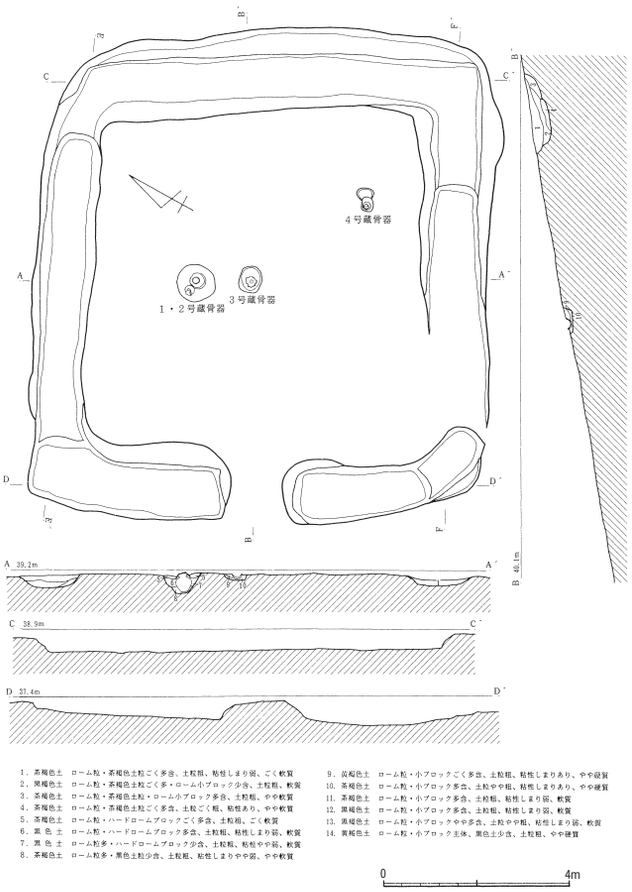


同292号方形周溝区画墓主体部（土壙墓） 及び出土状況

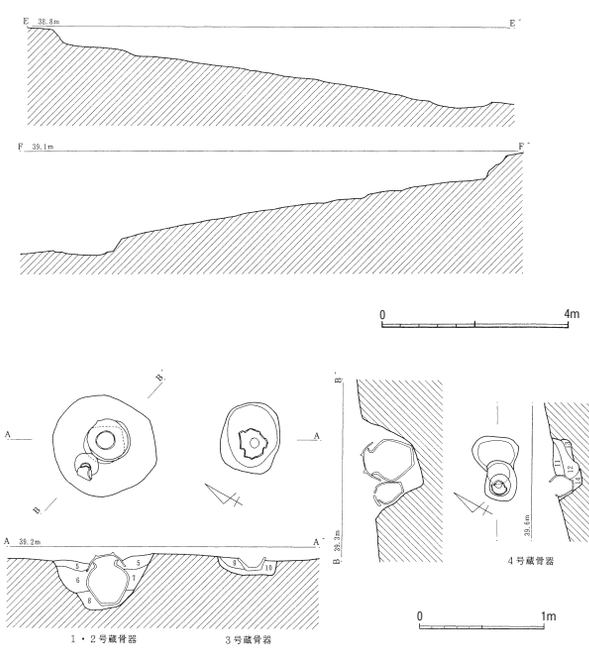


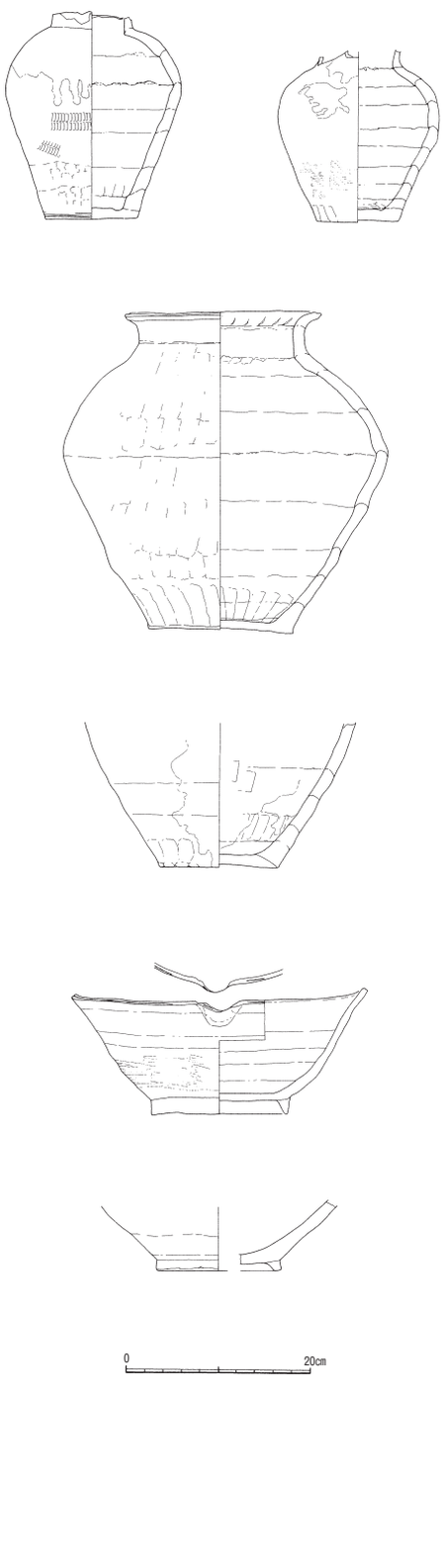
同292号方形周溝区画墓主体部（土壙墓） 及び出土遺物

第136図　中世墳墓と出土遺物２



横浜市上台の山遺跡方形環濠墓





横浜市上台の山遺跡及び出土遺物

第137図　中世墳墓と出土遺物３

復元可能な「火葬塚」と想定されるＳＸ13002が存在する。火葬塚とは、火葬所の跡地に四辺に溝を掘り、盛土を行った後、石塔類を立てる遺構で、遺骨は別の場所に安置されることから遺骨を納める墳墓ではないが、同遺構からは、擬灰岩製石塔相輪部と11世紀後半とされる「ての字口縁皿」が規模10尺の方形周溝の周溝内から検出されている。また、群馬県鳥羽遺跡Ｉ区からは、弘安元年（1108）を遡らないとされる浅間山Ｂ軽石層降下以後の築造と想定される方形周溝が検出された。出土遺物は伴わず、方台部中央からは墓壙規模から仰臥伸展葬可能な土壙が検出されているが、残存する人骨から横臥屈葬の状態で埋葬されたと想定される例がある。人骨の頭部が西側を向いて検出されていることから、「西方浄土」の仏教思想のもと埋葬された可能性が高い。この、「西方浄土」思想のもと埋葬されたと考えられる遺構は、千葉県内にも存在する。流山市思井堀ノ内遺跡検出の「方形周溝区画墓」と称される遺構から13世紀後半から14世紀初頭の龍泉窯産青磁碗・皿を伴って、倭鏡・櫛・白磁皿・菊花形皿・撥状木製品と共に検出された。人骨は歯24本のみの出土であるが、上下の歯並びが良く判る状態で検出されており、頭位が西方を向いた状態で、横臥屈葬で埋葬されたと想定されており、鳥羽遺跡との類似性が指摘できる。なお、中世遺物を検出する例では、横浜市上台の山遺跡で、12世紀後半の常滑産の甕に捏ね鉢を逆さに被せた蔵骨器等を複数検出した「方形環濠墓」と称される方形周溝が存在する。

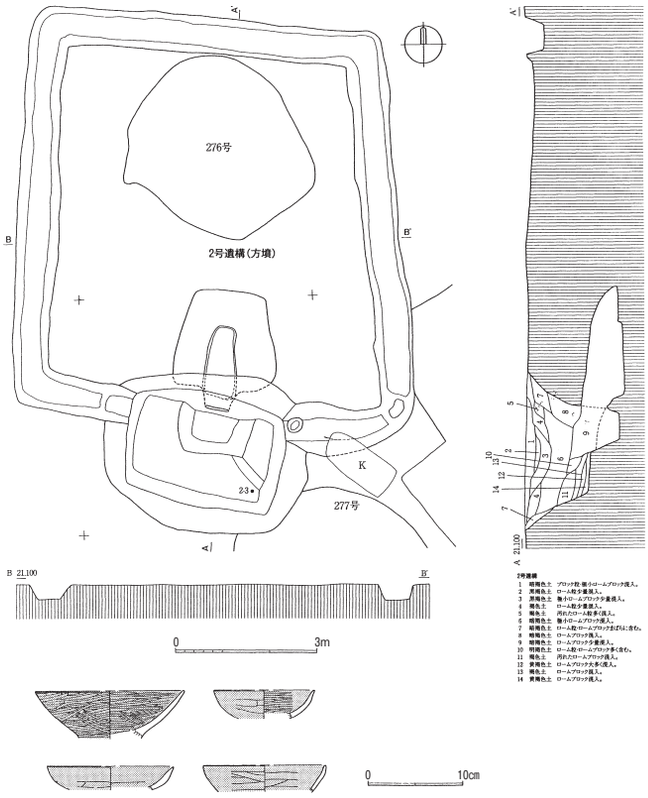
これらの遺構と追葬を含めた房総の終末期古墳との間には若干時期の隔たりがあり、餓鬼草子に見える中世墳墓を連想させるような時期の墳墓を、報告者自体も「古墳」と称さず様々な遺構名で報告していることからも、これらの中世墳墓的な遺構を「古墳」と称するには、かなりの抵抗を感じるのは筆者一人だけではないようである。なお、鳥羽遺跡や思井堀ノ内遺跡例の如く、仰臥伸展葬可能な墓壙規模を保持していても、「西方浄土」思想という完全な仏教信仰による、意識的な頭部の西方位横臥屈葬墳墓は、日本古来の埋葬要素による仰臥伸展葬の古墳とは、墳墓としての性格は共有するものの、思想面においては峻別される性格の遺構なのであろう。

３．台遺跡Ｃ地点周辺の終末期方墳

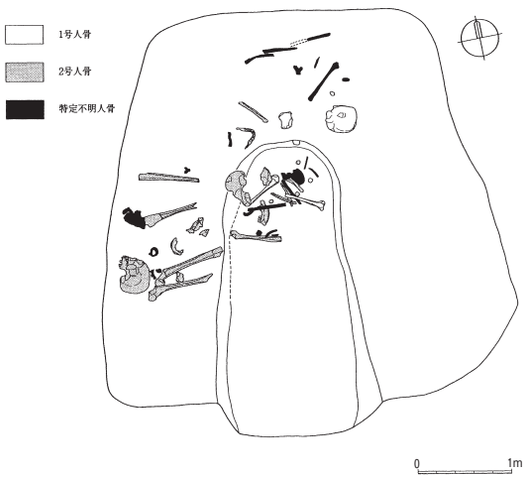
台遺跡Ｃ地点の南側に隣接する御林跡遺跡では、墳丘は存在しなかったが、地下式横穴墓を内部主体とする２号終末期方墳から人骨２体と７世紀末葉の遺物が検出されている。埋葬作業の容易さに反比例して天井部は低く、高さ80㎝に満たない。１号人骨は性別不明、年零７～８歳と判定されており、２号人骨は、壮年後半から熟年女性と判定されている。２号人骨は、頭蓋と大腿骨が接して検出されたことから、追葬に際し玄室内で骨化した遺骨を集骨したか、あるいは当初から別の場所で骨化させた遺骨を、その後、玄室内に再葬した可能性が考えられる。

御林跡遺跡２号終末期方墳の埋葬施設に類似する遺構には北野原遺跡027号遺構が存在する。玄室内からは人骨片・人歯の他に木質の付着した80点以上の鉄釘が検出され、同遺構玄室内には遺体を納めた木棺が安置されていたことが察知されるが、天井部の高さは１ｍに満たない。出土遺物に９世紀代を示す灰釉長頸壺と、７世紀後半の様相を留める土師器坏細片が存在する。これら２基の終末期方墳は、羨道部が方形の縦坑を呈し、埋葬施設に天井部の低い地下式横穴墓を採用する所に大きな共通点がある。

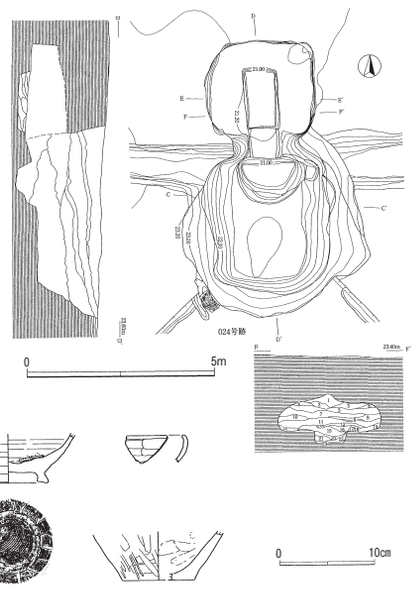
台遺跡Ｃ地点の南側では、周溝は確認されなかったが15号遺構（地下式横穴墓）が検出された。周



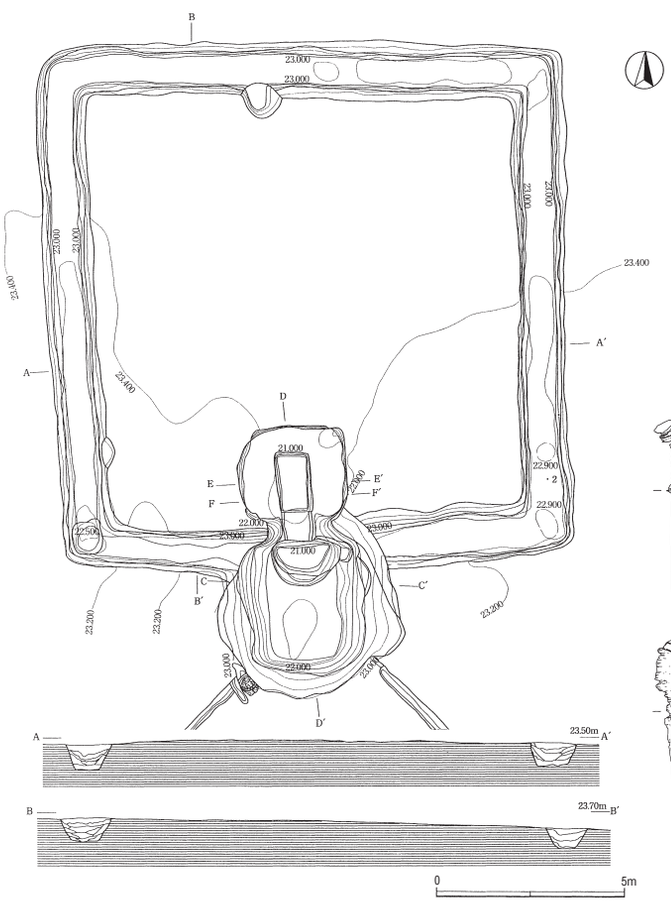
御林跡遺跡２号遺構及び出土遺物



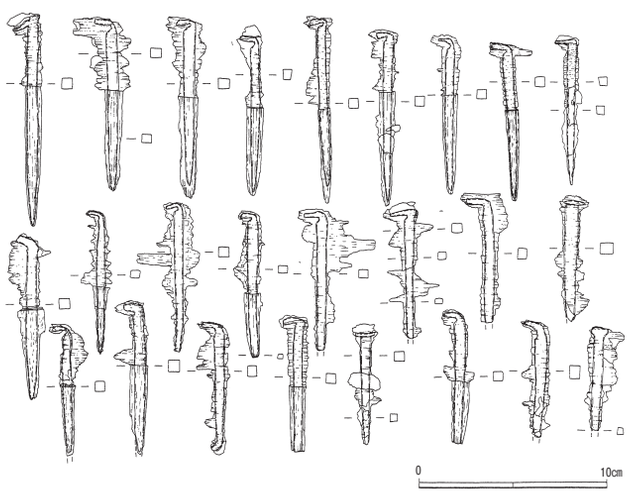
御林跡遺跡２号遺構玄室



北野原遺跡027号遺構主体部及び出土遺物

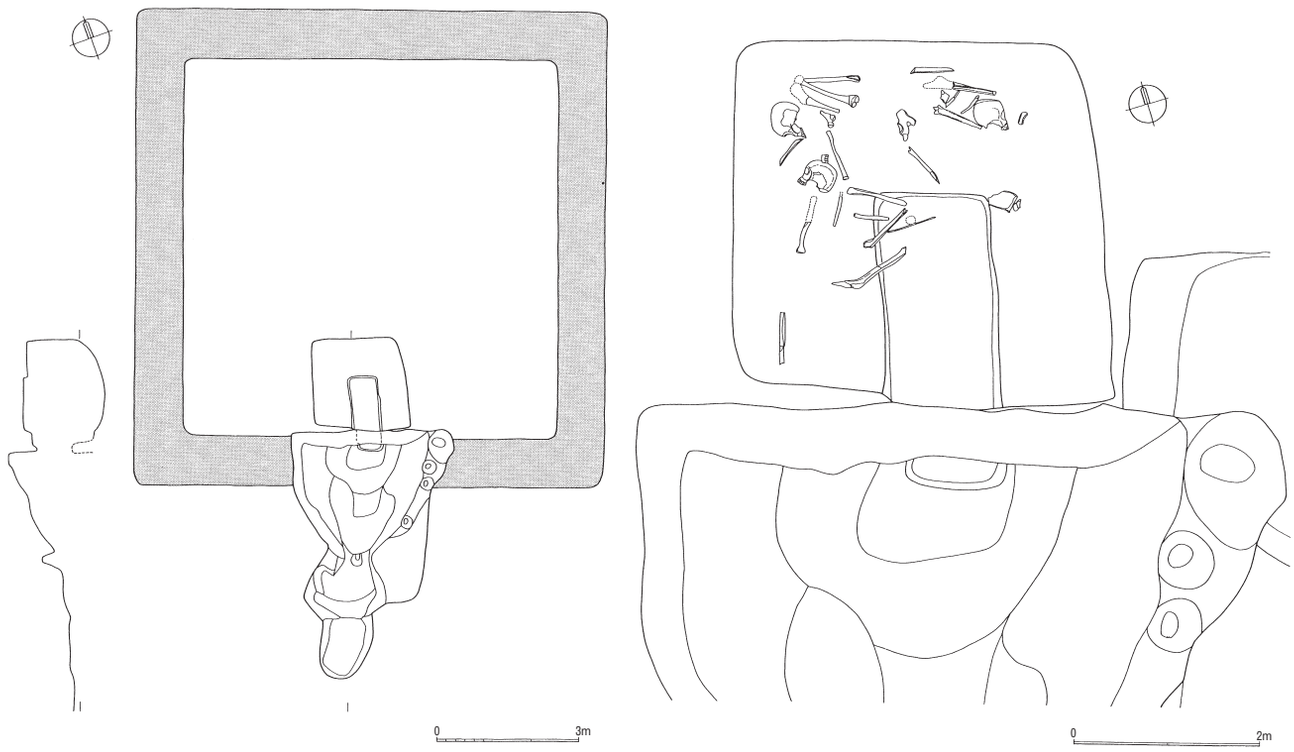


北野原遺跡027遺構

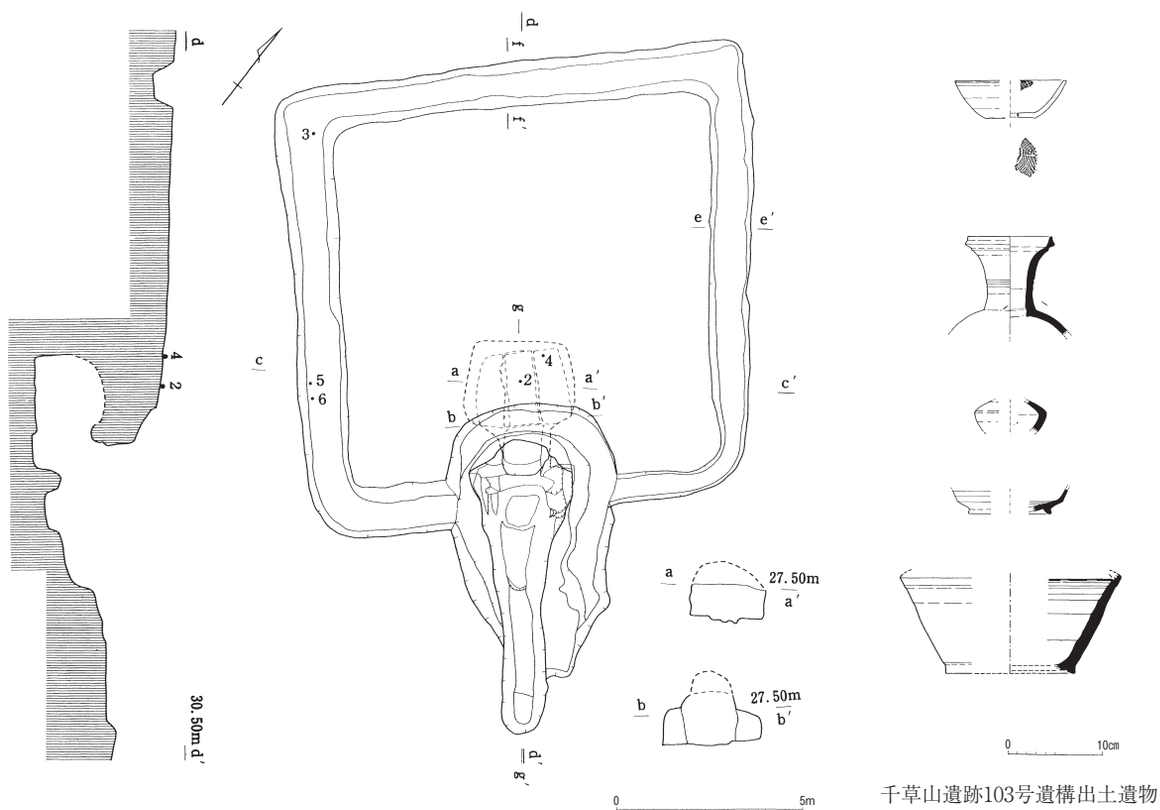


北野原遺跡027号遺構出土鉄釘

第138図　台遺跡Ｃ地点周辺の終末期方墳１



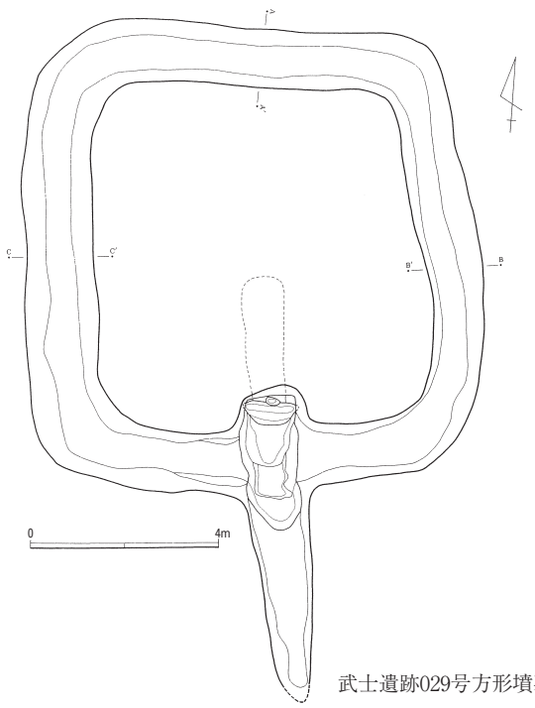
台遺跡 C地点15号遺構



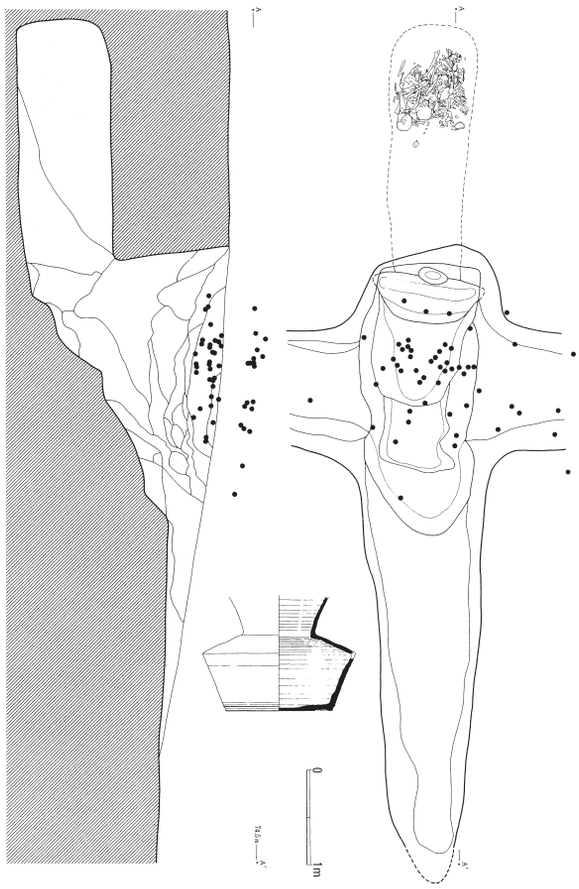
千草山遺跡103号遺構

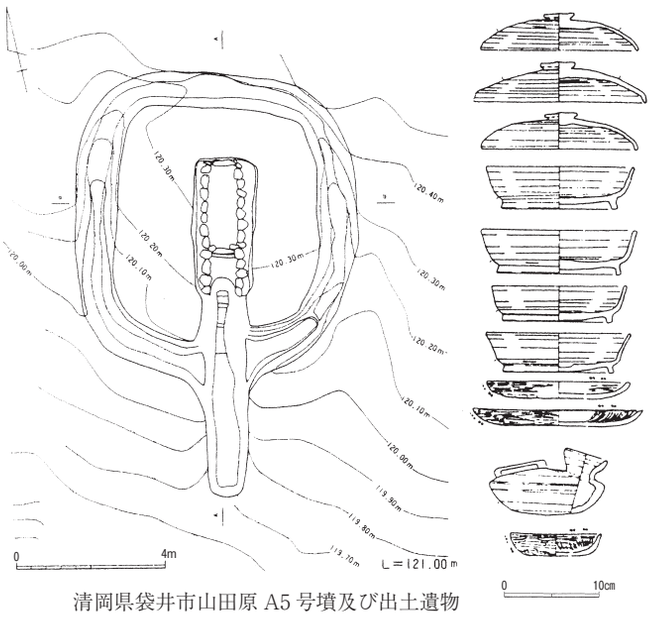
千草山遺跡103号遺構出土遺物

第139図　台遺跡 C 地点周辺の終末期方墳２

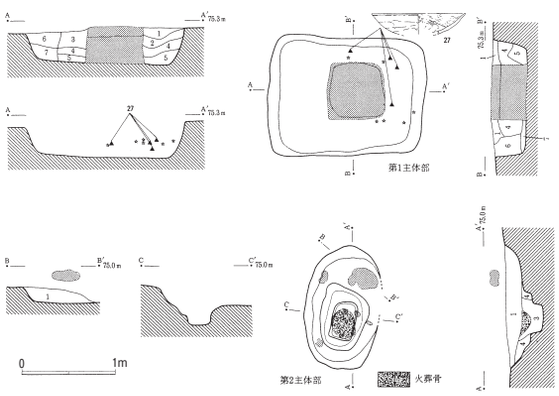


武士遺跡029号方形墳墓

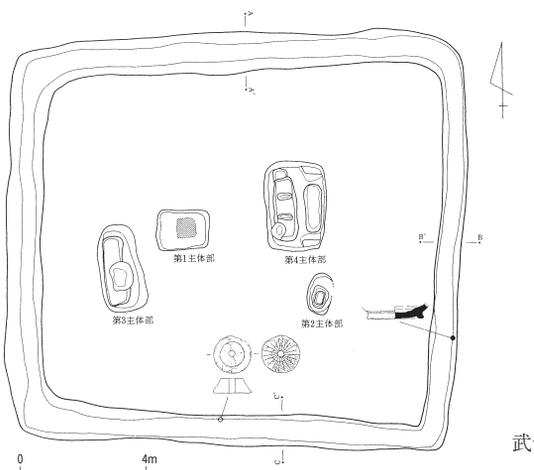


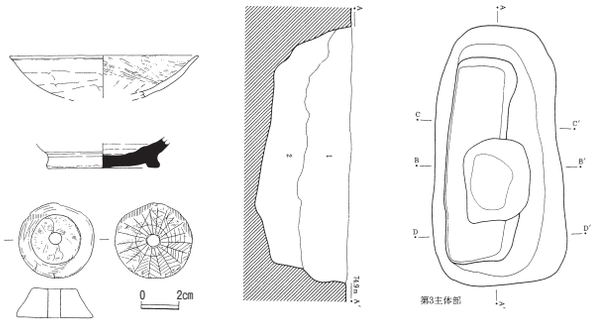


清岡県袋井市山田原 A5 号墳及び出土遺物



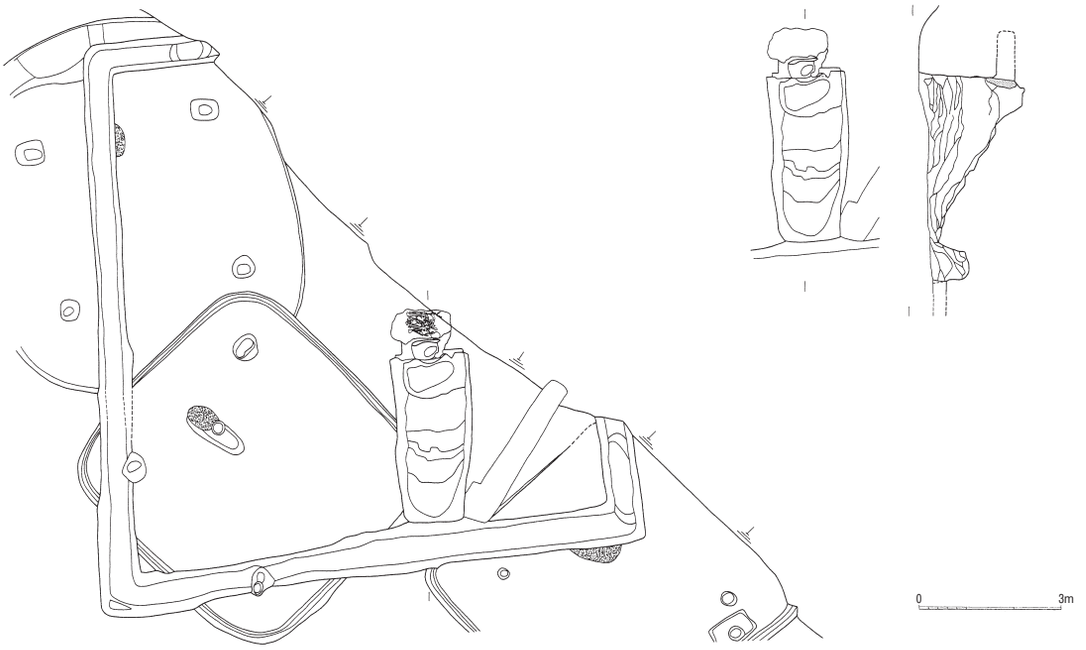
武士遺跡029号方形墳墓主体部及び出土遺物



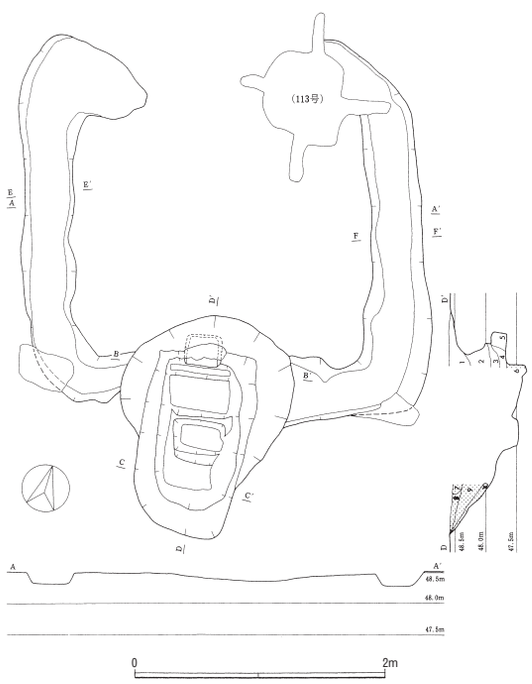


武士遺跡034号方形墳墓主体部及び出土遺物

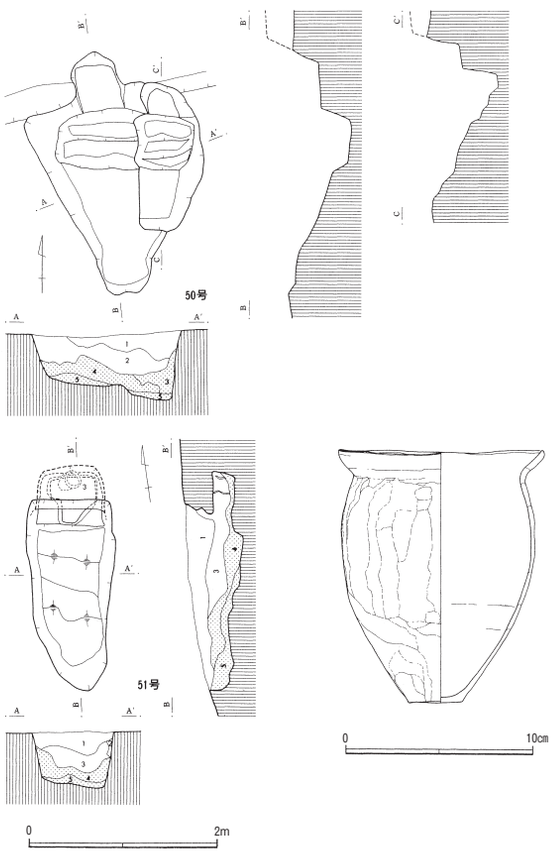
第140図　台遺跡 C 地点周辺の終末期方墳と出土遺物



諏訪台古墳群4016号遺構



小田部新地遺跡49号遺構



小田部新地遺跡50号A･B　51号遺構及び出土遺物

第141図　台遺跡 C 地点周辺の律令制墳墓 1

囲は広範囲に台地整形が行われており、当初より単独の地下式横穴墓と捉えるより、周辺の類例から、むしろ本来浅い周溝が伴っていた可能性が高い。玄室内からは人骨が検出され、人骨鑑定の結果４体の埋葬が確認される。御林跡遺跡２号終末期方墳同様、頭蓋と大腿骨の接近が認められることから、追葬に際し玄室内で骨化した遺骨を集骨したか、あるいは当初から別の場所で骨化させた遺骨を、後に玄室内に再葬した可能性が考えられる。共伴遺物がないので時期的には不明であるが、地下式横穴墓の形態が酷似する遺構に千草山遺跡103号遺構がある。

千草山遺跡103号遺構は、玄室内からは人骨片・馬歯などが検出され、周溝内や方台部からは須恵器長頸壺などが検出されている。同遺構は７世紀第２四半期後半の144号竪穴及び７世紀第３四半世紀初頭の117号竪穴を削平して構築されており、方台部内の須恵器長頸壺から、最も古い段階として７世紀第３四半世紀後半以降に、須恵器広口長頸壺からは８世紀第１四半世紀代、最も新しい底部回転糸切未調整の土師器坏細片からは、９世紀代の年代観を想定することができることから、７世期第３四半世紀の初葬後、８世期前半と９世紀代に２度に亘って追葬された可能性が考えられる。これら２基の終末期方墳は、羨道部が墓道状に長い階段状を呈し、埋葬施設が比較的天井部の高い地下式横穴の玄室を採用する所に大きな共通点がある。なお、千草山遺跡103号遺構出土の須恵器広口長頸壺と器形が酷似する遺物は、周辺では武士遺跡29号方形墳墓からも検出されている。同遺構は、埋葬施設に御林跡遺跡や台遺跡などの国分寺台周辺の地下式横穴墓とはタイプの異なる単室構造の地下式横穴墓を埋葬施設として採用し、地下式横穴内で集骨された人骨２体を伴う。２体の大腿骨と頭蓋骨が共に接近した状態で玄室奥壁に近い位置から検出しており、２体同時に集骨された可能性が極めて高い。須恵器広口長頸壺は玄室入口部の周溝内から粉々になった状態で検出されており、２体同時集骨後の羨道部埋め戻し後に、玄室入口部の周溝内に意識的に据え置かれたものと察知され、この段階が出土遺物から８世紀第１四半世紀と想定されることから、初葬段階は７世紀末葉の年代観を想定してもよいであろう。なお、主体部は横穴式石室であるが、形状・時期等が類似する古墳として静岡県袋井市山田原Ａ古墳群中の５号墳が存在する（註４）。

以上のことから、台遺跡周辺の地下式横穴墓を採用する終末期方墳は、早いものでは少なくとも７世紀末葉には構築され、追葬可能な地下式横穴墓の性格や出土遺物から９世紀代に至るまで使用されていたものと想定される（註５）。

４．台遺跡Ｃ地点周辺の改葬系区画墓

次に台遺跡Ｃ地点を中心として、周辺の改葬系区画墓を見てみよう。ここでの改葬系区画墓とは、本来旧表土に近い位置に小規模な埋葬施設が存在し、調査による表土剥ぎ取りの結果、埋葬施設が流出した遺構も含めている。台遺跡Ｃ地点では４基の改葬系区画墓が検出された。この内16号遺構を除いた３基の改葬系区画墓からは、何の埋葬施設も検出されなかった。しかし、周辺の諏訪台古墳群では、方台部内径５ｍ規模の終末期小型方墳など、方墳の小型化するものに木棺直葬等の内部施設が、深さ１ｍ以上に及ぶ地山掘り込み墓壙と共に検出される傾向にある。これは、かつて指摘したとおりに、終末期小型方墳は当初から低墳丘であるがゆえに地山掘り込み墓壙を採用する裏付けともなり、翻って考えれば方台部内径が同規模で埋葬施設が検出されない方形周溝からなる遺構には、極めて旧表土に近い位置に小規模な埋葬施設が存在した可能性がますます高くなったと言えよう（註６）。したがっ

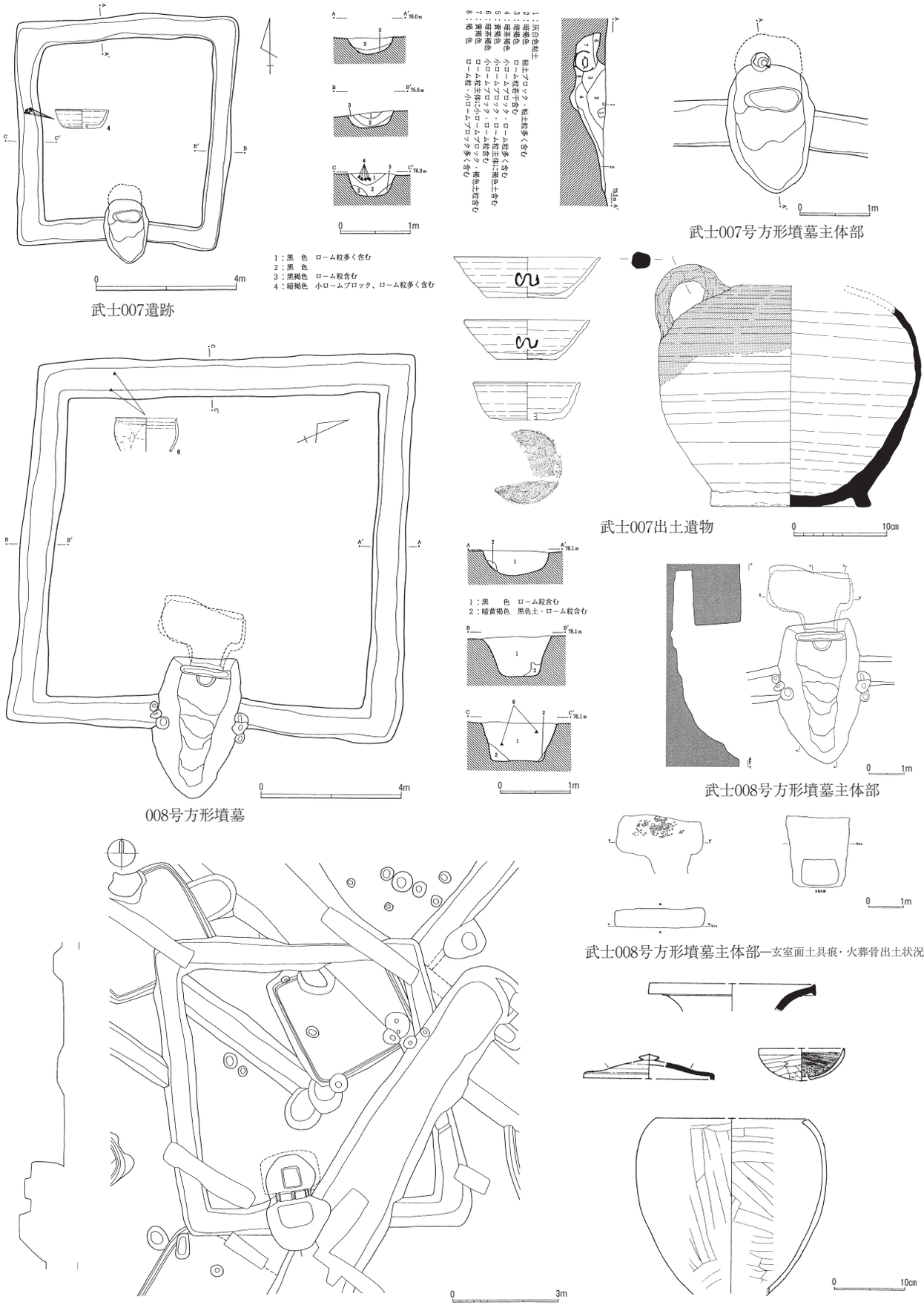
て台遺跡Ｃ地点検出の４基の方形周溝のうち３基は、改葬系区画墓である可能性が極めて高い。

第141図・写真図版54は諏訪台古墳群中における方形区画改葬墓例である。径10m前後の方台部の中央やや東側に偏った位置に、内法1.2×0.6m、高さ40㎝の地下式小型横穴を配し、もはや玄室内での仰臥伸展葬は完全に不可能である。このことは、少なくとも玄室の構築と遺体の改葬が当初から計画的に行われたことを物語っている。即ち、当初から遺体を荼毘には付さない目的を持ち、最終的埋葬地とは別の場所で骨化させ、再び改装骨として葬ることを前提とした最低限の玄室構造を持つ方形区画改葬墓であり、古墳消滅段階に火葬以外の改葬が存在することに大きな意義を持つ。ここで注目したいのは、通常荼毘に付さないのであれば、周溝によって区画された方台部内に従来の古墳葬法で埋葬することが極めて自然的な発想と捉えられるが、わざわざ改葬にしなければならなかった理由が見当たらない。ともあれ、この規模の地下式小型横穴には、荼毘に付さない改装骨を納める用途と、小田部新地遺跡49～51号遺構例の如く、荼毘に付した火葬骨を納める２種類の存在が考えられる。なお、小田部新地遺跡の地下式小型横穴は諏訪台古墳群例より更に一回り小さく、最も大型で土師器蔵骨器を検出した51号遺構で0.7×0.4m高さ0.2m前後であり、最も小型の50号遺構では、0.25×0.31m高さ0.38mを測る。小田部新地遺跡49号遺構はその玄室構造から木櫃等を使用した火葬骨を納める改葬系区画墓と想定される。

市原市武士遺跡では、埋葬施設にさまざまな形態が採用された終末期古墳から改葬系区画墓が42基検出された。この中には、先に紹介した仰臥伸展葬可能な終末期方墳として捉えられる029号方形墳墓、理論的には仰臥伸展葬可能な地下式横穴を採用するが、実体は剥きだしの火葬骨を検出した008号方形墳墓、小田部新地遺跡同様、地下式小型横穴内に蔵骨器を納める007号方形墳墓、類似する小型横穴内からは何の遺物も検出されなかった010・017・030号方形墳墓などがある。この他、同遺跡では方台部内の小土壙中に、擬灰質砂岩製石櫃内に火葬骨を埋納する方形墳墓が計８基検出されている。この擬灰質砂岩製石櫃内に火葬骨を埋納する方形墳墓には、同じ方台部内に木棺直葬系の埋葬施設と共存する034号方形墳墓例もあり注目される。034号方形墳墓には、ひとつの方台部内に４基の埋葬施設が存在する。それらは小土壙内の擬灰質砂岩製石櫃内に火葬骨を納める第１主体部、小土壙内に剥き出しの火葬骨を埋葬する第２主体部、木棺直葬土壙と捉えられる第３・第４主体部であるが何れも埋葬施設も中心的な位置に存在しない。しかし報告者によって比較的中心的な位置を占める第１・第４主体部が第２・第３主体部に先行する可能性が指摘されている（註7）。

５．台遺跡Ｃ地点における律令制墳墓の形態

ここで先ほどふれなかった台遺跡Ｃ地点の、残り１基の改葬系区画墓、即ち「律令制墳墓」にふれておきたい。先ほどの３基とは別に、16号遺構からは、内法1.6×1.2m、玄室内の高さ90㎝前後の地下式横穴が検出され、御林跡遺跡２号墳などの地下式横穴より方台部・玄室とも明らかに一回り小さい。玄門部は比較的広く幅１m前後を測る。仰臥伸展葬が完全に不可能とは言わないが、木棺を縦方向に玄門方向から入れて90度横方向に回転させるには著しく困難な構造の地下式横穴である。あるいは、遺体を菰等で簡単に巻き込み埋葬した可能性も考えられないこともないが、そうした簡略的な埋葬方法であるならば、わざわざ地下式横穴という埋葬施設を採用しなければならない理由が見当たらない。ここで、玄室内中央部が0.5×0.6m深さ20㎝前後で意識的に一段深く掘り込まれていることに



第142図　台遺跡 C 地点周辺の律令制墳墓２

注目したい。地下式横穴墓の中央部が長方形に一段深く掘り込まれている例は、提示した御林跡遺跡２号墳他、全ての墳墓共通の構造であり、かつ玄室内は仰臥伸展葬の木棺を安置するための十分な広さを保持している。しかし本遺構のように、仰臥伸展葬の木棺を安置するには超小型木棺でなければ不可能な例は存在しておらず、かつ、中央部のみ小型長方形に一段掘り下がる例は現在のところ存在していない。構造的に類似する空間例を検索してみると、文武陵に比定される八角墳である中尾山古墳の、特異な横口式石槨例に空間構造が類似している（註８）。同墳墓は90㎝四方の玄室内中央部を60㎝四方に一段掘り窪める構造を呈しており、一段掘り窪められた中央部には、蔵骨器として周辺から検出された金銅製四環壺が納められた火葬墓と想定されていることから、類似する台遺跡Ｃ地点の16号遺構地下式小型横穴中央部には、蔵骨器を安置した改葬系の埋葬施設と想定される。ただし、同玄室内からは何の遺物も検出されなかったことから、木櫃等の蔵骨器が納められていたか、後世の耕作等により蔵骨器が流出してしまった可能性が高い。出土遺物には周溝内から出土した須恵器蓋、土師器坏等があり、その組み合わせから求められる年代観は８世紀初頭を大きく下らないものと想定される（註９）。なお、注目しておきたいのは重複する35号住居一括出土の鉢型土器である。この手の鉢型土器は、大竹遺跡群などでは蔵骨器として使用されている例があり、蔵骨器専用に制作された器であるという（註10）。だとすれば、生活空間としての35号住居に伴う可能性は低く、墳墓としての16号遺構に伴った専用蔵骨器の可能性が極めて高いといえよう。

６．おわりに

台遺跡Ｃ地点の改葬系区画墓の埋葬施設の一つが、特異な形態の地下式横穴墓であり、構造的にも仰臥伸展葬での埋葬が困難であることや、重複する35号竪穴住居一括出土の鉢型土器が専用蔵骨器の可能性が高いことから、本来本遺構の玄室内に納められた蔵骨器であった可能性が高い。したがって本遺構は「律令制墳墓」の一形態と見做してよいものと思われる。また、出土遺物から、本遺構の成立段階は８世紀初頭と想定され、畿内や遠江での純粋な「律令制墳墓」の成立段階とほぼ同時期段階であることから、今後、上総中枢域の「律令制墳墓」の成立段階が、ほぼ同時期には成立していた上総国府との共存関係の中で捉えていくべき課題であろう。

８世紀初頭段階には、国府域に近い市原市内においてでさえ、なお終末期方墳は存在している。たとえば外迎山遺跡や上原台遺跡では、８世紀初頭前後に成立した遺跡内最大方墳を中心として環状に墳墓群が巡っている。これら墳墓群の成立段階は、確かに８世紀初頭の終末期方墳を盟主として成立してはいるが、次段階以降は火葬を主体とする「律令制墳墓」へと移行し始めている（註11）。

これらのことから、国府成立段階には明確な墳墓規制が認められないものの、８世紀中葉に近い前半代には、明らかに中央からの規制と捉えられる仰臥伸展葬の高塚墳墓ではない「律令制墳墓」に移行し始めており、当域の墓制を含めて律令制文化が国府域から周辺地区に次第に浸透し始める様相が捉えられよう。

注及び引用参考文献

註１　「方形周溝状遺構」・「方形周溝」の名称を使用する主な文献には下記がある。

後藤和民　「千葉市すすき山遺跡発掘調査概報」『貝塚博物館紀要第５号』加曽利貝塚博物館1974

金丸　誠　「房総における方形・円形周溝について」『研究連絡誌第１号』（財）千葉県文化財センター1982

「方形墳墓」・「方形区画墓」の名称を使用する主な文献には下記がある。

笹生　衛　「古代の信仰」『歴史時代（１）房総考古ライブラリー７』（財）千葉県文化財センター1993

小澤　洋　『打越岱遺跡』（財）君津群市文化財センター1989

當眞嗣史　「上総・安房国の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会1995

田中清美　「方形区画墓等に見る時代（地域）様相－上総国養老川流域を主として－」『駒澤考古30号』駒澤大学考古学研究室2005

これらの遺構全てを「古墳」として包括する主な文献には下記がある。

田中新史　「出現期古墳の理解と展望」『古代第77号』早稲田大学考古学会1984

田中新史　「古墳時代終末期の地域色－東国の地下式系土壙墓を中心として－」『古代探叢Ⅱ』早稲田大学出版部1985

渡辺修一　「古代国家成立後の古墳」『千葉市新久遺跡（３）』（財）千葉県文化財センター1991

なお、同氏の方形周溝状遺構に関わる論考も列挙する。

渡辺修一　「群小区画墓の終焉期－所謂方形周溝状遺構をどう見るか－」『研究連絡誌第６号』（財）千葉県文化財センター1983

渡辺修一　「群小区画墓の終焉期（２）－方形周溝状遺構における埋葬施設の新例とその検討－」『研究連絡誌第14号』（財）千葉県文化財センター1985

渡辺修一　「群小区画墓の終焉期（３）－古墳と土壙墓－」『千葉県文化財センター研究紀要16』（財）千葉県文化財センター1995

註２　木對和紀　「房総における改葬系区画墓の出現期」『市原市文化財センター研究紀要１』財団法人市原市文化財センター1987

木對和紀　「房総における改葬系区画墓の出現期Ⅱ」『倉田芳郎先生古希記念　生産の考古学』同正社1997

註３　半澤幹雄ほか『市原市武士遺跡１』財団法人千葉県文化財センター1996

木村泰彦　「第２章　長岡京跡右京第130次調査概要」『長岡京市埋蔵文化財調査報告書２』（財）長岡京市埋蔵文化財センター1985

綿貫邦男　『鳥羽遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団1990

浅野雅則ほか　「雉ノ台遺跡」『飯塚遺跡群発掘調査報告書』八日市場市教育委員会1986

註４　佐野五十三　「静岡県の奈良･平安時代の墓制について」『第５回東日本埋蔵文化財研究会　東日本における奈良･平安時代の墓制―墓制をめぐる諸問題―』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会1995

註５　半田堅三　『市原市台遺跡Ｂ地点』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ　市原市教育委員会2003

木對和紀　『市原市辺田古墳群･御林跡遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅡ　財団法人市原市文化財センター･市原市教育委員会2004

木對和紀　『市原市御林跡遺跡Ⅱ』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅧ　市原市教育委員会2008

田中新史 「古墳時代終末期の地域色－東国の地下式系土壙墓を中心として－」『古代探叢』早稲田大学出版部 1986

ここでは結果的に地下式横穴墓を埋葬施設とする終末期方墳だけが取り上げられたが、国分寺台地区の終末期方墳の主体は、諏訪台古墳群等における木棺直葬墳であり、稀に軟砂岩切石積横穴式石室や地下式横穴が終末期方墳の内部主体となる。ちなみに、台遺跡周辺の整理・報告済遺跡では御林跡遺跡における終末期古墳および改葬系区画墓では、埋葬施設が地下式横穴墓１基・木棺直葬２基・木棺直葬痕跡１基・方台部内無墓壙４基の計８基が確認され、台遺跡Ｂ地点では３基の方台部内無墓壙の方墳ないしは改葬系区画墓が検出されており、Ｃ地点と合わせ合計８基が検出されている。更に台遺跡Ｅ地点上層の西谷古墳群北支群からは４基の終末期方墳が検出されており、３基の木棺直葬墳と１基の軟砂岩切石積横穴式石室が検出されている。

なお、房総では仰臥伸展葬や追葬が可能な地下式横穴墓を埋葬施設として採用する方形周溝からなる遺構は、供伴遺物が明らかに古墳時代終末期に属するものでも、終末期方墳から除外される傾向がある。まして出土遺物が伴わないものや、奈良・平安時代に時期が下るものは、遺構自体が終末期方墳と識別できなくとも、歴史時代の遺構であるとの理由から全て終末期古墳から切り離され、「方形墳墓」や「方形区画墓」などと個人的レベルで総称されているのが実情である。これらの終末期古墳に対して今後なお「方形墳墓」や「方形区画墓」等の名称を使用し続けるなら、古墳時代終末期の共伴遺物が伴い、明らかに横穴墓の系譜を引継ぐ地下式横穴墓を埋葬施設として採用する方形周溝からなる遺構を、明らかに終末期方墳の範疇から除外されることを論理で証明するしかないであろう。また､同様の理由で､仰臥伸展葬可能な木棺直葬方墳を方墳と称せず「方形墳墓」や「方形区画墓」と総称しているが､なにを根拠に終末期方墳から除外されるのかの十分な説明が必要であろう。

註６　田川　良　『生谷』生谷遺跡発掘調査団

千田幸生ほか　「羽根戸遺跡」『吉岡遺跡群』四街道市吉岡遺跡群発掘調査会

諏訪台古墳群は現在整理中であるため、詳細については後日を待たねばならないが、方墳の小型化したものに埋葬施設が伴う例として上記の遺構が存在する。事例として提示できる方墳の最小規模には、羽根戸遺跡における方台部短径4.8m規模の方墳が存在する。

註７　半澤幹雄ほか　『市原市武士遺跡１』財団法人千葉県文化財センター1996

註８　網干善教ほか　『史跡中尾山古墳環境整備事業報告書』明日香村教育委員会1975

同氏は、法隆寺夢殿等の八角円堂と称される八角建築が、必ずしも仏教思想に基づくものではなく、また天皇の仏教崇拝から八角墳が成立したのではなく、天皇の御座である高御座が八角形であることや、万葉集における「八隅知之」が天下国家を治める意味があるとし、八角・八隅の語源には、国を統治する意味があるとしている。

註９　木對和紀　「房総における改葬系区画墓の出現期Ⅱ」『倉田芳郎先生古希記念　生産の考古学』同正社1997

かつて改葬系区画墓の出現期を８世紀の中葉に近い前半代としたが、本例が正しければ８世紀初頭段階となり、八角墳の中尾山古墳や上円下方墳の清水柳北１号墳とほぼ同時期の所産となる。なお、超小型木棺内に改葬骨を納めた可能性も否定できないが、諏訪台遺跡の改葬墓を含め周辺の地下式横穴墓系埋葬施設に人骨が残る例が比較的多いことに対して、骨粉すら残らないことも本遺構が火葬系の埋葬施設を採用していた事の裏付けとなろう。なお、16－２は須恵器蓋として報告したが、口唇部の面取り等から可能性としては須恵器高盤ないしは盤である可能性もあるが、何れにせよ８世紀初頭段階の遺物であることには変わりはない。

註10　稲葉智明　『大竹遺跡群Ⅱ』（財）君津群市文化財センター1993

稲葉智明　『大竹遺跡群Ⅳ』（財）君津群市文化財センター1995
稲葉智明　「大竹遺跡群」『千葉県史資料編考古３奈良・平安時代』1998
山口耕一　「専用型蔵骨器と転用型蔵骨器について」『第５回東日本埋蔵文化財研究会　東日本における奈良・平安時代の墓制―墓制をめぐる諸問題―』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会1995

山口氏によって、35号竪穴一括出土の鉢型土器に類似する形態の器については、専用蔵骨器として埋納される例から、転用蔵骨器ではなく専用蔵骨器とされている。

註11　木對和紀　「外迎山遺跡」『外迎山遺跡・山見塚遺跡・唐沢遺跡』（財）市原市文化財センター1987
田中清美　『奉免上原台遺跡』（財）市原市文化財センター1992
田中清美　「方形区画墓等に見る時代（地域）様相－上総国養老川流域を中心として－」『駒澤考古30』駒澤大学考古学研究室2005
須田　勉　「古代地方豪族と造寺活動－上総国を中心として－」『古代探叢』1980

７世紀末葉から８世紀にかけての房総では、郡司層レベルを中心とする古代寺院が郡単位で出現し、これに私的寺院的な一堂規模の小規模寺院が追随し、あたかも白鳳・奈良仏教文化が房総でも盛大に開花したかの様相を呈示している。しかし筆者は、初期の律令制開始期における古代寺院の成立の背景には、必ずしも熱心な仏教崇拝に基づいた純粋な造寺活動とは捉えておらず、須田氏が指摘しているとおり、造寺活動を行うことによって間接的に得られる合法的な土地搾取もあったと見ており、このことからも房総における律令制墳墓の成立段階における火葬や改葬の開始は、必ずしも純粋な仏教思想に基づくものではなく、間接的な土地搾取を目論んだ地方での律令制導入に伴う受容結果の産物と捉えている。ただし、この造寺活動は積極的に律令文化の波を吸収することに連なり、結果として仏教文化が浸透していったのであり、ここに房総における火葬や改葬墓の定着があったと推定される。

追伸　渡邊邦雄　「律令墓制」の変遷『日本考古学第27号』日本考古学協会2009

本稿脱稿後に上記文献と遭遇した。同氏は律令時代の墓制を中心として「律令墓制」を論考しているのに対し、筆者は律令時代の墳墓の総称として「律令制墳墓」を使用しており、似て非なるものである。ただし、偶然にも類似する名称になってしまったが、故意によるものではない。

第３表　台遺跡Ｃ地点出土土器観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種	出土位置	法量（推定）cm			（外）色調	焼成	胎土	特徴	備考
				遺存度		口径	底径	器高	（内）色調				
1	1	方周2-4	2	弥生甕　口縁部	西側周溝				10YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
1	2	方周2-4	1	弥生甕　口縁部	西側周溝				10YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　施ナデ。	
2	1	方周5-4	1	土師器甕 底部1/4弱	西側周溝		(8.2)		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ後施ミガキ。	底部外面木葉痕あり。
2	2	方周5-4	3	須恵器　高台付坏 底部1/4弱	西側周溝		(10.0)		2.5Y7/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
2	3	方周5-4	2	弥生壺 底部1/4	西側周溝				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　施ミガキ。 内　器面剥離。	
2	4	方周5-3	1	土師器坏（カワラケ） 底部1/4	南側周溝				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	外面底部回転糸切り後ケズリカス付着のまま焼成。
2	5	方周5-4	6	縄文深鉢　口縁部	西側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、口縁部に２条の平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
2	6	方周5-3	3	弥生壺　胴部	南側周溝				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　櫛描き波状文と平行沈線。 内　施ナデ。	
2	7	方周5-3	4	土師器甕　胴部	南側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
2	8	方周5-4	5	弥生壺　胴部	西側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線の上位に羽状縄文。 内　器面剥離。	
2	9	方周5-3	5	弥生甕　胴部	南側周溝				7.5YR2/2黒褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　細縄文。 内　施ナデ。	北関東系土器。
2	10	方周5-3	2	弥生壺　胴部	南側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文、他施ナデ。 内　施ナデ。	
2	11	方周5-4	7	縄文深鉢　口縁部	西側周溝				7.5YR4/4褐色	良好	金雲母多	外　沈線文と縄文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
2	12	方周5-2	1	縄文深鉢　胴部	東側周溝				7.5YR4/4褐色	良好	砂粒多	外　平行沈線文と縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
4	1	方周3-4	2	弥生壺 底部1/6	一括		(6.8)		7.5YR4/3褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　ハケ後施ミガキ。 内　器面剥離。	
4	2	方周3-4	1	弥生壺 底部1/3	一括		(6.0)		7.5YR4/4褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　摩耗。 内　摩耗。	
4	3	方周3-4	3	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/6黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
4	4	方周3-3	3	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
4	5	方周3-2	4	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR4/6赤褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
4	6	方周3-3	4	弥生壺　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、口縁部棒状工具によるキザミ。 内　施ナデ。	
4	7	方周3-2	3	弥生壺　口縁部	一括				10R5/6赤色 10R4/6赤色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他施ミガキ。 内　施ミガキ。	内外面赤彩。
4	8	方周3-3	1	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
4	9	方周3-2	2	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文内に細縄文、他施ミガキ。 内　施ナデ。	外面赤彩（7.5R4/4にぶい赤色）
4	10	方周3-4	4	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
4	11	方周3-3	2	土師器甕　胴部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
4	12	方周3-4	8	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　重四角文の左右に半截竹管による２連の連続刺突文間に細縄文。 内　篦ナデ。	
4	13	方周3-3	5	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	
4	14	方周3-4	5	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ後沈線による格子文。 内　器面剥離。	
4	15	方周3-4	7	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR3/3暗褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　縄文。 内　器面剥離。	加曽利Ｅ式土器。
4	16	方周3-2	5	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	金雲母含む	外　角押文の連続押し引き。 内　ナデ。	
5	1	方周1-3	3	縄文晩期壺 頸～胴部1/8	西側周溝	(9.0)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　頸部～胴部浮線網状文による隆帯で文様構成、他篦ミガキ。 内　頸部剥離、胴部篦ナデ。	内外面口縁部沈線工字文に赤彩を施す。千網式土器（大洞系）。
5	2	方周1	1	弥生壺　完形	一括	7.9	5.2	14.1	10R4/6赤色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、脚部縦方向の篦ミガキ後上位に横方向の篦ミガキを施す、底部全面篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ、底部全面篦ミガキ、。	外面全面・内面口縁部赤彩。
5	3	方周1-1	1	土師器甕 口縁1/2・胴部1/8	東側周溝	15.6			7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口唇部一部ナデ、口縁部ハケ、頸～胴部篦ナデ。 内　口唇部一部ナデ、口縁部ハケ、頸～胴部篦ナデ。	
5	4	方周1-3	2	弥生甕 底部1/2	西側周溝		5.6		10YR4/2灰黄褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
5	5	方周1-1	3	土師器甕 底部1/4	東側周溝		(7.4)		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	底部外面木葉痕あり。
5	6	方周1-1	4	弥生甕 底部1/4	東側周溝		(6.8)		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
5	7	方周1-3	4	縄文深鉢 底部1/8強	西側周溝		(12.0)		7.5YR5/4にぶい褐色 2.5Y4/1黄灰色	良好	砂粒含む	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
5	8	方周1-3	1	弥生甕 底部1/4強	西側周溝		(6.6)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
5	9	方周1-1	2	土師器甕 底部1/2強	東側周溝		7.8		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
5	10	方周1-2	1	弥生甕 底部完存	南側周溝		6.5		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
5	11	方周1-1	5	弥生甕 底部1/4欠	東側周溝		4.3		10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　器面剥離。	
5	12	方周1-3	15	縄文晩期鉢　口縁部	西側周溝				7.5YR4/3褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線と篦ミガキ。 内　篦ナデ。	唐沢式土器。
5	13	方周1-3	16	縄文晩期鉢　口縁部	西側周溝				10YR4/1褐灰～10YR6/3にぶい黄橙色 10YR7/3にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、他沈線と篦ナデ。 内　篦ナデ。	千網式土器（大洞系）。
5	14	方周1-1	8	弥生壺　胴部	東側周溝				7.5YR6/6橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　流水文。 内　篦ナデ。	
5	15	方周1-3	3-1	縄文晩期壺　胴部	西側周溝				2.5Y6/4にぶい黄色	良好	砂含む	外　浮線網状文による隆帯で文様構成。 内　篦ナデ。	千網式土器（大洞系）。
5	16	方周1-3	3-3	縄文晩期壺　胴部	西側周溝				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　浮線網状文による隆帯で文様構成。 内　篦ナデ。	千網式土器（大洞系）。
5	17	方周1-4	4	縄文深鉢　胴部	北側周溝				7.5YR4/3褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
5	18	方周1-4	1	縄文晩期鉢　胴部	北側周溝				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　沈線による綾杉文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
5	19	方周1-3	3-2	縄文晩期壺　胴部	西側周溝				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　浮線網状文による隆帯で文様構成。 内　篦ナデ。	千網式土器（大洞系）。
5	20	方周1 主体部	5	弥生壺　胴部	主体部一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　ハケ後平行沈線文。 内　ナデ。	
5	21	方周1-4	3	弥生甕　口縁部	北側周溝				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
5	22	方周1-4	2	弥生甕　口縁部	北側周溝				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
5	23	方周1-2	3	弥生甕　口縁部	南側周溝				10YR4/1褐灰色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　ハケ。	
5	24	方周1-1	6	弥生甕　口縁部	東側周溝				2.5Y4/2暗灰黄色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
5	25	方周1 主体部	1	弥生壺口縁部	主体部一括				7.5YR6/4にぶい橙～10R5/6赤色 10R5/6赤色	良好	密	外　口縁部細縄文、頸部篦ナデ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
5	26	方周1-3	7	弥生壺口縁部	西側周溝				2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　口唇部下にハケ状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　ハケ。	
5	27	方周1 主体部	7	弥生甕口縁部	主体部一括				2.5YR2/1黒色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
5	28	方周1 主体部	6	弥生甕口縁部	主体部一括				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
5	29	方周1-3	10	土師器壺口縁部	西側周溝				7.5YR5/6明褐～10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
5	30	方周1-1	11	弥生甕　口縁部	東側周溝				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
5	31	方周1-3	12	弥生甕　口縁部	西側周溝				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
5	32	方周1-1	12	弥生甕　口縁部	東側周溝				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　口唇部ハケ状工具による連続刺突文、他篦ナデ。	
5	33	方周1-1	13	弥生壺　口縁部	東側周溝				10YR6/4にぶい黄橙～5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
5	34	方周1-1	14	縄文深鉢　口縁部	東側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	砂粒多	外　折り返し口縁、他横方向の撚糸文。 内　器面剥離。	早期撚糸文系土器。
5	35	方周1 主体部	4	弥生甕口縁部	主体部一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒含む	外　ハケ。 内　口唇部折り返し口縁、口縁部細縄文。	
5	36	方周1-1	17	弥生甕口縁部	東側周溝				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文後３条のＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
5	37	方周1-3	9	弥生壺　口縁部	西側周溝				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
5	38	方周1 主体部	3	弥生甕　胴部	主体部一括				7.5YR4/2灰褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ハケ。	
5	39	方周1-3	13	弥生甕　胴部	西側周溝				10YR5/3にぶい黄褐～10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
5	40	方周1 主体部	2	弥生甕　胴部	主体部一括				10YR6/3にぶい黄橙色 5Y5/1灰色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　器面摩耗。	
5	41	方周1-1	7	弥生壺　胴部	東側周溝				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文一部区画外にも細縄文が施される。 内　篦ナデ。	
5	42	方周1-3	11	弥生壺　胴部	西側周溝				10YR6/4にぶい黄橙色 2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
5	43	方周1-1	10	弥生甕　胴部	東側周溝				10YR4/2灰黄褐～2.5YR4/4にぶい赤褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他施ミガキ。 内　施ナデ。	外面施文以外赤彩。
5	44	方周1-1	9	弥生壺　胴部	東側周溝				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に縄文、他施ミガキ。 内　施ナデ。	
5	45	方周1-2	2	弥生壺　胴部	南側周溝				7.5YR5/6明褐～2.5YR4/6赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文と施ナデ後一部施ミガキ。 内　施ナデ。	外面施文以外赤彩。
5	46	方周1-2	6	縄文深鉢　口縁部	南側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　楕円形区画文。 内　施ナデ。	
5	47	方周1-3	14	縄文深鉢　口縁部	西側周溝				10YR4/3にぶい黄褐色 7.5YR4/6褐色	良好	砂・金雲母多く含む	外　角押文による押引き文での楕円形文、一部凸帯に貼り付け。 内　施ナデ。	阿玉台式土器。
5	48	方周1-2	4	縄文深鉢　胴部	南側周溝				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　凸帯部に指頭押捺文、他平行沈線文。 内　施ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
5	49	方周1-2	5	縄文深鉢　胴部	南側周溝				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　施ナデ。	
5	50	方周1-2	7	須恵器甕　胴部	南側周溝				5Y5/1灰色	良好	密	外　平行叩き後回転カキ目。 内　青海波の半磨り消し（ナデ）。	
6	1	方周14-2	3	弥生壺 底部1/4	南側周溝		(8.0)		7.5YR6/6橙色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　施ナデ。	
6	2	方周14-2	1	弥生壺 底部1/2	南側周溝		7.0		5YR5/8明赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	外面底部赤彩。
6	3	方周14-2	2	弥生壺 底部1/2弱	南側周溝		6.4		7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ケズリ。	
6	4	方周14-2	4	縄文深鉢 底部3/8	南側周溝		(19.4)		7.5YR5.4にぶい褐色 2.5YR5/6明褐色	良好	1～4㎜大の礫含む	外　縄文、他施ミガキ。 内　ナデ。	
6	5	方周14-2	6	弥生甕　口縁部	南側周溝				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	３ｍｍ大の礫含む	外　口唇部指頭押捺文、他施ナデ。 内　施ナデ。	
6	6	方周14-2	7	弥生甕　口縁部	南側周溝				7.5YR7/6橙色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
6	7	方周14-2	12	縄文粗製鉢　胴部	南側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	1～3㎜大の礫多量に含む	外　縄文。 内　ナデ。	粗製鉢形土器。
6	8	方周14-1	2	縄文深鉢　胴部	東側周溝				5YR3/1黒褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　撚糸文。 内　ナデ。	早期撚糸文系土器（稲荷台式土器）。
6	9	方周14-2	9	縄文深鉢　胴部	南側周溝				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
6	10	方周14-1	1	縄文深鉢　口縁部	東側周溝				5YR6/6明赤褐色	良好	金雲母含む	外　口唇部と口縁部に粘土紐による隆帯貼り付け、口唇部に棒状工具によるキザミ角押文による連続刺突文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
6	11	方周14-2	11	縄文深鉢　胴部	南側周溝				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　条痕文。	早期撚糸文系土器（茅山式土器）。
7	1	方周4-4	2	弥生壺 底部1/4弱	北側周溝		(6.8)		2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　器面剥離。	外面赤彩。
7	2	方周4-4	1	弥生甕 底部1/4	北側周溝		(7.4)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	底部外面木葉痕あり。
7	3	方周4-4	4	弥生甕　口縁部	北側周溝				7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ。	
7	4	方周4-4	3	弥生壺　口縁部	北側周溝				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他施ナデ。 内　施ナデ。	
7	5	方周4-3	17	弥生壺　胴部	西側周溝				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
7	6	方周4-4	8	弥生壺　胴部	北側周溝				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画内細縄文。 内　施ナデ。	
7	7	方周4-4	5	弥生壺　胴部	北側周溝				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と細縄文。 内　器面剥離。	
7	8	方周4-4	16	弥生壺　胴部	北側周溝				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　施ナデ。	
7	9	方周4-4	11	縄文深鉢　口縁部	北側周溝				5YR3/6暗赤褐色	良好	砂粒多	外　半截竹管による押引き文。 内　ナデ。	N0-14と同一個体。阿玉台式土器。
7	10	方周4-3	9	縄文深鉢　口縁部	西側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文。 内　施ミガキ。	
7	11	方周4-4	13	縄文深鉢　胴部	北側周溝				7.5YR4/4褐色	良好	金雲母含む	外　角押文。 内　ナデ。	
7	12	方周4-3	6	縄文深鉢　胴部	西側周溝				2.5YR4/6褐色	良好	密	外　外変形爪形文。 内　施ナデ。	浮島系式土器。
7	13	方周4-3	15	縄文深鉢　胴部	西側周溝				2.5Y5/2暗灰黄色	良好	金雲母含む	外　角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
7	14	方周4-4	10	縄文深鉢　口縁部	北側周溝				5YR3/6暗赤褐色	良好	砂粒多	外　半截竹管による押引き文。 内　ナデ。	N0-9と同一個　体。阿玉台式土器。
9	1	方周11-3	1	弥生壺 底部1/4	南側周溝		(8.4)		10YR6/6明赤褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　器面剥離。	
9	2	方周11-3	2	弥生甕 底部1/4	南側周溝		(6.8)		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　器面剥離。	
9	3	方周11-3	5	土師器甕 底部1/2	南側周溝		6.0		2.5YR5/6明赤褐色 10R5/8赤色	良好	密	外　施ナデ。 内　ナデ。	外面底部に意味不明の線刻。
9	4	方周11-3	3	土師器坏（カワラケ） 底部完存	南側周溝		4.9		2.5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	外面底部静止糸切りをナデ消す。
9	5	方周11-3	6	縄文深鉢　胴部	南側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　平行沈線文、棒状工具による連続刺突文。 内　器面剥離。	加曽利Ｂ式土器。
9	6	方周11-3	8	縄文深鉢　胴部	南側周溝				10YR3/1黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
10	1	方周8 主体部	4	土師器坏 口縁1/4	主体部一括	(14.4)			2.5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
10	2	方周8-4	1	弥生壺 底部1/4	南側周溝		(7.0)		7.5YR6/6橙色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
10	3	方周8 主体部	1	弥生壺 底部1/3強	主体部一括		(5.8)		2.5YR6/6橙色 5YR7/6橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ後粗い施ミガキ。	
10	4	方周8-4	2	弥生甕　口縁部	南側周溝				5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
10	5	方周8-4	3	弥生壺　胴部	南側周溝				10YR3/3暗褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　棒状工具によるキザミ、他ハケ。 内　施ナデ。	
10	6	方周8 主体部	2	縄文深鉢　口縁部	主体部一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	金雲母含む	外　口唇部棒状工具によるキザミ、他角押文による連続刺突文。 内　施ナデ。	
11	1	方周6-4	1	弥生壺 底部3/4	北側周溝		8.0		7.5YR4/3褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　施ナデ後施ミガキ。	
11	2	方周6-2	1	弥生壺 底部1/4弱	南側周溝		(7.8)		10YR3/2黒褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　摩耗。	
11	3	方周6-4	3	弥生壺 底部1/8	北側周溝		(6.4)		7.5YR4/3褐色 10R5/8赤色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	底部外面木葉痕あり。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
11	4	方周6-4	2	手捏土器 底部1/3	北側周溝		(3.6)		10YR6/4明黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
11	5	方周6-1	1	弥生甕　口縁部	東側周溝				10YR4/2灰黄褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
11	6	方周6-1	3	弥生壺　胴部	東側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　沈線による綾杉文。 内　ナデ。	
11	7	方周6-1	2	弥生壺　胴部	東側周溝				5YR6/8橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　粗い縄文。 内　篦ナデ。	
11	8	方周6-4	4	縄文深鉢　胴部	北側周溝				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　ナデ。	加曽利ＥⅣ式土器。
11	9	方周6-1	5	縄文深鉢　胴部	東側周溝				7.5YR4/1灰褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　粗い縄文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
11	10	方周6-1	4	縄文深鉢　胴部	東側周溝				7.5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　平行沈線内にキザミ目、円形竹管の刺突文。 内　ナデ。	関山式土器。
13	1	方周7-4	1	土師器鉢 口縁1/5弱	北側周溝	(15.2)			5YR5/6明赤褐色5YR6/8橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
13	2	方周7-1	1	弥生壺 底部1/4	東側周溝		(8.8)		2.5YR4/4にぶい赤褐色 5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
13	3	方周7-2	1	弥生壺 底部1/4弱	南側周溝		(7.0)		7.5YR4/6褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
13	4	方周7-1	2	弥生甕 底部1/4弱	東側周溝		(5.0)		7.5YR4/2灰褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　器面剥離。	
13	5	方周7-4	3	弥生壺　口縁部	北側周溝				7.5YR7/6橙色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
13	6	方周7-1	3	弥生壺　胴部	東側周溝				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1～3㎜大の礫含む	外　沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離。	
13	7	方周7-4	2	弥生壺　胴部	北側周溝				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線による山形文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
13	8	方周7-1	4	弥生壺　胴部	東側周溝				7.5YR4/4褐色 7.5YR5/8明褐色	良好	密	外　羽状縄文間にＳ字状結節文。 内　器面剥離。	
13	9	方周7-1	5	縄文深鉢　口縁部	東側周溝				2.5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　ナデ。	早期条痕文系土器。
13	10	方周7-4	4	縄文深鉢　口縁部	北側周溝				7.5YR4/4褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	金雲母含む	外　口唇部にキザミ目、口唇部直下に一条の沈線、沈線下位に粘土紐貼り付による隆帯にキザミ目を施す、隆帯下には沈線を挟んで上下に角押文による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
13	11	方周7-1	6	縄文深鉢　胴部	東側周溝				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　角押文押し引き。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
16	1	地下式1	4	須恵器甕 口縁1/8	一括	(23.6)			5Y6/3オリーブ黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	内外面自然釉付着。
16	2	地下式1	5	須恵器蓋 口縁1/6	一括	(18.8)			5Y5/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形、天井部回転篦ケズリ。 内　ロクロ整形、天井部回転ナデ。	
16	3	地下式1	1	土師器坏 口縁1/4弱	一括	(12.2)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内面の一部に黒褐色の油煙が付着する。
16	4	地下式1	3	土師器甕 底部1/4弱	一括		(9.0)		7.5YR4/4褐色	良好	砂粒多	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
16	5	地下式1	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部内外面にハケ状工具による押捺文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
16	6	地下式1	9	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　ハケ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
16	7	地下式1	15	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線によるワラビ手文。 内　ナデ。	堀ノ内式土器。
16	8	地下式1	12	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　縄文（器面摩耗）。 内　器面剥離。	加曽利Ｅ式土器。
16	9	地下式1	14	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線と縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
16	10	地下式1	11	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ミガキ。	堀ノ内式土器。
16	11	地下式1	10	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　条線文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｂ式土器。
16	12	地下式1	13	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/4にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	堀ノ内式土器。
17	1	改葬系 区画墓10	1	須恵器平瓶 口縁1/2のみ	一括	6.6			5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形自然釉付着。 内　ロクロ整形自然釉付着。	
20	1	1	2	弥生甕 口縁1/3残	床＋13	(15.0)			2.5Y3/1黒褐色 10YR5/3にぶい黄橙色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺文、他ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
20	2	1	4	弥生甕 口縁1/5残	床＋14	(20.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	右親指爪痕残る。
20	3	1	19	弥生甕 口縁1/16弱残	一括	(18.0)			10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部面取り、他ハケ。 内　ハケ後篦ナデ、一部篦ミガキ。	
20	4	1	39	弥生小壺 口縁1/2強残・底部全欠	一括	5.2			2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部の端部６ヶ所に径２．５ｍｍ程の焼成前穿孔突帯、頸部篦ナデ、他篦ミガキ。 内　折り返し口縁、他篦ナデ。	内外面折り返し口縁赤彩。
20	5	1	1	弥生壺 口縁全欠・胴部2/3 底部完存	床直		3.4		10R4/6赤～10YR6/4にぶい黄褐色	良好	1～2㎜の礫含む	外　口縁部下端にキザミ、胴部の沈線上位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面胴部の中位まで赤彩、内面頸部まで赤彩。
20	6	1	8	弥生甕 底部3/4	床＋13		5.6		10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
20	7	1	10	弥生甕 底部完存	一括		6.0		7.5YR4/1褐灰色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	8	1	9	弥生甕 底部完存	床＋10		6.0		5YR5/4にぶい赤褐色 10YR5/1褐灰色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
20	9	1	11	弥生甕 底部1/2強残	一括		7.2		10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　器面剥離激しい。	
20	10	1	7	弥生壺 底部完存	床＋13		4.0		2.5YR4/2暗灰黄色	良好	微砂粒含む	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	11	1	5	弥生甕 底部完存	床＋15		6.4		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
20	12	1	6	弥生甕 底部1/2残	床-19		7.9		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	13	1	13	中世磨り鉢 口縁1/16弱残	一括	(27.6)			7.5YR5/3にぶい褐色	良好	1～3㎜大の礫含む	外　口唇部面取り、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面一部指圧痕あり、磨り鉢の掻き目は遺存していない。
20	16	1	20	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	17	1	21	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	18	1	16	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	19	1	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
20	20	1	29	弥生甕　口縁部	床＋13				10YR4/2灰黄褐色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他ハケ。 内　ハケ。	
20	21	1	18	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　口唇部細縄文、他施ナデ（条線状）。 内　条線状による施ナデ。	
20	22	1	26	弥生壺胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　条線状によるハケ、他細縄文。 内　施ナデ。	
20	23	1	25	弥生壺　胴部	一括				10YR2/1黒色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　舌状文。 内　施ナデ。	
20	24	1	23	弥生壺　胴部	一括				10R4/4赤褐～10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離。	外面施文以外赤彩。
20	25	1	27	弥生壺　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　施ミガキ、他細縄文。 内　施ナデ。	
20	26	1	30	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR2/4灰褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部の一部に粘土紐巻き上げ痕が残る、他櫛描き文。 内　器面摩耗。	加曽利土器？
20	27	1	31	縄文浅鉢　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　施ナデ。	
20	28	1	36	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/2灰褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯にキザミ目、他縄文。 内　ナデ。	五領ヶ台式土器。
20	29	1	22	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　平行沈線文の上位に半截竹管による連続刺突文。 内　器面剥離。	
20	30	1	38	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　隆帯上に爪形文。 内　ナデ。	諸磯式土器。
20	31	1	35	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
20	32	1	32	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色 5YR5/3にぶい赤褐色	良好	密	外　隆帯による渦巻き文と楕円形文内に縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
20	33	1	33	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色 5YR5/3にぶい赤褐色	良好	密	外　隆帯と縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
20	34	1	34	縄文深鉢　胴部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色 10YR7/3にぶい黄橙色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
21	1	2A	1	土師器甕 口縁1/3	床-15･16	(14.6)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
21	2	2A	2	土師器鉢 口縁1/4弱	床直	(9.4)			7.5YR6/6橙色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ後施ミガキ。 内　施ナデ後施ミガキ。	内面黒色処理。
21	3	2	5	土師器高杯 1/2弱	床直	(16.2)			7.5YR6/6橙色 7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ、脚部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ、脚部施ケズリ。	杯部内面黒色処理。
21	4	2	2	土師器坏 口縁1/4	一括	(9.0)			7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ後一部施ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ後施ミガキ。	
21	5	2	1	土師器坏 口縁1/3欠	一括	9.0		2.9	7.5YR4/6褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	内面黒色処理。
21	6	2	3	土師器坏 口縁1/8	一括	(13.8)			10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	内外面黒色処理。
21	7	2	4	土師器甕 底部完存	一括		7.0		5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　施ケズリ。 内　器面剥離。	外面赤彩。
21	8	2	16	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1灰色 5Y6/1灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波残る。	外面にぶい銀状の光沢。
21	9	2	17	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1灰色 5Y6/1灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波残る。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
21	10	2	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他一部ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
21	11	2	8	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
21	12	2	11	弥生鉢　胴部	一括				2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　沈線上位に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
21	13	2	9	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　重四角文と縄文。 内　篦ナデ。	
21	14	2	19	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	黒浜式土器。
21	15	2	10	弥生壺　胴部	一括				2.5Y4/1黄灰色	良好	密	外　細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
21	16	2	13	弥生壺　胴部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　細縄文の上位は篦ミガキ。 内　器面剥離。	
21	17	2	21	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR8/3浅黄褐色	良好	金雲母含む	外　口縁部下に一条の沈線文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
21	18	2	22	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部下に２条の沈線。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
21	19	2	20	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6赤褐色	良好	密	外　口唇部に２条の平行沈線文と縄文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
21	20	2	15	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線文と縄文。 内　ナデ。	
21	21	2	23	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	金雲母含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯下に縄文と半截竹管による平行沈線文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
21	22	2	24	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	金雲母含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯文と沈線文。 内　ナデ。	
21	23	2	18	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	黒浜式土器。
23	1	8	1	弥生甕 底部1/4	一括		(8.0)		10YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
23	2	8	2	土師器坩 口縁1/4	一括	(10.4)			10YR3/4暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ。	
23	3	8	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ナデ。	
23	4	8	3	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線以下羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
23	5	8	10	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｂ式土器。
23	6	8	4	弥生壺　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線と櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
23	7	8	7	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密（金雲母見当たらない）	外　円形凹周囲に幅広の角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器？
23	8	8	9	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　平行沈線文。内篦ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
23	9	8	6	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	金雲母含む	外　縄文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
23	10	8	8	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	金雲母含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
23	11	8	11	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｂ式土器。
24	1	土坑-22	3	須恵器高台付坏 底部1/8弱	一括		(11.0)		2.5YR6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
24	2	土坑-22	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
24	3	土坑-22	5	弥生壺　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
24	4	土坑-22	6	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　磨り消し、懸垂文、縄文。 内　篦ナデ。	
25	1	9	1	土師器台付鉢 口縁一部欠	カマド内一括	12.8	8.6	14.8	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ、脚裾部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、脚裾部篦ナデ後ナデ。	赤味強いが赤彩ではない。
25	2	9	2	土師器甕 口縁1/4	カマド内一括	(17.6)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
25	3	9	4	土師器坏 ほぼ完形	カマド内一括	12.7	9.5	3.6	2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ。	８Ｃ中葉の土器。赤味強いが赤彩ではない。
25	4	9	5	弥生甕 底部1/2弱	一括		(6.6)		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　器面剥離。	
25	5	9	3	弥生壺 底部1/2	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　底部篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
25	6	9	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
25	7	9	9	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
25	8	9	8	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部細縄文、口縁部おり返し部に指頭押捺文。 内　篦ナデ。	
25	9	9	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文による斜交子文。 内　篦ナデ。	
25	10	9	11	弥生壺　胴部	一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ後細縄文。 内　ナデ。	
25	11	9	10	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ後半截竹管による連続刺突文。 内　ナデ。	
25	12	9	13	縄文深鉢　口縁部	カマド内一括				7.5YR4/6褐色	良好	雲母混入	外　粘土紐貼り付けによる隆帯。 内　粘土紐貼り付けによるＴ字状の隆帯。	阿玉台式土器。
25	13	9	15	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	全雲母含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	阿玉台Ⅳ式土器。
25	14	9	16	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　懸垂文以外に縄文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
25	15	9	14	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	阿玉台Ⅳ式土器。
26	1	7	8	土師器甕 口縁1/8	床直	(21.0)			5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
26	2	7	1	土師器小型甕 口縁1/3～底部2/3欠	床＋6 （土器群内）	15.1	(7.3)	14.9	7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
26	3	7	3	土師器鉢 口縁～底部一部欠	床直	11.4	5.0	8.4	10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
26	4	7	13	土師器坏 口縁1/2強・底部全欠	カマド内一括	15.7			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
26	5	7	12	土師器坏 口縁1/2	一括	17.3	9.7	5.1	7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
26	6	7	31	須恵器高台付坏 1/2残	床＋12	14.2	9.8	4.2	10YR6/1褐灰色	良好	密	外　ロクロ整形、底部回転篦ケズリ後高台貼り付け。 内　ロクロ整形、回転ナデ。	伊場A類、８Ｃ第１後半～第２前。
26	7	7	11	土師器甕 口縁～胴部1/3	床＋6 （土器群内）	（22.2）			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。	
26	8	7	2	土師器甕 底部1/2～口縁全欠	床＋2		6.4		10YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ、一部指押さえ。	指押さえの箇所は器壁が２㎜しかない。
26	9	7	28	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、胴部ハケ。 内　口唇部原体押捺、胴部ハケ。	
26	10	7	29	弥生甕　頸部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　頸部端に棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
26	12	7	24	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	金雲母多量に含む	外　沈線による区画文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
26	13	7	20	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部下の沈線文下に、三角形の押捺文による集合沈線文。 内　ナデ。	土器焼成から見れば後期タイプだが、文様構成から中期初頭五領ヶ台式系土器と考えられる。
26	14	7	23	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　ナデ。	
26	15	7	22	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR2/3極暗褐色	良好	密	外　口縁部に粘土紐貼り付けによる突起、隆帯にキザミ目が施され、口唇部と口縁部下に角押文が施される。 内　ナデ。	
26	16	7	21	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部下凹帯に沈線文と押文を施す。 内　ナデ。	
26	17	7	26	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部に円形刺突文。 内　ナデ。	
26	18	7	27	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部下に半截竹管による爪形文。 内　ナデ。	諸磯式土器。
26	19	7	30	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　隆帯貼り付けの上下に角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。胎土の金雲母は顕著でない。
26	20	7	25	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	金雲母多量に含む	外　縄線による方形区画文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
28	1	3	2	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文施文後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
29	1	4	5	土師器坏（カワラケ） 1/2弱	一括	（8.6）	（5.0）	1.9	10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ロクロ、底部静止糸切り未調整。 内　ロクロ、底部静止糸切り未調整。	
29	2	4	2	土師器坏（カワラケ） 口縁2/3	床＋7	8.1	4.6	1.6	10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ロクロ、底部回転糸切り未調整。 内　ロクロ、底部回転糸切り未調整。	
29	3	4	1	土師器坏（カワラケ） 底部完存～口縁1/2強	床直	8.8	4.2	2.8	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ロクロ、底部回転糸切り未調整。 内　ロクロ、底部回転糸切り未調整。	
29	4	4	4	土師器坏（カワラケ） 底部完存～口縁全欠	一括		4.5		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ロクロ、底部回転糸切り未調整。 内　ロクロ、底部回転糸切り未調整。	底部外面にロクロ台の枝のつぎ目の様な段がある。
30	1	5	3	弥生壺 肩部1/3強	一括				10YR6/4にぶい黄褐色 5YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ、他細縄文。 内　篦ナデ。	外面赤彩（10YR4/6赤色）
30	2	5	1	弥生壺 底部2/3	一括		6.8		7.5YR5/8明褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
30	3	5	2	弥生壺 底部1/3	一括		6.6		10YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
30	4	5	15	手捏土器 完形	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
30	5	5	4	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部左手による指頭押捺文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
30	6	5	7	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	１～４㎜大の礫含む	外　半截竹管による連続刺突文の上下に細縄文。 内　篦ナデ。	
30	7	5	6	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　縄文施文後にＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
30	8	5	5	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6明褐色 10R5/2灰黄褐色	良好	密	外　縄文施文後にＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
30	9	5	10	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色 5YR6/6橙色	良好	金雲母含む	外　口唇部粘土紐貼り付けによる隆帯に沈線と縄文、口縁部下に角押文押引きによる連続刺突文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
30	10	5	13	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR3/3暗褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部折り返しによる隆帯下に沈線による施文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
30	11	5	12	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR3/4暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部折り返しによる隆帯下に沈線による施文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
30	12	5	9	縄文中期深鉢　胴部	一括				7.5YR6/8橙色	良好	１～５㎜大の礫含む	外　円形竹管による刺突文。 内　ナデ。	
30	13	5	8	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/4明褐色	良好	密	外　縄文。 内　器面剥離。	
31	1	12	2	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ。	
31	2	12	3	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
31	3	12	1	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
31	4	12	4	縄文晩期鉢形土器 口縁部	一括				10YR4/6赤色（赤彩部分） 10YR7/3にぶい黄褐色	良好	密	外　浮線網状文間に挟まれた凹部に赤彩を施す。 内　口唇部直下の沈線内に赤彩、他篦ナデ。	千網式土器。
31	5	12	6	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文による舌状文。 内　篦ナデ。	
31	6	12	10	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文と山形文。 内　篦ナデ。	
31	7	12	13	縄文晩期鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　浮線網状文下に撚糸文。 内　ナデ。	大洞系土器。
31	8	12	14	縄文晩期鉢　胴部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　浮線網状文。 内　ナデ。	大洞系土器。
31	9	12	7	弥生公口壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後平行沈線区画の上下に細縄文。 内　ハケ。	
31	10	12	8	弥生壺　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　篦ナデ。	
31	11	12	12	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　頸部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
31	12	12	9	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部に細縄文。 内　篦ナデ。	
34	1	11	1	土師器甕 口縁3/4～胴部1/3欠	床直	(21.3)	(7.4)	27.1	7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
34	2	11	15	土師器甕 口縁1/4～底部1/2	床直	(28.4)	11.0	26.0	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	内面やや摩耗。
34	3	11	2	土師器甕 口縁～胴部1/2弱	床直	(22.0)			5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口縁部以外輪積み残る。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
34	4	11	3	土師器甑 口縁1/4	床-32	(28.9)			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。	
34	5	11	4	土師器鉢 口縁一部欠	床直	10.2	8.0	6.1	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ一部指ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
34	6	11	5	弥生壺 底部2/3	一括		5.6		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
34	7	11	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による押捺文、他ハケ後ナデ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
34	8	11	9	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR4/6にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
34	9	11	10	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部下に沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
34	10	11	11	縄文深鉢　胴部	床直				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　平行沈線文間に縄文。 内　摩耗。	加曽利Ｅ式土器。
34	11	11	12	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　懸垂文と縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
34	12	11	13	縄文深鉢　胴部	床直				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文と縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
34	13	11	14	縄文深鉢　胴部	床直				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文と縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
35	1	10	2	土師器甕 口縁1/2	床＋21	18.4			10YR7/4にぶい黄橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口唇部ナデ、口縁部ハケ、胴部ハケ後一部篦ナデ。	口唇部面取り、口唇部端つまみ上がる。
35	2	10	6	土師器甕 底部1/3	一括		6.0		5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
35	3	10	4	土師器坏 口縁1/5欠	カマドの上	14.6		4.6	7.5YR6/6橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	非常に丁寧な篦ミガキで光沢がある。
35	4	10	5	土師器坏 口縁1/8	一括	(14.4)			5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
35	5	10	10	弥生甕　口縁部	注記なし				5YR3/2暗赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ハケ。	
35	6	10	11	弥生鉢　胴部	注記なし				2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
35	7	10	9	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　平行沈線。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式粗製土器。
35	8	10	8	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線による同心円文と渦巻文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
35	9	10	7	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	
35	10	10	1	土師器甕 口縁1/4・底部1/3欠	カマド内一括	22.8	7.2	30.0	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ後ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
35	11	10	3	土師器深鉢 口縁1/6	一括	(22.0)			5YR6/6橙色 5YR6/8橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
36	1	23	1	土師器坏 口縁近1/8	一括	(16.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
36	2	23	2	土師器坏蓋 口縁部付近1/8	一括	(16.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　篦ケズリ後ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。口唇部欠くが器形的に蓋以外考えられない。
36	3	23	3	弥生甕　胴部	一括				10YR4/1褐灰色	良好	密	外　ハケ後細縄文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
36	4	23	4	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　施ミガキ。	前期繊維式土器。
36	5	23	5	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
54	1	6	5	弥生甕 口縁1/5弱	一括	(14.2)			7.5YR6/6橙色	良好	赤色の砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
54	2	6	4	弥生台付甕 脚部1/5弱	一括		(8.0)		10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
54	3	6	2	弥生甕 底部1/4	一括		(7.8)		10YR5/6黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
54	4	6	1	弥生壺 底部2/3	一括		4.5		7.5YR5/6明褐色 10YR4/1灰褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	外面赤彩（2.5YR5/4にぶい赤褐色）
54	5	6	3	弥生甕 底部1/4弱	一括		(7.6)		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
54	6	6	13	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
54	7	6	10	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
54	8	6	12	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ、他ハケ。 内　施ナデ。	
54	9	6	8	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に舌状文と細縄文、他施ミガキ。 内　施ナデ。	
54	10	6	11	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色 2.5YR5/2暗灰黄色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、充填による舌状文、他沈線の上下に細縄文。 内　施ナデ一部にハケ残る。	
54	11	6	17	弥生壺　胴部	一括				2.5Y4/2暗灰黄褐色 2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　平行沈線と細縄文。 内　施ナデ。	
54	12	6	15	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、施ナデ。 内　施ナデ。	外面赤彩。
54	13	6	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　施ナデ。	
54	14	6	14	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画内に縄文、他粗い施ナデ。 内　施ナデ。	
54	15	6	25	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
54	16	6	16	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ミガキ、他器面摩耗。 内　施ナデ。	外面赤彩（2.5YR4/3にぶい赤褐色）
54	17	6	18	弥生壺　胴部	一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に沈線による山形文。 内　施ナデ。	
54	18	6	22	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	勝坂式土器？
54	19	6	24	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　粘土紐による浮線文。 内　ナデ。	諸磯式土器。
54	20	6	21	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR6/8橙色	良好	密	外　粗い施ナデ。 内　施ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
54	21	6	23	縄文晩期浅形鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線による文様帯。 内　かなり丁寧な施ナデ。	沈線内に一部赤彩残る。
54	22	6	19	弥生甕　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　横描き波状文。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
55	1	6B	1	弥生壺 胴部1/6弱	床＋25	（5.2）			10YR4/4褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ、他細縄文。 内　器面剥離。	外面一部赤彩（10Y4/6赤色）
55	2	6B	2	弥生甕　口縁部	床＋25				2.5Y3/2黒褐色 2.5Y4/3オリーブ褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
55	3	6B	6	弥生壺　胴部	床＋25				7.5YR5/6明褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	0.5～2㎜大の礫含む	外　沈線区画の上下に細縄文、他ハケ。 内　施ナデ。	
55	4	6B	3	弥生甕　胴部	床＋25				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
56	1	24	6	弥生甕 全体1/2・胴部1/2より下部全欠・口縁一部欠	床＋10	27.0			10YR5/4にぶい黄褐色 5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口唇部下に沈線状の窪みあり、口縁部ハケ状工具によるキザミ、胴部ハケ後施ミガキ。 内　口縁部施ミガキ、胴部ハケ後施ミガキ。	
56	2	24	3	弥生甕 口縁・底部一部欠全体の8割程度残	床＋5	18.5	5.9	18.2	7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文（左指の爪痕、指紋一部残る）、胴部施ナデ一部に条線状のハケ残る。 内　口縁部指頭押捺波状文、胴部施ナデ後施ミガキ。	
56	3	24	4	弥生甕 口縁完存～胴部3/4	床直	19.4			7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文（はっきりと爪痕残る）、胴部ハケ後施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、胴部ナデ後施ミガキ、一部ハケ残る。	
56	4	24	2	弥生甕 底部欠	床＋12	19.2			7.5YR4/4褐色 5YR5/6赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後施ナデ一部施ミガキ。	
56	5	24	7	弥生壺 底部完存・全体1/2弱	床＋5		6.0		7.5YR5/6明褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　沈線間に細縄文と棒状工具による刺突文、施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ。	
56	6	24	5	弥生壺 全体1/2弱・口縁全欠底部1/4欠	床＋10		7.2		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ、胴上部に二条以上の斜状の細縄文。 内　摩耗。	
56	7	24	1	弥生甕 底部完存～胴部1/2	床＋12		7.5		10YR4/4褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ。	
56	8	24	12	縄文浅鉢 口縁約1/9	床直	（25.8）			10YR3/3暗褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部浮線網状文。 内　施ミガキ。	焼成後外面から内面に向って穿孔された径約７㎜の穴と、内面から外面に向って穿孔された径約３㎜の穴がある。
56	9	24	9	弥生甕 口縁1/8	床＋12	（27.2）			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ミガキ。	
56	10	24	27	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴部施ナデ後ハケ。 内　折り返し口縁、胴部施ナデ後ハケ。	
56	11	24	8	弥生壺　口縁部	一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他ナデ後ハケ。 内　施ナデ。	
56	12	24	26	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部内外面にハケ状工具によるキザミ、キザミ調整間に沈線状の窪み、胴部ハケ。 内　胴部施ナデ。	
56	13	24	28-1	弥生甕　口縁部	床直				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部内外面にハケ状工具によるキザミ、キザミ調整間に沈線状の窪み、胴部ハケ。 内　胴部器面剥離。	
56	14	24	24	弥生甕　口縁部	床＋10				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文（爪痕残る）、胴部施ナデ後ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、胴部施ナデ一部ハケ。	
56	15	24	29	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部に棒状工具による刺突文、他ハケ。 内　折り返し口縁、他ハケ。	
56	16	24	21	弥生甕　口縁部	床＋5				10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部下に沈線状の窪み、他ハケ状工具によるキザミ。 内　ナデ。	
56	17	24	25	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴部櫛描き文。 内　口縁部指頭押捺波状文、胴部施ナデ。	
56	18	24	14	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、胴部ナデ後ハケ。	
56	19	21	20	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ。 内　口唇部ナデ。	
56	20	24	19	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺波状文。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
56	21	24	23	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目、胴部ハケ。 内　口唇部ナデ、胴部施ナデ。	
56	22	24	13	縄文晩期浅鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　指ナデ。 内　ナデ。	
56	23	24	30-1	弥生甕　口縁部	床＋5				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部内外面にハケ状工具によるキザミ、キザミ調整間に沈線状の窪み、胴部ハケ。 内　施ナデ。	
56	24	24	16	弥生壺　口縁部	床＋6				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、細縄文下に沈線。 内　ナデ。	
56	25	24	17	弥生壺　胴部	床直				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　横描き波状文。 内　ハケ。	
56	26	24	18	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　横描き文。 内　ハケ。	
56	27	24	15	弥生甕　胴部	床直				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　横描き文。 内　施ナデ。	
56	28	24	22	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　横描き波状文。 内　施ナデ後ハケ。	
57	1	13	1	弥生甕 底部1/4弱	一括		(8.2)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　施ナデ。	
57	2	13	3	弥生壺 底部1/3	一括		(5.6)		7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　施ミガキ。 内　施ミガキ。	
57	3	13	2	弥生甕 底部1/4強	一括		(6.0)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　施ナデ。	
57	4	13	6	弥生鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部面取り押捺、他施ナデ。 内　施ナデ。	口縁部径1.2～0.5cm程の焼成穿孔。
57	5	13	8	縄文晩期鉢　口縁部	一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　浮線工字文。 内　施ミガキ。	大洞系土器。
57	6	13	10	縄文晩期鉢　口縁部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　浮線網状文間に挟まれた凹部に赤彩を施す。 内　口縁部直下に一条の沈線。	千網式土器。
57	7	13	11	縄文晩期鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線文。 内　施ナデ。	（唐沢遺跡出土例に似ている）
57	8	13	9	縄文晩期鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　平行沈線文、口唇部面取り。 内　ナデ。	大洞系土器。
57	9	13	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
58	1	14	1	弥生甕 底部完存	床＋13		6.8		7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	
58	2	14	8	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
58	3	14	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
58	4	14	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
58	5	14	11	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	堀ノ内式土器。外面口唇部２連一組の径６㎜程の穿孔あり。
58	6	14	5	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線文と細縄文施文以外施ミガキ。 内　施ナデ。	
58	7	14	6	弥生壺　胴部	床-25				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線間に細縄文。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
58	8	14	2	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　篦ナデ。	
58	9	14	3	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き波状文下に細縄文と円形竹管文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
58	10	14	10	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
59	1	15	1－1 ～4	弥生壺 底部全欠	床＋8･10	(7.8)	(5.8)	(35.5)	5YR5/4にぶい赤褐～7.5YR4/2灰褐色 5YR5/4にぶい赤褐～10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁～頸部条線状の篦ナデ後篦ミガキ、胴部３条の横方向の細縄文間に山形文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	接合は出来ないが図面上で実測。
59	2	15	3－1 ～4	弥生甕 口縁～胴部1/3残	床＋12	(26.2)			10YR7/4にぶい黄橙～7.5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	１～４㎜大の礫含む	外　口唇部指頭押捺波状文、頸～胴部ハケ後櫛描き波状文。 内　ハケ後篦ミガキ。	
59	3	15	2	弥生壺 口縁～頸部全欠 胴部～底部ほぼ完存	床＋10		7.0		10YR4/6赤色7.5YR6/4にぶい橙色	良好	１～５㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　器面摩耗。	外面赤彩。
59	4	15	5	弥生壺 胴部1/4弱残	一括				10YR6/4にぶい黄橙～10YR4/4赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	１～３㎜大の礫含む	外　沈線間に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
59	5	15	15	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部原体押捺によるキザミ目、他粗いハケ。 内　折り返し口縁、他ハケ。	
59	6	15	18	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他ハケ。 内　折り返し口縁、他ハケ。	
59	7	15	20	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　ハケ。	
59	8	15	10	弥生壺　口縁部	床＋12				7.5YR7/4にぶい橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	１～３㎜大の礫含む	外　口唇部２連一組の棒状浮文貼り付け後細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
59	9	15	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他ハケ。 内　ハケ。	
59	10	15	23	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒多含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
59	11	15	22	弥生甕　口縁部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と細縄文。 内　篦ナデ。	
59	12	15	25	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	微砂粒多含む	外　角押文。 内　ナデ。	
59	13	15	6	弥生甕　胴部	床-15				10YR3/1黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
59	14	15	11	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒多含む	外　Ｓ字状結節文と細縄文。 内　篦ナデ。	
59	15	15	9	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙～5YR5/4にぶい赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多含む	外　細縄文による舌状文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
59	16	15	7	弥生甕　胴部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒多含む	外　Ｓ字状結節文と細縄文。 内　篦ナデ。	
59	17	15	27	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文と沈線による舌状文。 内　器面摩耗。	
59	18	15	21	弥生甕　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　原体による連続刺突文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
59	19	15	4	弥生甕　胴部	床＋10				5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
59	20	15	13	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
59	21	15	28	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、縄文施文後平行沈線文。 内　篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
59	22	15	30	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
59	23	15	29	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	微砂粒多含む	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
60	1	17	1	土師器甕 胴部一部欠	床＋1･床直	18.8	9.4	27.4	7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
60	2	17	2	土師器甕 口縁～胴部1/2	床＋10･床直	24.0			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、頸部一部ハケ、胴部篦ナデ。	
60	3	17	7-12	土師器甑 口縁3/4	床＋4	(26.8)			10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	口縁の４ヶ所に径７㎜程の焼成前穿孔。
60	4	17	5	土師器小型甕 口縁1/4～胴部1/2弱	床＋4･床直	(13.4)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
60	5	17	6	土師器小型甕 胴部1/2欠	床＋9	15.4			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
60	6	17	3	土師器坏 口縁1/4欠	床直	14.1		5.7	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
60	7	17	4	土師器高杯 脚裾部一部欠	カマド内一括		11.8		7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　篦ケズリ、裾部篦ナデ。	
60	8	17	8	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に指頭押捺文と平行沈線文。 内　ナデ。	
61	1	16	1	土師器坏 口縁1/3	床直	(14.0)	(8.6)	4.1	7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
61	2	16	6	須恵器坏　口縁部	一括				7.5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
61	3	16	2	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y4/1灰色	良好	密	外　平行叩き後回転ナデ。 内　青海波磨り消し。	
61	4	16	3	須恵器甕　胴部	床＋1				10Y6/1灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　篦ナデ。	
61	5	16	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
61	6	16	5	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
62	1	34	2	弥生壺 底部全欠	床＋19.2	7.4			7.5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文、頸部ハケ後篦ミガキ、頸部上段綾杉文以下流水文、胴部中位以下ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
62	2	34	3	弥生壺 底部全欠	火床＋12	6.3			2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、頸部ハケ後篦ミガキ、胴部ハケ後細縄文ならびに羽状縄文施文後ほぼ等間隔に篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
62	3	34	4	弥生壺 口縁・底部全欠	火床＋11				10YR4/1褐灰色 5YR5/6明褐色	良好	密	外　頸部ハケ、胴部縄文施文後に沈線を施し沈線間をハケ整形、胴部中位付近細縄文による舌状を呈する。 内　篦ナデ。	
62	4	34	1	弥生壺 口縁～頸部全欠底部完存	床＋12.2		6.7		2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　胴部ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
62	5	34	7	弥生甕 口縁・頸部1/3残	火床＋12	24.2			10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部細縄文施文後棒状浮文貼り付け後篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
62	6	34	5	弥生甕 口縁1/8	炉内	23.2			5YR6/6橙色 5YR5/1褐灰色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
62	7	34	6-1	弥生甕 口縁1/4	炉内	22.2			5YR6/8橙色 5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による押捺文、他ハケ。 内　篦ナデ一部篦ミガキ。	
62	8	34	8	弥生甕 胴部1/6	火床＋12				5YR3/6明赤褐色 YR3/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
62	9	34	12	弥生壺 胴部1/6	一括				5YR3/1黒褐色 2.5YR4/6明赤褐色	良好	密	外　胴部中位に細縄文後２条の沈線を入れて細縄文を磨り消す、他施ナデ。 内　施ナデ。	
62	10	34	9	弥生壺 胴部1/3	床+7.2･+13		7.2		7.5YR2/1黒色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ後施ミガキ、胴部上位に沈線区画による舌状文内に細縄文。 内　施ナデ。	
62	11	34	14	弥生甕 底部1/8	一括		5.0		7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR7/8黄橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　摩耗。	
62	12	34	11	弥生甕 底部完存	一括		5.0		5YR5/2灰褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　器面剥離。	
62	13	34	16	弥生甕 底部1/8	火床+12		8.0		7.5YR7/6橙色 7.5YR6/1褐灰色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後施ミガキ。	
62	14	34	17	弥生甕 底部1/2弱	一括		6.0		5YR1/6褐灰色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ。	
62	15	34	15	弥生甕 底部1/2弱	一括		6.2		7.5YR4/1褐灰色 7.5YR5/1褐灰色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ。	
62	16	34	18	弥生甕 底部3/4弱	一括		7.2		7.5YR7/4にぶい橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　施ナデ後細縄文。 内　施ナデ。	底部外面木葉痕あり。
62	17	34	10	弥生甕 胴部1/8	火床+12				5YR3/1黒褐色 YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ後施ミガキ。	
62	18	34	13	弥生甕 底部3/4弱	床+19.2		16.8		5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　施ナデ。	底部外面木葉痕あり。
62	19	34	23	弥生甕　底部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　器面剥離。	底部外面木葉痕あり。
62	20	34	19	須恵器坏蓋 口縁1/8	床+19.2	11.0			10Y5/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形、混線上の窪みあり。 内　ロクロ整形。	外面ケズリ範囲等不明。
62	21	34	37	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/1褐灰色 5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　施ナデ。	
62	22	34	24	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
62	23	34	20	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/1褐灰色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ後ナデ。 内　ナデ。	
62	24	34	21	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　折り返し口縁、他ナデ。	
62	25	34	35	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　施ナデ。	
62	26	34	45	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色 5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口唇部一条の沈線と指頭押捺、他ハケ。 内　施ナデ。	
62	27	34	26	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　器面剥離。	
62	28	34	34	弥生壺　胴部	床+19.2				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後施ナデ、沈線による舌状文以外細縄文。 内　施ナデ。	
62	29	34	46	弥生壺　胴部	一括				5YR4/1褐灰色 5YR6/6橙色	良好	密	外　細縄文、他施ナデ。 内　ハケ後施ナデ。	
62	30	34	27	弥生壺　胴部	床+19.2				5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　２条の沈線区画内無文、上位細縄文。 内　施ナデ。	
62	31	34	28	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　施ナデ。	
62	32	34	22	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/8橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画の下位に細縄文と棒状工具による連続刺突文。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
62	33	34	32	弥生壺　胴部	火床＋12				10R3/2暗赤褐色 10R4/6赤色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
62	34	34	30	弥生壺　胴部	床＋19.2				2.5YR4/6赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画内細縄文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
62	35	34	31	弥生壺　胴部	一括				5YR5/1褐灰色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
62	36	34	47	弥生壺　胴部	床＋19.2				7.5YR6/4にぶい橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
62	37	34	44	弥生壺　胴部	床＋19.2				2.5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　２条の沈線区画外に細縄文。 内　篦ナデ。	
62	38	34	25	弥生壺　胴部	一括				10R4/4赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　細縄文後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
62	39	34	33	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文、他ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
62	40	34	36	弥生壺　胴部	火床＋12				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　細縄文、他ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
62	41	34	38-1	弥生壺　胴部	火床＋12				5YR5/6明赤褐色 5YR4/8赤褐色	良好	密	外　５条の平行沈線内に細縄文。 内　篦ナデ。	
62	42	34	41	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/1褐灰色 7.5YR4/2灰褐色	良好	金雲母含む	外　２条の角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
62	43	34	40	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6橙色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	金雲母含む	外　先端部指頭押捺文、他角押文による連続刺突文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
62	44	34	39-1	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
62	45	34	39-4	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/1褐灰色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	
62	46	34	39-2	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/1褐灰色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	
62	47	34	43	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	金雲母含む	外　２条の角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
63	1	32	1	弥生甕 底部完存	床＋28		6.5		5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　器面剥離。	
63	2	32	3	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　器面剥離。	
63	3	32	5	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
63	4	32	4	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　器面剥離。	
63	5	32	7	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	金雲母含む	外　三条の角押文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
63	6	32	6	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　細縄文間を篦ミガキ、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
64	1	33	3	土師器高坏 坏部1/4弱	一括	（15.0）			10R5/6赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
64	2	33	6	土師器短頸壺 口縁1/8	一括	（9.0）			5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
64	3	33	1	土師器坏 口縁1/4	一括	（14.8）			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
64	4	33	7	土師器高杯 裾部1/8	一括		（10.8）		2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面赤彩。
64	5	33	4	土師器高坏 裾部1/4	一括				10R5/6赤色	良好	密	外　脚部施ケズリ、裾部ナデ。 内　脚部施ケズリ、裾部ナデ。	外面赤彩。
64	6	33	22	須恵器甕　胴部	一括				10Y3/1オリーブ黒色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波完全磨り消し。	
64	7	33	14	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
64	8	33	11	弥生広口壺　胴部	一括				7.5YR2/1黒色	良好	密	外　ハケ後細縄文後施ミガキ。 内　施ミガキ。	
64	9	33	10	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画による舌状文間に細縄文、他沈線文と施ミガキ。 内　施ナデ。	
64	10	33	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　羽状縄文施文後条線状の施ナデ後横方向の施ミガキ。 内　器面剥離。	
64	11	33	9	弥生壺　胴部	一括				10YRにぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ後３条の細縄文。 内　器面剥離。	
64	12	33	16	弥生甕　胴部	一括				10YR4/1褐灰色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　施ナデ。	
64	13	33	17	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文と半截竹管による刺突文。 内　施ナデ。	
64	14	33	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　細縄文と櫛描き波状文、他施ナデ（器面やや摩耗）。 内　施ナデ。	
64	15	33	21	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部下に沈線と縄文。 内　施ミガキ。	
65	1	35	35	土師器甑 口縁1/2強～底部一部欠	床直	24.0	29.4	24.6	7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ後施ミガキ。	
65	2	35	1-1	土師器甕 口縁2/3～底部全欠	床＋12	（20.3）			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
65	3	35	3-1	土師器甑 口縁1/3	床＋3・一括	（26.6）			5YR6/8橙色	良好	密	外　器面摩耗。 内　器面摩耗。	
65	4	35	2	土師器甕 口縁1/2強	床＋3	28.0			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	薄甕。
65	5	35	4	土師器甕 口縁1/4	床＋4	21.0			10YR4/1褐灰色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
65	6	35	5	土師器甕 口縁1/4～底部全欠	カマド内一括	（11.8）			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
65	7	35	11	土師器壺 口縁ほぼ完存	カマド内一括	9.4			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　器面剥離。 内　頸部接合部指押さえ、胴部施ナデ。	内外面器面摩耗激しいが赤彩の痕跡残る。
65	8	35	7	土師器坏 口縁1/2欠	カマド内一括	16.9		3.9	5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
65	9	35	10	土師器坏 口縁1/3欠	カマド内一括	15.4		3.4	5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
65	10	35	14	土師器坏 口縁1/2弱	カマド内一括	（15.2）		3.7	5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
65	11	35	17	土師器坏 1/2弱	床直	（13.4）	6.0	4.0	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
65	12	35	9	土師器坏 口縁1/4～底部一部欠	床＋6	13.2		4.4	5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
65	13	35	13	土師器坏 口縁1/4弱	一括	(14.6)			2.5Y3/1黒褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ミガキ。 内　口縁ナデ、体部施ミガキ。	
65	14	35	12	土師器坏 口縁1/4	一括	(14.0)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
65	15	35	8	土師器坏 口縁一部欠	床+6	15.0	9.1	3.8	5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	底部十字文の施記号あり。
65	16	35	24	須恵器坏蓋	一括				5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ回転施ケズリ。 内　ロクロナデ。	
65	17	35	25	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y5/1黄灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波残る。	
65	18	35	27	弥生壺　胴部	床直				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
65	19	35	30	弥生鉢　胴部	注記なし				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　器面摩耗。	
65	20	35	31	弥生壺　胴部	注記なし				2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　細縄文。 内　施ナデ。	
65	21	35	28	弥生甕　胴部	カマド				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　原体押捺と櫛描き波状文。 内　ハケ。	
65	22	35	33	縄文深鉢　胴部	床+14				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
65	23	35	32	縄文深鉢　胴部	床+12				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
68	1	69B	2	弥生甕 口縁～胴部1/4	床-2･-8+3	(28.0)			10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
68	2	69A	2	弥生甕 口縁1/4弱	床+3	(16.3)			7.5YR6/4にぶい橙色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
68	3	69A	3	弥生甕 口縁～胴部1/8	一括	(13.8)			10YR3/1黒褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴部櫛描き波状文。 内　口縁部指頭押捺波状文、胴部施ナデ後施ミガキ。	
68	4	69A	4	弥生甕 口縁1/5	一括	(15.2)			10YR3/1黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴部櫛描き波状文。 内　口縁部指頭押捺波状文、胴部施ナデ後施ミガキ。	
68	5	69A	6	弥生甕 底部1/3	床+5		(7.0)		10YR6/4にぶい黄橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
68	6	69A	8	弥生壺 底部1/4	一括		(6.0)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
68	7	69B	4	弥生甕 底部完存	床-2		5.2		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ。	
68	8	69A	7	弥生甕 底部1/4	一括		(7.0)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　器面剥離。	底部外面木葉痕あり。
68	9	69B	1	土師器壺 胴部～底部1/2	床-8		8.0		10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　条線状の施ナデ。 内　施ミガキ。	
68	10	69A	1	弥生ミニチュア高杯 完存	床+3	3.2	1.8	3.0	10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
68	11	69A	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
68	12	69B	9	弥生甕　口縁部	床-2				10YR6/4にぶい黄橙色 2.5Y5/2暗灰黄色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
68	13	69A	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　施ナデ。	北関東系土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
68	14	69A	16	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
68	15	69A	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
68	16	69B	12	弥生甕　口縁部	床-2				10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
68	17	69A	10	弥生壺　胴部	床+5				7.5YR5/6明褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画による舌状文内に細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
68	18	69B	5	弥生壺　胴部	床-8				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画による舌状文と細縄文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
68	19	69A	23	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
68	20	69A	18	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に縄文、他篦ナデ。 内　器面剥離激しい。	
68	21	69A	21	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	型式不明。
68	22	69A	13	弥生壺　胴部	床+5				7.5YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　篦ナデ。	
68	23	69A	12	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に羽状縄文、下位は篦ナデ。 内　器面剥離激しい。	
68	24	69A	11	弥生壺　胴部	床+5				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ後櫛描き文。 内　篦ナデ。	
68	25	69A	20	弥生壺　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
68	26	69A	22	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維式土器。
68	27	69B	7	弥生壺　胴部	床-8				10YR3/2黒褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
68	28	69B	13	弥生壺　胴部	床-8				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画による舌状文と細縄文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
68	29	69B	14	弥生壺　胴部	床-8				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　胴部に細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
68	30	69B	8	弥生壺　胴部	床-2				7.5YR4/4褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　櫛描き文と細縄文。 内　篦ナデ。	
68	31	69B	6	弥生壺　胴部	床-8				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
68	32	69B	10	弥生壺　胴部	床-8				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
68	33	69B	11	弥生壺　胴部	床+3				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
69	1	70	8	弥生台付甕 底部完存	一括		3.7		10YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
69	2	70	7	弥生壺 口縁～頸部のみ	一括	3.3			10YR6/4にぶい黄橙～10YR4/1褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部粗い篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面輪積み痕残る。
69	3	70	5	弥生甕　胴部	一括				7.5YR6/4にぶい褐橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に半載竹管による施文後沈線区画上下に細縄文。 内　篦ナデ。	
69	4	70	3	弥生甕　頸部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
69	5	70	4	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文と櫛描き文。 内　篦ナデ。	
69	6	70	6	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線。 内　篦ナデ。	
69	7	70	1	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線文施文後平行沈線文。 内　篦ナデ。	
70	1	25	2	土師器甕 底部1/4弱	一括		(8.4)		7.5YR6/6橙色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ後篦ミガキ、底部付近のみ篦ケズリ。	
70	2	25	1	土師器坏 口縁1/4～体部3/4	カマド内一括	(13.2)		4.1	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
70	3	25	13	土師器坏 口縁1/8	一括	(14.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
70	4	25	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他ハケ。 内　ナデ。	
70	5	25	5	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、口縁部端に棒状工具によるキザミ目。	
70	6	25	3	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、後ハケ。	
70	7	25	6	弥生甕　口縁部	カマド内一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
70	8	25	9	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維系土器。
70	9	25	7	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画の内外に細縄文。 内　篦ナデ。	
70	10	25	10	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文。 内　篦ミガキ。	早期撚糸文系土器。
70	11	25	12	縄文深鉢　胴部	カマド内一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　器面剥離。	前期繊維系土器。
70	12	25	11	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線による格子目文。 内　器面剥離。	加曽利Ｂ式土器。
71	1	66	2	土師器甕 口縁1/3	床-2	(12.6)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部器面剥離。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
71	2	66	3	土師器甕 口縁1/4	一括	(15.8)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
71	3	66	5	土師器盤状坏 口縁1/4	床-2カマド内 一括	(19.0)			2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面赤彩（内外面器面摩耗激しいが赤彩部分残る）。
71	4	66	4	土師器高杯 口縁1/2弱	床直	(13.8)			7.5YR5/4にぶい褐色 5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内面赤彩。
71	5	66	6	須恵器高台付坏 底部完存～口縁1/3	床+1	(14.6)	10.8	4.0	5Y7/1白灰色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ。	杯部外面一文字の篦記号。
71	6	66	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目。 内　ナデ。	内外面器面摩耗激しい。
71	7	66	10	縄文深鉢　口縁部	カマド内一括				5Y2/2オリーブ黒色	良好	金雲母多量に含む	外　口唇部下に角押文。 内　ナデ。	
71	8	66	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部下端に棒状工具によるキザミ目、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
72	1	20	2	弥生壺 底部1/2弱	一括		(7.0)		7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR4/2灰褐～5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
72	2	20	1	弥生甕 底部1/2	一括		6.7		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
72	3	20	3	土師器高杯 脚部のみ	一括				2.5YR5/4にぶい赤褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
72	4	20	8	須恵器甕　口縁部	一括				2.5Y4/1黄灰色	良好	密	外　ロクロ整形後櫛描き波状文。 内　ロクロ整形。	
72	5	20	6	弥生壺　胴部	一括				2.5Y4/2暗灰黄色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
72	6	20	5	弥生甕　底部付近	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
73	1	土坑-29	1	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3暗褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
74	1	18	2	弥生壺 口縁1/4	一括	8.0			7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
74	2	18	3	弥生壺 口縁5/8	床＋7	15.8			7.5YR5/1褐灰色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　折り返し口縁、他篦ナデ。	
74	3	18	1	弥生甕 口縁全欠・底部完存	床＋17		5.8		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
74	4	18	8	弥生壺 底部3/4弱	床＋17		5.8		7.5YR4/1褐灰色 7.5YR6/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面摩耗。	
74	5	18	6	弥生甕 底部1/2弱	床＋21		9.2		5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面摩耗。	底部外面木葉痕あり。
74	6	18	5	弥生甕 底部完存	一括		5.6		2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
74	7	18	4	弥生甕 底部完存	床＋9		4.8		5YR5/4にぶい褐色 5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後ハケ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
74	8	18	7	弥生壺 底部3/4弱	床＋22		7.4		2.5YR2/1赤黒色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ。	
74	9	18	13	弥生甕　口縁部	一括				5YR2/1黒褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による刺突文、他ハケ。 内　ハケ。	
74	10	18	14	弥生甕　口縁部	一括				5YR2/1黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ナデ。 内　篦ナデ。	
74	11	18	15	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
74	12	18	16-1	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 5YR6/8橙色	良好	密	外　櫛描き波状文と櫛描き文。 内　篦ナデ。	
74	13	18	11-3	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 5YR6/8橙色	良好	密	外　肩部に櫛描き波状文と櫛描き文。 内　器面摩耗。	
74	14	18	16-2	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文と櫛描き文。 内　篦ナデ。	
74	15	18	11-2	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 5YR6/8橙色	良好	密	外　肩部に櫛描き波状文と櫛描き文、下位に篦ナデ。 内　器面摩耗。	
74	16	18	11-1	弥生壺　胴部	一括				5YR5/1褐灰色 5YR6/8橙色	良好	密	外　肩部に櫛描き波状文と櫛描き文。 内　器面摩耗。	
74	17	18	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　細縄文間をナデ消し。 内　篦ナデ。	
75	1	19	1	土師器甕 口縁1/2	カマド内一括	21.0		30.0	10R4/6赤色 5YR4/6赤褐色	良好	粗5～2㎜ 不礫多量	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
75	2	19	2	土師器甕 口縁1/2	カマド内一括	20.0		28.1	2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	粗５～２㎜ 不礫多量	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
75	3	19	3	土師器甕 口縁1/8・胴部1/2	床+12.9･8.2 床直	(20.0)			7.5YR6/6橙色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
75	4	19	5	土師器甕 口縁1/2	一括	(26.8)			5YR7/8橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部ナデ。	
75	5	19	6	土師器甕 底部のみ	カマド内一括		8.2		7.5YR5/4にぶい褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
75	6	19	4	土師器坏 口縁1/2	カマド内一括	14.4		5.3	7.5YR7/4にぶい橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部篦ナデ、胴部篦ミガキ。	
75	7	19	9	土師器坏 口縁1/5	床+13.9	(14.4)			2.5YR6/8橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	
75	8	19	7	土師器甕 底部のみ	カマド内一括		8.6		7.5YR6/6橙色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
75	9	19	8	土師器甕 底部1/3	一括		9.4		2.5YR6/8橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
75	10	19	10	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1灰色 10YR6/1褐灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波磨り消し。	
75	11	19	12	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
75	12	19	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
75	13	19	20	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
75	14	19	17	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6明赤褐色 10YR7/6明黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に羽状縄文。 内　篦ナデ。	施文以外赤彩。
75	15	19	21	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　器面剥離。	
75	16	19	16	弥生壺　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
75	17	19	15	弥生壺　頸部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　平行櫛描き文、他篦ナデ。 内　器面剥離。	
75	18	19	14	弥生壺　胴部	床直				7.5YR4/4褐色 7.5YR6/8橙色	良好	密	外　平行沈線による波状文と平行沈線文。 内　器面剥離。	
75	19	19	18	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　縦方向のＳ字状結節文、区画内に細縄文。 内　篦ナデ。	
75	20	19	19	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
75	21	19	11	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6橙色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　貝殻復縁文。 内　器面摩耗。	
76	1	22	1	土師器鉢 口縁1/2欠	床-18	15.4	6.4	13.9	7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
76	2	22	5	須恵器坏蓋 口縁1/8	一括	(14.4)			2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
76	3	22	3	土師器高杯 脚部完存～裾部1/4	床-16		(9.8)		2.5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
76	4	22	2	土師器高杯 脚部完存～裾部1/4	床-13		(9.8)		2.5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
76	5	22	8	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
76	6	22	13	弥生甕　口縁部	床-18				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
76	7	22	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ。	
76	8	22	10	弥生壺　胴部	床-13				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
76	9	22	14	弥生壺　胴部	一括				10YR3/4暗褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　器面剥離。	
76	10	22	12	弥生甕　胴部	一括				2.5Y5/2暗灰黄色	良好	密	外　横描き波状文。 内　篦ナデ。	
76	11	22	11	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　横描き波状文。 内　篦ナデ。	
76	12	22	7	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　隆帯文貼り付け後一部に角押文列。 内　篦ナデ。	
76	13	22	6	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　隆帯文貼り付け後一部に角押文列。 内　篦ナデ。	
77	1	21	10	弥生壺 口縁1/4	一括	13.0			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部に２連一組の棒状浮文、棒状浮文下に棒状工具によるキザミ、篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
77	2	21	7	弥生壺 底部1/3	一括		7.6		7.5YR4/3褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
77	3	21	8	弥生壺 底部1/4	一括		7.2		7.5YR3/1黒褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
77	4	21	9	弥生壺 口縁1/2	一括	8.4			7.5YR4/3褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	１～５㎜大の礫多量に混入	外　口唇部に細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
77	5	21	6	弥生壺 底部1/3弱	一括		(8.0)		5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
77	6	21	12	須恵器平瓶又は横瓶 底部1/2弱	一括		6.2		2.5Y6/2灰黄色 2.5Y6/3にぶい黄色	良好	密	外　ロクロ回転篦ケズリ。 内　ロクロ整形、一部に自然釉付着。	底部篦記号。
77	7	21	13	須恵器甕 底部1/3	一括		8.4		10YR6/3にぶい黄橙色 10YR7/2にぶい黄橙色	良好	密	外　ロクロ回転篦ケズリ。底部回転篦切り。 内　ロクロ整形、一部に自然釉付着。	
77	8	21	1	土師器高杯 口縁2/3	一括	15.4			5YR6/6橙色5YR6/8橙色	良好	金雲母混入	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ、脚部篦ケズリ。	
77	9	21	2	土師器坏 口縁1/9	一括	(13.0)			10R5/6赤色10R5/8赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
77	10	21	4	土師器坏 口縁1/9	一括	(14.6)			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
77	11	21	18	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色 5YR6/8橙色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ、他ハケ。 内　ハケ。	
77	12	21	19	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
77	13	21	20	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文とハケ、他篦ナデ。	
77	14	21	28	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR7/8黄橙色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
77	15	21	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
77	16	21	26	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/4褐色 5YR4/6赤褐色	良好	１～４㎜大の礫多量に混入	外　細縄文、他箆ナデ。 内　箆ナデ。	
77	17	21	23	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画と櫛描き波状文間に細縄文、他箆ミガキ。 内　箆ナデ。	
77	18	21	22	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文と櫛描き波状文。 内　箆ナデ。	
77	19	21	24	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/2灰褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　箆ナデ。	
77	20	21	25	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	１～２㎜大の礫混入	外　沈線区画内に細縄文。 内　箆ナデ。	
77	21	21	29	土師器甕　胴部	一括				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　ハケ。 内　箆ナデ。	
77	22	21	30	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
77	23	21	31	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯上に施文。 内　箆ナデ。	
79	1	37	1	土師器甕 口縁1/3欠	床＋4･＋6.5 床直	22.5			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部箆ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部箆ナデ。	
79	2	37	6	土師器甕 口縁1/4	一括	(12.0)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部箆ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部箆ナデ。	
79	3	37	7	弥生鉢 底部完存	一括		5.1		10YR4/3褐色	良好	密	外　箆ナデ一部細縄文。 内　箆ナデ。	
79	4	37	5	土師器坏 全体1/4	床＋4				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部箆ケズリ後一部箆ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部箆ミガキ。	内外面黒色処理。
79	5	37	4	土師器坏 口縁一部欠	床＋5	13.9		4.5	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部箆ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部箆ナデ後一部箆ミガキ。	
79	6	37	8	土師器坏 口縁1/4	一括	(11.9)			10YR5/6黄褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部箆ケズリ後一部箆ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部箆ミガキ。	内面赤彩。
79	7	37	13	須恵器蓋 口縁1/4	床直	(11.0)		4.1	2.5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ、天井部回転箆ケズリ（逆時計回転）。 内　ロクロ、天井部ナデ。	
79	8	37	2	土師器高杯 ほぼ完形	カマド内一括	15.8	10.4	10.9	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部箆ケズリ、胴部箆ケズリ、裾端部ナデ。 内　口縁部ナデ、脚部箆ケズリ、裾部ナデ。	
79	9	37	3	土師器鉢 口縁1/2弱	カマド粘土密着	(13.0)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部箆ナデ後箆ミガキ、体部箆ミガキ。 内　口縁部ナデ後箆ミガキ、体部箆ミガキ。	
79	12	37	16	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
79	13	37	15	弥生壺　胴部	一括				10YR4/1褐灰色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
79	14	37	18	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　平行沈線文間に半截竹管文。 内　ナデ。	
79	15	37	19	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ？時期不明。
79	16	37	17	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	金雲母含む	外　口縁部に２ヶ所の突起。 内　ナデ。	
82	1	72	3	弥生甕 口縁～胴部1/4弱	床直	(20.0)			7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸～胴部丁寧な箆ナデ後胴部下端箆ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、口縁部ナデ、頸～胴部丁寧な箆ナデ。	
82	2	72	6	弥生壺 口縁1/8	一括	(19.0)			2.5YR5/6明赤褐～5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁下端部棒状工具によるキザミ目、羽状縄文と３連のＳ字状結節文。 内　箆ナデ後箆ミガキ。	内面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
82	3	72	4	弥生甕 底部1/4	一括		(8.4)		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ミガキ。	
82	4	72	1	弥生壺 底部ほぼ完存	床＋4		7.5		7.5YR4/6にぶい橙～2.5YR4/6赤褐色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　施ミガキ後底部施ナデ。 内　施ナデ。	外面一部赤彩。
82	5	72	8	土師器甕 口縁1/8強	一括	(17.6)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
82	6	72	5	弥生鉢 胴部1/8	一括	(21.4)			10YR4/2灰黄褐～2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部ナデ、口縁部細縄文、体部ナデ後施ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	外面体部赤彩。
82	7	72	2	弥生高杯 坏部・口縁部1/2弱欠	床＋4	(17.4)			2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ミガキ。	内外面赤彩。
82	8	72	7	弥生甕 底部1/8	一括		(5.2)		10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　施ミガキ。 内　施ナデ後施ミガキ。	底部外面木葉痕あり。
82	9	72	12	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
84	1	36	6	土師器甕 口縁～胴部1/4弱	一括	(12.0)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他施ナデ。 内　口縁部ナデ、他施ナデ。	
84	2	36	2	弥生壺 口縁～頸部のみ	床＋4	9.0			5YR5/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他施ミガキ。 内　折り返し口縁、ハケ後施ナデ、他器面剥離激しい。	
84	3	36	1	弥生壺 底部完存	床＋7.5		6.0		2.5YR4/4にぶい赤褐～10YR6/4にぶい黄橙色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ。	外面赤彩。
84	4	36	5	土師器台付甕 脚部1/4弱	一括		(10.6)		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ。	径0.6㎜の穿孔あり。
84	5	36	3	弥生壺 底部1/2弱	一括		(7.0)		10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　器面剥離。	
84	6	36	7	弥生甕 底部1/4弱	一括		(7.0)		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後施ミガキ。 内　施ナデ。	底部外面木葉痕あり。
84	7	36	4	弥生甕 底部完存	床＋3.5		5.8		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ。 内　施ナデ後施ミガキ。	
84	8	36	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部棒状工具による連続キザミ目、他施ナデ後施ミガキ。 内　口縁部指押さえによる波状文、他施ナデ後施ミガキ。	
84	9	36	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ、他施ナデ。 内　施ナデ、輪積み痕残る。	
84	10	36	10	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、下端部棒状工具によるキザミ目、口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
84	11	36	11	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR6/4にぶい黄色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　ハケ。	
84	12	36	18	弥生甕　口縁部	床＋3.5				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部棒状工具によるキザミ目、他ハケ後ナデ。 内　折り返し口縁、他施ナデ。	
84	13	36	12	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文に棒状工具による連続キザミ目、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文に棒状工具による連続キザミ目、他施ナデ。	
84	14	36	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ	
84	15	36	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　3段の輪積み。 内　施ナデ。	
84	16	36	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
84	17	36	16-6	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4にぶい赤褐～10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　半截竹管による連続刺突文による区画内に細縄文、他施ミガキ。 内　施ナデ。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
84	18	36	16-5	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/4にぶい赤褐～10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　半截竹管による連続刺突文、上位細縄文。 内　箆ナデ。	外面赤彩。
84	19	36	16-3	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐～10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　半截竹管による連続刺突文、上位細縄文。 内　箆ナデ。	外面赤彩。
84	20	36	16-1	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/4にぶい赤褐～2.5Y4/2暗灰黄色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　竹管による連続刺突文による区画内に細縄文、他箆ミガキ。 内　箆ナデ。	外面赤彩。
84	21	36	23	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　深い平行沈線文。 内　箆ナデ。	三戸式土器。
84	22	36	15	土師器台付甕 脚部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　箆ナデ。 内　箆ナデ。	
84	23	36	21	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　箆ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
84	24	36	16-2	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/4にぶい赤褐～10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　２連一組の凸帯貼り付け、半截竹管による連続刺突文による区画内。 内　箆ナデ。	外面赤彩。
84	25	36	22	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　箆ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
89	1	土坑-35	1	弥生壺 底部1/4弱	一括		(6.8)		5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　箆ナデ。 内　箆ナデ後箆ミガキ。	S-6落ち込み１～７
89	2	土坑-35	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　器面剥離。	
89	3	土坑-35	2	弥生壺　胴部	一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線の前後に細縄文。 内　器面剥離。	
89	4	土坑-35	5	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　沈線による綾杉文。 内　ナデ。	
89	5	土坑-35	4	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離。	加曽利Ｅ式土器。
89	6	土坑-35	7	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
90	1	29	1	土師器甕 口縁1/8～胴部1/8	床-2		(12.8)		5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部箆ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部箆ナデ。	
90	2	29	2	土師器鉢 口縁1/4	床＋2	(12.6)			5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部箆ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部箆ナデ。	
90	3	29	3	土師器高杯 口縁1/4	床＋1.5	(13.4)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部箆ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部箆ミガキ。	外面は輪積み痕が残るほど雑に造られるが、内面は非常に丁寧な造り、内外のギャップが激しい。
90	4	29	4	須恵器坏蓋 天井部1/4強	一括				5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形、天井部付近より回転箆ケズリ、天井部平に仕上げる。 内　ロクロ整形、天井部付近一方向のナデ。	湖西産須恵器。
90	5	29	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　ナデ。	
90	6	29	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ。	
90	7	29	8	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と細縄文。 内　箆ナデ。	
90	8	29	7	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文。 内　箆ナデ。	
90	9	29	11	弥生甕　胴部	床-2				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　細縄文とＳ字状結節文。 内　摩耗。	
90	10	29	14	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　平行沈線間に爪形文。 内　箆ミガキ。	諸磯Ｂ式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
90	11	29	12	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　平行沈線間に爪形文。 内　篦ミガキ。	諸磯B式土器。
90	12	29	13	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　沈線による山形文が器面全域に施される。 内　剥離。	諸磯B式土器。
90	13	29	10	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	金雲母含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に棒状工具による刺突文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
90	14	29	9	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	金雲母含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に棒状工具による刺突文と角押文による文様帯。 内　篦ミガキ。	阿玉台式土器。
91	1	28	1	土師器短頸壺 底部全欠	床＋3	9.1			10R4/4赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外全面・内面口縁部赤彩。
91	2	28	2	土師器鉢型土器 口縁一部欠	床＋2.5	15.8	4.8	7.1	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
91	3	28	4	土師器坏 口縁1/8	カマド内一括	(14.2)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
91	4	28	3	土師器坏 口縁一部欠	床＋2	14.2		4.6	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデに近い篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
91	5	28	5	土師器坏 口縁1/8弱	床−6.5	(13.4)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
91	6	28	7	弥生甕 底部1/3	一括		(9.4)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　器面剥離。	
91	7	28	6	弥生甕 底部完存	一括	5.8			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
91	8	28	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ	
91	9	28	19	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他ハケ。 内　ナデ。	
91	10	28	21	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部Ｓ字状結節文と撚糸文。 内　ナデ。	
91	11	28	20	弥生甕　口縁部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ。	
91	12	28	17	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　平行櫛描き文。 内　器面剥離。	
91	13	28	16	弥生広口壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
91	14	28	26	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文とＳ字状結節文。 内　ナデ。	
91	15	28	27	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　撚糸文。 内　ナデ。	早期撚糸文系土器。
91	16	28	12	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　撚糸文。 内　ナデ。	早期撚糸文系土器。
91	17	28	22	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線間に爪形文。 内　篦ナデ。	
91	18	28	24	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　撚糸文。 内　ナデ。	早期撚糸文系土器。
91	19	28	23	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線間に爪形文。 内　篦ナデ。	
91	20	28	25	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線文。 内　ナデ。	堀ノ内式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
92	1	27	2	土師器甕 ほぼ完存	カマド内一括	15.3	4.4	26.3	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
92	2	27	3	土師器甕 口縁～胴部1/2	床＋9	15.0			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
92	3	27	1	土師器甕 口縁完存～胴部1/4	カマド内一括	12.2			10YR5/6黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
92	4	27	4	土師器坏 全体2/3	カマド内一括	15.5		5.9	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ後施ミガキ。	
92	5	27	5	土師器坏 口縁1/8	一括	(12.4)			10YR4/2灰黄褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	内外面黒色処理。
92	6	27	7	弥生坩 口縁1/4	カマド内一括	(8.4)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部ナデ、頸部施ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部施ナデ。	
92	7	27	9	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
92	8	27	8	弥生壺　胴部	一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後２段の細縄文。 内　ハケ後一部指ナデ。	
92	9	27	10	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	２㎜大の礫含む	外　縄文施文後棒状工具による平行沈線文。 内　施ナデ。	
92	10	27	13	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　半載竹管による平行沈線文間に爪形文。 内　施ミガキ。	
92	11	27	11	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	金雲母混入	外　流帯にそって角押文と竹管文の連続刺突文。 内　ナデ。	
93	1	26	1	土師器甕 口縁1/4	カマド内一括		(16.4)		2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ、やや摩耗。	
93	2	26	2	土師器坏 口縁1/4～底部1/4	カマド内一括	(15.4)		4.5	7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ、やや摩耗。	
93	3	26	3	土師器坏 口縁1/6	一括	(13.4)			7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
93	4	26	5	土師器坏 口縁1/6	床＋5	(12.4)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ、一部摩耗。	
93	5	26	8	須恵器坏蓋 口縁2/3	カマド内一括	15.3		3.1	2.5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形、天井部回転施ケズリ後宝珠つまみ貼り付け。 内　ロクロ整形。	外面歪む。
93	6	26	9	須恵器高台付き坏 口縁1/3～底部1/3	床＋3	(14.2)	(9.4)	3.8	2.5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形、天井部回転施ケズリ後高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	底部が高台より突出する。伊場Ａ類８Ｃ第１～第２。
93	7	26	11	須恵器大甕　胴部	床＋5.5				5Y6/1灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　ナデ（青海波磨り消し）。	
93	8	26	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　頸部細縄文、他施ミガキ。 内　施ナデ。	
93	9	26	14	弥生広口壺　胴部	一括				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　原体押捺。 内　施ナデ	
93	10	26	17	土師器甕　胴部	一括				10YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
93	11	26	19	土師器甕　胴部	一括				10YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
93	12	26	16	弥生甕　胴部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　原体押捺。 内　施ナデ。	北関東系土器。
93	13	26	18	土師器甕　胴部	カマド内一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	内面器面摩耗。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
93	14	26	15	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文間にハケ。 内　篦ナデ。	
93	15	26	21	土師器壺　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
93	16	26	22	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/3明褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
93	17	26	20	土師器壺　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
93	18	26	30	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
93	19	26	31	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	金雲母含む	外　口縁部文様帯の度合いが強く、おそらく高い山形把手がつくものと考えられる。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
93	20	26	35	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	金雲母含む	外　口唇部に粘土紐貼り付け。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
93	21	26	26	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/6明黄褐色	良好	胎土に繊維含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維混入系土器。
93	22	26	25	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　隆線貼り付け。 内　篦ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
93	23	26	32	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	金雲母含む	外　粘土紐貼り付けの隆帯文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
93	24	26	36	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/4褐色	良好	金雲母含む	外　平行沈線文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
93	25	26	34	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	金雲母含む	外　平行沈線文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
93	26	26	27	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維混入系土器。
93	27	26	29	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　円形突帯の周囲に角押文と鋸歯状角押文。 内　ナデ。	勝坂式土器。
93	28	26	28	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維混入系土器。
93	29	26	23	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　浮線網状紋風の平行沈線文。 内　篦ミガキ。	千網式土器。
93	30	26	24	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　浮線網状紋風の平行沈線文。 内　篦ミガキ。	千網式土器。
94	1	31	1	土師器甕 口縁1/3～胴部1/3	カマド左袖内	(17.4)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
94	2	31	2	土師器甕 口縁1/3	床直	(16.0)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
94	3	31	5	土師器高杯 坏部・裾部欠	床＋13				2.5YR4/6赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ。	外面赤彩。
94	4	31	8	土師器甑取手部 胴部完欠	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。	取手部長5.7cm幅3.0cm厚さ3.0cm。
94	5	31	9	弥生甕 底部完存	一括		8.0		10YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
94	6	31	6	土師器甕 底部完存	床＋20.5		5.8		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　摩耗。 内　篦ナデ。	
94	7	31	7	土師器甕 底部完存	一括		4.4		5YR4/6赤褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
94	8	31	3	土師器坏 口縁1/16	一括	(14.2)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
94	9	31	4	土師器高杯 裾1/4～脚部完存	一括		(13.7)		2.5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ、裾部ナデ。 内　指掻き取り、裾部ナデ。	外面赤彩。
94	10	31	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、ハケ。	
94	11	31	12	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ後篦ナデ。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、ナデ、頸部ハケ。	
94	12	31	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
94	13	31	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒掲色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。ハケ。	
94	14	31	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。ハケ後篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文。篦ナデ。	
94	15	31	15	弥生深鉢？　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　爪ないしは篦状工具による連続刺突文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
94	16	31	16	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　９条以上の平行沈線文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
94	17	31	17	縄文深鉢　口縁部	床＋13				7.5YR4/4褐色	良好	細い金雲母含む	外　口唇部沈線を挟んで両端にキザミ目を施し、口縁部は３条の貝殻復縁文を施す。 内　ナデ。	
94	18	31	18	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
95	1	30	1	弥生壺 ほぼ完形	一括	(3.7)	5.6	17.8	7.5YR6/4にぶい橙色 10YR5/2灰黄褐色	良好	微砂粒含む	外　口縁部器面摩耗、頸部篦ミガキ、頸部下端に原体押捺による羽状文、胴部中央は沈線区画内に細縄文を施す舌状文、脚下端は篦ミガキ、底部付近ハケ。	内面は計測不可能。
95	2	30	2	弥生壺 胴部1/3残	床直				10YR4/6赤色	良好	１～３㎜大の礫含む	外　胴部ハケ後横方向の細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
95	3	30	4	弥生壺 底部完存	一括		3.9		10YR6/4にぶい黄橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
95	4	30	3	土師器甕 底部完存	一括		4.4		2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
95	5	30	7	弥生甕　口縁部	床＋13				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状の篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ（条線状）。	
95	6	30	6	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後ナデ。	
95	7	30	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/2黄褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺文、他ハケ。 内　ハケ。	
95	8	30	25	縄文深鉢　口縁部	注記なし				7.5YR6/4にぶい橙色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　貝殻復縁文。 内　篦ナデ。	輪積み痕残る。
95	9	30	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
95	10	30	12	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
95	11	30	13	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
95	12	30	5	弥生甕　口縁部	床＋13				5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状の篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	右手親指爪痕あり。
95	13	30	8	弥生甕　胴部	床＋13				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
95	14	30	9	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2黒褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　ハケ。	
95	15	30	19	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文と平行沈線文。 内　施ナデ。	
95	16	30	10	弥生甕　胴部	注記なし				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　器面摩耗。	
95	17	30	23	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　貝殻復縁文。 内　施ナデ。	
95	18	30	22	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 2.5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　縄文施文後沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
95	19	30	20	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	１～３㎜大の白色礫含む	外　平行沈線による集合沈線文。 内　ナデ。	五領ヶ台式土器。
95	20	30	21	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色	良好	1～3.5㎜大の礫含む	外　半截竹管による平行沈線間に爪形文。 内　施ナデ。	浮島系式土器。
95	21	30	17	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/4にぶい橙色	良好	繊維含む	外　羽状縄文。 内　ナデ。	前期繊維式土器。
95	22	30	24	縄文深鉢　胴部	注記なし				5YR5/4にぶい赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	
95	23	30	18	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	１～３㎜大の礫含む	外　平行沈線による集合沈線文。 内　施ナデ。	五領ヶ台式土器。
95	24	30	16	縄文深鉢　胴部	注記なし				5YR5/4にぶい赤褐色	良好	１～３㎜大の礫含む	外　半截竹管による平行沈線間に爪形文。 内　施ナデ。	浮島系式土器。
95	25	30	15	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　縄文施文後平行沈線文。 内　施ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
96	1	42	1	弥生壺 全体1/3欠	床＋7	10.9	(7.6)	41.1	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～底部施ナデ後施ミガキ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部施ナデ、他摩耗激しく不明。	
96	2	42	7	弥生甕 口縁1/4弱	床＋7	(33.0)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ハケ後施ナデ。 内　口唇部棒状工具によるキザミ目、他施ナデ。	
96	3	42	4	弥生甕 口縁～胴部1/4強	床＋7	(23.8)			7.5YR5/4にぶい褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後施ナデ。	
96	4	42	5	弥生甕 底部ほぼ完存胴部1/5	床＋4.5		8.0		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ、摩耗激し。 内　施ナデ。	
96	5	42	3	弥生甕 底部完存	床＋7.5				10YR5/4にぶい黄褐色 5Y3/2オリーブ黒色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
96	6	42	9	弥生甕 底部1/4欠	一括		6.55		7.5YR4/3褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　器面剥離。	底部外面木葉痕あり。
96	7	42	8	弥生甕 底部完存	床＋8		8.2		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	１～２㎜大の小石含む	外　ハケ後施ナデ。 内　器面剥離。	
96	8	42	10	弥生甕 底部1/4強	一括		(6.4)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
96	9	42	12	弥生壺 口縁1/4強	一括	(7.8)			5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他施ナデ。 内　施ナデ。	
96	10	42	13	弥生小甕	一括	(11.4)			10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	頸部に径0.4㎜の穿孔あり。
96	11	42	2	弥生小甕 口縁3/4強欠	床＋6	(14.7)	4.8	13.0	10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
96	12	42	11	弥生甕 底部完存	一括		4.2		10YR6/6明黄褐色 2.5Y4/2暗灰黄色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
96	13	42	6	弥生甕 底部1/2弱	床＋3		9.2		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	外面指押さえの痕あり。
96	14	42	19	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、口縁下端部棒状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
96	15	42	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
96	16	42	18	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後軽い篦ミガキ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
96	17	42	14	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y2/1黒色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
96	18	42	16	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後軽い篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
96	19	42	20	弥生甕　胴部	床＋14				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
96	20	42	22	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画による舌状文内に細縄文、細縄文の下位に沈線文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
96	21	42	23	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　２本の沈線と細縄文。 内　篦ナデ。	
96	22	42	21	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と細縄文。 内　篦ナデ。	
96	23	42	15	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
96	24	42	24	縄文深鉢　口縁部	床＋2.5				2.5Y5/2暗灰黄色 2.5Y3/2黒褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線文と彫刻文手法の三角文。 内　篦ミガキ。	五領ヶ台式土器。
97	1	38	30	弥生甕 口縁1/4弱	一括	(27.0)			10YR2/1黒色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
97	2	38	29	弥生鉢 口縁1/8強	一括	(27.0)			2.5Y4/2暗灰黄～10YR4/6褐色 2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
97	3	38	1	弥生壺 底部完存・胴部1/4	床＋9		5.6		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	底部焼成後0.9～1.8㎝の穿孔。
97	4	38	2	弥生甕 口縁1/4	一括				10YR3/3暗褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　折り返し口縁、。	
97	5	38	3	弥生甕 底部完存	床＋8		7.2		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	２～５㎜大の小石含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
97	6	38	4	弥生甕 底部1/4欠	床-16	7.0			7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
97	7	38	5	弥生甕 底部1/2強	一括		6.4		5YR5/3にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
97	8	38	6	弥生壺 口縁1/4	一括	(9.15)			7.5YR6/4にぶい橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
97	9	38	12	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐～7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
97	10	38	10	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁、口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
97	11	38	14-1	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2灰褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
97	12	38	22	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
97	13	38	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
97	14	38	13	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
97	15	38	23	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
97	16	38	16	弥生壺　口縁部	一括				5YR6/6橙～10YR4/2灰黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文、他施ナデ。 内　施ミガキ。	外面赤彩。
97	17	38	11	弥生甕　口縁部	床-16				7.5YR4/1褐灰色 7.5YR4/1褐灰～7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
97	18	38	21	弥生壺　胴部	一括				10YR5/6黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　一条の沈線を挟んで上下に綾杉文。 内　施ナデ。	
97	19	38	17	弥生壺　胴部	一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　沈線以下羽状縄文。 内　施ナデ。	
97	20	38	19	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐～10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線の上位に円形竹管による連続刺突文。 内　施ナデ。	外面赤彩。
97	21	38	20	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙～5YR4/6赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線間に細縄文。 内　施ナデ。	外面施文以外赤彩。
97	22	38	18	弥生壺　胴部	床直				2.5Y5/3黄褐色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　施ナデ。	
98	1	71	1	土師器甕　胴部	一括				7.5YR2/3極暗褐色	良好	密	外　ハケ。 内　器面剥離。	
98	2	71	2	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　斜条縄文。 内　施ミガキ。	加曽利Ｂ式土器。
99	1	43	3	土師器甕 口縁～胴部一部欠	床＋5	16.2	7.2	28.9	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部施ケズリ後施ナデ一部施ミガキ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部施ナデ。	
99	2	43	12	土師器甑 口縁1/4～底部1/3	床＋13.5 ・＋18	(17.2)	(3.8)	22.6	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部施ナデ後ナデ、胴部施ケズリ後施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
99	3	43	5	土師器甕 胴部一部欠	床＋5	15.3	5.1	23.1	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ部分的に一部にミガキが入る。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
99	4	43	7	土師器甕 口縁1/2強	一括	16.8			10YR4/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
99	5	43	2	土師器甑 口縁～胴部一部欠	床＋3・＋4 ・＋9	22.4	8.0	26.5	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
99	6	43	4	土師器甑 胴部一部欠	床＋0.5	17.2	6.0	25.0	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ後施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部粗い施ナデ（施ケズリに近い）後中位～底部施ミガキ。	
99	7	43	6-2	土師器甕 口縁完存～胴部1/2	床＋5		16.0		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	8と同一個体と思われたが実測の結果別個体。
99	8	43	6-1	土師器甕 底部完存から胴部1/2	床＋5		7.0		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　施ケズリ後施ミガキ。 内　施ナデ後施ミガキ。	7と同一個体と思われたが実測の結果別個体。
99	9	43	1	土師器壺 口縁ほぼ完存	床＋11	17.4			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部施ナデ、胴部施ナデ後施ミガキ。 内　口縁～頸部ナデ、胴部施ナデ。	
99	10	43	8	土師器甕口縁1/2弱	床＋18.0	(15.2)			2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR3/3暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ後一部施ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	内面に輪積み痕残る。
99	11	43	10-1	土師器折り返し口縁壺 口縁1/4弱	一括	(17.8)			7.5YR7/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
99	12	43	11	土師器甑 底部3/4	床＋4・＋18カマド内一括		6.0		2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　施ケズリ後施ナデ。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
99	13	43	9	土師器甕 底部完存	床＋3・＋4・＋9・＋12・＋18		5.4		2.5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	5㎜大の礫目立つ	外　施ケズリ後一部ナデ。 内　施ナデ。	外面赤彩。
99	14	43	13	土師器鉢 口縁1/3欠	床＋2	16.2	4.3	6.5	10R4/4赤褐色	良好	密	外　非常に丁寧なナデ。 内　施ナデ後一部施ミガキ。	内外面赤彩。
99	15	43	14	土師器坏 口縁1/4欠	床＋0.5・＋16.5	17.0		6.3	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内面赤彩・外面体部1/2赤彩。
99	16	43	17	土師器坏 全体2/3残	床＋2.5・＋3・−1.5	15.2		4.8	2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
99	17	43	15	土師器坏 口縁1/2強	床＋11・＋16.5	14.8		5.6	10R4/6赤色（赤彩範囲） 5YR5/6明赤褐色（赤彩以外）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ（器面摩耗）。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ（器面摩耗）。	内面赤彩・外面体部2/3強赤彩。
99	18	43	19	土師器坏 口縁1/3	一括	(15.6)			10R3/6暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
99	19	43	20	土師器坏 口縁1/16〜底部1/2	床＋3・＋13.5	(14.4)			10R5/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
99	20	43	18	土師器坏 口縁1/3	床＋18	(15.8)			10R4/6赤色	良好	密	外　丁寧な施ナデ。 内　丁寧な施ナデ。	内外面赤彩。
99	21	43	16	土師器坏 口縁1/5	床＋18	(17.0)			10R4/6赤〜7.5YR2/1黒色 10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内面赤彩・外面2/3赤彩。底部にキの字状の線刻あり。
99	22	43	21	土師器高杯 脚部のみ	一括				10R5/6赤色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　脚部施掻き取り、裾部ナデ。	外面赤彩。
99	23	43	22	土師器高杯 脚部のみ	一括				2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　脚部指掻き取り、裾部ナデ。	外面赤彩。
99	29	43	29	須恵器甕　胴部	カマド密着				5Y4/1灰色 5Y5/3灰オリーブ色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波磨り消し、自然釉付着。	
99	30	43	30	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部縄文原体押捺、他ハケ。 内　ハケ。	
99	31	43	34	縄文深鉢　口縁部	床＋0.5				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部下に平行沈線と懸垂文、他縄文。 内　器面剥離。	N0-32と同一個体（加曽利Ｅ式土器）
99	32	43	32	縄文深鉢　口縁部	床＋3				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部下に平行沈線と懸垂文、他縄文。 内　器面剥離。	N0-31と同一個体（加曽利Ｅ式土器）
99	33	43	31	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線間に半截竹管による爪形文。 内　ナデ。	N0-34と同一個体。（諸磯式土器）
99	34	43	33	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線間に半截竹管による爪形文。 内　ナデ。	N0-33と同一個体。（諸磯式土器）
99	35	43	28	土師器甕　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　頸〜胴部へ移行する外面に鋭利な刃物をといだ様な擦痕がある。 内　施ナデ。	
100	1	44	2	土師器甕 口縁1/4	一括	(19.0)			7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
100	2	44	3	土師器坏 口縁1/4	一括	(9.9)		3.5	2.5Y6/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
100	3	44	1	土師器鉢 口縁1/6〜底部完存	カマド内一括	(21.4)	4.8	9.1	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
100	4	44	10	縄文深鉢胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　縄文とループ文。 内　ナデ。	関山式土器。
100	5	44	12	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文と平行沈線文。 内　器面剥離。	N0-9・13と同一個体。
100	6	44	6	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。N0-12・8と同一個体。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
100	7	44	18	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
100	8	44	9	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文と細縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。N0-6・12同一個体。
100	9	44	8	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文と平行沈線文。 内　器面剥離。	N0-5・13と同一個体。
100	10	44	7	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文による舌状文とＳ字状結節文。 内　施ナデ。	
100	11	44	16	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維目だたない	外　縄文とループ文。 内　摩耗。	関山式土器。
100	12	44	5	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。N0-6・8と同一個体。
100	13	44	13	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文と平行沈線文。 内　器面剥離。	N0-9・5と同一個体。
100	14	44	11	土師器甕　胴部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
100	15	44	14	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文間に爪形文。 内　施ミガキ。	浮島系土器。
100	16	44	19	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　貝殻復縁文。 内　器面剥離。	
100	17	44	17	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　隆帯にキザミ目。 内　施ミガキ。	五領ヶ台式土器。
100	18	44	15	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　貝殻復縁文。 内　器面剥離。	浮島系土器。
101	1	41	4	土師器甕 口縁～胴部1/2	カマド密着	13.0			2.5YR5/8明赤褐色 5YR6/8橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部縦方向の施ケズリ後横方向の施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ（施ケズリに近い施ナデ）。	外面・内面口縁部赤彩。
101	2	41	10	土師器高杯 口縁1/6	カマド内一括	20.8			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
101	3	41	5	土師器壺 口縁部3/4	一括	16.0			5YR5/6明赤褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁～頸部ナデ。 内　口縁～頸部ナデ、胴部施ナデ。	
101	4	41	9	土師器高杯 ほぼ完形	カマド内一括	16.0	10.8	12.0	10R4/8赤色（坏部） 10R4/8赤～2.5YR5/8明赤褐色（脚部）	良好	密	外　坏部施ナデ、脚部施ナデ。 内　坏部施ナデ、脚部施ケズリ。	外面・坏部内面赤彩。接合技法はホゾ方式。
101	5	41	11	土師器坏 口縁部1/6弱	一括	15.2			5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
101	6	41	8	土師器坏 ほぼ完形	カマド密着	16.3	1.4	6.0	2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、口縁～体部中位施ナデ、底部施ケズリ。 内　施ナデ。	内外面赤彩。外面意味不明の線刻あり。
101	7	41	12	土師器高杯 脚部1/2弱	床＋26.0				5YR6/6橙色 5YR7/6橙色	良好	密	外　脚部施ナデ。 内　脚部指掻き取り、裾部施ナデ。	
101	10	41	2	土師器甕 ほぼ完形	床-1.5	18.7	7.6	31.4	5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部上位施ケズリ後施ナデ、下位施ケズリ。 内　施ケズリ後施ナデ。	
101	11	41	3	土師器甕 ほぼ完形	床-2.5	14.4	5.0	24.4	10R5/6赤色 10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ後一部指押さえ、胴部上位施ナデ、下位施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	内外面赤彩。 胴部中位に一部油煙付着、底部付近は非常に丁寧なナデ（ナデの単位不明）。
101	12	41	7	土師器瓶 ほぼ完形	床＋3・＋10	22.5	5.7	21.4	5YR6/8橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
101	13	41	16	土師器甕 口縁1/2～胴部1/2弱欠	床＋14.0	20.6			2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	外面赤彩。
101	14	41	6	土師器甕 口縁1/4～胴部1/2弱	床＋5	25.8			10R5/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ後施ケズリ、胴部施ケズリ後施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
101	15	41	1	土師器折り返し口縁壺 口縁～胴部1/2	床＋1・＋6 ・＋8	16.0			5YR4/2灰褐色	良好	密	外　折り返し口縁部ナデ、頸部粗い篦ケズリ後一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
102	1	40	17	土師器甕 口縁～胴部1/4	床＋7	(13.0)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
102	2	40	6	土師器甕 底部完存	床直		5.2		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
102	3	40	18	土師器高杯 脚部全欠・坏部1/5	床＋9	(18.0)			5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。	
102	4	40	3	土師器坏 口縁1/2欠	一括	16.0	8.4	5.1	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
102	5	40	1	土師器坏 口縁1/3欠	床直	11.7		3.7	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
102	6	40	4	土師器坏 口縁1/12	一括	(11.0)			2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ（放射状暗文）。	内外面赤彩。
102	7	40	7	須恵器坏蓋 口縁天井部の一部欠	床＋6	14.4		3.6	5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形天井部付近回転篦ケズリ。 内　ロクロナデ。	回転方向逆時計回転。
102	8	40	8	須恵器坏 口縁1/8	床＋6	(13.1)			2.5Y7/1白灰色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ、口唇部下に一条の沈線。	おそらく高台付き。
102	9	40	2-1	土師器坏 口縁1/3	カマド内一括	(13.1)		4.3	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
102	10	40	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　S字状結節文（L）と細縄文。 内　ナデ。	
102	11	40	14	弥生壺　胴部	一括				10R4/4赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離。	施文以外赤彩。
102	12	40	15	弥生壺　胴部	一括				10YR3/4暗褐色	良好	密	外　沈線区画内に変形羽状縄文。 内　器面剥離。	
102	13	40	16	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　懸垂文。 内　ナデ。	
103	1	39	1	土師器甕 ほぼ完形	カマド内一括	21.6	6.7	31.3	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
103	2	39	2	土師器甕 口縁1/5	床＋10	22.7			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
103	3	39	3	土師器鉢 口縁3/5～底部1/5	床＋7	10.8			10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
103	4	39	11	須恵器坏蓋 口縁1/8	一括	11.1			2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形、天井部回転篦ケズリ。 内　ロクロ整形。	
103	5	39	8	須恵器坏 口縁1/3～底部1/4	土柱（＋10）	13.9	9.8	4.1	2.5Y6/6明黄褐色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	内面の体部と底部の境目にロクロ痕あり。
103	6	39	9	須恵器坏蓋 口縁1/10	一括	10.8			5Y6/2灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
103	7	39	7	土師器坏 口縁1/10	一括	13.2			7.5YR7/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内面黒色処理。
103	8	39	4	土師器坏 ほぼ完形	カマド内一括	11.3		3.9	10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。	
103	9	39	5	土師器坏 口縁1/4	一括	10.8			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内面黒色処理。
103	10	39	10	須恵器坏蓋 口縁1/18	一括	12.8			10YR5/1褐灰色	良好	密	外　ロクロ整形、体部天井部を分ける稜線は比較的鋭い。 内　ロクロ整形、口唇部は面を持ち段をなさない。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
103	11	39	18	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/4赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ	
103	12	39	17	弥生壺　胴部	一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ一部細縄文。 内　施ナデ。	
104	1	地下式13	3	土師器高杯 坏部1/4	一括				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	内外面赤彩。
104	2	地下式13	1	土師器高杯 脚部・裾部3/4欠	一括		(9.3)		5YR6/6橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	外面赤彩。
104	3	地下式13	2	土師器甕 底部ほぼ完形	一括		4.2		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ミガキ。 内　施ナデ。	
106	1	63	3	土師器甕 口縁1/6	一括	(20.0)			7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
106	2	63	2	土師器高杯 脚部全欠坏部ほぼ完存	カマド内一括	12.5			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ、体部下端～脚部粗い施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ、脚部施掻き取り。	
106	3	63	1	土師器坏 ほぼ完形	カマド内一括	14.4		3.9	2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	外面口縁部輪積み痕あり。
106	4	63	4	弥生壺 底部ほぼ完存	床直		4.5		2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　施ナデ後一部施ミガキ。 内　施ナデ後一部施ミガキ。	内外面赤彩。
106	5	63	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
106	6	63	6	弥生広口壺　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、口縁部ナデ、頸部細縄文。 内　ナデ。	
106	7	63	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
107	1	53	1	土師器甕 底部1/3	一括		(8.6)		7.5YR6/8橙色	やや不良	砂粒多	外　施ケズリ。 内　器面摩耗。	
107	2	53	2	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文と羽状縄文、口縁部下に原体押捺。 内　折り返し口縁。	
108	1	46	7	須恵器甕 口縁1/12	一括	(24.6)			2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
108	2	46	1	土師器蓋 口縁1/3強	床直	(15.8)		4.0	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、天井部施ナデ。 内　口縁部ナデ、天井部施ナデ。	
108	3	46	2	土師器坏 口縁1/12	一括	(15.0)			10YR4/1褐灰色	良好	密	外　施ミガキ。 内　施ミガキ。	内外面黒色処理。
108	4	46	4	土師器坏 口縁1/3強	一括	(13.6)			10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
108	5	46	3	土師器坏 口縁1/12	一括	(11.0)			10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
108	6	46	5	土師器高杯 脚部ほぼ完存	床直		11.8		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ケズリ、裾部ナデ。 内　施ケズリ、裾部ナデ。	
108	7	46	6	土師器高杯 脚部ほぼ完存	一括		9.4		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ケズリ、裾部施ナデ。 内　施ケズリ、裾部施ナデ。	
108	8	46	18	弥生壺　胴部	記載なし				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　平行沈線内に細縄文。 内　器面剥離。	
108	9	46	17	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線内に細縄文。 内　器面剥離。	
108	10	46	12	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線内に爪形文。 内　施ミガキ。	諸磯式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
108	11	46	11	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線内に爪形文。 内　篦ミガキ。	諸磯式土器。
108	12	46	13	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線内に爪形文。 内　篦ミガキ。	諸磯式土器。
108	13	46	14	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線内に爪形文。 内　篦ミガキ。	諸磯式土器。
108	14	46	15	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線内に爪形文。 内　篦ミガキ。	諸磯式土器。
108	15	46	9	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維は含まない	外　縄文。 内　指ナデ。	前期黒浜式土器。
108	16	46	10	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　撚糸文。 内　ナデ。	早期撚糸文系土器。
109	1	47	3	土師器甕 口縁1/4	一括	(23.6)			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
109	2	47	1	土師器甕 口縁1/3～底部欠	床＋10	15.8			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
109	3	47	2	土師器甕 口縁1/4	床直	(21.0)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
109	4	47	7	土師器坏 口縁1/5～体部1/4	一括	(14.4)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
109	5	47	5	土師器坏 口縁1/2強	一括	15.0		4.0	10YR2/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ、底部は全面篦ミガキ。	
109	6	47	6	土師器坏 口縁1/3欠	一括	13.4		4.8	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
109	7	47	10	須恵器蓋 口縁1/8	一括	(14.4)		(3.3)	N-5/灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	おそらく偏平紐。
109	8	47	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後原体押捺。 内　口唇部指頭押捺文、他ハケ。	
109	9	47	12	弥生甕　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　ナデ。	
109	10	47	11	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　撚状工具による平行沈線文。 内　ナデ。	掘ノ内式土器。
109	11	47	15	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線文と変形爪形文。 内　ナデ。	諸磯B式土器。
109	12	47	16	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR3/4暗褐色	良好	密	外　口縁部付近に横位の撚糸文。 内　ナデ。	千網式粗製土器。
109	13	47	17	縄文深鉢胴部	注記なし				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	掘ノ内式土器。
109	14	47	14	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線文及び平行沈線文。 内　篦ミガキ。	浮島式土器。
111	1	49	1	土師器甕 口縁1/4	一括	(16.0)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
111	2	49	3	土師器甕 口縁1/2弱	一括	(20.2)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
111	3	49	29	土師器甕 口縁1/4強	床＋12.5				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
111	4	49Ａ表採	1	土師器甕 口縁1/2弱	一括	(18.7)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
111	5	49	28	土師器甕 口縁1/2強	床＋11.8				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
111	6	49	2	土師器甑 口縁1/4	床直	(23.2)			7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
111	7	49	12	弥生広口壺 口縁1/6	床直	(12.0)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
111	8	49	9	土師器坩 口縁1/2強	一括	8.4			10R4/6赤色10R4/6赤～2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部のみ赤彩。
111	9	49	4	土師器坏 口縁1/4欠	床＋2				10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
111	10	49	6	土師器坏 口縁1/4弱	床＋2	(17.4)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
111	11	49	7	土師器坏 口縁1/8～底部	一括	15.0		5.3	2.5YR4/6赤褐～7.5YR4/2灰褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
111	12	49	5	土師器坏 口縁1/4弱	一括	(14.4)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
111	13	49	8	土師器坏 口縁1/4弱	一括	(16.8)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
111	14	49	27	土師器坏 口縁1/3	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
111	15	49	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
111	16	49	14	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
111	17	49	11	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目。 内　篦ナデ。	
111	18	49	21-3	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離。	外面赤彩。
111	19	49	20	弥生壺　胴部	一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ミガキ。	ほとんど口縁部付近。
111	20	49	19	弥生壺　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他篦ナデ。 内　器面摩耗。	
111	21	49	16	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離。	外面赤彩。
111	22	49	18	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　篦ナデ。	
111	23	49	15	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画による舌状文内に細縄文。 内　器面剥離。	
111	24	49	17	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　沈線区画内に櫛描き文。 内　篦ナデ。	
111	25	49	21-1	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離。	外面赤彩。
111	26	49	23	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線内に半截竹管による連続刺突文。 内　器面剥離。	浮島式土器。
111	27	49	22	弥生甕 底部1/2	床直				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	径1.3cm程の円孔を焼成後穿孔。
113	1	50	2	土師器甑 口縁1/3	床＋1	(31.0)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ一部篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
113	2	50	6	土師器甕 口縁1/4	一括	(17.6)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
113	3	50	4	土師器甑 口縁1/3	床直	(26.0)			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
113	4	50	3	土師器甕 口縁1/3	床＋12.8	(18.8)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ一部篦ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部器面剥離。	
113	5	50	5	土師器坏 口縁1/2強	一括	12.7		4.5	10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内面黒色処理。
113	6	50	9	土師器坏 口縁1/8	一括	(12.8)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
113	7	50	10	土師器坏 口縁1/8	一括	(16.6)			10YR4/2灰黄褐色 2.5Y3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内面黒色処理。
113	8	50	7	土師器高杯 脚部1/2弱	床＋13.8		(12.0)		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ、他裾部篦ナデ。 内　篦ケズリ、他裾部ナデ。	
113	9	50	1	土師器高杯 口縁1/4欠	床直	16.2	10.8	11.0	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体～脚部篦ケズリ、裾部ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ケズリ、裾部ナデ。	
113	10	50	18	須恵器坏蓋 口縁1/8	床＋27				2.5Y5/2暗灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形、口唇端部返りあり。 内　ロクロ整形。	
113	11	50	23	須恵器坏蓋 天井部1/6・鈕ほぼ完存	一括				5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
113	12	50	13	須恵器蓋 口縁1/3	一括	(15.0)			2.5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
113	13	50	17	須恵器坏蓋 口縁1/8	一括				5Y6/2灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ整形、口唇端部返りあり。 内　ロクロ整形。	
113	14	50	20	須恵器坏蓋 口縁1/8	一括	(16.4)			5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
113	15	50	15	須恵器坏蓋 口縁1/4	一括	(13.6)			5Y8/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
113	16	50	11	須恵器高台付坏 口縁1/3～底部2/3	床＋20.5	(14.6)	10.4	3.9	2.5Y7/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け、ロクロ回転時計廻り。 内　ロクロ整形。	高台部より底部が突出する。伊場A類。
113	17	50	12	須恵器高台付坏 口縁1/3	床＋14.5	(14.4)	(10.0)	4.6	2.5Y7/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
113	18	50	16	須恵器高台付坏 口縁1/8	床直	(13.8)	(9.9)	4.4	5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
113	19	50	22	須恵器高台付坏 口縁2/3強	一括		10.0		10Y5/1灰色	良好	1～3㎜大小の礫目立つ	外　ロクロ整形後高台貼り付け、ロクロ回転逆時計廻り。 内　ロクロ整形。	
113	20	50	25	須恵器高台付坏 底部4/5	一括		(8.8)		2.5Y6/1黄灰色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ。	底部外面篦記号。
113	21	50	14	須恵器坏 口縁1/8	一括	(13.3)			5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
113	22	50	24	須恵器高台付坏 底部1/2	一括		9.6		10Y5/1灰色	不良	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
113	23	50	29	須恵器甕　胴部	一括				10Y5/1灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波残る。	
113	24	50	28-1	弥生壺　胴部	床＋4.2				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　平行沈線による山形文内に細縄文。 内　篦ナデ。	N0-25と同一個体。
113	25	50	28-2	弥生壺　胴部	床＋4.2				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　平行沈線による山形文内に細縄文。 内　篦ナデ。	N0-24と同一個体。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
117	1	55	3	土師器甕 底～胴部強～口縁1/3	床直	(15.8)	5.2	27.8	10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
117	2	55	1	土師器甕ほぼ完形	床直	19.8	7.2	24.9	2.5YR3/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面に10R4/6赤色の赤彩を施した痕跡が残る。
117	3	55	2	土師器甕 口縁の一部～胴部2/3残	床直	(15.9)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
117	4	55	4	土師器小型甕 口縁一部欠	床直	14.8	6.8	13.0	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面口縁部外面全面赤彩。口縁内面に煤・灰が付着する。
117	5	55	6	土師器鉢 口縁1/4～底部完存	一括	(9.1)	5.4	6.7	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部指ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部指ナデ、体部篦ナデ。	
117	6	55	10	手捏土器 完形	床直	5.5	3.8	2.7	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
117	8	55	5	土師器坏 ほぼ完形	床直	12.8		5.6	10R5/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。内面に一条の沈線廻る。
117	9	55	7	土師器坏 口縁1/4弱	床直	(15.1)		(6.0)	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
117	10	55	8	土師器坏 1/3弱	床直	(13.8)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
117	11	55	9	土師器鉢 口縁1/2弱	床直	(14.1)			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
117	12	55	13	須恵器甕　胴部	一括				10Y3/1オリーブ黒色 5Y6/1灰色	良好	密	外　平行叩き、自然釉付着。 内　青海波磨り消す。	
117	13	55	12	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波残る。	
118	1	51	3	土師器甕 口縁1/4	床直	22.0			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
118	2	51	2	土師器甕 口縁3/4	カマド内一括	20.0			7.5YR5/8明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
118	3	51	8	土師器甕 口縁1/8	一括	(20.2)			10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
118	4	51	5	土師器甕 口縁1/5	床直	19.4			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
118	5	51	13	弥生壺 口縁1/4	一括	15.4			5YR6/8橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と押捺文、２連一組の棒状浮文貼り付け。 内　器面摩耗。	
118	6	51	6	土師器甕 底部ほぼ完存	床＋6		6.4		5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
118	7	51	7	土師器甕 底部1/4	カマド内一括		9.2		2.5YR4/4赤褐色	良好	密	外　器面摩耗。 内　篦ナデ。	
118	8	51	1	土師器甑 口縁1/8～胴部3/4	床＋6	25.6	7.4	31.4	7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
118	9	51	12-1	須恵器蓋 口縁全欠	一括				5Y7/2灰白色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
118	10	51	10	須恵器蓋 口縁1/10	床＋10.8	(16.0)			7.5Y5/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
118	11	51	11	須恵器蓋 口縁1/12	一括	(16.4)			2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
118	12	51	9	土師器坏 1/12	一括	(10.8)			5YR6/8橙色	良好	密	外　器面摩耗。 内　器面摩耗。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
118	13	51	4	土師器坏 ほぼ完形	カマド内一括	13.0		4.0	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
119	1	52B	1	土師器鉢 ほぼ完形	床直	10.1	3.1	6.4	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、施ナデ。 内　施ナデ。	内外面赤彩。
119	2	52B	2	土師器壺？ 底部完存	床直		6.0		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　施ナデ後一部施ミガキ。 内　施ナデ。	
119	3	52B	6	土師器鉢 口縁1/6強	床＋20.3	(13.0)			10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
119	4	52B	4	土師器甕 底部ほぼ完存	床＋3･＋5.2		9.6		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　施ケズリ後施ミガキ。 内　施ナデ。	
119	5	52B	5	土師器甕 底部1/4弱	床直		(6.0)		7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ミガキ。	
119	6	52B	3	土師器壺 底部1/4	床直		(8.8)		5YR4/8赤褐色	良好	密	外　施ミガキ。 内　施ナデ後施ミガキ。	
120	1	52	1	土師器高杯 坏部1/4	一括	(19.6)			10YR5/4にぶい黄褐色 2.5Y4/2暗灰黄色	良好	密	外　口縁部ナデ、他施ナデ後施ミガキ。 内　口縁部ナデ、他施ナデ後施ミガキ。	
120	2	52	2	土師器高杯 脚部・裾部欠	一括				7.5YR6/6橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
120	3	52	3	弥生壺　頸部付近	一括				5YR5/6明赤褐色 10R4/6赤色	良好	密	外　櫛描き文とＳ字状結節文、他施ミガキ。 内　施ミガキ。	内面赤彩。
120	4	52	5	土師器甕　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
121	1	54	2	弥生壺 口縁・頸部完存	床直	15.6			7.5YR6/6橙色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下に棒状工具によるキザミ目、頸部半截竹管による連続刺突文、２条のＳ字状結節文間に羽状縄文。 内　口縁部ナデ、頸部施ミガキ、胴部施ナデ。	内面頸部まで赤彩（7.5R4/4にぶい赤色）NO-6と同一個体。
121	2	54	1	弥生鉢 口縁1/5欠	床＋7	18.9	6.3	10.3	10YR5/6黄褐色 10YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁上に縄文、棒状工具によるキザミ目、胴部施ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部施ミガキ。	内外面赤彩（2.5YR5/6明赤褐色）
121	3	54	3	弥生高杯 脚底部1/3	一括	(15.8)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
121	4	54	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
121	5	54	10	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他施ナデ。 内　施ナデ。	
121	6	54	5	弥生鉢　胴部	床直				7.5YR6/6橙色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　２条のＳ字状結節文間に羽状縄文。 内　施ナデ。	NO-1と同一個体。
121	7	54	4	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR4/1灰褐色	良好	密	外　羽状縄文下に平行沈線よる波状文間内に施ミガキ。 内　施ナデ。	外面赤彩。
121	8	54	13	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線による波状文下に細縄文。 内　器面剥離。	
121	9	54	15	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　施ナデ。	
121	10	54	18	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR6/6橙色	良好	繊維混入	外　粗い縄文。 内　ナデ。	黒浜式土器？
121	11	54	19	須恵器大甕　胴部	床直				2.5Y3/2黒褐色 5Y5/2灰オリーブ	良好	密	外　平行敲き後ナデ。 内　青海波。	
122	1	60	2	土師器甕 口縁完存～底部全欠	床直	18.6			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
122	2	60	7	土師器甕 口縁1/3	一括	(14.4)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
122	3	60	6	土師器甕 口縁1/8	一括	(16.4)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
122	4	60	8	土師器坏 口縁1/3強～体部完存	床+7.3	(14.8)		6.1	2.5YR4/6赤褐色（底部以外） 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面全面赤彩。
122	5	60	4	土師器高杯 脚部全欠	床直	20.3			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
122	6	60	11	土師器高杯 脚裾部1/4欠	カマド内一括		12.4		10R4/6赤色	良好	密	外　施ナデ。 内　脚部施ケズリ、裾部施ナデ。	脚外面・坏部内面赤彩。
122	7	60	10	土師器高杯 口縁1/3	一括	(17.7)			2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
122	8	60	3	土師器甕 底部完存	床直		7.1		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　施ケズリ後施ミガキ、底部付近施ケズリ。 内　施ナデ。	
122	9	60	1	土師器甕 底部全欠	床+7.3	17.6			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
122	10	60	5	土師器壺 底部完存～胴部1/10	床直		8.8		7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　胴部施ナデ、底部付近施ケズリ。 内　施ナデ（器面剥離激しい）。	
122	11	60	14	土師器S字台付き甕 胴部	注記なし				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
122	12	60	13	土師器S字台付き甕 胴部	注記なし				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
122	13	60	15	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
122	14	60	12	土師器坏　底部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10R3/6暗褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ナデ（剥離激しい）。	底部外面に十文字の線刻有り。
123	1	61	1	土師器甕 口縁1/4～底部全欠	床直	13.9			7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部ハケ後施ナデ、胴部ハケ後施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ。	
123	2	61	2	土師器坩 口縁1/3～底部完存	床+2・pit内-13	(14.6)	4.0	10.7	10R4/6赤色	良好	密	外　口唇部ナデ他施ミガキ。 内　口唇部ナデ他施ミガキ。	内外面赤彩。内外面口縁部やや摩耗激しい。
123	3	61	3	土師器有段口縁鉢 口縁1/3欠	床直	18.0	3.5	5.6	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ後施ミガキ、体部施ミガキ。 内　口縁部ナデ後施ミガキ、体部施ミガキ。	外面1/2～内面赤彩。
125	1	56	5	土師器甕 口縁1/8	一括	(16.8)			5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
125	2	56	2	土師器甕 口縁1/3	一括 ・床+10.5	(16.6)			2.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
125	3	56	4	土師器甕 口縁1/6	床直	(18.2)			5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
125	4	56	6	土師器甕 口縁1/4	一括		(10.8)		7.5YR7/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	
125	5	56	21	土師器甕 底部1/2	床直		8.8		5YR6/6橙色 5YR7/6橙色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	
125	6	56	8	土師器甕 底部1/4	一括		(7.2)		5YR6/6橙色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	
125	7	56	22	土師器甕 底部1/3	一括		(7.6)			良好	密	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	
125	8	56	7	土師器甕 底部1/2	一括		(7.0)		10YR5/3にぶい黄褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	
125	9	56	10	土師器坏 口縁1/8	一括	(15.4)			10R5/6赤色 10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
125	10	56	11	土師器坏 口縁1/6	一括	(16.4)			10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
125	11	56	3	土師器甕 口縁1/4	床直	(19.0)			5YR6/6橙色 2.5YR6/8橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
125	12	56	1	土師器甕 胴部1/2	カマド内一括		18.1		7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
125	13	56	12	土師器高杯 口縁1/5	一括	(19.6)			7.5YR6/6橙色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
125	14	56	14	土師器高杯 坏部1/2・脚部全欠	一括	(18.2)			7.5YR6/6橙色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
125	15	56	15	土師器高杯 脚部1/2・坏部欠	床直		(10.0)		7.5YR7/6橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　施ケズリ、裾部ナデ。 内　施ケズリ、裾部ナデ。	
125	16	56	17	須恵器蓋 1/4強	一括	(15.2)		4.2	2.5Y7/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
125	17	56	16	土師器高杯 脚部・坏部・裾部欠	一括				10YR7/4にぶい黄橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ケズリ。 内　施ケズリ。	
125	18	56	9	土師器坏 口縁1/10～体部1/2	一括	(14.0)	5.0	5.1	5YR7/6橙色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
125	19	56	13	土師器高杯 坏部・脚部完存	床-16	(15.0)	11.6	11.7	5YR7/6橙色 5YR7/8橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体～脚部施ケズリ、裾部ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ、脚部施ケズリ、裾部ナデ。	
126	1	57	1	土師器甕 口縁一部・底部全欠	床+4・カマド内一括	17.9			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	接合状態が不良で歪な土器、２次加熱を受ける。
126	2	57	2	土師器甕 口縁1/5	一括	(20.8)			7.5YR5/6明褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ミガキ。	
126	3	57	12	須恵器蓋 天井部1/4・口縁全欠	一括	(9.0)		(3.4)	5Y7/2灰白色	良好	密	外　天井部回転施ケズリ、他回転ナデ。 内　回転ナデ。	湖西産。
126	4	57	6	土師器坏 口縁1/6	一括	(10.4)			10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部施ナデ後施ミガキによる放射状暗文。	内外面黒色処理。
126	5	57	4	土師器坏 口縁1/6	一括	(15.0)			10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	内外面黒色処理。
126	6	57	5	土師器坏 口縁1/4	一括	(16.2)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ後施ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	内面黒色処理。
126	7	57	3	土師器坏 口縁1/4	一括	(11.4)		5.2	10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後施ミガキ、体部施ケズリ後施ミガキ。 内　口縁部ナデ後施ミガキ、体部施ミガキ。	内外面黒色処理。
126	8	57	9	土師器埦 口縁一部欠	カマド内一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR3/3暗褐～10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ後施ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	内外面黒色処理。
126	9	57	10	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文と縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
126	10	57	11	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　平行沈線文と縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
127	1	58	2	土師器坏 口縁全欠・底部～胴部1/2強	カマド内一括	(27.8)	6.7	(14.7)	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	口縁部付近で大きく開くことから鉢として実測。
127	2	58	1	土師器甕 底部完存～胴部1/2	カマド内一括		7.0		7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　器面剥離激しい。	
127	3	58	3	土師器甕 口縁1/4弱～胴部1/2弱	床直	(15.4)			7.5YR6/6橙色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　胴部施ケズリ。 内　胴部施ケズリ。	内外面口縁部器面剥離激しい。
127	4	58	4	土師器甕 底部完存	カマド内一括		7.8		5YR5/6赤褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　器面剥離激しい。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
127	5	58	7	土師器坏 口縁1/8	一括	(14.0)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、他施ケズリ。 内　口縁部ナデ、他施ミガキ。	
127	6	58	8	土師器坏 口縁1/16	一括	(12.0)			7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　施ミガキ。	内面黒色処理。
127	8	58	5	土師器高杯 ほぼ完形	床＋4.5	14.6	9.8	10.7	7.5YR3/6黒褐色	良好	密	外　坏～脚部施ケズリ後施ミガキ、裾部施ナデ。 内　坏部施ミガキ、脚部施ケズリ。	脚内面以外黒色処理。
127	9	58	13	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部下に凸帯と縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
127	10	58	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線による菱形文と細縄文。 内　施ナデ。	菱形文内は赤彩。
129	1	59	9	須恵器高台付き坏 口縁1/6～底部1/2弱	床直	(14.4)	(9.4)	4.7	2.5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形、底部回転施ケズリ後高台部貼り付け。 内　ロクロ整形。	
129	2	59	10	須恵器高台付き坏口縁 1/4～底部1/2弱	一括	(14.4)	(9.0)	(4.0)	2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形、底部回転施ケズリ後高台部貼り付け。 内　ロクロ整形。	
129	3	59	12	須恵器坏 口縁1/8	一括	(10.0)			5Y6/2灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
129	4	59	5	土師器坏 口縁1/8	一括	(14.0)			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
129	5	59	1	土師器高杯 口縁1/2弱～脚部完存	床直	(13.8)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体～脚部施ケズリ、裾部ナデ。 内　体部施ミガキ、脚部施ケズリ、裾部ナデ。	
129	6	59	8	弥生甕　底部完存	一括		7.4		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　施ケズリ。 内　粗い施ナデ。	底部外面木葉痕あり。
129	7	59	4	土師器坏 口縁1/6	一括	(11.6)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	外面口縁部輪積み痕あり。
129	8	59	15	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/1灰色	良好	密	外　平行叩き後回転ナデ。 内　青海波は認められない（施ナデ状の痕跡残る）。	NO-10と同一個体。
129	9	59	14	須恵器甕　胴部	一括				5Y7/1灰白色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波は認められない、一部に施ケズリ痕跡が認められる。	
129	10	59	16	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/1灰色	良好	密	外　平行叩き後回転ナデ。 内　青海波は認められない（施ナデ状の痕跡残る）。	NO-8と同一個体。
129	11	59	19	弥生甕　口縁部	カマド内一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺文、他ナデ。 内　施ナデ。	
129	12	59	20	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　施ナデ。	
131	1	74	1	土師器甕 底部1/4弱	床直		(9.0)		10YR4/2灰黄褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　器面剥離。 内　器面剥離。	
131	2	74	2	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　原体押捺。 内　施ナデ。	
134	1	45	2	土師器甕	一括	(17.6)			5YR5/6明赤褐色	良好	２～４㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
134	2	45	1	土師器甕 口縁1/4	一括	(12.6)			2.5YR5/6赤褐色	良好	３～５㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
134	3	45	3	土師器甕 口縁1/3	一括	(15.8)			2.5YR5/8明赤褐色	良好	１～４㎜大の小石含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
134	4	45	9	弥生甕 口縁1/3弱	一括	(17.4)			10YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ハケ状工具によるキザミ目、胴部ハケ後施ナデ。 内　ハケ後施ナデ。	
134	5	45	5-1	土師器甕 底部1/8	一括		(9.2)		5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	２～４㎜大の礫含む	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
134	6	45	6	土師器甕 底部1/8	一括		(9.0)		7.5YR4/3褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	1～5㎜大の礫含む	外　施ケズリ。 内　施ナデ。	
134	7	45	4-1	土師器高坏 底部1/5	一括		(11.4)		2.5YR5/8明赤褐色 5YR6/8橙色	良好	密	外　施ナデ、後施ミガキ。 内　施ナデ。	外面赤彩。
134	8	45	8	須恵器坏蓋 蓋1/6	一括	(12.6)			2.5Y5/3黄褐色 2.5YR6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
134	12	45	14	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　平行沈線内に半截竹管による圧痕文。 内　ナデ。	
134	13	45	13	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　平行沈線文間に変形爪形文、棒状工具による圧痕文。 内　ナデ。	
165	1	土坑-76	1	土師器甕 底部完存	一括		3.9		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
165	2	土坑-76	4	須恵器甕　口縁部付近	一括				2.5Y5/1黄灰色 2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　２条の沈線の上下に烈点文。 内　ナデ。	
169	1	土坑-109	1	土師器甕 底部1/4	一括		(7.2)		2.5Y3/2黒褐色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
172	1	62	1	土師器甕 口縁3/4	床＋8	22.0			5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部器面摩耗。	
172	2	62	3	土師器甕 底部完存	床＋3		7.6		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　胴部施ケズリ。 内　器面摩耗。	
172	3	62	2	土師器甕 口縁1/4～胴部1/2	床＋4	(14.7)			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
172	4	62	4	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y5/1灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波磨り消し。	
217	1	64	2	土師器甕 口縁1/4弱	カマド内一括	25.2			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
217	2	64	1	土師器坏 口縁一部欠	一括	14.0			5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
217	3	64	4	土師器坏 口縁1/12	一括	(10.2)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
217	4	64	3	土師器坏 口縁1/12	一括	(12.0)			10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
217	5	64	7	須恵器蓋 口縁1/12	一括	(13.2)			2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
217	6	64	5	須恵器高台付き坏 底部完存	床直		9.9		7.5Y5/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形後高台貼り付け。 内　ロクロ。	底部回転方向逆時計回転。
217	7	64	6	須恵器坏 口縁1/12	一括	(13.9)			5Y6/2灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
217	8	64	9	須恵器甕　胴部	床直				7.5Y4/2灰オリーブ色 5Y6/1灰色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波ナデ磨り消し。	外面自然釉薄く付着。
217	9	64	8	須恵器甕　胴部	床直				7.5Y5/2灰オリーブ色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波ナデ磨り消し。	外面の一部、内面底部付近自然釉付着。
218	1	65	1	土師器甕 口縁1/4強	カマド内一括	(21.8)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
218	2	65	6	土師器坏 口縁1/8	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
218	3	65	4	土師器坏 口縁1/4	一括	(9.6)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
218	4	65	7	須恵器蓋 口縁1/8	一括				5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ調整。 内　ロクロ調整。	
218	5	65	2	土師器台付き甕 底部完存	一括		9.5		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
220	1	68	1	土師器甕 口縁2/3欠	床-60.P5	(19.4)	6.8	30.0	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
220	2	68	2	土師器瓶 口縁2/3欠	カマド内一括				2.5YR4/6赤彩（赤彩部分） 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	２次加熱によって赤彩が飛ぶが，内外面のいたる所に部分的に赤彩が残っている。
220	3	68	3	土師器甕 口縁1/3	一括	(15.2)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部粗い施ナデ（施ケズリに近い）。	
220	4	68	4	土師器坏 口縁1/12	一括	(16.8)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
220	5	68	6	縄文深鉢　口縁部	床-60.P5				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線文間に半截竹管文。 内　ナデ。	浮島式土器。
220	6	68	7	縄文深鉢　胴部	カマド内一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　懸垂文と縄文。 内　剥離。	加曽利Ｅ式土器。
220	7	68	5	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　貝殻復縁文。 内　ナデ。	浮島式土器。
234	1	溝-2	1	土師器鉢 口縁1/8	一括	(15.0)			5YR5/6明赤褐色 5YR5/1褐灰色	良好	密	外　器面剥離。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	内面黒色処理。
234	2	溝-2	2	土師器坏 口縁1/8	一括	(11.1)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　器面摩耗。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	
234	3	溝-2	3	土師器坏 口縁1/16	一括	(10.8)			10YR6/6明黄褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	
234	4	溝-8	2	土師器坏 口縁1/8	一括	(9.0)			10YR5/4にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ミガキ。	内面黒色処理。
234	5	溝-8	1	土師器坏 底部約1/2	一括		6.4		10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ミガキ。	内面黒色処理。
234	6	溝-8	3	須恵器蓋 口縁1/8	一括	(19.2)			2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロナデ。	
234	7	溝-2	6	弥生甕 底部2/3	一括		(7.0)		10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　器面摩耗。	
234	8	溝-2	7	弥生甕 底部1/4	一括		(6.8)		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　施ナデ。	底部外面木葉痕あり。
234	9	溝-2	5	弥生甕 底部1/3強	一括		(7.8)		10YR6/6明黄褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
234	10	溝-8	9	中世擂鉢　胴部	一括				5YR3/3暗赤褐色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　掻き目。	
234	11	溝-8	7	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1灰色 5Y5/2灰オリーブ色	良好	密	外　平行叩き。 内　青海波。	
234	12	溝-8	4	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR6/6橙色 10R5/6赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部上に縄文、他器面摩耗。 内　器面摩耗。	
234	13	溝-2	16	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
234	14	溝-2	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
234	15	溝-2	23	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/6明黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他施ナデ。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
234	16	溝-2	19	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR4/6赤褐色 5YR3/3暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に棒状工具によるキザミ。 内　ナデ。	
234	17	溝-2	22	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　流水文間に細縄文。 内　器面剥離。	
234	18	溝-2	13	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/3暗褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　横描き波状文。 内　ハケ後篦ナデ。	
234	19	溝-2	12	弥生壺　胴部	一括				10R4/3赤褐色 5YR4/1灰褐色	良好	密	外　平行沈線の上位に細縄文、下位に舌状文。 内　篦ナデ。	施文以外外面赤彩。
234	20	溝-2	10	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文後Ｓ字状結節文。 内　ナデ。	
234	21	溝-2	18	弥生甕　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	
234	22	溝-2	11	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	
234	23	溝-2	15	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　撚りのほぐれた細縄文。 内　篦ナデ。	
234	24	溝-2	14	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
234	25	溝-2	56	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　ナデ。	茅山式土器。
234	26	溝-2	57	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	茅山式土器。
234	27	溝-2	55	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　ナデ。	茅山式土器。
234	28	溝-2	48	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　ナデ。	茅山式土器。
234	29	溝-2	44	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　円形竹管による刺突文、他縄文。 内　篦ナデ。	関山式土器。
234	30	溝-2	32	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　半截竹管による押引文。 内　篦ナデ。	関山式土器。
234	31	溝-2	47	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR6/6いぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	黒浜式土器。
234	32	溝-2	21	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/3暗褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　沈線下に半截竹管による連続刺突文。 内　ナデ。	諸磯式土器。
234	33	溝-2	43	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	0.2～4㎜大の礫含む	外　半截竹管による集合沈線。 内　ナデ。	諸磯式土器。
234	34	溝-2	39	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/8橙色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　原体押捺。 内　ナデ。	浮島式土器。
234	35	溝-2	24	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR3/3暗褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部にキザミ、棒状工具による平行沈線文。 内　ナデ。	浮島式土器。
234	36	溝-2	26	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/6赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	0.5～4㎜大の礫含む	外　平行沈線間に爪形文による連続刺突文、他棒状工具によるキザミ。 内　ナデ。	浮島式土器。
234	37	溝-2	25	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	0.5～4㎜大の礫含む	外　平行沈線間に爪形文による連続刺突文、他棒状工具によるキザミ。 内　ナデ。	浮島式土器。
234	38	溝-2	27	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	0.5～4㎜大の礫含む	外　平行沈線間に爪形文による連続刺突文。 内　ナデ。	浮島式土器。
234	39	溝-2	45	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部下に竹管文。 内　篦ナデ。	五領ヶ台式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
234	40	溝-2	40	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　キャタピラー文と帯状のキザミ目。 内　ナデ。	五領ヶ台式土器。
234	41	溝-2	41	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯にキザミ目、幅広爪形文が方形にめぐる。 内　ナデ。	五領ヶ台式土器。
234	42	溝-2	46	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　竹管文。 内　篦ナデ。	五領ヶ台式土器。
234	43	溝-8	5	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/8明赤褐色 5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部粘土紐貼り付けによる円形隆帯。 内　ナデ。	勝坂式土器。
234	44	溝-2	28	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	金雲母含む	外　沈線による山形文、他角押文による連続刺突文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
234	45	溝-2	38	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR3/3暗赤褐色	良好	金雲母含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯と連続刺突文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
234	46	溝-2	33	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　角押文による連続刺突文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
234	47	溝-2	30	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	金雲母含む	外　口唇部棒状工具によるキザミ、他角押文による連続刺突文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
234	48	溝-2	29	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	金雲母含む	外　棒状工具によるキザミ、他粘土紐による貼り付けと角押文による押引文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
234	49	溝-2	36	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色 10YR4/4褐色	良好	金雲母含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯とキザミ。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
234	50	溝-2	50	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
234	51	溝-2	31	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線下位に縄文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
234	52	溝-2	37	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
234	53	溝-2	49	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　沈線区画内に縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
234	54	溝-2	52	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　棒状工具による平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
234	55	溝-2	34	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部下に一条の沈線。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
234	56	溝-2	42	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	0.5～3㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
234	57	溝-2	35	縄文深鉢　不明	一括				7.5YR7/8黄橙色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線文、他突帯部指頭押捺。 内　篦ナデ。	
234	58	溝-2	51	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/4にぶい黄橙色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯、棒状工具によるキザミ。 内　篦ナデ。	
234	59	溝-8	6	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/3褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
234	60	溝-2	58	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　浮線工字文。 内　ナデ。	晩期大洞系土器。
234	61	溝-2	54	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	晩期大洞系土器。
235	1	溝-1	6	弥生甕 口縁1/8	一括	(12.0)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部上位ナデ、下位篦ナデ。 内　口縁部上位ナデ、下位篦ナデ。	焼成後0.3㎝の穿孔、内側にもう１つの焼成後穿孔途中の痕跡あり。
235	2	溝-1	2	土師器坏 底部1/8強	一括		(9.2)		5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　器面摩耗。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
235	3	溝-1	1	土師器甑 底部1/8	一括		(7.2)		10YR6/4にぶい黄橙色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ後施ミガキ。	
235	4	溝-1	7	須恵器壺 底部1/4弱	一括		(9.2)		2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ回転施ケズリ。 内　ロクロ回転ナデ。	
235	5	溝-1	8	須恵器高台付坏 底部1/4強	一括		(3.9)		2.5Y5/1黄灰色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
235	6	溝-1	3	弥生甕 底部1/2弱	一括		(6.4)		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後施ナデ。 内　器面剥離。	底部外面木葉痕あり。
235	7	溝-1	4	弥生甕 底部1/4	一括		(5.8)		10YR3/2黒褐～10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　器面剥離。	
235	8	溝-1	5	弥生甕 底部1/8強	一括		(6.0)		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　器面剥離。	
235	9	溝-1	14	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y5/3黄褐色 2.5Y6/3にぶい黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	内面輪積み痕あり。
235	10	溝-1	13	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y6/3にぶい黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
235	11	溝-1	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
235	12	溝-1	17	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2灰褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他施ナデ。	
235	13	溝-1	12	弥生壺　口縁部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文、口縁部棒状浮文貼り付け、他施ミガキ。 内　施ミガキ。	内外面赤彩。
235	14	溝-1	16	弥生壺　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　ハケ後竹管による連続刺突文。 内　ハケ。	
235	15	溝-1	10	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ミガキ。	
235	16	溝-1	18	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
235	17	溝-1	22	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　２条の平行沈線区画内に櫛描き文、区画外に棒状工具による連続刺突文。 内　ナデ。	
235	18	溝-1	20	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5Y3/1オリーブ黒色	良好	金雲母と砂粒含む	外　凸帯部左右に２本の平行沈線、他縄文。 内　施ミガキ。	
236	1	溝-3	1	土師器甕 口縁1/8	一括	(19.8)			2.5Y3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
236	2	溝-5	1	土師器甕 口縁2/3残	一括	13.9			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	外面輪積み痕あり？
236	3	溝-5	2	土師器坏 口縁全欠・体部1/16残	一括	(11.8)		(5.4)	10R5/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
236	4	溝-5	13	須恵器甕 口縁1/16残	一括	(24.0)			5Y5/1灰色 2.5Y5/2暗灰褐色	良好	密	外　口縁部２条の沈線。 内　ロクロナデ。	
236	5	溝-5	12	須恵器甕 口縁1/16残	一括	(23.0)			5Y4/1灰色 2.5Y6/1黄灰色	良好	密	外　口縁部２条の沈線。 内　ロクロナデ。	外面自然釉付着。
236	6	溝-5	14	須恵器坏 口縁1/10残	一括	(16.4)			2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
236	7	溝-5	6	土師器坏 口縁1/8残	一括	(14.5)			10YR4/2灰黄褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部ナデ。	内外面黒色処理。
236	8	溝-5	8	土師器坏 口縁1/16残	一括	(9.2)			N2/0黒色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部施ミガキ。	外面黒色処理。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
236	9	溝-5	9	土師器坏 口縁1/16弱残	一括	(12.2)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部ナデ。	内外面黒色処理。
236	10	溝-5	5	土師器坏 口縁全欠・坏部1/8残	一括	(11.6)			10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
236	11	溝-5	4	土師器器台 坏部1/5残	一括	(10.8)			10YR6/4にぶい黄橙色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
236	12	溝-5	3	土師器高杯 口縁～坏部1/6残	一括	(13.4)			2.5YR5/6明赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
236	13	溝-5	10	土師器高杯 脚部のみ・裾部1/5残	一括	(10.0)			10R5/4赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ。	外面赤彩。
236	14	溝-3	2	弥生甕 底部1/4	一括		(8.2)		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
236	15	溝-5	11	弥生甕 底部1/2残	一括		7.2		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
236	16	溝-3	3	弥生甕 底部1/2	一括		5.6		10YR5/4にぶい黄褐色 2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
236	17	溝-3	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ハケ。	
236	18	溝-3	10	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
236	19	溝-5	17	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色 10YR5/3にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他ハケ。 内　ハケ。	
236	20	溝-5	22	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺？。 内　篦ナデ。	
236	21	溝-5	23	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部摘み上げ、外面端部にハケ状工具による原体押捺文。 内　篦ナデ。	
236	22	溝-5	26	弥生鉢　口縁部	一括				2YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他ハケ。 内　ハケ。	
236	23	溝-3	11	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　胴部キザミ目、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
236	24	溝-3	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画内に縄文、他ナデ。 内　器面剥離。	
236	25	溝-5	19	弥生壺　胴部	一括				10YR2/1黒色 2.5Y5/2黄灰色	良好	密	外　細縄文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
236	26	溝-5	18	弥生壺　胴部	一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線、他細縄文。 内　器面剥離。	
236	27	溝-5	20	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　平行沈線文と波状による沈線文。 内　ナデ。	
236	28	溝-5	16	弥生壺　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 5YR4/2灰褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　櫛描き文。	
236	29	溝-5	15	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　S字状結節文と羽状縄文。 内　篦ナデ。	
236	30	溝-5	27	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　平行沈線文と波状による沈線文。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。
236	31	溝-3	30	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。
236	32	溝-3	36	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
236	33	溝-3	21	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。
236	34	溝-3	23	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。
236	35	溝-3	24	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文、他縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。
236	36	溝-3	37	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。底部外面木葉痕あり。
236	37	溝-3	22	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維土器。
236	38	溝-3	29	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇・口縁部に棒状工具による２連の連続刺突文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
236	39	溝-3	25	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	金雲母含む	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、胴部櫛描き文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
236	40	溝-3	26	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	金雲母含む	外　口縁部ナデ、胴部竹管の押引きによる沈線と結節文が斜位に施文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
236	41	溝-3	35	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　隆帯下に竹管の押引きによる沈線が２本施される。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
236	42	溝-3	33	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	金雲母含む	外　隆帯区画に角押文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
236	43	溝-3	32	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/3にぶい褐色	良好	金雲母含む	外　隆帯。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
236	44	溝-5	29	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色	良好	微砂粒多	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
236	45	溝-5	31	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
236	46	溝-3	34	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　隆帯と沈線。 内　篦ナデ。	堀ノ内式土器。
236	47	溝-3	20	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙～2.5Y5/2暗灰黄色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　沈線と棒状工具による刺突文。 内　篦ナデ。	堀ノ内式土器。
236	48	溝-5	30	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/2灰褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　隆帯上に半截竹管による爪形文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
236	49	溝-3	31	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、沈線下に沈線による山形文。 内　折り返し口縁、他篦ナデ。	
236	50	溝-5	21	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　櫛描き文。 内　ナデ。	
236	51	溝-5	28	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	微砂粒多	外　平行沈線と粘土紐貼り付けによる隆帯上に格子目文。 内　篦ナデ。	
236	52	溝-5	32	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　櫛描き文。 内　ナデ。	
238	1	溝-6	1	弥生甕 底部1/5	一括		(8.2)		5YR4/3にぶい赤褐色 2.5Y6/4にぶい黄色	良好	１～４㎜大の礫含む	外　ハケ後篦ナデ。 内　器面剥離。	
238	2	溝-6	2	弥生甕 底部1/5	一括		(5.4)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
238	3	溝-6	7	弥生壺　口縁部	一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部下に沈線、沈線下に棒状工具によるキザミ。 内　篦ミガキ。	
238	4	溝-6	8	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文施文後Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
244	1	V字溝 サイロ	1	弥生壺 口縁1/4・頸部完存	一括	8.8			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、頸部施ミガキ、胴部上位に２条の細縄文後施ミガキ。 内　器面剥離。	赤彩？
244	2	V字溝 サイロ	2	弥生壺 底部完存	一括		4.6		2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　沈線による舌状区画内に細縄文、他施ナデ。 内　施ナデ、一部器面剥離。	外面施文以外・内面全面赤彩。NO10と同一個体の可能性あり。
244	3	V字溝 サイロ	3	弥生小鉢？ 2/3・底部完存	一括	11.4	2.4	6.6	10R4/4赤褐色 10R3/4暗赤色	良好	密	外　口縁部棒状工具によるキザミ、他施ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部施ミガキ。	内外面赤彩。
244	4	V字溝 サイロ	5	弥生壺 底部1/4	一括		(7.6)		10R5/6赤色 2.5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　施ナデ後施ミガキ？剥離激しく不明。 内　剥離。	外面赤彩。
244	5	V字溝 サイロ	6	弥生壺 底部1/2弱	一括		(7.4)		5YR4/8赤褐色 10YR4/4褐色	良好	１～５㎜大の礫混入	外　施ナデ。 内　施ナデ。	外面赤彩。
244	6	V字溝 サイロ	4	弥生壺 底部完存	一括		5.3		2.5YR4/6赤褐色 10YR4/1灰褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　器面剥離。	外面赤彩。
244	7	V字溝 サイロ	8	縄文深鉢 口縁1/10	一括	(24.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　ナデ。	
244	8	V字溝 サイロ	9	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口唇部面取り、他ハケ。 内　ハケ。	
244	9	V字溝 サイロ	11	弥生壺　口縁部	一括				10R4/4赤色 10R4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部棒状浮文貼り付け。 内　口縁部指ナデ、頸部施ナデ。	
244	10	V字溝 サイロ	13	弥生壺　胴部	一括				10R5/6赤色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　沈線で区画された舌状文内に細縄文。 内　施ナデ。	外面赤彩。NO-2と同一個体の可能性あり。
244	11	V字溝 サイロ	10	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6明褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	繊維混入	外　縄文。 内　施ナデ。	関山式土器。
244	12	V字溝 サイロ	17	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	繊維混入	外　縄文。 内　施ナデ。	関山式土器。
244	13	V字溝 サイロ	19	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口唇部平行沈線文、細い粘土紐貼り付け。 内　施ナデ。	諸磯B式土器。
244	14	V字溝 サイロ	18	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR8/8黄橙色	良好	密	外　平行沈線による肋骨文。 内　施ナデ。	諸磯A式土器。
244	15	V字溝 サイロ	20	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	金雲母混入	外　平行沈線文。 内　施ナデ。	阿玉台（Ⅳ）式土器。
244	16	V字溝 サイロ	16	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/6明黄褐色 5YR6/6橙色	良好	0.5～6㎜大の礫・金雲母混入	外　平行沈線文。 内　施ナデ。	阿玉台（Ⅳ）式土器。
一括	1	南幕址群	1	土師器甕 口縁1/4・胴部1/8強	一括	(15.0)			10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐～7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部施ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部施ナデ。	
一括	2	南幕址群	3	土師器甕 底部1/4弱	一括		10.2		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
一括	3	南幕址群	2	土師器坏 口縁1/8	一括	(16.4)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部施ナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
一括	4	南幕址群	9	須恵器壺 口縁1/8弱	一括	(16.8)			2.5Y7/2灰黄色 2.5Y6/3にぶい黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
一括	5	南幕址群	8	須恵器短頸壺 高台1/8	一括		(15.6)		2.5Y5/1黄灰～2.5Y5/2暗灰黄色（脚部） 2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形（脚部内・外）。 内　施ナデ。	
一括	6	南幕址群	5	土師器甕 口縁1/8	一括	(23.0)			7.5YR5/6明褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、他施ナデ。 内　口縁部ナデ、他施ミガキ。	外面赤彩。
一括	7	南幕址群	6	弥生甕 底部完存	一括		6.3		5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ミガキ。	
一括	8	南幕址群	7	弥生鉢 底部1/8	一括		(10.2)		7.5YR5/6明褐色 2.5Y4/2暗灰黄色	良好	密	外　施ナデ後U字形の抉りを持つ。 内　施ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	9	南幕址群	4	弥生甕 底部1/4弱	一括		(7.0)		10YR4/3にぶい黄褐～10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
一括	10	南幕址群	14	縄文深鉢 底部1/4	一括		(6.0)		10YR6/6明黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　施ナデ後懸垂文間に細縄文。 内　施ナデ。	
一括	11	南幕址群	15	縄文深鉢 底部1/4	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
一括	12	南幕址群	13	縄文深鉢 底部1/4弱	一括		(11.6)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	金雲母含む	外　ナデ。 内　ナデ。	
一括	13	南幕址群	18	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ。 内　施ナデ。	
一括	14	南幕址群	19	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐～10YR7/3にぶい黄橙色 10YR7/3にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文。 内　施ナデ。	
一括	15	南幕址群	25	弥生壺　胴部	一括				10YR3/2黒褐色 7.5YR6/6橙色	良好	砂含む	外　S字状結節文の上に細縄文。 内　施ナデ。	
一括	16	南幕址群	29	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　施ナデ。	北関東系土器。
一括	17	南幕址群	21	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁・胴部に爪形文。 内　施ナデ。	諸磯式土器。
一括	18	南幕址群	22	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁・胴部に爪形文。 内　施ナデ。	諸磯式土器。
一括	19	南幕址群	35	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　施ナデ。	浮島式土器。
一括	20	南幕址群	23	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	金雲母含む	外　半截竹管による角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
一括	21	南幕址群	28	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　施ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
一括	22	南幕址群	32	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　懸垂文。 内　施ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
一括	23	南幕址群	31	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	１～５㎜大の礫少し含む	外　口縁部ナデ、他胴部縄文。 内　施ナデ。	堀ノ内式土器。
一括	24	南幕址群	26	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/3褐色 5YR4/6赤褐色	良好	砂含む	外　沈線上に縄文。 内　施ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	25	南幕址群	30	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/2灰褐～7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/4褐色	良好	砂含む	外　沈線。 内　施ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	26	南幕址群	24	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR3/4暗赤褐色	良好	砂含む	外　施ナデ。 内　施ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	27	南幕址群	11	中世擂鉢　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐～7.5YR6/6橙色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　施ナデ。 内　櫛描き文。	
一括	30	墓此群	1	土師器坏 口縁1/5	一括	(14.8)			10YR4/4赤褐色 10YR4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧なナデ。 内　口縁部ナデ、体部施ナデ。	内外面赤彩。
一括	31	墓此群	3	カワラケ 底部1/4	一括		(5.1)		10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　施切り後ナデ。 内　ナデ。	
一括	32	墓此群	2	カワラケ 底部完存	一括		4.0		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　施切り。 内　ナデ。	
一括	33	墓此群	5	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	１～２㎜大の礫含む	外　平行沈線文と刺突文。 内　ナデ。	黒浜式土器。
一括	34	墓此群	6	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	35	墓此群	4	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	38	西墓址	5	土師器甕 底部2/3残	一括		(7.0)		5YR6/4にぶい橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　施ナデ。 内　施ナデ。	
一括	39	西墓址	1	土師器甕 底部1/3残	一括		(7.4)		7.5YR6/4にぶい橙色 5Y5/4にぶい赤褐色	良好	微砂粒含む	外　ハケ後施ナデ一部施ミガキ。 内　施ナデ。	
一括	40	西墓址	3	須恵器長頸壺 底部1/3残	一括				5Y 灰色 2.5Y7/1灰白色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	
一括	41	西墓址	4	須恵器高台付坏 底部1/8強残	一括		(10.8)		2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	
一括	42	西墓址	9	中世陶器捏ね鉢	一括	(32.2)			10YR5/2灰黄褐色 2.5Y5/1黄灰色	良好	1㎜大白色粒多含む	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	Ⅱ類９型式。
一括	43	西墓址	11	中世陶器（青磁碗龍泉） 底部1/8残	一括		(6.0)		10Y7/2灰白色	良好	密	外　　一 内　　一	
一括	44	西墓址	10	中世陶器（白磁皿Ｄ群） 底部3/4残	一括		4.0		5Y8/1灰白色	良好	密	外　　一 内　　一	
一括	45	西墓址	7	カワラケ 全体1/3残	一括	(7.2)	1.35	(4.8)	10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ロクロナデ、底部回転糸切り。 内　ロクロナデ、底部回転糸切り。	
一括	46	西墓址	8	カワラケ 底部1/4残	一括		(5.0)		7.5YR6/6橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ロクロナデ、底部回転糸切り。 内　ロクロナデ。	
一括	47	西墓址	6	カワラケ 底部1/3残	一括		(5.9)		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　指ナデ。 内　施ナデ。	
一括	48	西墓址	23	弥生甕　胴部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	3㎜大の礫含む	外　細縄文。 内　施ナデ。	
一括	49	西墓址	20	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	1～3㎜大白色粒多含む	外　Ｓ字状結節文と縄文。 内　ナデ。	前期繊維土器。
一括	50	西墓址	24	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	前期繊維土器。
一括	51	西墓址	21	縄文深鉢　胴部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線間に爪形文。 内　ナデ。	黒浜式土器。
一括	52	西墓址	18	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	53	西墓址	22	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/4にぶい橙色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	54	西墓址	19	縄文深鉢　胴部	一括				2.5Y6/1黄灰色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	微砂粒多	外　平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	63	円形土坑群表採	1	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
一括	64	円形土坑群表採	2	弥生甕　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　器面摩耗。	
一括	65	表採	22	須恵器蓋 口縁1/4	一括	(15.2)		(4.2)	2.5YR5/3黄褐色 2.5YR6/2灰黄色	良好	密	外　天井部回転施ケズリ、自然釉付着、宝珠摘み。 内　ロクロ整形。	
一括	66	表採	23	須恵器蓋 口縁1/4	一括	14.8		3.6	2.5YR6/2灰黄色 10YR6/2灰黄褐色	良好	密	外　自然釉が厚くかかりケズリ範囲不明。 内　ロクロ整形。	
一括	67	表採	17	須恵器蓋 口縁1/16強	一括	16.8			2.5YR5/1黄灰色 2.5YR4/2暗灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　口唇部沈線状のくぼみ、ロクロ整形。	
一括	68	表採	14	須恵器蓋 口縁1/4強	一括	9.2			2.5YR6/2灰黄色 2.5YR にぶい黄色	良好	密	外　天井部粘土盤に粘土紐貼り付けによる整形、手持ち施ケズリ。 内　ロクロ整形、自然釉付着。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	69	表採	13	須恵器坏身 口縁1/4	一括	10.0			2.5YR5/1黄灰色 2.5YR7/1灰白色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
一括	70	表採	18	須恵器坏身（高台付） 底部1/8	一括		8.4		2.5YR5/1黄灰色 2.5YR6/4にぶい黄色	良好	密	外　ロクロ整形、底部高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
一括	71	表採	12	須恵器坏 口縁1/4	一括	14.2	10.4	3.9	2.5YR6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
一括	72	表採	20	須恵器坏身（高台付） 底部3/8	一括		9.6		2.5YR7/3浅黄色 2.5YR6/3にぶい黄色	良好	密	外　ロクロ整形、底部高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
一括	73	表採	21	須恵器坏身（高台付） 底部1/2	一括		9.2		2.5YR7/2灰白色 2.5YR6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形、底部高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
一括	74	表採	19	須恵器坏身（高台付） 底部1/4	一括		7.7		2.5YR7/1灰白色 2.5YR7/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形、底部高台貼り付け。 内　ロクロ整形。	
一括	75	表採	15	須恵器甕 口縁1/8	一括	17.2			10YR3/1黒褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　ナデ？。 内　口唇部摘み上げ、指ナデ？。	
一括	76	表採	24	須恵器壺 頸部1/2	一括				2.5YR6/2灰黄色 2.5YR6/3にぶい黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	頸部と胴部別々に作成して指で接合。
一括	77	表採	16	須恵器壺 底部1/4	一括		13.4		2.5YR6/1黄灰色 2.5YR5/1黄灰色	良好	密	外　自然釉付着。 内　胴部回転篦ケズリ、ロクロ整形、底部付近回転篦ケズリ、自然釉付着。	
一括	78	表採	6	土師器高杯坏部 口縁1/4	一括	15.6	12.0	3.3	5YR6/8橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　斜格子状暗文。	
一括	79	表採	4	土師器高杯 口縁1/8	一括	18.0			2.5YR6/8明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
一括	80	表採	2-1	土師器高杯坏部 口縁2/3欠	一括	17.8			10R5/8赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
一括	81	表採	2-2	土師器高杯 脚裾部全欠	一括				10R5/6赤色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
一括	82	表採	5	土師器高杯 坏部口縁1/16	一括	18.1	10.6		2.5YR6/6橙色 2.5YR6/8橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
一括	83	表採	3	土師器高杯 脚裾部1/4	一括	11.6			2.5YR5/6明赤褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	外面赤彩。
一括	84	表採	10	土師器鉢 口縁1/8	一括	20.8			5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
一括	85	表採	7	土師器坏 口縁1/8	一括	14.5			7.5YR4/2灰褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後漆仕上げ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	漆仕上げ・内外面黒色処理。
一括	86	表採	9	土師器坏 口縁1/16	一括	10.6			7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキによる放射状の暗文。	内外面黒色処理。
一括	87	表採	11	土師器鉢 口縁1/8・底部1/8	一括	10.8	5.8	5.6	10YR6/6明黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ、一部に圧痕残る。	
一括	88	表採	8	土師器台付き甕 脚部1/4	一括		11.5		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
一括	89	表採	68	縄文浅鉢 口縁1/2強	一括	(32.2)			7.5YR3/3暗褐色	良好	金雲母多量に含む	外　口縁部文様帯に隆線や沈線による渦巻文、クランク文。 内　篦ミガキ。	阿玉台式土器。
一括	90	表採	69	縄文深鉢 底部1/4	一括		(15.6)		10YR5/3にぶい黄褐色 10YR4/1褐色灰色	良好	金雲母含む	外　細縄文による原体圧痕。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	91	表採	25	縄文深鉢 口縁3/8	一括	17.8			2.5YR5/8明赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　細縄文と沈線工字文。 内　指ナデ一部篦ナデ。	大洞式土器（晩期）。輪積み痕明瞭に残る。
一括	92	表採	1	弥生甕 底部1/4	一括	12.6	6.4	17.6	5YR3/1黒褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　細縄文後篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	93	表採	162	弥生壺 口縁1/8	一括	(11.6)			5YR6/6橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線による重四角文と縄文。 内　篦ナデ。	重四角文系土器。
一括	94	表採	102	弥生甕 底部1/5	一括		9.4		5YR5/6明赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
一括	95	表採	161	弥生甕 底部1/2	一括		9.4		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
一括	96	表採	103	弥生甕 底部1/8	一括		6.4		7.5YR4/6褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面木葉痕あり。
一括	97	表採	101	弥生壺？ 底部完存	一括	6.1			5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ミガキ。	
一括	98	表採	186	中世白磁埦 口縁1/16	一括	18.2			2.5Y7/3浅黄色	良好	密	外　折り返し口縁。 内　ロクロナデ。	
一括	99	表採	29	カワラケ 底部完存	一括		4.2		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　底部外面回転糸切り後ナデ。 内　ナデ。	
一括	100	表採	30	カワラケ 底部1/4	一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　底部外面回転糸切り後ナデ。 内　器面摩耗。	
一括	101	表採	31	カワラケ 底部1/6	一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　底部外面回転糸切り後ナデ。 内　器面摩耗。	
一括	102	表採	187	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	1～2㎜大の礫含む	外　微隆起線文。 内　篦ナデ。	田戸上層式土器。
一括	103	表採	104	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/6明黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　貝殻復縁文。 内　篦ミガキ。	早期田戸下層式土器。
一括	104	表採	176	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文と竹管の押捺文。 内　篦ナデ。	鵜ヶ島式土器。
一括	105	表採	188	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/6にぶい橙色	良好	密	外　口唇部に連続刺突文。 内　篦ナデ。	田戸上層～子母口。
一括	106	表採	105	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　半裁竹管による平行沈線文内に半裁竹管による連続刺突文、他縄文。 内　篦ナデ。	前期繊維式土器。
一括	107	表採	116	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文区画に半裁竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	108	表採	106	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/1褐灰～10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文区画に半裁竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	109	表採	108	縄文深鉢　胴部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文区画に半裁竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	110	表採	110	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文区画に半裁竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	111	表採	107	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文区画に半裁竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	112	表採	109	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文区画に半裁竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	113	表採	111	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	0.1～0.2㎜大の礫含む	外　平行沈線による文様内に爪による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	114	表採	115	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　半裁竹管による平行沈線文区画に半裁竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
一括	115	表採	118	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線下に棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	浮島式土器。
一括	116	表採	117	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後変形爪形文。 内　篦ナデ。	浮島式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	117	表採	189	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口唇部上からの指頭押捺文。 内　篦ナデ。	前期末葉。
一括	118	表採	191	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他下部に波状貝殻文。 内　篦ナデ。	前期末葉。
一括	119	表採	190	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、粘土紐巻き上げ痕、意識的に多段に残し原体押捺。 内　篦ナデ。	前期末葉。
一括	120	表採	120	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/4にぶい赤褐～10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部縄文。 内　篦ナデ。	五領ヶ台式土器。
一括	121	表採	119	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　結節縄文。 内　篦ナデ。	五領ヶ台式土器。
一括	122	表採	122	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5Y6/3にぶい黄色	良好	1～2㎜大の小石含む	外　折り返し口縁、口縁部棒状工具による平行沈線、胴部棒状工具による山形文、粘土紐貼り付けによる隆帯。 内　折り返し口縁、口縁部ナデ、他篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	123	表採	142	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	1㎜大の礫・金雲母少し含む	外　無文。 内　折り返しの段あり。	阿玉台式土器。
一括	124	表採	123	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5Y5/2暗灰黄色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部端に沈線、平行沈線による山形文。 内　折り返し口縁、他摩耗。	阿玉台式土器。
一括	125	表採	143	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1～2㎜大の礫・金雲母含む	外　無文、口唇部折り返しの段あり。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	126	表採	135	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/2暗赤褐色	良好	密	外　縄文施文後口唇・口縁部棒状工具による沈線、粘土紐貼り付けによる隆帯。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
一括	127	表採	137	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　口唇部指頭押捺文、口縁部指ナデによる凹帯。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	128	表採	133	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	金雲母含む	外　横方向の沈線下に斜め方向の沈線文、下に縄文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	129	表採	134	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/3にぶい褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、口縁部粘土紐貼り付けによる隆帯に棒状工具によるキザミ目。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	130	表採	146	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺文、他篦ナデ。 内　口唇部棒状工具による押捺文、他篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	131	表採	151	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部と胴部に棒状工具による連続刺突文による文様。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	132	表採	121	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	砂含む	外　隆帯にキザミ目、櫛状工具による平行沈線と山形文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	133	表採	144	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	1～2㎜大の礫・金雲母含む	外　角押文による押引き文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	134	表採	136	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/4にぶい赤褐色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	1～2㎜大の礫・金雲母含む	外　口唇部縄文帯以下平行沈線文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	135	表採	140	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/2灰黄褐色	良好	金雲母含む	外　角押文による押引き文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	136	表採	125	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　櫛状工具による平行沈線文。 内　篦ミガキ。	阿玉台式土器。
一括	137	表採	124	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部縄文、他沈線と角押文。 内　口唇部沈線。	阿玉台式土器。
一括	138	表採	138	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	1～4㎜大の白色礫・金雲母含む	外　櫛状工具による平行沈線と沈線。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	139	表採	154	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1～4㎜大の礫含む	外　キザミ目、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	140	表採	139	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	金雲母少し含む	外　渦巻き文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	141	表採	147	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4にぶい橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	砂含む	外　横方向の沈線施文後縦方向の押引き文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	142	表採	145	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　角押文による押引き文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	143	表採	148	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	砂多く含む	外　角押文による押引き文。 内　摩耗。	阿玉台式土器。
一括	144	表採	128	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸による縄文、沈線、角押文の連続刺突文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	145	表採	153	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 2.5YR5/3黄褐色	良好	砂含む	外　角押文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	146	表採	126	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　撚糸状の縄文。 内　篦ミガキ。	阿玉台式土器。
一括	147	表採	152	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　棒状工具による角押文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	148	表採	131	縄文深鉢　胴部	一括				2.5Y6/3にぶい黄～2.5Y5/2暗灰黄色	良好	1㎜大の礫含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に沈線文、平行沈線による山形文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	149	表採	141	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/3褐色	良好	1～2㎜大の小石・金雲母含む	外　角押文による押引きと隆帯による文様。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	150	表採	149	縄文深鉢　胴部	一括				2.5Y5/3黄褐色	良好	砂・金雲母含む	外　押引き文と隆帯による文様。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	151	表採	150	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6褐色	良好	1～4㎜大の礫含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯による文様。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	152	表採	127	縄文深鉢　胴部	一括				5YR3/4暗赤褐色 7.5YR3/4暗褐色	良好	1～4㎜大の礫・金雲母含む	外　櫛状工具による平行沈線文、粘土紐貼り付けによる隆帯に角押文。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
一括	153	表採	160	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/6明黄褐～10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部隆帯による文様。 内　口縁部ナデ、他施ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
一括	154	表採	159	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/4にぶい赤褐～7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部隆帯による文様。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
一括	155	表採	158	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
一括	156	表採	163	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐～10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部に２条の隆帯。 内　ナデ。	堀ノ内式土器。
一括	157	表採	164	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　丸形の貼り付け文、他沈線で文様。 内　渦巻き文。	堀ノ内式土器。
一括	158	表採	168	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　平行沈線文と縄文。 内　折り返し口縁。	堀ノ内式土器。
一括	159	表採	167	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	1～4㎜大の礫含む	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に押角文。 内　篦ナデ。	堀ノ内式土器。
一括	160	表採	165	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に爪形文、他下に縄文。 内　摩耗。	堀ノ内式土器。
一括	161	表採	166	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に爪形文、他下に縄文。 内　摩耗。	堀ノ内式土器。
一括	162	表採	169	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR6/6橙～10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	163	表採	170	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯に指頭押捺。 内　篦ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	164	表採	172	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　平行沈線文と指頭押捺による連続刺突文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｂ式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	165	表採	174	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6明褐色 2.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　沈線と指頭押捺文。 内　箆ミガキ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	166	表採	175	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線文と縄文。 内　箆ミガキ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	167	表採	171	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　箆ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	168	表採	173	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/1褐灰色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線と押し引きによる平行沈線文。 内　箆ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
一括	169	表採	177	縄文浅鉢　口縁部	一括				5YR4/1褐灰～10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部下に沈線工字文、他沈線間に赤彩残る。 内　沈線、他箆ナデ。	縄文晩期。
一括	170	表採	179	縄文浅鉢　胴部	一括				5YR5/4にぶい赤褐～10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙～10YR4/1褐灰色	良好	１～３㎜大の礫含む	外　平行沈線、他箆ナデ。 内　箆ナデ。	縄文晩期。
一括	171	表採	178	縄文浅鉢　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 2.5Y4/1黄灰色	良好	密	外　沈線。 内　箆ミガキ。	縄文晩期。
一括	172	表採	113	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線文。 内　箆ナデ。	縄文晩期。
一括	173	表採	180	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　箆ナデ。	縄文晩期。
一括	174	表採	82	弥生甕　口縁部	一括				10R5/6赤色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
一括	175	表採	88	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺文、他櫛描き文。 内　折り返し口縁、他箆ナデ。	
一括	176	表採	77	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/6赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
一括	177	表採	87	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ナデ。	
一括	178	表採	78	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他条線状のハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他箆ナデ。	
一括	179	表採	81	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3暗褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。	
一括	180	表採	99	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部ハケ、口縁部指頭押捺波条文、他ハケ。 内　口縁部指頭押捺波条文、他ハケ。	
一括	181	表採	83	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他ナデ。	
一括	182	表採	76	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁、口縁部指頭押捺波状文、他ハケ後箆ナデ。	
一括	183	表採	79	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ナデ。	
一括	184	表採	75	弥生甕　口縁部	一括				10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　縄文施文後Ｓ字状結節文。 内　ナデ。	
一括	185	表採	86	弥生壺　口縁部	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他ハケ。 内　口唇部に小さく折り曲げる、他ハケ。	
一括	186	表採	84	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他箆ナデ。 内　箆ナデ。	
一括	187	表採	80	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部に縄文、縄文下にキザミ目。 内　箆ナデ。	
一括	188	表採	85	弥生壺　口縁部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、口唇部下に沈線、他箆ナデ。 内　箆ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
一括	189	表採	90	弥生壺　胴部	一括				10YR5/6黄褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　細縄文下に棒状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
一括	190	表採	91	弥生壺　胴部	一括				10R4/8赤色 10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線による疑似流水文。 内　ナデ。	外面赤彩。
一括	191	表採	100	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　半裁竹管による櫛描き波状文、棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
一括	192	表採	98	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　沈線による舌状文の文様。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
一括	193	表採	89	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文充填による結紐文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
一括	194	表採	92	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文充填による結紐文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
一括	195	表採	96	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6赤褐色 2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　平行沈線文と山形文、棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
一括	196	表採	130	弥生甕　胴部	一括				7.5YR4/3褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　撚糸状の縄文。 内　篦ナデ。	
一括	197	表採	129	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　撚糸状の縄文。 内　篦ナデ。	
一括	198	表採	95	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文帯を挟み上位に波状文、下位に山形文状の沈線。 内　篦ナデ。	
一括	199	表採	93	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR7/4にぶい黄橙色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
一括	200	表採	94	弥生壺　胴部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
一括	201	表採	97	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケの上下に細縄文。 内　篦ナデ。	
一括	202	表採	70	須恵器甕　口縁部	一括				5Y3/1オリーブ黒色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ナデ。	
一括	203	表採	72	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1灰色	良好	密	外　頸部沈線上位に櫛描き文。 内　ナデ。	
一括	204	表採	73	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　頸部断面三角形のにぶい凸帯２条間に櫛描き波状文。 内　ロクロナデ。	
一括	205	表採	74	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y3/1黒褐色 2.5Y4/1黄灰色	良好	密	外　頸部外面に櫛描き波状文。 内　ナデ。	
一括	206	表採	71	須恵器樽型瓶 胴部	一括				2.5Y3/1黒褐色 2.5Y5/2暗灰黄色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　指ナデ。	

第４表　台遺跡Ｃ地点出土土製品観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	出土位置	法量（推定）cm/g				（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
						径（幅）	孔(厚さ)	高さ(長)	重量					
20	14	1	14	パン状土製品 3/4弱残	床－19	8.5	－	－	170.0	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	手捏土器。指ナデ指整形	
20	15	1	12	有孔円盤 1/8欠	一括	－	1.8～1.1 0.9～1.1	6.70	50.00	10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　細縄文施文。 内　施ナデ。	土器片利用の有孔円盤。
30	14	5	11	土器片錘　－	一括	－	－	－	9.0	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器片を２次利用した土器片錘。
34	14	11	7	泥めんこ 完形	一括	2.1	0.95	2.65	4.0	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密		
54	23	6A	20	土器片錘　－	一括	－	－	－	44.0	7.5YR6/6橙色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器片を２次利用した土器片錘。
72	7	20	4	平瓦　－	一括	10.2	2.4	6.9	174.0	10YR4/1褐灰色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	凹面布目、凸面敲き。	
77	24	21	32	布目瓦極一部	一括	－	－	－	63.0	5YR6/8橙色	良好	密	凹面布のとじしろ痕あり、凸面縄文。	
103	13	39	16	支脚下端部一部欠	注記なし	8.4	－	12.6	762.0	7.5YR5/6明褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
111	28	49	24	土玉　一部欠	一括	3.0	0.5	3.1	16.0	5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
117	7	55	11	支脚　1/2強	床直	先端5.9	－	長残8.4	131.0	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	施ケズリ後指押さえ。	
122	16	60	16	土玉　1/4欠	一括	－	－	－	20.4	10YR3/2黒褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
127	7	58	10	支脚　－	カマド内一括	最大7.0	－	残長12.5	380.0	10YR5/4にぶい黄褐色	不良	砂粒多	指ナデ指整形。	脆く壊れやすい。
134	9	45	12	支脚　全体1/9	一括	8.1	(4.5)	(7.5)	208.0	7.5YR5/6明褐色	良好	３～13㎜大の礫含む	指ナデ指整形。	法量は残存値。
134	10	45	11	支脚　全体1/5	一括	(5.4)	(5.3)	(8.8)	150.0	7.5YR5/6明褐色	良好	密	指ナデ指整形。	法量は残存値。
134	11	45	10	管状土錘 ほぼ完形	一括	2.0	0.6	5.1	18.0	7.5YR6/6橙色	良好	密	指ナデ指整形。	
165	3	土坑－76	2	管状土錘 一部欠	一括	1.9	0.8	4.9	16.0	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	指ナデ指整形。	
233	1	溝－4	1	土玉　完形	一括	3.8	0.9～0.5	3.3	45.0	2.5Y4/1黄灰色	良好	密	指ナデ指整形。	
236	55	溝－3	4	弥生土器片錘	一括	－	－	－	30.0	10YR6/4にぶい黄橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	上下２～３㎜切り込まれる。	土器片を利用したもの。
一括	29	南幕址	37	平瓦　－	注記なし	7.3	2.4	5.5	92.0	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外縄文。内布目。	
一括	36	幕此群	7	瓦（玉縁付男瓦）	一括	－	－	－	190.0	7.5YR6/6橙色	良好	密	玉縁の一部が残る、凹面布目痕。	
一括	60	西幕址	25	平瓦　1/6残弱	一括	13.7	2.2～2.6	13.3	370.0	5Y5/1灰色	良好	密	凹面布目、凸面縄文。	凹面に指による圧痕あり。
一括	61	西幕址	26	平瓦　－	一括	11.9	2.6～2.9	13.2	350.0	7.5YR6/4にぶい橙色 2.5YR6/2灰黄色	良好	密	凹面布目、凸面縄文。	
一括	62	西幕址	27	平瓦　－	一括	6.5	2.4～2.7	8.9	135.0	5Y5/1灰色	良好	密	凹面布目、凸面縄文。	
一括	207	表採	26	土器片錘　－	一括	－	－	－	36.0	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密		縄文土器加曽利Ｅの土器片転用土錘。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	出土位置	法量（推定）cm/g				（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
						径（幅）	孔（厚さ）	高さ（長）	重量					
一括	208	表採	27	管状土錘 完形	一括	1.8	0.3～0.4	4.3	11.2	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密		
一括	209	表採	28	管状土錘 両端部欠	一括	1.5	0.5～0.6	－	7.7	7.5YR5/6明褐色	良好	密		
一括	215	表採	181	平瓦	一括	9.7	2.2	6.8	180.0	2.5Y3/2黒褐～2.5Y5/3黄褐色	良好	密	凹面布目、凸面縄文。	

第５表　台遺跡Ｃ地点出土金属器等観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	出土位置	法量（推定）cm/g				備考
						長さ	幅	厚さ（高さ）	重量	
26	11	7	19	フック状鉄製品	カマド内一括	残長7.4	幅4～2mm	厚4～2mm	3.20	釘を曲げて造ったか？あるいは釘が自然に曲がったものか？
61	7	16	7	鉄鎌　－	床+7	残長7.1	幅2.8～4.1	残厚0.4	34.10	＊校正段階で新たに発見されたため、第131図に掲載。
65	26	35	36	用途不明鉄器	床直	残長6.4	残幅2.2	残厚最大0.2	5.30	＊校正段階で新たに発見されたため、第131図に掲載。
71	11	66	12	刀子　－	一括	刃部残長0.8	刃部幅1.2	刃部厚0.4	5.40	残長5.2cm。＊校正段階で新たに発見されたため、第131図に掲載。
79	11	37	21	鉄釘　－	一括	歪長5.4	幅3～2.5		2.20	
99	28	43	26	槍鉋完形	床+10	残長14.3	茎幅0.9	茎厚0.5	25.50	刃部長1.8cm刃部幅1.05cm刃部原0.25cm茎部長12.5cm。地金の遺存比較的良好。
125	20	56	18	刀子鉄器　－	床直	残長5.3	茎幅0.7cm	茎厚0.2	4.40	刃部長2.0cm茎長3.3cm
127	11	58	14	鉄製刀子茎部 刃部全欠	カマド内一括	茎長5.4	茎幅最大0.9	茎厚0.3	5.30	つば止め状のリンク付く。＊校正段階で新たに発見されたため、第131図に掲載。
127	12	28B	15	鉄釘残欠　－	床+13.8	残長8.1	残幅最大0.8	残厚最大0.6	9.30	両端欠。＊校正段階で新たに発見されたため、第131図に掲載。
234	64	溝-2	60	鉄釘　－	覆土	残長4.6	残幅最大0.9	残厚最大0.6	8.20	先端部欠。＊校正段階で新たに発見されたため、第131図に掲載。
一括	28	南幕址	38	寛永通宝　半分欠	注記なし	2.3	2.3	0.1	1.20	孔は方形で7.0mm。
一括	212	表採	65	皇宋通宝	注記なし	2.38	2.34	0.1～0.2	4.00	1039年。孔は方形で5.8mm。
一括	213	表採	66	寛永通宝	注記なし	2.37	2.39	0.9～1.2	5.00	孔は方形で6.0mm。
一括	214	表採	67	文久永宝	注記なし	2.64	2.66	0.7～1.1	4.00	孔は方形で6.5～6.8mm。

第６表　台遺跡Ｃ地点出土玉類観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	色調	出土位置	法量（推定）cm/g					備考
							長さ（径）	幅	孔	厚さ(高さ)	重量	
71	9	66	11	有孔円盤　1/5欠	2.5GY6/1緑灰色	一括	23.50	27.00	0.43～0.52 0.34～0.46	3.50	3.50	滑石
99	24	43	35	臼玉　完形	5Y5/1灰色	床直	5.00	5.00	0.34～0.41	3.50	0.40	滑石
99	25	43	37	臼玉　一部欠	7.5Y5/1灰色	床直	4.50	5.00	0.25～0.34	2.50	0.10	滑石
99	26	43	38	臼玉　完形	10Y5/1灰色	床直	3.50	3.50	0.24～0.35	3.00	0.10	滑石
99	27	43	36	臼玉　完形	7.5Y5/2灰オリーブ色	床直	5.00	5.00	0.35～0.45	3.50	0.40	滑石
99	37	43	24	有孔円盤　一部欠	2.5GY7/1明オリーブ灰色	床＋5	25.00	27.00	0.31～0.40 0.35～0.35	4.00	5.20	滑石
99	38	43	25	有孔円盤　1/5欠	5BG5/1青灰色	一括	27.00	28.00	0.36～0.56 0.40～0.56	4.00	5.50	滑石
101	8	41	13	有孔円盤　一部欠	5Y5/2灰オリーブ色	カマド内一括	25.00	24.00	0.35～0.76 0.40～0.69	3.20	3.20	滑石
102	14	40	12	有孔円盤　1/4欠	10Y7/1灰白	一括	26.50	26.00	0.32～0.49 0.43～0.50	4.50	4.70	滑石
102	15	40	11	有孔円盤　1/6欠	2.5Y7/3浅黄色	床直	2.35	3.20	0.43～0.50	5.00	7.00	滑石
102	16	40	10	偏平勾玉　完形	5Y4/1灰色	カマド内一括	40.00	18.00	0.26～0.45	4.50	11.50	滑石
103	14	39	13	有孔円盤　一部欠	7.5Y7/1灰白色	カマド内一括	22.00	24.50	0.39～1.12 0.40～0.72	4.25	3.40	滑石
103	15	39	12	有孔円盤　一部欠	5BG5/1青灰色	カマド内一括	28.50	33.00	0.62～0.83 0.46～0.55	5.00	7.70	滑石
111	30	49A	25	有孔円盤　一部欠	5BG4/1暗青灰色	内溝	25.50	25.50	0.21～0.29 0.23～0.36	4.00	3.70	滑石
126	11	57	13	有孔円盤　一部欠	5GY4/1暗オリーブ灰色	床＋7.5	34.50	34.00	0.49～0.51 0.33～0.45	3.50	8.20	滑石
224	1	土坑114	1	管玉　完形	10Y4/2灰オリーブ色	一括	20.50	4.00	0.28～0.39	4.00	0.60	碧玉
234	63	溝－8	8	臼玉　完形	7.5Y6/2灰オリーブ色	一括	5.50	5.25	0.18～0.36	3.50	0.10	滑石
一括	210	表採	48	有孔円盤 ほぼ完形	10G5/1緑灰色	一括	21.50	45.00	0.29～0.63 0.40～0.57	5.00	16.30	滑石
一括	211	表採	49	玉　1/2欠	7.5GY5/1緑灰色	一括	6.00	11.00	0.73～0.97	3.50	0.50	滑石

第７表　台遺跡Ｃ地点出土石器等観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	色調	出土位置	法量（推定）cm/g				備考
							長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
2	13	方周5－4	4	砥石　2/3	10YR5/3にぶい黄褐色	西側周溝	6.70	3.70	3.65	125.00	砂岩
4	17	方周3－2	1	敲き石　完形	2.5Y4/4オリーブ褐色	一括	10.50	6.20	3.30	330.00	砂岩
5	51	方周1－3	5	磨石　下端部欠	10YR3/2黒褐色	西側周溝	10.30	7.10	6.30	740.00	砂質頁岩
6	12	方周14－4	1	石鏃　－	N2/黒色	北側周溝	2.85	1.50	0.92	2.80	黒曜石
10	7	方周8主体部	3	磨石　完形	2.5Y5/4黄褐色	主体部一括	3.60	3.90	1.20	30.00	輝石安山岩
13	12	方周7－4	5	磨石　完形	2.5Y6/4にぶい黄色	北側周溝	6.10	2.75	2.50	67.00	砂岩
16	13	地下式－1	6	石棍？蓋？　1/4	7.5Y5/1灰色	一括	9.60	12.50	5.40	580.00	輝石安山岩（第4期）
20	35	1	15	石鏃　－	N2/黒色	一括	1.50	2.00	0.39	0.90	黒曜石
25	16	9	6	磨石・凹石　1/2	10YR4/2灰黄褐色	一括	7.20	5.50	3.95	210.00	砂岩
26	21	7	18	磨石　2/3	2.5Y6/1黄灰色	床直	15.30	10.70	10.00	2250.00	無斑晶質安山岩
31	13	12	16	磨石　2/3	2.5Y6/4にぶい黄色	一括	10.70	4.50	2.30	185.00	緻密質安山岩
54	24	6A	7	磨製石斧　完形	7.5Y4/1灰色	注記なし	4.85	2.65	9.00	25.00	砂岩
54	25	6A	6	磨石・敲き石　完形	7.5Y4/1灰色	床＋5	10.00	5.55	3.75	335.00	砂岩
55	5	6B	5	磨石　－	2.5Y7/4浅黄色	床＋5	2.90	2.20	2.00	0.50	軽石
55	6	6B	4	磨石　－	2.5Y6/4にぶい黄色	床＋5	4.00	4.20	2.00	3.10	軽石
56	29	24	31	磨石　完形	2.5YR6/4にぶい黄色	P11底面＋4	7.60	6.55	4.30	321.00	砂岩
57	10	13	5	敲き石　完形	10Y2/1黒色	一括	6.20	3.10	2.60	95.00	チャート
59	24	15	31	磨石　1/2強	7.5YR4/3褐色	一括	10.80	5.80	3.70	374.00	砂岩
59	25	15	33	砥石　－	2.5Y7/4浅黄色	一括	7.00	1.25	3.00	44.00	流紋岩
59	26	15	32	石剣　－	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	一括	5.30	4.80	1.20	77.00	砂岩
65	24	35	21	凹石1/2	2.5Y5/3黄褐色	一括	13.70	6.40	5.70	605.00	砂岩
65	25	35	22	石鏃	10Y2/1黒色	一括	2.40	(2.30)	0.72	3.60	黒曜石
68	34	69A	9	石斧　完形	7.5Y5/1灰色	西側より	5.40	1.85	1.30	23.00	ドレライト
70	13	25	8	石皿　完形	7. YR6/6橙色	床直	17.40	13.80	5.50	1315.00	砂岩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	色調	出土位置	法量（推定）cm/g				備考
							長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
71	10	66	7	砥石　－	2.5Y7/6明黄褐色	一括	9.15	2.75	2.10	75.00	流紋岩
74	18	18	9	磨石　完形	2.5Y6/2灰黄色	一括	8.00	3.60	2.00	95.00	砂岩
74	19	18	10	石剣　－	2.5Y7/4浅黄色	床＋10	14.30	6.85	1.60	201.00	堇青石ホルンフェルス
77	25	21	16	石皿　1/4	5Y5/3灰オリーブ色	床直	18.80	12.20	3.70	1300.00	石英閃緑岩
77	26	21	15	凹石　完形	2.5Y6/4にぶい黄色	床直	9.30	5.50	3.25	278.00	砂岩
77	27	21	14	紡錘車　一部欠	5Y4/1灰色	一括	3.30	3.30	2.45	43.50	滑石
79	10	37	20	紡錘車　ほぼ完形	5Y3/1オリーブ黒色	一括	4.25	4.10	2.10	61.20	滑石
82	10	72	9	砥石　完形	2.5Y5/4黄褐色	一括	2.45	2.50	1.40	11.00	砂岩
82	11	72	10	磨石 完形	10Y5/2オリーブ灰色	一括	5.80	5.10	3.75	162.00	砂岩
91	21	28	11	磨石　1/2	2.5YR6/3にぶい黄色	一括	4.90	4.80	3.50	135.00	輝石安山岩
91	22	28	10	磨石・敲き石　2/3	10YR6/3にぶい黄褐色	床＋2.5	7.70	6.25	3.50	275.00	花崗斑岩
91	23	28	9	尖頭器　－	10YR5/2灰黄褐色	一括	5.02	1.30	0.56	3.70	頁石
93	31	26	37	砥石（下げと）　完形	2.5Y7/2灰黄色	カマド内一括	10.50	2.55	1.85	95.00	砂質頁岩
93	32	26	10	石皿　1/3欠	2.5Y6/1黄灰色	床＋0.5	14.20	11.90	5.85	1400.00	無斑晶質安山岩
96	25	42	25	磨石　完形	5Y6/2灰オリーブ色	一括	5.95	5.05	3.55	166.00	輝石安山岩
97	23	38	28	磨石　3/4弱	10YR5/6黄褐色	一括	8.85	6.00	3.65	182.00	砂岩
97	24	38	9	磨石　完形	2.5Y7/4浅黄色	P7内	16.70	17.50	11.00	300.00	軽石
97	25	38	7	磨石　完形	2.5Y7/3浅黄色	床－3	9.60	3.70	2.70	56.00	砂岩
97	26	38	27	磨石　－	10YR6/4にぶい黄橙色	P7内	7.50	5.10	2.70	9.80	軽石
97	27	38	8	磨石・敲き石　完形	2.5Y6/2灰黄色	床＋14	8.90	3.20	1.95	86.00	砂岩
97	28	38	24	磨石　－	2.5Y6/4にぶい黄色	一括	7.90	7.80	4.40	31.40	軽石
99	36	43	23	石皿転用敲き石	2.5Y4/3オリーブ褐色	床＋5	6.15	6.00	4.80	270.00	石英斑岩
101	9	41	14	有孔円盤　ほぼ完形	2.5Y6/1黄灰色	床直	3.35	2.85	0.47～0.73 (0.40～0.47)	3.70	滑石（有孔円盤から剣型製品に再利用）
103	16	39	14	紡錘車　一部欠	5Y6/1灰色	測定値なし	3.45	3.65	1.60	33.00	滑石
111	29	49A	26	砥石　下端欠	2.5Y6/3にぶい黄色	一括	4.50	2.00	2.00	42.00	砂岩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	色調	出土位置	法量（推定）cm/g				備考
							長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
114	1	48	1	磨石　両端部欠	10YR3/2黒褐色	床直	11.60	8.75	7.10	895.00	砂岩
122	15	60	17	石皿転用敲き石	2.5Y6/1黄灰色	一括	6.70	7.20	4.25	297.00	輝石安山岩
129	13	59	21	磨石　完形	2.5Y5/3黄褐色	一括	6.50	3.50	2.10	70.00	砂岩
165	4	土坑−76	3	磨石　1/2	2.5Y4/4オリーブ褐色	一括	6.85	7.85	2.60	191.00	頁岩
172	5	62	5	石皿転用凹石	2.5Y4/4オリーブ褐色	一括	5.70	6.30	3.20	95.00	多孔質輝石安山岩
217	10	64	10	磨石　2/3前後	2.5Y7/3浅黄色	一括	4.00	4.00	3.50	13.00	軽石
218	6	65	8	砥石　完形	2.5Y7/2灰黄色	一括	2.70	2.20	1.30	13.00	流紋岩
220	8	68	8	砥石　一部欠	2.5Y6/3にぶい黄色	一括	5.15	2.40	1.10	21.90	流紋岩
234	62	溝−2	9	砥石　完形	2.5Y6/4にぶい黄色	一括	9.25	4.95	5.25	314.00	流紋岩
236	53	溝−3	5	磨石　完形	2.5Y4/2暗灰黄色	一括	6.90	5.00	1.80	97.00	砂岩
236	54	溝−3	7	砥石　−	7.5YR3/4暗褐色	一括	4.20	2.40	1.35	17.00	流紋岩
236	56	溝−3	8	磨石　完形	2.5Y6/2灰黄色	一括	5.40	4.70	2.50	22.00	軽石
238	5	溝−6	3	磨石・敲き石　一部欠	10YR5/4にぶい黄褐色	一括	8.00	4.40	2.25	130.00	石英斑岩（流紋岩質凝灰岩）
238	6	溝−6	4	砥石　−	5Y7/2灰白色	一括	4.85	3.10	3.00	59.00	流紋岩
238	7	溝−6	6	砥石　−	5Y7/2灰白色	一括	3.70	2.55	1.80	21.00	流紋岩
238	8	溝−6	5	砥石　−	2.5Y7/2灰黄色	一括	4.40	2.50	2.10	26.00	流紋岩
一括	37	墓址群	8	砥石　−	2.5Y6/4にぶい黄色	一括	5.05	2.60	1.90	44.00	流紋岩
一括	55	西墓址	16	砥石　−	10YR5/4にぶい黄褐色	一括	5.00	4.00	2.10	69.00	流紋岩
一括	56	西墓址	17	石剣片　−	2.5Y6/4にぶい黄色	一括	4.75	5.00	1.20	46.00	流紋岩
一括	57	西墓址	15	磨石　完形	5Y5/3灰オリーブ色	一括	5.60	3.45	2.45	70.00	砂岩
一括	58	西墓址	13	磨石　完形	5Y4/4暗オリーブ色	一括	8.95	4.40	2.60	162.00	砂岩
一括	59	西墓址	12	磨石　完形	2.5Y5/4黄褐色	一括	13.10	3.80	2.75	220.00	流紋岩
一括	216	表採	47	分銅型石斧　完形	10YR6/4にぶい黄橙色	一括	8.70	4.90	2.30	105.00	頁岩
一括	217	表採	46	砥石　完形	2.5Y6/4にぶい黄色	一括	8.15	5.00	2.80	138.00	デイサイト
一括	218	表採	45	石皿転用砥石　完形	2.5Y6/3にぶい黄色	一括	9.40	5.70	3.40	220.00	砂岩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	色調	出土位置	法量（推定）cm/g				備考
							長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
一括	219	表採	42	磨石・敲き石	2.5Y5/3黄褐色	一括	8.50	5.55	4.20	262.00	砂岩
一括	220	表採	40	磨石・敲き石　完形	2.5Y6/3にぶい黄色	一括	7.10	5.35	3.80	205.00	石英斑岩
一括	221	表採	35	磨石・敲き石　完形	7.5YR4/3褐色	一括	9.80	5.80	3.30	308.00	斜長斑岩
一括	222	表採	43	磨石・敲き石　1/3	10YR6/4にぶい黄橙色	一括	9.20	5.10	3.90	255.00	石英斑岩
一括	223	表採	41	磨石・敲き石　完形	2.5Y5/3黄褐色	一括	7.10	5.05	2.90	140.00	輝石安山岩
一括	224	表採	36	磨石　完形	2.5Y5/3黄褐色	一括	7.55	5.65	3.35	195.00	石英斑岩
一括	225	表採	44	磨石　完形	7.5YR4/3にぶい褐色	一括	7.70	4.00	2.15	95.00	董青石ホルンフェルス
一括	226	表採	37	磨石　完形	10YR5/4にぶい黄褐色	一括	8.80	6.00	3.40	270.00	石英斑岩
一括	227	表採	33	磨石（タール付着）1/2強	5Y6/3オリーブ黄色	一括	9.90	6.00	4.65	372.00	砂岩
一括	228	表採	34	磨石　完形	10YR3/3暗褐色	一括	9.05	4.85	3.65	210.00	チャート
一括	229	表採	38	磨石（石斧）　一部欠	7.5Y6/2灰オリーブ色	一括	12.00	4.45	2.40	190.00	緻密質安山岩
一括	230	表採	32	磨石・敲き石　完形	5YR4/3にぶい赤褐色	一括	10.00	7.40	4.80	508.00	石英斑岩
一括	231	表採	39	磨石一部欠	7.5Y4/1灰色	一括	9.10	4.90	2.70	188.00	砂質頁岩
一括	232	表採	63	尖頭器　－	2.5GY4/1暗オリーブ灰色	一括	4.48	2.10	0.89	6.40	チャート
一括	233	表採	59	石鏃　－	7.5Y3/1オリーブ黒色	一括	1.62	1.30	0.45	1.00	黒曜石
一括	234	表採	55	石鏃　－	2.5GY3/1暗オリーブ灰色	一括	1.40	1.55	0.35	1.20	黒曜石
一括	235	表採	50	石鏃　－	10Y3/1オリーブ黒色	一括	2.20	1.51	0.55	2.20	黒曜石
一括	236	表採	56	石鏃　－	N2/黒色	一括	2.35	1.40	0.60	1.80	黒曜石
一括	237	表採	53	石鏃　－	10YR7/3にぶい黄橙色	一括	残長2.56	2.20	0.46	2.00	瑪瑙
一括	238	表採	61	石鏃　－	7.5Y3/1オリーブ黒色	一括	残長1.96	1.70	0.45	1.80	黒曜石
一括	239	表採	60	石鏃　－	2.5Y4/1黄灰色	一括	2.54	1.35	0.74	2.80	黒曜石
一括	240	表採	64	石鏃　－	7.5Y3/1オリーブ黒色	一括	2.56	2.54	0.55	2.90	黒曜石
一括	241	表採	57	石鏃　－	7.5Y3/1オリーブ黒色	一括	1.89	1.60	0.38	1.10	黒曜石
一括	242	表採	58	石鏃　－	7.5Y3/1オリーブ黒色	一括	1.89	1.40	0.46	1.20	黒曜石

写真図版

台遺跡周辺航空写真（昭和36年撮影）

台遺跡調査前風景１　（南よりＢ地点方面を望む）

同２　（南より１号線方面を望む）

台遺跡Ｃ地点同３　（南より）

御林跡遺跡埋め戻し後、台遺跡Ｂ地点方面を望む

御林跡遺跡埋め戻し中に台遺跡Ｃ地点を望む

御林跡遺跡より台遺跡Ｃ地点を望む（北西より）

１号方形周溝墓周辺　（北より）

１号主体部調査状況　（南より）

図版2

１号西側周溝内土壙全景　（北西より）

２号方形周溝墓全景　（手前は34号住居跡　南西より）

３号方形周溝墓全景　（北西より）

４号方形周溝墓全景　（手前は土坑群　北東より）

４号周溝内土壙全景　（東より）

５号方形周溝墓全景　（南東より）

５号東側周溝

５号主体部調査状況　（南より）

５号主体部完掘調査状況　（東より）

６号方形周溝墓全景　（東より）

７号方形周溝墓全景　（南東より）

７号全景　（北西より）

７号主体部完掘状況　（西より）

８号方形周溝墓周辺　（手前は84号住居跡　南より）

８号南側周溝

８号西側周溝　（南より）

図版4

９号方形周溝墓全景　（手前は79号住居跡　南東より）

９号主体部完掘状況　（中央左は78号土坑　東より）

10号方形周溝墓全景　（南東より）

11号方形周溝墓全景　（左手前は89号土坑　北西より）

12号方形周溝墓全景　（手前は98号住居跡　南東より）

13号方形周溝墓全景　（南より）

13号主体部調査状況　（南西より）

14号方形周溝墓全景１　（南西より）

14号全景２　（南西より）

14号主体部　（手前Ａ　奥Ｂ　南東より）

14号主体部　（右Ａ　左Ｂ　西より）

15号方墳・地下式横穴墓周辺　（南西より）

15号羨道部調査状況　（南西より）

15号羨道部完掘状況　（南西より）

15号玄門構造

15号玄門越しの玄室内状況

図版6

15号天井部から見た玄室内人骨状況　（拡大）

15号玄門方向から見た玄室内人骨状況　（拡大）

15号玄室内人骨状況　（手前が玄門方向・拡大）

15号玄室内人骨状況　（左が玄門方向・拡大）

図版8

15号天井部から見た玄室内人骨状況　（手前が玄門方向）

15号玄室内人骨出土状況　（左が玄門方向）

16号方形区画改葬墓全景　（南より）

16号地下式小型横穴全景　（南より）

16号玄室部拡大　（南東より）

16号玄室内　（天井部より）

17号改葬系区画墓全景　（中央は68号住居跡　南より）

18号改葬系区画墓全景　（南東より）

19号改葬系区画墓全景　（中央は240号溝　北より）

20号住居跡全景　（南東より）

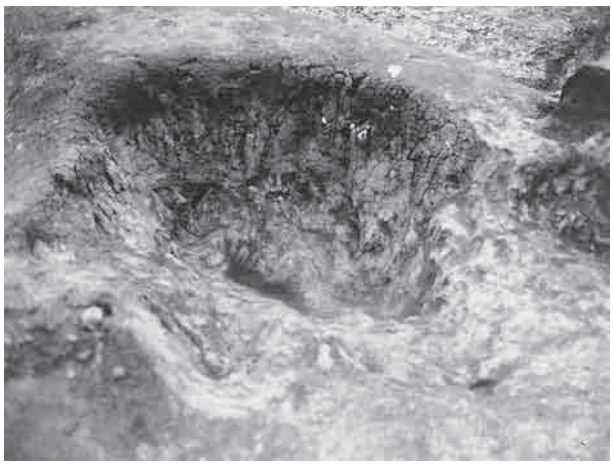
21号住居跡調査区内完掘状況１　（南西より）

21号調査区内完掘状況２　（南東より）

22号土坑全景　（南西より）

21号住居跡周辺　（北西より）

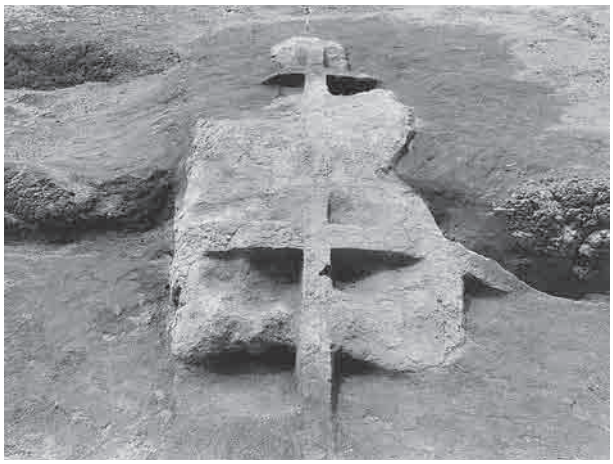
23号住居跡全景　（南東より）



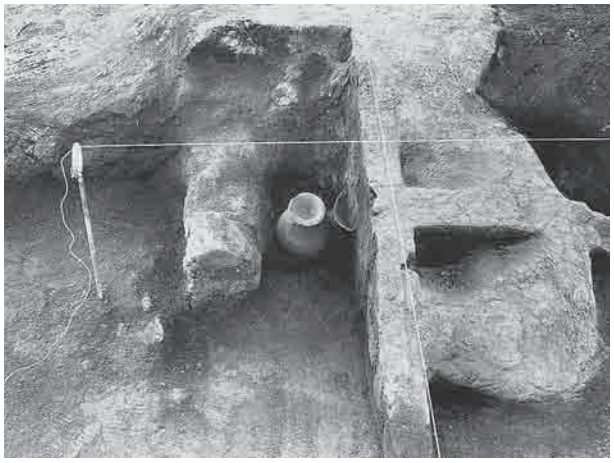
24号土坑全景　（南東より）

図版10

25号住居跡完掘状況　（南東より）



25号カマド調査状況１　（南東より）



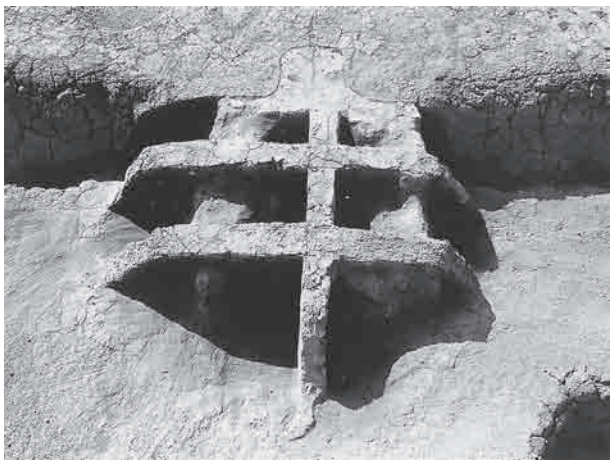
25号カマド調査状況２　（南東より）

26号住居跡土層断面　（南東より）

26号完掘状況　（南東より）

26号北コーナー遺物出土状況

26号遺物出土状況　（南より）



26号カマド調査状況　（南東より）

27号土坑全景　（南東より）

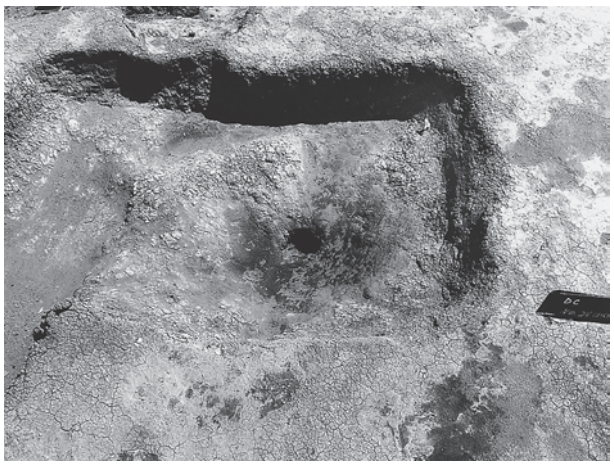
（奥から）28号・29号住居跡　（南東より）

30号住居跡土層断面　（南より）

30号完掘状況　（南東より）

31号住居跡完掘状況１　（南東より）

31号完掘状況２　（北西より）

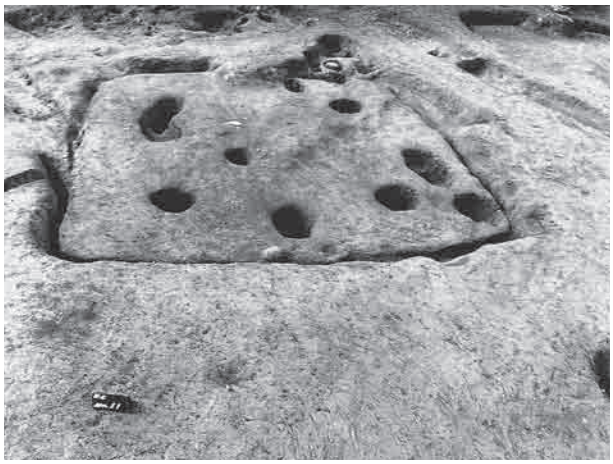


32号土坑全景　（西より）

33号住居跡全景（右は34号住居跡　南東より）

図版12

33号炉内遺物出土状況　（北より）



34号住居跡全景　（南東より）

34号遺物出土状況１　（南東より）

34号遺物出土状況２　（南東より）

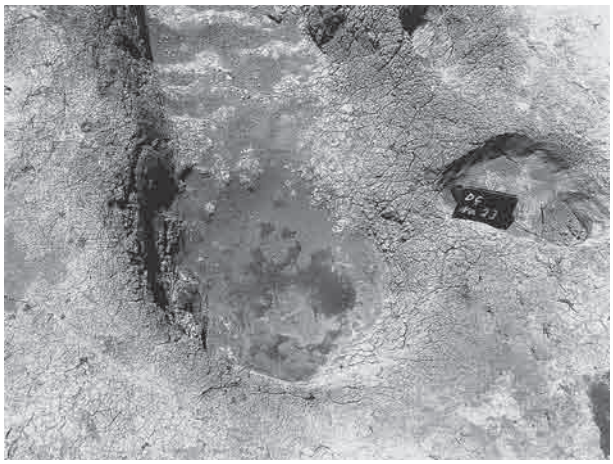
34号カマド左脇遺物出土状況　（東より）

34号周辺　（北西より）

35号住居跡全景　（南東より）

35号カマド　（南より）

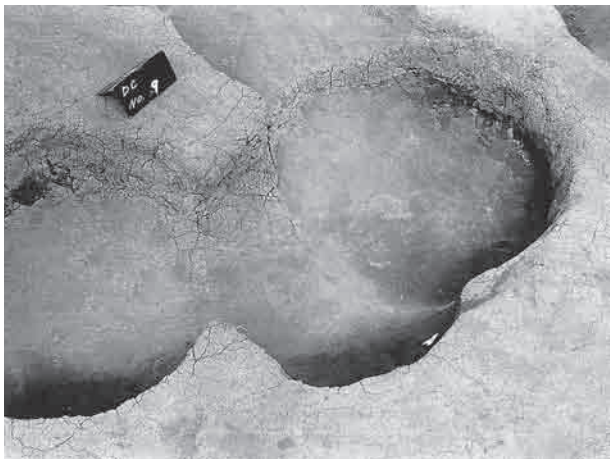
36号住居跡（中央）全景・37号溝（中央左）（南東より）



38号土坑全景　（北東より）

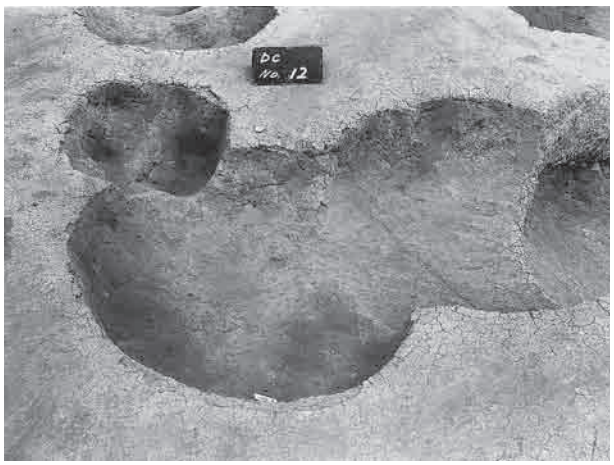
39号土坑全景　（東より）

40号土坑全景　（南より）



41号（中央）・42号（右）土坑全景　（南西より）

42号（中央）・43号（右上）・44号（左）土坑　（西より）

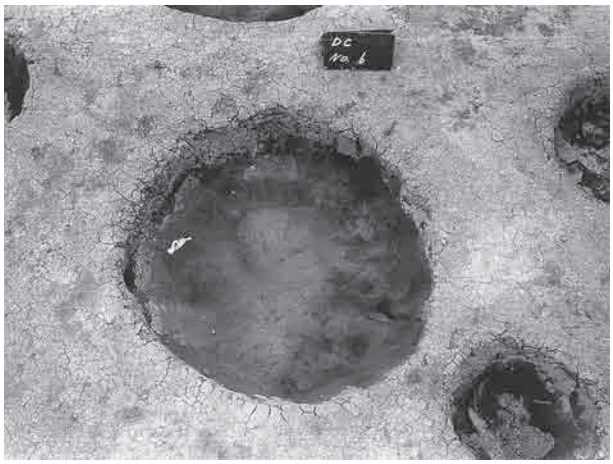


45号土坑全景　（西より）

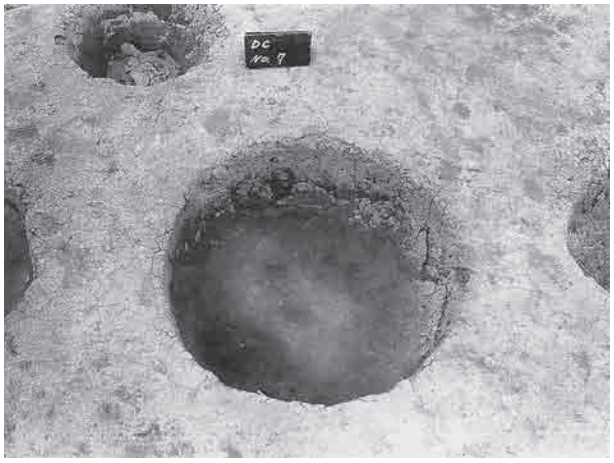
46号（右）・47号（左）土坑全景　（南東より）

図版14

48号土坑全景　（北より）



49号土坑全景　（南西より）



50号土坑全景　（南より）

51号土坑全景　（東より）

52号土坑全景　（北西より）

54号・55号住居跡土層断面　（南東より）

54号・55号住居跡全景　（南東より）

53号周辺　（北西より）

56号住居跡完掘状況　（南東より）

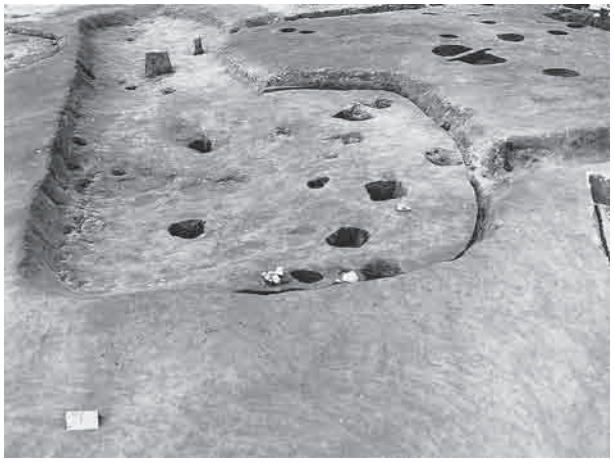
56号（手前）・57号住居跡付近　（南より）

57号完掘状況　（南西より）

58号住居跡全景　（南より）

58号付近　（中央は５号方形周溝墓主体部　南より）

58号遺物出土状況　（南より）



59号住居跡全景（左は５号方形周溝墓東側周溝　南東より）

59号遺物出土状況１　（北より）

図版16

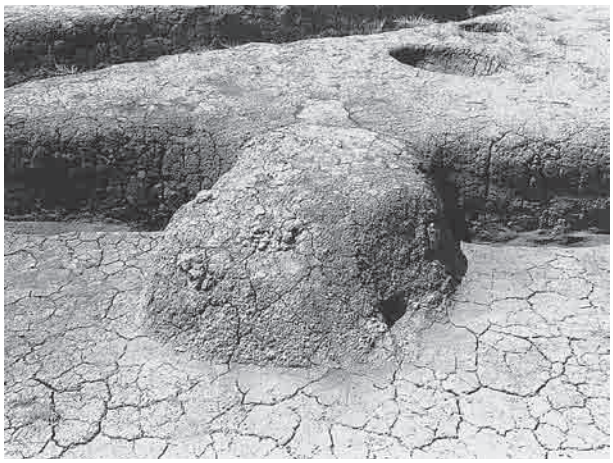
59号遺物出土状況２　（西より）

59号Ｐ６付近遺物出土状況　（南より）

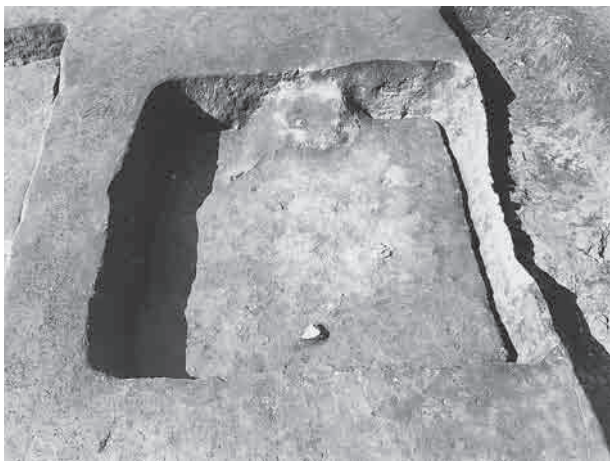
60号住居跡全景　（南東より）

60号遺物出土状況１　（南東より）

60号遺物出土状況２　（南東より）



60号カマド　（東より）



61号住居跡全景　（南より）

61号遺物出土状況　（北より）

61号カマド （東より）

62号住居跡全景 （中央は７号方形周溝墓主体部　南より）

62号遺物出土状況１ （北より）

62号遺物出土状況２ （北東より）

62号遺物出土状況３ （南東より）

62号南壁遺物出土状況１

62号南壁遺物出土状況２

63号（右）・64号（左）住居跡 （北西より）

図版18

65号住居跡完掘状況　（南より）

65号カマド　（北東より）

66号土坑全景　（南より）

67号土坑全景　（南東より）

68号住居跡付近調査風景　（手前は17号改葬系区画墓）

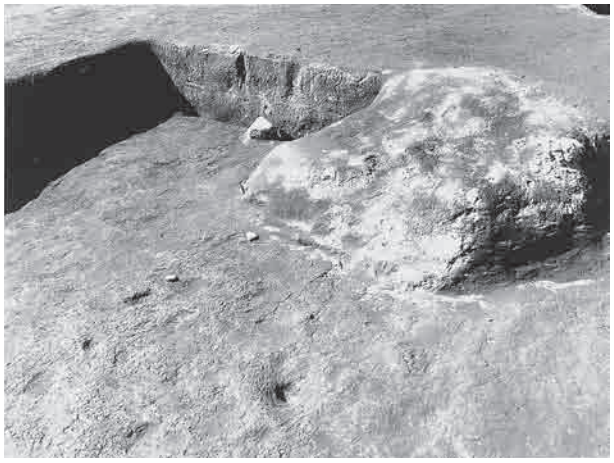
68号全景　（南より）

69号住居跡全景　（北東より）

69号付近　（中央は234号溝　北西より）

69号カマド （南東より）

70号住居跡全景 （南より）



70号カマド （南東より）

70号カマド調査状況 （南より）

71号住居跡全景 （南より）

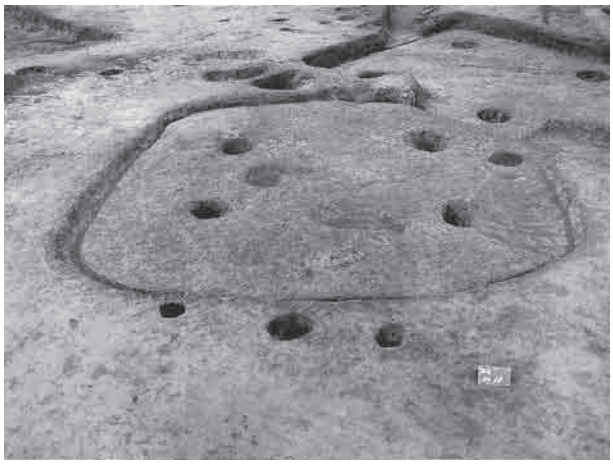
71号Ｐ３・Ｐ４付近遺物出土状況 （東より）

71号完掘状況 （南より）

72号住居跡全景 （南東より）

図版20

72号周辺　（南西より）



73号土坑（中央上）・74号住居跡全景　（北西より）

74号炉付近遺物出土状況　（東より）

74号遺物出土状況　（東より）

75号住居跡全景　（南東より）

75号カマド遺物出土状況１　（南東より）

75号カマド遺物出土状況２　（南東より）

76号住居跡全景　（南東より）

77号住居跡全景　（南東より）

77号周辺　（北東より）

79号住居跡全景　（南東より）

79号遺物出土状況　（南東より）

79号カマド付近遺物出土状況　（東より）

79号周辺　（南東より）

80号（右）・81号（左）土坑全景（南東より）

82号住居跡全景　（東より）

図版22

82号床面　（手前に83号土坑のプランが見える　東より）

82号遺物出土状況２　（北より）

82号住居跡・83号土坑全景　（南東より）

82号周辺　（南東より）

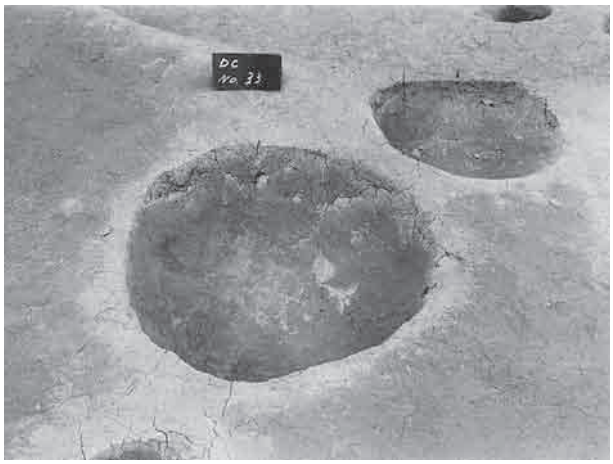
84号住居跡全景　（南より）

84号Ｐ３付近遺物出土状況　（東より）

84号遺物出土状況　（東より）

84号（手前）周辺　（北東より）

85号土坑全景　（北東より）



86号土坑全景　（南東より）

87号土坑全景　（南東より）

88号土坑断面　（南西より）

89号土坑全景　（北より）

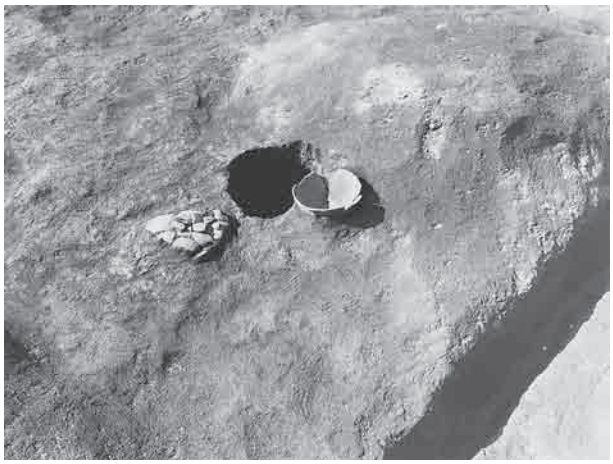
90号住居跡全景　（南より）

91号住居跡全景１　（南より）

91号全景２　（手前は234号溝　西より）

図版24

91号Ｐ２付近遺物出土状況１　（北より）



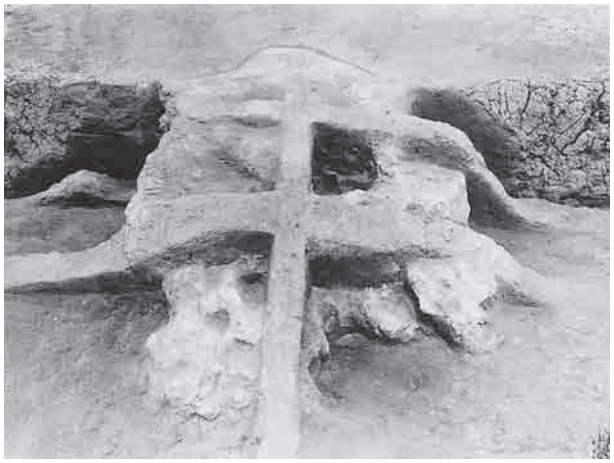
91号Ｐ２付近遺物出土状況２　（南東より）

91号遺物出土状況　（東より）

（手前から）91号・92号・93号住居跡　（西より）

92号住居跡全景　（南より）

92号カマド　（南より）



92号カマド調査状況　（南より）

92号カマド遺物出土状況　（南より）

93号住居跡全景　（南より）

93号カマド　（南東より）

94号住居跡全景　（西より）

95号住居跡全景　（南より）

95号遺物出土状況　（南より）

96号住居跡全景　（南東より）

96号遺物出土状況　（南より）

97号住居跡全景　（西より）

図版26

97号（手前）周辺　（北東より）

98号住居跡全景　（南東より）

98号カマド遺存状況　（南東より）

99号住居跡周辺　（北東より）

99号住居跡全景　（南西より）

99号遺物出土状況１　（南西より）

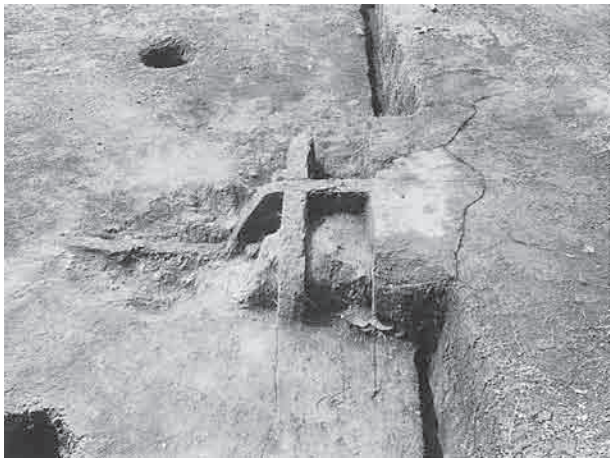
99号遺物出土状況２　（西より）

99号遺物出土状況３　（南西より）

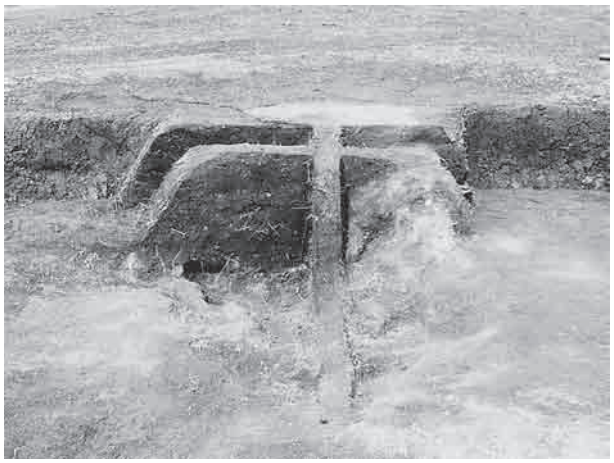
99号南西コーナー遺物出土状況　（左は234号溝）

99号北東コーナー遺物出土状況

99号完掘状況　（南東より）



99号カマド調査状況１　（南東より）



99号カマド調査状況２　（南西より）

100号住居跡周辺　（中央は245号溝　南東より）

100号全景　（南東より）

100号カマド　（南東より）

図版28

101号住居跡周辺　（南より）

101号全景　（南西より）

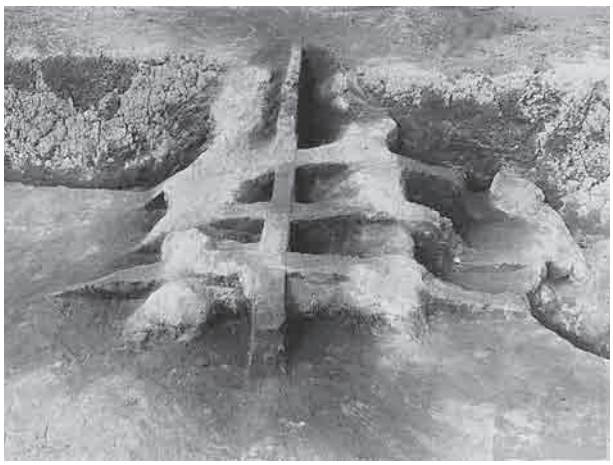
101号遺物出土状況１　（南東より）

101号遺物出土状況２　（南より）

101号Ｐ４付近遺物出土状況　（南より）

101号完掘状況　（南より）

101号カマド　（南より）



101号住居跡カマド調査状況　（西より）

102号住居跡全景　（南より）

102号カマド　（西より）

102号カマド調査状況　（南より）

103号住居跡全景　（南より）

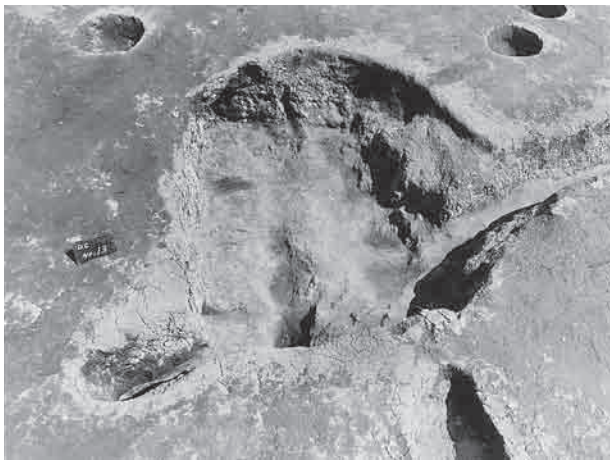
103号遺物出土状況　（南より）

103号Ｐ２付近遺物出土状況　（北西より）

103号遺物出土状況　（北より）

103号カマド　（南より）

図版30



104号横溝木棺墓全景　（北西より）

106号住居跡周辺　241号溝（中央）・234号溝（右）（南東より）

106号全景　（東より）

106号カマド　（南より）

107号住居跡完掘状況　（東より）

108号住居跡周辺　（中央は246号溝　南東より）

108号（奥）・109号（手前）住居跡全景　（南東より）

108号カマド　（南西より）

109号住居跡全景　（南より）

109号カマド　（南より）

109号カマド調査状況　（南より）

110号（奥）土坑全景　（南より）

111号～115号住居跡全景１　（東より）

111号～115号住居跡全景２　（南より）

112号土坑（中央）・115号住居跡全景　（中央奥は240号溝）

113号住居跡全景　（南西より）

図版32

113号遺物出土状況１　（中央は234号溝　北東より）

113号遺物出土状況２　（北東より）

113号完掘状況　（北東より）

14号方周内116号土坑を望む　（北東より）

116号土坑全景　（東より）

117号住居跡全景　（南より）

117号遺物出土状況１　（北西より）

117号遺物出土状況２　（南東より）

118号～120号住居跡全景　（南西より）

118号遺物出土状況　（南より）

118号カマド　（北西より）

118号カマド調査状況　（北西より）

119号（左）・120号（右）住居跡全景　（南東より）

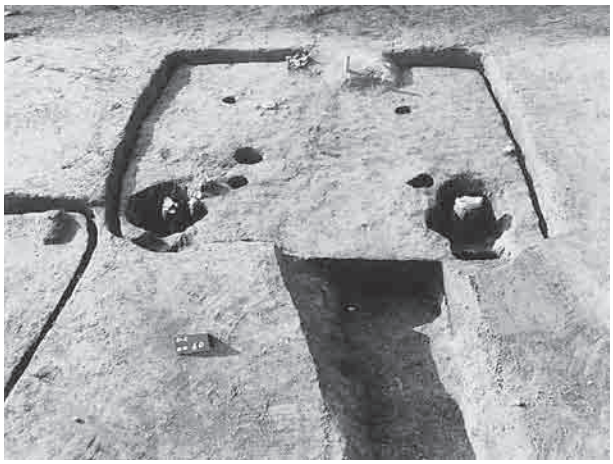
119号遺物出土状況１　（南より）

119号遺物出土状況２　（東より）

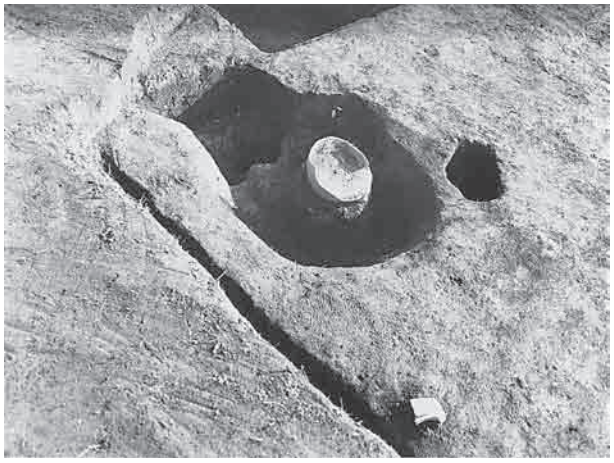
121号住居跡全景　（左に242号溝　南西より）

図版34

121号南コーナー遺物出土状況



122号住居跡全景　（南東より）



122号Ｐ８内遺物出土状況　（北より）

122号Ｐ９内遺物出土状況　（南東より）

122号カマド　（南東より）

123号住居跡全景　（南東より）

123号Ｐ２付近遺物出土状況　（南東より）

124号土坑土層断面　（北より）

125号住居跡全景　（南西より）

125号カマド付近遺物出土状況　（南より）

125号Ｐ８内遺物出土状況１　（北西より）

125号Ｐ８内遺物出土状況２　（南より）

125号住居跡カマド　（南西より）

125号カマド調査状況　（南西より）

（奥から）126号・127号・128号住居跡全景　（南より）

126号（右）・127号（左）カマド　（東より）

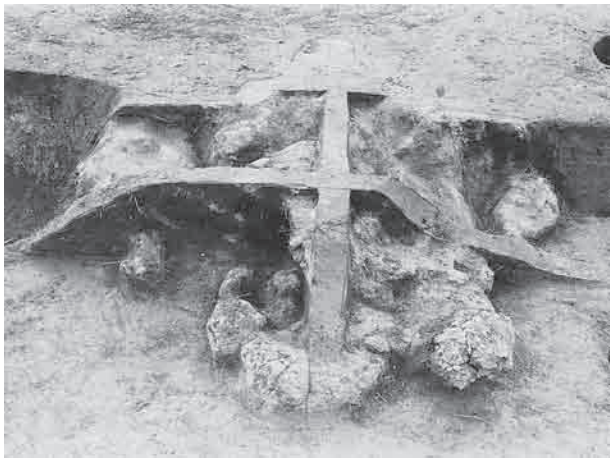
図版36

（奥から）126号・127号カマド （南より）

127号遺物出土状況 （東より）

127号全景 （南東より）

129号住居跡全景 （南西より）



129号カマド調査状況 （南西より）

130号土坑全景 （北より）

131号住居跡・132号地下式土壙全景 （南東より）

132号全景 （北東より）

133号土坑全景　（北東より）

134号住居跡全景（左）（中央に139号溝　北東より）

134号カマド　（東より）

135号（奥）・136号（手前）土坑全景　（北西より）

135号（手前）・136号（奥）土坑全景　（南東より）

137号（奥）・138号（手前）土坑全景　（北より）

137号（手前）・138号（奥）土坑全景　（南より）

140号土坑全景　（北より）

図版38

141号（左）・143号（中央）土坑周辺　（西より）

146号側壁抉り込み土坑　（南より）

146号（左）・147号（中央）土坑周辺　（西より）

148号土坑全景　（東より）

149号土坑全景　（南東より）

（手前から）151号・150号・152号土坑全景　（東より）

153号土坑全景　（北東より）

154号（中央）土坑全景　（南東より）

155号（中央）・156号（手前）土坑全景　（南東より）

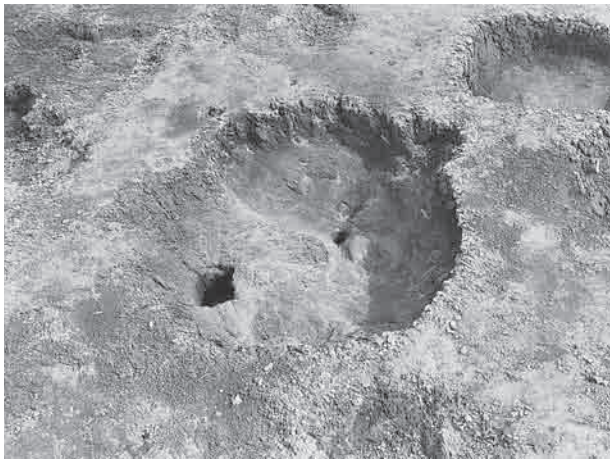
155号（手前）・156号（奥）全景　（北西より）

156号土坑全景　（南東より）

156号（奥）・157号（手前）土坑全景　（北東より）

157号全景　（南東より）

158号土坑全景　（北より）



159号土坑全景　（北より）

160号土坑全景　（西より）

図版40

161号土坑全景　（南西より）

162号土坑全景　（東より）

163号土坑全景　（南西より）

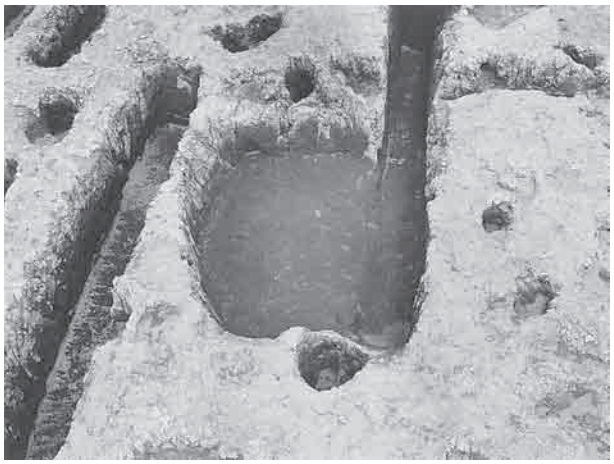
164号（右）・165号（左）土坑全景　（南東より）

165号（中央）・164号（奥）全景　（南より）

165号周辺　245号溝（左）・234号溝（右）（南東より）

166号土坑全景　（北西より）

土坑群　右側の深い土坑が167号　（東より）



167号土坑全景１　（北西より）

167号全景２　（南東より）

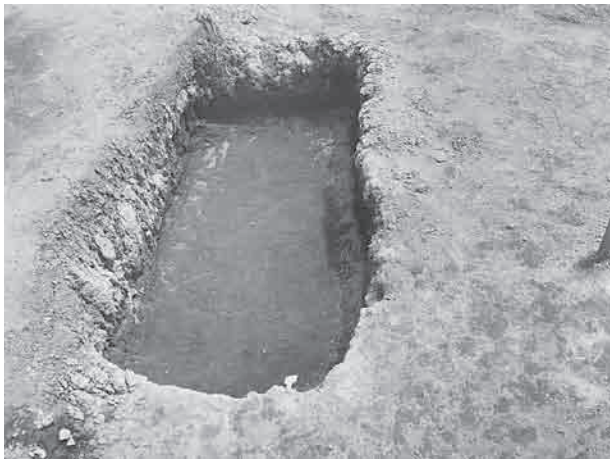
168号土坑全景　（南東より）

169号側壁抉り込み土坑全景　（南東より）

169号周辺　（南より）

169号全景　（北西より）

169号全景　（北東より）

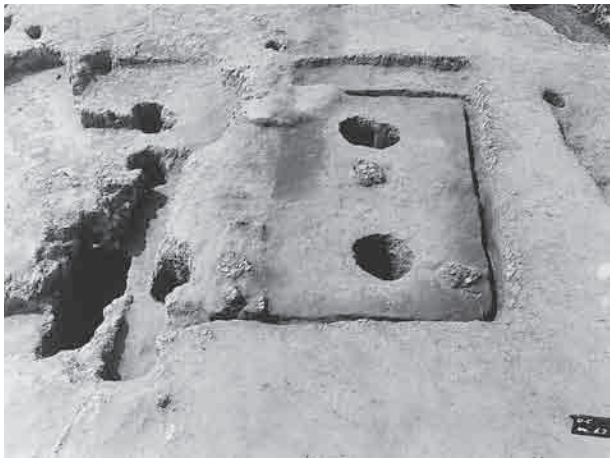


170号土坑全景　（北西より）

図版42

170号（手前）・171号（中央） 土坑全景 （南東より）

土坑群 （手前から） 170号・171号 （南東より）



172号住居跡全景 （南東より）

172号完掘状況 （南東より）

172号カマド （南東より）

土坑群 左は172号 （北東より）

173号竪穴状土坑全景 （北東より）

174号土坑全景 （北西より）

175号土坑全景　（西より）

土坑群　175号周辺　（北より）

178号土坑全景　（北西より）

179号土坑全景　（北西より）

土坑群　179号（中央左）周辺　（北東より）

180号土坑（中央）全景　（北西より）

181～184号土坑全景　（南東より）

185（中央）・186号（右）土坑周辺　（南西より）

図版44

185号全景　（東より）

187号・188号（中央奥）周辺　（北より）

190号土坑全景　（北東より）

192号土坑全景　（東より）

193号土坑全景　（北西より）

194号（右上）・195号（中央）土坑全景　（東より）

196号(中央)191号(手前)195号(右)197号(上)土坑全景(北西より)

197号地下式土壙全景１　（北西より）

197号全景２　（北西より）

198号土坑全景　（北西より）

199号土坑（中央）全景　（南西より）

200号土坑（中央）周辺　（西より）

201号土坑（中央）全景　（奥は203号土坑　西より）

202号土坑（中央）全景　（南より）

土坑群　202号（手前左）周辺　（南東より）

203号全景　（南西より）

図版46

204号（中央）205号（右上）206号（右下）土坑全景　（西より）

土坑群　207号（中央）周辺　（南東より）

207号土坑全景　（南東より）

208号土坑全景　（右上は206号　南東より）

209号土坑全景　（北西より）

210号土坑全景　（西より）

211号（右上）・212号（右下）土坑全景　（南より）

213号土坑全景　（東より）

214号土坑全景　（南東より）

217号住居跡全景　（南東より）

217号カマド　（南東より）

217号・218号住居跡全景　（南東より）

219号住居跡全景　（南東より）

219号カマド　（南東より）

220号住居跡全景　（南西より）

220号カマド　（南西より）

図版48

220号カマド周辺遺物出土状況　（南東より）

221号土坑全景　（南西より）

遺跡南側遺構検出状況１　（南東より）

遺跡南側遺構検出状況２　（南より）

遺跡南側遺構調査状況１　（南東より）

遺跡南側遺構調査状況２　（東より）

224号土坑全景１　（南より）

224号全景２　（南東より）

226号溝（中央）（北西より）

227号土坑全景　（北東より）

228号土坑全景　（南東より）

229号土坑全景　（北東より）

調査区南西端229号周辺

233号溝（右）・244号溝（左）（南西より）

234号溝　（南西より）

234号溝　（左は244号溝　南西より）

図版50

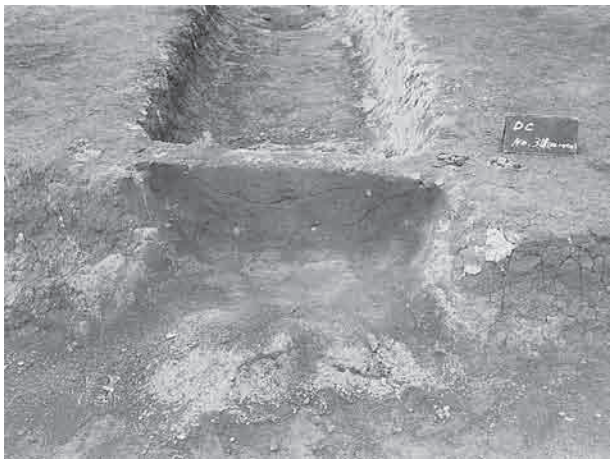
234号溝（中央）（南西より）

235号溝（右）（南東より）

235号（右）・236号溝（左）（南東より）

235号溝（中央）（北西より）

235号溝土層断面　（北西より）



235号溝西側起点付近土層断面　（北西より）

236号溝（中央）（右手前は103号住居跡　南東より）

236号溝　（中央左は103号住居跡　東より）

236号溝　右上は103号住居跡　（南西より）

236・240号溝の交差付近遺物出土状況　（北西より）

236号溝　遺物出土状況１　（北東より）

236号溝　遺物出土状況２　（北西より）

236号溝　遺物出土状況３　（北東より）

237号溝　（右手前は79号住居跡　南東より）

238号溝　（左は84号住居跡　北東より）

238号溝　（手前は84号住居跡　北東より）

図版52

236号溝（奥）・239号・240号溝　（南より）

240号溝　（中央は19号改葬系区画墓　北より）

234号溝（中央）・241号溝（右）（北東より）

244号溝（左）・233号溝（中央）（南より）

244号溝（Ｖ字溝）周辺１　（東より）

244号溝（Ｖ字溝）周辺２　（西より）

244号溝東側起点

244号溝土層断面

251号溝検出状況　（南東より）

250号（左）・251号（右）溝土層断面　（西より）

252号溝（右）・253号溝（左）付近　（東より）

225号溝（中央）周辺　（東より）

56号住居跡周辺調査風景　（南より）

35号住居跡付近作業風景　（北西より）

58号住居跡周辺調査風景　（北西より）

97号住居跡周辺調査風景　（北より）

図版54

100号住居跡周辺作業風景　（北西より）

235号溝周辺作業風景　（南より）

埋め戻し状況１　（南西より）

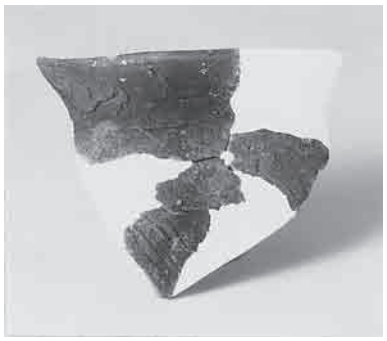
埋め戻し状況２　（南より）

諏訪台古墳群4016号出土改装骨１

諏訪台古墳群4016号出土改装骨２

諏訪台古墳群4016号出土改装骨３

諏訪台古墳群4016号出土改装骨４


5-1

5-2

5-3

5-4

5-6

5-8

5-9

5-10

6-1

6-2

6-4

7-2

9-1

10-2

11-1

13-1

16-2

図版56

20-4

20-5

20-6

20-7

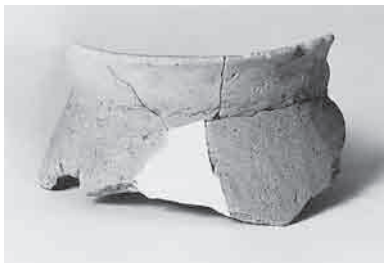
20-8

20-9

20-10

20-11

20-12



21-1

21-5

21-7

25-1

25-3

25-4

25-5

26-2

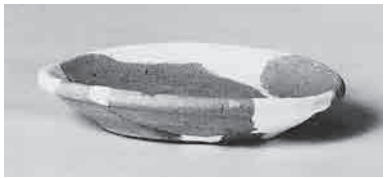
26-3

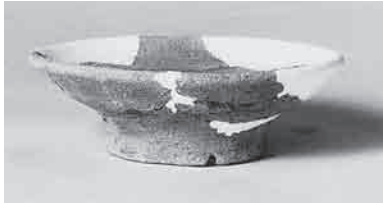
26-5

26-6

26-8

29-1


29-2


29-3

29-4

30-1頸部

30-2

30-3

30-4

34-1

34-2

34-3

34-5

34-6

35-1

図版58

35-2

35-3

35-10

54-3

54-4

54-5

56-1

56-2

56-3

56-4

56-5

56-6

57-2

57-3

58-1

59-1頸部

59-1胴部

59-3

60-1

60-2

60-3

60-4

60-5

60-6

60-7

61-1

62-1

62-2

図版60

62-3

62-4

62-10

63-1

65-1

65-4

65-7

65-8

65-9

65-10

65-11

65-12

65-15

68-5

68-6

68-7

68-8

68-9

68-10

69-1

69-2

70-2

71-5

72-1

72-2

74-1

74-3

74-4

74-5

74-6

74-7

74-8

75-1

75-2

図版62

75-3

75-6

76-1

76-3

77-5

77-8

79-1

79-2

79-3

79-4

79-5

79-7

79-8

79-9

82-4

82-7

84-2

84-3

84-5

84-7

89-1

90-2

90-4

91-1

91-2

91-4

91-6

91-7

92-1

92-2

92-3

92-4

93-5

93-6

94-1

図版64

94-5

94-9

95-1

96-11

95-3

96-1

96-4

96-12

96-13

96-5

96-6

96-7

96-8

97-3

97-5

97-6

97-7

99-1

99-2

99-3

99-4

99-5

99-6

99-7

99-8

99-9

99-10

99-14

99-15

99-16

99-17

99-21

図版66

99-22

99-23

100-1

101-1

101-3

101-4

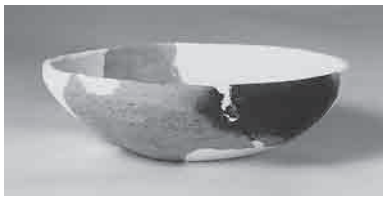
101-6

101-11

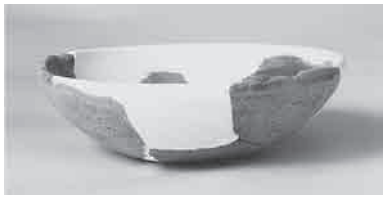
101-12

101-13

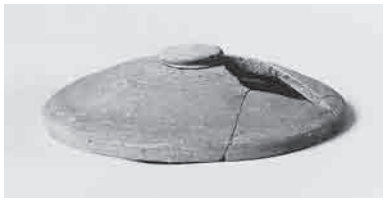
101-15



102-4



102-5



102-7

102-9

103-1

103-3

103-5

103-8

104-1

106-2

106-3

106-4

107-1

108-2

108-6

108-7

109-2

109-3

109-5

109-6

111-2

111-3

111-4

図版68

111-5

111-6

111-8

111-9

111-14

113-1

113-5

113-8

113-9

113-11

113-12

113-16

113-17

113-19

113-20

113-22

117-1

117-2

117-3

117-4

117-5

117-6

117-8

117-9

118-1

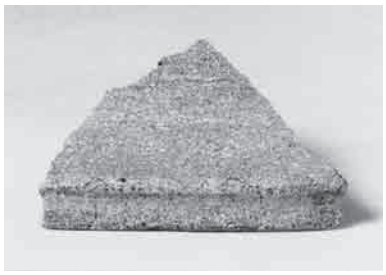
118-2

118-6

118-8

118-9

118-10


118-11

118-13

119-1

119-2

119-4

119-5

図版70

119-6

120-2

121-1

121-2

121-3

122-2

122-4

122-5

122-6

122-8

122-10

123-1

123-2

123-3

125-2

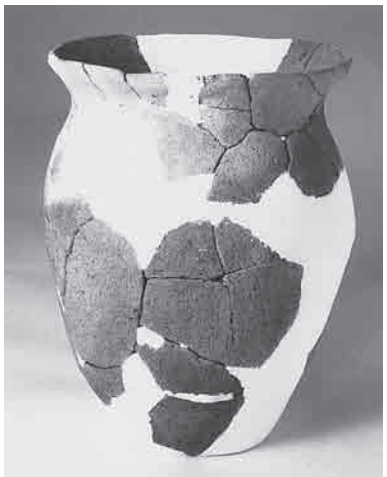
125-12

125-15

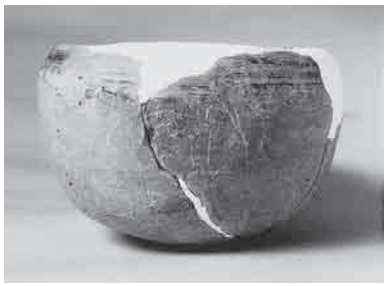
125-16

125-18

125-19



126-1



126-8

127-1

127-2

127-4

127-8

129-1

129-2

129-5

129-6

165-1

172-1

172-2

図版72

172-3

217-1

217-2

217-6

218-1

218-4

218-5

220-1

220-2

234-7

234-9

235-4

235-6

236-2

236-16

244-1

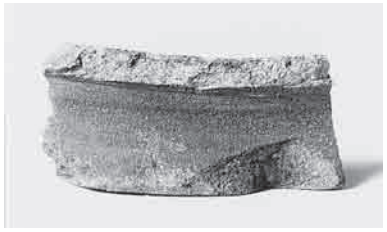
244-2

244-3

244-4

244-5

244-6


一括5

一括7

一括9

一括40

一括41

一括43

一括44

一括45

一括65

一括66

一括67

一括68

一括69

一括70

図版74

一括71

一括72

一括73

一括74-1

一括74-2

一括76

一括77

一括78

一括80

一括81

一括87

一括89

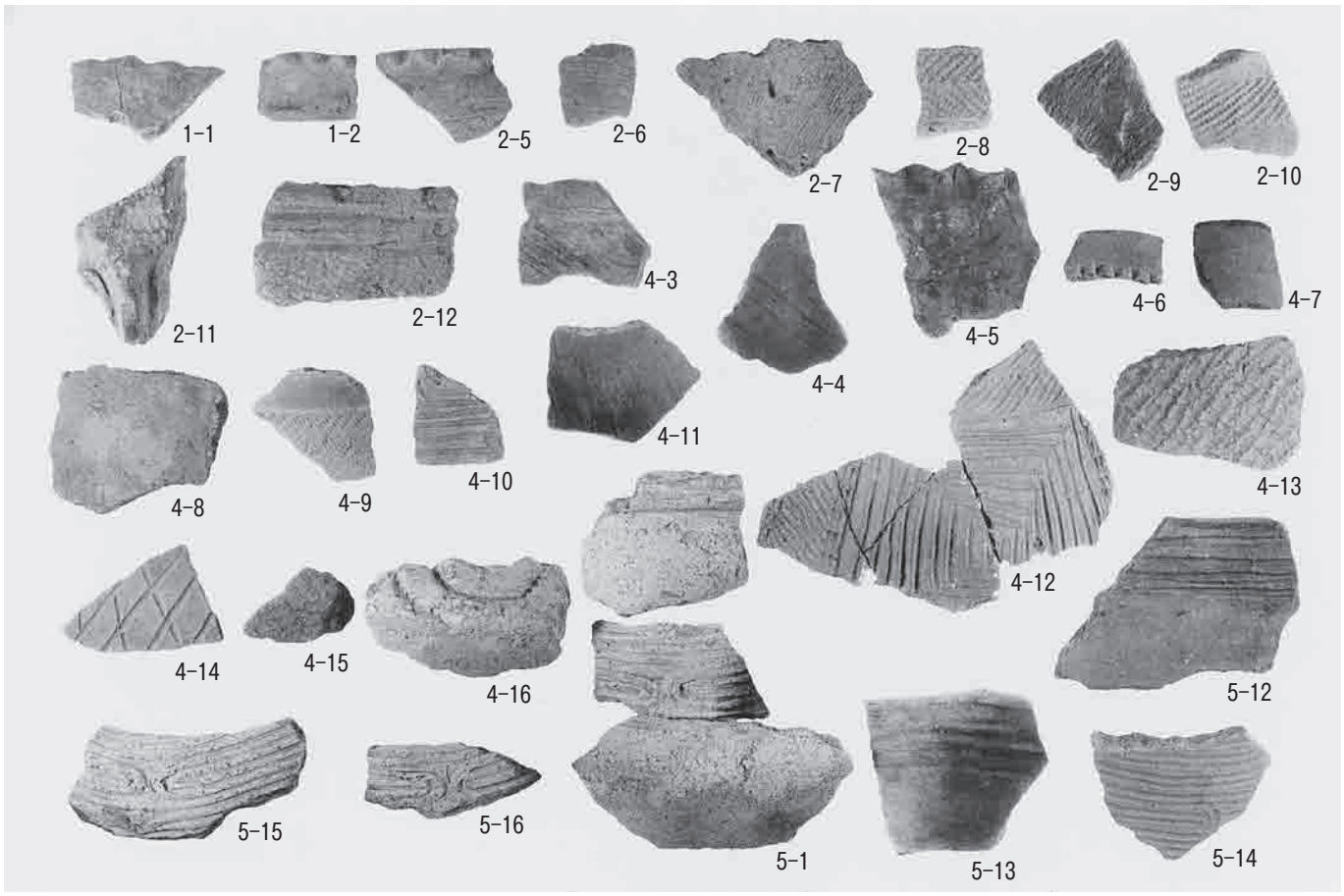
一括90

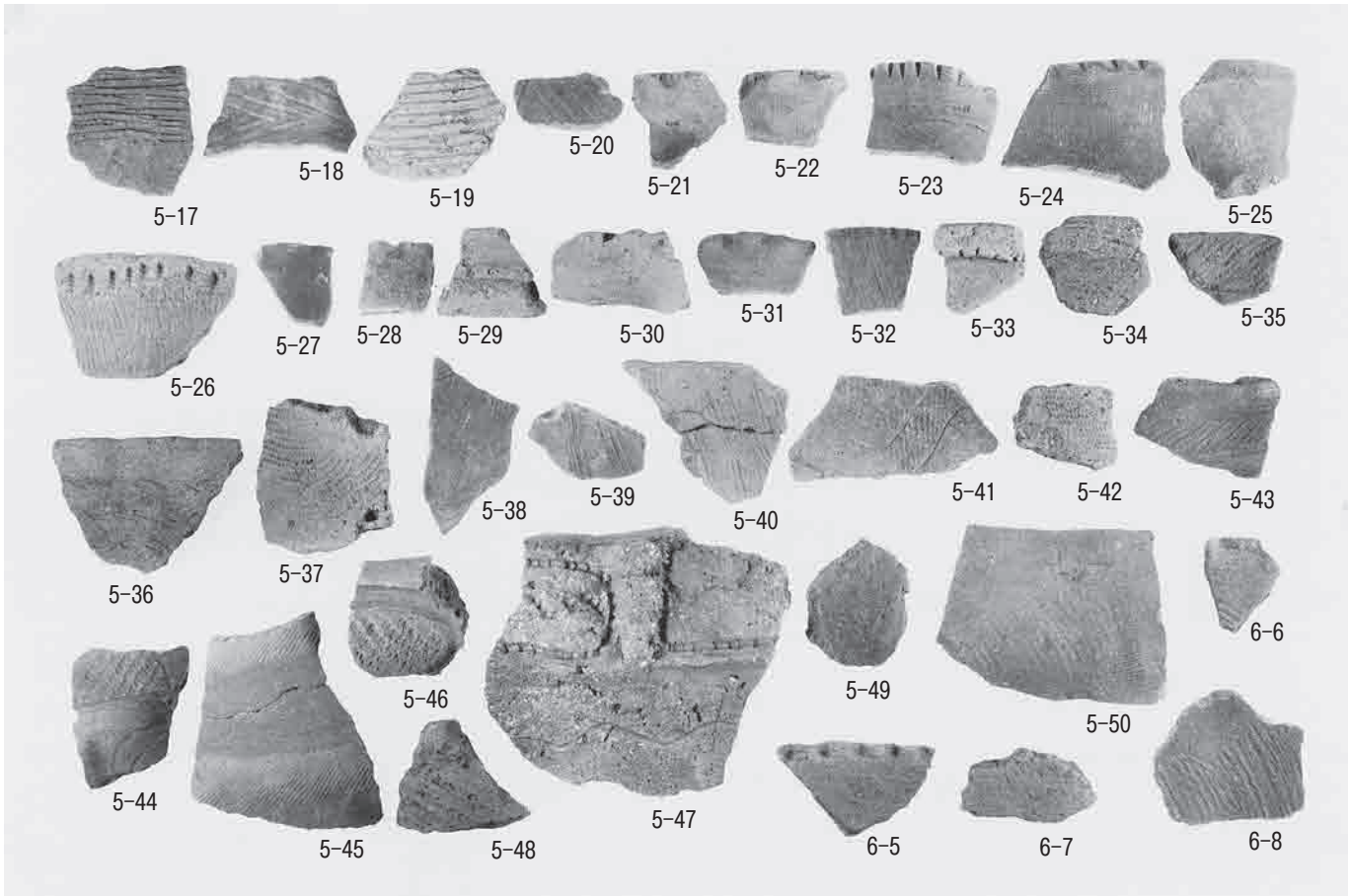
一括92

一括95

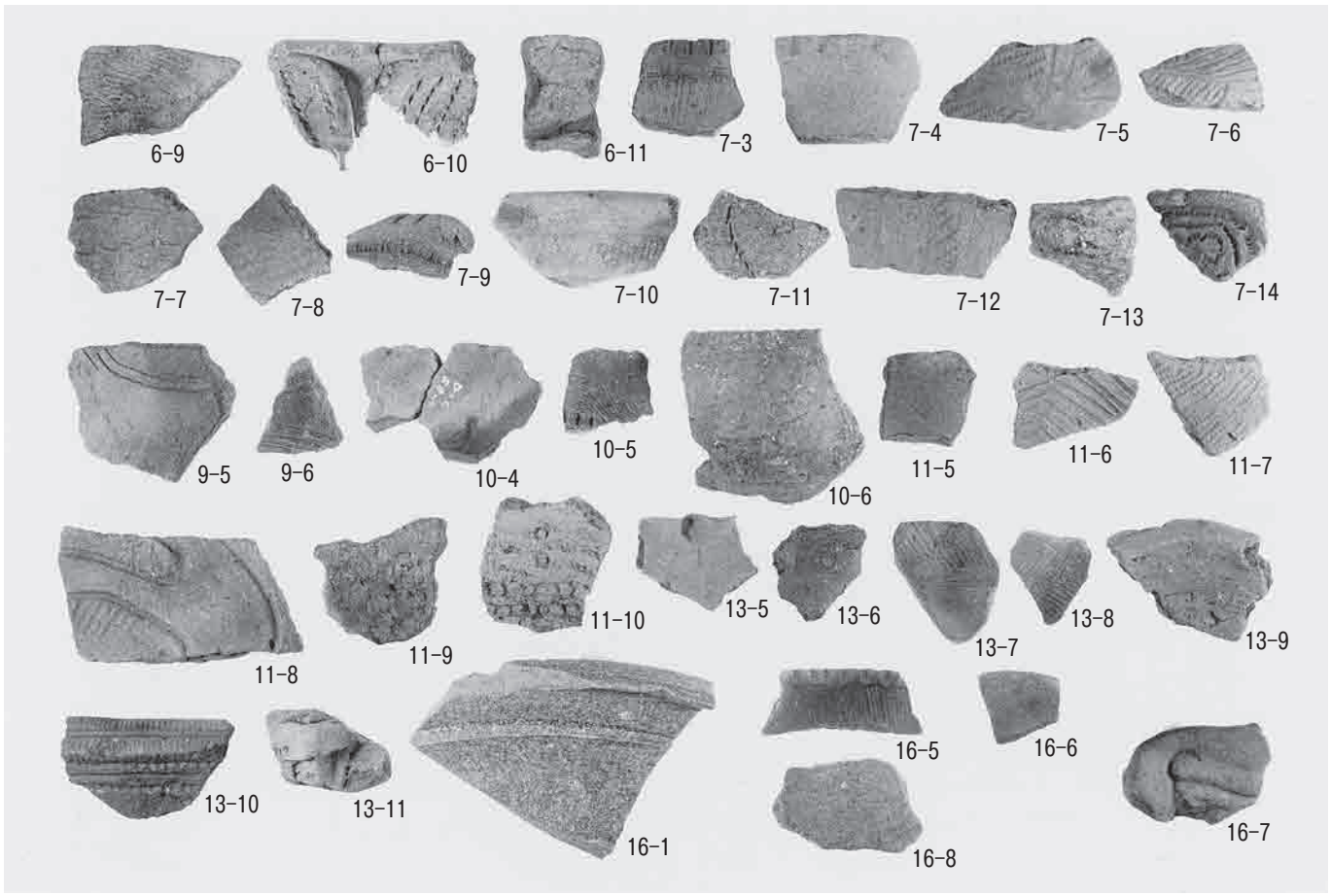
一括96

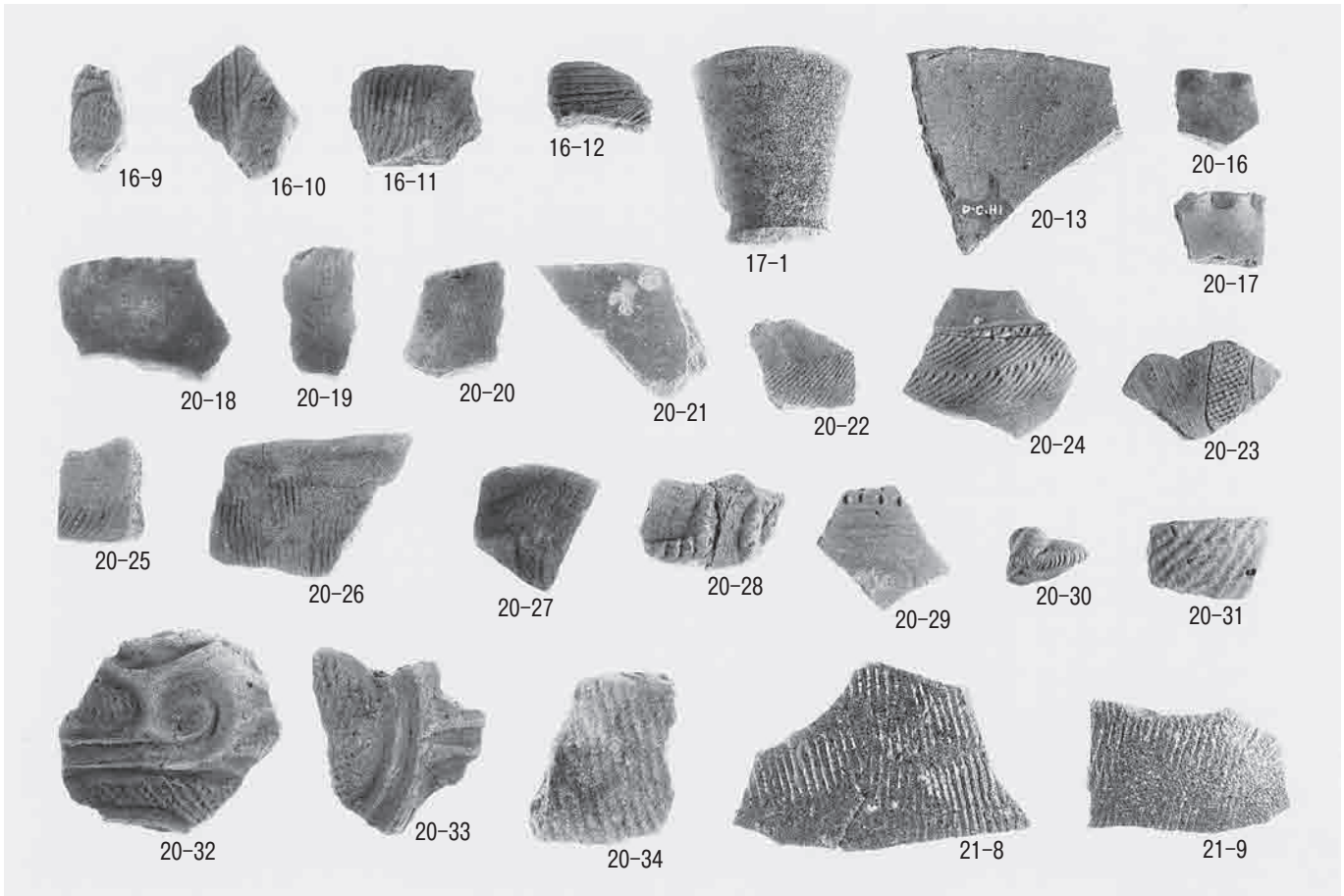
一括97

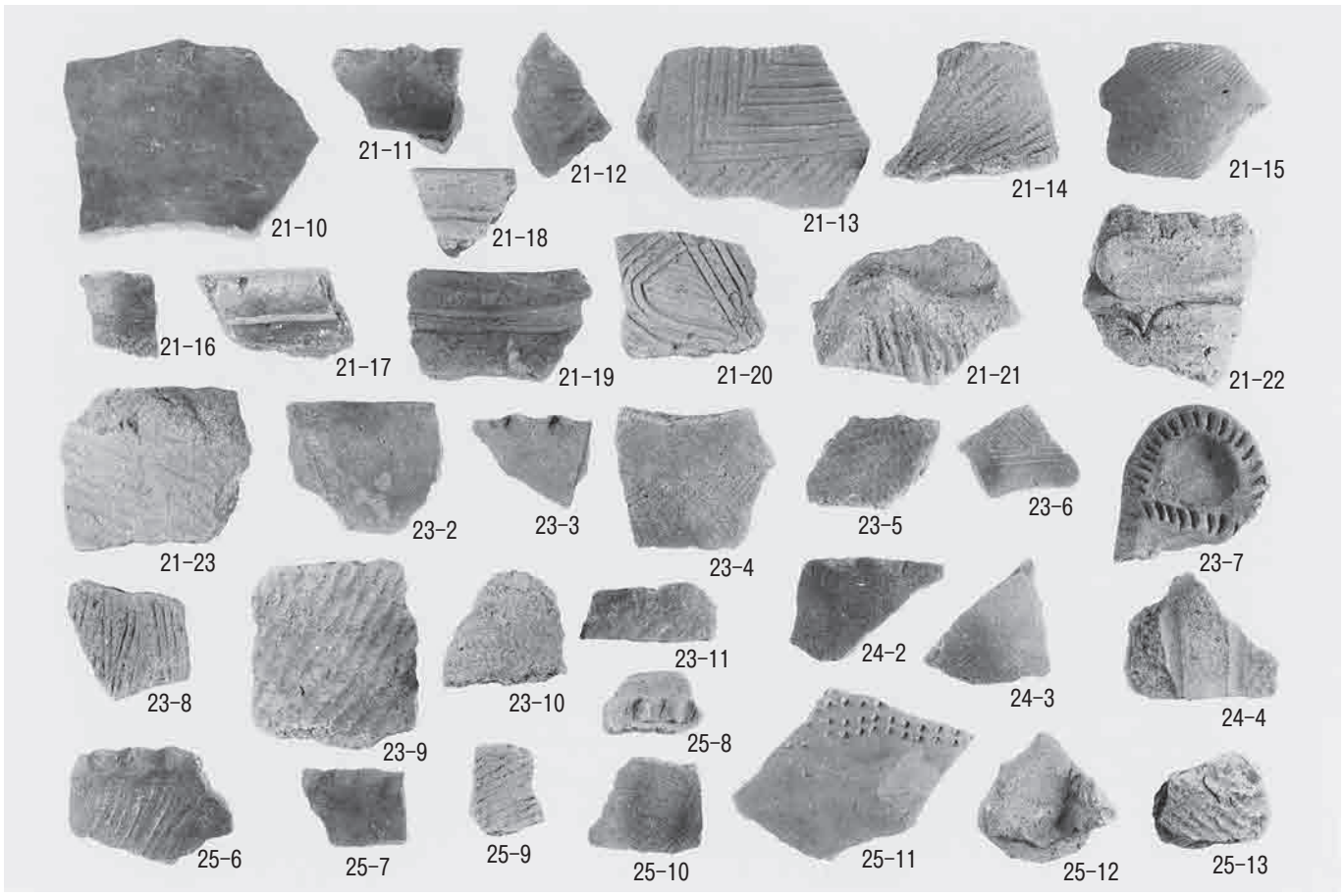

1-1
1-2
2-5
2-6
2-7
2-8
2-9
2-10
2-11
2-12
4-3
4-4
4-5
4-6
4-7
4-8
4-9
4-10
4-11
4-12
4-13
4-14
4-15
4-16
5-1
5-12
5-13
5-14
5-15
5-16

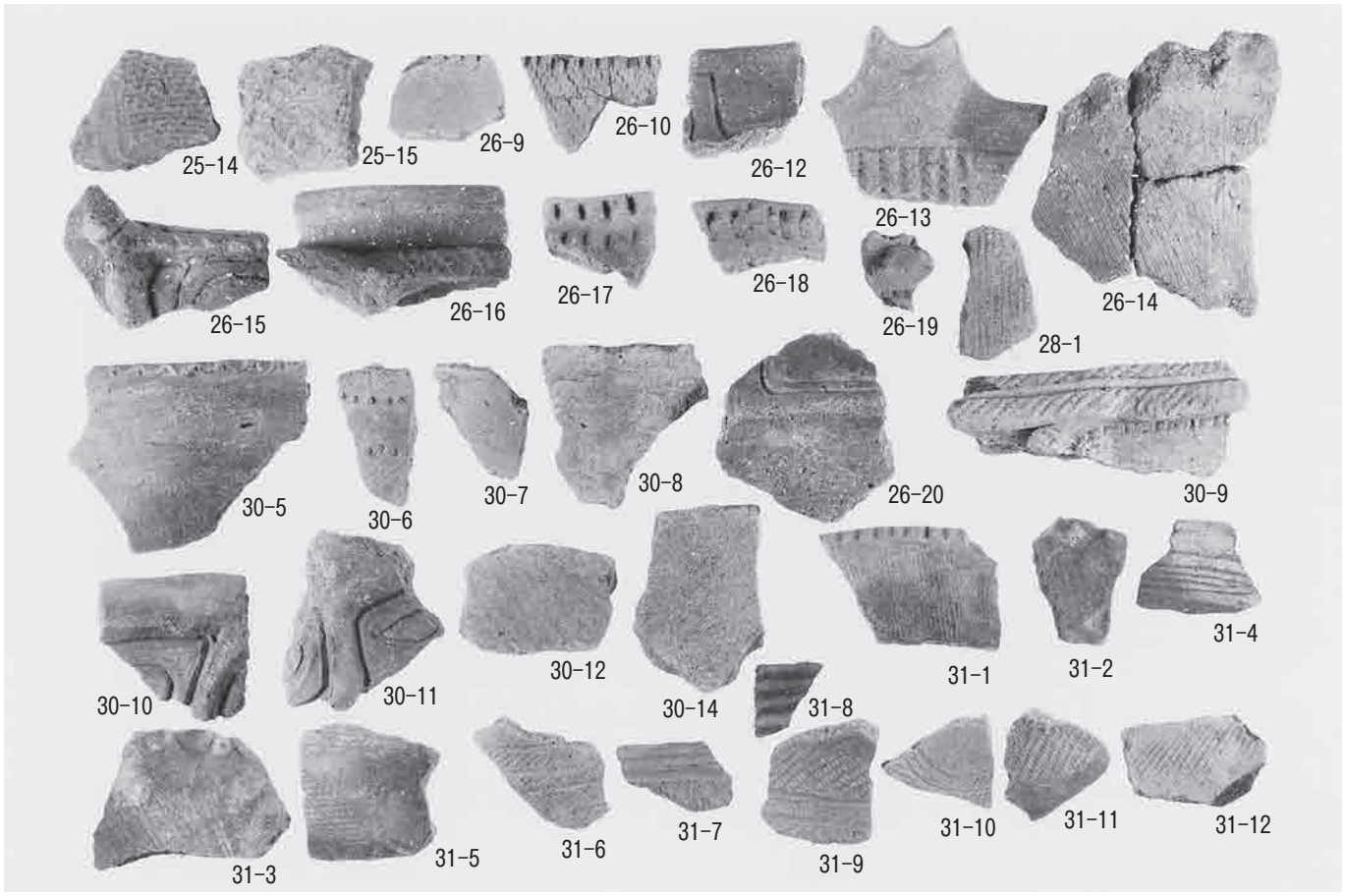

5-17
5-18
5-19
5-20
5-21
5-22
5-23
5-24
5-25
5-26
5-27
5-28
5-29
5-30
5-31
5-32
5-33
5-34
5-35
5-36
5-37
5-38
5-39
5-40
5-41
5-42
5-43
5-44
5-45
5-46
5-47
5-48
5-49
5-50
6-5
6-6
6-7
6-8

図版76

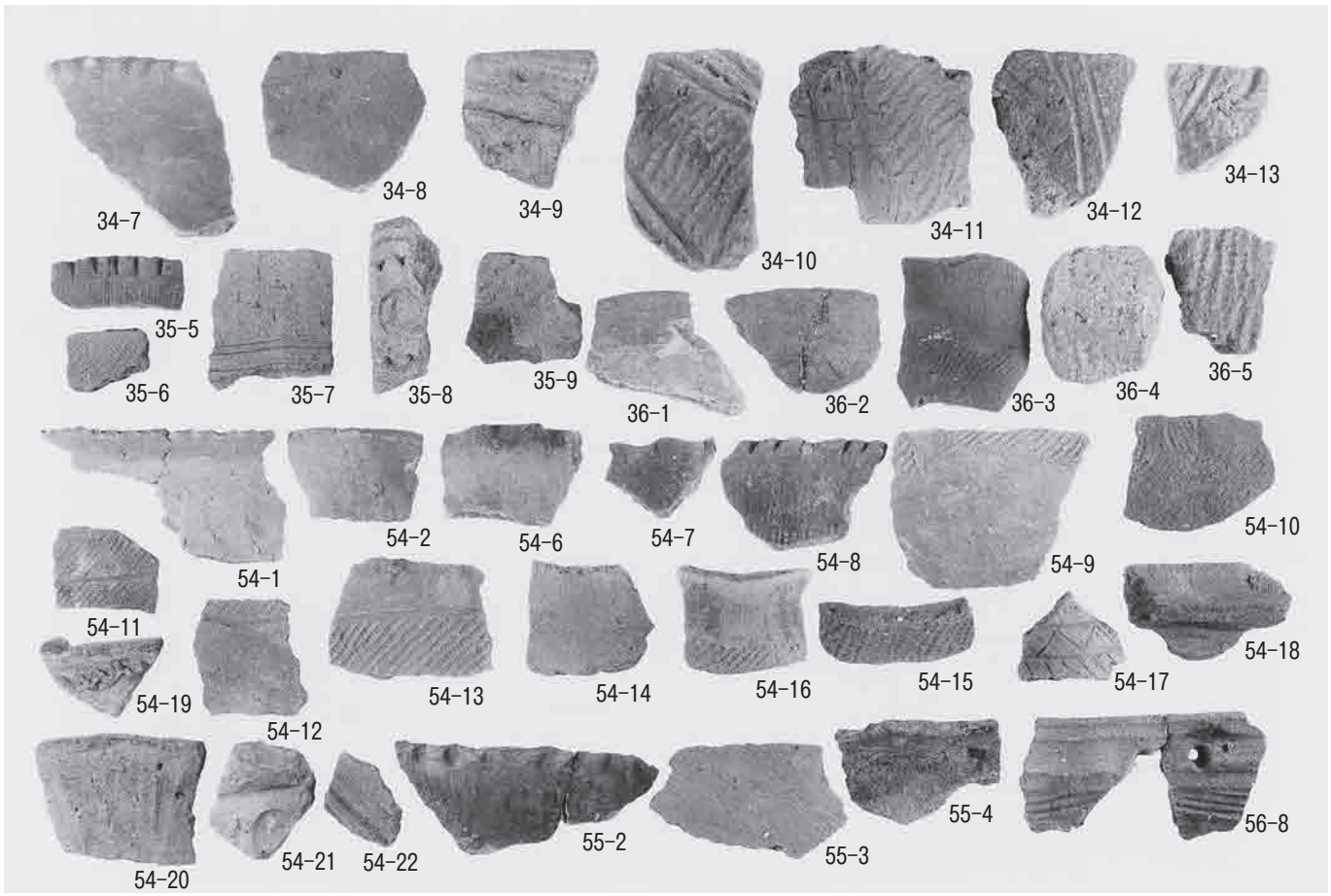

6-9
6-10
6-11
7-3
7-4
7-5
7-6
7-7
7-8
7-9
7-10
7-11
7-12
7-13
7-14
9-5
9-6
10-4
10-5
10-6
11-5
11-6
11-7
11-8
11-9
11-10
13-5
13-6
13-7
13-8
13-9
13-10
13-11
16-1
16-5
16-6
16-7
16-8

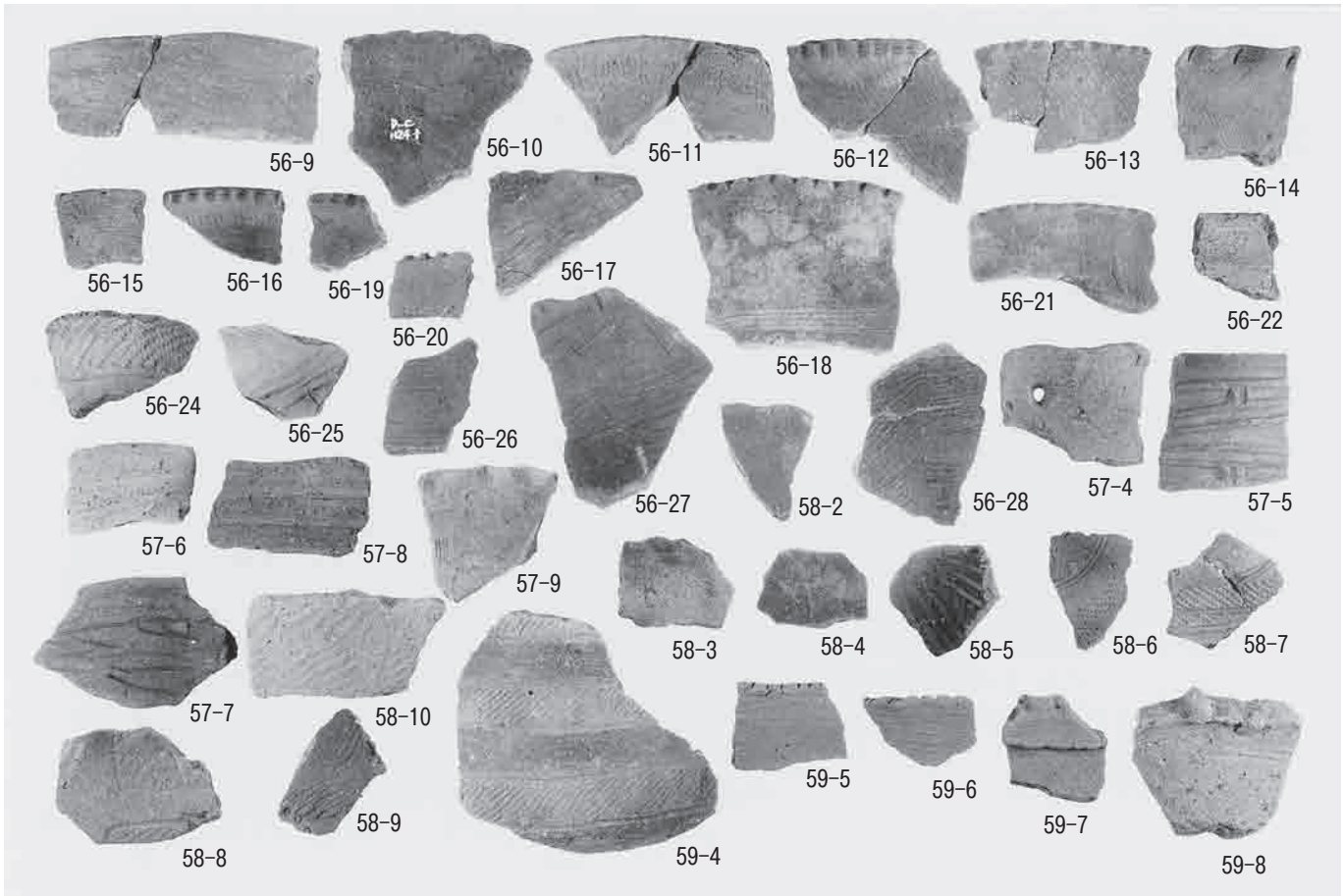

16-9
16-10
16-11
16-12
17-1
20-13
20-16
20-17
20-18
20-19
20-20
20-21
20-22
20-23
20-24
20-25
20-26
20-27
20-28
20-29
20-30
20-31
20-32
20-33
20-34
21-8
21-9

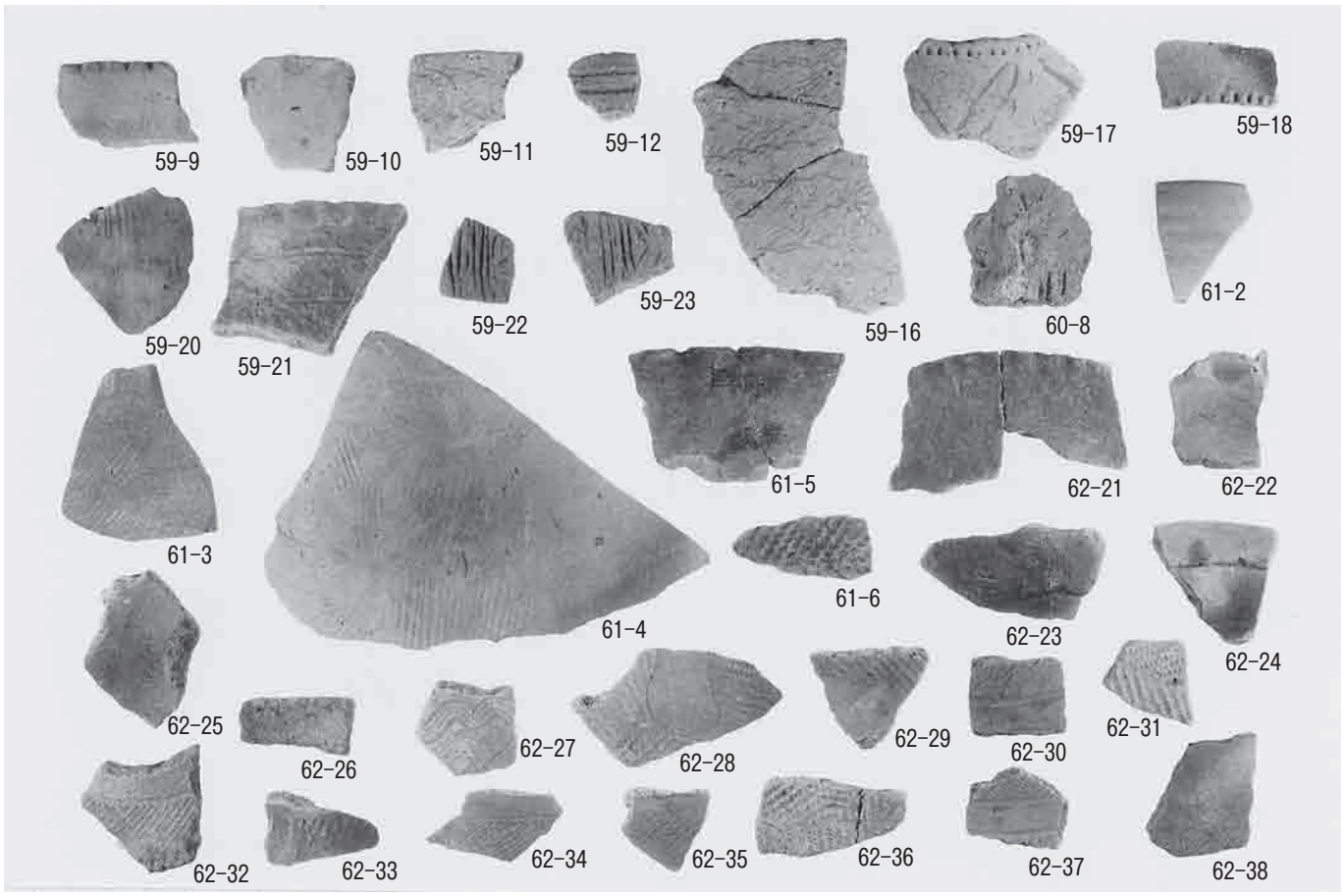

21-10
21-11
21-12
21-13
21-14
21-15
21-16
21-17
21-18
21-19
21-20
21-21
21-22
21-23
23-2
23-3
23-4
23-5
23-6
23-7
23-8
23-9
23-10
23-11
24-2
24-3
24-4
25-6
25-7
25-8
25-9
25-10
25-11
25-12
25-13

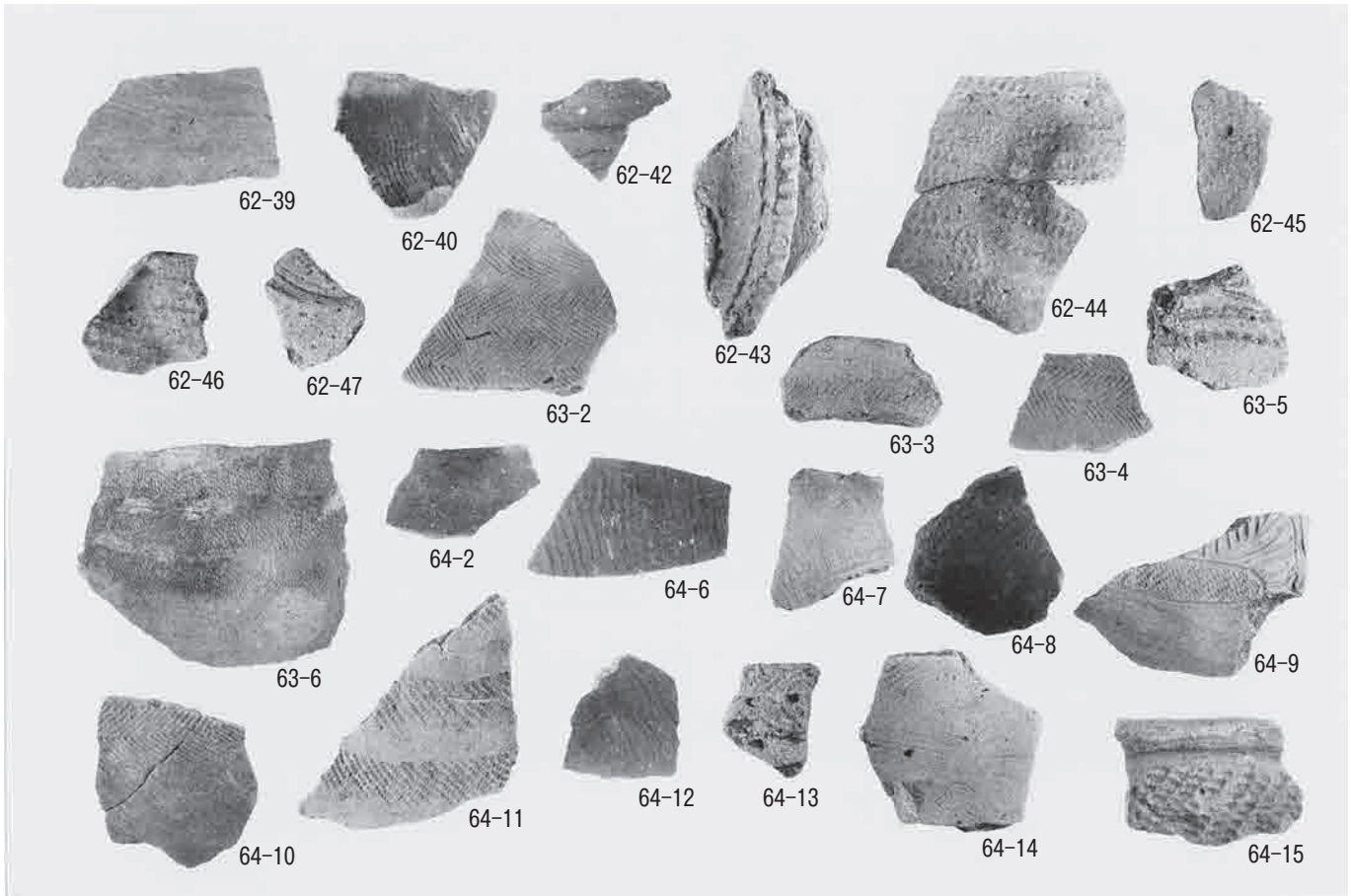

25-14
25-15
26-9
26-10
26-12
26-13
26-14
26-15
26-16
26-17
26-18
26-19
28-1
30-5
30-6
30-7
30-8
26-20
30-9
30-10
30-11
30-12
30-14
31-8
31-1
31-2
31-4
31-3
31-5
31-6
31-7
31-9
31-10
31-11
31-12

図版78

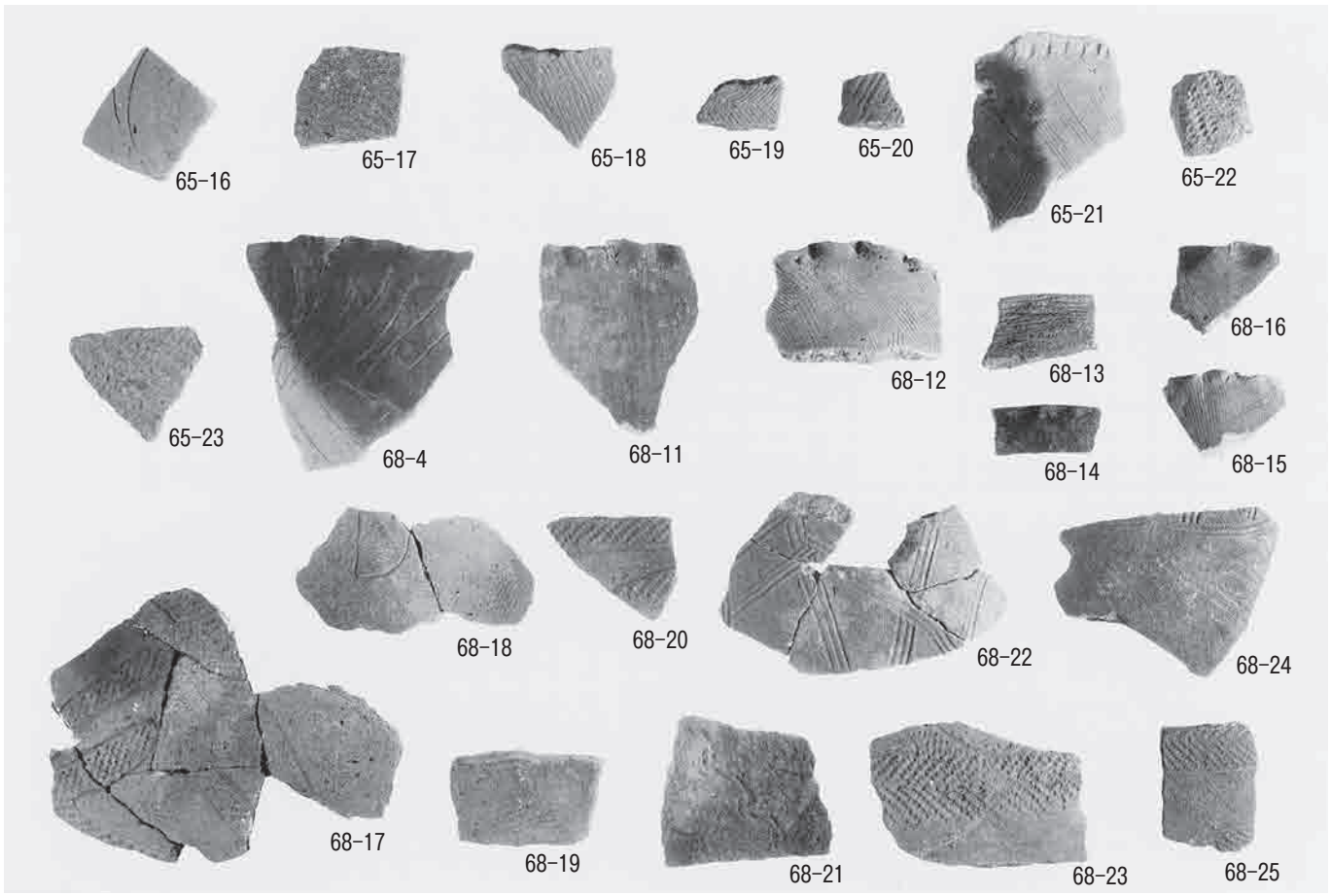

34-7
34-8
34-9
34-10
34-11
34-12
34-13
35-5
35-6
35-7
35-8
35-9
36-1
36-2
36-3
36-4
36-5
54-1
54-2
54-6
54-7
54-8
54-9
54-10
54-11
54-12
54-13
54-14
54-15
54-16
54-17
54-18
54-19
54-20
54-21
54-22
55-2
55-3
55-4
56-8

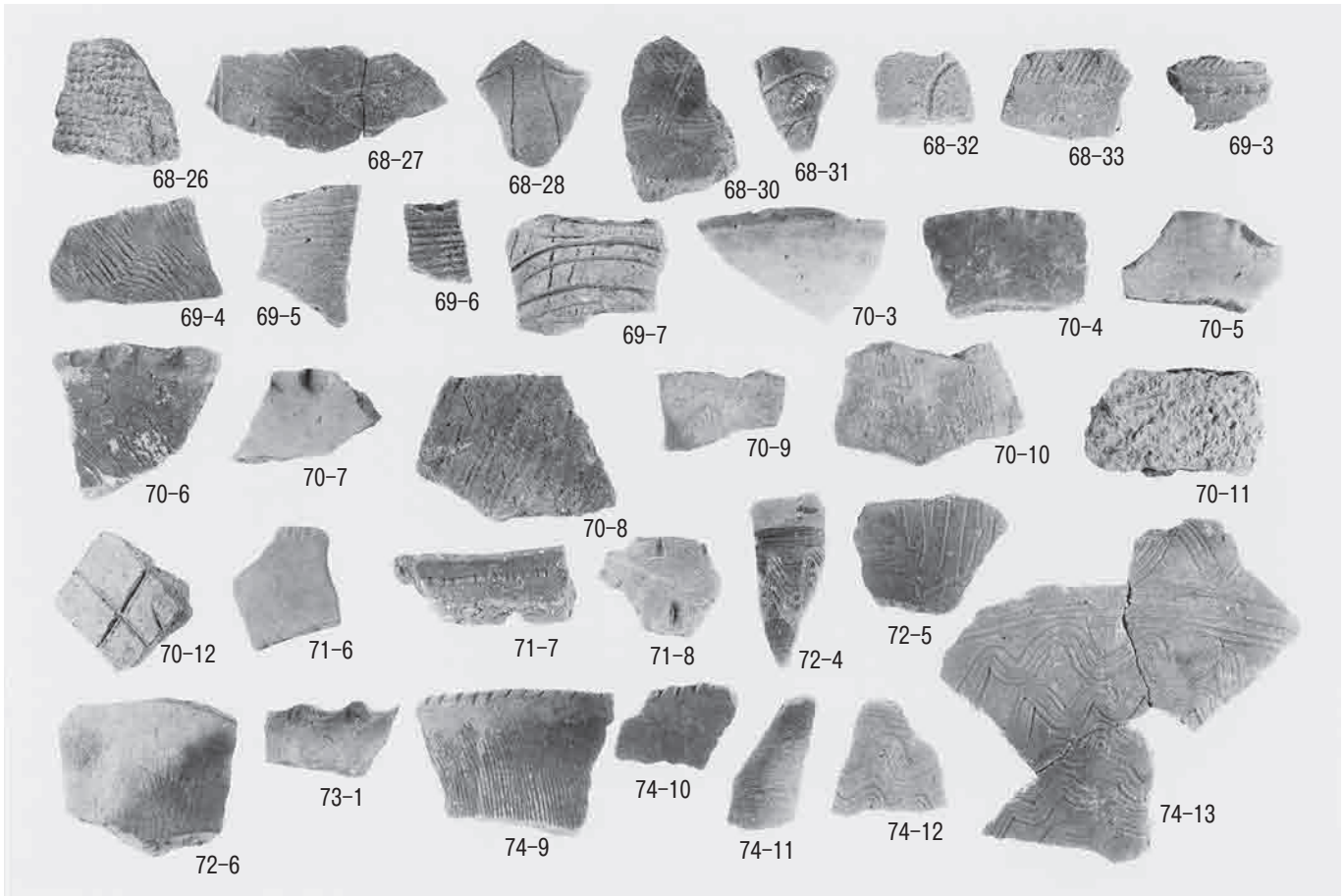

56-9
56-10
56-11
56-12
56-13
56-14
56-15
56-16
56-19
56-17
56-18
56-21
56-22
56-20
56-24
56-25
56-26
56-27
58-2
56-28
57-4
57-5
57-6
57-8
57-9
58-3
58-4
58-5
58-6
58-7
57-7
58-10
58-8
58-9
59-4
59-5
59-6
59-7
59-8

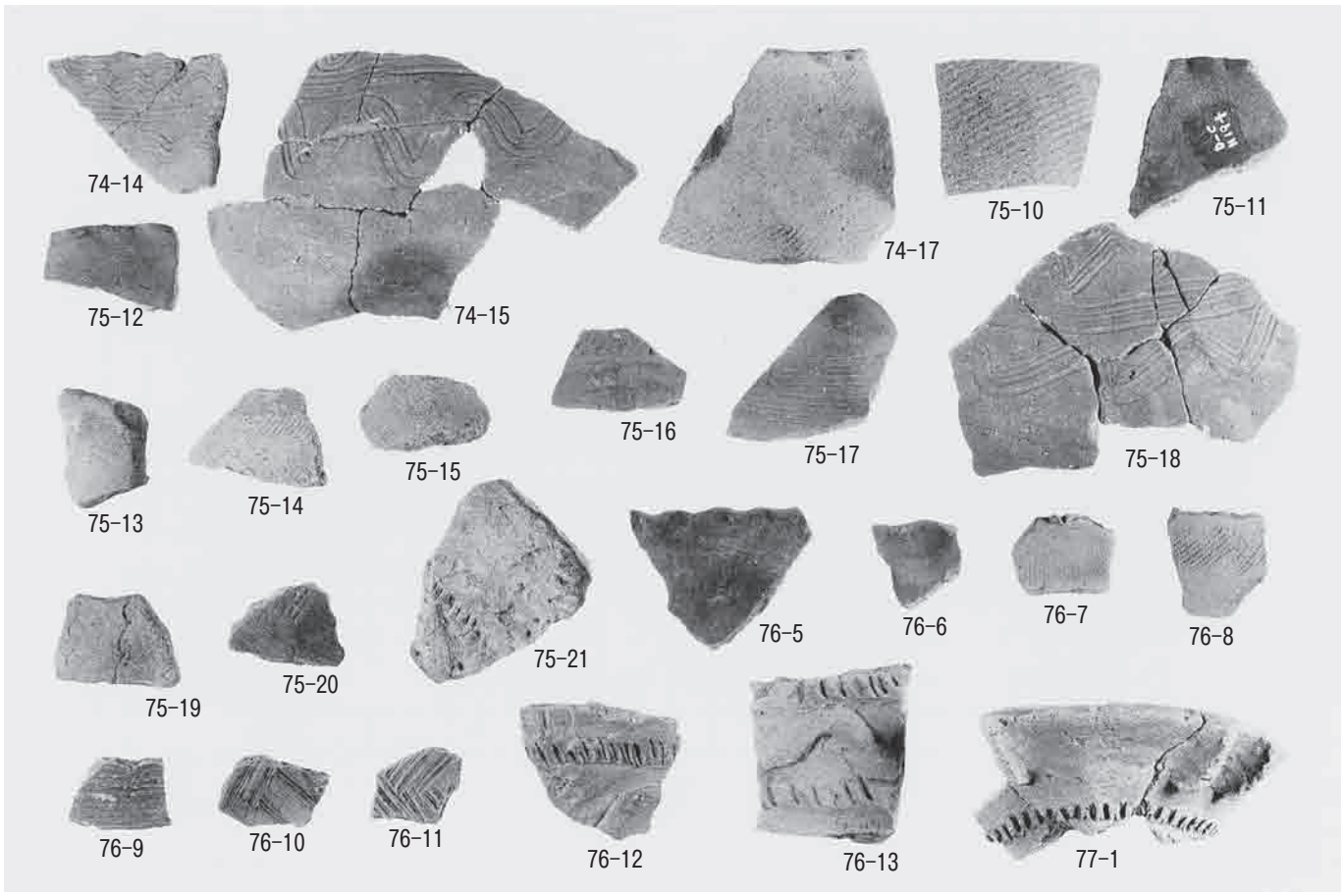

59-9
59-10
59-11
59-12
59-16
59-17
59-18
59-20
59-21
59-22
59-23
60-8
61-2
61-3
61-4
61-5
61-6
62-21
62-22
62-23
62-24
62-25
62-26
62-27
62-28
62-29
62-30
62-31
62-32
62-33
62-34
62-35
62-36
62-37
62-38

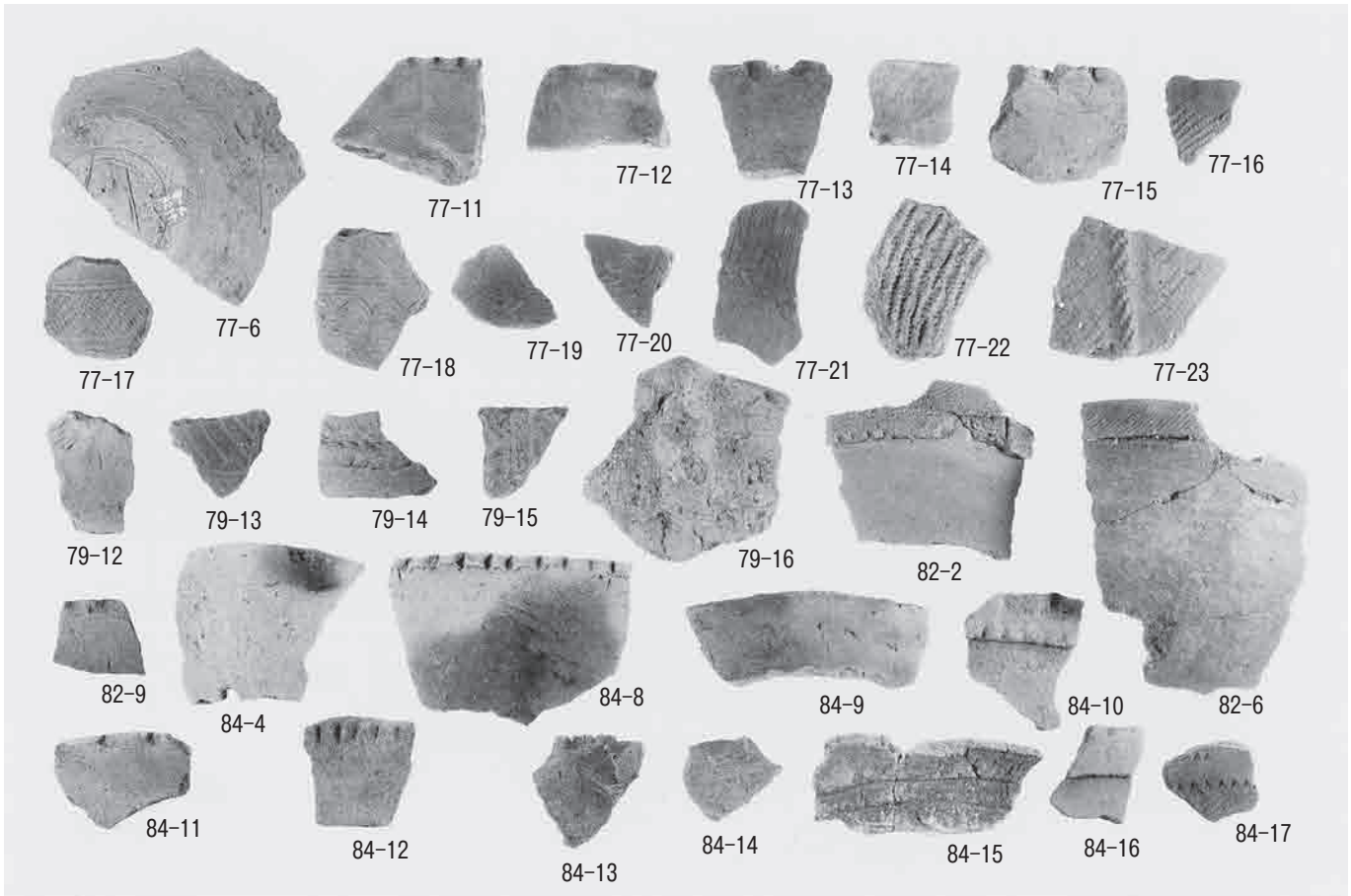

62-39
62-40
62-42
62-43
62-44
62-45
62-46
62-47
63-2
63-3
63-4
63-5
63-6
64-2
64-6
64-7
64-8
64-9
64-10
64-11
64-12
64-13
64-14
64-15

図版80

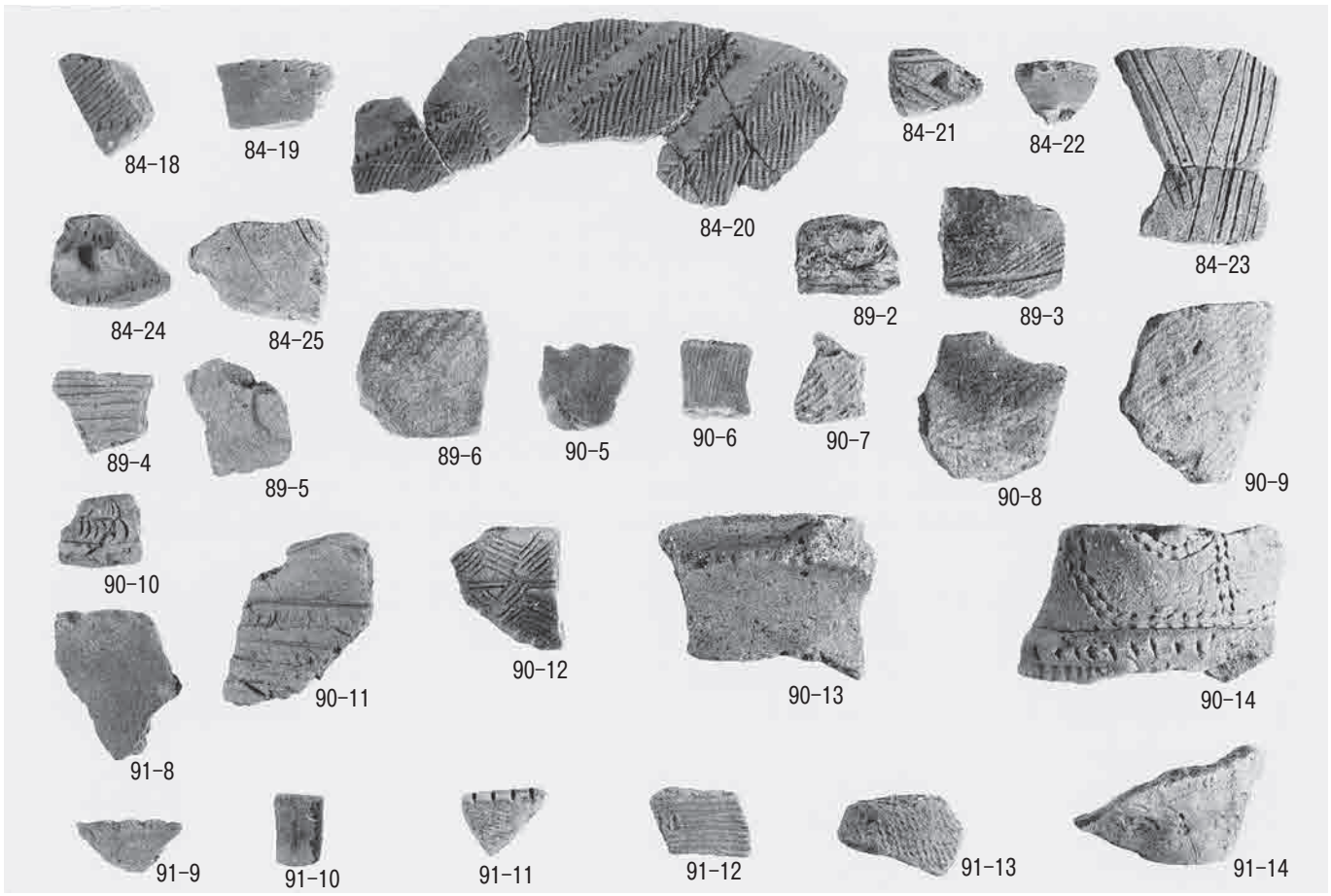

65-16
65-17
65-18
65-19
65-20
65-21
65-22
65-23
68-4
68-11
68-12
68-13
68-16
68-14
68-15
68-18
68-20
68-22
68-24
68-17
68-19
68-21
68-23
68-25

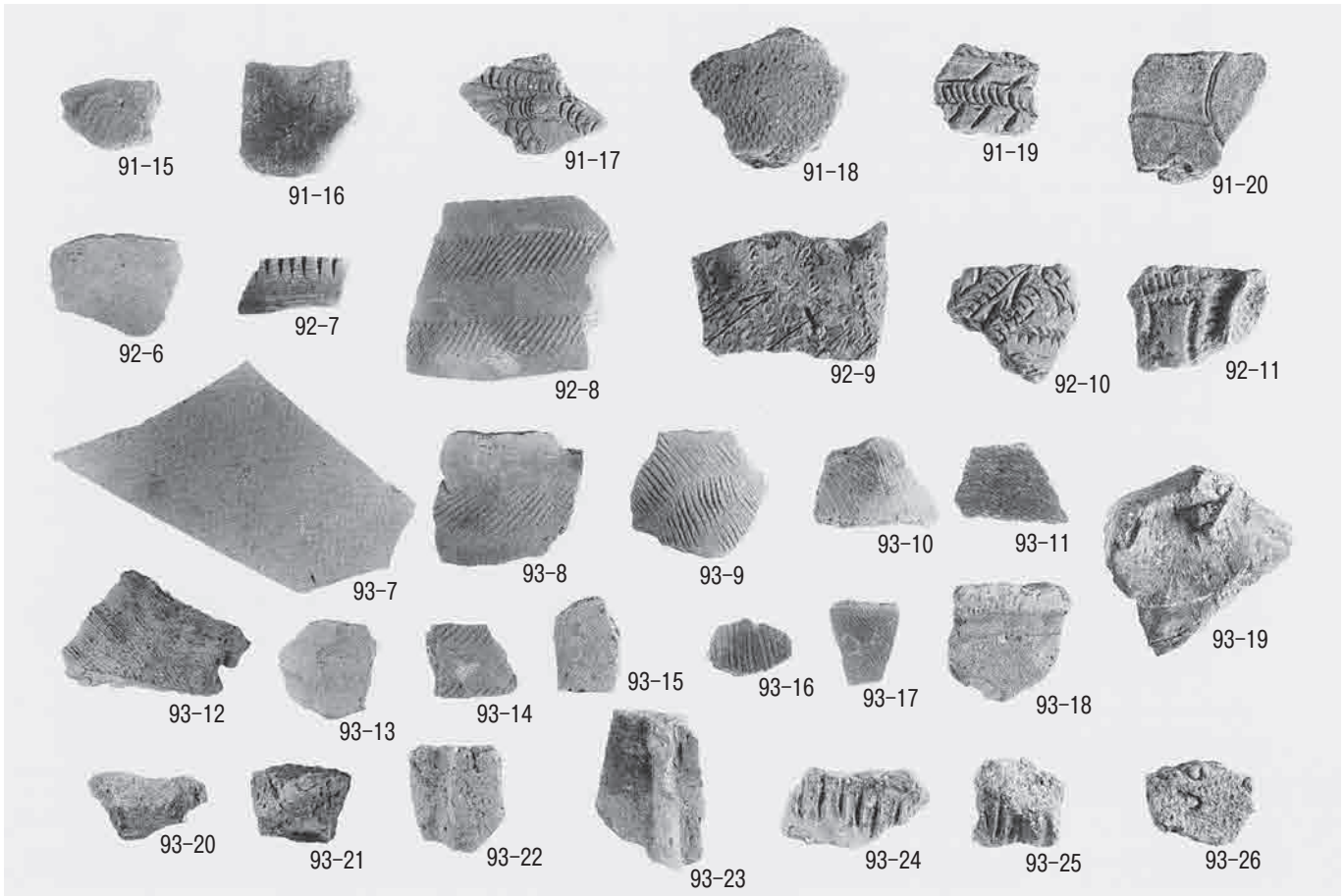

68-26
68-27
68-28
68-30
68-31
68-32
68-33
69-3
69-4
69-5
69-6
69-7
70-3
70-4
70-5
70-6
70-7
70-8
70-9
70-10
70-11
70-12
71-6
71-7
71-8
72-4
72-5
72-6
73-1
74-9
74-10
74-11
74-12
74-13

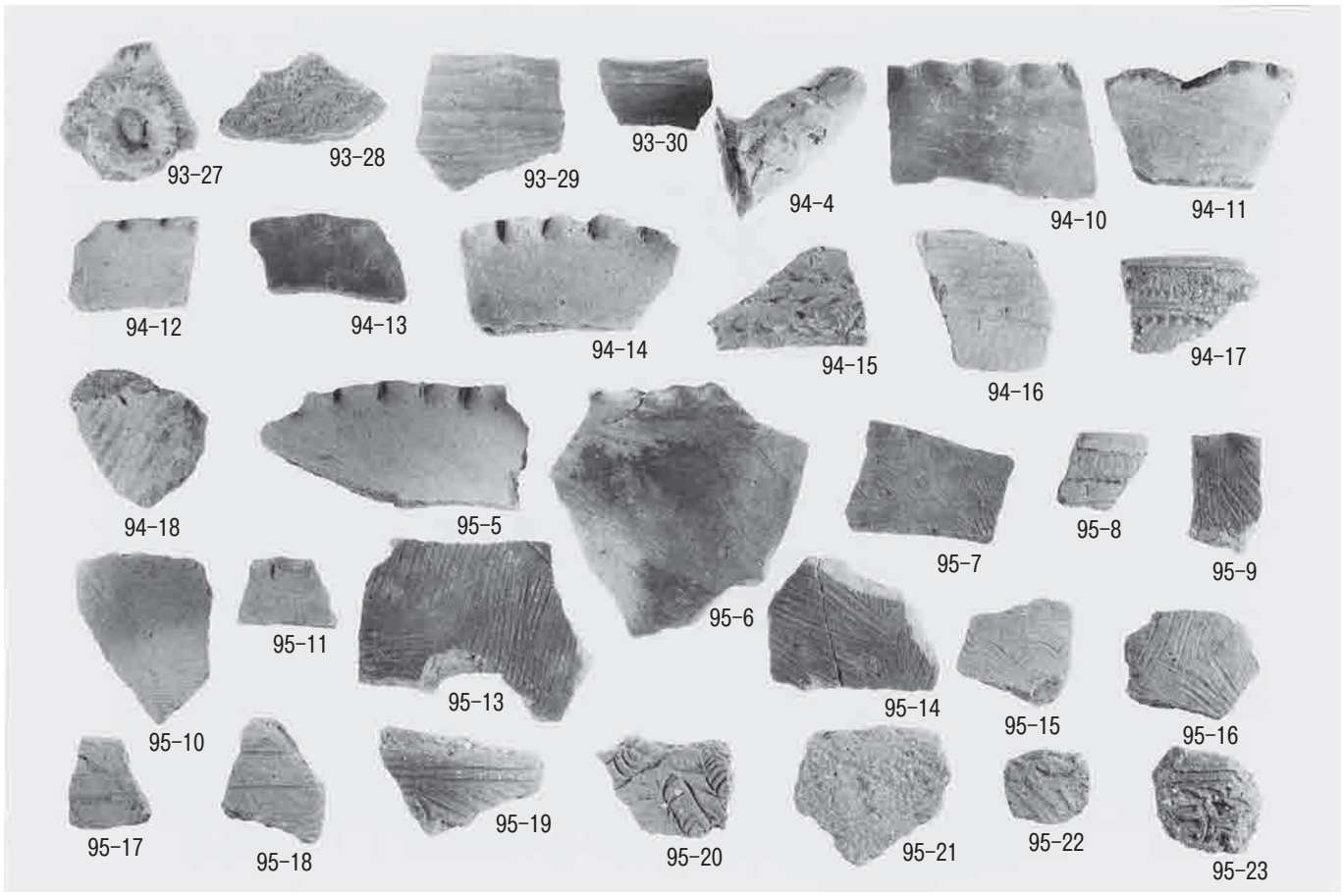

74-14
74-15
74-17
75-10
75-11
75-12
75-13
75-14
75-15
75-16
75-17
75-18
75-19
75-20
75-21
76-5
76-6
76-7
76-8
76-9
76-10
76-11
76-12
76-13
77-1

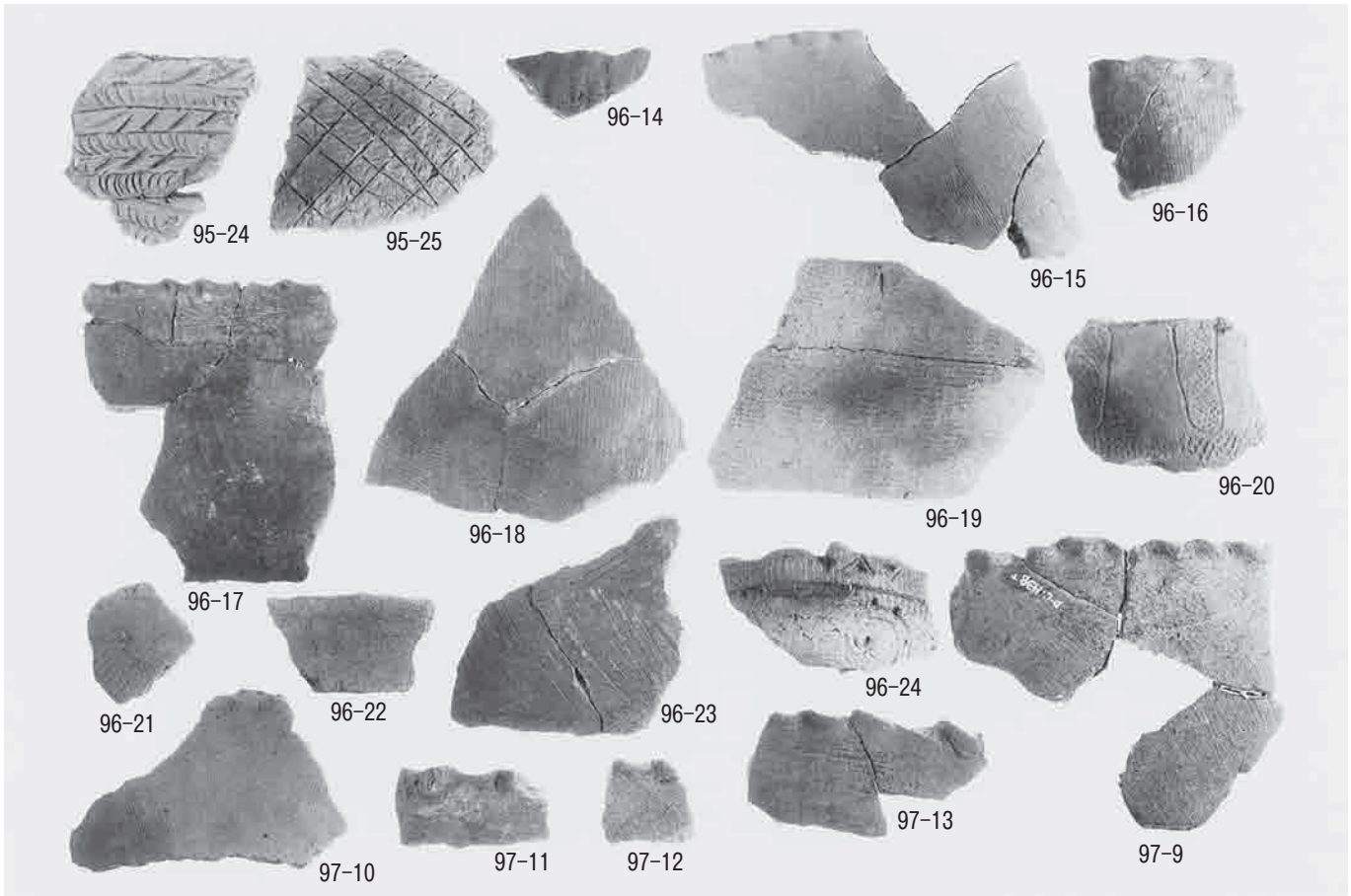

77-6
77-11
77-12
77-13
77-14
77-15
77-16
77-17
77-18
77-19
77-20
77-21
77-22
77-23
79-12
79-13
79-14
79-15
79-16
82-2
82-6
82-9
84-4
84-8
84-9
84-10
84-11
84-12
84-13
84-14
84-15
84-16
84-17

図版82

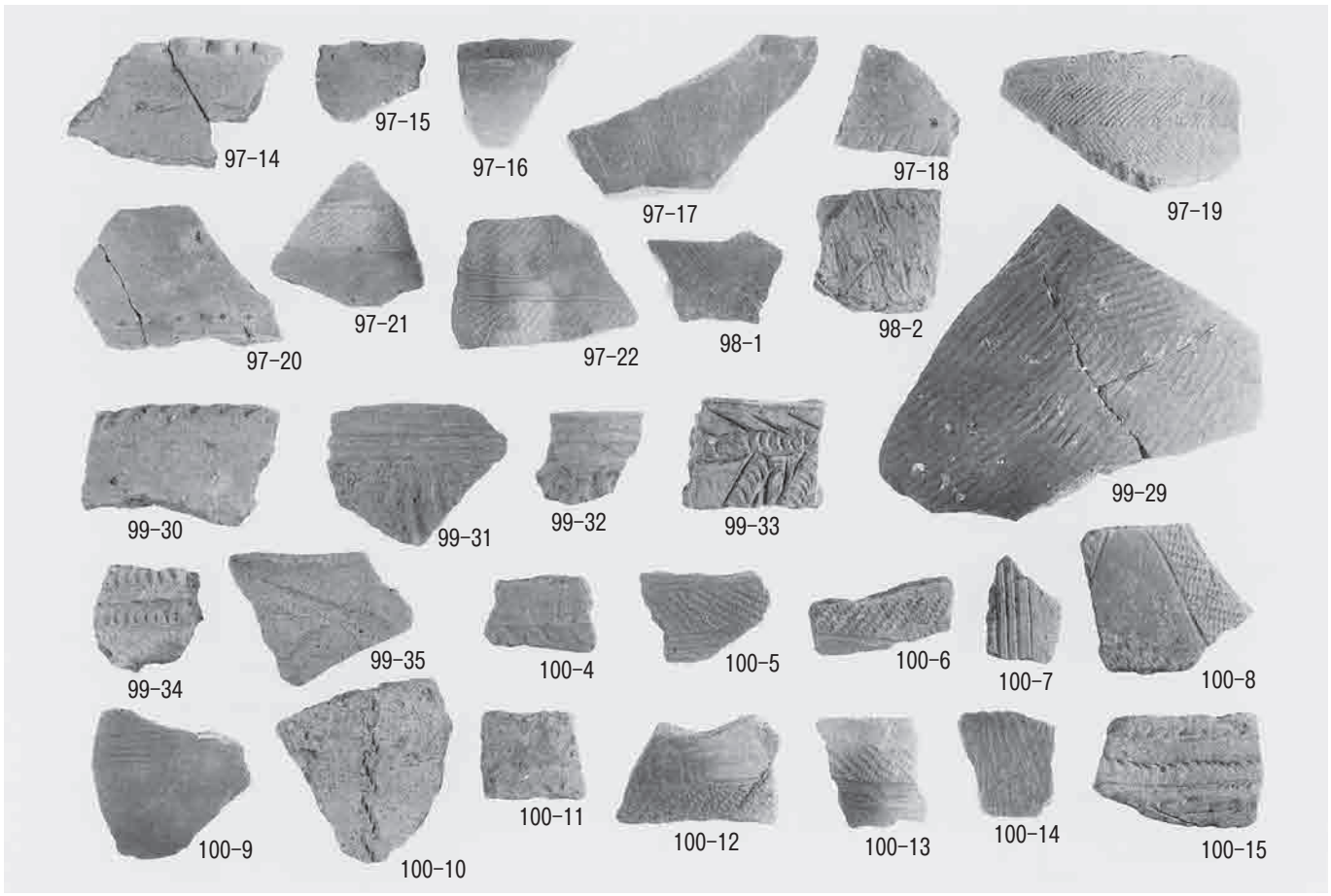

84-18
84-19
84-20
84-21
84-22
84-23
84-24
84-25
89-2
89-3
89-4
89-5
89-6
90-5
90-6
90-7
90-8
90-9
90-10
90-11
90-12
90-13
90-14
91-8
91-9
91-10
91-11
91-12
91-13
91-14

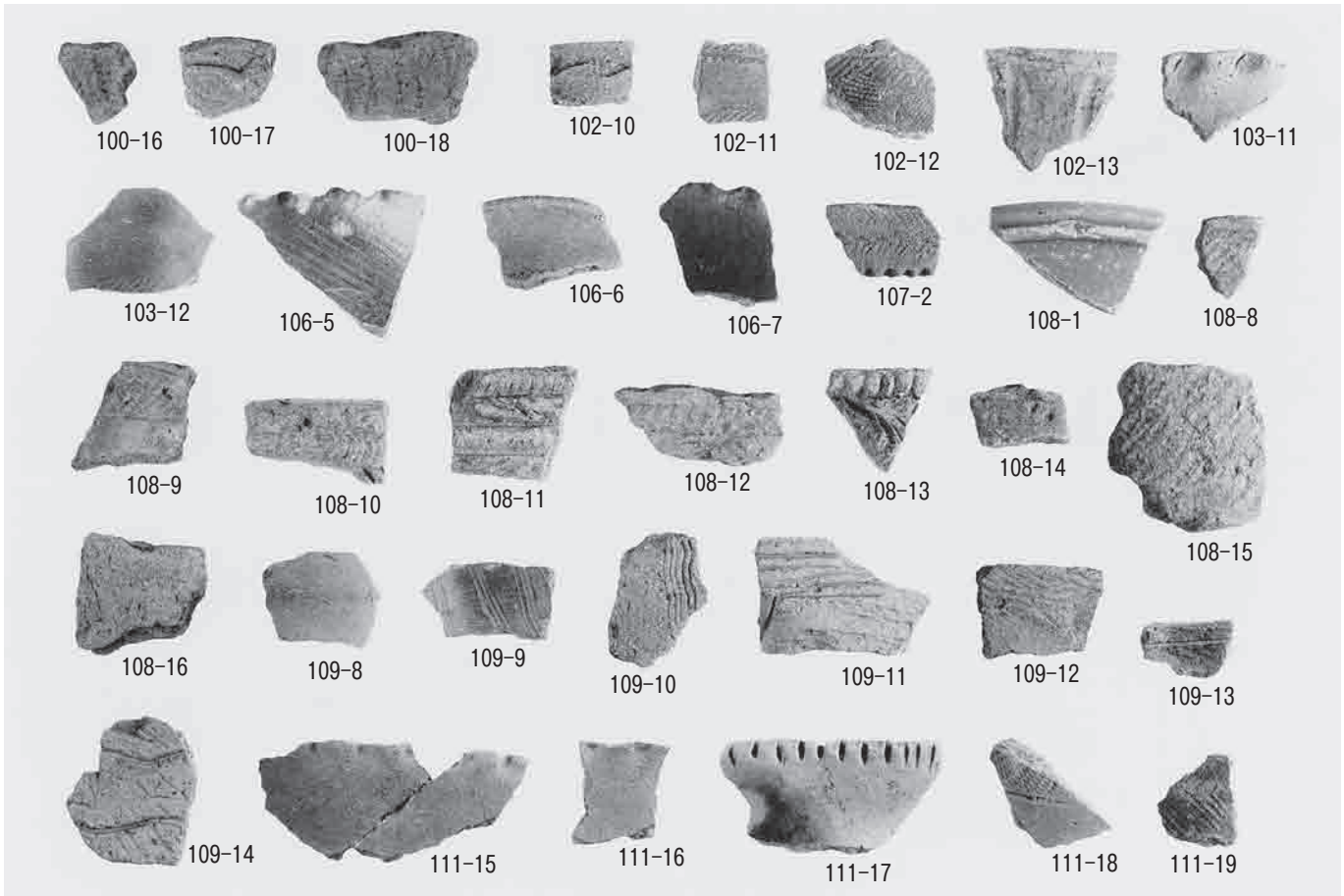

91-15
91-16
91-17
91-18
91-19
91-20
92-6
92-7
92-8
92-9
92-10
92-11
93-7
93-8
93-9
93-10
93-11
93-12
93-13
93-14
93-15
93-16
93-17
93-18
93-19
93-20
93-21
93-22
93-23
93-24
93-25
93-26

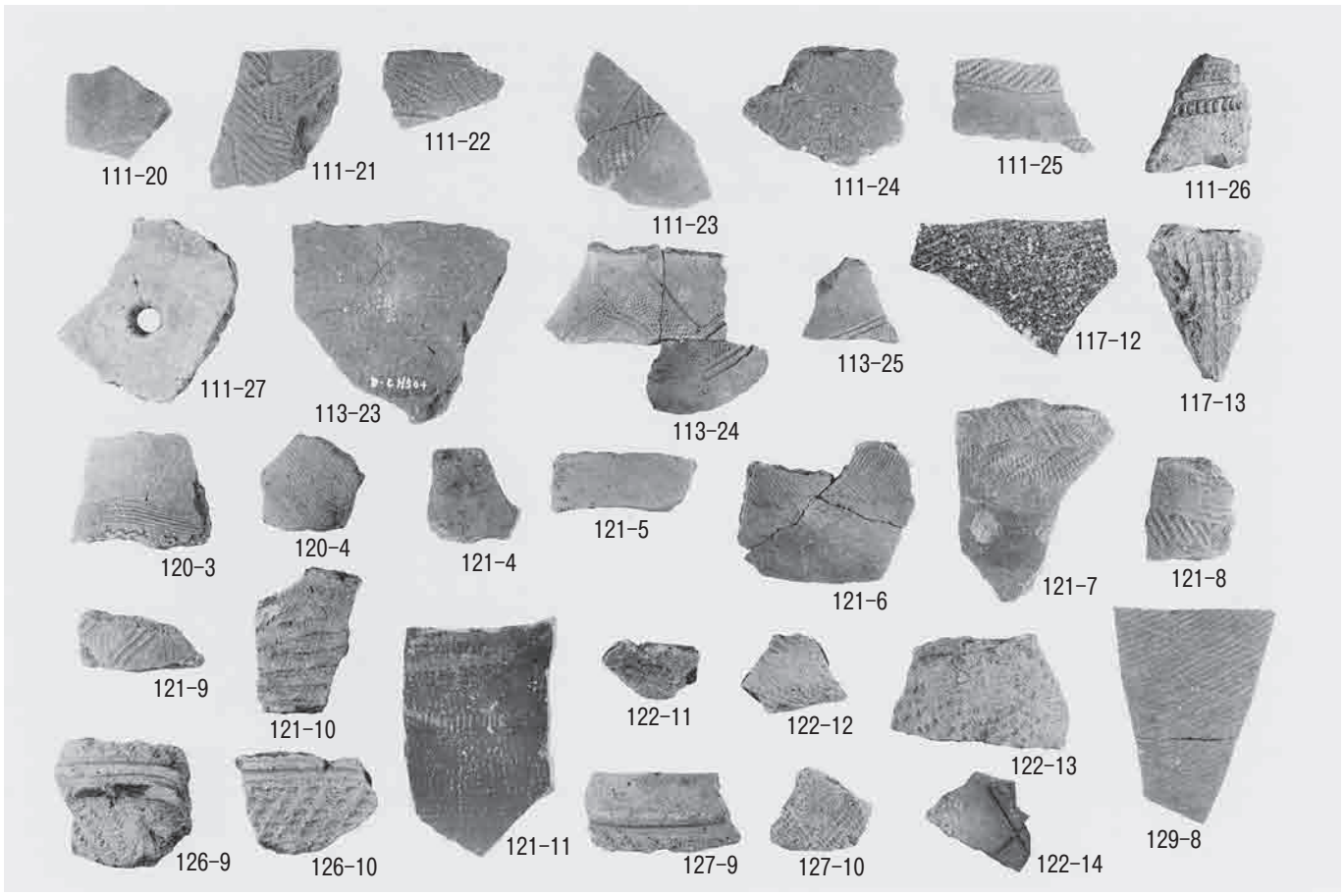

93-27
93-28
93-29
93-30
94-4
94-10
94-11
94-12
94-13
94-14
94-15
94-16
94-17
94-18
95-5
95-6
95-7
95-8
95-9
95-10
95-11
95-13
95-14
95-15
95-16
95-17
95-18
95-19
95-20
95-21
95-22
95-23

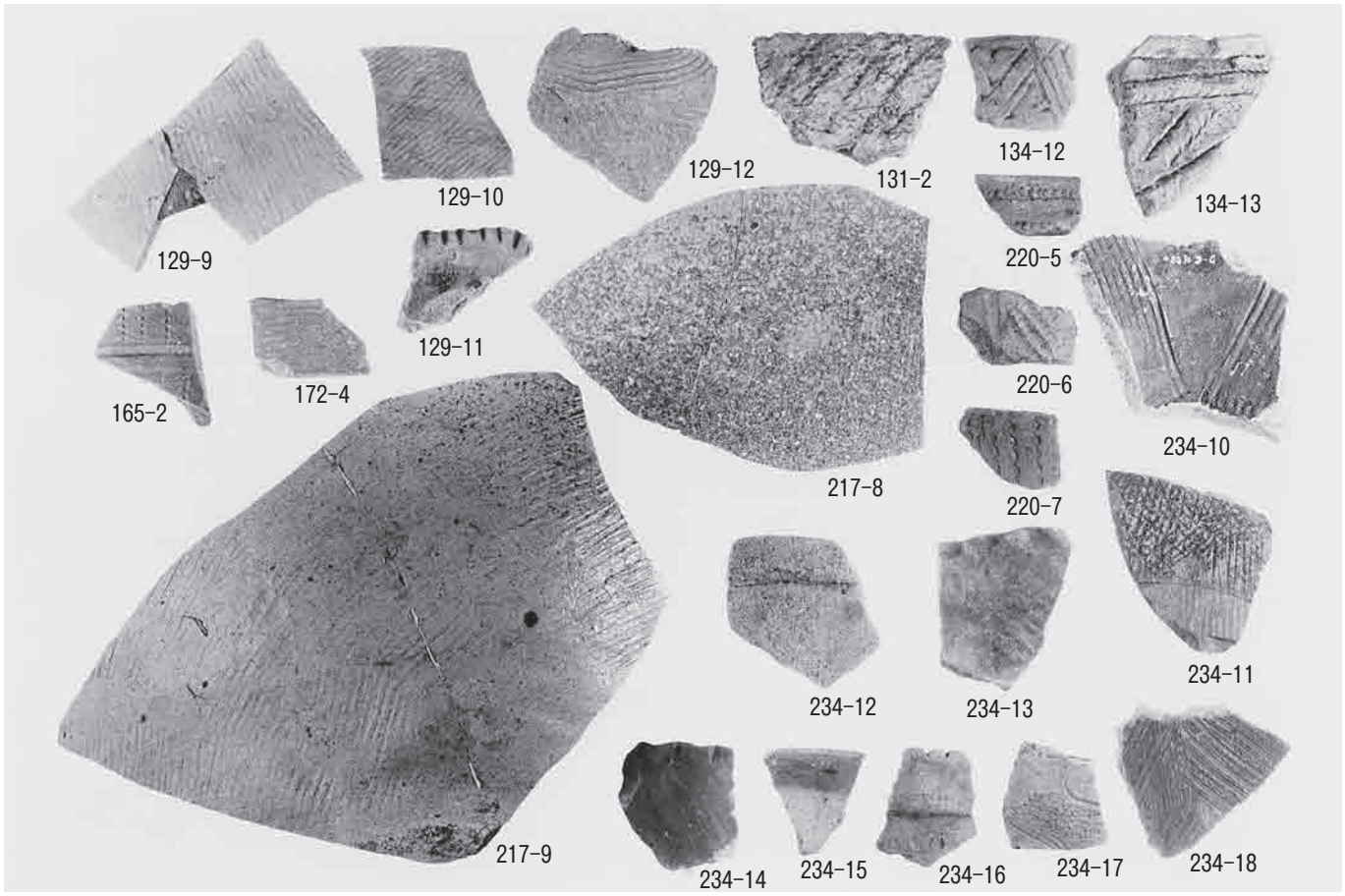

95-24
95-25
96-14
96-15
96-16
96-17
96-18
96-19
96-20
96-21
96-22
96-23
96-24
97-9
97-10
97-11
97-12
97-13

図版84

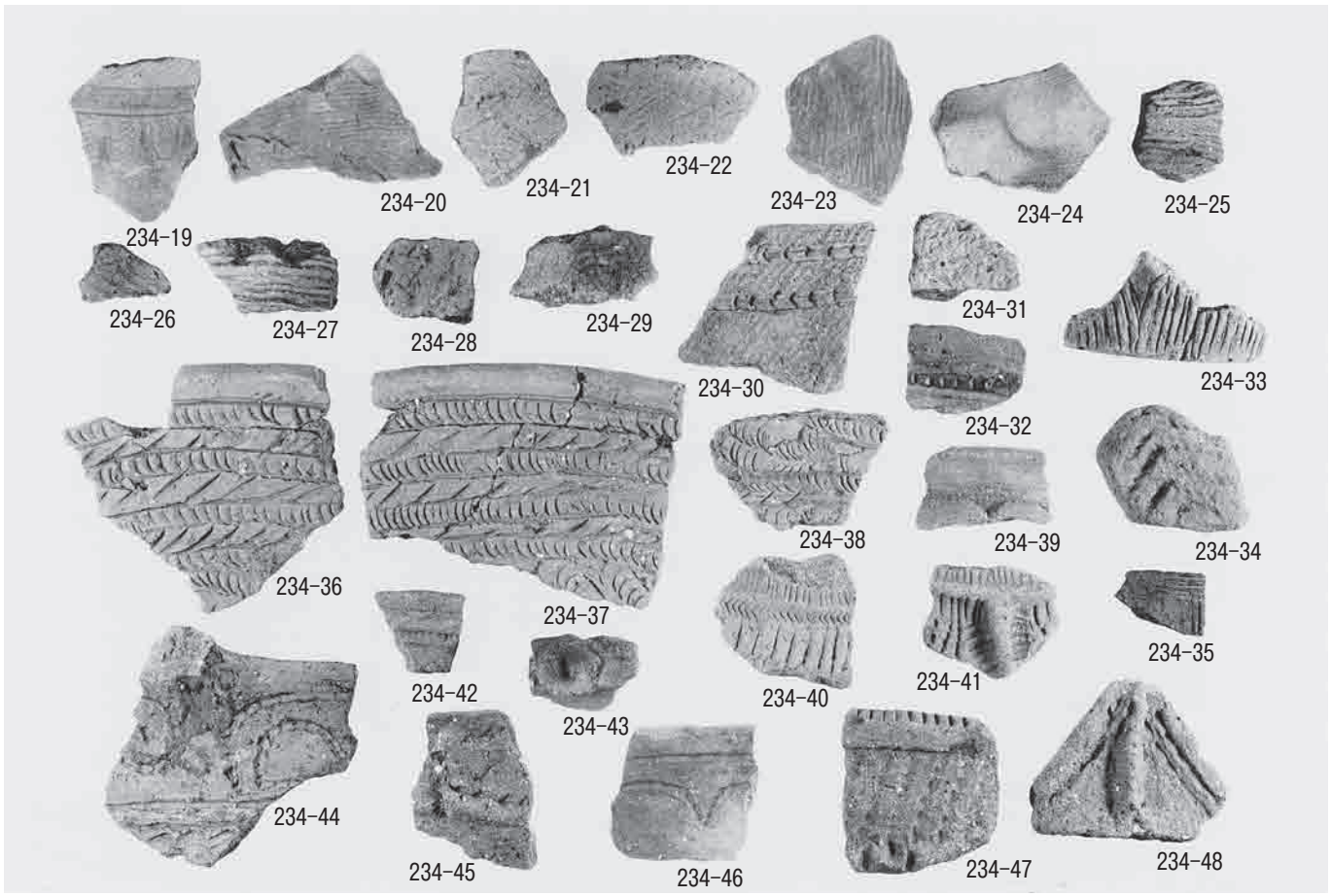

97-14
97-15
97-16
97-17
97-18
97-19
97-20
97-21
97-22
98-1
98-2
99-29
99-30
99-31
99-32
99-33
99-34
99-35
100-4
100-5
100-6
100-7
100-8
100-9
100-10
100-11
100-12
100-13
100-14
100-15

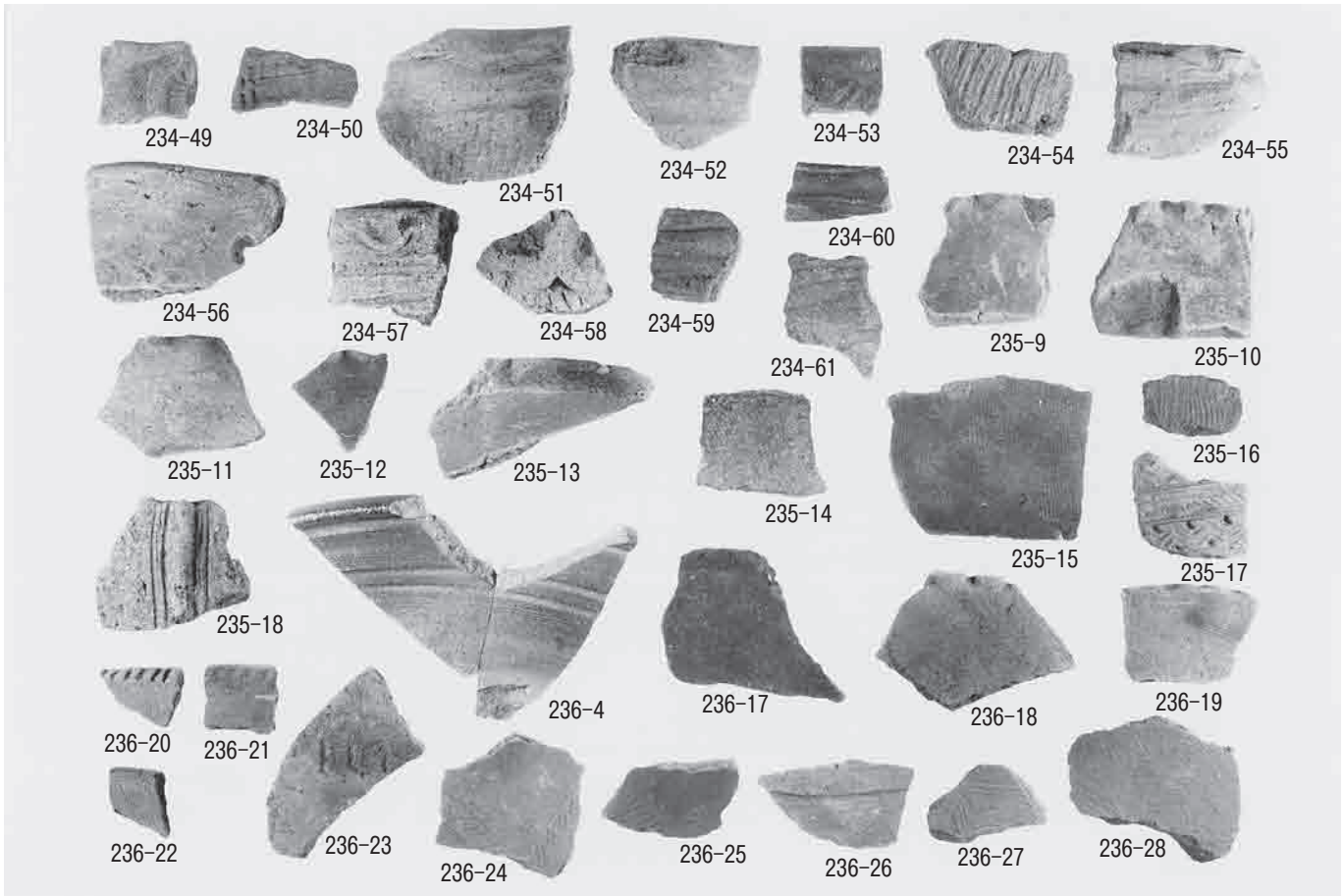

100-16
100-17
100-18
102-10
102-11
102-12
102-13
103-11
103-12
106-5
106-6
106-7
107-2
108-1
108-8
108-9
108-10
108-11
108-12
108-13
108-14
108-15
108-16
109-8
109-9
109-10
109-11
109-12
109-13
109-14
111-15
111-16
111-17
111-18
111-19

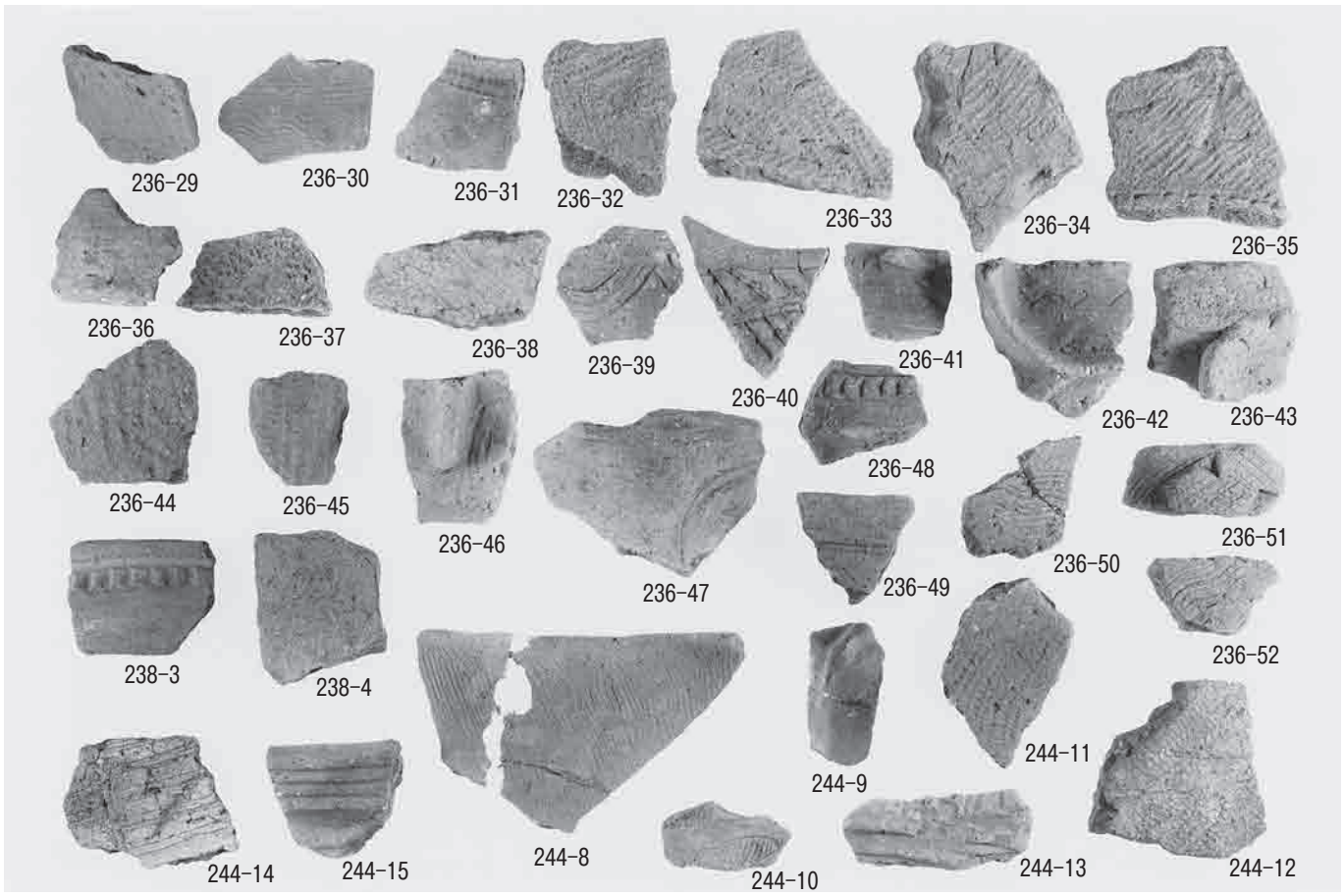

111-20
111-21
111-22
111-23
111-24
111-25
111-26
111-27
113-23
113-24
113-25
117-12
117-13
120-3
120-4
121-4
121-5
121-6
121-7
121-8
121-9
121-10
121-11
122-11
122-12
122-13
122-14
126-9
126-10
127-9
127-10
129-8

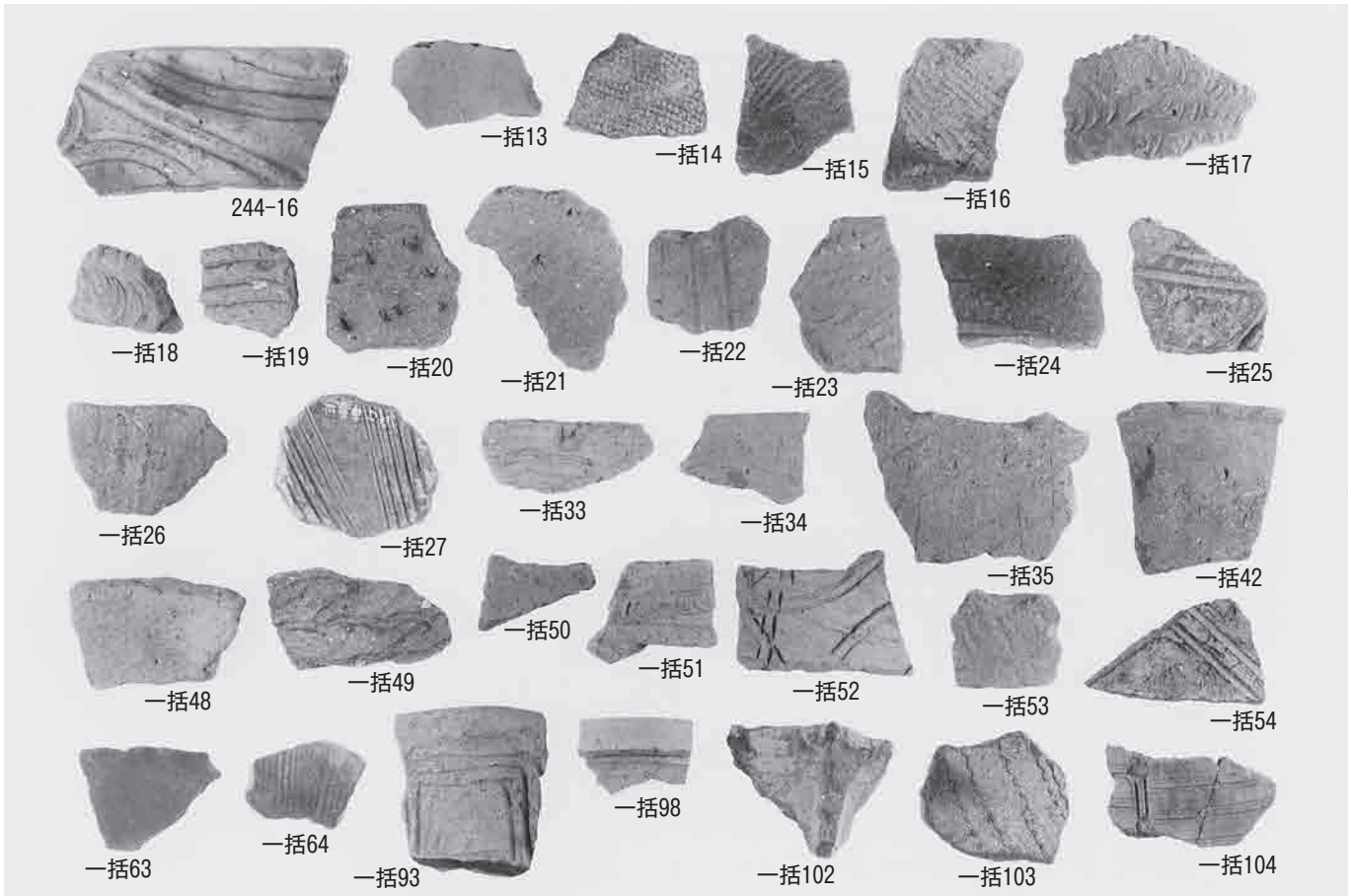

129-9
129-10
129-11
129-12
131-2
134-12
134-13
165-2
172-4
217-8
217-9
220-5
220-6
220-7
234-10
234-11
234-12
234-13
234-14
234-15
234-16
234-17
234-18

図版86

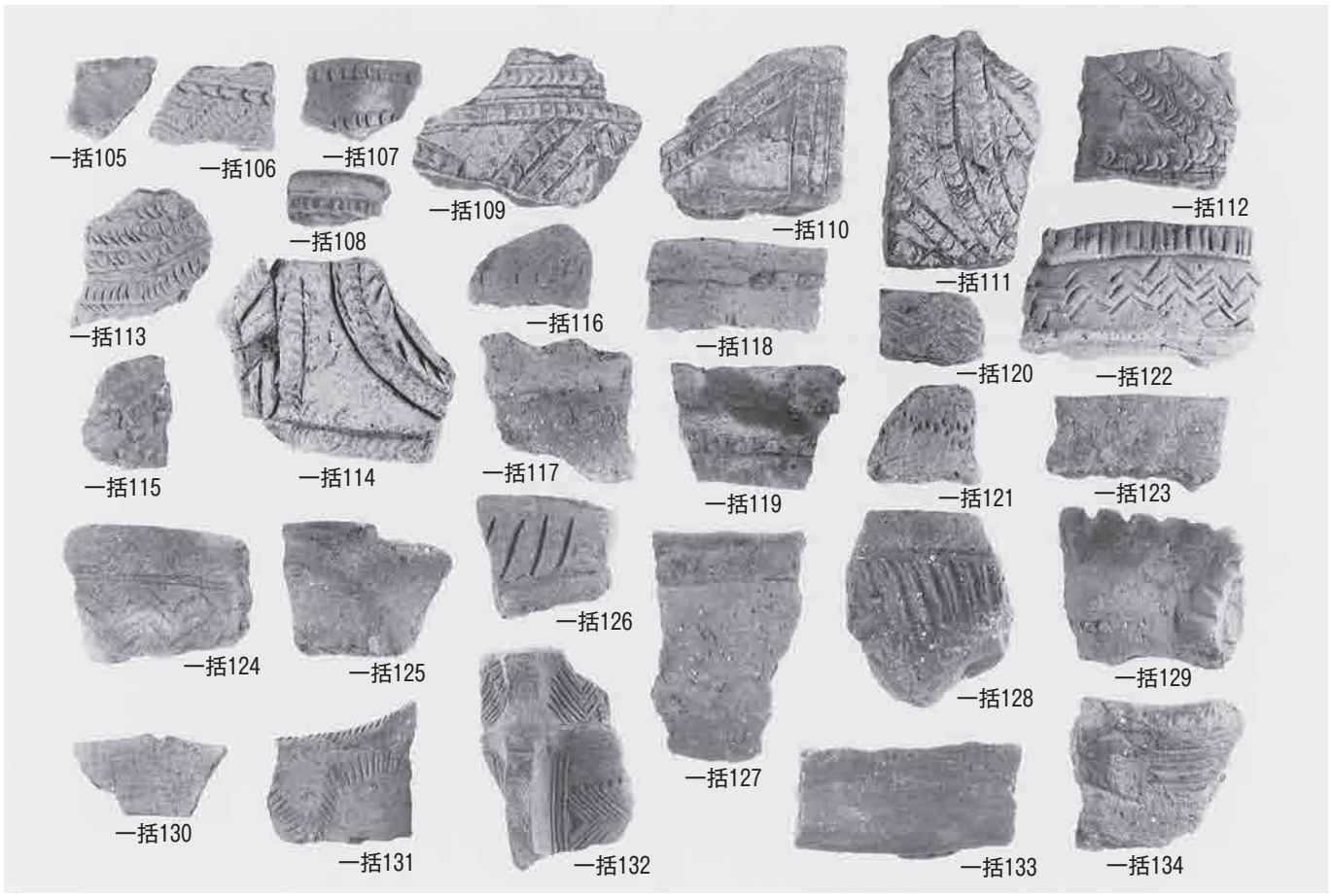

234-19
234-20
234-21
234-22
234-23
234-24
234-25
234-26
234-27
234-28
234-29
234-30
234-31
234-32
234-33
234-34
234-35
234-36
234-37
234-38
234-39
234-40
234-41
234-42
234-43
234-44
234-45
234-46
234-47
234-48


234-49
234-50
234-51
234-52
234-53
234-54
234-55
234-56
234-57
234-58
234-59
234-60
234-61
235-9
235-10
235-11
235-12
235-13
235-14
235-15
235-16
235-17
235-18
236-4
236-17
236-18
236-19
236-20
236-21
236-22
236-23
236-24
236-25
236-26
236-27
236-28

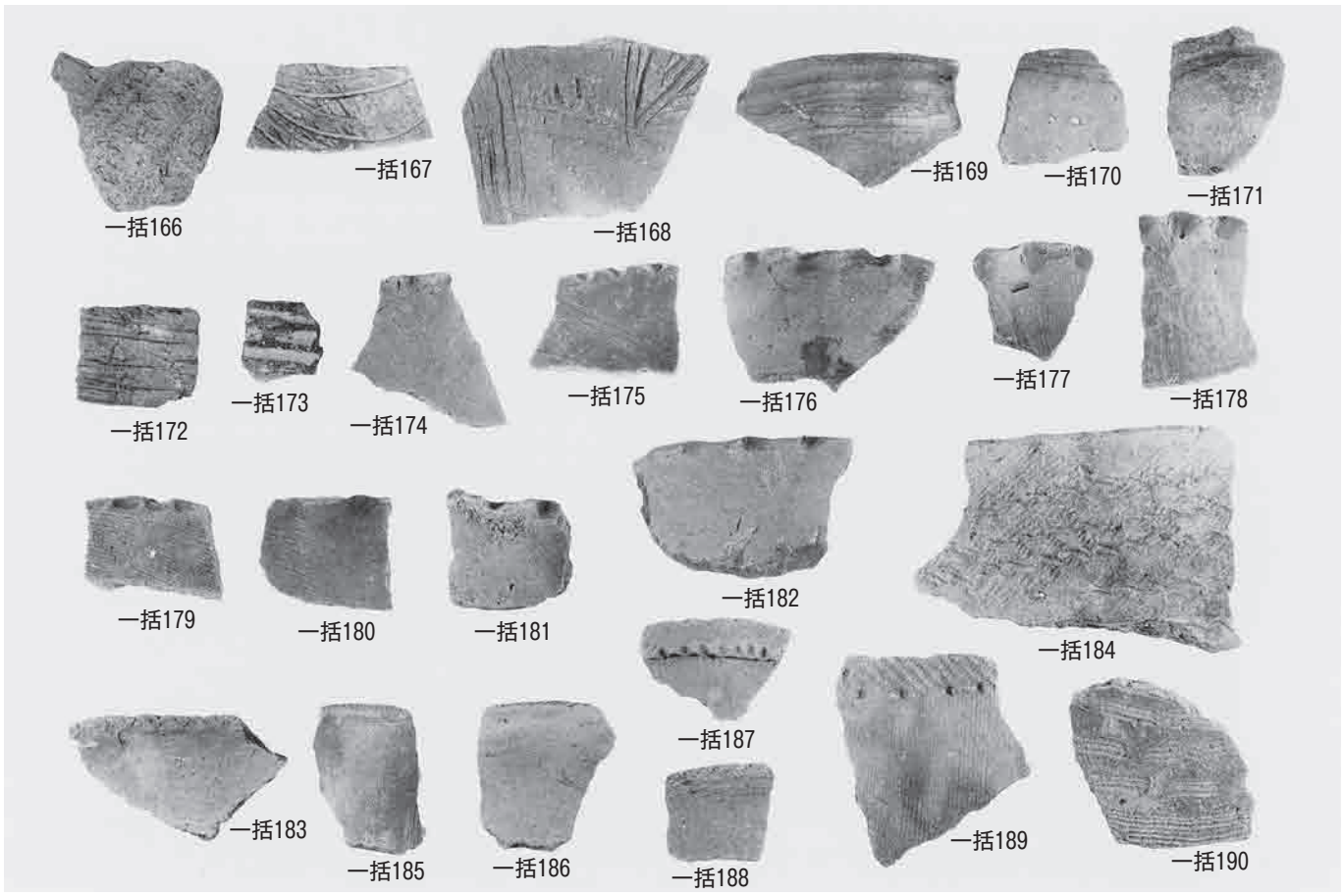

236-29
236-30
236-31
236-32
236-33
236-34
236-35
236-36
236-37
236-38
236-39
236-40
236-41
236-42
236-43
236-44
236-45
236-46
236-47
236-48
236-49
236-50
236-51
236-52
238-3
238-4
244-8
244-9
244-10
244-11
244-12
244-13
244-14
244-15

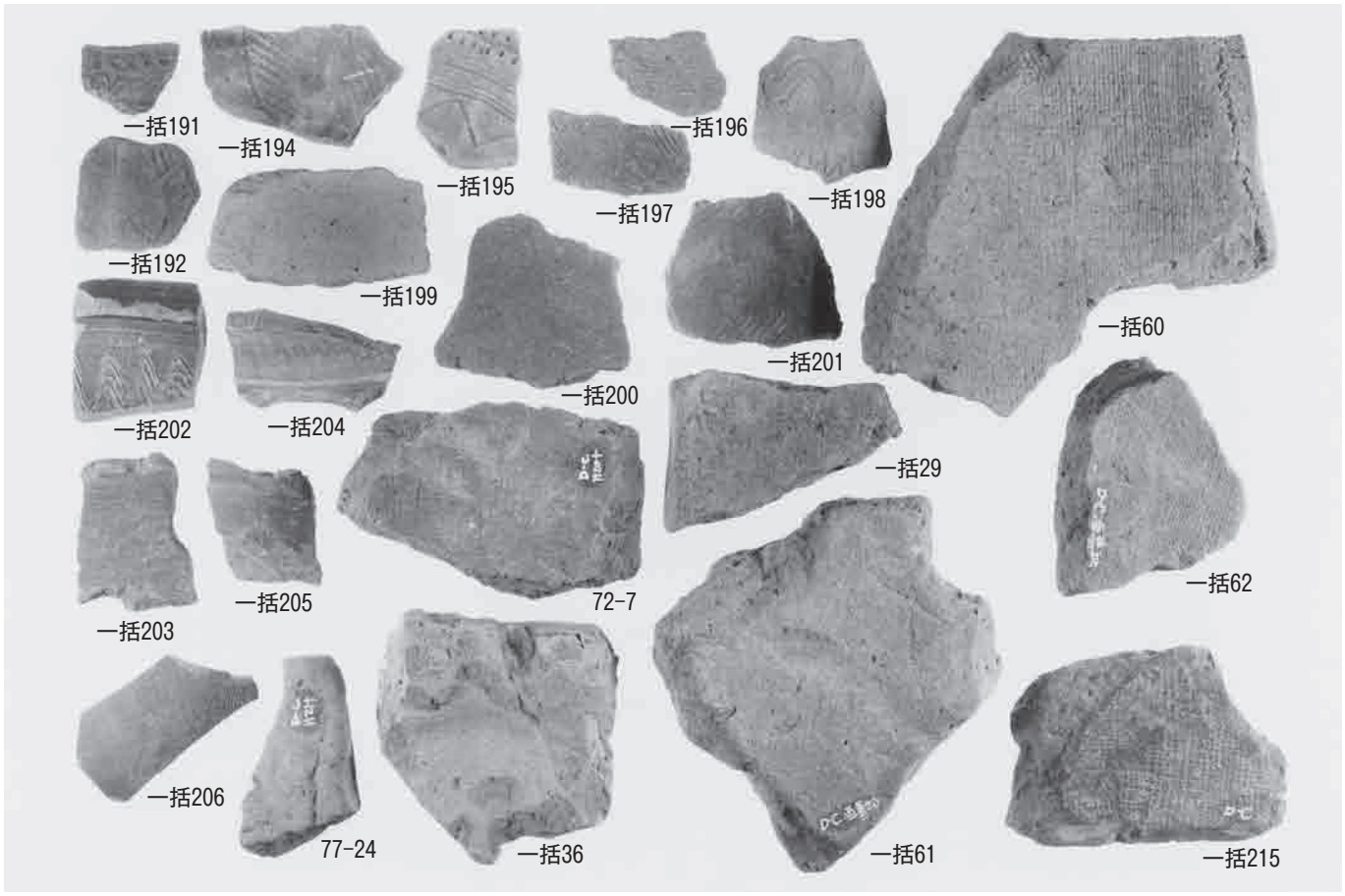

244-16
一括13
一括14
一括15
一括16
一括17
一括18
一括19
一括20
一括21
一括22
一括23
一括24
一括25
一括26
一括27
一括33
一括34
一括35
一括42
一括48
一括49
一括50
一括51
一括52
一括53
一括54
一括63
一括64
一括93
一括98
一括102
一括103
一括104

図版88

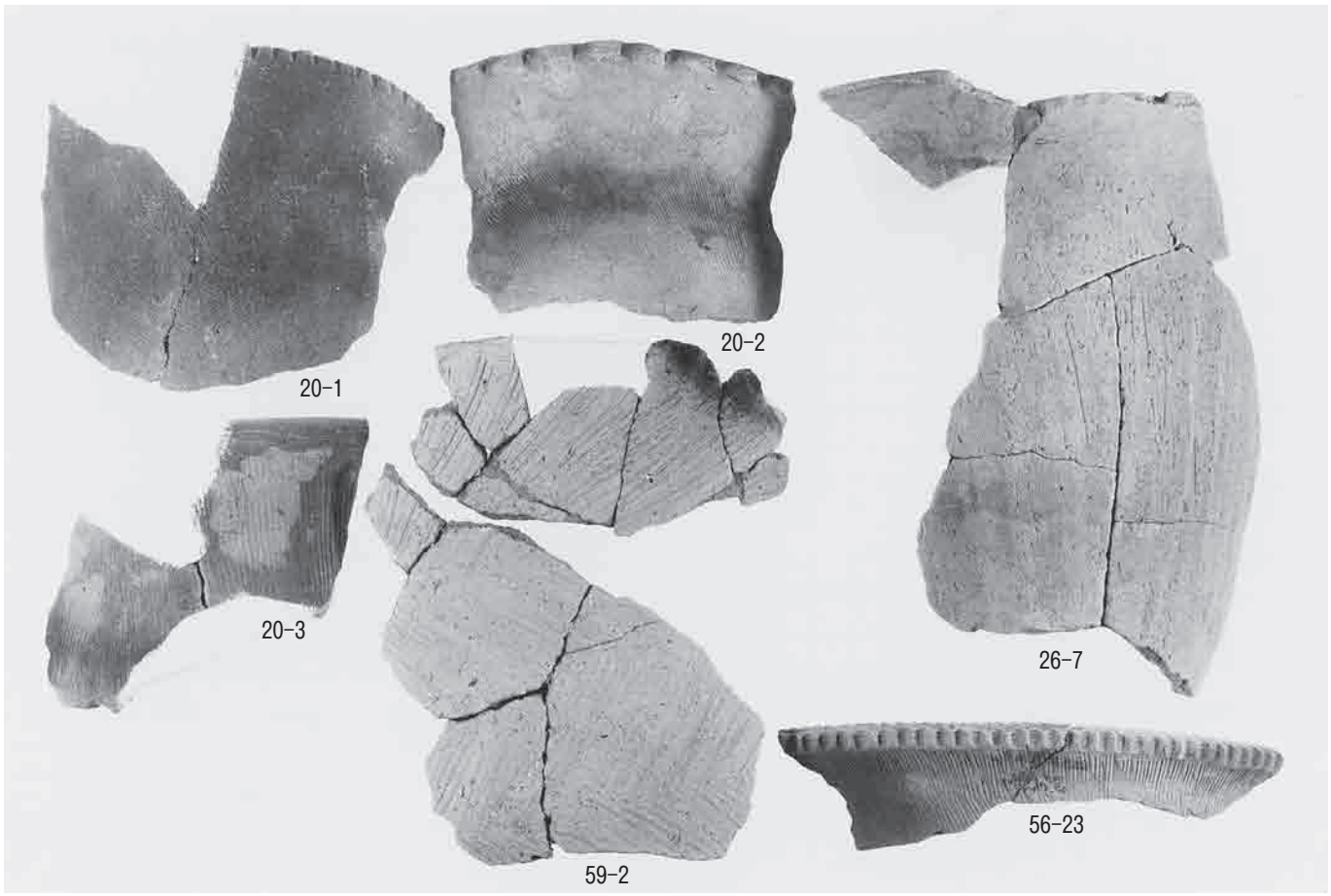

一括105
一括106
一括107
一括108
一括109
一括110
一括111
一括112
一括113
一括114
一括115
一括116
一括117
一括118
一括119
一括120
一括121
一括122
一括123
一括124
一括125
一括126
一括127
一括128
一括129
一括130
一括131
一括132
一括133
一括134

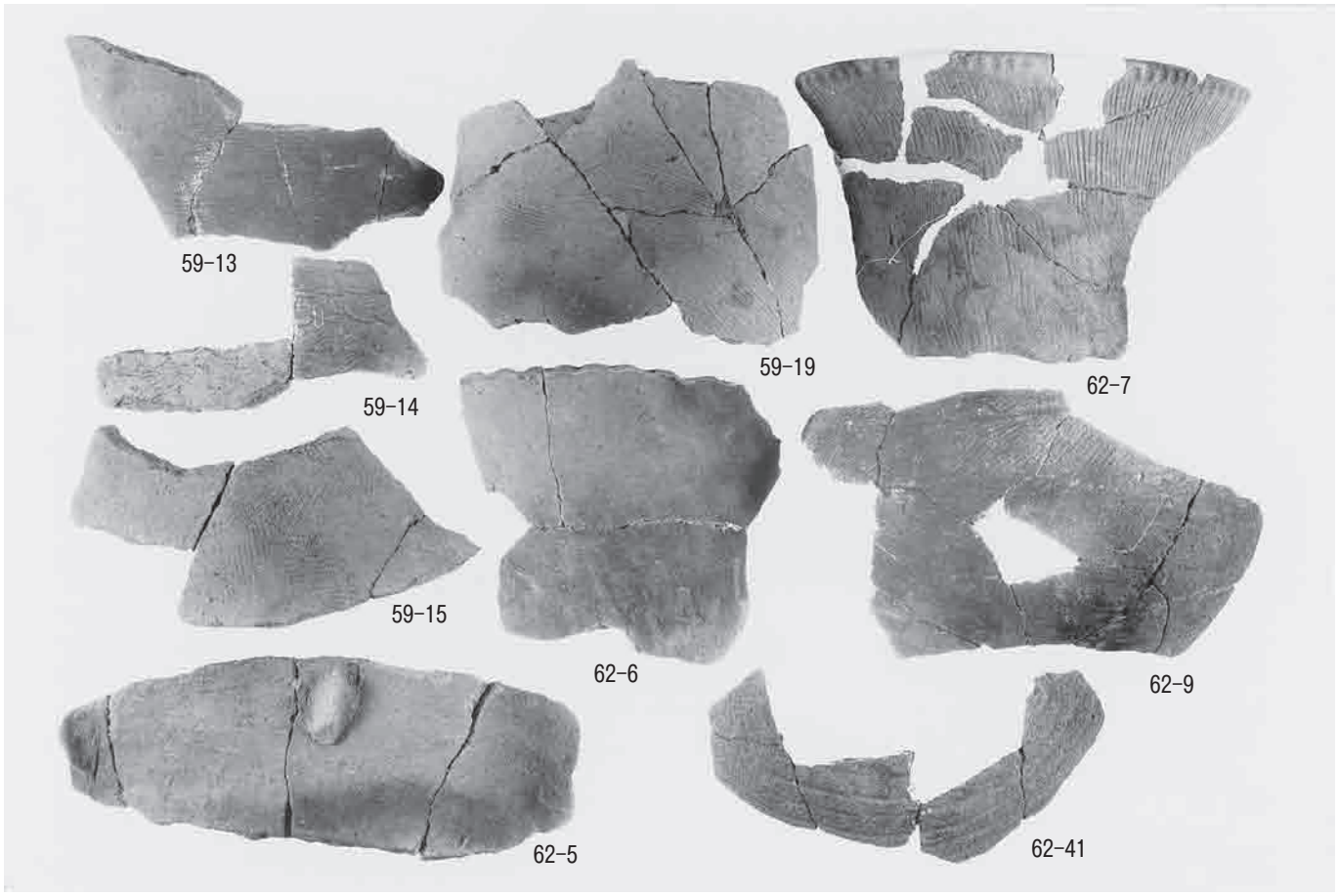
一括135
一括136
一括137
一括138
一括139
一括140
一括141
一括142
一括143
一括144
一括145
一括146
一括147
一括148
一括149
一括150
一括151
一括152
一括153
一括154
一括155
一括156
一括157
一括158
一括159
一括160
一括161
一括162
一括163
一括164
一括165

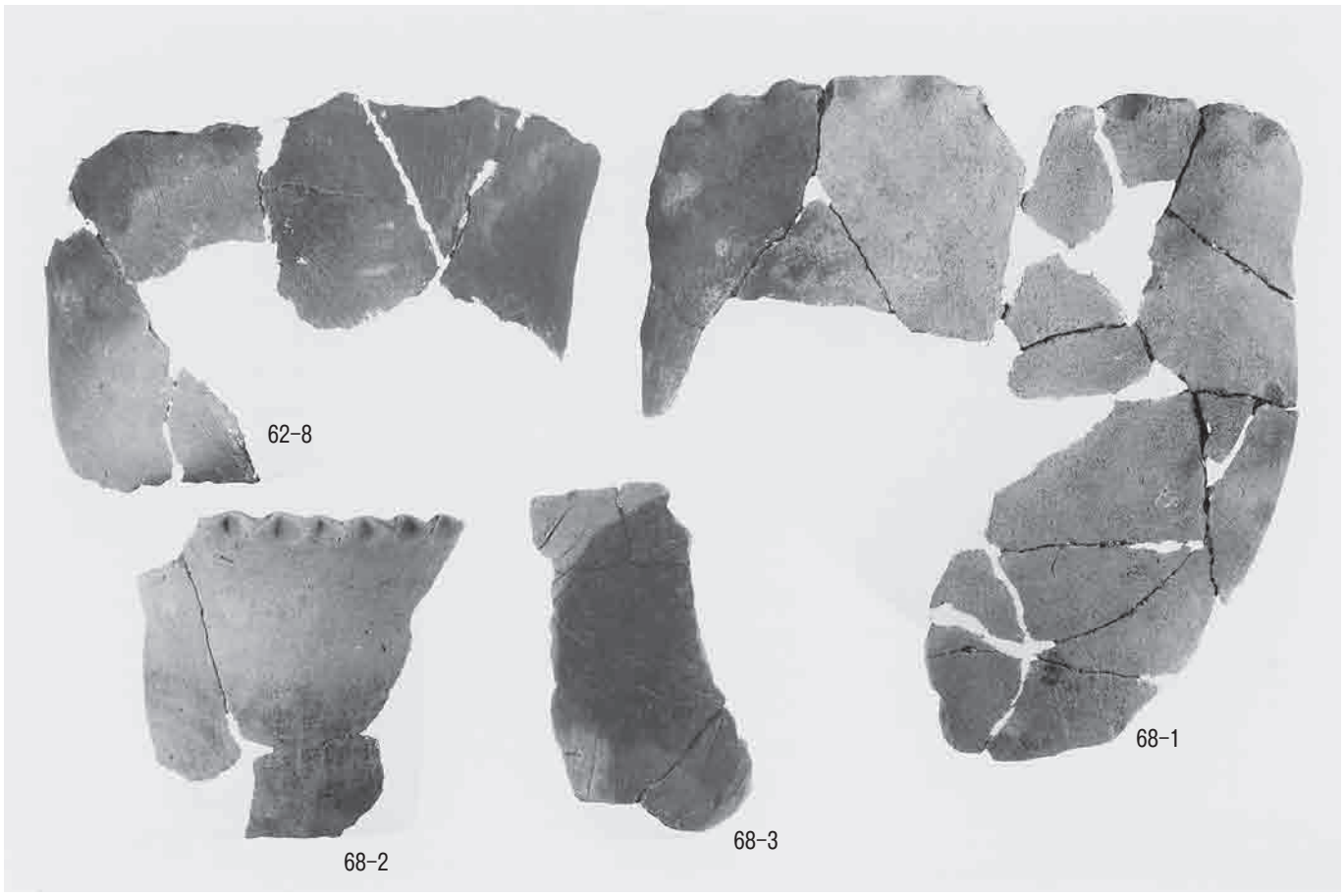

一括166
一括167
一括168
一括169
一括170
一括171
一括172
一括173
一括174
一括175
一括176
一括177
一括178
一括179
一括180
一括181
一括182
一括184
一括183
一括185
一括186
一括187
一括188
一括189
一括190

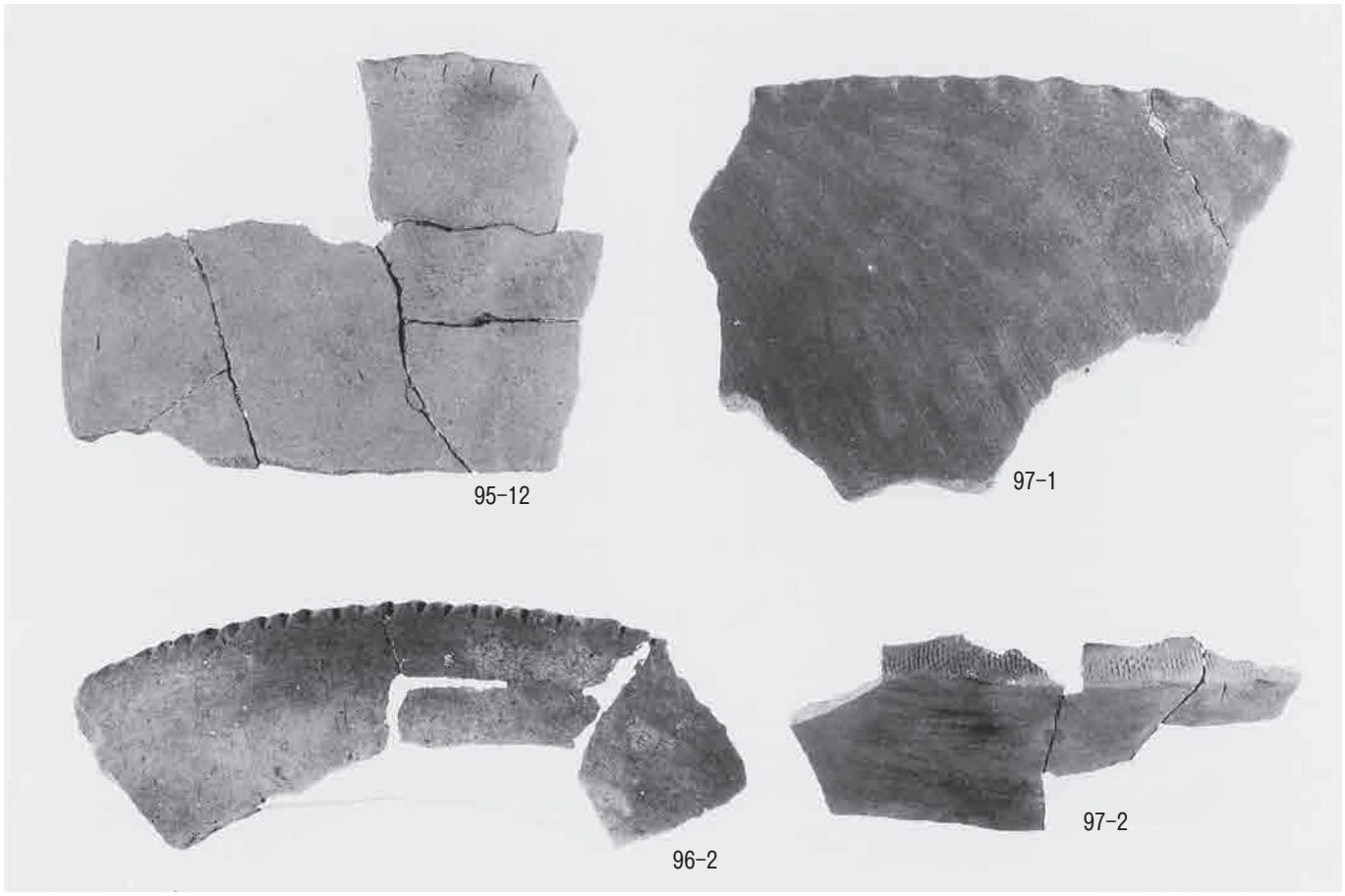

一括191
一括194
一括195
一括196
一括197
一括198
一括192
一括199
一括60
一括200
一括201
一括202
一括204
一括29
一括62
一括203
一括205
72-7
一括206
77-24
一括36
一括61
一括215

図版90

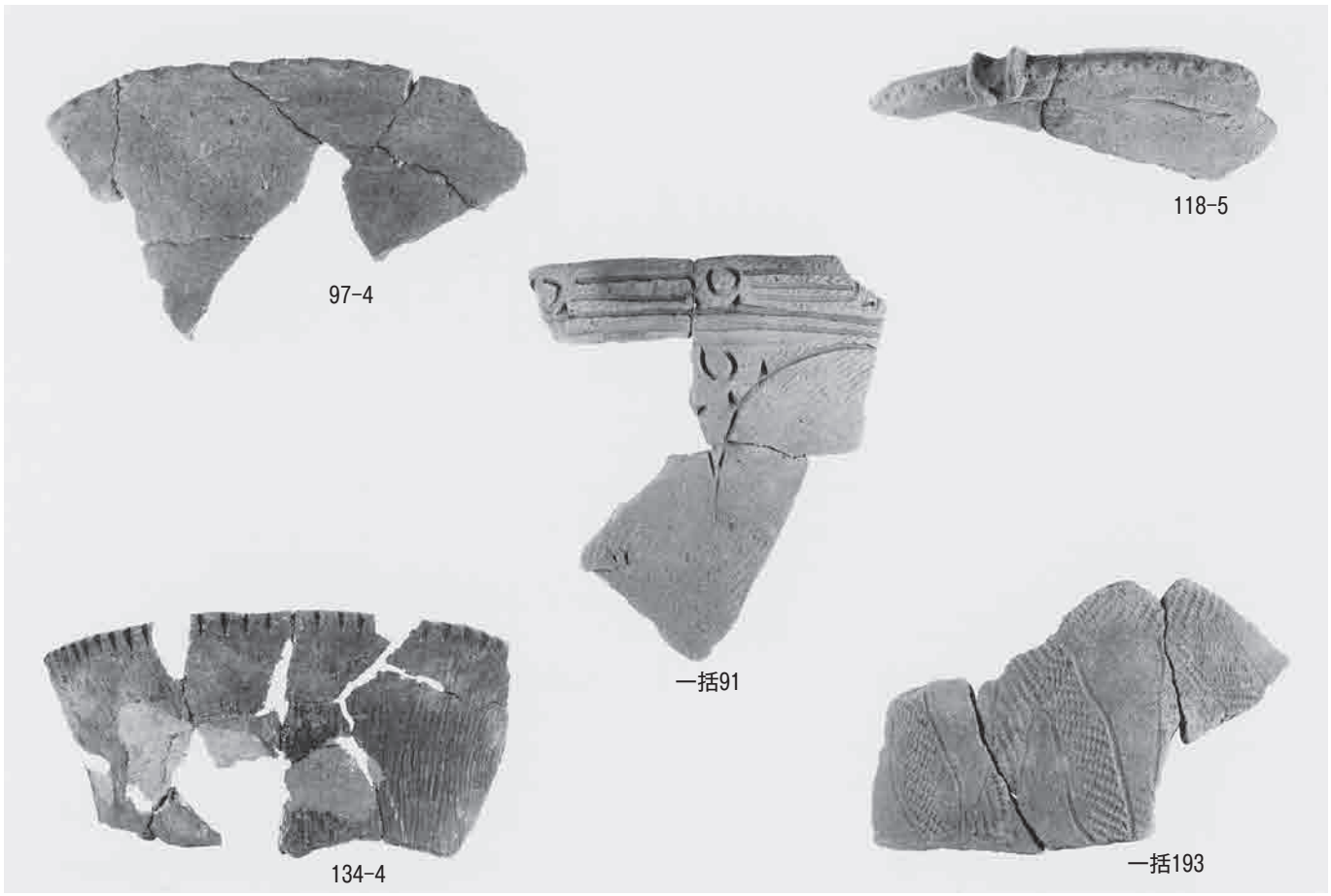

20-1
20-2
20-3
26-7
59-2
56-23

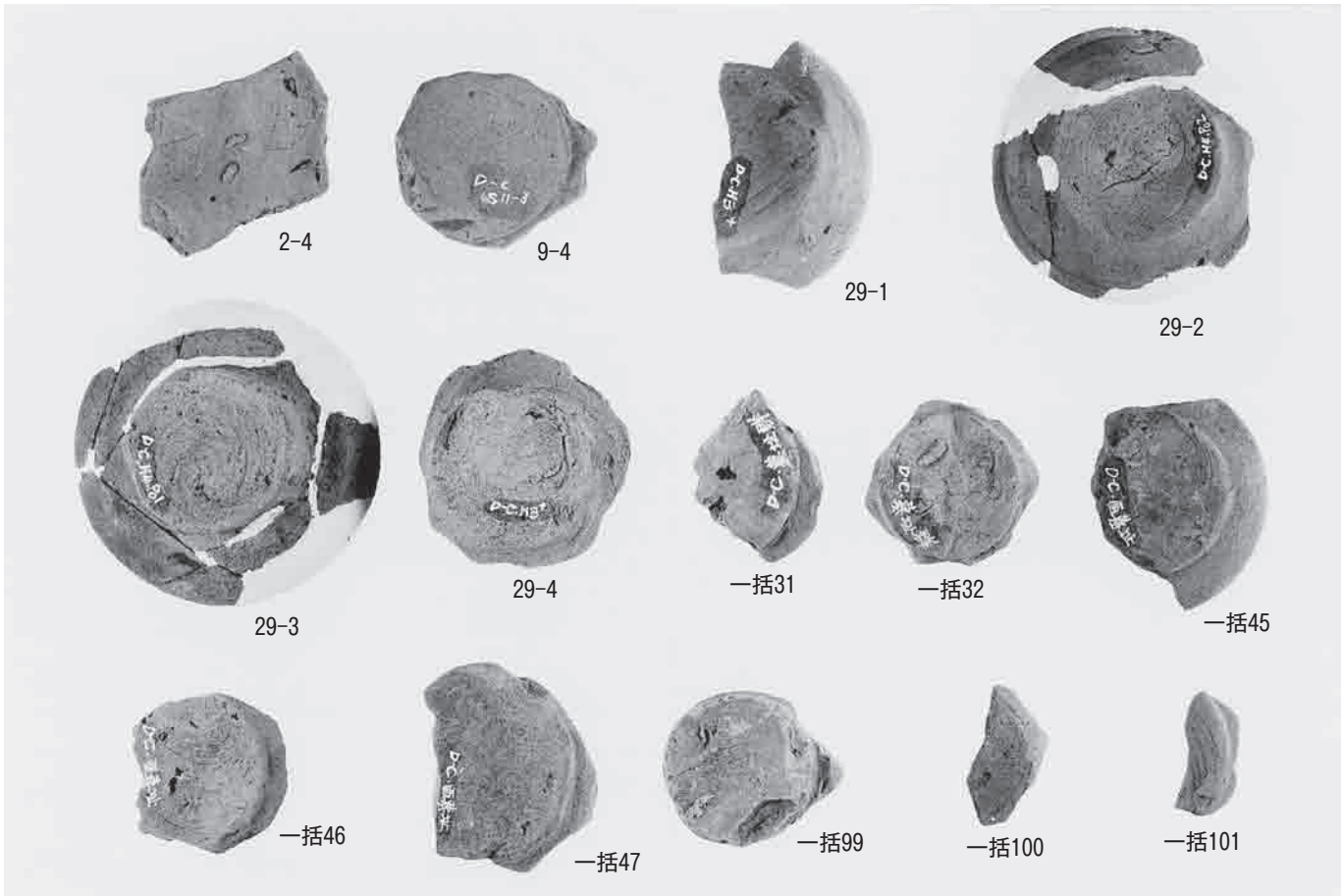

59-13
59-14
59-15
59-19
62-7
62-6
62-9
62-5
62-41

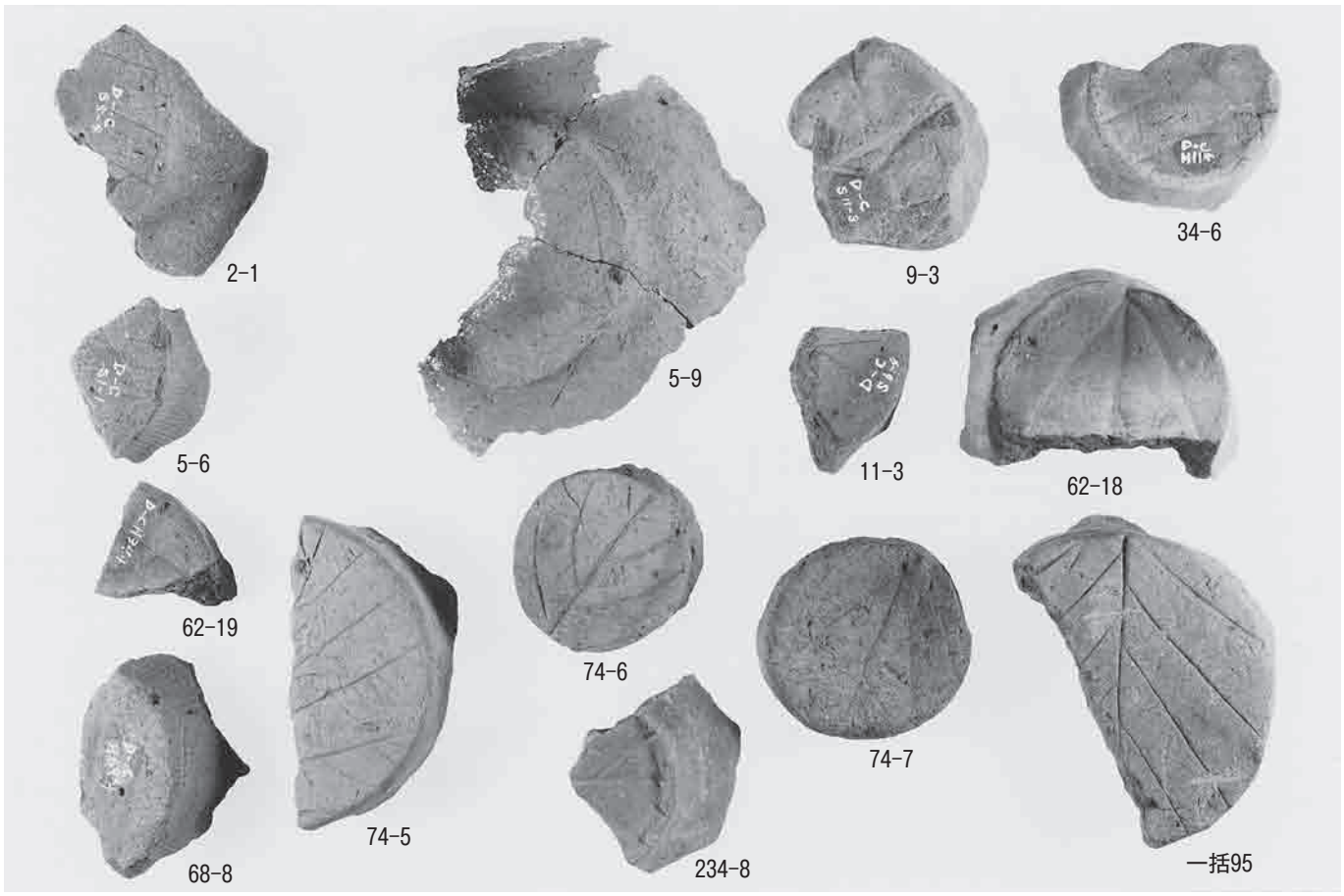

62-8
68-1
68-2
68-3

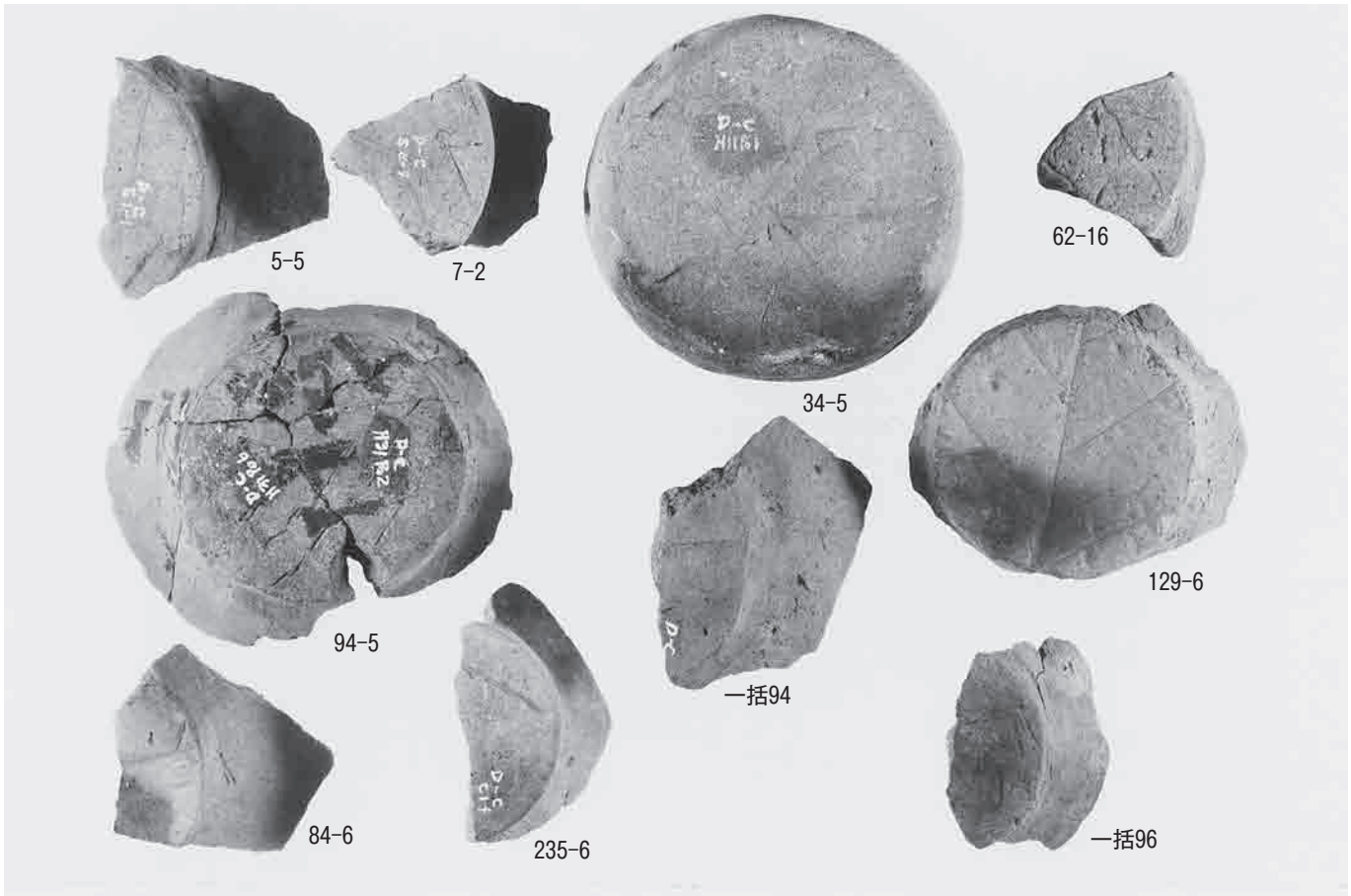

95-12
97-1
96-2
97-2

図版92

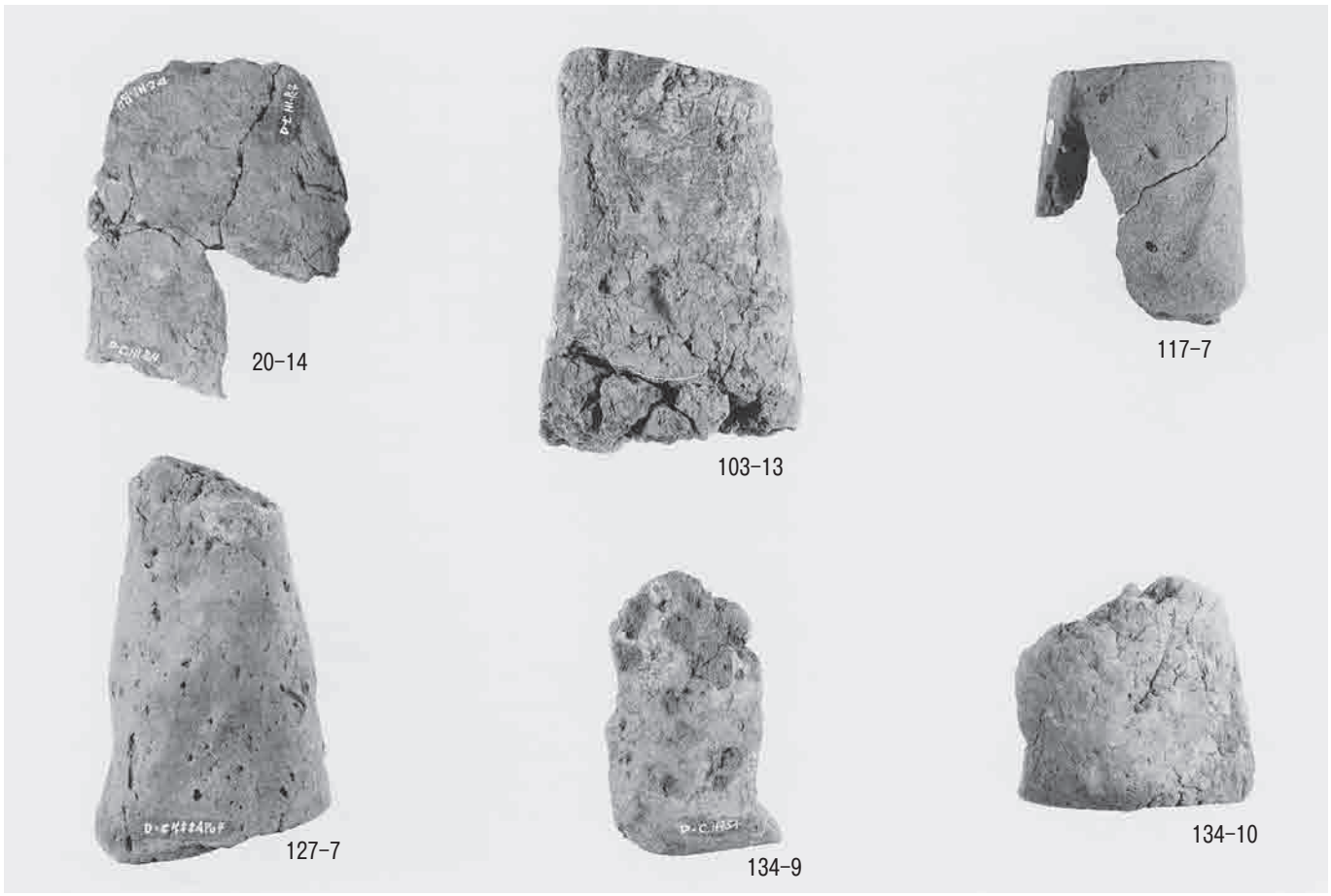

97-4
118-5
一括91
134-4
一括193

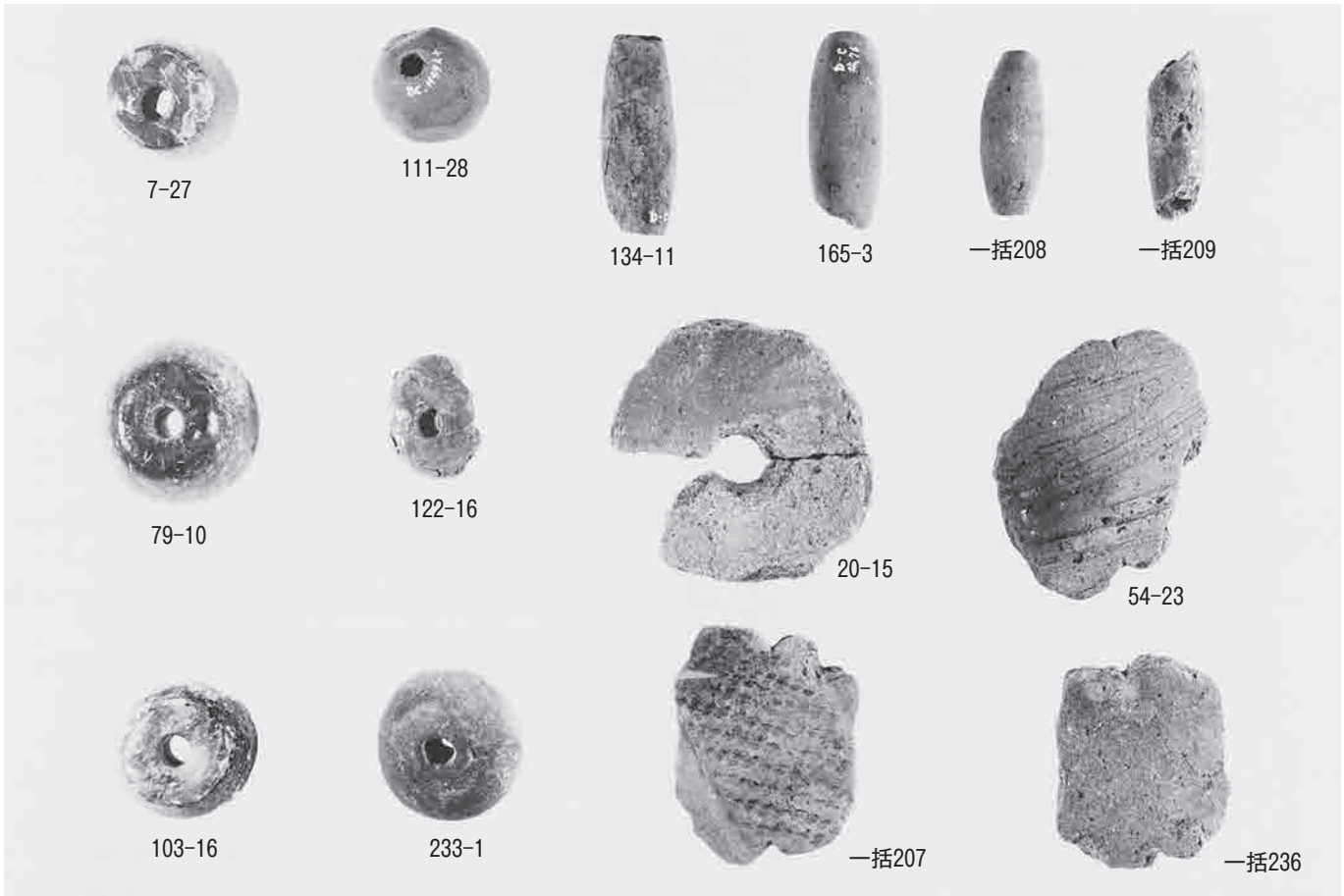

2-4
9-4
29-1
29-2
29-3
29-4
一括31
一括32
一括45
一括46
一括47
一括99
一括100
一括101

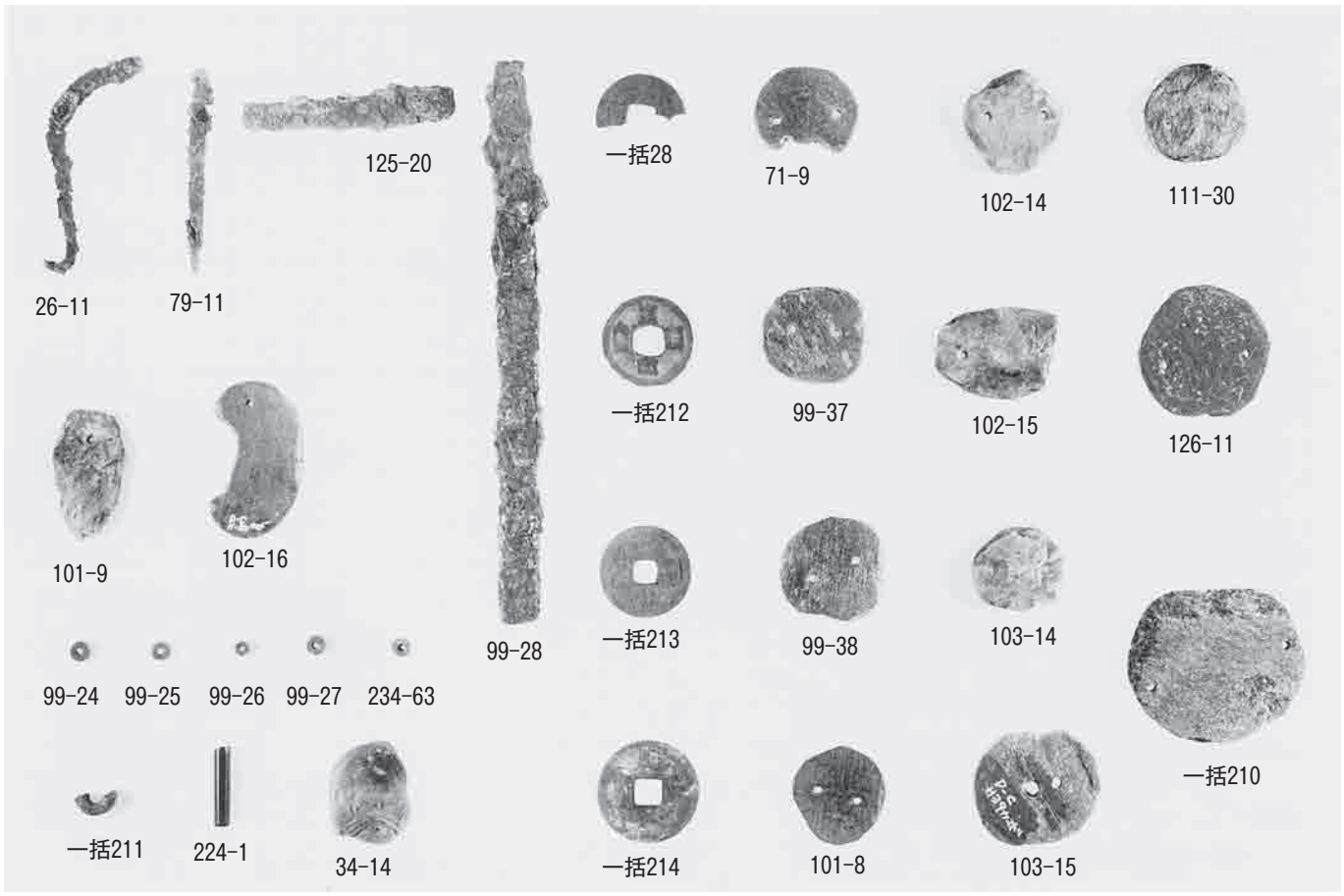

2-1
5-9
9-3
34-6
5-6
11-3
62-18
62-19
74-6
74-7
74-5
68-8
234-8
一括95

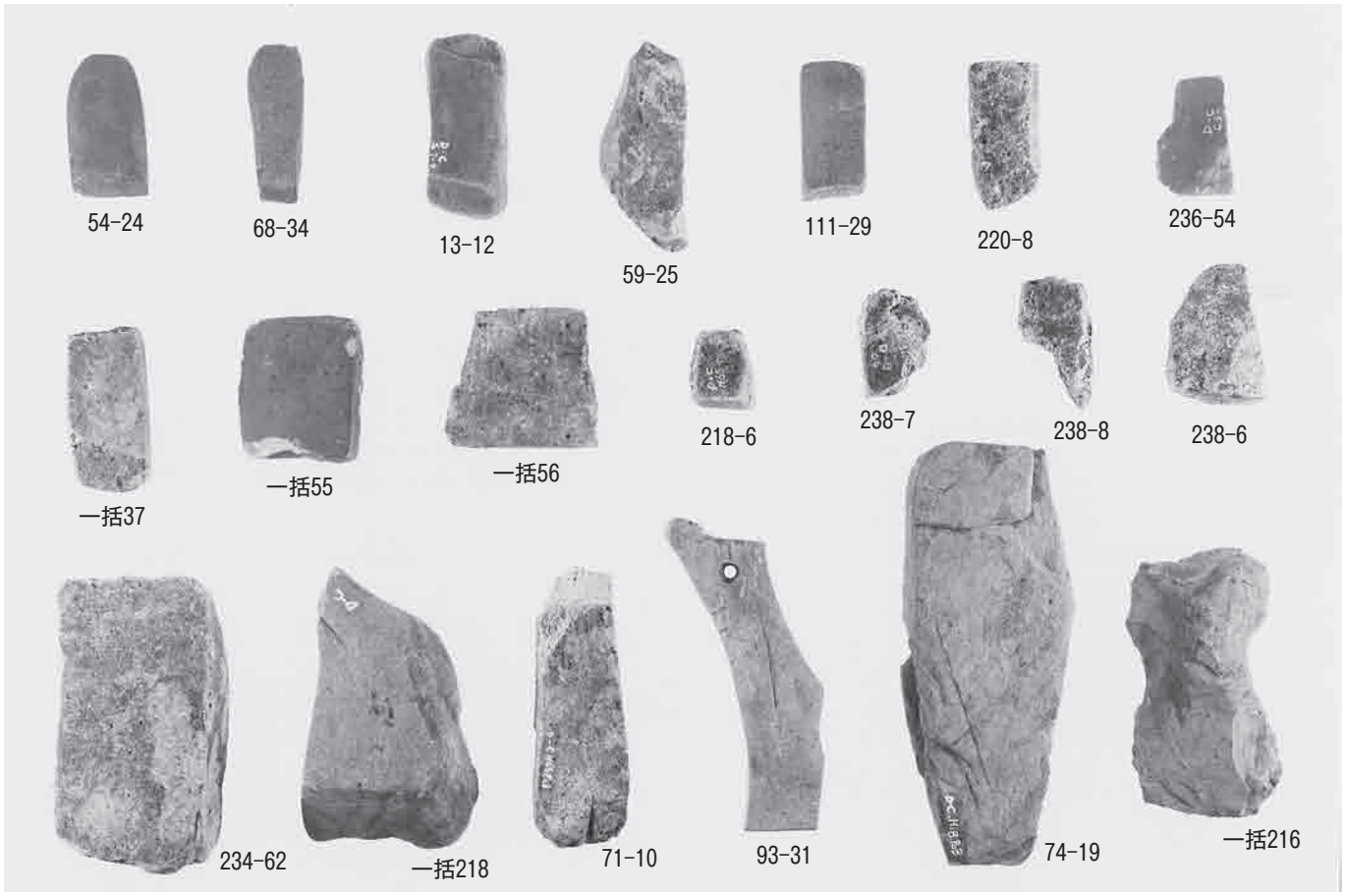

5-5
7-2
62-16
34-5
94-5
129-6
一括94
84-6
235-6
一括96

図版94

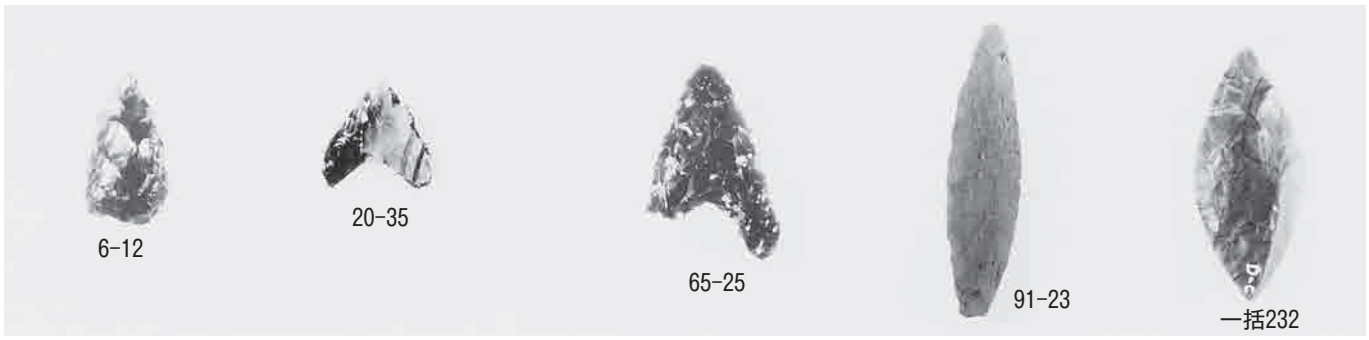

20-14
103-13
117-7
127-7
134-9
134-10

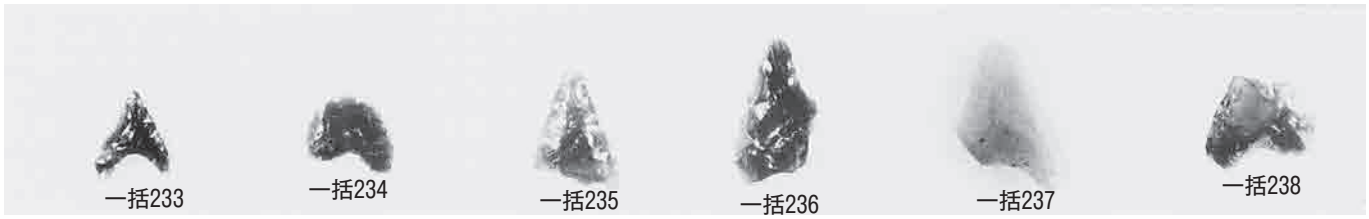

7-27
111-28
134-11
165-3
一括208
一括209
79-10
122-16
20-15
54-23
103-16
233-1
一括207
一括236

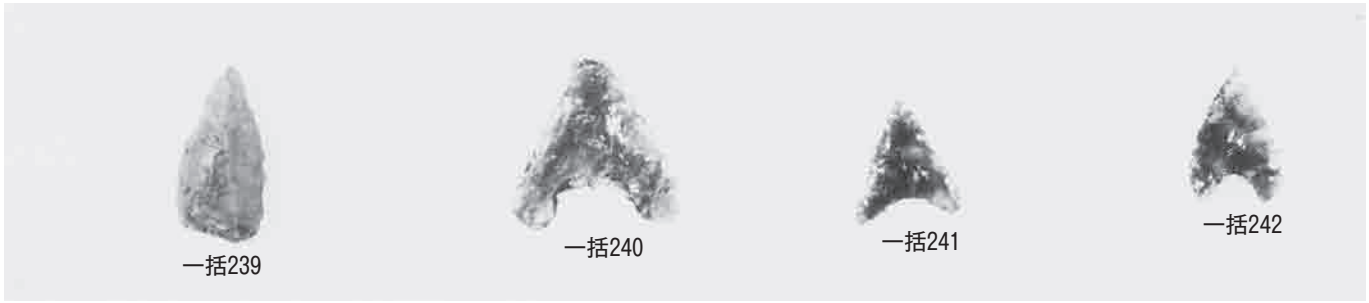

26-11
79-11
125-20
99-28
一括28
71-9
102-14
111-30
一括212
99-37
102-15
126-11
101-9
102-16
一括213
99-38
103-14
99-24
99-25
99-26
99-27
234-63
一括210
一括211
224-1
34-14
一括214
101-8
103-15

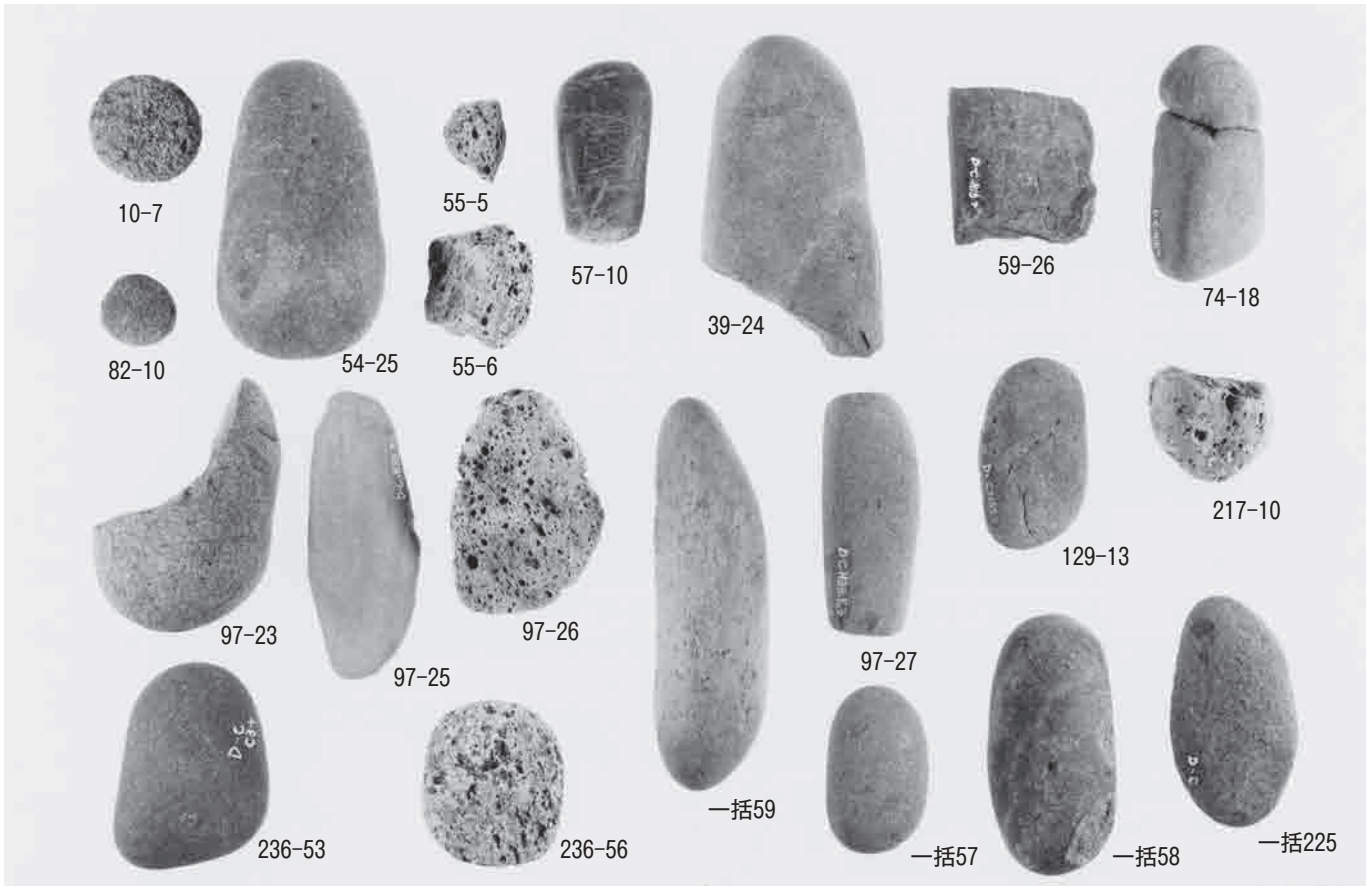

54-24
68-34
13-12
59-25
111-29
220-8
236-54
一括37
一括55
一括56
218-6
238-7
238-8
238-6
234-62
一括218
71-10
93-31
74-19
一括216

図版96


6-12
20-35
65-25
91-23
一括232


一括233
一括234
一括235
一括236
一括237
一括238

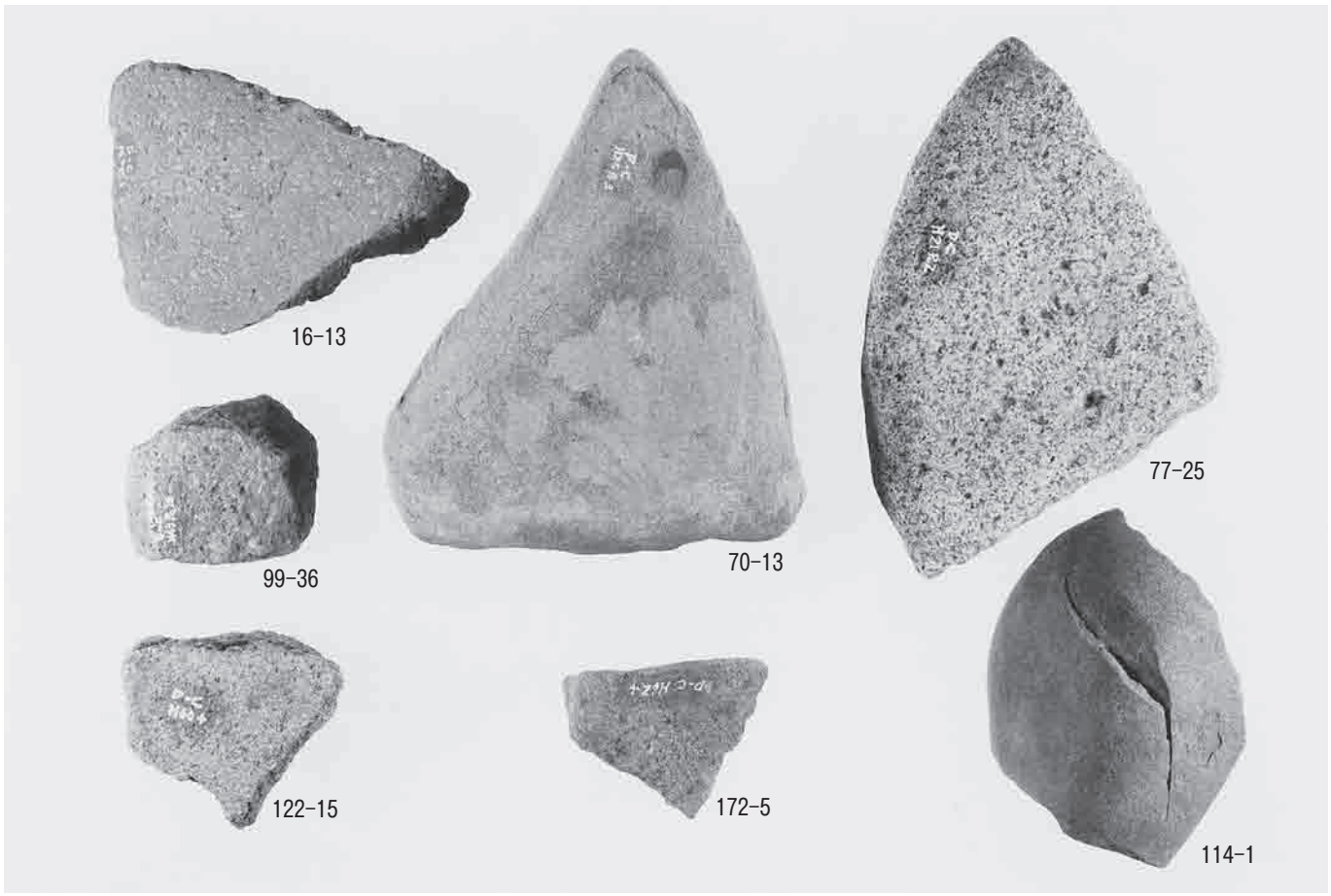

一括239
一括240
一括241
一括242

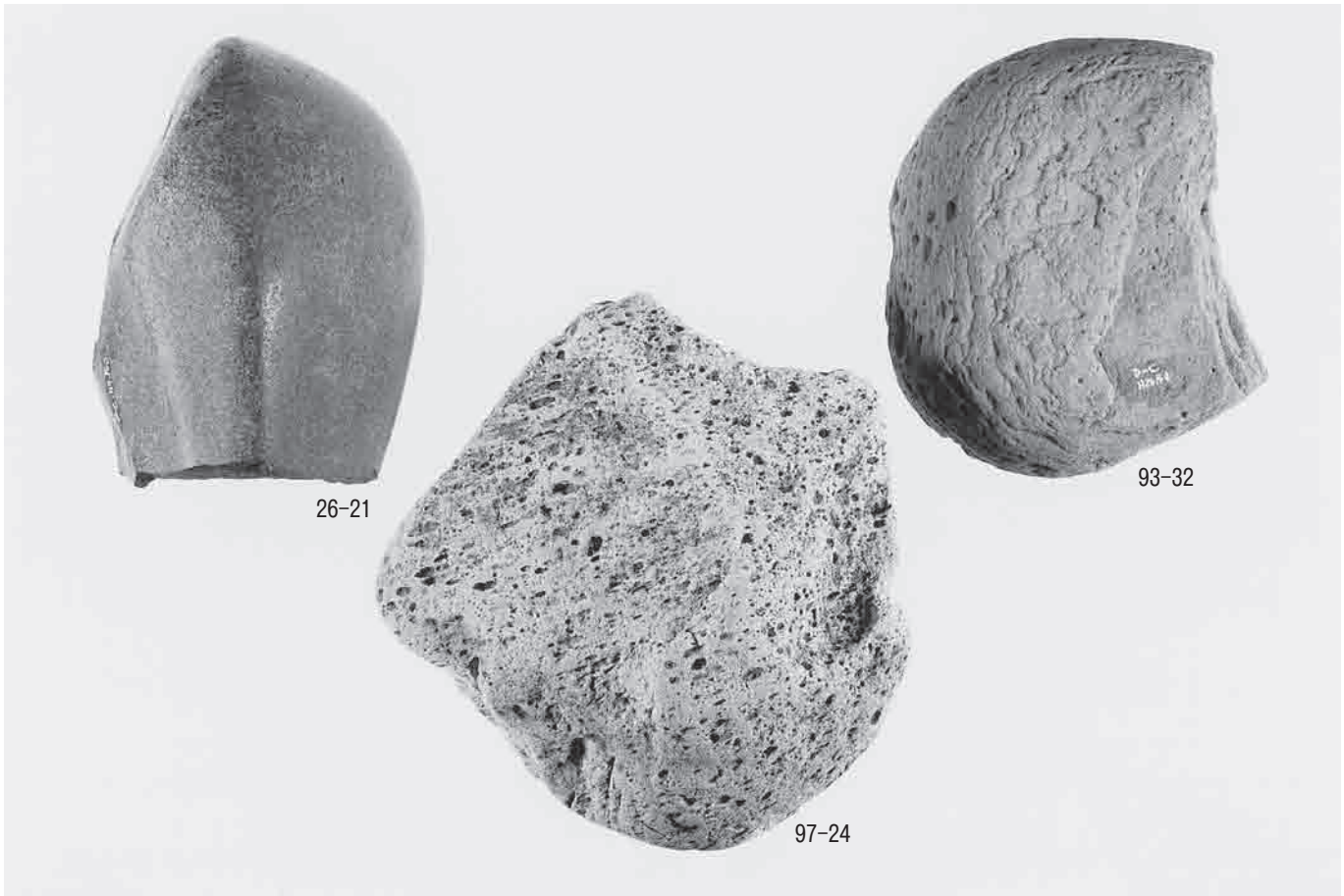

10-7
82-10
54-25
55-5
55-6
57-10
39-24
59-26
74-18
97-23
97-25
97-26
97-27
129-13
217-10
236-53
236-56
一括59
一括57
一括58
一括225

2-13
4-17
5-51
25-16
31-13
56-29
65-24
77-26
82-11
91-21
91-22
96-25
97-28
238-5

165-4
一括217
一括219
一括220
一括221
一括222
一括223
一括224
一括226
一括227
一括228
一括229
一括230
一括231

図版98





報告書抄録

ふりがな	いちはらしだいいせきしーちてん
書名	市原市台遺跡Ｃ地点
副書名	上総国分寺台遺跡調査報告書
巻次	ＸＸⅡ
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第12集
編著者名	木對和紀・星野敬吾・平田和明
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒290－0011　千葉県市原市能満1489番地　℡ 0436（41）9000
発行年月日	2010年（平成22年）２月15日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
台遺跡Ｃ地点（だいいせきしーちてん）	千葉県市原市根田一丁目（ちばけんいちはらしねだいっちょうめ）	12219	ＤＣ	35°29′60″	140°6′38″	19770401～19780331	5,738㎡	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台遺跡	集落 墳墓	縄文時代 弥生中期 弥生後期 古墳前期 古墳中期 古墳後期 古墳終末期 奈良時代 古代末 時期不詳	土坑　１基 竪穴住居跡　14軒 方形周溝墓　８基 竪穴住居跡　12軒 方形周溝墓　２基 環濠　１条 竪穴住居跡　４軒 竪穴住居跡　５軒 竪穴住居跡　６軒 土壙墓　１基 竪穴住居跡　17軒 古墳　１基 土壙墓　１基 竪穴住居跡　18軒 方形区画改葬墓　１基 改葬系区画墓　４基 溝　６条 竪穴住居跡　１軒 竪穴住居跡　２軒 土坑　125基 溝　20条	縄文土器（早期～前期・中期・後期） 弥生土器（中期～後期） 土師器･須恵器（古墳） 石器（縄文･弥生） 石製品（紡錘車・砥石・滑石製模造品など） 土製品（土製支脚･管状土錘・土玉など） 鉄製品（鉈など）	終末期古墳主体部からは３体の人骨が検出さている。
要約	弥生時代から奈良時代まで続く古墳・集落跡の一部で、弥生時代から奈良時代の一部の遺構については、台遺跡Ｂ地点として既に報告書も刊行されている。今回報告する範囲は、Ｂ地点の東側に隣接する範囲で、前回同様の遺構が検出されている。				

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書　第12集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅡ

市原市台遺跡　C 地点

平成22年２月15日　　発行

編集発行　　市原市教育委員会
（市原市埋蔵文化財調査センター）
市原市能満1489番地
℡ 0436(41)9000

印　　刷　　株式会社 ぎょうせい
東京都江東区新木場１丁目18-11
℡ 03(6892)6704